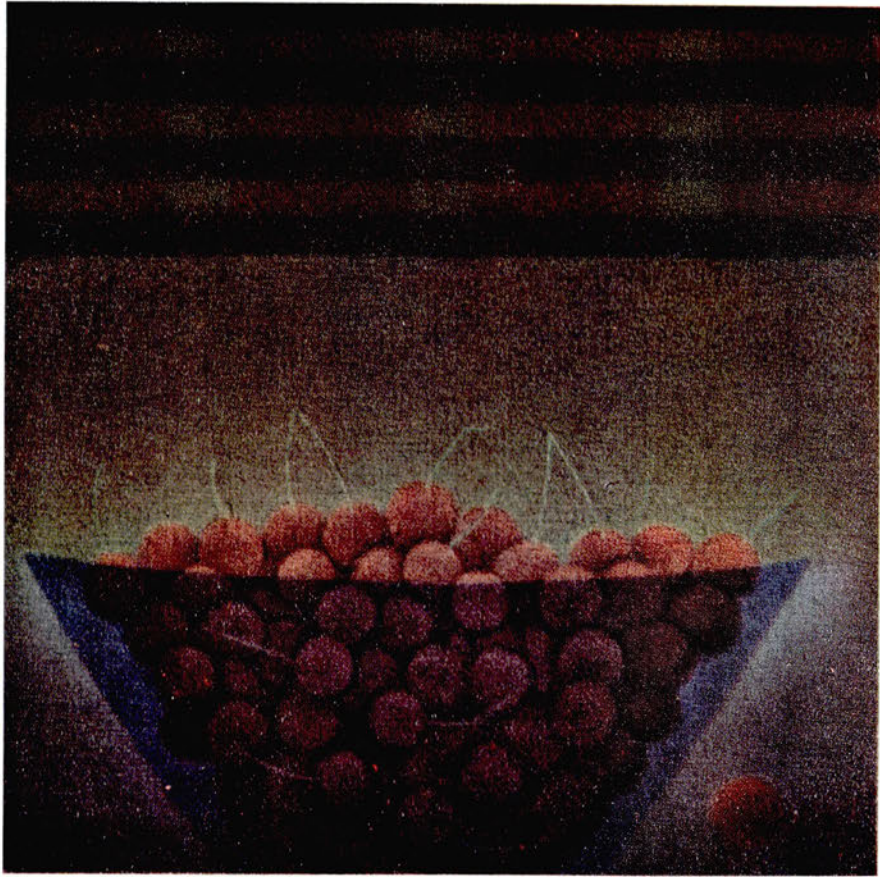


日本美術年鑑

昭和 33 年 版

美術研究所



青いガラス(銅版) 浜口 陽三(第1回東京国際版画ビエンナーレ展)

序

日本美術年鑑は東京国立文化財研究所美術部、即ち美術研究所が、従前からその調査研究事業の一部として計画従事していたもので、昭和十一年より発行を開始し、今年ここに昭和三十三年版を刊行する運びとなつた。

この年鑑の調査と編集とは、主として当研究所の第二研究室がこれに当り、古美術関係の項目は第一研究室と資料室とが担当した。

この年鑑の編集に当つては、諸官庁や美術関係の公私機関をはじめ、多くの学者作家等の御助力を煩わしたが、殊に文化財保護委員会事務局、文部省社会教育局藝術課、日本藝術院、国立近代美術館、東京・京都・奈良の各国立博物館、各地の諸新聞社、雑誌社、美術館、研究所、学校、美術団体の御援助に待つところが多かつた。更にまた大蔵省印刷局は、この年鑑の体裁上印刷技術の困難な点多きにかかわらず、今年も引続きこの印刷を快諾された。ここにこれらの諸機関に対して深く感謝の意を表する。なおこの年鑑の編集については常に意を注いで、記事採択の適正と内容の充実とに努めているが、その中に思わぬ過誤や不備の点がないとも限らない。これに対しては一般識者の叱正と御教示とを切に希望する次第である。

昭和三十三年一月

東京国立文化財研究所長事務代理

福 山 敏 男

凡 例

一、本年鑑は、昭和三三年一月から同年一二月に至る一年間の美術界の主要な出来事を掲載した。

一、本年鑑の内容は、「図版」「本欄」「附録」の三部に大別し、「図版」には右期間中に発表された注目すべき作品の写真を主として掲載し、「本欄」は、わが国美術界の全般について、全体の展望、主要な事件、展覧会、物故者、発表された文献などを記載した。

「附録」は、便覧として美術関係の法規、諸施設、団体、美術家及美術関係者名簿などを集録した。便覧の性質上この欄は原則として現在の記録(昭和三三年一二月)に従っている。

一、本年鑑であつかり美術の範囲は、一般に行われる狭義の解釈に従い、絵画、彫塑、工芸、および建築に限っている。絵画のうち、日本画と洋画の区別は困難な場合もあるが、だいたい現代の慣習に従つた。建築はわれわれの注意をひく範囲にとどめた。

一、人名を記す場合は、すべて敬称をはふいた。

一、美術文献目録、美術家及び美術関係者名簿についてはそれぞれ項目の初めに凡例を記した。

目次

目次	四
凡例	三
序	一
口絵	一

本欄

昭和三年美術界概観	一
現代美術	一
古美術	三
昭和三年美術界年史	六
附表	二四
新指定国宝一覽	二四
新指定重要文化財一覽	三〇
文化財保護委員会昭和三二年度補助金交付一覽	三〇
昭和三二年度、国立美術館、博物館新取品目録	三六
第二回日本美術展覧会出品、入選、陳列点数表	三六
第二回日本美術展覧会審査員名簿	三九
各大学美術関係講義題目	五九
主要美術雑誌色刷一覽	六三
美術展覧会	六六
美術展覧會者	一六三

美術文献目録	一七五
--------	-----

凡例	一七五
目次	一七六

定期刊行物所載文献	一七六
-----------	-----

現代美術・西洋美術	一七七
-----------	-----

東洋古美術	一九九
-------	-----

単行図書	二四
------	----

現代美術・西洋美術	二四
-----------	----

東洋古美術	二三八
-------	-----

附録 (便覧)

美術関係法規	三三
文化財保護法	三三
文化財専門審議会令	三四
文化財専門審議会審議事規則	三四
文化財専門審議会常任委員会設置規則	三四
文化財専門審議会諮問事項等取扱規則	三五
文化財保護委員会事務局内部組織	三四八
東京国立博物館組織規程	三五二
京都国立博物館組織規程	三五三
奈良国立博物館組織規程	三五三

○	東京国立文化財研究所組織規程	三〇四	○	美術教育施設	三三三
✓	奈良国立文化財研究所組織規程	三〇四	○	美術教育施設	三三三
✓	文部省社会教育局藝術課	三五五	○	美術観覧施設	三五七
✓	国立近代美術館	三五五	○	東京画廊一覽	三六七
✓	日本藝術院	三五七	○	名古屋画廊一覽	三六八
✓	正倉院評議会規程	三六〇	○	京都画廊一覽	三六八
✓	帝室技藝員	三六一	○	大阪・神戸画廊一覽	三六八
✓	武力紛争の際の文化財の保護のための条約	三六一	○	美術団体一覽	三六八
○	美術関係研究施設	三七〇	○	美術家及美術関係者名簿	三三三
○	美術関係学会	三七二	○	美術関係定期刊行物一覽	三三三

目次

日本画

1	山川悠遠(8回無名会展)	横山大観	29	網(21回新制作展)	渡辺学
2	富士樹間(8回無名会展)	和田三造	30	滝と残雪(21回新制作展)	山本丘人
3	沼(A)(2回パブリック美術協会展)	下村良之介	31	桃実(21回新制作展)	上村松篁
4	雪路(7回新興美術展)	上田臥牛	32	葦と森(21回新制作展)	信太金昌
5	生成と浸蝕(三部作の内夜の樹木(7回新興美術展))	横田仙草	33	泉(21回新制作展)	堀文子
6	山吹(1回土曜会展)	小倉遊亀	34	冬(21回新制作展)	加山又造
7	イランの陶(1回土曜会展)	太田聰雨	35	滝(21回新制作展)	福田豊四郎
8	伊予岩屋寺(1回恵下会展)	小島一谿	36	雪(中村貞以個展)	中村貞以
9	葉鷄頭(17回日本画院展)	望月春江	37	水鳥(21回新制作展)	吉岡堅二
10	水草(4回日本国際美術展)	上村松篁	38	嚙(21回新制作展)	広田多津
11	女達は水を汲みました(4回日本国際美術展)	丸木俊子	39	ベルンヤ猫(13回日展)	伊東深水
12	横行介士(9回北斗会展)	松林桂月	40	耿(13回日展)	杉山寧
13	暁(4回日本国際美術展)	東山魁夷	41	岩(13回日展)	西山英雄
14	朝(8回彩尚会展)	寺島紫明	42	夢応の鯉魚(13回日展)	樋口富麻呂
15	絵をかく子(8回日月社展)	伊東万燿	43	花(13回日展)	森白甫
16	宇治川(9回清流会展)	前田青邨	44	峯(13回日展)	高山辰雄
17	菩薩思惟(9回清流会展)	安田靉彦	45	網船(13回日展)	沢野文臣
18	御来迎(29回青竜社展)	川端竜子			
19	塔(29回青竜社展)	横山操			
20	樹と鷺(42回日本美術院展)	今野忠一			
21	良夜(42回日本美術院展)	小倉遊亀			
22	プランセス(42回日本美術院展)	前田青邨			
23	真昼(42回日本美術院展)	郷倉和子			
24	浄心(42回日本美術院展)	奥村土牛			
25	大観先生(42回日本美術院展)	堅山南風			
26	懸吊(42回日本美術院展)	岩橋英遠			
27	鶉(42回日本美術院展)	種笠数慶			
28	朴の木(42回日本美術院展)	福王寺法林			

72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46					
スベースに於ける三つの物体	水の中(団体選抜新人展)……………田中君子	今日の印(モダンアート展)……………柴田紗千夫	(作品)16(団体選抜新人展)……………高井寛二	深き淵より(モダンアート展)……………中井幸一	静かなる野性(1)(モダンアート展)……………勝本富士雄	森の二重像(モダンアート展)……………山口薫	鏡の像(モダンアート展)……………朝妻治郎	青と人(モダンアート展)……………村井正誠	かみをすく少女(1回覧会)……………吉井忠	埴輪(1回覧会)……………島海青児	円に対する(10回日本アンデパンダン展)……………難波田竜起	季節(17回美術文化展)……………清川泰次	冥想(17回美術文化展)……………笹川由為子	人物(17回美術文化展)……………福沢一郎	蕪森田沙夷新作展)……………森田沙夷	雪の坂道(山本丘人個展)……………山本丘人	若松(3回松竹梅展)……………川合玉堂	楽舞抜頭鼈太鼓を回る(13回日展)……………菅橋彦	海女(13回日展)……………梶原緋佐子	玉紫陽花(3回伊東深水新作展)……………伊東深水	虎児(13回日展)……………山口華楊	月(13回日展)……………加藤栄三	堤(13回日展)……………近藤浩一	芍薬(13回日展)……………山口蓬春	朝(13回日展)……………山口蓬春	流映(13回日展)……………浜田観					
102	101	100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79	78	77	76	75	74	73		
山(裏丹沢山)(2回新世紀美術協会展)……………松本富太郎	素焼の壺(23回東光会展)……………渡辺浩三	裸婦(23回東光会展)……………森田茂	工場(23回東光会展)……………山本日子士良	埋葬(4回日本国際美術展)……………福沢一郎	形象(緑)(4回日本国際美術展)……………川端実	パリスの審判(34回春陽会)……………三雲祥之助	魚市場(4回日本国際美術展)……………須田国太郎	美術展)……………藤井令太郎	アツカドの椅子(4回日本国際美術展)……………海老原喜之助	燃える(4回日本国際美術展)……………須田剋太	同時併存(4回日本国際美術展)……………斎藤義重	鬼(4回日本国際美術展)……………斎藤義重	鳥の壁(4回日本国際美術展)……………糸園和二郎	静物(4回日本国際美術展)……………加山四郎	カンヌ(4回日本国際美術展)……………梅原竜三郎	泥雪(34回春陽会展)……………中谷泰	K字の門(34回春陽会展)……………三井永一	山麓(34回春陽会展)……………岡鹿之助	山による作品(31回国画会展)……………宇治山哲平	大吠(31回国画会展)……………久保守	風景(31回国画会展)……………野田好子	白い牛(31回国画会展)……………橋本三郎	人体(31回国画会展)……………川口軌外	白衣婦人像(16回創元会展)……………中野和高	静物(16回創元会展)……………鈴木千久馬	冬山(43回光風会展)……………田村一男	ウイリアム物語(43回光風会展)……………笹岡了一	雪坂(43回光風会展)……………小綿源太郎	婦人像(43回光風会展)……………森田元子	マリヤ園の眺め(2回雨晴会)……………中川一政	(団体選抜新人展)……………赤穴桂子
127	126	125	124	123	122	121	120	119	118	117	116	115	114	113	112	111	110	109	108	107	106	105	104	103							
汚された空(42回二科会展)……………井上覚造	(作品A12)(12回行動展)……………村田實史雄	フォルム(12回行動展)……………江見絹子	二つの顔(42回二科会展)……………岡本太郎	むすめたち(42回二科会展)……………吉井淳二	寺院の前の人たち(42回二科会展)……………北川民次	東山手風景(長崎)(3回一陽会展)……………鈴木信太郎	渦潮(3回一陽会展)……………野間仁根	流木の歌(3回一陽会展)……………長谷川三千春	旅愁(3回一陽会展)……………荻野康児	連鎖(2回現代ふらんすクリチック賞絵画展)……………故坂田一男	コンポジション(2回現代ふらんすクリチック賞絵画展)……………土橋醇	港の風景(2回現代ふらんすクリチック賞絵画展)……………小林喜代吉	パンチー(11回旺文会)……………梅野順三	漁船(11回旺文会)……………村山密	シテ(滯欧作個展)……………村山密	梅雨(53回太平洋画会展)……………石井弥一郎	春(11回新樹会展)……………島村三七雄	裏(11回新樹会展)……………原勝郎	人形の静物(11回新樹会展)……………朝井閑右衛門	花ぞの(11回女流画家協会展)……………田中君子	唱う(11回女流画家協会展)……………小川孝子	三女(2回新世紀美術協会展)……………長屋勇	朗日(2回新世紀美術協会展)……………大久保作次郎	共立講堂綴帳下図(2回新世紀美術協会展)……………和田三造							

154 153 152 151 150 149 148 147 146 145 144 143 142 141 140 139 138 137 136 135 134 133 132 131 130 129 128

痕跡(12回行動展)……………津高和一
 北端の村(12回行動展)……………向井潤吉
 ボタ山と橋(12回行動展)……………古家新
 工場(9回立軌会展)……………牛島憲之
 赤い空(21回新制作展)……………油野誠一
 遊蝶花B(42回二科会展)……………鷹山宇一
 柵の中の牛(9回立軌会展)……………須田寿
 虹(9回立軌会展)……………飯島一次
 とりと琴を弾くはにわ(21回新制作展)……………三岸節子
 白い壁(21回新制作展)……………赤穴宏
 室内(21回新制作展)……………小磯良平
 緑園(21回新制作展)……………脇田和
 少女(19回一水会展)……………中村琢二
 水たまりにひろつた小曲(19回一水会展)……………上田哲農
 夏の阿蘇山(19回一水会展)……………田崎広助
 野沢風景(19回一水会展)……………高田誠
 原爆受難の浦上聖堂(19回一水会展)……………小山敬三
 いきもの(21回自由美術展)……………寺田政明
 山(21回自由美術展)……………森芳雄
 収穫(21回自由美術展)……………井上照子
 二人像(21回自由美術展)……………麻生三郎
 夜(21回自由美術展)……………小山田二郎
 赤い燈台(11回二紀会展)……………鍋井克之
 薪を運ぶ人(11回二紀会展)……………宮本三郎
 マンデュシヤゲ(11回二紀会展)……………佐伯米子
 生活(11回二紀会展)……………佐野繁次郎
 運行(2回二紀会特選展)……………金田辰弘

180 179 178 177 176 175 174 173 172 171 170 169 168 167 166 165 164 163 162 161 160 159 158 157 156 155

熱海夜景(25回独立展)……………児島善三郎
 凧(25回独立展)……………高間惣七
 村落夏(25回独立展)……………斎藤長三
 山湖(25回独立展)……………小村和作
 黒の中の花(25回独立展)……………山田栄二
 アトサスプリ(硫黄山)(25回独立展)……………野口弥太郎
 熱海風景(25回独立展)……………林武
 仮死生誕(25回独立展)……………秦森康屯
 唐松と雲(25回独立展)……………高島達四郎
 静物(25回独立展)……………中山巍
 日照雨(13回日展)……………井手宣通
 橋立春雪(13回日展)……………辻永
 室内(13回日展)……………石井柏亭
 佳人(13回日展)……………鬼頭鍋三郎
 ヨットハーバー(個展)……………藤本東一郎
 雪空(日展)……………三輪孝
 縞のきもの(日展)……………中村研一
 動脈(1回アジャ青年美術家展)……………藤松博
 泊給曙光(水彩)(1回高樹会)……………坂本繁二郎
 細毛の富士(13回日展)……………斎藤与里
 海辺(安井賞新人展)……………田中岑
 作品(世界の中の日本抽象展)……………岡田謙三
 城(今日の新人展)……………前田常作

版 画
 青いガラス(1回東京国際版画ビエンナーレ展)……………浜口陽三
 道路工事(34回春陽会展)……………北岡文雄
 關鷄(1回東京国際版画ビエン)

202 201 200 199 198 197 196 195 194 193 192 191 190 189 188 187 186 185 184 183 182 181

ナイレ展)……………泉茂
 木琴(個展)……………内間安理
 蔵王火口壁(31回国画会展)……………前田政雄
 日本の抒情(1回東京国際版画ビエンナーレ展)……………もりまなぶ
 (森の習作)A(31回国画会展)……………関野準一郎
 白馬と童子(11回新樹会展)……………水瀬義郎
 白陽―ニューメキシコ(31回国画会展)……………斎藤清
 二つのアネモネ(25回日本版画協会展)……………長谷川潔
 群生の橋(1回東京国際版画ビエンナーレ展)……………棟方志功
 星落ちし日(2回個展)……………吉田政次

彫 塑
 女の顔(2回作品展)……………山本豊市
 まのぬけた闘争(個展)……………土方久功
 女(4回日本国際美術展)……………木内克
 昆虫(フアッションモデル)(自由美術10人展)……………井上武吉
 賑(4回日本国際美術展)……………本郷新
 二人(彫刻と素描・個展)……………山内壮夫
 刈(6回創型会彫塑展)……………中野四郎
 トルソー(個展)……………植木茂
 雷(42回日本美術院展)……………石井鶴三
 靈山三蔵(6回創型会彫塑展)……………森大造
 K翁の首(42回日本美術院展)……………新海竹蔵
 西山道遙(42回日本美術院展)……………平櫛田中
 へんな服をきた人物(42回日本美術院展)……………辻晋堂

227 226 225 224 223 222 221 220 219 218 217 216 215 214 213 212 211 210 209 208 207 206 205 204 203

花器(東陶会春季展).....	モザイク飾皿(東陶会春季展).....	板谷梅樹	唐杉濤光	工藝・デザイン	坤山老公(13回日展).....	平櫛田中	エゴイスト(13回日展).....	斎藤知雄	待機(13回日展).....	木村珪二	鏡の前(13回日展).....	藤井浩佑	術展).....	野口イサム	おかめ(世界の中の日本抽象美術展).....	沢田政広	くにとち(13回日展).....	朝倉文夫	H氏の像(13回日展).....	小野忠弘	アソコミセテス(21回自由美術展).....	長野隆業	疑透明体作品(11回二紀会展).....	木内岬	女性(13回日展).....	松田尚之	風(21回新制作展).....	菅原安男	女(21回新制作展).....	松坂節三	制作展).....	菊池一雄	「原爆の子」記念像試作(21回新制作展).....	柳原義達	女(21回新制作展).....	五十嵐芳三	黒い坐像(21回新制作展).....	建畠覚造	穀(12回行動展).....	中島快彦	作品(12回行動展).....	山崎猛	屈折B(3回一陽会展).....	堀内正道	作品(42回二科会展).....	平川正道	作品(42回二科会展).....	笠置季男	人と鳥(3回一陽会展).....	金田忠
-----------------	---------------------	------	------	---------	------------------	------	-------------------	------	----------------	------	-----------------	------	----------	-------	------------------------	------	------------------	------	------------------	------	------------------------	------	----------------------	-----	----------------	------	-----------------	------	-----------------	------	-----------	------	---------------------------	------	-----------------	-------	--------------------	------	----------------	------	-----------------	-----	------------------	------	------------------	------	------------------	------	------------------	-----

225 251 250 249 248 247 246 245 244 243 242 241 240 239 238 237 236 235 234 233 232 231 230 229 228

そごう・読売会館.....	神戸アメリカ領事館.....	神戸国際会館.....	神戸市庁舎.....	雄勝町役場.....	東急文化会館.....	LILLA concou.....	光丘団地アパート.....	日本住宅公団	吉阪隆正	坂倉準三	白井晟一	日建設事務所	竹中工務店	ミノル・ヤマザキ	村野藤吾	建設	11回ミラノ・トリエンナーレ、日本参加出品のための協同展示	大橋正	村瀬秀明	JAL国内観光(日宣美展).....	明治コーヒーキャラメル(日宣美展).....	ルーム	米国世界見本市参加のショウ・ルーム	居間セツト(21回新制作展).....	佐藤博他	洋酒パッケージ(日宣美展).....	飯島啓司	白磁コーヒーセット.....	柳宗理	炎(花籠).....	生野祥雲斎	仙桃彫文水差(13回日展).....	板谷波山	蕪風(蠟染)(13回日展).....	岸田京三郎	八弧の花器(13回日展).....	香取正彦	鶏(緑釉壺)(13回日展).....	大橋年郎	金ノ花(43回光風会展).....	岩田藤七	紺泥線彫文花挿(東陶会春季展).....	安原喜明	海への郷愁(43回光風会展).....	中村董一	魚らん花籠(13回日展).....	飯塚琅玕斎
---------------	----------------	-------------	------------	------------	-------------	-------------------	---------------	--------	------	------	------	--------	-------	----------	------	----	-------------------------------	-----	------	--------------------	------------------------	-----	-------------------	---------------------	------	--------------------	------	----------------	-----	------------	-------	--------------------	------	--------------------	-------	-------------------	------	--------------------	------	-------------------	------	----------------------	------	---------------------	------	-------------------	-------

274 273 272 271 270 269 268 267 266 265 264 263 262 161 260 259 258 257 256 255 254 253

月夜の馬(1回アジア青年美術展).....	砂と水(1回東京国際版画展).....	ジャポニスム展).....	ニコロソン	クールタン	クールタン	ジャポニスム展).....	ニコロソン	シャブリー風景(2回現代フランスクリック賞絵画展).....	クールタン	砂と水(1回東京国際版画展).....	ジャポニスム展).....	ニコロソン	海外作家国内展	手(4回日本国際美術展).....	ミロ	坐つた人物(4回日本国際美術展).....	グレコ	イバラ(4回日本国際美術展).....	グザイランド	大きな庭(4回日本国際美術展).....	ウインテル	躍動(4回日本国際美術展).....	ファッツィーニ	アルシノの九月(4回日本国際美術展).....	ニコロソン	遺作展	岩波邸.....	堀口捨己	倉吉市庁舎.....	丹下健三	栗の木のある家.....	生田勉	東京都庁舎.....	丹下健三	中央公論社ビル.....	芦原義信	殿ヶ谷第一アパート.....	菊竹清訓
-----------------------	---------------------	---------------	-------	-------	-------	---------------	-------	--------------------------------	-------	---------------------	---------------	-------	---------	-------------------	----	-----------------------	-----	---------------------	--------	----------------------	-------	--------------------	---------	-------------------------	-------	-----	----------	------	------------	------	--------------	-----	------------	------	--------------	------	----------------	------

275 家展)……………モハメッド キブリヤ
 馬(1回東京国際版画ビエン
 ナーレ展)……………フリードレンダー
 村(2回現代フランスクリチッ
 ク賞絵画展)……………ラザ
 カルストの女(1回東京国際版
 画ビエンナーレ展)……………デペンヤーク

古美術(新指定国宝)

277 276 275
 山水屏風(部分)……………教王護国寺
 紫檀塗螺鈿金銅装舍利鞞……………教王護国寺
 銅造阿弥陀如来坐像……………高德院
 法隆寺献物帳……………国(東京国立博物館保管)
 教王護国寺大師堂……………教王護国寺

(新指定重要文化財)

287 286 285 284 283
 重之集……………黎明会
 金銅舍利塔……………教王護国寺
 木造女神坐像……………教王護国寺
 藤波絵草紙(部分)……………浅田長平
 今西家住宅……………今西武次郎

圖

版



4 雪路 (新興美術院展) 上田臥牛



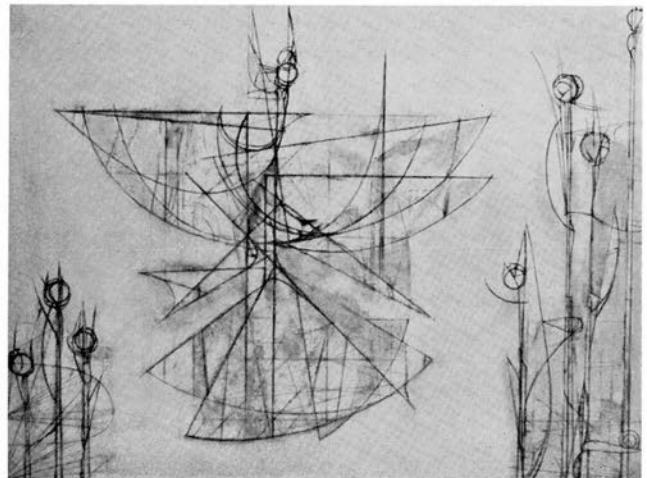
1 山川悠遠 (無名会展) 横山大観



2 富士樹間 (無名会展) 和田三造



5 生成と浸蝕三部作の内・夜の樹木
(新興美術院展) 横田仙草



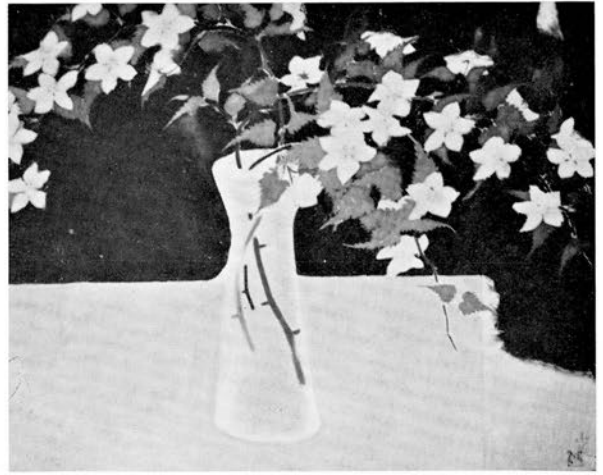
3 沼(A) (パニリアル展) 下村良之介

24
絹画 (日本画)
日本画

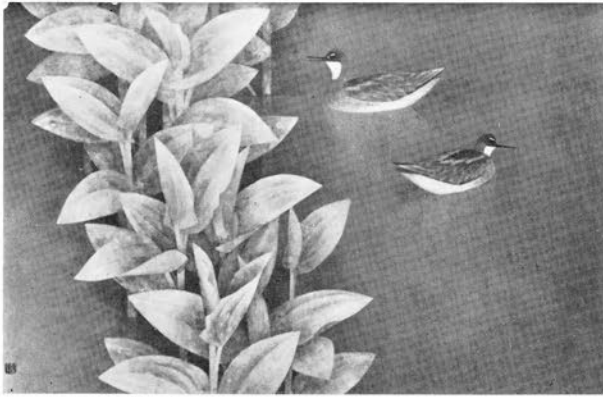
普通活字
1号落こ



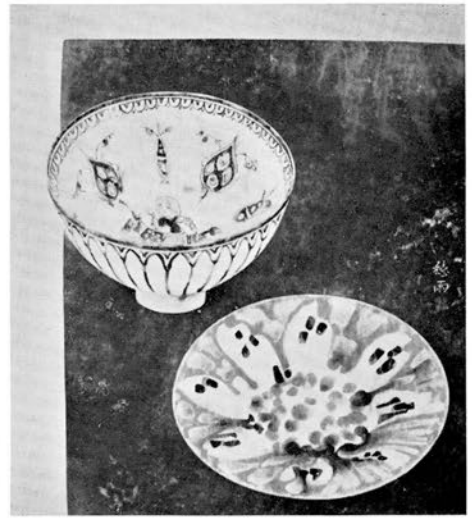
9 葉 鶏 頭 (日本画院展) 望月春江



6 山 吹 (土曜会展) 小倉遊亀



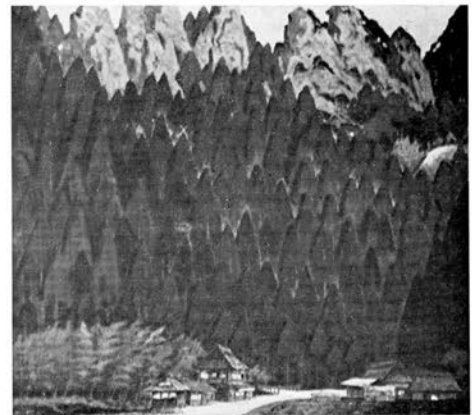
10 水 草 (国際美術展) 上村松篁



7 イランの陶 (土曜会展) 太田 聰雨



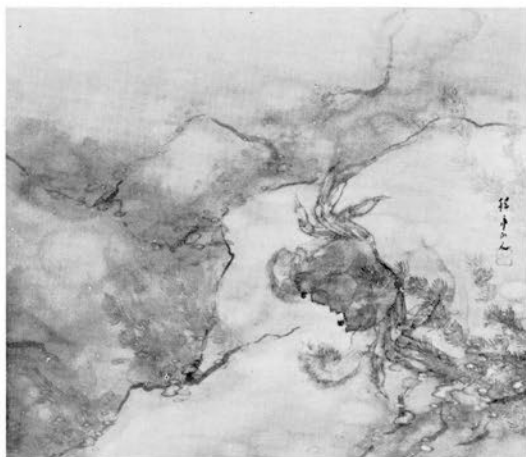
11女達は水を汲みました (国際美術展) 丸木俊子



8 伊予岩屋寺 (恵下会展) 小島一裕



15 絵をかく子(日月社展) 伊東万耀



12 横行介士(北斗会展) 松林桂月



16 宇治川(清流会展) 前田青都



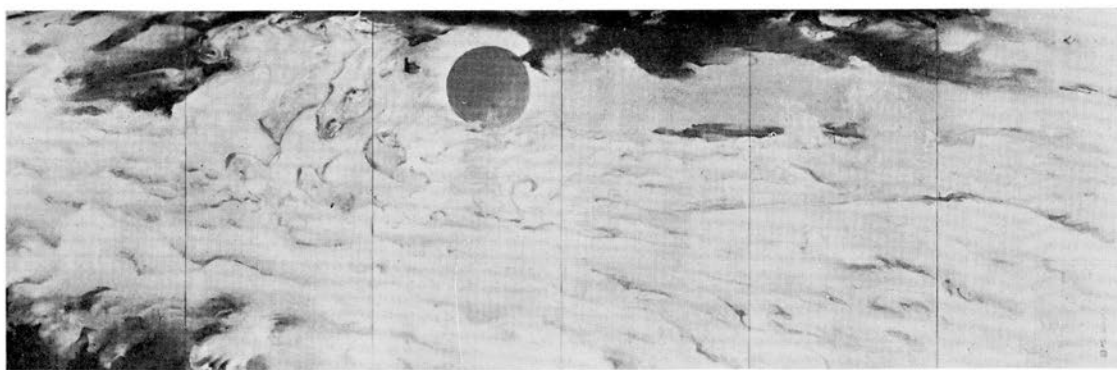
13 曉(国際美術展) 東山魁夷



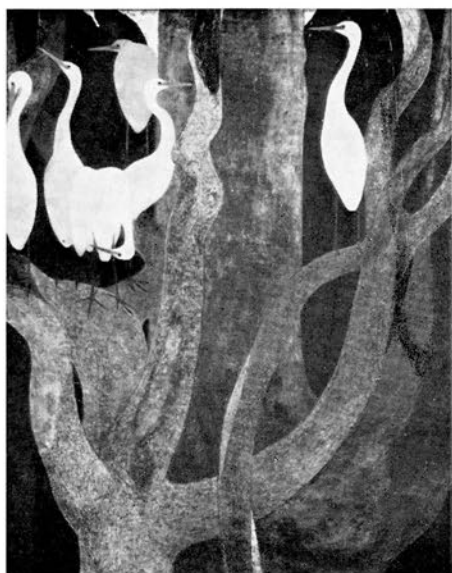
17 菩薩思惟(清流会展) 安田靉彦



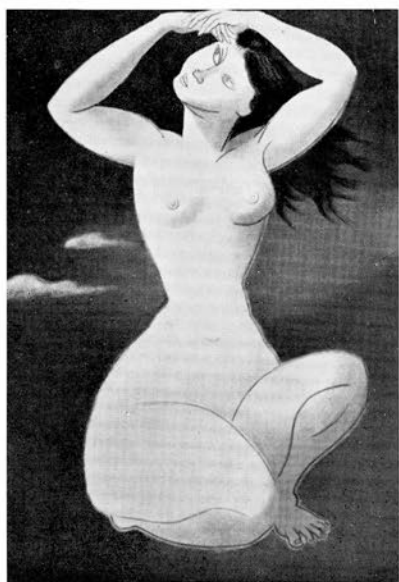
14 朝(彩尚会展) 寺島紫明



18 御来迎 (青竜社展) 川端竜子



20 樹と鶺鴒 (日本美術院展) 今野忠一



21 良夜 (院展) 小倉遊亀



19 塔 (青竜社展) 横山操



25 大観先生 (院展) 堅山南風



22 ブランセス (院展) 前田青邨



26 懸 帛 (院展) 岩橋英遠



23 真 昼 (院展) 郷倉和子



27 鶇 (院展) 樋笠敷慶



24 淨 心 (院展) 奥村土牛



31 桃 実 (新制作展) 上村松篁



28 朴 の 木 (院 展) 福王寺法林



32 葦 と 森 (新制作展) 信太金昌



29 網 (新制作展) 渡辺 学



33 梟 (新制作展) 堀 文子



30 滝 と 残 雪 (新制作展) 山本丘人



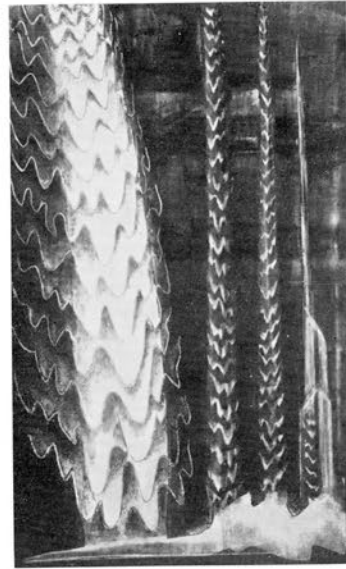
37 水 鳥 (新制作展) 吉岡堅二



34 冬 (新制作展) 加山又造



38 渦 (新制作展) 広田多津



35 滝 (新制作展) 福田豊四郎



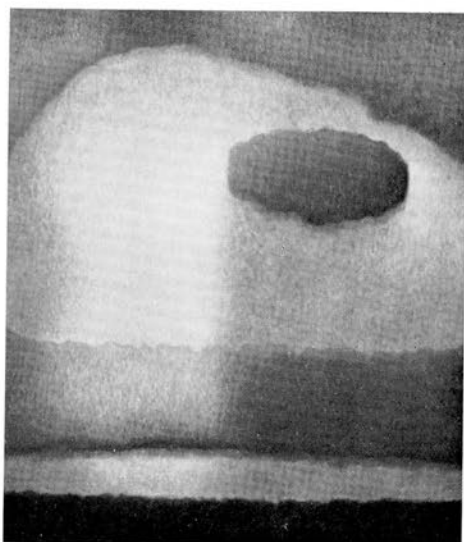
39 ベルシャ猫 (日展) 伊東深水



36 雪 (個展) 中村貞以



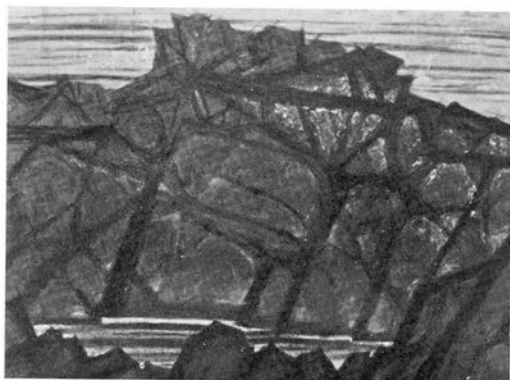
43 花 (日展) 森白甫



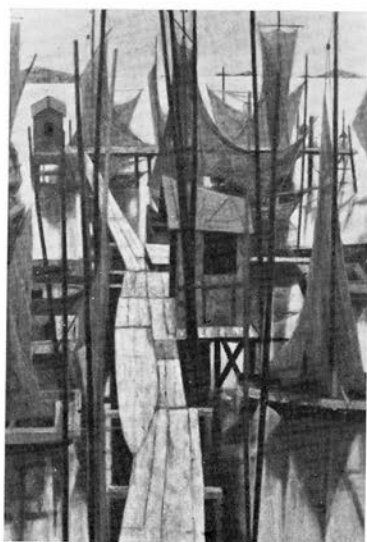
40 歌 (日展) 杉山寧



44 岑 (日展) 高山辰雄



41 岩 (日展) 西山英雄



45 網船 (日展) 沢野文臣



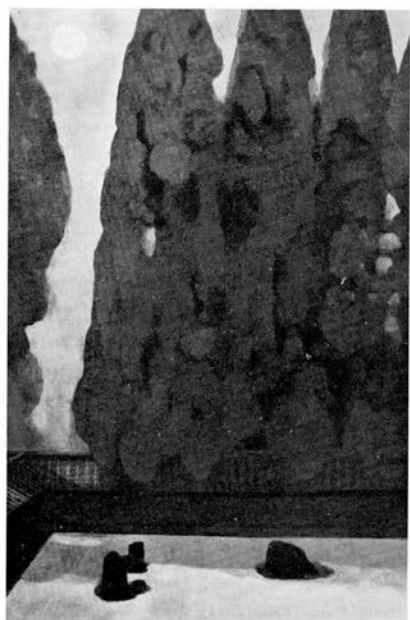
42 夢窓の鯉魚 (日展) 樋口富麻呂



49 堤 (日展) 近藤浩一路



46 流 映 (日展) 浜田 観



50 月 (日展) 加藤栄三



47 朝 (日展) 江崎孝坪



51 虎 児 (日展) 山口華楊



48 芍 薬 (日展) 山口蓬春



55 若松 (松竹梅展) 川合玉堂



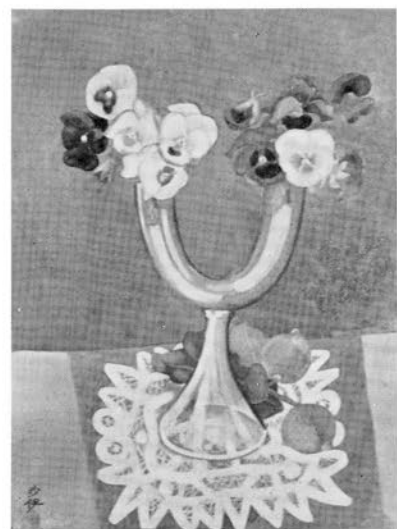
52 玉紫陽花 (新作展) 伊東深水



56 雪の坂道 (個展) 山本丘人



53 海女 (日展) 梶原紳佐子



57 董 (新作展) 森田沙夷



54 楽舞抜頭 太鼓を回る (日展) 菅 権彦



61 円に対する (アンデパンダン展) 難波田竜起



58 人物 (美術文化展) 福沢一郎



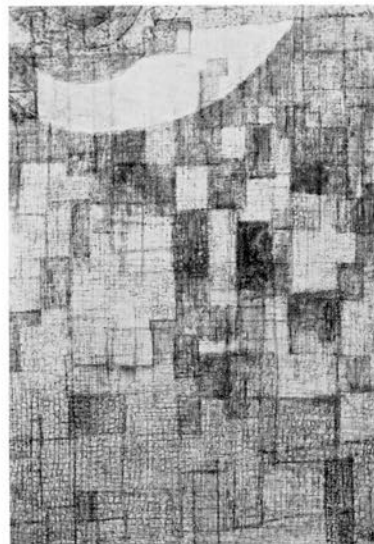
62 埴輪 (饗会) 島海青児



59 冥想 (美術文化展) 笹川由為子



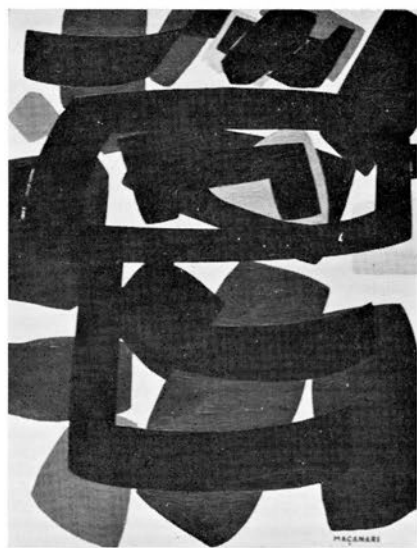
63 かみをすく少女 (アンデパンダン展) 吉井忠



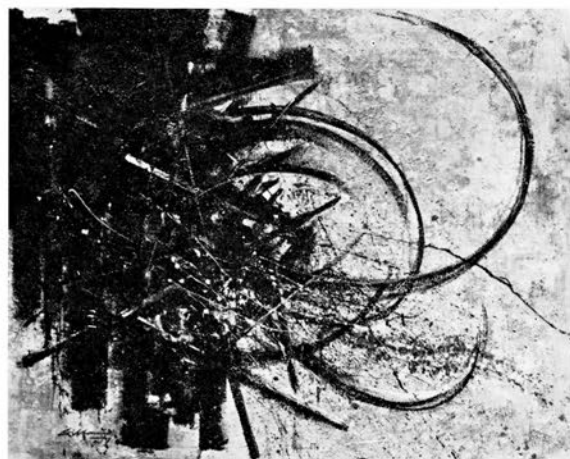
60 季節 (美術文化展) 清川泰次



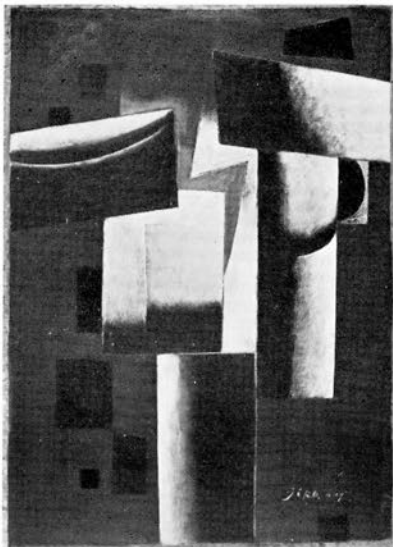
67 静かなる野性 (1) (モダンアート展) 勝本富士雄



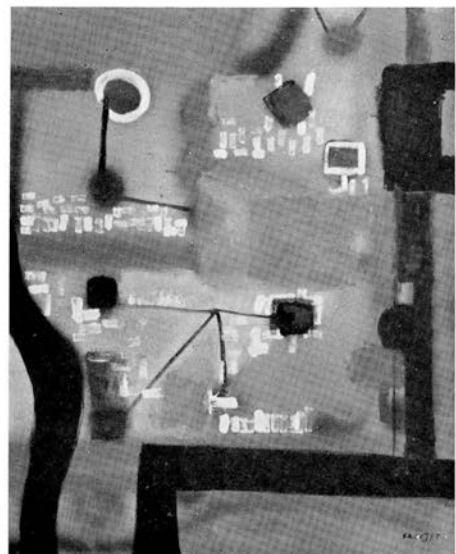
64 青と人 (モダンアート展) 村井正誠



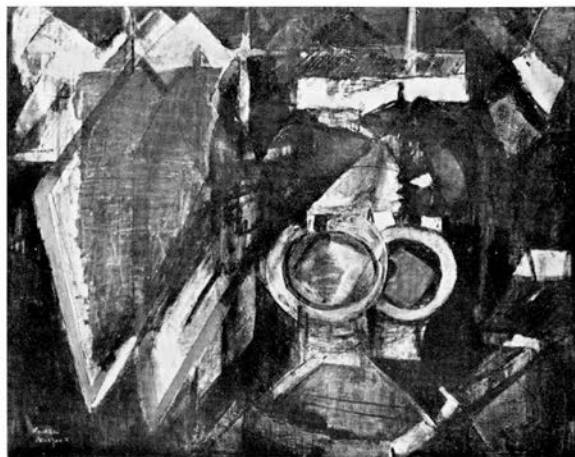
68 深き淵より (モダンアート展) 中井幸一



65 鏡の像 (モダンアート展) 朝妻治郎



69 (作品) 16 (団体選抜新人展) 高井寛二



66 森の二重像 (モダンアート展) 山口 薫



73 マリア園の眺め (雨晴会展) 中川一政



70 今日の印 (モダンアート展) 柴田紗千夫



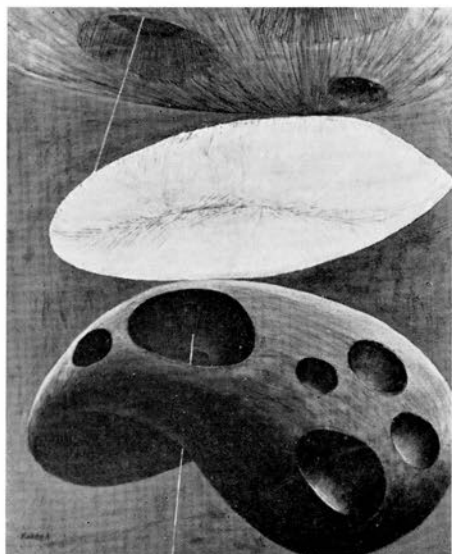
74 婦人像 (光風会展) 森田元子



71 水の中 (団体選抜新人展) 田中君子



75 雪 後 (光風会展) 小椋源太郎



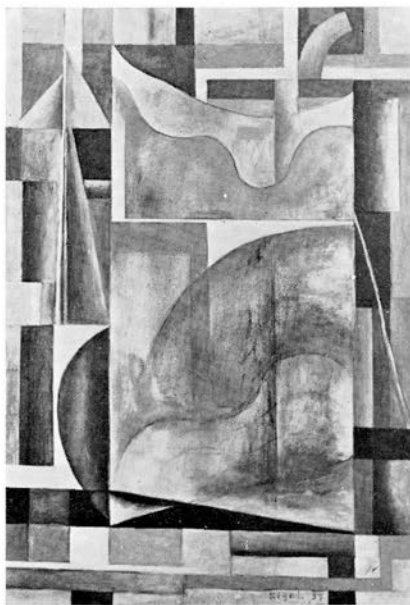
72 スペースに於ける三つの物体 (団体選抜新人展) 赤穴桂子



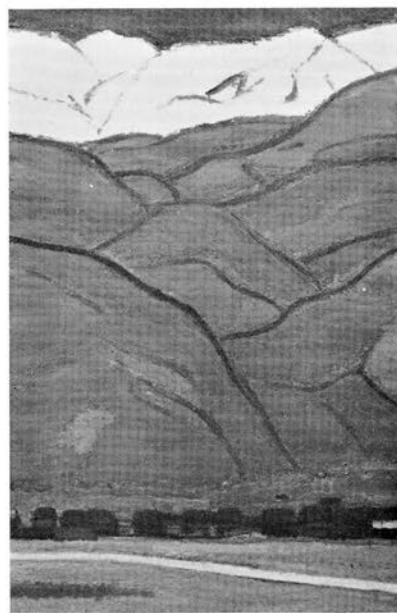
79 白衣婦人像 (創元会展) 中野和高



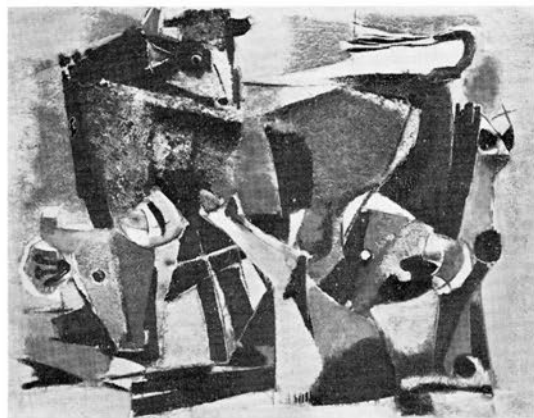
76 ウィリアム物語 (光風会展) 笹岡了一



80 人 体 (国画会展) 川口軌外



77 冬 山 (一) (光風会展) 田村一男



81 白 い 牛 (国画会展) 橋木三郎



78 静 物 (創元会展) 鈴木千久馬



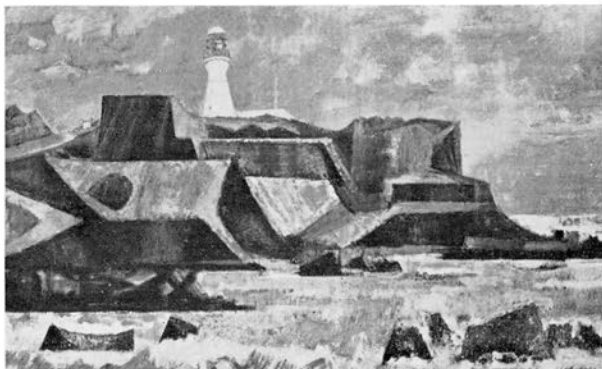
85 山 鏡 (春陽会展) 岡 鹿之助



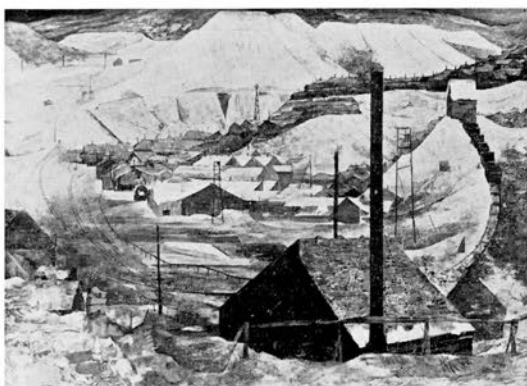
82 風 景 (国画会展) 野田好子



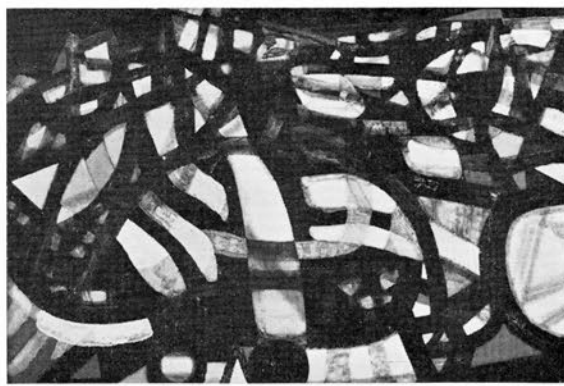
86 K字の門 (春陽会展) 三井永一



83 犬 吠 (国画会展) 久保 守



87 泥 雪 (春陽会展) 中谷 泰



84 山による作品 (国画会展) 宇治山哲平



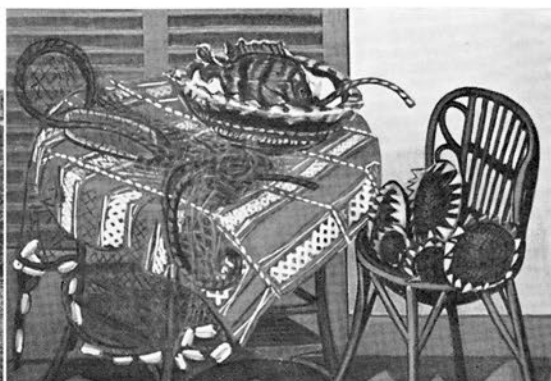
91 鬼 (国際美術展) 斎藤義重



88 カンバス (国際美術展) 梅原竜三郎



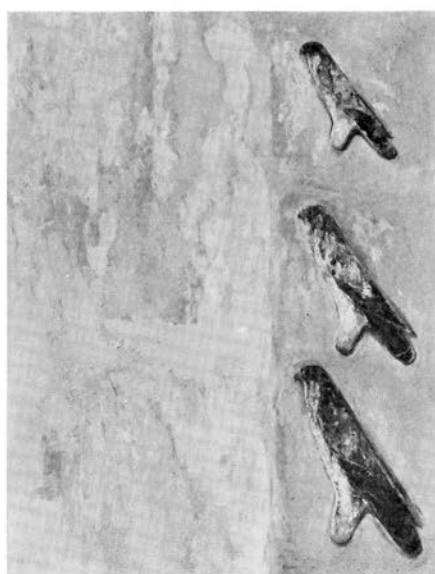
92 同時併存 (国際美術展) 須田剋太



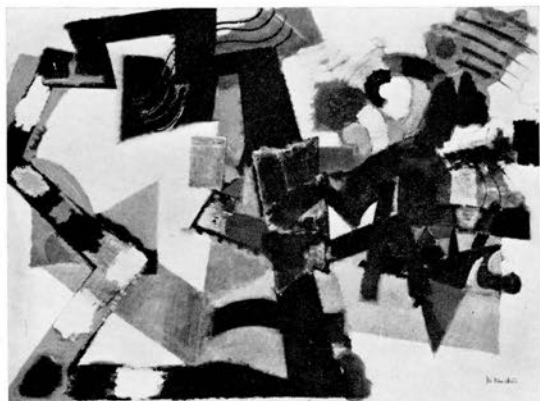
89 静物 (国際美術展) 加山四郎



93 燃える (国際美術展) 海老原喜之助



90 鳥の壁 (国際美術展) 糸園和三郎



97 形 象(緑) (国際美術展) 川 端 実



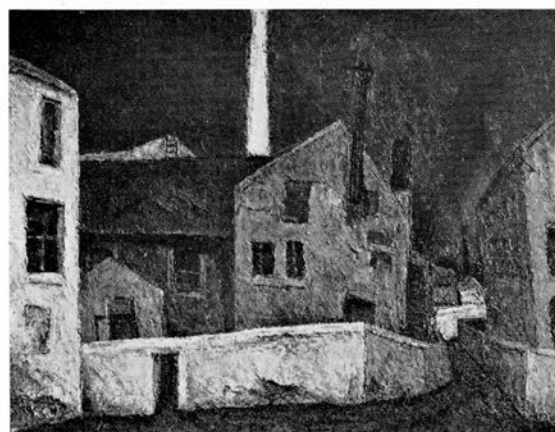
94 アッカドの椅子 (国際美術展) 藤井令太郎



98 埋 葬 (国際美術展) 福 沢 一 郎



95 魚 市 場 (国際美術展) 須田国太郎



99 工 場 (東光会展) 山本日子士良



96 パリスの審判 (春陽会展) 三雲祥之助



103 共立講堂襷帳下図（新世紀展）和田三造



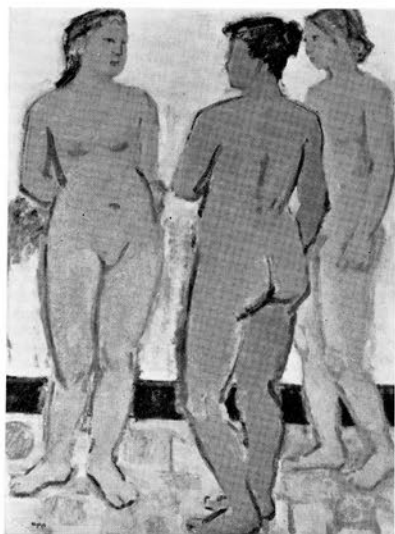
100 裸婦（東光会展）森田茂



104 朗日（新世紀展）大久保次郎



101 素焼の壺（東光会展）渡辺浩三



105 三女（新世紀展）長屋勇



102 山（新世紀展）松本富太郎



109 裏 (新樹会展) 原 勝郎



106 唱 う (女流画家展) 小川 孝子



110 春 (新樹会展) 島村三七雄



107 花 ぞ の (女流画家展) 田中 君子



111 梅 雨 (太平洋画会展) 石井弥一郎



108 人形の静物 (新樹会展) 朝井閑右衛門



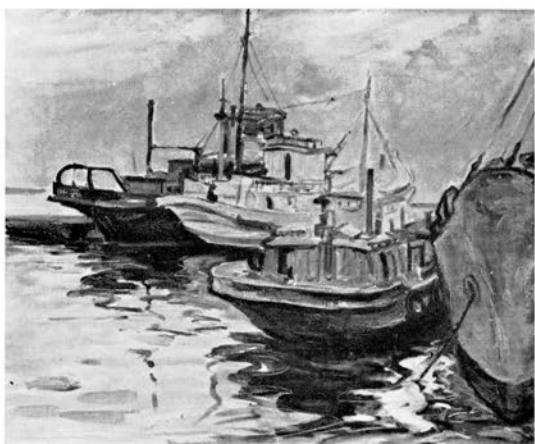
115 港の風景 (クリチツク賞絵画展) 土橋 醇



112 シテ (滯欧作個展) 村山 密



116 コンポジション (クリチツク賞絵画展) 故 坂田一男



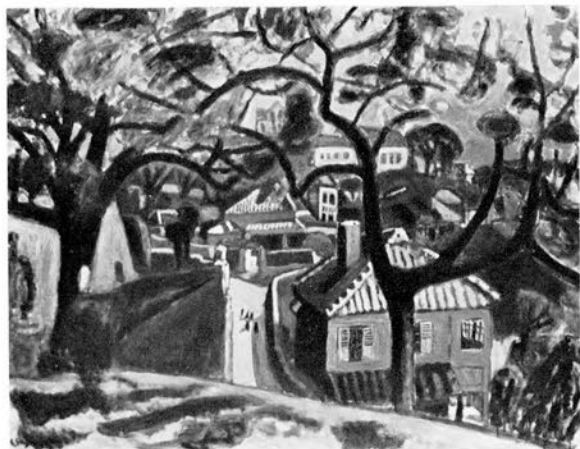
113 漁船 (旺女会展) 梅野 順三



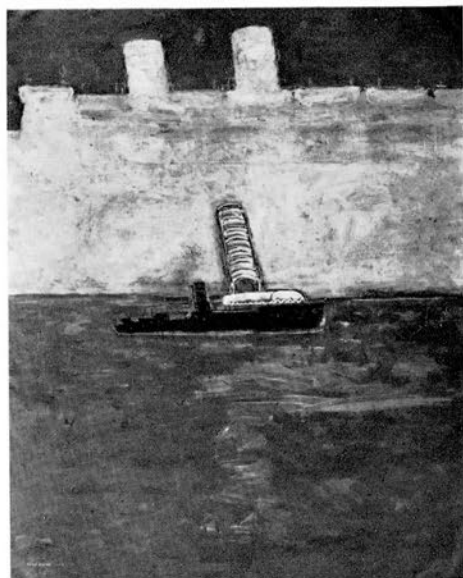
117 連 鎖 (クリチツク賞絵画展) 斎藤 正夫



114 パンジー (旺女会展) 小林喜代吉



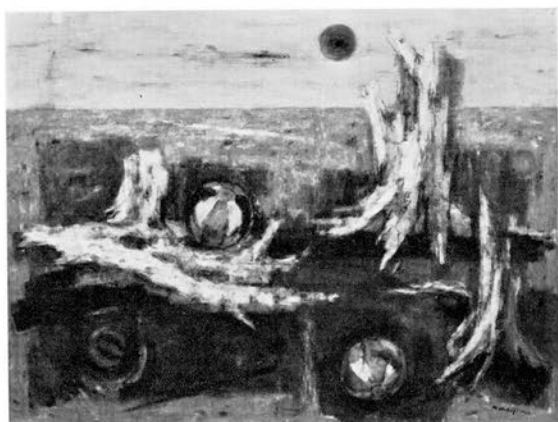
121 東山手風景(長崎) (一陽会展) 鈴木信太郎



118 旅愁 (一陽会展) 荻野康児



122 寺院の前の人たち(二科会展) 北川民次



119 流木の歌 (一陽会展) 長谷川三千春



123 むすめたち (二科会展) 吉井淳二



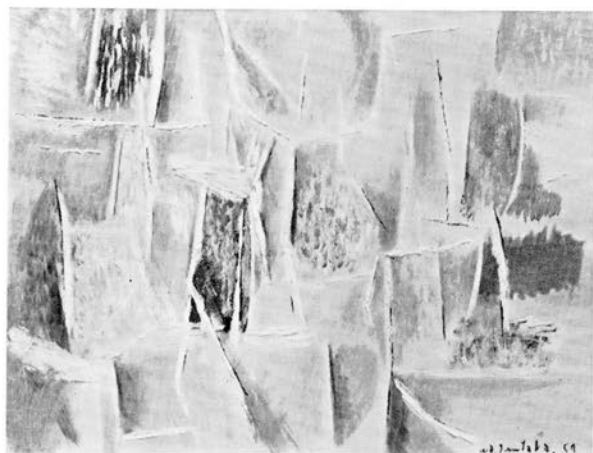
120 満湖 (一陽会展) 野間仁根



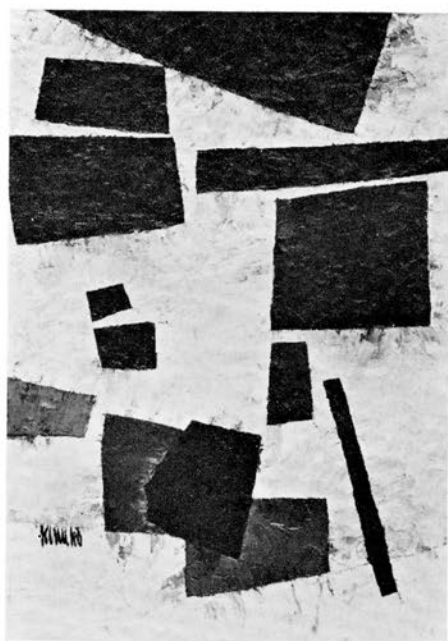
127 汚された空気 (二科会展) 井上覚造



124 二つの顔 (二科会展) 岡本太郎



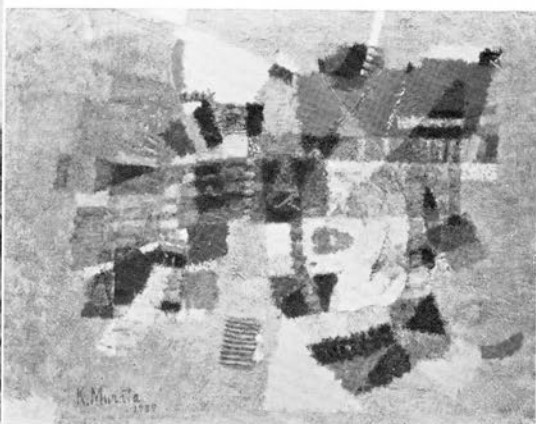
128 痕 跡 (行動展) 津高和一



125 フォールム (行動展) 江見絹子



129 北端の村 (行動展) 向井潤吉



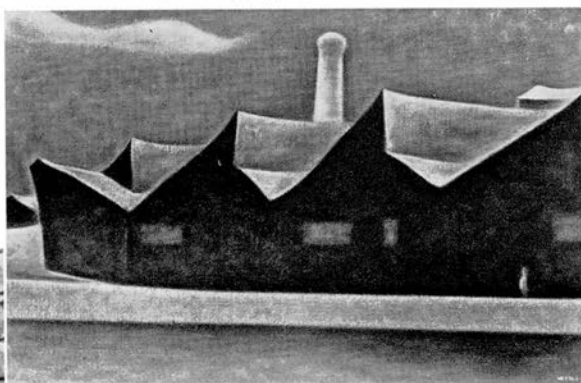
126 (作品 A12) (行動展) 村田實史雄



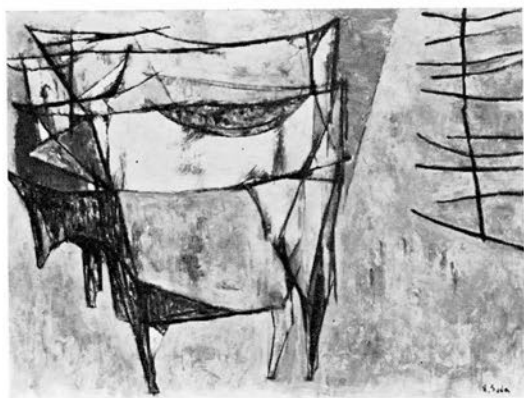
133 遊 樂 花 B (二科会展) 藤山宇一



130 ボタ山と橋 (行動展) 古家 新



131 工 場 (立軌会展) 牛島憲之



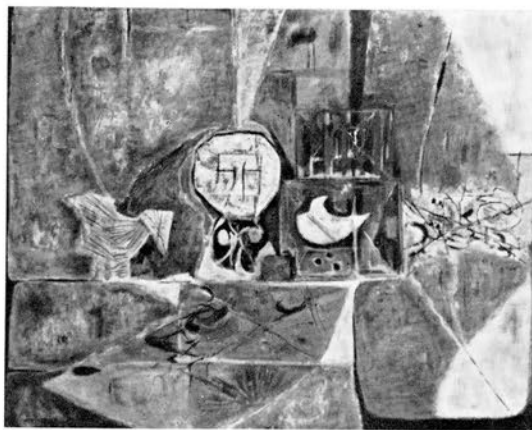
134 櫛の中の手 (立軌会展) 須田 寿



132 赤い空(新制作展) 油野誠一



135 虹 (立軌会展) 飯島一次



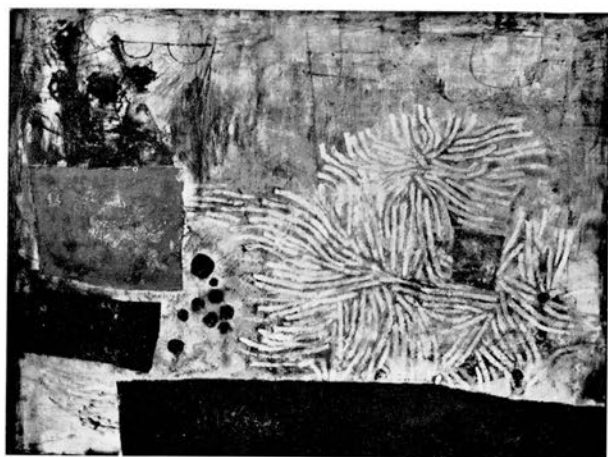
139 緑 圓 (新制作展) 脇田 和



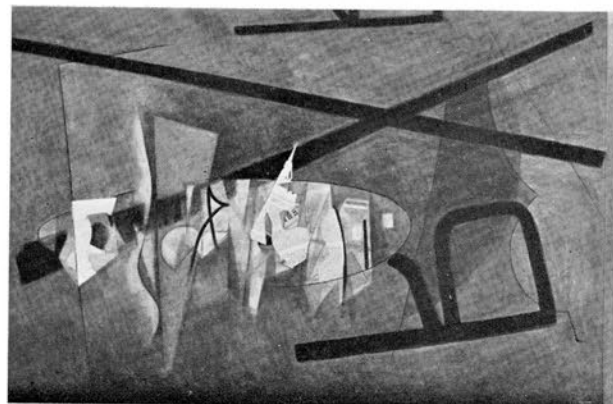
136 とりと琴を弾くはにわ (新制作展) 三岸節子



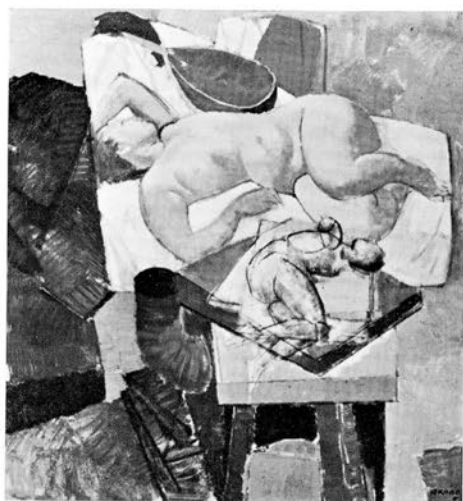
140 少 女 (一水会展) 中村 琢二



137 白 い 壁 (新制作展) 赤 穴 宏



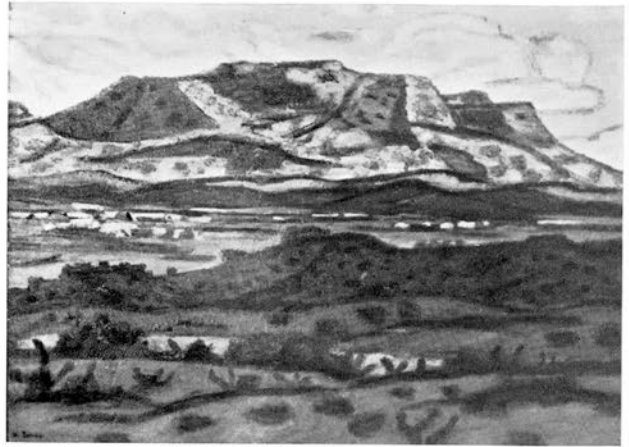
141 水たまりにひろつた小曲 (一水会展) 上田 哲農



138 室 内 (新制作展) 小磯良平



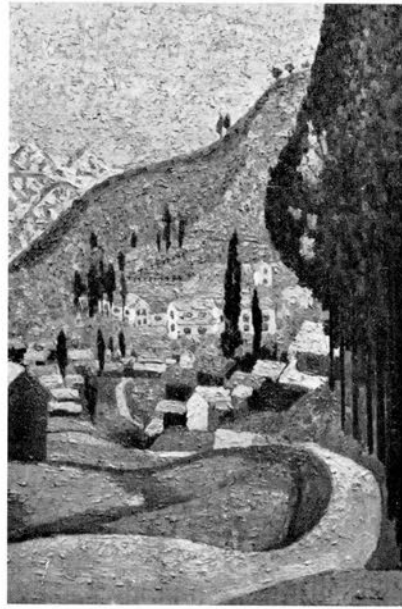
145 いきもの (自由美術展) 寺田 政明



142 夏の阿蘇山 (一水会展) 田崎 広助



146 山 (自由美術展) 森 芳雄



143 野沢風景 (一水会展) 高田 誠



147 取 穂 (自由美術展) 井上 照子



144 原爆受難の浦上聖堂 (一水会展) 小山 敬三



151 薪を運ぶ人 (二紀会展) 宮本三郎



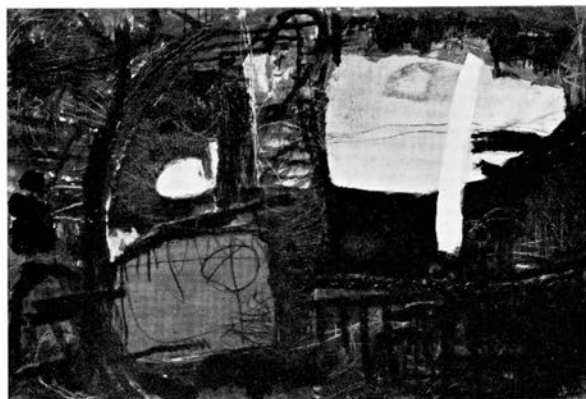
148 二人像 (自由美術展) 麻生三郎



152 マンデユシヤゲ (二紀会展) 佐伯米子



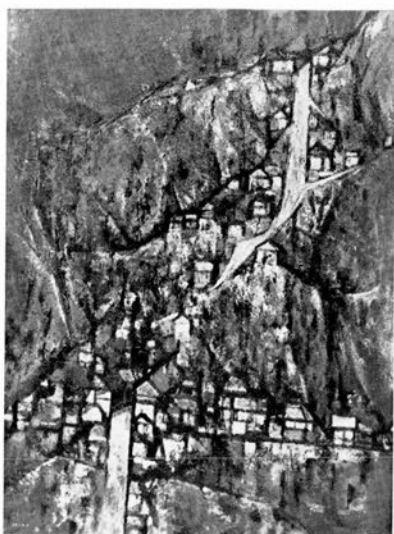
149 夜 (自由美術展) 小山田二郎



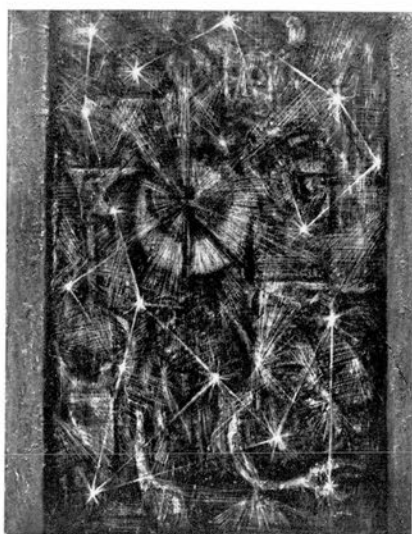
153 生活 (二紀会展) 佐野繁次郎



150 赤い燈台 (二紀会展) 鍋井克之



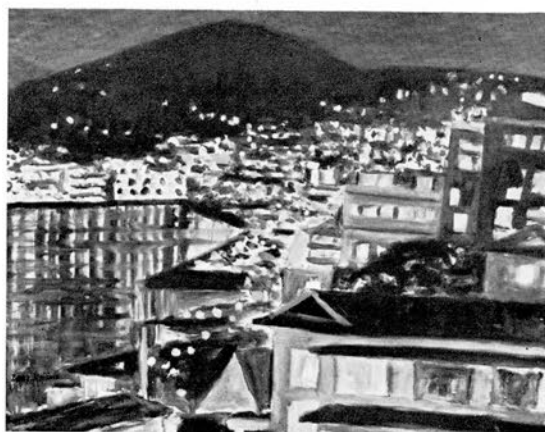
157 村 落 (独立展) 斎藤長三



154 巡 行 (二代会特選展) 金田辰弘



158 山 湖 (独立展) 小林和作



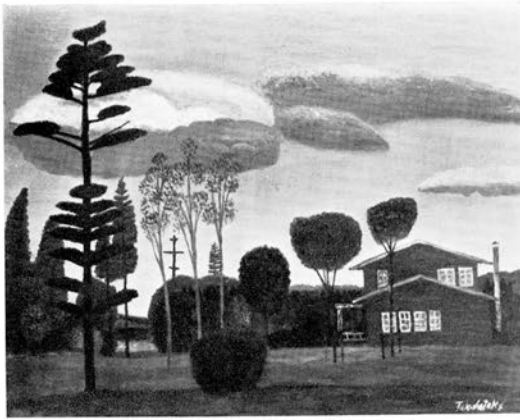
155 熱海風景 (独立展) 児島善三郎



159 黒の中の花 (独立展) 山田栄二



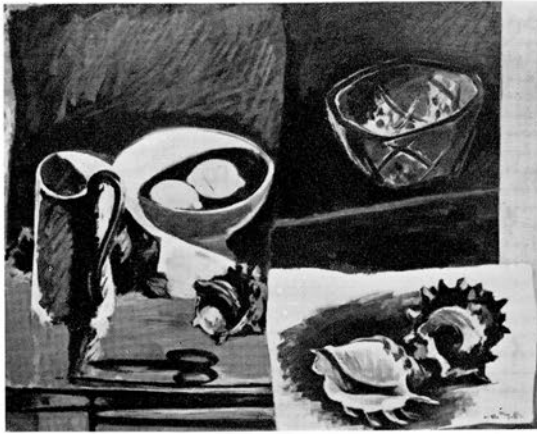
156 風 (独立展) 高岡惣七



163 唐松と雲 (独立展) 高島達四郎



160 アトサスプリ(硫黄山) (独立展) 野口弥太郎



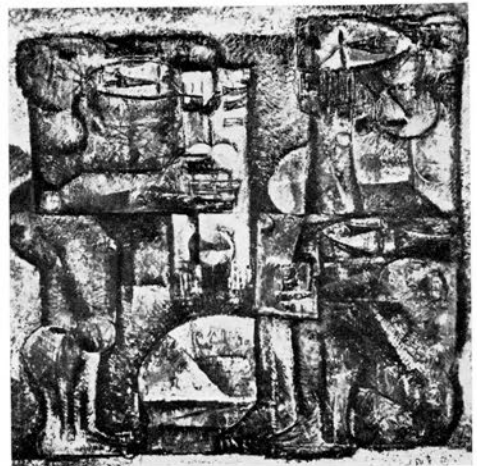
164 静物 (独立展) 中山 巖



161 熱海風景 (独立展) 林 武



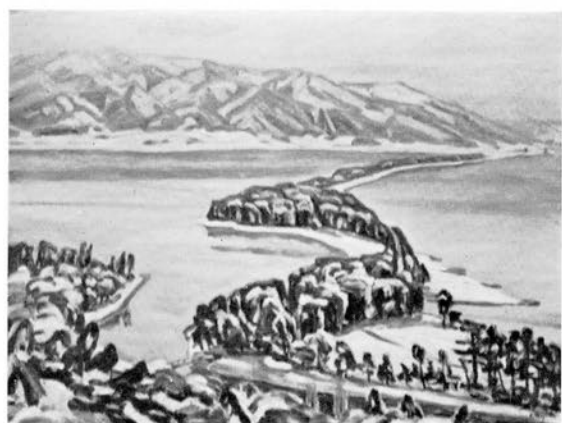
165 日照雨 (日展) 井手宜通



162 仮死生誕 (独立展) 秦森康屯



169 ヨットハーバー (個展) 藤木東一郎



166 橋立春雪 (日展) 辻 永



170 雪 空 (日展) 三輪 孝



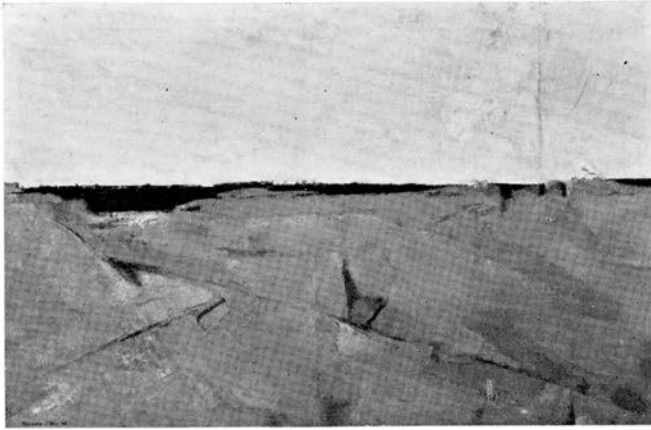
167 佳 人 (日展) 石井柏亭



171 縞のきもの (日展) 中村研一



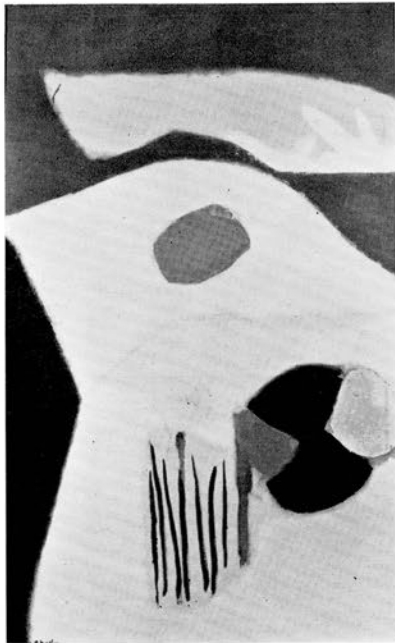
168 室 内 (日展) 鬼頭鍋三郎



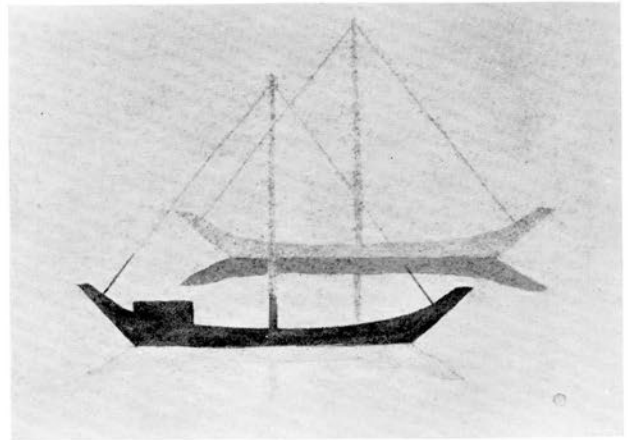
175 海 辺 (安井賞新人展) 田 中 岑



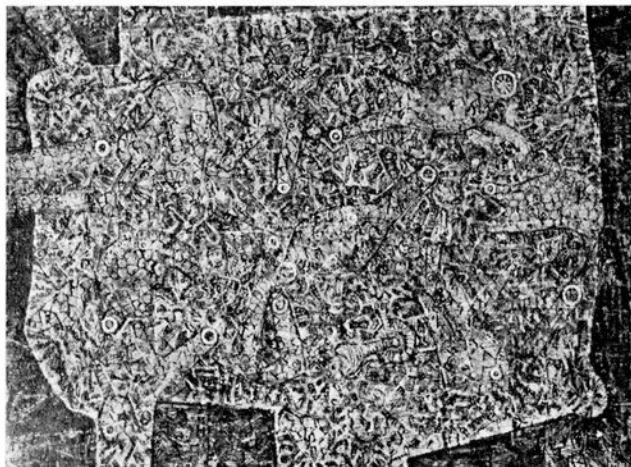
172 動 脈 (アジャ青年美術家展) 藤 松 博



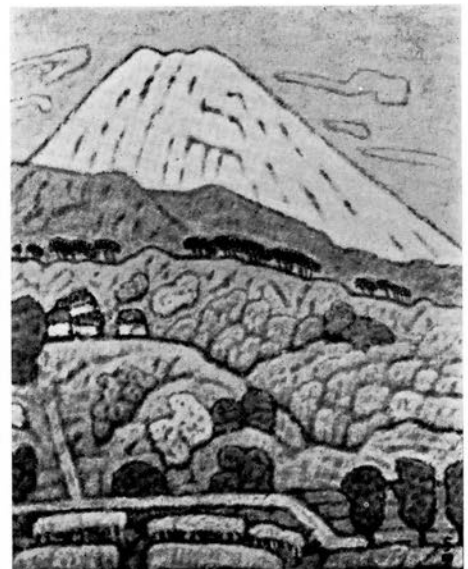
176 作 品 (世界の中の日本抽象展) 岡 田 謙 三



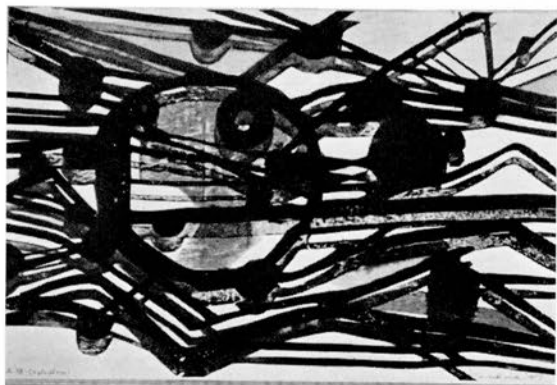
173 泊 船 暁 光 (高樹会) 坂 本 繁 二 郎



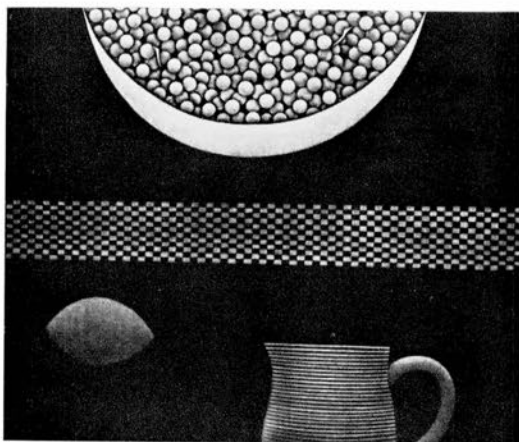
177 城 (今日の新人展) 前 田 常 作



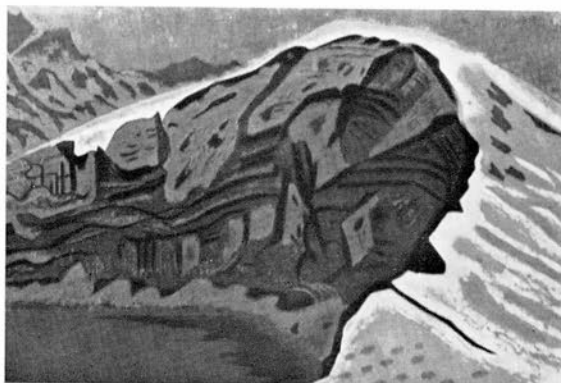
174 畑 毛 の 富 士 (日 展) 斎 藤 与 里



181 木 琴 (個展) 内岡安理



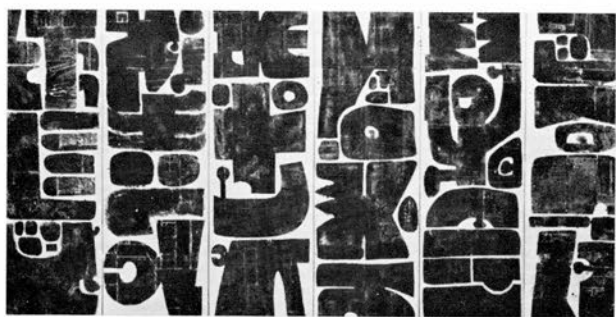
178 青いガラス (東京国際版画ビエンナーレ展) 浜口陽三



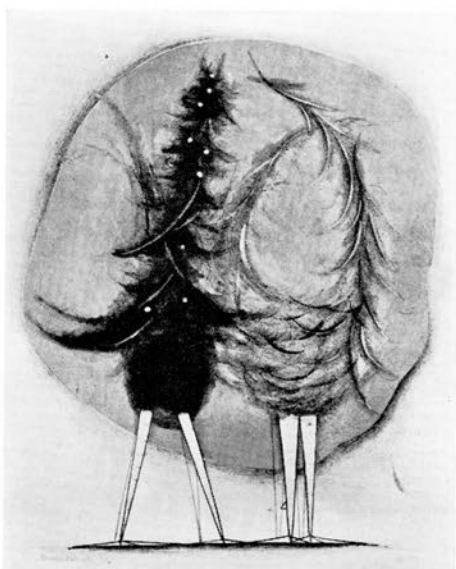
182 蔵王火口壺 (国画会展) 前田政雄



179 道路工事 (春陽会展) 北岡文雄

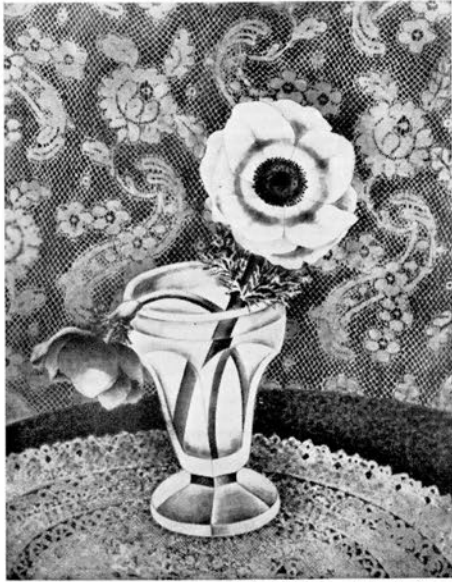


183 日本の抒情 (東京国際版画ビエンナーレ展) もりまさぶ

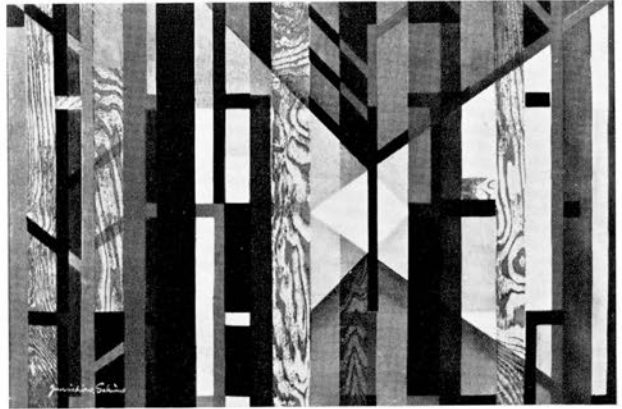


180 圓 鶏 (東京国際版画ビエンナーレ展) 泉 茂

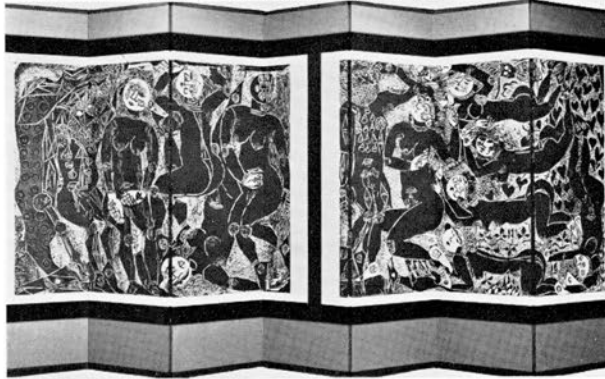
繪画(版画)



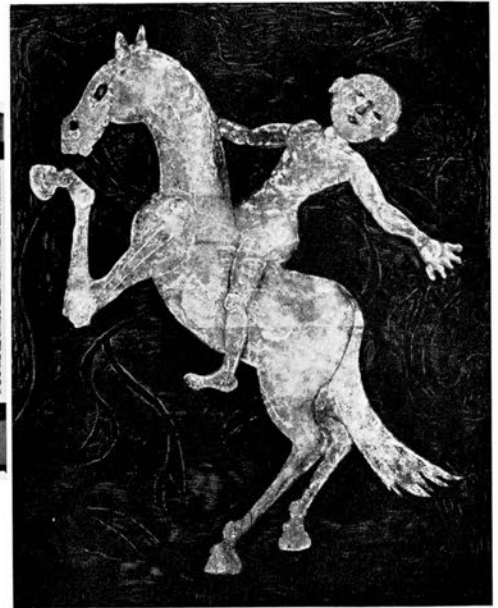
187 二つのアネモネ (日本版画協会展) 長谷川 潔



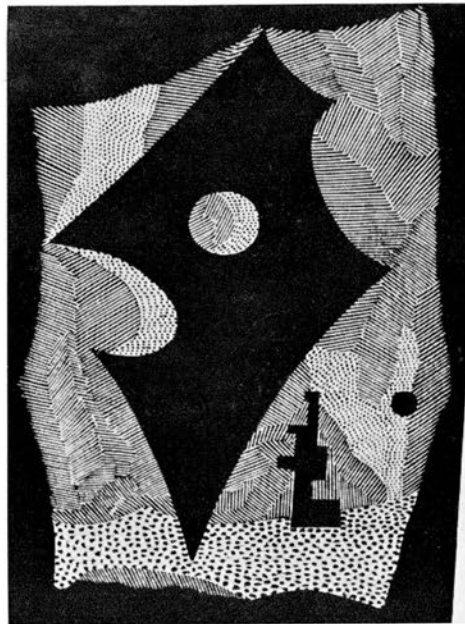
184 (森の習作)A (国画会展) 関野準一郎



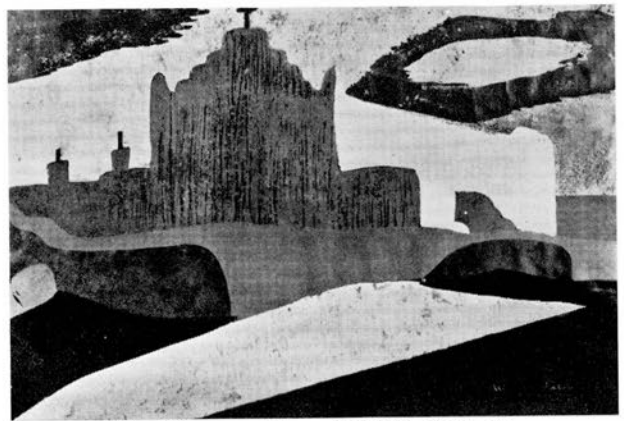
188 群生の柵 (東京国際版画ビエンナーレ展) 棟方志功



185 白馬と童子 (新樹会展) 水瀬義郎



189 星落ちし日 (個展) 吉田政次



186 白陽—ニューメキシコ (国画会展) 斎藤 清



194 塚 (国際美術展) 木 郷 新



193 昆 虫(ファッションモデル)
(自由美術10人展) 井上 武吉



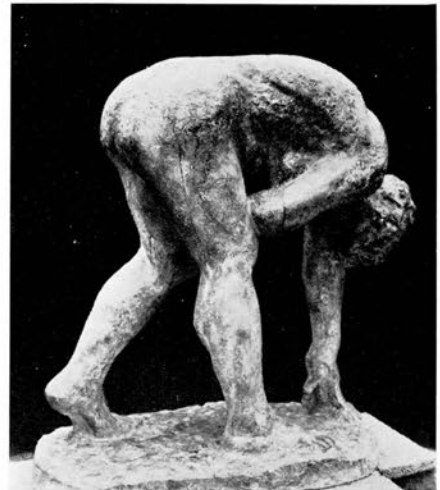
190 女 の 顔 (個 展) 山 木 豊 市



195 二 人 (彫刻と素描展) 山 内 壯 夫



191 まのぬけた闘争 (個展) 土 方 久 功



192 女 (国際美術展) 木 内 克



200 K翁の首 (院展) 新海竹蔵



198 雷 (院展) 石井鶴三



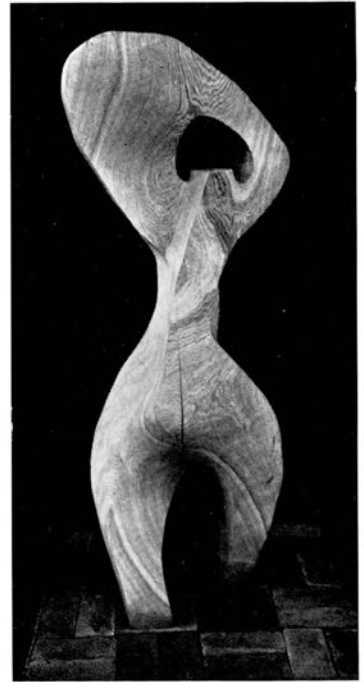
196 淵 (創型会展) 中野四郎



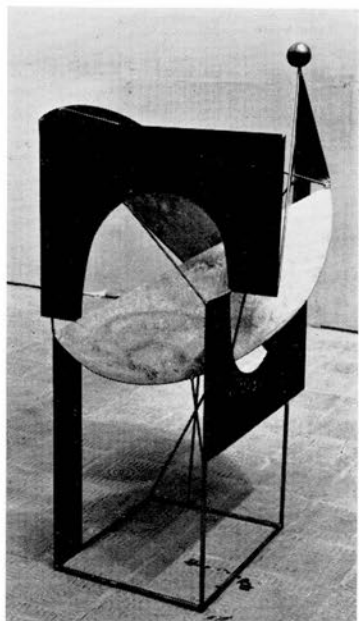
201 西山道遙 (院展) 平柳田中



199 靈山三蔵 (創型会展) 森 大造



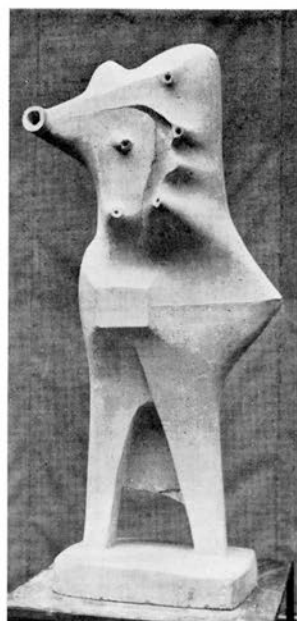
197 トルソー (個展) 植木 茂



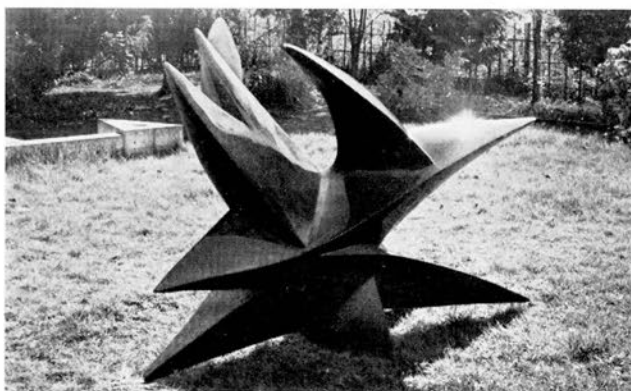
206 作 品 (二科会展) 堀内正和



203 人 と 鳥 (一陽会展) 金田 忠



202 へんな服をきた人物(院展)辻 晋堂



204 躍 進 (二科会展) 笠置季男



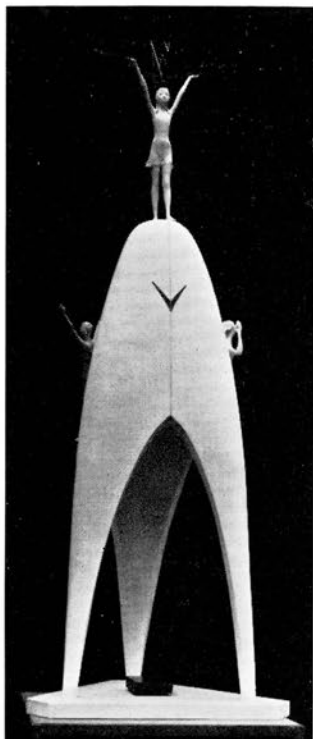
207 (屈折)B (一陽会展) 山崎 猛



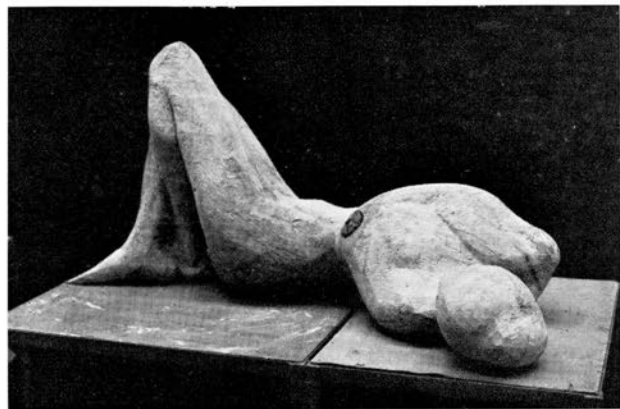
205 作 品 (二科会展) 平川正道



211 女 (新制作展) 柳原義達



212 「原爆の子」記念像試作 (新制作展) 菊池一雄



213 女 (新制作展) 松坂節三



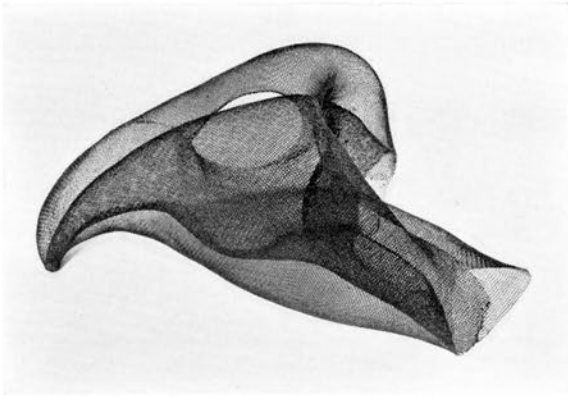
208 (作 品) (行動展) 中島快彦



209 徴 (行動展) 建昌覚造



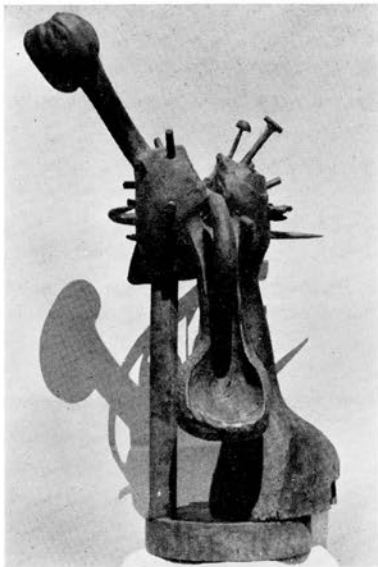
210 黒い坐像 (新制作展) 五十嵐芳三



217 疑似透明体作品 (二紀会展) 長野隆業



214 風 (新制作展) 菅原安男



218 アソコミセテス (自由美術展) 小野忠弘



215 女性 (日展) 松田尚之



219 H氏の像 (日展) 朝倉文夫



216 休む女 (自由美術展) 木内岬



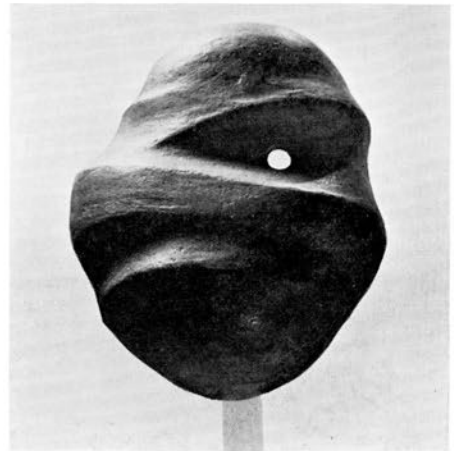
223 待機 (日展) 木村珪二



220 くにたち (日展) 沢田政広



224 エゴイスト (日展) 斎藤知雄



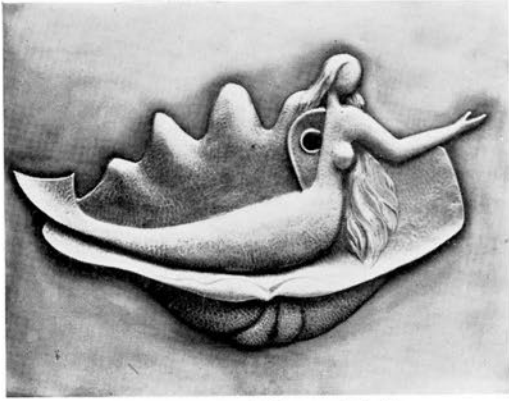
221 おかめ (世界の中の日本抽象美術展) 野口イサム



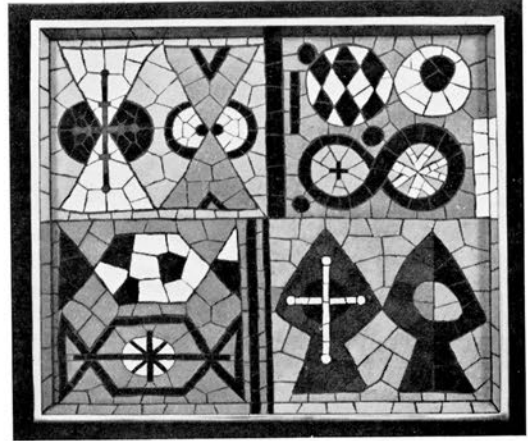
225 坤山老公 (日展) 平櫛田中



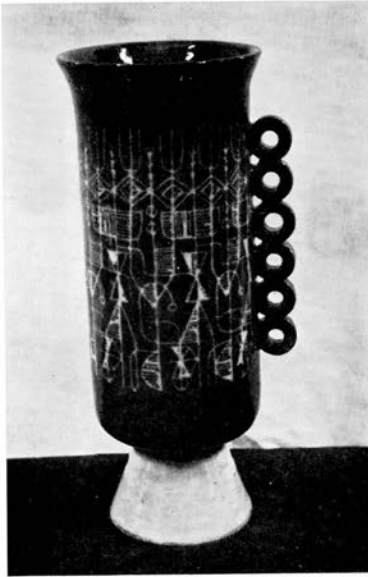
222 鏡の前 (日展) 藤井浩佑



229 海への郷愁 (光風会展) 中村 董一



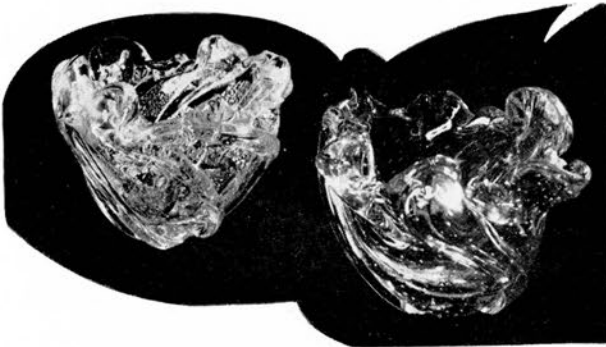
226 モザイク飾皿 (東陶会春季展) 板谷 梅樹



230 紺泥線彫文花挿 (東陶会春季展) 安原 喜明



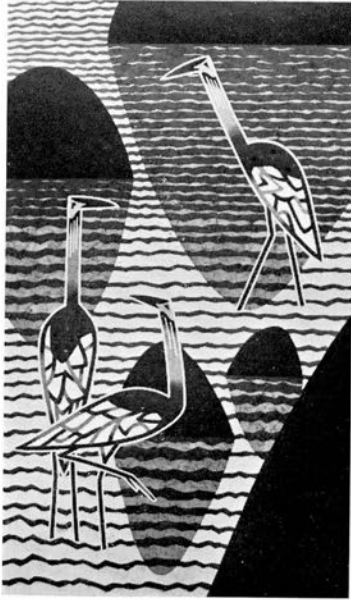
227 花器 (東陶会春季展) 唐杉 壽光



231 金ノ花 (光風会展) 岩田 藤七



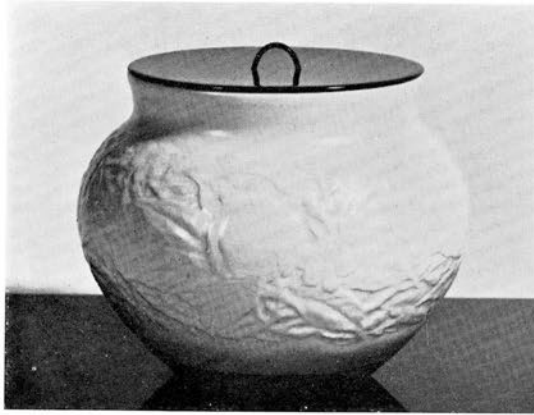
228 魚らん花籠 (日展) 飯塚 辰彦



235 薰風 (蠟染) (日展) 岸田京三郎



232 クリスタル硝子飾鉢 (日展) 各務敏三



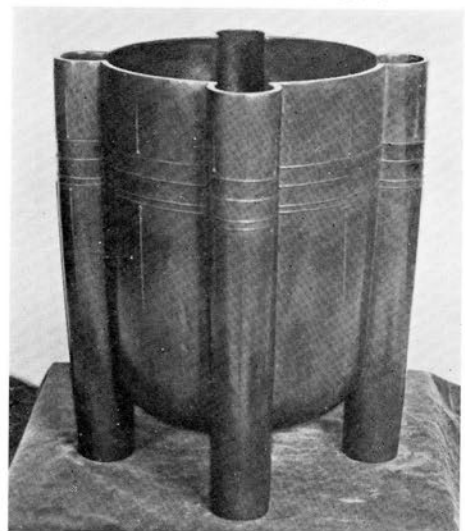
236 仙桃彫文水差 (日展) 板谷波山



233 鶏 (緑釉壺) (日展) 大樋年郎



237 炎 (花籠) 生野祥雲斎



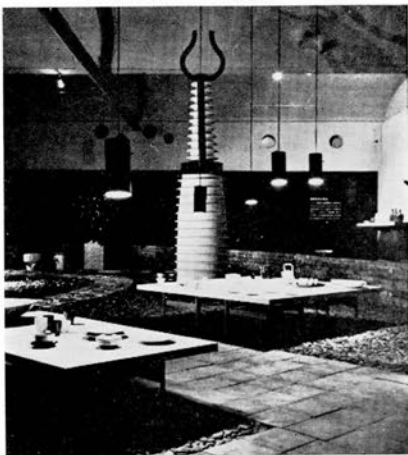
234 八瓠の花器 (日展) 香取正彦



242 明治コーヒーキャラメル (日宣美展) 大橋 正



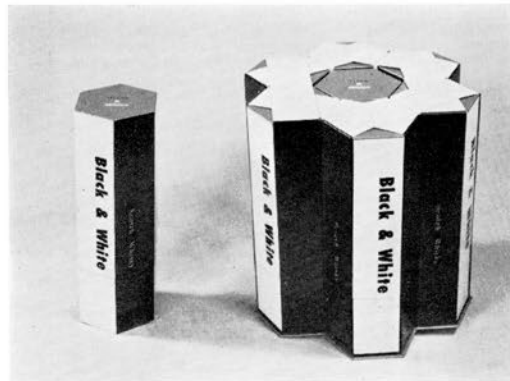
243 JAL国内観光 (日宣美展) 村瀬 秀明



244 11回ミラノ・トリエンナーレ日本参加出品のための協同展示



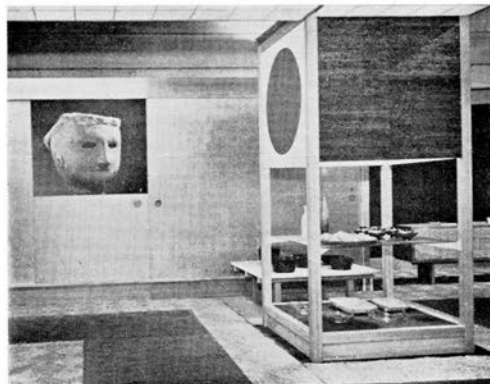
238 白磁コーヒーセット 柳 宗理



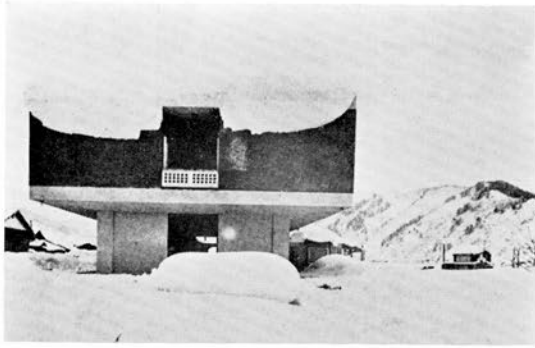
239 洋酒パッケージ (日宣美展) 飯島 啓司



240 居間セット (新制作展) 佐藤 博他



241 米国世界見本市参加のショウ・ルーム



248 雄勝町役場 白井 晟一



249 神戸市庁舎 日建設計事務所



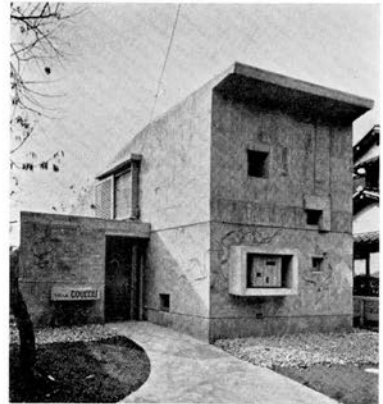
250 神戸国際会館 竹中工務店



251 神戸アメリカ領事館 ミノル・ヤマザキ



245 光丘団地アパート 日本住宅公団
〔現代建築年鑑 1958 (美術出版社)より転載〕



246 Villa coucou 吉阪隆正



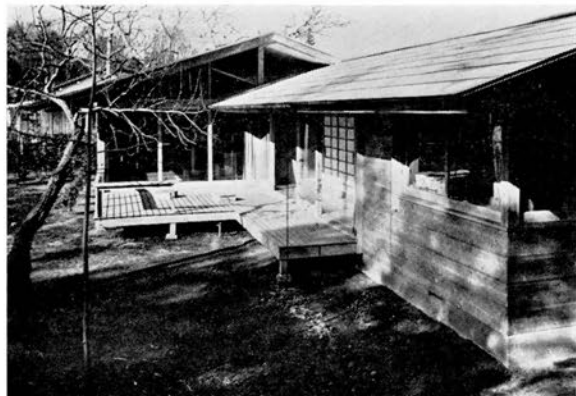
247 東急文化会館 坂倉準三

建 築

(新建築社・国際建築・美術出版社提供写真を含む)



255 東京都庁舎 丹下健三



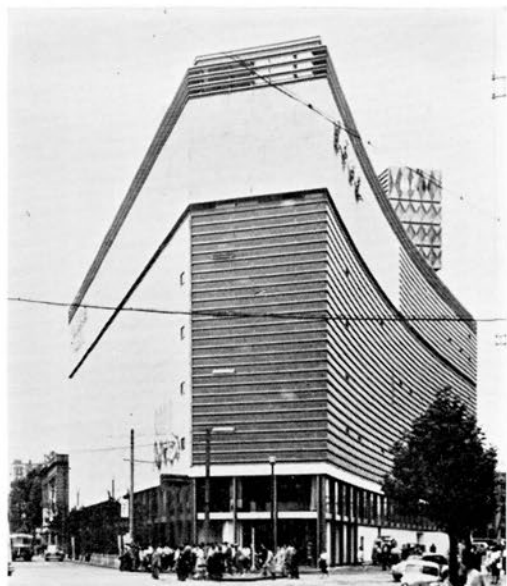
256 栗の木のある家 生田勉



257 倉吉市庁舎 丹下健三



258 岩波邸 堀口捨巳



252 そごう・読売会館 村野藤吾



253 殿ヶ谷アパート 菊竹清訓



254 中央公論社ビル 芦原義信



265 坑夫 荻原守衛



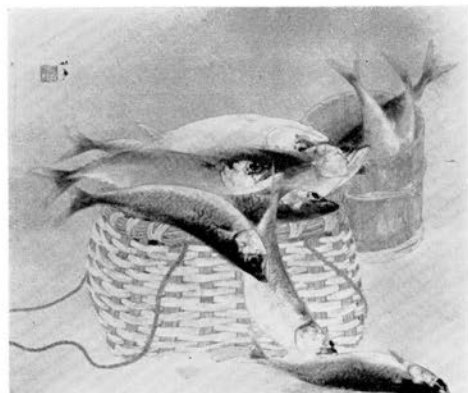
262 洋装婦人 牧野虎雄



259 竹猫 橋本雅邦



263 蔬菜静物 小出楢重



260 鯖竹内栖鳳



264 自画像 万鉄五郎

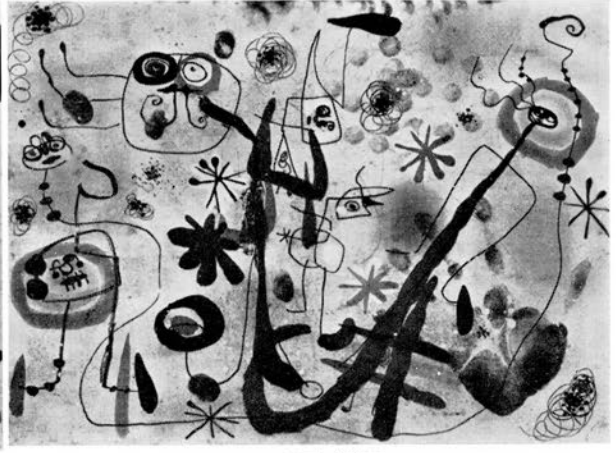


261 積葉 林俊衛

回顧・遺作展



269 大なる庭 (日本国際美術展) ウィンテル



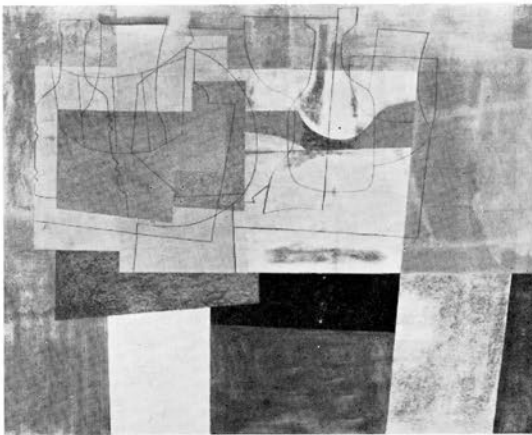
266 手 (日本国際美術展) ミロー



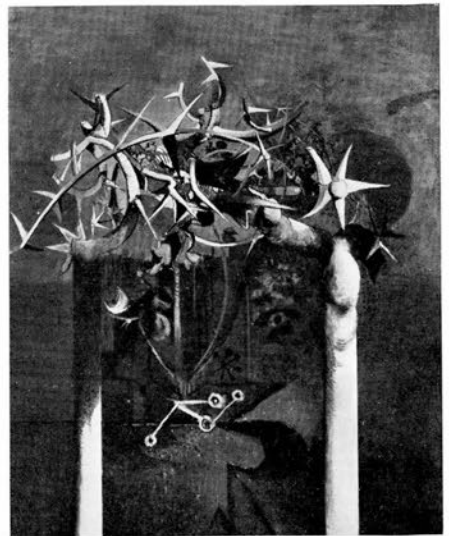
270 躍動 (日本国際美術展) ファッツァイーニ



267 坐つた人物 (日本国際美術展) グレコ



271 アルシノの九月 (日本国際美術展) ニコルソン



268 イバラ (日本国際美術展) サザーランド



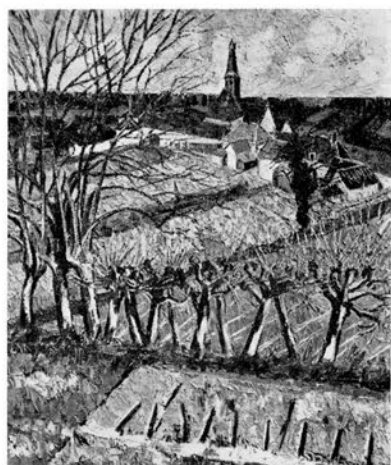
275 馬 (東京国際版画ビエンナーレ展) フリードレンダー



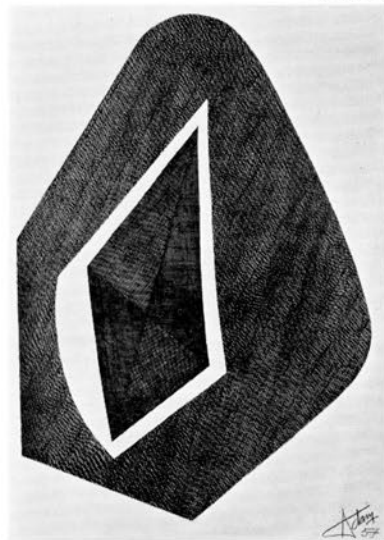
276 村 (現代フランスクリチツク賞絵画展) ラザ



277 カルストの女 (東京国際版画ビエンナーレ展) デベンヤーク



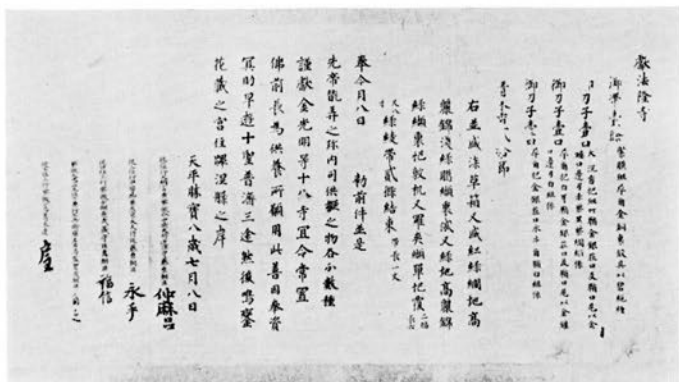
272 シャブリー風景 (現代フランスクリチツク賞絵画展)
クールタン



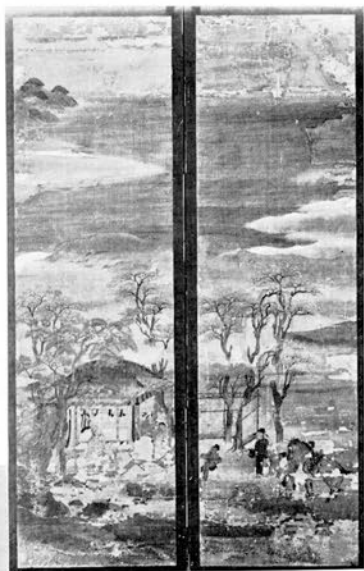
273 砂と水 (東京国際版画ビエンナーレ展)
ジョルジュ・アダム



274 月夜の馬 (アジア青年美術家選)
モハメッドキブリヤ



281 法隆寺献物帳 国(東京国立博物館保管)



278 山水屏風(部分)
教王護国寺



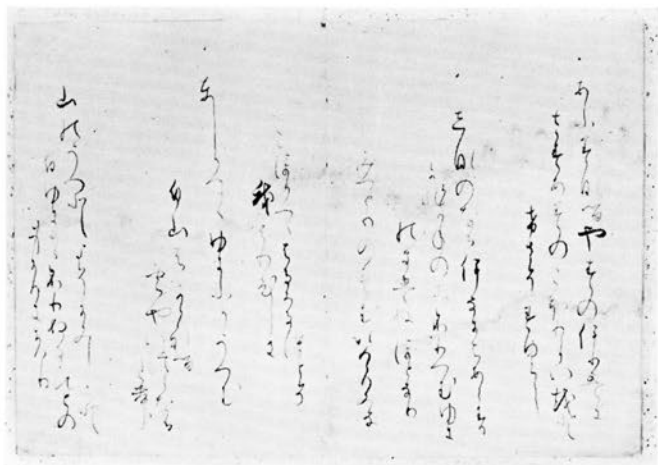
279 紫檀塗螺鈿金銅裝舍利尊 教王護国寺



282 教王護国寺大師堂 教王護国寺



280 銅造阿弥陀如来坐像 高德院



283 重之集 黎明会



286 藤波絵草紙(部分) 浅田長平



284 金銅舍利塔 教王護国寺



285 木造女神坐像 教王護国寺



287 今西家住宅 今西武次郎

本

欄

昭和三二年美術界概観

現代美術

近年諸外国との国交回復につれて、諸国との文化協定が逐次制定され、また文化人や藝術家たちの往来が頻繁になつて、世界はまさに文化交流の時代に入つた感がある。しかも、欧米諸国は、東洋ことにわが日本の独自の藝術に眼を注ぎ、これを研究し、摂取しようとする意向を示している。これは、第四回日本国際美術展や第一回東京国際版画ビエンナーレ展或いはアメリカ、フランスなどから進出して来た現代アメリカ美術展、新エコール・ド・パリ展、世界現代美術展その他の個展などの欧米作家の作風に看取出来る。この機運に際して、わが国では歐洲四都市に於ける政府主催の日本古美術巡回展やソ連に於ける日ソ国交回復記念の日本工藝美術展を計画し、またサンパウロのビエンナーレ展に現代洋画、彫刻、版画を出品して版画家浜口陽三がグラン・プリを獲得し、ミラノのトリエンナーレ展にわが現代美術工藝が初参加して、陶磁家河合寛次郎がグラン・プリを得たのをはじめ金、銀賞を得、さらにアメリカに於ける富岡鉄斎の作品展も注目された。

一方国内でも、国立近代美術館は現代的見地に立つて「墨の藝術展」や「歌麿と「北斎」展を行つて伝統美術の再検討を試みた。そして、現代美術に於いては、従来西欧的な抽象主義、表現主義の傾向が年々密度を加えてきたが、これに対して新具象主義が興り、更に本年には新しく紹介されたアンフォルメル(非定形派)の影響も部分的にあらわれている。そして、わが現代作家の間にも、東洋的、日本的な精神を表わす作風が萌ばえつつある。

次に、美術行政の問題として日本美術展覧会(日展)の改組がある。日展は、明治四〇年開設の文部省美術展覧会にその源を発し、その後帝國美術

院展覧会、新文部省美術展覧会を経て、終戦直後日本美術展覧会として再出発した。昭和二四年純官展制を取り止め、日本藝術院と同會員有志によつて組織される日展運営会との共催による半官半民の展覧会として開催されて来たものである。たまたま、本年七月衆議院文部委員会に於いてその組織について問題が提出され、九月に至つて日展運営会は臨時總會を開き、その運営に就いて討議した結果、日本藝術院と日展運営会を分離し、日展運営会を社団法人に改め、これが専ら日展運営にあたることを決定した。かようにして、約五〇年の伝統を持つ官展は、完全に在野の美術展覧会に改組されたのであつた。ただ、本年の第一三回日展は、もとの組織によつて開催された。この改組の余波として、第一三回展に、一部審査員の辞退や不出品があつた。

また、東京都はこの年度中その美術館の第一期の増改築を行つた。これは都予算二億五千万円と作家の作品提供による資金を以つてしたもので、一、五五〇坪の三階を増築し、全館の壁面を改装し、また人工照明に改めた。このために多くの団体展は、作品の寸法を制限し、また或るものは従来使用しなかつた第一階の暗い室を使用するなどの不便があつたが、一〇月から新設の第三階の室が使用され、全館五、一三〇坪の大展示館となつて次第に面目を一新した。

最後に、現画壇の実状を述べると、恒例の団体公募展はいずれも出品者数が増加しました會員がふえて来ているが、一方中堅以下の新人や無所属の作家の個展、グループ展は益々盛んである。従つて、街頭の画廊は漸増して現在およそ四〇を数え、一週約四〇、年間約二、〇〇〇の展覧会が開かれたことはわが画壇の異状な盛況を物語るものと言わねばならない。また各美術団体が、その各々の個性を失ひ、綜合展をモットーとしていた日展が在野關係となつた今日、むしろ団体にとられぬ綜合展——例えば、朝日新聞社の選抜秀作展、選抜新人展、毎日新聞社の国際美術展、現代日本美術展、読売新聞社の国際版画ビエンナーレ展など、各社の企画によつて行われることが多くなつて来たことも近來の顕著な現象である。

次に、日本画、洋画、彫塑、工藝、建築の各分野にわたつて略記する。

日本画

例年の如く日本画界の中心は、秋の定期的公募展に集中されるが、本年はこれらの中から特に飛躍的作品も生れず、又何ら新しい動きもみられずして、比較的停滞気味のうちに終つた。

日本画不振の聲は、ここ数年来きかれるところであるが、この様な中で個々の作家が、それぞれ自己の製作に真摯な努力を重ねていることは、一様に認められ得るのであるが、全般的にいって現在の日本画は、新しい様式の創案に急で、肝腎の作家がうつたえるべき表現意慾は極めて稀薄になつてしまつてゐる。しかも一団体に於ける様式確立の傾向は、ほぼ似かよつた方向をたどるため、作品が皆劃一化してしまつて、それぞれの展覧会場は、一応の団体カラーといふべきものを保持しながらも、個々にうつたえるべき感動が平明化してしまつてゐる。

斯様な情勢に加えて、更に現実的問題として、東京都美術館は六月から増改築工事ははじめたが、展示場の都合により出陳作品に制限が加えられたこと、いま一つは、七月はじめ衆議院文教委員会における高津代議士の発言でジャーナリズムを賑わした日展問題である。

これはその後、種々な問題を派生し、日展の運営自体が批判的となつて遂に機構を改革するに至つた。この間に催された秋の日展でも日本画部での審査員級の不出品があるなど、これらの事態は低調気味にある日本画壇に更にマイナスの傾向を強めるものであつた。

斯様な沈滞的傾向の中で、あえて本年度の特色といふべきものを探れば、伝統或いは古典への認識に目が向けられてゐるのはここ数年來の趨勢だが、本年も更にこの傾向を深める観が強かつた。盛んに開催された古美術展、或いは近代日本画壇の巨匠連である雅邦、栖鳳、関雪等の回顧展が開かれ、その仕事が見直されたこと、或いは昨今墨画や墨象と称する前衛書道が外国にも迎えられ、また鉄斎の作品も本年四月から米國各地を巡回して非常な好評を拍すなど墨による作品が、大いに時代の脚光を浴びるに至つたが、国立近代美術館でもこれらの風潮に対し、石恪、梁楷はじめ東洋の秀れた墨の藝術を陳べて、「墨の藝術展」を催して、新しい時代の墨の

藝術に対する正しい理解と認識とを深めたことなどがある。

一方またこれら伝統的或いは古典への再認識の傾向に対し、新しい試みもないではなかつた。たとえば、中村岳陵、勅使河原蒼風、丹下健三ら異つたジャンルにおける作家の相互協力による新しい生活に即した造型芸術の実験はその成果はともかくとして、本年度の注目すべき新しい試みであつたといえよう。

さて恒例の主要展についてみると、秋期美術シーズンのトップをゆくのは院展と青竜展だが、院展では、今年は大観、靱彦が不出品で、新同人の馬場不二、清原齊も相ついで世を去り、毎年見馴れた常連には何か物足らなさをおぼえさせる会場であつた。場中では前田青邨が高松宮妃をモデルに「プランセス」を出品し、その若々しい画境は一般の話題をよんだ。また横山大観を描いた堅山南風の「大観先生」、中尊寺一字金輪像を描いた土牛の「浄心」、などが、今年の院展の焦点とみられたが、全般的に様式的でソツのない一応の技術と、品格のみ押並べられた会場は、潑刺たる生彩に欠け遅しい創造力に乏しい。現在日本画界を風びしている洋風化も、この会ではすでに目新しいものではなく、天心以來の指導で一応の近代化が成つてゐるだけに、次の動きへの模索が困難をきわめるわけだろう。しかし一般にはそれらを斟酌する余地もなく真に強い日本画の出現に対する希望が痛切であり、伝統あるこの会によせる期待も少くない。

受賞作では、樋笠教慶「鶉」、今野忠一「樹と鷲」等が、重厚な装飾の様式で院展らしい格調を示し、また小倉遊亀は幻想的テーマを扱つた「良夜」で、従来と異つた新しい作境をみせ、これらが42回の院展会場を彩つた。

青竜社は七二歳の童子が、富士山頂を極め、それによつて製作した「御來迎」が評判となつた。湧き立つ雲に、二頭の白馬を躍らせた力強い画面は、主宰者童子の建在を示すに充分なものであつた。しかし又一方には、擬象の白馬を扱つた点等に異論もあつた。童子の他では横山操の焼けおちた谷中五重塔を主題とする「塔」が一部で注目を引いたが、一般的には従來の青竜社調に新しい転回をのぞむ声がつよかつたようである。

新制作展は日本画畑の中でも、特に洋風の傾向顕著であることは知られ

るところだが、洋画、日本画部を別置することの無意味さを一般にも漸く批判され、その合流をのぞむ声が今年あたり特に強いように思われた。ここでは、新進層の活躍が数年来目立っているが、今年も幹部級の無理な様式化に対し、新鋭上野泰郎、渡辺学、加山又造らの仕事洋画部に対抗し注目されている。

日展日本画部は、批判多い日展の中では最もその存続価値もみとめられていて、この会の焦点をなすものである。しかしそれにもかかわらず、さきにものべたように今回は福田平八郎、中村岳陵、徳岡神泉ら大家級の不出品に加え、一般にも壁面の都合上寸法制限があつたりして、会場は甚だ振わない。しかも現在日展の主動力とも目されている中堅層の中からも、何ら新しい問題は提起されず、惰性的で、清新な創造精神は全く感じられない。この様な会場の中にあつて、近代造型意識を意欲的に日本画にもりこんだ杉山寧の「歌」は、光を微妙にあつかつた感覚的畫面が注目をひき、結果的には賛否相半ばしながら、会場随一の問題作となつた。また同様な摸索をつづける橋本明治「燦湖」も、注目を引いた。その他確実な技術に支えられた山口蓬春「芍薬」や、伊東深水、寺島紫明等の美人画、或いは動物描写に地味な努力を重ねる山口華楊の「虎児」等、日本画の美質を生かして会場を彩つた。この他西山英雄の意欲的な「岩」や、加藤栄三「月」、高山辰雄「夢」等がつづく。また特選級では浦田正夫、沢野文臣等が好評だつた。

これら恒例の主要展覧会の外、デパートや画商主催の展覧は相変わらず盛んであるが、今年も大家の健在ぶりを示す無名会や清流会に人氣が集まり、数年連続の企画である朝日新聞社主催のスケッチ展シリーズも、深水、蓬春、寧、青邨、栄三、竹喬、英雄等がとりあげられ、日本画家の製作に失われがちな生の呼吸が感じられる点、一般の認識を新たにすることがあつた。

また個展も昨年同様多く開かれたが、関西から東上し、上方的味わい深い美人画を、新鮮な感覚でみせた中村貞以の個展は出色であつた。又旧作を混えた山本丘人、或いは神奈川県立近代美術館における小倉遊亀の自薦展、深水の名品展など、それぞれの面目を示した。なお回顧展としては栖鳳、関雪、雅邦等の代表作百点前後の陳列は、改めてこれら近代の巨匠達

の足跡を偲ばせるに充分なものであつた。

以上が三二年度における日本画界の極く大略の展望だが、国際的交流の機会も多く、活潑な様相を呈している洋画壇に較べると、日本画界は、やはり新しい時代への抵抗も大きく、伝統美術を如何に生かすべきか、腐心一方ならぬものが察せられる。

なお最後に、久しく近代日本画壇の主導的地位にあつた川合玉堂、小林古径、結城素明の訃は、感慨一入なものあり、斯界に濃い哀愁を投げた。

洋画

洋画の一般的な傾向については、従来の写實的な傾向のほかに、年々抽象主義、超現実主義、表現主義等の新しい画風の密度が加つて来た。しかるに、本年は特にミシェル・ラゴン、ミシェル・タビエ等の欧米の評論家やサム・フランシス、ジョルジュ・マチウなどの画家が来て新具象派やアンフォルメル(非定形派)などの新しい画風をもたらしした。さらに、本年は益々、個展やグループ展が増加し、自由な立場にある新人たちの自主的な「四十六人展」その他が注目された。

次に、諸展覧会を会期順に記すと、まず前半期は日本美術会主催の日本アンデパンダン展にはじまる。同展はすでに十回を数えるが、本年は前年に比して政治的色彩がうすらぎ、金子真珠郎、前田常作、曹良奎などの新人の前衛的な仕事が目された。美術文化展は、一般的にその特色であつた超現実主義的傾向から抽象主義、表現主義的傾向へ移りつつあるが、福沢一郎の「人物」が一人傑出し、ほかに清川泰次、笹川由為子、幸寿などが目立つた。二月のモダン・アート展では、村井正誠の「緑と茶の人」、山口薫の「森の二重像」、朝妻治郎、勝本富士雄、小川孝子の作品のほか版画の吉田政次の「空虚なる日」が挙げられた。第九回説光アンデパンダン展には、福沢一郎が出品して光彩をそえたが、その他勝本富士雄、山口勝弘、利根山光人、油野誠一、河原温などの新人があり、中にすでにアンフォルメル風のものがあらわれた。三月の示現会展は、十周年を迎えた。美術団体選抜新人展は、洋画の一三団体から各団体が新人二人ずつを選抜したもので、さ

すがに新鮮さがうかがわれたが、中には選抜が不適当なものもあつた。中で、赤穴桂子、高井寛二、糸田芳雄、真鍋博、五味秀夫などがすぐれていた。美術団体の老舗光風会は、すでに四十三回を迎えた。官展系の牙城の一つである同展にも、わずかながら前衛的画風をとるものがあらわれたが、やはり具象派の小糸源太郎の「雪後」、森田元子の「婦人像」、田村一男「冬山」、笹岡了一の「ウイリアム物語」や、笹鹿彪、井手宣通、西山真一などの作品が主なものであつた。第一六回創元会展では、鈴木千久馬が「日向葵」「静物」に南画風な試みに成功し、中野和高の「白衣婦人像」はその画風に変わりなかつたが、ここでも新人群に前衛的なものがあつた。

四月の第三一回国画会展には、梅原竜三郎の不出品もあつて、全体に生彩を欠き、往年の特色であつた色彩派の影がうすれた感じであつた。出品作では、川口軌崖の「人体」、久保守「大吠」、須田剣太の「同時併存」、香月泰男の「滞歐作」、井上三綱の「はたをり」などがあつた。第三四回を迎えた春陽会は、中堅、新人の活躍によつて生氣を呈し、岡鹿之助の「山麓」、中谷泰の「泥雪」、加山四郎の「ひまわり」、三雲祥之助の「パリスの審判」、藤井令太郎の「アッカドの椅子」、倉田三郎の「海辺」等が目立ち、田中岑、五味秀夫などの新人も注目された。長谷川潔、駒井哲郎、古川龍生などの版画もこの展覧会に生彩をそえていた。五月には、先ず第二三回の東光会展があり、斎藤与里、佐藤一章、森田茂、山本日子士良が主なものであつた。新世紀展は第二回を迎えたが、川島理一郎のスケッチ約一〇〇点、別府貫一郎の滞欧小品があり、その他大久保作次郎、長屋勇、松本富太郎があつた。しかし、最も注目されたのは毎日新聞社主催の第四回日本国際美術展であり、フランス、イギリス、イタリア、アメリカ等一三カ国の参加があり、盛大な展覧会となつた。日本側の作品は、洋画が中心で、福沢一郎の「埋葬」、海老原喜之助の「燃える」や藤井令太郎の「アッカドの椅子」、糸園和三郎の「鳥の壁」、三雲祥之助の「パリスの審判」、川端実の「形象」、斎藤義重などの受賞作品をはじめ、林武の「裸婦」、野口弥太郎の「本を見る裸婦」、高岡惣七の「鳥」、岡鹿之助の「村莊」、井上三綱の「仕事する女達」、難波田竜起の「展開」、杉全直の「滲透する空間」などの中堅以上の作

家たちの活躍が目立つた。外国作品は、各国それぞれ独自の個性を示したが、イギリスのニコルソン、サザラランド、フランスのビュッフェ、スーラージュ、ドイツのウインター、イタリアのサエツティ、スイスのハンス・エルニ、ユーゴスラビヤのスピッサ、メキシコのタマヨなどが注目された。

六月の第一回東京国際版画ビエンナーレ展も注目される展覧会であつた。版画国を以て任ずるわが国で、国立近代美術館と読売新聞社の共催のもとに国際的な版画展を開催するようになり、諸外国が喜んでこれに参加したことは、今日の版画の隆盛をものがたるものであつた。わが国からは九八人、一六一点が出品されたが、国内賞として浜口陽三が国立近代美術館賞、新人もり・まなぶが文部大臣賞、泉茂、吉田政次が新人奨励賞を獲得した。外国作家ではフランスのジョルジュ・アダムが国際大賞、ユーゴスラビヤのリコ・デペンヤークが外務大臣賞、フランスのアントニ・クラーベがブリヂストン美術館賞、ジョニー・フリードレンダーが神奈川県立近代美術館賞、イスラエルのヤコブ・ピンスとアメリカのレオナード・パスキンが大原美術館賞を受けた。

後半期の展覧会では七月末から八月にわたる第一回新樹会が先ず挙げられる。会員一二人に招待作家一七人を加えた一種のグループ展であるが、それぞれ個性的な作品を発表した。朝井閑右衛門、井手宣通、島村三七雄のほか新人三岸黄太が挙げられた。八月は、第三回国際JAN現代フランス・クリチック賞絵画展と新エコール・ド・パリ展が主なものであつた。前者はフランスに於ける一九五六年度の受賞者及び受賞候補者の作品四四点で、日本側からはJAN(青年美術家集団)の作品四〇余点に参加して、受賞者エス・アッシュ・ラザ(インド)の「村」のほか、アリストイ・ド・カイヨウ、ジャン・マリ・ゴバンなど、いずれも生氣に充ちた作品であつた。JANの作品では、藤井令太郎、斎藤正夫、田中岑、五味秀夫、土橋醇や招待作家の田中阿喜良などが話題にのぼつた。新エコール・ド・パリ展は、批評家ミシェル・ラゴンの支持する前衛作家たちの展覧会で、フォートリエ、アトラン、アルツング、マネシエなど二二人の水彩画、

版画を主として展覧し、これに在仏中の佐藤敬、菅井波も加わつていた。

秋のシーズンの最初は第三回一陽会展で、鈴木信太郎の「東山風景」、野間仁根の「温潮」、荻野康児の「旅愁」ほか長谷川三千春の「流水の歌」や新人沢田正太郎、野間佳子があつた。第四二回二科会展は、都美術館の増改築によつて一〇〇号以内、二点までという制限をしたため、この会の特色であつた大作が無く、若々しい奔放さが失われた。主なものには、東郷青児の「牧歌」、北川民次の「教会の前の信者達」、山口長男の「黄色い角」、鷹山宇一の「静物」、井上覚造の「汚された空気」、藤川栄子の「木の構成」、吉仲太造の「反映」などがあつた。第一二回行動美術展も、会場の関係から一人三点までと制限し、従来倉庫に使われていた暗い室で行われたが、新人たちの自由な活躍が目立つた。津高一の「痕跡」、村田箕史雄の「作品A12」、田中阿喜良の「層」、田辺三重松の「夏の大雪山」、古家新の「ボタ山と橋」、田中忠雄の「ユダの足を洗う」などのほか、新人江見絹子、北尾敏、藤形一男などが主なものであつた。親密な人たちで結成されている立軌会は第九回展を迎えたが、会員の飯島一次の「イタリヤの回想」、榎戸庄衛の「うみのさち」、有岡一郎の「楽隊と子供」、須田寿の「魚壳」などは具象の中にそれぞれ個性を發揮し、新会員のエツレットや辻茂、若狭曉男などが前衛的な画風を示した。

秋の第二陣としての第一九回一水会展は、主要会員の力作が目立ち、石井柏亭の「江の島」、田崎広助「夏の阿蘇山」、小山敬三の「原爆受難の浦上聖堂」、木下義謙の「小松風景」、中村琢二の「少女」、高田誠の「川べりの学校」、仲田好江の「椅子」、深沢紅子の「静物」、上田哲農の「水だまりに拾つた小曲」などがあつた。ただ、遺憾なのは、ここでは新人が払底していることで、わずかに広瀬功が注目された。第二二回新制作展は、抽象的画風の作品が漸増して来たことは前年と同様で、この傾向は年々比重を加えている。脇田和の「緑園」、三岸節子「とりと琴をひくはにわ」、斎藤正夫の「トリア・グラス」のほか川端実の「作品」、赤穴宏の「白い壁」、田中田鶴子の「時間」、油野誠一の「赤い空」などの抽象的作品が注目された。

一〇月に入つて、都美術館の増改築によつて新しくその第三階が成り、独

立展、第二紀展などからはじめて使用された。独立美術協会は、創立会員が今日いずれも健在で、しかも各々独自の画風を完成しつつあるので、現洋画壇の柱軸をなす観がある。第二五回展では、野口弥太郎の「アトサスプリ」、児島善三郎の「熱海夜景」、中山巍の「静物」、高島達四郎の「唐松と雲」、林武の「熱海風景」、小林和作の「山湖」、高間惣七の「凧」などの力作があり、創立会員鈴木保徳は復調のきざしを見せた。その他、中堅の斎藤長三、中間冊夫、高橋忠弥、青柳暢夫が進境を示した。なお山田栄二が表現派風の滞歐作一五点を発表して注目された。第二紀会展は、昨年からの新人室を設けて新人たちを激励している。そして、この会でも新しい表現形式が抬頭している。主なものには、鍋井克之の「赤い灯台」、栗原信の「山門」、宮本三郎の「薪を運ぶ人」、田村孝之助の「部屋」、佐野繁次郎の「無題」、佐伯米子の「ラントレ」などの主要会員や西本功、森本健二の作品、中西勝の版画などがあつた。同じ時開かれた自由美術展は、全作品を傾向別に抽象心理派、抽象表現派、社会生活派、实在派の四つに分けて陳列した。中で森芳雄の「山」、難波田竜起の「天体の形象」、井上長三郎の「めがね」、麻生三郎の「二人像」、浜口陽三の「葡萄の房」や糸園和三郎、末松正樹、鶴岡政男、寺田政明、小山田二郎などがあり、小野忠弘、前田常作、大島甲子夫などの新人が注目された。

一月の第三回日展は、日本藝術院と日展運営会の共催による最後の展覧会となつた。しかも、審査中、その方法について一水会の裕伊之助、高野三三男、木下義謙の三審査員が不満を表明して審査員を辞任し、惹いて一水会の委員たちも不出品に終つた。従つて、その主な作品は光風会が主となつたが、中で辻永の「橋立春雪」、寺内万次郎の「髪」、中村研一の「縞の着物」、小寺健吉の「雪山」、森田元子の「楽器」、その他井手宣通、田村一男、鬼頭鍋三郎や創立会の中野和高の「少女」が挙げられ、新人では松木重雄、中村一郎などがあつた。

「今日の新人、五七年展」は、朝日新聞社が本年からはじめたもので、美術評論家と美術記者が選出にあたり、洋画では新人賞を斎藤義重、小野忠弘、佳作賞を前田常作、斎藤正夫が受け、版画の佳作賞に吉田政次がえら

ばれた。日本文化フォーラム主催、読売新聞社後援の「アジア青年美術家展」も、本年が初めて、国際文化自由会議の「青年の藝術を通じてアジア諸国間の文化交流をはかろう」という趣旨を具体化したもので、インド、パキスタン、セイロン、フィリピン、マラヤ、ビルマ、インドネシア、タイ、香港、中国とわが国の一カ国の三五歳以下の作家が参加し、四七〇余点が出陳された。日本とインドに見るべき作品が多く、前田常作がグラン・プリを得た。なお同じ頃、国立近代美術館において第一回の「安井賞候補新人展」が行われて田中岑が受賞、また第三回彫刻、洋画四人展では、勝本富士雄、金子真珠郎が目立つた。また、朝日新聞社主催の「世界の中の日本抽象美術展」は、日本アブストラクト・アート・クラブを中心にしたもので、イサム野口、岡田謙三、故長谷川三郎などの在米画家や山口薫、山口長男、版画の故恩地孝四郎などがあつた。

次に、個展やグループ展は本年も益々盛んであつた。その主なものに、二月の井上長三郎、照子作品展、泉茂リトグラフ展、三月のフランス、イタリヤ風景三八点を並べた梅原竜三郎瀟散作品展、版画の内間安理個展、井上三綱個展、棟方志功板画展、四月の古家新個展、阿部展也個展、小野忠弘、小山田二郎等のグロッタ展、五月の杉本健吉個展、石川寅治、田辺三重松個展、北岡文雄滯仏版画展、田中阿喜良個展、六月の石川滋彦個展、香月泰男個展、須田寿個展、大貫松三個展、高間惣七新作展、井手宣通個展、浜口陽三、南桂子二人展、国立近代美術館に於ける江見絹子、藤松博、小野忠弘などの前衛美術一五人展、七月の在仏の土橋醇個展、村山密個展、井上覚造、中村琢二個展、榎倉省吾、牛島憲之個展、八月の利根山光人個展、小山田二郎、チカエ展、斎藤愛子個展、水船六洲版画展、小野忠重個展、九月の津高和一個展、中谷泰、佐藤忠良・朝倉撰の三人展、一〇月の小糸源太郎写生展、在仏の今井俊満個展、国松登個展、金子真珠郎個展、山口薫、脇田和等油絵作家三十六人のサロン・ド・カステル展、福沢一郎個展、曾宮一念個展、寺田春式個展、十一月の脇田和個展、杉全直個展、佐伯米子個展、鈴木信太郎個展、藤本東一良個展、一二月の麻生三郎個展、神谷信子個展、坂本繁二郎、鳥海青児デッサン展などがあつた。

回顧及び遺作展覧会としては、神奈川県立近代美術館の北川民次、須田国太郎展、安井會太郎水彩、デッサン展、国立近代美術館の平福百穂、小林徳三郎、三岸好太郎、武井直也の「四人の作家展」、ブリヂストン美術館の小出楯重遺作展、坂田一男遺作展、林俊衛遺作展や万鉄五郎遺作展(東京画廊)、牧野虎雄遺作展(銀座、松屋)、浅井忠回顧展(求龍堂画廊)などがあつた。また歴史的観点から見たフェウザン会回顧展(中央公論画廊)、明治、大正、昭和名作展(白木屋)、近代日本の名作展(国立近代美術館)、旧松方コレクション名作展(白木屋)なども有意義な催しであつた。

なお、国際展に参加して外国作家は前記の通りであるが、その個展としてアメリカのモリス・グレイブス自選展(ブリヂストン美術館)、マチウ個展(白木屋)、サム・フランシス個展(東横)、マネ・カッツ個展(ブリヂストン美術館)、ピカソ版画展(神奈川県立近代美術館)などがあつた。また、ピカソを主題にした美術映画「天才の秘密」が紹介され、多大の感動を与えた。

最後に、本年の文化功労年金受領者に中沢弘光が選ばれた。

彫 塑

例年、彫塑界の動向を知る上の焦点となる主要団体展に併陳される彫塑作品も、本年六月よりその会場である東京都美術館の増改築工事による陳列空間の不足を予想し、殊に彫塑部を有する主な団体展が工事中の秋季にかたまるという都合の悪さにより、いずれの団体展も出品作の法量に予め制限を加えたため、出品作家の製作意欲はおのずから減退萎縮し、作品も全般に停滞の気味があつた。これに対して街のデパートや画廊に於ける個展やグループ展の開催は前年にも増し盛んとなり、彫塑のみあるいは絵画と併陳の展覧など、彫塑関係の展覧会は五〇近くも数える程であつた。ベテラン作家による充実した個展や新進気鋭の作家達によるグループ展など従来にない活況ふりを呈した。だが今年には總体的にみて特に傑出した作品はあまり見当らず不作の年ということにならう。

まず本年間を通じて特筆すべきは、近年東京藝大彫塑科を出た若い作家

達の集まりである標欄会が第一回発表展(三月・銀座松坂屋)を開いたことである。この会のメンバー(大岡丈夫、加藤昭男、兒島幸雄、志水晴児、新妻実、福家靖夫、細川宗英、保田春彦等、前年度の当標欄で「新アカデミズム」とも称した人々が含まれる)は夫々モダンアート展や行動美術展、新制作展、院展等に出品して囁目されている受賞或は会友級の新人達で、各作家数点ずつ個性的な自由さを示す清新な作品を発表し、戦後の新界では稀らしい自主的なグループ展として注視を浴び、今後の発展と一層の奮発を期待された。このようにここ一兩年來若い世代の進展ぶりが顕著なものとなつてきた。ベテラン作家では、植木茂作品展(六月・白木屋)が相変わらず木材を簡潔な抽象的形態に活かして、量質ともに一段の進境を示して注目され、山本豊市作品展(七月・ブリヂストン美術館ホール)も二年ぶりの第二回個展で、出陳一〇数点のほとんどが乾漆で、この素材の定評ある作家の面目を十分に示し、充実した展開をみせた。また山内壮夫彫刻と素描展(六月・兜屋画廊)もこの作家が建築との共同の立場において仕事をし、素材に軽金屬(アルミニウム)を用いるなど、彫塑適用の新しい可能性を示す最近の活動を一覽して注目された。新進作家では、鉄板熔接による表現主義的抽象の作品で地歩を築きつつある須賀通泰彫刻展(一月・サトウ画廊)や近來ユニークな作家としてクローズアップされている毛利武士郎個展(六月・新進作家展第一週・サトウ画廊)が、この寡作な作家の数年來の前衛的作品を回顧的に展観して認識を新たにしたのなど主なるものであつた。更に、生花界のユニークな存在である敎使河原蒼風が、「丹下健三構成による岳陵と蒼風」展(四月・上野松坂屋)や和田三造・蒼風展(一月・高島屋)に於て彫塑的表現を試みた独特な作品を発表して多数の観客の眼をうばつたのも彫塑界周辺の問題として大きな話題となつた。

次に恒例の美術団体展を中心に注目された作家や作品を会期の順に列挙していくと、まずモダンアート展では新妻実の抽象形態の石彫の一連や熊倉順吉、藤本能道他数名による前衛的な陶彫の一群が印象深く、広井力のモビール「破空」も注目された。読売アンテナペンダン展では相変わらず彫塑の出品は僅かではあつたが、山口勝弘の「風の方向」や毛利武士郎の「針鉄と鉛板によるエスキース(習作)」は各々新素材による構成的な作品で前進をみせ、第五回日本彫塑展は約三週間に亘る長期の開催にも拘らず、内容は低調で、特に取り上げる程の作品は見出せず、行動美術春季展では、建島覚造、向井良吉は従來の仕事の延長であつたが、中島快彦「作品」や今村輝久「変貌せるもの」が目立つた程度。春季の展覧会の掉尾を飾つたのはやはり第四回日本国際美術展における彫塑で、イタリヤから出品されたファッツィーニ「躍動」やグレコ「坐つた人物」とともに、会場正面に吊り下げられた山本豊市の「とぶ」は乾漆という軽量な素材を利しての意表をついた展示法で話題となり、本郷新の力作「堰」、木内克「女」、佐藤忠良「足なげる女」など夫々持味を活かした充実した作調をみせ、この二月歐洲より帰朝した柳原義達の「黒人裸婦」は新たな造型の追究が窺われて注目された。今春三月二十九日逝去したばかりの後藤良が主宰し、能彫育成に尽瘁した能彫会が一〇周年記念展(六月・三越)を開いた。記念すべき展覧会を前に斃れた故人の遺作数点を陳べて、木彫界殊に能彫の推進に生涯を捧げた故人の業績を偲んで印象深いものがあつた。彫塑のみの戦後唯一の公募団体である第六回創型会彫塑展は、相変わらずの内容であつたが、主力会員の森大造の木彫「靈山三蔵」の佳作やここ数年快調を続ける中野四郎の「淵」などの収穫があつた。新樹会展の彫塑も絵画に伍して遜色のない展観ぶりで、木内克、清水多嘉示、山本豊市、土方久功等のベテラン達を中心に、仁田原英二、大滝直平、渡辺利雄、古島実等、会員縁りの個性ある新進達も招待された。木内の「座像」、「女」、清水の「伸びゆく」、土方の「裸A」「トルソ」「一人」、山本の小品や新人大滝の作品などがとりあげられた。

秋を迎えて彫塑部を有する主要団体展が一斉に開かれた。各会の作品傾向は前年と左程変りはないが、若い世代の作品、殊に抽象、幻想傾向のものには、最近の外国著名作家の模倣が強く、眞の独自性の展開までには未だしの感が深かつた。一陽会展では、春の国際展に招待されたファッツィーニの作品を早くも撰取したような山崎猛の「屈折B」他一連の作品が話題となり、金田忠「人と鳥」が木彫として個性のあるフォルムを打出して注目された。二科展では、彫塑部の中枢、笠置季男のセメント作「躍進」が、こ

の作家近年の秀逸作として挙げられ、堀内正和「作品」、平川正道「カメラ」、曾山節雄「作品」などが主なるものであつた。新人のモダンアートから移つた須賀通泰の「金鶏」や須賀野チイ「或る一つの世界」もとりあげられた。院展では、久しぶりで出陳の平柳田中の「西山逍遙」や石井鶴三の「雷」など長老達の力作や新海竹蔵「K翁の首」、辻晋堂「へんな服をきた人物」が好評であり、受賞の新人では仁田原英二「女」や福家靖夫「橘」が注意された。絵面部をも凌ぐ活力を示す行動美術展では、この会の先輩級のうちで中島快彦の「作品」が特に推賞せられ、向井良吉「エチュード」、篠井欽治「人」、野崎一良「コンクリート」、橋本惣介「ストロンチウム90を喰つた人」など夫々個人的な問題作として注目せられ、建昌覚造の「殻」や新人広昌昌子のコンクリート作「作品」にはレディメードの土管や側溝を構成量体の中に転化するといふ大胆な実験的作品で話題となつた。新制作展では前年来のイタリヤ彫塑追隨の目立つた亜流が大分反省せられ、新会員五十嵐芳三の「坐像」他三点の頑張りが、佳作揃いで群を抜き、エジプト中王国の木製舟に想を得たような豊福知徳「流民」の特異なフォルムの木彫作、技法と様式に新たな追究の窺える菅原安男の「風」他二点、山内丈夫「家族(新潟市庁舎建築彫刻)」、佐藤忠良「俳優」、本郷新「かがむ」、柳原義達「女」等が挙げられた。また菊池一雄の広島市の平和公園内にたてられる「原爆の子記念像」の試作模型像が話題となり、新人の松阪節三の木彫「女」も佳作であつた。二紀会展は、全体として様式的にも技術的にも中途半端な感じが深く、長野隆業の「擬透明体作品」が意想の面白さでとりあげられたに過ぎない。自由美術家展では、小野忠弘の「アソコミセテス」が特に注目され、木内岬「休む女」、井上武吉「昆虫」、藤田昭子「女身」、峯孝「かがむ」などが主なるものであり、川瀬孝二、清水瀨、西谷富士雄等新人の作も注意された。冒頭で記した如く、法量の制限が最も影響したのは日展の第三科で、例えば全身像は半身以内というように、大分小型化となり、従来大作を常とする出品者達は相当苦慮し、とまどつたところが窺えた。まずこの展覧会には久方ぶりで出陳をみた長老平柳田中の「坤山老公」が、戦災焼失の前作を数年の歳月を費して復刻された苦心の作として話題となり、朝倉文夫の「H氏の像」、沢田政広

の「くにたち」、池田勇八の「馴路の馬」、松田尚之の「女性」、山本稚彦の「青年の裸像」、朝倉響子の「女の首」、木村珪二の「待機」など、特選のうちから溝口寛「たつ」や三坂耽一郎「渺」が佳作として諸批評にとりあげられたし、特に新顔の伊室重孝がブロンズ作「女」の好作を発表したことを附言しておこう。

尚、国立近代美術館で開催の彫塑関係の展観を辿ると、本年九月から一月までサンパウロで開かれるサンパウロ・ビエンナーレ国際美術展に出品される「出品作の国内展示」(二月)が開かれ、彫塑では向井良吉、木村賢太郎、辻晋堂、堀内正和の四名が選ばれて出品(二点ずつ)した。「前衛美術の五人」(五月)では、木村賢太郎、阿井正典、森堯茂、須賀通泰、細川宗英等五名の新進達の作品が展観され、戦後の斯界に於て各々具象から抽象にいたる多様な領域をきりひらいた作家達の意欲的な作品群が開陳された。これと同じ会場で「アメリカ現代美術の特別陳列」も行われ、ここでも現在ニューヨーク在住の純抽象のセイモア・リプトン、形象のある抽象表現主義のマルティネリやライス・カバイン、ダヴィット・ヘヤ等四名の作品が紹介された。「一七人の作家展(一〇月)では、院展のベテラン新海竹蔵、二科会の中堅淀井敏夫、走泥社(陶彫)の中心作家熊倉順吉が選抜された。物語作家の中から選んだ「四人の作家展(七月―八月)では、武井直也(明治二六年―昭和一五年)の遺作一〇数点が回顧され、再評価の機会に恵まれた。

最後に遺作及び回顧展覧会としては、我国近代彫塑界の鬼才として謳われる萩原碌山(守衛)彫刻展(七月・三越)が開かれた。彼の故郷、長野県穂高町では地元の人達を中心になつて「碌山美術館」を設立しようと努力しているが、この展観はそれを機会に彼の主な仕事を世に知らせようとしたもので、現存の全遺作一五点を総てブロンズ化して展観し、同時に陳列の油彩作品一九点も明治末以来の久しぶりの公開で意義多いものであつた。高村光太郎遺作展(四月・三越)は昨秋鎌倉近代美術館で開催されたのと殆んど同じ内容であつたが、都心のデパートで多くの人々の感銘を与え、やはり昭和二九年東京で大規模な展観のあつた朝倉文夫制作五〇年回顧展

(四月・大分市トキハ)が作家の故郷のデパートで開かれ、郷土の生んだ大家の偉業が回顧されたことを記しておこう。

工 藝

手工藝の世界は、近年活発な動きを示しているデザイン界や華やかな画壇に比べて、その性質上からも、動きが少く、目立たない領域である。しかしここ数年の推移をみて来ると、漫然と技術の精緻を尽すことのみに腐心している大勢の中にあつて、一部には、いろいろな刺戟をうけて、少しずつでも現代の生活に適合する方向へ歩もうとしている動きがあるのを認めることが出来る。そして一方、伝統の技術の保存継承を旨とする立場に立つ人や、陶藝の一部に見られるようにただ陶土を素材として表現だけを主旨とする立場に立つ人等、それぞれの位置がはつきりしてきている。本年も際立つた動きは少く、数多い展覧会の作品も大体以上四つの範圍を出ないが、注目されたものを挙げてみると、淡島雅吉新作吹きガラス展(四月)、創作工藝展(五月)の吉田丈夫、染川鉄之助等の作品、佐々文夫クリスタル・ガラス展(六月)、日ソ国交回復記念としてモスクワ、キエフ等で開かれる予定の、ソ連へ行く日本美術工藝展(六月)、第四回日本伝統工藝展(一〇月)、河合卯之助作陶展(十一月)、日展(一〇月)の増村益城「乾漆盛器」、対象展(一月)の蓮田脩吾郎「方壺」等の諸作品が挙げられる。回顧展としては、河井寛次郎陶業四〇年記念作品展(四月)、鍔金家協会創立五〇周年記念鍔金名作展(四月)、根来実三金作五〇年古稀記念展(九月)等があり、年も迫つてから三三年にかけて鎌倉の神奈川県立近代美術館で「近代工藝の百年展」が開かれた。また、日展の工藝部門が作品の上ではなく政治的な動きにまつたことで左右されていると、衆議院の文教委員会で社会党の高津正道代議士によつて指摘され、日展や藝術院批評のきつかけとなつた。デザインの方面は、一時ブームと呼ばれて注目を浴び時流に乗つた感があつたが、本年頃から次第に落着きをとりもどしてきている。今年もつとも関心をもたれたのは、先年から懸案であつたイタリヤ、ミラノで開かれた第一一回トリエンナーレ展に日本がはじめて参加したことである。国内展示

会は三月東京で開かれたが、陶磁製品を主題として構成され、日本個々の伝統の中の近代美を紹介しようとする、化学器具等から茶器に至るまで種々のものが出品された。トリエンナーレ展では個人出品の河井寛次郎がグラ・プリを、渡辺力、鈴木表朔、川上治助が金賞を、柳宗理がインダストリアル・デザイン・金賞を得た。海外へはこの他、ニューヨークの第一回米国世界見本市へも出品した。二月から三月にかけて国立近代美術館で開かれた二〇世紀デザイン展はニューヨークの近代美術館の蒐集提供によつて、一九世紀後半からの欧米一三カ国の代表的な家具や日用器具類三〇〇点を展示し、現代のデザイン運動に至る歴史的な発展の過程と現況を伝えた。この種の展覧会の少い日本では注目すべき展示であつた。また各百貨店が歐洲各地の百貨店と工藝品等の交換即売展を行うことが流行し、昨年の高島屋のイタリヤ展をはじめとして本年は企画が多数に上つた。本年中に開催されたのは松坂屋のスウェーデン展(九月)で、スウェーデンの民藝的なものと近代的な工藝生産品を知ることが出来た。これ等の企画は外國の工藝品を見る機会を多くするものとして今後が期待されている。恒例の日新聞社の第五回新日本工業デザイン賞はナショナル電気冷蔵庫(石井賢蔵、長島純文、山名守、寛礼子、宿輪哲也)が特選一席となり、一九五六年度毎日産業デザイン賞の工業デザイン部門は真野善一を中心とする松下電器インダストリアル・デザイン・グループに与えられた。この他、特許庁が設けた意匠審議会は、本年から、既に生産製作されたもので商品として優れた機能と形態の美しさをもつた独創性の強いものにグッド・デザインのマーク(Gマーク)を与えることとし、同審議会のグッド・デザイン部門分科会によつて、第一回はキャン・カメラL1と8T、第二回に陶磁器八種、ガラス器一〇種が選定された。

新しい団体としては、一月に日本金工製作協会が、一〇月には日本の各デザイン界を代表するグループにより国際的交流の推進と国内の向上発展を目的とする日本国際デザイン協会が設立された。

建築

本年度は、都庁舎をはじめ、官公庁舎その他公共的な建築に秀れた作品が多かつたのが注目される。

ことに、地方都市の公共的な建築に、第一線の建築家たちが力を入れるという傾向は、現代建築への、庶民の関心を広く呼び起すだけでなく、各地の建築発展に大きな影響を及ぼすものとして今後が期待されている。

次に、住宅公団による団地計画を初めとして、中、高級アパートの着実な発展によつて、都市生活の新しい基礎がようやく根を下したかの感を与えたのも、商業建築の活況とともに本年度の収穫と考えてよいだろう。

作品として色々な意味で最も問題になつたのは、一月に落成式を行つた東京都庁舎(丹下健三)で、商業建築では、そごう・読売会館(村野藤吾)であつた。都庁はすでに建築中から「ガラス建築の不安感」その他様々なテーマで現代建築に対する批判、論争の発火点となりジャーナリズムを賑わした。しかし、鉄とガラスとコンクリートによる明快、直截なデザイン、力強い構成をもつ、丹下のすぐれた手腕を示した作品で、戦後の代表的建築として数えられるものである。また、グロピウスによつて近代建築のマイルストーンになるであろうと評された倉吉市庁舎(岸田日出刀・丹下健三)も今年の注目に値する作品である。コンクリート構造の力強さを、日本独自の造型感覚の中に融合させようとした努力の作品で、とくに、周囲の瓦屋根の木造家屋との調和を意図したデザインが注目を集めている。また、秋田雄勝町役場にみる白井晟一の誠実な仕事も特筆されよう。その他神奈川県庁舎(林昌三)、岡山県庁舎(前川国男設計事務所)、神戸市庁舎(日建設計部)などの大規模な設計、山梨県公民館(内藤多仲・明石信道)、杉並公会堂(日建設計部)などがあり、それぞれ地方文化の中に現代建築が浸透してきているのが目立つ。

商業建築では、暮から年頭へかけて完成された東急文化会館が、縦ルーパーを生かしたデザインで東横デパートと対峙し、渋谷駅を中心とした大建築群のセンターとして、すつきりした設計をみせている。しかし、最も問題となり、話題にのぼつたのは、「そごう」(読売会館)であつた。村野のす

ぐれた、デコラティブな構成は、ここでも見事な外壁をつくり、立地条件の不備を克服し、デパートとしての効果を新しいテクスチャーに生かした独創的な表現は高く評価されている。ところが、内部構成の不手際、内部デザインの商業主義への安易な妥協、或は、駅を控えた狭隘な地域の雑踏に対する考慮のなさ、等が指摘され、機能より外部表現に比重がかかりすぎる弱点もあげられている。

オフィスやクラブ建築では、鉄筋コンクリートの力強い表現を示しながら親近感を抱かせる、柔軟な設計の中央公論ビル(芦原義信)、日本ガス工業会社松浜クラブ(芦原義信)がよく、三木ビル(大江宏)、日本相互銀行亀戸支店も堅実な作品であつた。其他NHK富士見丘クラブハウス(前川国男設計事務所)、湯ヶ原クラブハウス(岸田日出刀)、クラブ関東(清水組)などがある。病院では、秋田県立中央病院(池辺陽)、共立蒲原病院診療所(吉村順三)、北大病院。また小医院ながら変化に富んだブロック使用の石塚診療所(清家清)があげられよう。学校では静岡雙葉学園(堀口捨巳)、成城学園図書館(増沢洵)、神奈川大学(RIA)、工場に、名古屋紡績工場(入江雄太郎)などがあるが、特筆する作品はなかつた。なお神戸国際会館、及び機能主義を追求した霞ヶ関電話局(電々公社)も見逃せない作品であつた。

個人住宅では、堀口捨巳の岩波邸が建築、造園とも先ず筆頭にあげられよう。坂倉準三の藤山邸、吉田五十八のS邸、あるいは木造住宅の、生田勉の栗の木のある家、林昌三の兄の家など、ゆきとどいた設計で佳作も少なくなかつた。なかでも吉阪隆正のVILLA COUCOUは、部厚い柱、開口部の少ない閉鎖的なコンクリート住宅で、プリミティブな近年の傾向を強く表出した作品として印象的であつた。

最後に、年々大規模な、本格的なアパート建設によつて、今迄にみられなかつた新しい都市生活が生れつつあることをあげねばならない。ことに、広大な地域に群をなして建てられた鉄筋コンクリートのアパートは、様々な問題を含みながらも、新しいケースとして、非常な期待がかけられている。日本住宅公団の光ヶ丘団地アパートはその代表的な作例で、なお次々と団地の開発は進行しつつある。然し、団地計画の社会的重要性にく

山謙三郎と決定した。

らべ、建築それ自体の批判に乏しく、又計画が、団地内の植樹、造園など緑化にまで及ばず、赤土とコンクリート建築の粗野な環境のまま放置している態度は、都市計画的考慮の欠除とともに一考が望まれている。公団以外には、プリヂストンの殿ヶ谷アパート(菊竹清訓)、大宮富士製鉄アパート(前川国男設計事務所)、シオノギ寮(坂倉準三)などがあり、その他にも、中、高級アパートへ建設が拡がりはじめているのは、この一、二年來の特徴である。なお、美術関係の建築では、東京都美術館が第一期の増改築を行い、一、五五〇坪の三階を増築、全館壁面の改装、人工照明の設備に着手、年内に大半を完成(都建築局)した。また千葉県木更津にささやかな金鈴塚遺物保存館(吉田秀雄他設計)が建てられたことを附記する。

本年の建築界の彙報的事項をまとめると、一九五六年度建築学会賞のうち、作品の項は、谷口吉郎の秩父セメント第二工場、ミノル・ヤマザキの神戸米國領事館、薬師寺厚の東京空港郵便局に、論文は、藤岡通夫の「京都御所」に授与された。又、第七回藝術選奨は吉阪隆正がヴェニスのヴェンナーレ展の日本館で受賞し、堀口捨巳は藝術院賞をうけた。海外の授賞では、サンパウロ、第四回ヴェンナーレの競技設計で、早大大学院の学生グループが「工場労働者の住宅群」計画案で入賞した。早大は連続三年受賞し、日本建築学生の水準を世界に示すがやかしい成果をあげた。なお、このヴェンナーレ展建築部門の審査員として丹下健三が招かれて渡伯、また、ベルギー、ブラッセルで開催の万国博に於ける日本館建設のため、前川建築事務所、横山構造事務所の人々がベルギーに赴いた。

建築展では、日本建築学会の斡旋で、現代ドイツ建築写真展(三月)が開かれ、ドイツ建築の一端を伝えて興味があつた。新制作協会の建築部は今年の展覧にも低調で、創設当初の積極的な活動は次第に影をひそめてしまつてゐる。各種展示計画への建築家の参加も近年の特徴であるが、本年は丹下健三による「岳陵と蒼風展」、清家清の「第三回モーターショウ」「二〇世紀デザイン展」「今日の美術展」「山口勝弘ヴァトリーム展」などのディスプレイが好評であつた。

なお、一月末で任期を終えた建築学会長、副会長の後任は佐藤武夫、竹

古美術

建築

昭和三年における古建築の保存と修理については別項記載の建造物の国宝指定七件、重要文化財指定一二件があり、各地で実施中の指定建造物の修理工事がある。そのうち瑞巖寺の御成門、中門、回廊の修理が終り、西本願寺書院と姫路城大天守の修理のための解体がほぼ終り、解体中の醍醐寺五重塔と唐招提寺宝蔵の組立て工事が大体終つたことなどが主要な事業である。

建築遺跡の発掘調査は戦後に盛んに行われるようになった傾向にあり、この年もひき続いて全国各地で行われた。四月から一月にわたる四天王寺の第三次発掘、ほぼ同じ時期に行われた難波宮跡の発掘の継続、五月六月の觀世音寺の発掘、七月の飛鳥寺第三次発掘、八月の毛越寺と陸奥国分寺の第三次発掘、出雲国分寺第二次発掘、大和川床遺跡発掘、一月から翌年にわたる川原寺第一次発掘、一二月の出雲大社拝殿敷地発掘と徳島県童子寺発掘などが知られている。そのうち四天王寺講堂跡からは創建時のものらしい軒の隅の部分が埋没した痕跡が発見され、それが扇垂木を有していたことが確かめられたこと、飛鳥寺では北回廊が講堂前面で閉じること、塔の地下心礎の部分に飛鳥時代創建時の埋納物が見出されたこと、川原寺では回廊内に東塔と西金堂を配する伽藍配置が確認されたこと、毛越寺では講堂が木造の基壇外装を有していたこと、その嘉祥寺の西廊が南に折れて前方に長くのびることから、東と西に長い回廊のあつたことが知られたのが目立っている。

研究成果の公表されたものとしては奈良国立文化財研究所の「奈良時代僧房の研究」、岩手県教育委員会の「胆沢城跡」、太田博太郎の「中世の建築」川勝政太郎の「日本石材工藝史」などが注目され、古建築修理の報告書としては高台寺開山堂のものその他がある。

彫塑

本年度の彫刻史関係の展覧としては、まず、京都博物館で行われた平安時代の美術展があり、この際、従来研究者さえも見ることの少なかつた宝菩提院半跏像や、羽賀寺の十一面觀音像などが出陳され、注目された。さらに、東寺名宝展では、未公開の同寺の三神像中の二女神像が紹介され、学界に大きな話題を投げた。その他、藤田美術館で行われた高野山展などがある。

研究論文では、まず挙げるべきものは、毛利久「興福寺曼荼羅と同寺安置仏像」(国華七七・七八〇)で、文献的研究から、同寺諸堂安置仏像の歴史を究明した力作である。また、西川新次「東寺講堂の諸仏」は、同寺講堂の諸尊の修理に際し、判明した構造及び、歴史の見解を披瀝したものと見て注目される。また、平安時代の代表的遺品として、種々の問題を含む、平等院鳳凰堂阿彌陀如来像の修理完成に伴い、これに関する論文も多い。代表的なものとしては、毛利久「木寄法の完成と鳳凰堂阿彌陀如来像」(仏教藝術三一)、同「鳳凰堂本尊光背の化仏」(同)、倉田文作「木造天蓋一具(所在鳳凰堂)」(同)等の論文がある。その他、田村吉永「長谷寺千仏多宝仏塔の造立年代」(史迹と美術二七二)、佐和隆研「醍醐寺五大明王彫像について」(美術史二五)、小林剛「道明寺の十一面觀音像」(大和文華二二)、久野健「大仏以後(平安初期彫刻の一考察)」(美術史二六)、岡直己「三十三間堂の二十八部衆と風神雷神の像について」(大和文華二四)等も本年度発表論文に注目されたものである。

地方彫刻史関係としては、司東真雄「成島毘沙門堂内菩薩像の銘文が示唆するもの」(岩手史学研究二六)は新発見の藤原時代の遺像銘の紹介として重要であろう。その他、篠崎四郎「正応在銘の善光寺三尊」(史迹と美術二七四)、久野健「出雲万福寺の仏像」(国華七八四)、猪川和子「觀世音寺馬頭觀音像造頭考」(美術研究一九〇)などがある。

さらに神像彫刻研究の分野では、岡直己「神像彫刻の一考察」(仏教藝術三三)や、小林剛「奈良地方の神像」(同)があり、石造美術関係では、川勝

政太郎「日本石仏の性格」(仏教藝術三〇)や、佐和隆研「日本の磨崖石仏」(同)、亀田孜「東北の石仏」(同)久野健「関東の石仏」(同)等が発表された。大陸関係では、京都大学人文科学研究所報告、水野清一、長広敏雄の「雲岡石窟全一六卷三二冊が完成した。又、現地を訪れた写真家名取洋之助の麦積山石窟写真展が開かれ、これを図版とした「麦積山石窟」(岩波書店)が刊行された。研究論文としては、榎本杜人「新羅の阿弥陀像について」(ミュージアム七七)、熊谷宣夫「西域出土のテラコッタ共命鳥像」(美術研究一九四)がある。

絵画

本年(昭和三年一月―二月)も古美術品の展覧会は、博物館、美術館、デパートと、会場の別はあつても、相かわらず各種の趣向をこらして盛大に行われた。絵画に関して主なもの挙げると、春には春信浮世絵名作展(一月、東京三越)、近世美術名品展(一月、東京東横)、肉筆浮世絵名作展(一月、東京伊勢丹)と近世絵画を皮きりに、池大雅展(三月、東京三越)が大雅歿後一八〇年を記念して開催され、未公開であつた「陸奥奇勝」図巻をはじめ多くの優品、資料が出品された。この大雅展は東京につづいて大阪でも行われ、世に大雅を再認識せしめる端緒となつた。また柳里恭展(四月、奈良博物館)がこれと前後して開催され、前の大雅展とともに文人画―南画―に対する関心を高めた。恒例の東京国立博物館春季特別展として本年は近世初期風俗画展が四月に開催、大画面の屏風から小画面の卷子・冊子に及ぶ各種の作品が陳列され、初期風俗画の粹が集められた。一方、国立近代美術館に於ては、墨の藝術展(四月―五月)が催され、中国と日本の水墨画が各時代にわたつて出陳されたが、必ずしも出陳作家の代表作でなかつたのは遺憾といえよう。つづいて御物「浜松図屏風」、「聚光院の永徳筆花鳥図襖絵」などを集めた「桃山障壁画名作展」(五月、東京高島屋)があり、また歌麿と北斎展(六月、国立近代美術館)、広重名作展(七月、東京三越)と浮世絵の代表的作家の展覧が相いついで開かれた。秋に入ると、墨蹟水墨画国宝展(九月、東京白木屋)、が宋元及び鎌倉室町の有名品を一

堂に集めて開催され、一方光悦・宗達・光琳国宝展(九月、東京三越)が光琳生誕三〇〇年を記念して催され、光悦・宗達・光琳を結ぶ裝飾派の系列を实物に則して観ることができた。一〇月になると、各地で大規模な展覧会が開催されたが、京都国立博物館開館六十周年記念平安時代の美術特別展は九世紀―十二世紀にわたる平安時代の美術の名品を殆んど網羅したもので、近年にない大展覧会と称すべきである。一方、東京国立博物館秋季特別展は中世の美術展として鎌倉・室町期の美術品が集められ、絵画関係としてはこの期に多くの遺品をみる絵巻物が多数陳列され、大阪市立美術館の日本絵巻物展とともに、絵巻の研究・鑑賞上必見の催しであつた。また奈良国立博物館恒例の正倉院展は年中行事関係品、武器武具類、馬具が主として出陳され、比較的地味ではあつたが、文化的には観るべき展覧といえよう。東京国立文化財研究所記念白描やまと絵展は会期わずかに一日ではあつたが、やまと絵白描絵巻の代表作を一室に集めた感があり、特に未発表であつた「藤波絵草紙」、「転寝草紙」をはじめ、「枕草紙絵巻」(豊明絵草紙)、「北野本地絵巻」断簡数本など、公開される機会の少ない作品が陳列され、ささやかながら観ごたえのある、また学術的にも極めて有意義な催しであつた。一月に入ると東寺名宝展(東京松屋)があり、これは今秋(九月)行われた東寺秘宝調査の結果新に見出されたものと従来国宝重文に指定されていたものとを併せ陳列したもので、絵画関係としては新発見にして初公開の両界曼荼羅図甲本が大いに注目を惹いた。また蕪村名作展(東京三越)があり、画人としての蕪村がクローズアップされた。本年開催の展覧会を通観すると、平安時代から江戸時代まで、我が国絵画の優品が各時代にわたつて公開されたことになり、古美術界、特に絵画の分野にあつては良き年であつた。また本年の展覧会の傾向として、作家を中心にしたものが多いことが注意される。

研究発表を概観すると、森貞次郎「福岡県鞍手郡若宮町竹原古墳の壁画」(美術研究一九四)をはじめとして、仏画関係では最近再出現の興福寺曼荼羅を論じた毛利久「興福寺曼荼羅と同寺安置仏像上・下」(国華七七八、七八〇)は興福寺の彫刻と関連する所大で、絵画史、更に建築史の面にわたつ

て、注目すべき新資料の提示であつた。また浜田隆「智光曼荼羅について——元興寺極楽坊板絵本を中心として」(美術史二五)、同「南都阿弥陀寺藏々観経十六観相図について」(大和文化研究一八)があり、第十回美術史学会総会で発表された高田修「醍醐寺五重塔壁面の図像」は従来不詳であつた同塔心柱覆板・四天主・連子窓羽目板に描かれた両界曼荼羅の各尊位を比定したもので、図像学研究上極めて意義深いものであつた。このほか神道美術を扱つたものとして景山春樹「神道曼荼羅の性格」、近藤喜博「熊野権現影向図説」(共に仏教藝術三三)があげられる。肖像画関係では田中一松「小野道風の画像について」(美術研究一九〇)があるほかは、いずれも図版解説乃至啓蒙的な解説であつた。絵巻物関係としては概説的なものとして、奥平英雄「絵巻における諸問題」(ミュージアム七五)、神谷和男「絵巻物史の諸問題」(金城学院大学論集八)、むしやこうじ・みのる「物語と物語絵一、二」(文学二五ノ六、七)などあり、各論として服部清道「清浄光寺所蔵の一遍上人絵詞伝について」(日本歴史一〇五)、檜崎宗重「転寝草子上・下」(国華七八六、七)、同「槻峯寺建立修行縁起」(国華七八三)、秋山光和「源氏物語の構成と技法」(三彩八三)、倉田敬子「源氏物語の俯瞰法について」(美学二八)、梅津次郎「正嘉本天神縁起絵巻に就いて——その出現並びに弘安本との関係——」(国華七七九)、白畑よし「藤田本紫式部日記絵巻について」(大和文華二二)などがある。また従来余り顧られなかつた料紙関係として白畑よし「本願寺本三十六人集の装飾の成立ちに就いて——特に下絵を中心として——」(美術研究一九三)が注目される。室町水墨画では、田中一松「得殿賛李白観瀑図について——室町時代観瀑図の系譜——」(国華七八六)が、副題通り室町時代の観瀑図を集成して論じたもので資料的にも意味があり、また昨年からひきつづいて行われた雪舟研究としては、熊谷宣夫「戊子入明と雪舟上・下」(美術史三三、二五)、蓮実重康「伝雪舟筆四季花鳥図屏風の謎——雪舟研究の一節——」(大和文華二二)などがあげられる。近世初期風俗画関係は大規模な展覧があつたため、多くの発表が見られたがいずれも解説が主であつた。これに反して宗達・光琳関係では比較的論説が多く、水尾博「扇面構図論——宗達画構図研究への序

論——」(国華七八五)、山根有三「伝宗達の養源院杉戸絵・襖絵について」(大和文華二三)、田能村忠雄「光琳の師山本素軒の画跡上・下」(国華七八七、八)谷信二「光琳の背景」(萌春四一)、相見香雨「渡辺始興と乾山」(大和文華二三)などがある。このほか個人作家を扱つたものとしては、矢田三千男「岩佐又兵衛(彩雲一)があり、又兵衛関係の資料を殆んど網羅し、今後の又兵衛研究に資する所大であらう。また、近藤喜博「高山寺に於ける冷泉為恭」(国華七八一)、大崎定一「為恭筆模本などについて——百点にのぼる金刀比羅宝蔵品から——」(文化財協会報二)など、為恭資料の紹介も行われている。文人画——南画——関係では、本行われた展覧に関連して柳里恭、大雅、蕪村が多く、そのうち比較的纏つたものとしては、松村政雄「柳里恭の伝記の検討」(ミュージアム七三)、鈴木進「大雅論」(萌春四二)、飯島勇「蕪村の絵画」(ミュージアム七二)などがあげられる。このほか、竹内尚次「丹羽嘉言画について」(ミュージアム七九)が資料を提示しており、鈴木進「浦上玉堂論考——鼓琴余事帖を中心に——」(国華七八四)が注目される。浮世絵関係としては、近藤市太郎「西川祐信試論」(ミュージアム七〇)のほか、柳亮「北斎の構図とその近代性」(三) (みつゑ六二二・六二三・六二五)は、北斎を新しい角度から再検討したものとして注目される。

単行図書としては、奥平英雄「絵巻」(美術出版社)があり、これは絵巻の歴史、内容、様式、筆者、構成について概観した部分と現存絵巻について解題をつけた作品目録の部分よりなり、特に後者は遺品を網羅的に収録した、いわば「絵巻辞典」ともいふべきものである。また、藤田経世・秋山光和「信貴山縁起絵巻」(東大出版会)は、田中一松を会長とする文化史懇談会の研究会によつて、いろいろの角度からこの絵巻を検討した結果を纏めたもので、現在までの信貴山縁起に関する研究を集成したものと見える。本年三月より発刊の「池大雅画譜」(小杉放庵、田中一松・山中蘭径編集・中央公論美術出版)は一回十五点前後の作品を収録した図録であるが、大雅全作品の集大成を企図とするもので今後の発展継続が期待される。平凡社の「日本の名画」シリーズは、本年中に「華嚴縁起」(梅津次郎)、「永徳」(中村溪男)、「初期風俗画」(近藤市太郎)、「光琳」(千沢楨治)、「大雅」(吉沢忠)、「広重」(岡

畏三郎)の六冊を刊行し、啓蒙普及の役割を果たしたが、蘊蓄の質実な発露と認められるもののある反面、粗雑杜撰の譏を免れないものも見られるのは遺憾である。

墨の藝術展の如き特別な主題による展覧や、墨蹟水墨画国宝展、アジア・アフリカの美術展などにも中国画が出陳されたが、特に注目すべきものは酒田市本間美術館の中国名画展(四月一六日〜二八日)である。東京・大阪など各地公私の蒐蔵から三一点を集め、宋・元・明・清各代の傾向と中国絵画史の流れを概観し得た点、企画者と主催者の努力を多ししなければならぬ。規模の大小を論ぜず中央地方を通じて、かかる中国画展覧会は戦後例を見ないところであろう。田中一松・米沢嘉圃・島田修二郎・鈴木敬らの解説により、「国華」が本年も中国画一一点を紹介し、この方面に著実な成果を示している。西域関係の論文では熊谷宣夫「クチャ将来の彩画舍利容器」(美術研究一九一)があつて、多年の西域美術研究の学識を駆使し、この種遺品中最優作の包蔵する多角的な問題の解明に努めており、また同号には秋山光和「ペリオ将来スバシ出土木製舍利容器三種」がある。概説書としては鈴木敬・松原三郎「東洋美術史要説下」(吉川弘文館)が出版され、図録には松下隆章・鈴木敬・梁楷・牧谿・玉潤(聚楽社)が刊行された。美術研究所監修「梁楷」は図版・概論のほか、款印、模本・文献など資料的な面の充実を見るべきであろう。平凡社の「中国の名画」シリーズは、「漢代の絵画」(水野清一)、「高句麗の壁画」(小野勝年)、「西城」(熊谷宣夫)、「トシコウ」(長広敏雄)、「唐宋の人物画」(小林太市郎)、「暉南田」(鈴木敬)、「揚州八怪」(北野正男)の七冊を上梓した。とかく親み難く広く知られていない中国絵画の魅力を一一般に開示した功はあらそわれないが、なかには一家のみに傾きすぎたもののあることは惜まれる。

書 蹟

本年度書蹟関係では、これということもない平凡な年であつた。強いていうならば、七月高島屋において良寛生誕二百年展及び京都国立博物館に於いてその七〇周年記念特別展が開催された際、その陳列の一部に平安時

昭和三二年美術界概観(古美術)

代の名筆が並んだことぐらゐのところである。発表された論文に關しては、伊東卓治の醍醐寺五重塔天井板の落書(美術史二四号)と静嘉堂本是則集(美術研究一九三三号)とが注目される。前者では、これまで遺品がなくて研究にこまつていた天曆期(一〇世紀中葉)の片仮名資料等が紹介され、書道史並に国語学に寄与するところが多かつた。後者は、東京都玉川の静嘉堂文庫蔵は則集一帖の製作年代は大体一二世紀前葉中頃であり、筆者は世尊寺家の一員である済円であると紹介したものである。古筆に執筆者の名前の付けられるものの極めてすくない現状としては、済円の名前がでたことは珍らしい一例である。尚、河出書房刊定本書道全集がこの年完成した。

工 藝

工藝関係では一〇月行われた東寺の総合調査によつて平安時代の工藝品が多数発見されたのが注目される。その中には弘法大師将来といわれる五鈷鈴、五鈷杵、金剛蓋をはじめ、日本作と思われる鉄鉢などがあり、遺品の少ない平安初期の工藝に貴重な資料を加えることになつた。また平安後期のマゲモノで尾長鳥やぼたんなどの彩色模様を描いたものが完全な形で発見されたが、これまた工藝史上の大きな収穫であつた。

展覧会としては京都博物館の「平安時代の美術展」東京博物館の「中世美術展」で絵画、彫刻とともに工藝の優品も一堂に並べられそれぞれ対照し研究する好機が与えられた。

出版物では「柿右エ門」(柿右エ門調査会)が柿右エ門窯について総合的に取上げ、且つ今日までの研究の集大成をなして注目されたし、また世界陶磁全集(日本古代篇)も前年につづいて出版された。

昭和三十二年美術界年史

一 月

○朝日賞 昭和三十二年第二七回「朝日賞」の授賞が決定し、三日発表された。

美術関係では、梅原竜三郎の第三〇回 国画会出品作「富士山図」が文化賞の中で選ばれた。尚授賞式は一日日朝日新聞東京本社で行われ、本賞(賞牌)と副賞五〇万円が贈呈され、終つて記念講演会が開催された。

○毎日美術賞 昭和三十二年第八回「毎日美術賞」の授賞が決定し、三日左の通り発表された。尚授賞式は一六日同社で行われ、受賞者に賞状と賞金各一〇万円が贈られた。

岡 鹿之助 第二回現代日本美術展

出品作「雪の発電所」

(油絵)

小倉 遊亀 第四一回日本美術院展

出品作「少女」(日本画)

○熱海美術館開館 熱海市伊豆山に箱根美術館と同じく財団法人東明美術保存会に所属する熱海美術館が二日開館した。箱根美術館の姉妹館として絵画を主として陳列する。開館記念展として浮世絵を展覧して一般に公開した。

○「新日本工業デザイン」入賞決定 毎日新聞社提唱による三一年度第五回「新

日本工業デザイン」の入賞が決定し、一〇日次の通り発表された。

特選一席ナショナル電気冷蔵庫、石井賢康他四名。特選二席リコー35ミリカメラ、柴田猷一他三名。准特選三席スタンダード5石トランジスタ携帯ラジオ、小野沢潤。三菱噴流式洗濯機、野口瑠璃他三名。(以上各賞金特選一席通産大臣賞並に副賞五〇万円、特選二席同三〇万円、准特選三席同各一〇万円)

○東京都文化会館の建設 東京都では開都五〇〇年記念事業として文化会館を建設することになりその準備がすすめられていたが、この程同会館建設委員会により具体的計画がまとまつた。計画によると、建設地は上野公園竹之台で、三二年度から三カ年以内に完成され、総延坪六五〇〇坪総工費一三億程度が見込まれている。

○御蔵・三宅両島の都文化財 東京都文化財専門委員会議は、一七日第三回総会に於て前年行つた御蔵・三宅両島の総合調査で発見された両島文化財の指定と解除を審議した。紙本著色神馬図額、板絵著色英一蝶作大森彦七図額、木造楽面二個等が新指定品である。

○美術映画「平安美術」完成 東京国立博物館製作の美術映画「平安美術」が二一

日完成した。博物館が美術映画の製作をはじめ七本目に当り、これで上代から江戸までを通覧するフィルムの日本美術史ができたわけである。

○藝術院補充会員決定 日本藝術院では藝術院会員の欠員九名の補充をするため昨年暮会員補充選考委員会を設け一三名の候補者をえらんで会員の投票を求めていたが、二二日その結果が開票された。新会員は第一部五名、第二部一名第三部二名、合計八名が選ばれ、第一部(美術)新会員は左の通りである。

日本画—徳岡 神泉

洋 画—金山 平三、長谷川 昇

工 藝—山鹿 清華、山崎寛太郎

○唐津周辺の発掘 京大水野清一を中心とする東亜考古学会唐津調査団は、中旬から二月にかけて唐津市東宇木部落附近の原始墓群調査を行い、大陸先進文化移入径路の研究に貴重な資料多数をえた。

○意匠奨励審議会発足 戦後商品意匠の重要性が社会的に大きく取りあげられてきたが、行政上これらを調査審議すべき機関が明確でなく、製品等において実際面で非常に煩雑であつた。そこで行政上に於ける意匠に関する各般の事項を調整する場が要求されるに至つたが、これに於いて民間有識者を含めた意匠奨励審議会が特許庁附属機関として設置され、二八日発足するに至つた。尚同審議会では優良意匠の奨励助成、及び意匠侵害防止に関する問題の

ほか、グッドデザインの選定、公表を行い、本年度中にも数回に亘り、ミシン、カメラ等数種の製品をグッドデザインとして選定発表した。

○加賀百万石国宝展 前田育徳会及び毎日新聞社の主催により、二九日から二月一日まで日本橋三越において、前田家伝世の美術品の展覧が行われた。国宝重文等二〇〇点のうち、特に古筆書跡がすぐれ、又古代裂が反物で出品される等、観る者を感嘆せしめた。

二 月

○日独文化協定調印 日本と西独との間の文化交流の増進をはかるための日独文化協定は、このほど両国間の意見一致をみたので、一日日外務省で日本側から岸首相、ドイツ連邦共和国側からハルシュタイン外務次官が出席して、正式に署名調印が行われた。同協定は日本がフランス、ブラジル、イタリヤ、メキシコ、タイ、インドについて締結した七番目のもので本文一三条からなり、日独両国間の刊行物の交換、美術、音楽、演劇、映画等の交流、学者、留学生の交換など両国間の文化学術関係の強化促進を成文化したものである。なお、同協定の批准書はボンで交換され、一カ月後に発効し、一応五年間有効とされている。

○鎌倉大仏調査 文化財保護委員会事務局では、一九日から三日間、鎌倉大仏に大規模な足場を組んで、鋳造方法、鋳

型の種類、青銅の質等の調査を行つた。

○ハワイで日本古美術展 第一回日本絵画展に引続き、一九日から三月二十四日までホノルル・アカデミイ博物館で第二回日本古美術展が開催された。今回は工藝と彫刻から、前史時代より一九世紀に至る二〇九点が出品された。

○当麻寺解体修理 奈良県当麻寺の本堂(曼荼羅堂)は荒れ果てていたが、三五年五月完成の予定で解体修理を行うこととなりこの程着工した。桁行七間、梁間六間、単層、寄棟造の大きな堂で前面二間が礼堂になつてゐる。

○武蔵野美術学校に短期大学を併設 武蔵野美術学校では、最近急激に需要のふえてきた工業デザイナーを養成するため、武蔵野美術短期大学を開設した。二カ年の過程で、従来の同校に併設する。

○恩賜賞・日本藝術院賞 昭和三十一年度(第三回)恩賜賞並びに日本藝術院賞が決定し、二七日発表された。美術部門は左の通りである。なお授賞式は五月二二日学士院講堂に於て、天皇陛下臨席のもとに挙行された。

日本藝術院賞
第一部(美術部門)

杉山 寧 第一二回日展出品作

「孔雀」に対し。

洋画

昭和三十一年美術界年史

鈴木千久馬 第一二回日展出品作

「てつせん」に対し。

裝飾美術

東郷 青児 壁画「創生の歌」に対し。

彫塑

雨宮 治郎 第一二回日展出品作

「健人」に対し。

工藝

宮之原 謙 第一二回日展出品作

陶製花瓶「空」に対し。

建築

堀口 捨巳 現在迄の業績に対し。

書

鈴木 翠軒 第一二回日展出品作

「禅林夢美人」に対し。

三月

○イラク・イラン遺跡調査団第二期発掘開始 東京大学イラク・イラン遺跡調査団の遺跡発掘は、一、二月の雨期を西アジアの一般調査で過したが、三月よりテル・サラサートで第二期発掘が再開され順調に仕事が進められてゐる。

○池大雅展 大雅没後一八〇年を記念し中央公論社では五日から一七日まで、日本橋三越に於て一五点の作品を陳列公開した。この中には従来未発表の作品も多数含まれた。なお同社では同時に約三〇巻の池大雅画譜の記念出版

を企画し刊行中である。

○石田茂作奈良国立博物館長就任 東京国立博物館学藝部長石田茂作は、九日付で奈良国立博物館長に就任した。昭和一六年「飛鳥時代寺院址の研究」で文学博士となり、上代美術史及考古学研究に著述論文が多い。

○鳳凰堂落慶供養 平等院鳳凰堂の修理が完成して一九日落慶供養を行つた。昭和二八年五月以来修理の専門委員会のもとに、前後二三次にわたる慎重な審議が行われ、二二項目に及ぶ現状変更を経て、鳳凰堂は全く面目を新にした古様にかえつた。

○ステパノフソ連文化省対外文化局長来日 ソ連文化交流のための具体的諸問題をきめるため、ソ連のステパノフ対外文化局長が二六日來日した。同局長は二九日外務省を訪問し、日本側からカブキ、文楽のほか日本工芸美術品と図書展の開催を、また工芸品は展覧会后モスクワ博物館で買入れたい旨を希望し、ソ連側からはバレエ団、ピアノニストのギルレス、バイオリニストのオイストラフ二世など代表的な藝術家を派遣したい等具体案を示し、外務省の援助を求めた。なお同局長は日本に三週間滞在し、各方面の関係者と具體的交渉をすすめた。

○第四次重要無形文化財指定 文化財保護委員会では第四次重要無形文化財に久留米絃を総合指定し、また記録保存

三〇件も併せ指定し、二七日発表した。

○国宝・重要文化財新指定 文化財保護委員会では二九日美術品国宝二件、重文六四件、三〇日建造物国宝三件、重文二二件の指定を発表した。重文は一件の他国立博物館保管のものであつた。これまでの合計、国宝七一三件、重文六三三一件。

○藝術選奨決定 昭和三十一年度(第七回)藝術選奨文部大臣賞の受賞が決定し、二七日文部省から九名、一団体が発表された。これはその年間における最もすぐれた業績と新分野を開いたものに受与されるもので、美術部門は左の通り。

福沢 一郎

第一線の画家として独自の幻想的画風をもつて、多年にわたりわが美術界の発展に大きな役割を果したばかりでなく、ことに最近メキシコ、南米を巡り帰朝後、その総決算として開いた大規模な作品展はまれにみる迫力にとんだものとして画壇に新風を送つた功績に対して。

吉阪 隆正

ベニス・ビエンナーレ展覧会日本館の建築に当り、幾多の障害を克服してよく短期間のうちにすぐれた作品を完成し、日本建築技術の粋を世界に紹介した功績に対して。

なお一三日文部大臣室で授賞式が行われ、灘尾文相から各賞状と賞金が授

与された。
 ○富岡八幡の壁画第一号完成 江東区深川の富岡八幡宮では、昨秋新社殿が完成したが、これを飾る壁画九枚を石井柏亭、伊東深水、松林桂月、堅山南風、野田九浦、服部有恒、福田浩湖、川崎小虎等に依頼した。その第一号である石井柏亭作の「このいけ」が完成し、二六日運びこまれた。同作は鹿島宮の神池の風致を、四尺×六尺の桐板に油絵で日本画風にまとめたものである。

四 月

○第一回トリエンナーレで受賞 三年毎にイタリヤのミラノで開かれる国際的なデザインコンクールで、日本デザイン研究所の荒木繁が七部門のうち織物図案で最高賞(賞金二五万リラ)を受領した。

○米國に開催の日本水彩画展 ニューヨークのナショナル・アカデミー・ギャラリーでは四日から二一日まで米國務省と日本近代美術館の後援で日本水彩画展が開催された。同展は米國水彩画協会の第九〇回年次展覧会の行事の一つとして開かれたもので、石井柏亭、猪熊弦一郎他五〇数点の作品が出品された。

○米國で鉄斎展開催 ニューヨーク、メトロポリタン美術館では、四日から五週間富岡鉄斎展を開催し、兵庫県宝塚清荒神清澄寺の所蔵品より選んだ作品

五三点を出陳した。会場には同寺坂本法主が連日作品説明にあたり、ボストン・ワシントン等米國各地を巡回した。

○ユネスコの発掘国際原則 「考古学上の発掘に際しては外国の学者も国内の学者も同じ立場で発掘できるように国際的な原則を立てよう」というユネスコからの勧告が近く加盟国に出されるというので、日本考古学協会では六日第一九回総会において、日本の態度をきめる為の討論を行ったが意見が対立して結論は出なかつた。

○四天王寺発掘調査終了 三〇年夏以来継続して行われた大阪四天王寺の発掘は、一〇日から五月一七日までの第三回発掘を以て一応終ることにいつた。創建以来七回も建てかえられている為創建当時の模様を明かにすることは困難とされたが、地表から土層を区切る焦土や灰の線を追つて、各時代の構造を発掘、礎石、柱などから創建当時の規模を推定するに至り、建築史に資する大きな成果をあげた。

○文藝春秋漫画賞 第三回文藝春秋漫画賞(賞金一〇万円)は、選考の結果加藤芳郎の最近の漫画作品に決定した。

○第四回ビエンナーレ国際美術展審査委員日本代表決定 ブラジル、サンパウロ国際美術展の審査委員である日本代表は、日本美術家連盟、美術評論家連盟、外務省の間で選考中であつたが、第二紀会々員栗原信、春陽会々員水谷清(現在メキシコ滞在中)の兩名に決定

した。

○十一会結成 創元会の木下幹一、小野彦三郎他七名は、先月末グループ十一会を結成し、創元会に在籍のまゝ、自由な制作活動を行うことを意図したが、都合で小野彦三郎、山野正、木下幹一ら七名は創元会を脱会して十一会を再結成した。

○中国へ考古学視察團 中国科学院の招きにより原田淑人を団長とする九人の考古学視察團が一六日中国に向け出発した。学問的に重要な地点一七箇所、全行程一万キロに亘る視察を行い、博物館、文物管理委員会の参観、発掘の現場視察、中国の考古学者、歴史学者と學術交流をはかるなど、多くの成果をあげて、六月四日帰国した。

○日本・イラン文化協定調印 日本・イラン文化協定は一六日日本側岸首相兼外相とナカイ駐日イラン大使との間に調印された。これは戦後我が国が結んだ文化協定としては九番目のもので、前文と本文六条からなり、文化交流のあらゆる面での協力を約束している。有効期間は五年間でテヘランでの批准書交換後一月で発効する。なおこの協定によりイランでの日本映画祭、日本でのイラン古美術展の開催などが計画された。

○第一美術協会に創藝協会等合流 第一美術協会では創藝協会の神津港人ら全会員と、また美教師範科出身者よりなるベラ会をも合併し、新たに第一美術協会として再発足した。

○近世初期風俗画展 東京国立博物館では二〇日から五月一九日まで近世初期から江戸中期にわたる風俗画の代表作七六点を集めて春の特別展を開催した。風俗画を通じて浮世絵版画や肉筆浮世絵の源流をさぐるうとしたものである。

○柳里恭展 歿後二〇〇年を記念して、奈良国立博物館では二〇日から五月二〇日まで柳里恭展を開催した。柳里恭を中心に、諸大家の代表作約八〇点を集めて初期南画の形成過程を示そうとする試みで、偽作、模作の多い柳里恭研究に一つの規準を示そうとしたものである。

○イラク・イラン遺跡調査団第二期発掘終了 東大イラク・イラン遺跡調査団のテルサラサートに於ける第二期発掘は、三月はじめから開始されたが多くの発掘品を得て二五日終了した。

○梅原竜三郎藝術院会員を辞任 洋画家梅原竜三郎は「自由な立場で自由な仕事をしたい」との理由で、高橋藝術院長のもとに会員辞任を正式に申し入れた。梅原は昭和二三年第四回日展が藝術院主催で開催された際、「官展には反対なのに、その日展の審査を藝術院がやるのでは止めざるを得ない」と辞表を出して居り、このときは藝術院側の慰留で「審査に出ない」ことで会員として止まり現在に至つた。今回も藝術院への不満が取沙汰されたりして居り、藝術院側は極力その慰留に努

めたが意をひるがえすことは出来ず、
同月三〇日付で、辞任が発令された。

五月

○産経児童出版文化賞決る こともの日
を記念して産経時事新聞社が制定した
児童出版文化賞は、その第四回授賞が
決定し五日発表された。美術関係では
今泉篤男著「西洋の美術」がある。

○日本藝術院会員選考委員決る 日本藝
術院会員の欠員は、現在美術三（日本
画二書一）、文学一、藝能一計五名で
あるが、この補充を年度内に決めるた
め会員選考委員を二三日の総会で選出
した。美術関係左の通り

西山翠嶂、山口蓬春、辻永、石井柏亭、
北村西望、斎藤素巖、岩田藤七、山崎
覚太郎、豊道春海、吉田五十八。

○桃山障壁画名作展 日本経済新聞社で
は二八日から六月九日まで、日本橋高
島屋で、国宝永徳筆梅・小禽図（聚光
院）、同等伯筆松・草花図（智積院）、同
宗達筆風神雷神図（建仁寺）、御物友松
筆浜松図、同永徳筆花鳥図その他の桃
山障壁画の名作と、この時代の意匠を
こらした工藝品を集めて展覧した。

○上野東京藝術大学々長渡欧 上野東京
藝術大学々長は、六月九日から二六日
までベルギーのブリュッセルで開かれ
る国際学士院連合第三一回総会に出席
するほか、欧州各国の美術音楽教育の
教育課程を視察するため三一日渡欧し

た。

○横山大観台東区名譽区民になる 台東
区では区内居住の文化功勞者を顕彰す
る意味で、名譽区民制度を設けること
になったが、二〇日横山大観が初の名
譽区民として撰定された。

六月

○名古屋城再建工事開始 名古屋城の復
興再建工事は、一三日、戦災で焼失し
て以来一三年ぶりに着工された。三四
年一〇月に完成の予定で、外観は殆ど
昔の姿そのままとし、内部にはエレベ
ーター、換気、照明、消火など最新式
設備を施すという。

○東京国際版画展 エンナーレ展開催及び
受賞 国立近代美術館と読売新聞社の
共同主催による第一回東京国際版画展
エンナーレ展は、外務省、文部省後援
の下に、一五日から七月一四日まで有
楽町読売会館並びに国立近代美術館で
開催された。参加国海外二九カ国から
五〇〇点、日本作家二〇〇点計七〇〇
点が第一会場読売会館に、第二会場の
近代美術館では歌麿、北斎の作品がそ
れぞれ陳列された。なお二九日読売ホ
ールで授賞式が行われ、次の通りそれ
ぞれ賞状及賞金が贈られた。

国際大賞（副賞三〇万円） ジョルジ
ユ・アダム（フランス）
外務大臣賞 リコ・デベンヤーク（ユー
ゴスラビア）
文部大臣賞 もり・まなぶ（日本）

国立近代美術館賞（副賞三〇万円） 浜
口陽三（日本）

ブリヂストン美術館賞（副賞一〇万円）
アントニ・クラウヴェ（フランス）
神奈川県立近代美術館賞（副賞一〇万
円） ジョニー・フリードレンダー（フ
ランス）

大原美術館賞（副賞一〇万円） ヤコ
ブ・ピンス（イスラエル）、レオナー
ド・バスキン（アメリカ）
新人奨励賞（副賞総額二〇万円） ジェ
フリ・クラーク（イギリス）オットー・
エグラウ（ドイツ）、泉茂（日本）、吉田
政次（日本）

○東京都美術館の増・改築 東京都美術
館は建設以来三二年を経て居り、戦後
美術団体の増加につれて、その利用者
もふえ、このままでは要求に応じきれ
なくなってきた。そのため都では予算
二五〇〇万円を計上し、美術団体の
寄附五〇〇万円と合せ、増改築工
事をする事になった。工事は一六日
に着工し、来年三月一日までに完成す
る予定だが、はじめの計画では周囲の
空地に新築するつもりのところ、都市
公園法にふれるためやむなく現在の二
階建を三階に直す。展示場は現在より
一五〇〇坪ふやし、新しい設備として
従来の自然光だけの採光をすべて人工
光線に切りかえる。また運搬用エレ
ベーターを設けるなど新趣向をこら
す。

○インカ遺跡の発掘を許可 ベルギー政府
は、同国を訪れた東京大学文化人類学

教室泉増一教授に対し、同国リマコカ
ンカイ谷の発掘研究を許可した。なお
ベルギー政府は許可を与えるにあたり発
掘研究の結果をベルギー考古学部に報告
するより求めた。

七月

○東南アジア稲作民族文化総合調査団結
成式 日本民族学協会主催、読売新聞
社後援による東南アジア稲作民族文化
総合調査は、九月一日からタイ、カン
ボジャを中心に開始されたが、その調
査団結成式が六日東京会館で行われ
た。調査団は松本信広慶大教授を団長
に、カンボジャ班（班長松本団長兼務）
とタイ班（班長阿部利夫東京外語大教
授）の二手に分かれ調査がすすめられ
た。

○谷中天王寺五重塔焼失 東京谷中の天
王寺五重塔は六日未明放火により黒こ
げの骨組だけを残して全焼した。寛政
三年（一七九〇）の再建になり、総ケヤ
キの素木造で、幸田露伴の「五重塔」の
モデルであった。

○デモクラート美術協会解消 デモク
ラート美術協会は、戦後の美術界で前
衛的活動をつづけてきたが、このほど
会員たちの申合せにより解散した。

○衆議院文教委員会美術行政を追求
九日行われた衆議院文教委員会で、社
会党代議士高津正道委員は、政府の美
術行政を追求した。藝術院の在り方、
日展運営上の問題等が質問の中心であ

つたが、これに対し宇野文部省藝術課長が答弁にあつた。なお同様質問がその後一〇、一二日の委員会でも引つづき続行され、一二日には高橋藝術院長が出席して質疑応答が行われた。この事態は報道関係にも大きく扱われ、斯界にセンセーショナルな話題をなげ世間一般にも大いに注目をひくところとなつたが、その後日展改革問題が高津発言に端を発して種々対策が協議された。その結果、来年より日展、藝術院を分離し、また運営会の改善等が協議された。その結果、山崎寛太郎、松田権六、山鹿清華の三理事は事態の責任をとつて院長に辞表を提出したが、結局岩田藤七理事の辞任があつて三名の辞表は撤回されることになつた。なほ九月二八日の日展運営会臨時総会で、藝術院との分離は正式に決定された。

○シエル・デザイン賞設定 さきにシエル美術賞を設けたシエル石油会社では、今回デザイン賞を設定した。グラフィックデザインを公募して、授賞は一等一点一〇万円、二等一点五万円、三等四点各一万五〇〇〇円とし、九月授賞の発表が行われた。結果は次の通り、

- 一等「働らく人」田保橋淳、準二等「石油甲斐重夫」、「海のファンタジー」伊坂芳太良、三等「石油」岩本朝彦、「石油」福田繁雄、「立体交差」高田宗治

○伊豆諸島の文化財調査 北伊豆諸島文化財総合調査団は前年度の御蔵、三宅両島調査に引続き、一三日から二九日まで利島、大島、新島、式根島、神津島の五島の文化財調査を行い、住居址の発掘、土器の発見のほか、一木造の平安時代仏像二五体を発見した。

○ギメー博物館寄贈品展 日仏文化交流の一環としてさきにパリのギメー博物館から寄贈された美術品二二点が二日から一四日まで東京国立博物館で展示された。ハッダの仏頭など八点、トムシユクの泥造一〇点、クムトラの塑像一点、敦煌の麻布二菩薩像一点、薄絹菩薩像二点で、いずれも四、五世紀から七、八世紀の学術的に非常に貴重な作品である。

八月

○陸奥国分寺跡発掘 昭和三〇年からの継続事業として一日から二九日まで行われ、今年七重塔の廻廊あとが発見された。奈良東大寺の様式を忠実に模して全国六九国分寺のうち最大と目されていたものであるが、これによつて、みちのくの信仰と栄華をあつめていたことが明らかにされた。

○醍醐寺五重塔壁画模写 醍醐寺五重塔壁画の模写が、三二、三三年の継続事業で一三日から開始された。今年度は真言八祖と羽目板の天部の一部を一月までに完成し、続いて来年度は心柱の覆板を行う予定。担当画家は鳳凰堂を担当した諸氏である。

○毛越寺跡第三次発掘調査 二七日から九月一七日まで、毛越寺の第三次発掘が行われ一先ず終了した。結果は1講堂の基壇が木造であつたこと、2嘉祥寺の西廊跡は単廊と複廊とからなり、下に堀水が流されていたこと、3大泉池東北部の常行堂前落に舟入場とみられる入江が発見され、平安時代の庭園史に極めて重要な資料であることが明らかにされた。

○日本はり絵協会設立 一線美術協会委員上野山清貞、岩井弥一郎らを中心にはり絵の研究、展覧会などを行う日本はり絵協会が設立された。女流画家協会から脱退 女流画家協会々員森田元子、東山沙智子の兩人

は、一身上の都合により女流画家協会を脱退した。ソ連で開催予定の日本工芸美術展に出す約五〇〇点の作品を審査するため、ソ連からプーシキン記念国立造形美術博物館々長Z・A・イバノビッチと東方文化博物館の極東文化課長G・O・ニコライエブナ女史が二七日来日した。

○欧州展出品目決定 明年欧州各地で開催の日本古美術展に出品される宝物の審議会が二七日国立博物館で開催され、絵画六五件、彫刻二七件の総数九二件、一四三点を決定した。ABC賞 アド・アート・ディレクターズ・クラブでは同クラブ編「年鑑広告美術」に収載した作品中からABC賞を次のように決めた。

- 金賞—大橋正、銀賞—伊藤憲治、今泉武二、亀倉雄策、河野鷹思、竹岡良一、中井幸一、銅賞—石元泰博、北園克衛、花森安治、早川良雄、山城隆一
- 他
- 造形藝術研究所設立 写真ライブラリーによる日本美術の出版などを行う造形藝術研究所が設立され、従来美術出版社より出されていた美術雑誌「三彩」が、総合美術雑誌として同所より発行されることになつた。

九月

○高村光太郎賞設定 高村光太郎記念会

では、一〇日新しく高村光太郎賞を設定することを発表した。これは毎年彫刻と詩の二部門で優秀作品を発表した作家各一名におくられるもので、第一回は来年三月一日故人の誕生日に発表され、れんぎょうを愛好したことに「連題忌」と名づけた命日の四月二日に授賞が行われる。賞は「針は天極をさすいくら回されても」と刻まれた光太郎の木彫を原型にした盆と、副賞一〇万円、賞金は遺族の提供した高村光太郎全集の印税約二〇〇万円の金額があげられる。

○墨蹟水墨画国宝展 毎日新聞社では一〇日から一九日まで日本橋白木屋に於て、宋元及び鎌倉室町の墨蹟、水墨画の有名品を展覧した。

○東寺総合調査 朝日新聞社と東寺の協力により文化財保護委員会では東寺の靈宝蔵、宝蔵、三密蔵、金剛蔵の四宝庫の収蔵品をしらべる総合調査を、一二月から二八日まで行つた。総数二六〇〇点に及ぶ寺宝のうち、新しく国宝重要文化財の候補と目されるものは約三〇〇点程あつた。

○国際評論家会議・国際造型藝術連盟總會に代表派遣 美術評論家瀨木慎一、洋画家阿部展也の両名は、一六日からイタリヤ、ナポリに開かれた第六回国際美術評論家会議、一九日からユーゴスラビアのドウプロフニックで開かれた国際造型藝術連盟第二回總會に

それぞれ代表として出席するため一四日渡歐した。

○サンパウロ・ビエンナーレ国際建築展の受賞 ブラジルで開かれた第四回サンパウロ・ビエンナーレ国際建築展に、早大建築計画研究室の学生たち竹山実ほか一〇名の設計案を出品して最優秀となつた。同展は毎回一定の課題が決められ各園から応募するが、同大

学からは一九五三年の第二回ブラジル、サンパウロ四〇〇年展から出品をつづけ、第二回の課題である「コムニティ・センターの計画」案、一九五五年第三回サンパウロ・ビエンナーレ学生建築展の「勤労家族三〇〇〇人のための休養施設」案とともに一等になつて居り、今回の第四回サンパウロ・ビエンナーレ学生建築展に於ける「工場労働者の住居群計画案」で連続三回目を受賞である。

なお、賞金は本年は等級をつけないので日本を含めた四カ国で邦貨約三九〇万円を分ける。

○文化勲章並びに文化功労者年金受賞者 (三三年度) 選考委員決まる 政府は一七日の閣議で三三年度文化勲章並びに文化功労者年金受賞者を決める選考委員一〇名を決め発表した。なお初の委員会が二六日開かれ会長に高橋誠一郎、副会長に高木貞二を互選した。委員次の通り

東大教授科学技術庁科学審議官安芸敏一、東大教授沖中重雄、日本学術会議会長茅誠司、早大演劇博物館長河竹繁俊、日大総長呉文炳、東京女子大学長高木貞二、日本藝術院長高橋誠一郎、元参議院議員美術評論家団伊能、日本藝術院会員辻永、作家野尻清彦。

○光悦・宗達・光琳国宝展 毎日新聞社では光琳生誕三〇〇年を記念し、一七日から二九日まで日本橋三越に於て、光悦、宗達、光琳の系列による裝飾派の名品を集めて展覧を行つた。

○薬師寺修理完成 奈良西ノ京薬師寺では、金堂薬師如来の須弥座と基壇の修理が三年ぶりに完成したので、二五日薬師如来の遷座作業が行われ、同寺の修理事業は全部終了した。

○第四回サンパウロ・ビエンナーレ国際美術展の受賞 ブラジル、サンパウロにおける第四回ビエンナーレ国際美術展は四九ヶ国が参加し二二日開会したが、一六日審査終了の結果、日本の浜口陽三の版画作品「静物」が最優秀賞と決まつた。なお賞金は五万クルゼイロで邦貨約九七万円に相当する。

○サム・フランシス来日 米国のアンソルメル派画家サム・フランシスは、東京で個展を開くため二〇日來日した。展覧会は一五日から二〇日まで渋谷東横百貨店で開催された。

○毎日産業デザイン賞 第三回毎日産業デザイン賞は、次の通り発表された。

工業デザイン部門―直野善一を中心とする松下電器インダストリアル・デザインナー・グループの作品(該当作品はNR1730型電気冷蔵庫、UB1150型6石トランジスタ・ラジオ、MC12型クリーナー) 賞金一〇万円 商業デザイン部門―亀倉雄策の一連の作品 賞金一〇万円

一〇月

○国立近代美術館運営協力会設立 国立近代美術館の運営及び事業の発展拡充に協力し、美術文化の向上と海外進出を盛にするため側面から援助する目的をもつて、国立近代美術館運営協力会が二日設立された。事務所は同館内に置き、主な役員は次の通りである。

顧問―藤山愛一郎、一万田尚登、石橋正二郎、高橋誠一郎他、会長―足立正、副会長―司忠、吉田秀雄、理事―秋葉武定、古屋徳兵衛、五島昇他。

○日本国際デザイン協会の設立 広範囲にわたるデザインの向上発展を目ざして日本国際デザイン協会が二日設立された。インダストリアル・デザイン、クラフト・デザイン、工藝、建築等各界のメンバーにより構成され、毎月講演会、座談会等を催す。

○東京都文化財新指定 東京都教育委員会文化財専門委員会では、史跡、旧跡

等都文化財を新指定し、二日発表し
た。美術関係では木製軍船ひな形があ
る。

○日本絵巻物展 大阪読売新聞社では発
刊五周年記念事業として、開館二〇周
年の大阪市立美術館と共催により、一
三日から一月一日まで、御物国宝
重文重美の絵巻物を網羅して、絵巻物
の名作展を開催した。

○通商産業省に産業意匠課を新設 通産
省ではデザインの改善と奨励のため、
通産局に産業意匠課を新設することに
一四日の省議で内定した。これは優良
意匠の試験研究、奨励、デザイナーの養
成を行い、意匠盗用防止について各原
局の統合調整を行わせるものである。

○白描やまと絵展 東京国立文化財研究
所では開所記念日の行事として一四日
白描やまと絵展を開催した。従来の名
品に新出の資料を加えて有意義な催し
であった。

○フランスから勲章を授受 フランス政
府は、日仏文化交流に努力した功勞に
より勲章を贈ることになり、一七日フ
ランス大使館で授与式を行った。今回
はとくに二九年に開催されたルーヴル
展を通じ功勞のあつた人々で、次の五
名に贈られた。

「黒い星」三等勲章実践女子大教授坂
崎坦、同国立博物館普及課長野間清六。
学藝功勞二等勲章国立博物館庶務部長
深見吉之助、同学院大教授富永憲
一、同朝日新聞社前企画部長足立和

雄。

○平安時代美術展 京都国立博物館では
開館六〇周年記念の特別展覧会として
二〇日から一月十五日まで、平安時
代美術展を開催した。平安時代の代表
作の殆どを網羅する豪華な陳列内容は
近來稀な充実した展覧会であつた。

○京都大学イラン学術調査隊 京都大学
西南アジア研究会から派遣され、七月
二二日山口県徳山から出光興産所属の
タンカー日章丸で出発した京大イラン
学術調査隊の一行は、約一カ月間イラ
ンの遺跡を調査し、二〇日同船で帰国
した。一行は加藤一朗文学部講師を隊
長に、同大学院学生二名と総勢三名に
よつて行われた。

○イタリアから勲章授受 イタリア政府
は最高裁長官、日伊協会々長田中耕太
郎、文化財保護委員会委員矢代幸雄兩
名に対し、日伊文化の交流に貢献した
功績により、メダリア・ド・オーロ・
ペール・イー・ペーネメリティ・ペラ・
クルトゥラ・イタリアーナを贈ると二
二日在日イタリア大使館から発表し
た。同勲章は日本の文化勲章同様最高
文化人に贈られるもので日本人の受章
ははじめてである。

○一水会日展不参加を声明 一水会で
は、日展の審査方法が不明朗であるとの
理由で、同会より出ている日展審査
員六名(藝術院会員として加わってい
る有島、石井、山下の三名を除く)の
うち裕伊之助、木下義謙、高野三三男

の三名は、審査員を辞退し、同時に一
水会を運営する二三名の委員も之を支
持して第一三回日展には出品しないと
の声明を二二日行つた。

○文化勲章並びに文化功勞年金受領者決
定及び授賞、顕彰式 昭和三十二年度、
第一三回文化勲章並びに第三回文化功
勞年金受領者一名が、二二日の閣議
で正式決定し、一月三日文化の日に
皇居に於いて授賞式が行われた。当日
勲章と勲記が贈られ同九日には文部大
臣室で顕彰式が行われ、顕彰状と年金
証書(終身毎年五〇万円交付)が贈られ
た。美術関係授賞者次の通り

文化勲章受領者
西山 翠樟
文化功勞年金受領者
中沢 弘光 柳 宗悦

○中世美術展 東京国立博物館では二三
日から一月二四日まで、鎌倉室町時
代の総合展として、中世文化の粋三〇
〇余点を集めた中世美術展を開催し
た。

○東西文化交流の国際会議 日本ユネ
スコ国内委員会主催による東西文化交

渉史の国際シンポジウムが、二八日東
京神田の中央大学会館で開かれた。こ
れは昨年十一月、印度のニューデリー
で開かれた二ネスコ第九回総会で、一
〇カ年計画として東西両文化の相互影
響を解明する事業として決議されたも
ので、その第一回の国際会議が開かれ
たわけである。会期は二八日から三一
日まで同大学、一月四、五両日京都
大学を会場とし、二〇カ国一三〇人の
学者がそれぞれ研究発表と討論を行つ
た。

○池上本門寺五重塔修理 池上本門寺の
五重塔は東京都内で一番古い五重塔で
あるが、元祿一二年現在地に移してか
ら右に傾いていた。木造部分の腐朽が
ひどくなつたため、国庫の補助をえて
各層屋根瓦、勾欄、扉の取替などの修
理を行うことになつた。

○紫綬褒章受章決る 政府は本年度紫綬
褒章受章者二〇名を二九日の閣議で決
定発表した。同章は学術、藝術の分野
で功績のあつた者に贈られ、美術関係
受章者は左の通りである。

大浦徳太郎(建造物修理)、岡晴(文化
財保存業務)、田中良(舞台美術)、長
谷川源次郎(歌舞伎舞台装置)、藤村新
治郎(仏師)

一一月

○東寺名宝展 東寺と朝日新聞社の共催
により一日から一九日まで東寺名宝展

を開催した。今秋行つた秘宝調査の成果と、従来国宝重文に指定されたものを併せ陳列し一般に公開したものである。

○毎日出版文化賞 第一回毎日出版文化賞は、一点の入賞が決り発表されたが、三日同社で贈呈式が行われ著者に賞金五万円、出版社に賞牌が贈られた。美術関係では谷口吉郎著、佐藤辰三写「修学院離宮」(毎日新聞社)がある。

○商業デザインの入賞者決る 毎日新聞社主催の第二回産業美術振興運動「一九五七年商業デザイン作品集」による入賞が決り、三日発表された。受賞次の通り

A部門(新聞広告デザイン)総理大臣賞状並に毎日広告賞(渡欧または賞金五〇万円) 明治製菓、岩永泉(デザイン) 直江玲子(文案)

B部門(ポスター、デザイン)通産大臣賞状並に毎日広告賞(賞金二〇万円) 太陽製菓、工藤恵

C部門(コマーション・フォト)通産大臣賞状並に毎日広告賞(賞金二〇万円) キスミール本舗、早崎治

○ベニス・ビエンナーレ展への出品作家決定 明三三年六月イタリヤ、ベニスで開かれる第二回ビエンナーレ国際美術展に、日本の代表作家を選考する国際美術協議会が、四日外務省で開かれ、次の六名が決定した。

絵 画—岡田 謙三、福沢 一郎、

彫刻—木内 克、辻 晋堂

○新協美術会結成 日展参加団体である新世紀美術協会では、その会員の一部分である田沢八甲、長屋勇、横山義雄らは日展審査の不明朗を理由に脱退した。新たに同志と新協美術会を結成して同月第一回創立会を開催した。

○蕪村名作展 日本経済新聞社では五日から一七日まで日本橋三越に於て蕪村の名品約六〇点を陳列展覧した。

○衆議院文教委員会での国立近代美術館に対する追求問題 一日の衆議院文教委員会でききに日展問題等を追求した社会党高津正道委員から今度国立近代美術館の経理につき追求があり、報道関係にも取上げられるところとなつた。しかし調査の結果は経理上の不正は事実無根なることが分り、一四日の同委員会、文部省当局によりさきの発言を全面的に否定する積行を行つた。

○第一回安井賞決定 昨年一二月設定された安井賞(三三年度版参照)の選考委員会が、一四日国立近代美術館で開かれ、第一回の受賞作品は春陽会々員田中岑「海辺」と決定した。なお授賞式は故人の命日である一二月一四日に行われた。

○国宝重要文化財新指定 文化財保護委員会では二三日、建造物四、彫刻二、工芸品七、書跡三、考古一の新国宝と重文一七八の指定を決定した。今回の

国宝には奈良と鎌倉の二大仏が含まれている。

○朝日広告賞入選作決定 昭和三三年度朝日広告賞第一部作品の入選が決定し、二三日発表された。

新聞広告用デザイン、朝日広告賞(賞金三〇万円) 島田光雄(日本電建)、準朝日広告賞(賞金各五万円) 岩永泉(寿屋)、青野健、内藤京一神戸市の合作(中央公論社)、河口恭一郎、川崎智生—守口市の合作(補助尼袋)

○新象作家協会創立 美術文化協会を脱退した岩間正男、浅利篤らの会員を中心に、広く作家の参加をもとめて、新象作家協会が創立された。

○飯宮殿の装飾品を依頼 宮内庁では、宮内庁三階の改修成つた皇居飯宮殿の装飾用置物と、我國の伝統的美術工芸を保護奨励する意味から重要無形文化財保持者としてこれに準ずる作家の作品を採用することになり二九日その氏名を発表した。

陶藝—石黒宗磨、今泉今右衛門、加藤土師萌、楠部 弥次、近藤悠三、酒井田柿右衛門、清水 卯一、富本 憲吉、磯井 如真、音丸 耕堂、黒田 辰秋、高野 松山、

田所 芳哉、松田 権六、金 工—鹿島 一谷、香取 正彦、二橋 美術、人 形—鹿見鳥寿蔵、堀 柳女

○ヨーロッパ展歓迎特別展 東京国立博物館では明年欧州各地で開催される日本古美術展の発送が迫つたので、歓迎のいみをかねて出品物の特別展を三〇日から一二月五日まで開催した。

一二月

○アジア・アフリカ展 日本経済新聞社では三日から一五日まで日本橋高島屋に於いて、アジア・アフリカの歴史の中で興亡した諸文明と、その時代の特色を示す美術品を集めて一般に公開した。

○ミラノ・トリエンナーレ展の受賞 七月下旬から一月上旬まで、イタリヤ、ミラノで開かれたトリエンナーレ国際工藝展で日本の河井寛治郎作品「扁壺」がグランプリを獲得した。なおその他でも金賞に鈴木表朝「湯筒」、川上治助「二月堂お盆」、渡辺力「陶器腰掛」、銀賞丸和商店「土びん」。インダストリアル・デザイン銀賞柳宗理、展示室構成銀賞坂倉準三等によるトリエンナーレ展会場構成等がある。

○国立近代美術館休館 国立近代美術館では増築工事のため、今月より明年三月まで休館することになった。

〔附 表〕

新指定国宝一覽

国宝目録 第十一集

凡 例

一、この目録は文化財保護法(昭和二十五年五月三十日法律第二百十四号)により、昭和三十三年三月文化財保護委員会において国宝の決定があつた物件等を集録した。

一、この目録に収録した国宝の種別は、工藝品、考古、建造物である。

昭和三十三年三月

文化財保護委員会

工 藝 品 の 部

名	称	員数	所 有 者
太刀 銘吉房		一口	国(東京国立博物館保管)

考 古 の 部

名	称	員数	所 有 者
興福寺金堂鎮壇具		四口	国(東京国立博物館保管)
一、金銅鏡		一口	
一、銀鏡		一口	

一、金銅脚杯	一口
一、金銅大盤	一口
一、銀大盤	一口
一、響銅盤	二口
一、銀製鍍金匙	一本
一、銀匙	一本
一、金銅独鈷杵	一本
一、瑞花双鳥入花鏡	一面
一、花卉双蝶入花鏡	一面
一、銀唐草文透彫金具	一箇
一、銀刀荘具	一箇
一、金銅荘緑牙揆鍍鞘刀子	一口
一、刀子殘闕	一括
一、銀鑷子	一本
一、瑪瑙念珠玉	一括
一、水晶念珠玉	一括
一、琥珀念珠玉	一括
一、瑪瑙玉	一括
一、水晶玉	一括
一、石製玉類	一括
一、金小玉	五箇
一、ガラス玉	一括
一、水晶六角合子	一合
一、水晶製六角柱殘闕	二箇分
一、琥珀製六角柱殘闕	二箇分
一、琥珀製円柱	一箇
一、櫛形琥珀製品	一箇
一、和同開珎	百三十四枚
一、開元通宝	一枚
一、砂金	一包
一、金塊	十箇
一、金延金	九枚
一、銀錠	四枚

建造物の部

番号	名称	員数	構造及び形式	所有者	所有者の住所	所在の場所
一	大徳寺方丈及び玄関	二棟	方丈 桁行九十八尺六寸、梁間五十六尺二寸、一重、入母屋造、棧瓦葺、背面雲門廡附屬 玄関 桁行六間、梁間一間、一重、唐破風造、棧瓦葺 桁行四十八尺八寸、梁間三十五尺五寸、一重、入母屋造、棧瓦葺 附 玄関 一棟 桁行二間、梁間一間、一重、切妻造、棧瓦葺 棟札 四枚	大徳寺	京都府京都市上京区紫野大徳寺町	京都府京都市上京区紫野大徳寺町
二	大仙院本堂	一棟	永正十年癸二月十二日上梁の記があるもの 一 上寧天正三歳舎乙亥三月朔日資始至于四月十四結制之辰畢功の記があるもの 一 再興寛曆第三丙寅仲春二十三日権興以成功于季春十二日の記があるもの 一 上寧萬治二乙亥年七月日の記があるもの	大仙院	京都府京都市上京区紫野大徳寺町	京都府京都市上京区紫野大徳寺町
三	妙法院庫裏	一棟	桁行七十一尺八寸、梁間七十八尺二寸、一重、入母屋造、妻入、玄関一間、唐破風造、本瓦葺、北面庇を含む	妙法院	京都府京都市東山区東大路渋谷下ル妙法院前側町	京都府京都市東山区東大路渋谷下ル妙法院前側町

国宝目録 第十二集

凡 例

一、この目録は文化財保護法（昭和二十五年五月三十日法律第二百十四号）により、昭和三十三年十一月文化財保護委員会において国宝指定の決定があつた物件等を収録した。

一、この目録に収録した国宝の種類は、絵画、彫刻、工藝、書跡、考古、建造物である。

昭和三十三年十一月

文化財保護委員会

新指定国宝一覽（建造物、彫刻の部）

新指定

彫刻の部

名	称	員数	所 有 者
銅造阿弥陀如来坐像	一 軀	神奈川県鎌倉市長谷高徳院	
銅造盧舎那仏坐像（金堂安置）	一 軀	奈良県奈良市雜司町大寺	

工藝品の部

名	称	員数	所	有	者
螺鈿八角須弥壇		一基	岩手県西磐井郡平泉町平泉	大長寿院	院
中尊寺経蔵堂内具		一基	同	同	右
木造礼盤		一基			
螺鈿平塵案		一基			
磬架		一基			
附孔雀文磬	一面				
螺鈿平塵燈台		一基			
中尊寺金色堂堂内具		一基			
木造天蓋	三面		同		
木造礼盤	一面			金色院	院
螺鈿平塵案	二基				
磬架	一基				
附孔雀文磬	一面				
金銅幡頭	三枚				
金銅華鬘(迦陵頻伽文)	六枚				
紫檀塗螺鈿金銅装舍利罩	一基		京都府京都市南区九条町	教王護国寺	寺
牛皮華鬘	十三枚		同	同	右
附殘闕					
一括					
大太刀 無銘伝豊後友行		一口	愛媛県越智郡大三島町大字宮浦	大山祇神社	社
附野太刀拵		一口	高知県高岡郡日高村大字下分	小村神社	社
金銅荘環頭大刀拵		一口			
大刀身					

書跡の部

名	称	員数	所	有	者
法隆寺献物帳(天平勝宝八歳七月八日)		一面	国(東京国立博物館保管)		
細字法華経(一部七卷)		一卷	同		右
唐長寿三年六月一日李元惠書写奥書					
附香木経箱	一合				
類聚歌合		十九卷	京都府京都市右京区宇多野上ノ谷町	財団法人陽明文庫	庫

考古の部

名	称	員数	所	有	者
興福寺金堂鎮壇具			奈良県奈良市登大路町	興福寺	寺
一、銀製鍍金唐花文鏡	二口				
一、銀製鍍金唐草文脚杯殘闕	一口				
一、銀鏡	七口				
一、水晶念珠玉	五箇				
一、水晶玉類	六箇				

建造物の部

番号	名称	員数	構造及び形式	所有者	所有者の住所	所在の場所
一	教王護国寺大師堂 (西院御影堂)	一棟	後堂、前堂及び中門より成る 後堂 桁行七間、梁間四間、一重、入母屋造、北面西端 二間庇、すがる破風造、東面向拜一間 前堂 桁行四間、梁間五間、一重、北面入母屋造、南面 後堂に接続 中門 桁行二間、梁間一間、一重、西面切妻造、東面前 堂に接続 総檜皮葺 附 厨子 一基 一間春日厨子、板葺 棟札、五枚 上葺寛永拾三年 _子 二月十六日の記があるもの一 寛文十二 _壬 年十二月穀旦の記があるもの一 上葺明和九年 _壬 辰三月七日の記があるもの一 享保十七 _壬 子 _子 稔十月廿八日の記があるもの一 上葺享保十七 _子 年十二月十二日の記があるもの一	教王護国寺	京都府京都市南区九条 町	京都府京都市南区九条 町
二	輪院本堂	一棟	桁行五間、梁間四間、一重、寄棟造、本瓦葺	奈良県奈良市十輪院町	奈良県奈良市十輪院町	
三	不動院金堂	一棟	桁行三間、梁間四間、一重もこし附、入母屋造、こけら葺	広島県広島市牛田町	広島県広島市牛田町	
四	向上寺三重塔	一基	三間三重塔婆、本瓦葺	広島県豊田郡瀬戸田町 大字瀬戸田	広島県豊田郡瀬戸田町 大字瀬戸田	

新指定国宝一覽(絵画、建造物の部)

国宝に未指定物件を附として追加し、名称及び員数を改めたもの

絵画の部 ○印は今回追加したものを示す

名	称	員数	所	有	者
絹本着色山水屏風 六曲屏風		一隻	京都府京都市南区九条町		
○附絹本着色同模本	藤井良次筆	一隻			教王護国寺

国宝に未指定物件を附として追加し、構造及び形式を改めたもの

建造物の部 ○印は今回追加したものを示す

番号	名	称	員数	構	造	及	び	形	式	所	有	者	所	有	者	の	住	所	所	在	の	場	所
一	大報恩寺本堂	(千本釈迦堂)	一棟	桁行五間、梁間六間、一重、入母屋造、向拝一間、檜皮葺 附○厨子 一基 一週春日厨子、板葺 ○旧棟木 一本 安貞元年 歲次 丁亥 冬十二月廿六日の記がある ○棟札 三枚 修營寛文十庚 戊 五月十五日の記があるもの 葺補正徳四甲午年二月十六日至十二月上旬の 記があるもの 修造延享二乙丑年六月十一日同三年六月尽 日造畢の記があるもの	大報恩寺	京都府京都市上京区五 辻通六軒町西入ル溝前 町	京都府京都市上京区五 辻通六軒町西入ル溝前 町																
二	春成寺	白山堂	二棟	一週社春日造、檜皮葺 一週社春日造、檜皮葺 附○棟札 六枚 上舜永正十五年 戊 下遷宮六月五日の記及び上																			

新指定重要文化財一覧

重要文化財目録 第十集

凡 例

一、この目録は文化財保護法(昭和二十五年五月三十日法律第二百十四号)により、昭和三十三年三月文化財保護委員会において重要文化財指定の決定があつた物件等を収録した。

一、この目録に収録した重要文化財の種別は、絵画、彫刻、工藝、書跡、考古、建造物である。

昭和三十三年三月

文化財保護委員会

新指定

絵 画 の 部

◎印は重要美術品等認定物件より重要文化財指定の決定があつたものを示す

名	称	員数	所 有 者
綾木著色聖徳太子絵(伝秦致真筆)	二曲屏風 (法隆寺絵殿旧障子絵)	五隻	国(東京国立博物館保管)
絹本著色文王呂尚・商山四皓図	二曲屏風 (法隆寺舍利殿旧障子絵)	六隻	同
紙本著色住吉物語絵巻		一卷	同
紙本著色星光寺縁起	絵土佐光信筆 詞三条西実隆筆	二卷	同
紙本著色清水寺縁起	絵土佐光信筆 詞三条西実隆等六筆	三卷	同
			右
			右
			右
			右

◎

紙本墨画四萬山水図 文伯仁筆
嘉靖三十年の年記がある
各幅に董其昌の題記がある
絹本淡彩及墨画山水書画冊 董其昌筆

名	称	員数	所 有 者
紙本墨画四萬山水図		四幅	同
絹本淡彩及墨画山水書画冊		一帖	同
			右
			右

彫 刻 の 部

名	称	員数	所 有 者
銅板押出仏像 (法隆寺伝来)		十面	国(東京国立博物館保管)
(一) 阿弥陀三尊及僧形像			
(二) 阿弥陀三尊及僧形像			
(三) 阿弥陀三尊及僧形像			
(四) 阿弥陀三尊像			
(五) 阿弥陀三尊及僧形像			
(六) 二観音及三如来像			
(七) 如来及菩薩立像			
(八) 三尊像(裏面十一面観音立像貼付)			
(九) 観音菩薩立像			
(十) 観音菩薩立像			

工 藝 品 の 部

名	称	員数	所 有 者
金銅(宝塔)		一基	国(東京国立博物館保管)

保延四年八月十六日云々覚厳敬白の墨書がある

金銅灌頂幡	一具	十五箇	同	右
金銅小幡	同	同	同	右
柄香炉 鵝尾形	一柄	同	同	右
柄香炉 鵝尾形	一柄	同	同	右
柄香炉 獅子鎮	一柄	同	同	右
柄香炉 瓶形鎮	一柄	同	同	右
蟠龍八花鏡	一面	同	同	右
伯牙彈琴鏡	一面	同	同	右
海磯鏡	一面	同	同	右
海磯鏡	一面	同	同	右
禽獸葡萄鏡	一面	同	同	右
金銅墨床	一基	同	同	右
金銅水入	一口	同	同	右
金銅匙	三支	同	同	右
金銅宝相華文如意	一柄	同	同	右
天曆十一年遷入云々の針書がある	同	同	同	右
雷神文磬	一枚	同	同	右
玉莊箱	一合	同	同	右
竹厨子	一基	同	同	右
鳳凰円文螺鈿唐櫃	一合	同	同	右
紅牙撥鏝針筒	一筒	同	同	右
紺牙撥鏝針筒	一筒	同	同	右
緑牙撥鏝針筒	一筒	同	同	右
紅牙撥鏝尺	一枚	同	同	右
越州窯青磁四耳壺	一口	同	同	右
附丁子	同	同	同	右
繡仏裂	六枚	同	同	右
附殘闕	一括	同	同	右
糞掃衣	一領	同	同	右
小幡 赤地紺錦	一旒	同	同	右
白山菱文錦	一枚	同	同	右
附黃花鳥文錦	一枚	同	同	右
附殘闕	一括	同	同	右

書跡の部	名	称	員数	所有者
	蕪 萌黃狩獵文錦		一枚	同
	蕪 黃葡萄唐草文錦		一枚	同
	蕪 一枚の麻布芯に「常陸国信太郡中家郷戸主大伴部羊調貫布 天平宝勝八年十月」の墨書がある		二枚	同
	帯 蜀江錦		一条	同
	雑色糸帯 真珠玻璃玉莊		二条	同
	経台褥 花文纈縹羅		二枚	同
	裏に「経台褥」の墨書がある		一枚	同
	鸚鵡形毯代 紅草花文縹縹平絹		一枚	同
	白氈		四枚	同
	緋氈		一枚	同
	透漆梓弓		一張	同
	木造彩絵胡録		一本	同
	六日鳴鏑箭		一本	同
	鏑箭 鏑欠		一本	同
	利箭		四本	同
	鉄壺鍔 金銅鉸具頭付		一雙	同
	鉄壺鍔 金銅鉸具頭一雙付		一雙	同
	直刀 無銘		一口	同
	太刀 銘大和則長作		一口	同
	太刀 銘吉包		一口	同
	太刀 銘雲生		一口	同
	法隆寺献物帳(天平勝宝八歳七月八日)		一面	同
	細字法華經(一部七卷)		一卷	同
	唐長寿三年六月一日李元惠書写奥書		一合	同
	附香木經箱		一合	同

新指定重要文化財(工藝、書跡の部)

新指定重要文化財一覽(書跡、考古の部)

梵本心經并尊勝陀羅尼(貝葉) 附淨嚴筆詠經記 一帖	二枚	同	右
法華經	八卷	同	右
紺紙金字梵網經 上下	二卷	同	右
勝鬘經 見返紙本著色勝鬘經講讀図	一卷	同	右
聖德太子依私記(古今目錄抄) 頭真筆 不空三藏表制集卷第一	二帖	同	右
催馬樂譜 天治二年三月移点奥書	一卷	同	右
紺紙金字不空羼索神咒心經 西園寺公衡筆 嘉元四年二月八日書写奥書	一卷	同	右
石室善玖墨蹟 大梅山清涼塔院掛 御書額仏事語	一幅	同	右

考古の部

銅印 印文「法隆寺印」	一顆	国(東京国立博物館保管)	右
銅印 印文「鶴寺倉印」	一顆	同	右
金銅小治田安万侶墓誌 銅製小板二枚共 神亀六年二月九日在銘	一具	同	右
附 一、木櫃殘闕 一括 一、和同開珎(銀錢) 十枚 一、土器類 一括 一、鉄製品殘闕 一括			
奈良県山辺郡都祁村大字甲岡出土 壇輪馬 群馬県邑楽郡大川村出土	一箇	東京都中央区京橋二丁目 彌山順吉	吉

重要文化財の指定を解除したもの

彫刻の部

銅造釈迦如來坐像	一軀	滋賀県大津市坂本町 延曆寺	寺
木造(持国天立像一(所在常行堂) 多聞天立像一)	二軀	同	右
木造阿弥陀如來坐像	一軀	同	右

建造物の部

番号	名称	員数	構造及び形式	所有者	所有者の住所	所在の場所
一	新新田 表の丸隅櫓門城	二棟	櫓門、入母屋造、棧瓦葺 二重二階櫓、入母屋造、棧瓦葺 二重二階多聞櫓、南面入母屋造、北面切妻造、一重鉛瓦葺、二重棧瓦葺	国(大蔵省所管)		新潟県新発田市本丸
二	金沢城三十間長屋	一棟	一間社流造、銅板葺	国(文部省所管)		石川県金沢市大手町
三	富部神社本殿	一棟	桁行五間、梁間五間、一重、入母屋造、向拝一間、軒唐破風附、檜皮葺	富部神社	愛知県名古屋市中南区呼続町神林	愛知県名古屋市中南区呼続町神林
四	曼陀羅寺正堂	一棟	上棟建立寛永九玄黙渚灘年玄鳥至念三日の記がある 棧瓦葺、此こけら葺	曼陀羅寺	愛知県江南市大字前飛保	愛知県江南市大字前飛保
五	聖護院書院	一棟	主室(床、棚、書院附)、次の間(床、棚附)、背面室(八畳、六畳、四畳)、女閤、女閤次の間(床附)、二面土庇及び縁より成る、一重、庇附、入母屋造、一部葺下し、棧瓦葺、此こけら葺	聖護院	京都府京都市左京区聖護院中町	京都府京都市左京区聖護院中町
六	明巽石櫓櫓城	二棟	三重三階櫓、本瓦葺 板札一枚 元文二二年五月吉日の記がある	兵庫県	兵庫県	兵庫県明石市大明石町
七	今西家住宅	一棟	桁行五十二尺二寸、梁間四十二尺五寸、正面庇附、一重、入母屋造、本瓦葺 棟札一枚 棟上慶安參年庚子參月廿式日の記がある	今西武次郎	奈良県橿原市今井町	奈良県橿原市今井町
八	和歌山城岡口門	一棟	櫓門、切妻造、本瓦葺 土塀一枚 矩折延長百三十二尺、狭間十二所、本瓦葺	和歌山市	和歌山県和歌山市	和歌山県和歌山市一番町
九	丸大手二のの門城	二棟	櫓門、入母屋造、本瓦葺 高麗門、本瓦葺 附 東土塀、延長十九尺八寸、狭間二所、本瓦葺 西土塀、延長三十二尺三寸、狭間三所、本瓦葺	国(大蔵省所管)		香川県丸亀市大手町

番号	名称	員数	構造及び形式	所有者	所有者の住所	所在の場所
十	大洲高台 洲欄所 洲櫓櫓櫓城	三棟	二重二階櫓、本瓦葺 二重二階櫓、本瓦葺 二重二階櫓、本瓦葺 附 棟札 二枚 上棟天保十四癸卯 天九月吉辰の記があるもの	大洲町	愛媛県大洲市	愛媛県大洲市大洲町
十一	大洲城三の丸南隅櫓	一棟	二重二階櫓、本瓦葺 附 棟札 一枚 明和三年丙戌冬十一月吉旦の記がある	加藤泰通	愛媛県大洲市大洲町八四八番地	愛媛県大洲市大洲町
十二	佐賀城鯨の門及び純櫓	一棟	鯨の門 櫓門、入母屋造、本瓦葺 純櫓 一重二階櫓、西端入母屋造、東端鯨の門に接続、本瓦葺	佐賀市	佐賀県佐賀市	佐賀県佐賀市赤松町城内

重要文化財に未指定物件を追加して、その名称、員数並びに構造及び形式を改めたもの (○印は今回追加指定したもの)

番号	名称	員数	構造及び形式	所有者	所有者の住所	所在の場所
一	観音寺 観音堂	一棟	桁行三間、梁間三間、一重、宝形造、茅葺 附 棟札 三枚 ○修葺文化十一 戊辰四月十七日の記があるもの ○修葺天保十五年次歲 甲辰十一月十一日の記があるもの 修葺嘉永四 辛亥年四月十七日の記があるもの	観音寺	山形県西置賜郡白鷹町大字深山	山形県西置賜郡白鷹町大字深山
二	竜泉寺 仁王門	一棟	三間一戸楼門、入母屋造、こけら葺 附 棟札 一枚 慶長拾二年丁未三月廿五日の記がある	竜泉寺	愛知県守山市吉根	愛知県守山市吉根
三	丸亀城 天守 一棟	一棟	三重三階櫓、本瓦葺 附 棟札 一枚 万治第三天三月吉祥日の記がある 九間社流造、檜皮葺 附 棟札 十一枚 上棟天正十五年九月吉日の記があるもの 上葺再興寛永十六 己卯 歳八月如意日の記があるもの 上葺再興正徳六 丙申 曆四月吉之天の記があるもの	丸亀市	香川県丸亀市	香川県丸亀市番丁亀山公園内

四宮崎宮本殿 一棟	上甕修補寛保三癸亥歲夏五月吉祥日の記があるもの 上甕修補宝曆七丁丑竜七月吉辰日の記があるもの 上甕修補宝曆十三癸未竜七月吉辰日の記があるもの 上甕再興明和九壬辰竜五月吉祥日の記があるもの 天保五年午十一月の記があるもの 葺替井御繕天保五年甲午十二月吉祥日の記があるもの 葺替井御繕天保五年午十二月の記があるもの 上甕井修補天保五甲午竜十二月吉良辰の記があるもの	宮崎宮	福岡県福岡市箱崎町	福岡県福岡市箱崎町
五宮崎宮拜殿 一棟	桁行四間、梁間一間、一重、切妻造、檜皮葺 附○棟札一枚 再興天明四五月の記がある	宮崎宮	福岡県福岡市箱崎町	福岡県福岡市箱崎町
六多久聖廟 一棟	桁行三間、梁間三間、一重もこし附、入母屋造、妻入、向拜一間、唐破風造、銅板葺 奥陣、桁行二間、梁間一間、一重、入母屋造、前面本屋根に接続、銅板葺 附○聖籠一基 八角厨子、本瓦形板葺	多久市	佐賀県多久市	佐賀県多久市多久町
七青蓮寺阿弥陀堂 一棟	桁行五間、梁間五間、一重、寄棟造、茅葺、向拜一間、片流造、棧瓦葺 附○棟札二枚 天文十一年壬寅十二月二十八日の記があるもの 宝曆四甲戌年三月の記があるもの	青蓮寺	熊本県球磨郡多良木町黒肥地	熊本県球磨郡多良木町黒肥地

重要文化財の名称、員数並びに構造及び形式を改めたもの

番号	名称	員数	構造及び形式	所有者	所有者の住所	所在の場所
一	羽黒山五重塔	一基	三間五重塔婆、こけら葺	月山神社 湯殿山神社	山形県東田川郡羽黒町 大字手向	山形県東田川郡羽黒町 大字手向
二	旧因州池田屋敷表門	一棟	長屋門、一重、入母屋造、唐破風造兩出番所附、繪本瓦葺	国(文部省所管)		東京都台東区上野公園 東京国立博物館構内
三	宮崎楼門	一棟	三間一戸楼門、入母屋造、檜皮葺	宮崎宮	福岡県福岡市箱崎町	福岡県福岡市箱崎町
四	与賀神社楼門	一棟	三間一戸楼門、入母屋造、銅板葺	与賀神社	福岡県福岡市箱崎町 佐賀県佐賀市与賀町	佐賀県佐賀市与賀町

重要文化財の指定を解除したもの(昭和三十一年十月十一日焼失)

番号	名称	構造形式	所有者	所有者の住所	所在の場所
一	延暦寺大講堂	桁行九間、梁間六間、重層、入母屋造、屋根銅板葺	延暦寺	滋賀県大津市坂本本町	滋賀県大津市坂本本町
二	延暦寺大講堂鐘台(鐘楼)	鐘楼一間一面、単層、屋根入母屋造、柿葺	延暦寺	滋賀県大津市坂本本町	滋賀県大津市坂本本町

重要文化財目録 第十一集

凡例

- 一、この目録は文化財保護法(昭和二十五年五月三十日法律第二百十四号)により、昭和三十一年十一月文化財保護委員会において重要文化財の決定があつた物件等を収録した。
- 二、この目録に収録した重要文化財の種類は、絵画、彫刻、工藝、書跡、考古である。

昭和三十三年十一月

文化財保護委員会

新指定

絵画の部

◎印は重要美術品等認定物件より重要文化財指定の決定があつたものを示す

名称	員数	所有者
紙本金地著色洛中風俗図 六曲屏風	一双	国(東京国立博物館保管)
絹本著色佐久間将監像 狩野探幽筆 寛永十八年江月宗玩及び林道春の賛 がある	一幅	北海道函館市鍛冶町三一 小熊信一郎
附絹本著色同模本 住吉弘貫筆 一幅 絹本著色兩界曼茶羅図(敷曼茶羅)	二幅	京都府京都市南区九条町 教王護国寺
(絹本著色兩界曼茶羅図)残闕(甲本) 二枚 附曼茶羅断片及び軸板二枚錦 残闕等一括		

絹本着色阿彌陀淨土圖(土壁)	二枚								
附曼茶羅斷片及び軸板二枚錦									
殘闕等一括									
絹本着色阿彌陀淨土圖(土壁)	二幅								
天正十二年栄順の修理裏書がある									
絹本着色阿彌陀淨土圖(元祿木)	二幅								
附絹本着色阿彌陀淨土圖斷片一括									
絹本着色童子経曼茶羅圖	一幅								
紙本白描曼茶羅集	三冊								
天福元年定真の奥書がある									
紙本白描星曼茶羅圖殘闕	一冊								
天永四年有寛の奥書がある									
紙本墨画山水圖(伝長谷川等伯筆)	二十四面								
大方丈襖貼付									
絹本着色当麻曼茶羅圖	一幅								
紙本墨画藤波絵草紙	一卷								
金堂内陣旧壁画(土壁)	二十面								
著色飛天圖(二十)									
金堂外陣旧壁画(土壁)	十二面								
著色阿彌陀淨土圖(第一号、大壁)									
著色菩薩像(第二号、小壁)									
著色觀音菩薩像(第三号、小壁)									
著色勢至菩薩像(第四号、小壁)									
著色菩薩像(第五号、小壁)									
著色阿彌陀淨土圖(第六号、大壁)									
著色觀音菩薩像(第七号、小壁)									
著色文殊菩薩像(第八号、小壁)									
著色弥勒淨土圖(第九号、大壁)									
著色藥師淨土圖(第十号、大壁)									
著色普賢菩薩像(第十一号、小壁)									
著色十一面觀音像(第十二号、小壁)									
五重塔初層旧壁画(土壁)	十八面								

新指定重要文化財一覽(絵画、彫刻の部)

名	称	員数	所	有	者
著色菩薩像		六			
著色山水圖		十二			
絹本着色阿彌陀淨土圖		一幅	和歌山県伊都郡高野町大字高野山	金剛峯寺	
絹本着色如來像(寺伝藥師如來)		一幅		同	
絹本着色尊勝曼茶羅圖		一幅		同	
絹本着色六字尊像		一幅		同	
絹本着色伝熊野曼茶羅圖		一幅		同	
絹本着色阿彌陀淨土曼茶羅圖		一幅		同	
紙本著色十卷抄		十卷		同	
延慶二年、同三年金剛仏子印玄の奥書がある				同	
銅造菩薩半跏像		一軀	国(東京国立博物館保管)		
台座框に丙寅年の銘がある					
銅造觀音菩薩立像		一軀			
台座框の辛亥年の銘がある					
銅造如來坐像		一軀			
銅造菩薩半跏像		一軀			
銅造菩薩立像		一軀			
木造弘法大師坐像(木堂安置)		一軀	神奈川県藤沢市手広	青蓮寺	
木造菅田別尊坐像		一軀	長野県飯田市大字松尾	鳩ヶ嶺八幡宮	
像内に弘安戊子五月造立の銘がある					
木造僧形八幡神坐像		三軀	京都府京都市南区九条町	教王護国寺	
木造女神坐像		一軀			
附木造伝武内宿禰坐像		一軀			
木造弘法大師坐像(康勝作)		一軀			
御影堂安置					

木造舞楽面	十一面	大阪府南河内郡南大阪町大字 誉田 八幡宮
二ノ舞	二	
各安貞二年五月、信貴山行円作銘		
散手	一	
安貞二年五月、信貴山行円作銘		
貴徳	一	
安貞二年五月、信貴山行円作銘		
天童	一	
弘安二年八月銘		
陵王	一	
太子御廟、弘安七年二月、円信作銘		
還城楽	一	
太子御廟、円信作銘		
退走徳	一	
太子御廟、円信作銘		
陵王	二	
納曾利	一	
退走徳	三	
各興国四年八月銘		
附木造	四面	
退走徳	一	
明応七年八月少貳作銘		
木造弘法大師坐像	一軀	奈良県奈良市中院町 元興寺極楽坊
像内に理趣経及び珠禪願文を朱書する		
附舍利	一包	
紙本墨書願文	一紙	
珠禪敬白とある		
紙本墨書結縁交名	一紙	
紙本朱及び墨書妙法蓮華経	八卷	
卷一、二、四、六、八各正		
中二年五月奥書		
紙本朱及び墨書観普賢経	一卷	
正中二年五月奥書		
紙本墨書無量義経	一卷	
正中二年五月奥書		
紙本墨書般若心経及び阿弥陀台一卷		
正中二年五月奥書		

名	称	員数	所有者
紙本墨書妙法蓮華経	普門品	一卷	同
紙本墨書般若心経		一卷	同
紙本愛染明王摺仏		一括	同
包紙等		一括	同
木造聖徳太子立像	善春作	一軀	同
像内納入の木仏所画所等列名に、文永五年三月十一日木造、同廿五日色取の記がある			
附紙本墨書文永五年眼清願文		一紙	同
紙本墨書木仏所画所等列名		一紙	同
紙本墨書道忍消息		一紙	同
紙本墨書文永五年結縁人名帳		一冊	同
紙本墨書結縁人交名等		一括	同
紙本聖徳太子摺仏		十四枚	同
紙本太子千坏供養札		一括	同
木造阿弥陀如来立像	快慶作	一軀	同
左足柄に巧匠阿弥陀仏の銘がある			
木造阿弥陀如来坐像		一軀	同
像内に仁平四年造立の銘がある			
刀 無銘正宗	(名物観世正宗)	一口	国(文化財保護委員会保管)
響銅水瓶		一口	国(東京国立博物館保管)
金銅龍文線刻水瓶		一口	同
響銅水瓶		一口	同
響銅水瓶		一口	同
響銅水瓶		一口	同
響銅水瓶		一口	同
響銅水瓶		一口	同

工藝品の部

品名	数量	所在地
菊蒔絵手箱	一合	三鷹市下連雀二一
太刀 銘来国光	一口	龜井 茲建
梨地金螺鈿蛭卷打刀拵	一口	神奈川県横浜市鶴見区生麦町四六二 坂田 庄一
黒革威肩白腹巻 大袖付	一領	鎌倉市山ノ内四八五 前田 廉造
短刀 銘江州甘呂 俊長	一口	茅ヶ崎市東海岸 神崎 正義
色絵輪宝瑠磨文香炉 仁清作 明暦三年銘	一口	石川県小松市三日町二二 園山 武平
松藤文兵庫鎖太刀拵	一口	京都府京都市上京区一条通御前通西入ル 高津 義家
金剛金剛盤	一面	南区九条町 教王護国寺
金銅五鈎鈴	一口	同
金銅五鈎杵	一口	同
金銅瑠磨	一口	同
金銅舍利塔	一口	同
金銅鉢	一口	同
金銅大鏡	一口	同
金銅鏡	一口	同
金銅皿	一口	同
金銅鉢蓋	一口	同
附金銅角蓋 一枚	一枚	同
鉢子 文保二年七月の針銘がある	一口	同
白銅水瓶	一口	同
彩絵曲物筥	一合	同
木造彩色大壇	一基	同
刻文脇息	一基	同
漆皮箱	一合	同
水精念珠	一連	同
附黒漆独鈷文蒔絵合子 一合 永徳二年の朱書がある	一合	同
桃蒔絵螺鈿輪花盤	一枚	左京区下鴨松原町 中川 伊作
金銅阿曼曼茶羅	二面	伏見区醍醐伽藍町二〇 醍醐 寺

八五七二
枚口口

品名	数量	所在地
金銅莊唐組垂飾	一条	大阪府大阪市都島区網島町四〇 財団法人 藤田美術館
附金銅鈴 十四箇	一箇	同
牡丹造梅花皮絞鞆腰刀拵	一口	同 東淀川区南方町三九九 藤原 清子
睡布袋図二所物 小柄銘宗珉(花押)	一揃	同 城東区左専道町六九三 田口儀之助
短刀 銘国光 元応二年三月廿日	一口	同
刀 銘奥州仙台住山城大掾藤原国包 寛永五年八月吉日	一口	同
金銅観音菩薩像御正鉢	一面	鳥根県出雲市野尻町 法王 寺
金銅藏王権現像御正鉢	一面	同
金銅藏王権現像御正鉢	一面	同
刀 無銘一文字	一口	岡山県岡山市東古松町 林原 一郎
太刀 銘光忠	一口	愛媛県伊予市米湊 岡部 泰治
刀 銘備前国長船住左衛門尉藤原朝臣則光 於作州鷹取庄黒坂造 鷹取勘解由左衛門藤原朝臣泰佐打ス 長祿三年己卯十二月十三日	一口	福岡県大牟田市正山町 二宮 秀夫

書跡の部	名称	員数	所有者
宋版楽善録(普門院本) 紹定二年刊本	五冊	東京都文京区駒込上富士前町一四七 財団法人 東洋文庫	
古今和歌集 卷第二、第四断簡 亀山切十七葉	一帖	同 港区芝白金今里町一二一 藤原 銀次郎	
源氏物語(青表紙本) 関屋卷 文明十三年飛鳥井雅康書 写奥書	五十三冊	同 大田区田園調布鶴ノ木町三八八 小汀 利得	
宋版致堂先生說史管見(金沢文庫本) 淳熙九年刊本	八冊	同	

宋版春秋經伝集解 淳熙三年閏阮氏種德堂刊本	十六冊	同	右
宋版五燈会元(普門院本) 卷廿宝祐元年沈浄明刊行跋	七冊	同	右
宋版後漢書 卷第八十 永祿六年林宗二識語	三十冊	同	右
重之集	一帖	同	右
紫紙金字金光明經卷第六	二卷	同	右
虛堂智愚墨蹟 偈語 宝祐甲寅秋	一幅	同	右
古林清茂墨蹟 与月林道皎偈 泰定四年九月	一幅	同	右
白樂天常楽里閑居詩 建武五年卯月十二日跋	一卷	同	右
十五首和歌 藤原定家筆	一卷	同	右
柴花物語目錄(金沢文庫本)	一卷	同	右
華嚴經(高山寺尼經) 貞永元二年書写奥書	四十帖	同	右
宋版唐百家詩選	五冊	同	右
宋版王右丞文集	二冊	同	右
石室善玖墨蹟 拈香語 貞治二年二月廿五日	一幅	同	右
明月記 自筆本 寛喜二年正月	一卷	同	右
論語集解 卷第五、六 虎関師鍊筆 元徳三年五六月書写奥書	四卷	同	右
寂室元光墨蹟 遺偈 貞治六年九月一日	一幅	同	右
宋版十諫書	二冊	同	右
緋色紙(冬上 ふきこもり)	一幅	同	右

新指定重要文化財一覽(書跡、考古の部)

名	称	員数	所 有 者
仏鑑禪師墨蹟 尺牘		一幅	同 姫路市飾磨区恵比酒 萩野 一
古語拾遺 下部兼直筆		一卷	同 奈良県天理市杣之内 天理大学附属天理図書 館
延喜式神名帳 上下		二卷	同 同
宋版予章黄先生文集		二十二冊	同 同
大般若經 写経四百七十卷 版経百三十卷		六百卷	同 生駒郡斑鳩町法隆寺
法隆寺一切経		六百六十一卷	同 同
宋版一切経 (内写経四百五十七帖、和版経八十七帖)		二千七百六十六帖	同 磯城郡初瀬町大字長谷寺
本朝文粹 卷第十三、十四		六卷	同 大河内海豪
明月記 自筆本 嘉祿三年春		一卷	同 吉野郡吉野町大字上市二北村 繁樹
不空羼索神變真言經		十八卷	同 和歌山県伊都郡高野町大字高山 宝院
色定法師一筆一切経 自文治三年至嘉祿三年奥書		四千三百三十一卷	同 福岡県宗像郡支海町田島 興聖寺
埴輪武装男子立像		一軀	同 国(東京国立博物館保管)
埴輪女子立像		一軀	同 同
群馬県佐波郡殖蓮村大字八寸字横見出土		一軀	同 同
埴輪女子倚像		一軀	同 同
群馬県邑楽郡大川村大字古海出土		一箇	同 同
埴輪家		一箇	同 同
奈良県桜井市大字外山出土		一箇	同 同

埴輪家 宮崎県児湯郡妻町西都原出土	一箇	同	右
埴輪船 宮崎県児湯郡妻町西都原出土	一箇	同	右
埴輪馬 埼玉県熊谷市上中条出土	一箇	同	右
埴輪猪 群馬県佐波郡境町大字上武士天神山出土	一箇	同	右
流水文銅鐸 兵庫豊岡市気比出土	四口	同	右
埴輪女子像 栃木県宇都宮市雀宮町大字雀宮牛塚出土	一軀	国(東京大学保管)	
埴輪男子跪坐像 茨城県鹿島郡銚田町青柳字不二内出土	一軀	同	右
埴輪男子胡坐像 附埴輪女子像一軀 埴輪跪坐像一軀 福島県平市大字神谷作字腰巻出土	一軀	福島県(福島県立磐城高等学校保管)	
埴輪男子立像 群馬県邑梁郡大川村出土	一軀	群馬県伊勢崎市西町相川	徹子
埴輪男子立像 群馬県佐波郡殖蓮村出土	一軀	同	右
埴輪男子倚像 群馬県勢多郡上川淵村出土	一軀	同	右
埴輪武装男子立像 群馬県新田郡強戸村出土	一軀	同	右
埴輪武装男子像 埼玉県熊谷市大字上中条出土	一軀	埼玉県大里郡大里村大字青山根岸喜喜夫	
埴輪猿 茨城県行方郡玉造町沖洲出土	一箇	東京都文京区西片町一〇ノろノ九号	中沢武男
埴輪女子像 埼玉県児玉郡児玉町出土	一軀	同中野区千光前町一四	大倉亀
埴輪犬 群馬県佐波郡境町大字上武士天神山出土	一箇	石川県金沢市中川除町八五二	嵯峨保二

金銅荘環頭大刀 刀身共 島根県安来市植田町出土	一口		大阪府泉大津市助松松ノ浜 細見亮市
埴輪牛 奈良県磯城郡田原本町出土	一箇		奈良県磯城郡 田原本町
肥後国球磨郡免田才園古墳出土品			熊本県球磨郡免田町 永才部落
一、漆獸帶鏡	一面		
一、玉類 碧玉管玉八箇、水晶切子玉二十二箇、ガラス丸玉一箇			
一、金銀 一、馬具類 金銅轡鏡板殘闕共 四箇分 鉄地銀張轡鏡板 二箇 金銅子葉文透彫杏葉殘闕共 三箇分 金銅杏葉殘闕共 六箇分 鉄地銀張杏葉 二箇 鉄杏葉殘闕 一括 金銅雲珠 一箇 鉄地銀張雲珠 一箇 金銅辻金物 一箇 鉄地銀張辻金物 四箇			
一、銅鈴	八箇		
一、鉄刀劍類	一括		
一、鉄銑殘闕	一箇分		

重要文化財に未指定物件を追加し、名称及び員数を改めたもの

工藝品の部 ○印は今回追加したものを示す

名	称	員数	所 有 者
法会所用具類		三十九点	京都府京都市南区九条町 教王護国寺
舞楽水引		六枚	
蛮絵袍		二枚	
舎利会装束	衣二領、袴二腰	二組	
康元二年三月日在銘			

○舍利会装束衣 康元二年三月日在銘	二領		
○舍利会装束大口 弘長二年四月日在銘	二腰		
○舍利会散花机前垂 赤蓮華文錦 弘長二年四月日在銘	一枚		
奚婁	一口		
鼓	一口		
羯鼓 合付	一口		
鼓胴 皮各二枚付	二口		
鉦鼓	一口		
奉施入東寺舍利安貞二年六月在銘			
木履	五両		
東寺舍利会八部衆在銘			
持物 内七本建武元年在銘	十三本		
○附袴殘闕	一腰		
○舞装束箱 正嘉武年三月三日在銘	一口		
太鼓皮	二枚		
○舍利会装束殘闕	一括		

書跡の部

名	称	員数	所有者
大覚禪師墨蹟 (○大覚禪師墨蹟二幅を追加)		三幅	神奈川県鎌倉市山之内 建長寺

考古の部

名	称	員数	所有者
石上神宮禁足地出土品			奈良県天理市大字布留 石上神宮
一、硬玉勾玉	十一箇		
○一、碧玉管玉	一括		
○一、硬玉囊玉等	十箇		
○一、碧玉琴柱形石製品	一箇		
○一、金銅鑲	三箇		
○一、金銅垂飾品	一箇		
○一、環頭大刀柄頭	一箇		
○一、銅鍔	二本		
○附一、金銅球形製品	一箇		
一、銅鏡	二面		
一、鏡形銅製品	二面		
出雲国玉作趾出土品			島根県八束郡玉湯村 玉作湯神社
玉類及同未成品	百八十四箇		
砥石 殘闕共	百六十二箇		
硝子塊	十二箇		
坩堝殘片等	一括		
○玉類及同未成品二十九箇、 (砥石殘闕共六十二箇、硝子塊 四箇を追加)			
備中国倉敷安養寺裏山経塚出土品			岡山県倉敷市浅原 勝福寺
一、瓦経	百九十六枚		
一、土製塔婆型題箋	八本		
一、土製宝塔	一基		
(○瓦経四枚追加)			

新指定重要文化財一覧(書跡の部)

重要文化財の名称及び員数を改めたもの

書跡の部

名	称	員数	所 有 者
騎獅文殊菩薩像(康円作)	内納入造像関係文書	三卷	東京都目黒区上目黒七ノ一〇 財団 法人大東急記念文庫
造像願文	經文筆 文永十年十一月晦日	一卷	
金剛般若經	經文筆 文永十年八月七日	一卷	
見返絹本着色稚児文殊出現図			
夢想記	祐經筆 文永十年十二月八日		
般若心經	善策筆 弘安八年四月十九日		
梵字真言	快円筆 弘安八年四月十九日		
般若心經	證深筆 弘安八年卯月十九日		
名号	弘安八年五月廿九日		
結縁記	志願筆 弘安八年五月二日	一卷	
尊勝陀羅尼等	文空筆 弘安八年卯月廿一日		
般若心經並梵字真言	隆性筆 弘安八年四月十九日		
般若心經並梵字真言	證深筆		
仮名名号	頼禪筆 弘安八年五月七日		

文化財保護委員会昭和32年度補助金交付一覧

昭和32年度補助金交付一覧

33年3月

総括表

昭和32年度4半期別補助金交付表

目・目の細分	補助額	第1—4半期 交付額	第2—4半期 交付額	第3—4半期 交付額	第4—4半期 交付額	備考
文化財保存修理費補助金	266,535,000	101,469,000	79,759,000	58,988,000	26,319,000	
国宝其他建造物保存修理費補助金	211,750,000	83,100,000	65,125,000	42,350,000	21,175,000	
国宝其他宝物類保存修理費補助金	14,479,000	6,064,000	4,661,000	1,630,000	2,124,000	
日光二社一寺国宝其他保存修理費補助金	23,100,000	6,930,000	6,930,000	6,930,000	2,310,000	
薬師寺薬師三尊等保存修理費補助金	3,996,000	2,500,000	1,000,000	136,000	360,000	
史跡名勝天然記念物保存修理費補助金	9,900,000	2,875,000	2,043,000	4,632,000	350,000	
常磐公園保存修理費補助金	3,310,000	0	0	3,310,000	0	ほかに昭和31年 よりの繰越 2,678,650
文化財防災施設費補助金	69,995,000	24,821,000	18,513,000	16,263,000	10,398,000	
国宝其他防災施設費補助金	47,195,000	19,321,000	12,513,000	8,463,000	6,898,000	
興福寺収蔵庫建設費補助金	12,800,000	5,000,000	5,500,000	2,300,000	0	
金剛峯寺収蔵庫建設費補助金	5,000,000	0	0	5,000,000	0	
観世音寺収蔵庫建設費補助金	3,000,000	0	0	0	3,000,000	
法隆寺管理費補助金	2,000,000	500,000	500,000	500,000	500,000	
無形文化財助成金	2,470,000	488,000	637,000	858,000	487,000	
計	339,000,000	126,778,000	98,909,000	76,109,000	37,204,000	

補助金交付表 (府県別補助額及件数)

国宝其他防災施設費補助金	収蔵庫建設費補助金	法隆寺管理費補助金	無形文化財助成金	合計		府県別		
				金額	件数			
150,000	2			1,150,000	3	北海道		
470,000	1			7,863,000	4	青森		
5,600,000	1			5,600,000	1	岩手		
100,000	1			6,968,000	3	宮城		
700,000	1			736,000	2	秋田		
				109,000	2	山形		
				3,310,000	1	福島		
6,750,000	3			31,038,000	11	茨城		
2,080,000	2			3,646,000	3	栃群		
1,500,000	2			1,500,000	2	埼玉		
500,000	1		870,000	22,369,000	10	千葉		
444,000	2			6,654,000	3	東奈		
370,000	2			370,000	2	神奈		
				370,000	2	新富		
				700,000	1	石川		
350,000	2			8,327,000	5	福山		
1,261,000	4			2,317,000	5	山梨		
500,000	1			3,675,000	2	長野		
100,000	1			1,674,000	4	岐阜		
1,268,000	3			9,200,000	10	静岡		
65,000	1		200,000	1,877,000	9	愛知		
2,100,000	2			32,029,000	17	三重		
4,794,000	4			47,875,000	24	滋賀		
2,615,000	11		550,000	8,349,000	17	京都		
				15,896,000	5	大阪		
2,754,000	7	12,800,000	2,000,000	47,564,000	17	兵庫		
2,584,000	1	5,000,000		11,685,000	8	奈良		
				2,000,000	1	和歌		
				7,320,000	2	鳥取		
3,900,000	1			5,796,000	3	岡山		
50,000	1			3,598,000	7	広島		
250,000	1			4,458,000	3	山口		
			850,000	7,481,000	3	徳島		
3,250,000	1			6,204,000	3	香愛		
600,000	3			7,961,000	5	高知		
100,000	1	3,000,000		4,713,000	6	高福		
1,050,000	3			1,519,000	7	福岡		
140,000	1			2,215,000	5	佐賀		
				1,300,000	2	長崎		
350,000	2			350,000	2	熊本		
450,000	2			1,234,000	4	大宮		
						鹿兒		
47,195,000	71	20,800,000	2,000,000	2,470,000	9	339,000,000	226	総計

文化財保護委員会昭和三二年度補助金交付一覽

昭和 3 2 年 度

文化財保護委員会昭和三三年度補助金交付一覽

府 県 別	科 目	国 宝 其 他 建 造 物 保 存 修 理 費 補 助 金		国 宝 其 他 宝 物 類 保 存 修 理 費 補 助 金		日 光 二 社 一 寺 国 宝 其 他 保 存 修 理 費 補 助 金		薬 師 寺 薬 師 三 尊 等 保 存 修 理 費 補 助 金		史 跡 名 勝 天 然 記 念 物 保 存 修 理 費 補 助 金		常 磐 公 園 保 存 修 理 費 補 助 金	
		金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数
北 海 道	森手	6,893,000	2							1,000,000	1		
	岩城	6,868,000	2							500,000	1		
青 山 県	山形			36,000	1								
	福島			109,000	2								
茨 城 県	木馬	350,000	1	90,000	1	23,100,000	3			748,000	3	3,310,000	1
	玉葉	1,566,000	1										
千 葉 県	京川	20,999,000	5										
	神川	6,210,000	1										
新 潟 県	山井			120,000	1					250,000	1		
	石井	700,000	1										
福 山 県	山梨	7,800,000	2	177,000	1								
	長野	1,056,000	1										
岐 阜 県	静野	3,175,000	1										
	静岡			355,000	1					1,219,000	2		
愛 知 県	知重	7,070,000	5	862,000	2								
	三重	137,000	1	925,000	4					550,000	2		
滋 賀 県	滋賀	28,420,000	8	1,312,000	6					197,000	1		
	京都	39,526,000	9	2,755,000	10					800,000	1		
大 阪 府	大阪	3,748,000	2	436,000	1					1,000,000	1		
	兵庫	13,940,000	3	1,422,000	1					534,000	1		
奈 良 県	奈良	25,721,000	5	293,000	2			3,996,000	1				
	山歌	2,950,000	2	1,151,000	4								
鳥 取 県	鳥取	2,000,000	1										
	岡山	6,320,000	1							1,000,000	1		
山 口 県	山口	760,000	1	1,136,000	1								
	徳島	2,726,000	2	528,000	3					294,000	1		
香 川 県	香川	4,208,000	2										
	媛知	6,631,000	1										
愛 媛 県	高知	2,800,000	1	154,000	1								
	福岡	7,361,000	2										
佐 賀 県	佐賀			1,613,000	4								
	長崎			469,000	4								
熊 本 県	熊本	1,415,000	2	102,000	1					558,000	1		
	分岐	400,000	1							900,000	1		
大 宮 府	大宮												
	鹿島			434,000	1					350,000	1		
総 計		211,750,000	66	14,479,000	52	23,100,000	3	3,996,000	1	9,900,000	19	3,310,000	1

国宝其他建造物保存修理費補助金

番号	県別	名称	所在地	補助額	備考
1	青森	弘前城北門及び未申櫓	弘前市白銀町	5,093,000	完
2	〃	弘前城二之丸南門東門及び天守	〃	1,800,000	
3	宮城	瑞巖寺庫裡、廻廊、五大堂中門、御成門	宮城郡松島町	6,520,000	
4	〃	東照宮本殿、唐門、透塀	仙台市北六番町	348,000	完
5	栃木	円通寺表門	芳賀郡益子町	350,000	完
6	埼玉	出雲伊波比神社本殿	入間郡毛呂山町	1,566,000	完
7	東京	嚴有院靈廟勅額門	台東区上野桜木町	1,969,000	完
8	〃	根津神社本殿、幣殿、拜殿(装飾工事)	文京区根津須賀町	8,000,000	
9	〃	金剛寺不動堂	南多摩郡日野町高幡	7,000,000	
10	〃	本門寺塔婆(五重塔)	大田区池上本町	2,730,000	完
11	〃	増上寺三解脱門	港区芝公園第2号地	1,300,000	
12	神奈川	三溪園臨春閣第3屋天瑞院寿塔、春草廬	横浜市中区本牧三之谷	6,210,000	
13	福井	明通寺三重塔	小浜市門前	700,000	完
14	山梨	雲峰寺書院及び仁王門	塩山市上萩原	4,000,000	
15	〃	善光寺本堂	甲府市善光寺町	3,800,000	
16	長野	葛山落合神社本殿	長野市大字入山	1,056,000	完
17	岐阜	新長谷寺鎮守堂及び薬師堂	関市長谷寺町	3,175,000	
18	愛知	尾張大國霊神社楼門	中島郡稻沢町	4,000,000	
19	〃	甚目寺東門	海部郡甚目寺町	1,160,000	完
20	〃	甚目寺南大門	〃	680,000	完
21	〃	東観音寺塔婆	豊橋市小松原町	740,000	
22	〃	知立神社塔婆	碧海郡知立町	490,000	完
23	三重	地藏院護摩堂	鈴鹿郡関町	137,000	完
24	滋賀	延暦寺釈迦堂	大津市坂本本町	12,000,000	
25	〃	苗村神社東西本殿	蒲生郡竜王町	2,600,000	
26	〃	円光寺本堂	野洲郡野洲町	5,000,000	
27	〃	日吉大社摂社樹下神社及び白山姫神社本殿	大津市坂本本町	328,000	完
28	〃	日吉大社宇佐宮本殿	〃	1,500,000	
29	〃	彦根城天守附櫓及び多聞櫓	彦根市金亀町	5,900,000	
30	〃	篠津神社表門	大津市膳所中津町	900,000	完
31	〃	伊砂々神社本殿	草津市渋川町	192,000	完
32	京都	教王護国寺灌頂院及び四脚門	京都市南区九条町	9,000,000	
33	〃	醍醐寺五重塔	〃 伏見区醍醐伽藍町	11,700,000	
34	〃	二条城二之丸御殿遠侍、式台、車寄	〃 中京区二条通	6,250,000	
35	〃	本願寺書院	〃 下京区堀川通花屋町	7,000,000	
36	〃	玉鳳院開山堂及び四脚門	〃 右京区花園妙心寺町	3,967,000	完
37	〃	吉田神社齋場所太元宮	〃 左京区吉田神楽岡町	650,000	完
38	〃	妙喜庵茶室及び書院	乙訓郡大山崎村	117,000	完
39	〃	八坂神社末社蛭子神社殿	京都市東山区祇園町	92,000	完
40	〃	由岐社拜殿	〃 左京区鞍馬本町	750,000	完
41	大阪	積川神社本殿	岸和田市積川町	708,000	完

番号	県別	名称	所在地	補助額	備考
42	大阪	泉穴師神社本殿 住吉神社、春日神社	泉大津市豊中	3,040,000	
43	兵庫	如意寺文珠堂及び阿弥陀堂	神戸市垂水区榎谷町	6,000,000	
44	〃	浄土寺浄土堂	小野市浄谷町	7,100,000	
45	〃	円教寺金剛堂	姫路市書写	800,000	
46	奈良	東大寺中門及び廻廊	奈良市雉司町	6,000,000	
47	〃	法隆寺東室	生駒郡斑鳩町	3,540,000	
48	〃	唐招提寺宝蔵	奈良市五条町	4,806,000	
49	〃	当麻寺曼荼羅堂	北葛城郡当麻村	8,375,000	
50	〃	手向山神社宝庫及び住吉神社本殿	奈良市雉司町	3,000,000	
51	和歌山	東照宮社殿	和歌山市和歌浦	670,000	完
52	〃	八幡神社(野上)本殿、拜殿、武内神社社殿、平野今木神社社殿、玉垂社社殿	海草郡野上町	2,280,000	
53	島根	清水寺本堂	安来市清水町	2,000,000	完
54	岡山	本蓮寺本堂	邑久郡牛窓町	6,320,000	
55	広島	嚴島神社西廻廊	佐伯郡宮島町	760,000	完
56	山口	月輪寺薬師堂	佐波郡徳地町	1,426,000	完
57	〃	龍福寺本堂	山口市大殿大路	1,300,000	完
58	徳島	丈六寺三門及び観音堂	徳島市丈六町	2,208,000	完
59	〃	丈六寺本堂	〃	2,000,000	
60	香川	屋島寺本堂	高松市屋島東町	6,631,000	
61	愛媛	石手寺護摩堂、訶梨帝母天堂、鐘楼	松山市石手町	2,800,000	
62	高知	高知城第3期工事、懐徳館、西多聞、黒鉄門、矢狭間塀、納戸櫓	高知市丸の内	6,500,000	
63	〃	鳴無神社社殿	須崎市浦の内	861,000	完
64	熊本	青井阿蘇神社社殿	人吉市上青井町	1,127,000	完
65	〃	明導寺阿弥陀堂	球磨郡湯前町	288,000	
66	大分	龍岩寺奥院礼堂	宇佐郡院内村	400,000	
計 (66件)				211,750,000	

日光二社一寺国宝其他保存修理費補助金

番号	県別	名称	所在地	補助額	備考
1	栃木	二荒山神社	日光市山内	2,324,000	
2	〃	東照宮	〃	9,598,000	
3	〃	輪王寺	〃	11,178,000	
計 (3件)				23,100,000	

二荒山神社(本殿・透塀)。東照宮(本殿・拜殿・廻廊・透塀)。輪王寺(三仏堂)。

国宝其他宝物類保存修理費補助金

番号	県別	所有者	名称	所在地	補助額	備考
1	山形	立石寺	天養元年如法經所碑	山形市山寺	36,000	
2	福島	薬王寺	絹本着色 弥勒菩薩像	石城郡四倉町	46,000	
3	〃	都々古別神社	長履輪太刀中身無銘	東白河郡棚倉町	63,000	
4	栃木	二荒山神社	下野男体山頂出土品	日光市内	90,000	
5	石川	心蓮社	絹本着色 阿弥陀三尊来迎図	金沢市高道新町	120,000	
6	山梨	久遠寺	本朝文粹	中巨摩郡身延町	177,000	
7	静岡	修福寺	大般若經	賀茂郡南伊豆町	355,000	
8	愛知	大樹寺	大方丈障壁面	額田郡岩津町	756,000	
9	〃	名古屋市	名古屋城旧本丸御殿天井 板絵	名古屋市	106,000	
10	三重	府南寺	木造 金剛力士立像	鈴鹿市国府町	623,000	
11	〃	久昌寺	〃 阿弥陀如来立像	伊勢市矢持町	112,000	
12	〃	明星寺	〃 薬師如来坐像	度会郡二見町	148,000	
13	〃	新大仏寺	板彫五輪塔	阿山郡阿波町	42,000	
14	滋賀	円城寺	木造 如意輪観音像	大津市別所	240,000	
15	〃	〃	大藏經尊氏願經	〃	181,000	
16	〃	浄蔵寺	絹本着色 山王権現像	蒲生郡安土町	70,000	
17	〃	金躰寺	木造 四天王立像 (持国・増長)	栗太郡栗東町	244,000	
18	〃	長福寺	〃 十一面観音立像	蒲生郡日野町	54,000	
19	〃	石山寺	一切經	大津市石山寺辺町	523,000	
20	京都	妙法院	大玄闕障壁面	京都市東山区妙法院前側町	374,000	
21	〃	北野天満宮	絹本着色 北野天神縁起 附 紙本墨書 同縁起下絵	〃 上京区北野馬喰町	430,000	
22	〃	広隆寺	木造 千手観音坐像	〃 右京区太秦蜂岡町	283,000	
23	〃	大報恩寺	〃 六観音菩薩像	〃 上京区五辻通六軒町西 入溝前町	386,000	
24	〃	教王護国寺	法会所用具類	〃 南区九条町	330,000	
25	〃	〃	東寺文書	〃 〃	310,000	
26	〃	醍醐寺	線刻如意輪観音等鏡像	〃 伏見区醍醐東大路町	45,000	
27	〃	三宝院	螺鈿如意	〃 〃	83,000	
28	〃	龍光院	竺仙梵遷墨蹟	〃 上京区紫野大徳寺町	114,000	
29	〃	陽明文庫	後二条殿記	〃 右京区宇多野上ノ谷町	400,000	
30	大阪	藤田美術館	法相宗秘事絵詞	大阪市都島区綱島町	436,000	
31	兵庫	石龕寺	木造 金剛力士立像	氷上郡山南町	1,422,000	
32	奈良	唐招提寺	〃 唐招提寺勅額	奈良市西ノ京町	113,000	
33	〃	薬師寺	麻本着色 吉祥天像	〃 〃	180,000	
34	和歌山	金剛峯寺	金銀字一切經	伊都郡高野町	269,000	
35	〃	有志入幡講十八箇院	絹本着色 五大力菩薩像	〃	264,000	
36	〃	金剛三昧院	〃 愛染明王像	〃	46,000	
37	〃	熊野速玉神社	古神宝類(装束)	新宮市	72,000	
38	広島	厳島神社	平家納經	佐伯郡宮島町	1,136,000	
39	山口	阿弥陀寺	木造 金剛力士立像	防府市牟礼	294,000	
40	〃	防府天満宮	金銅宝塔	防府市	75,000	
41	〃	〃	浅黄糸威褰取鍔兜付	〃	159,000	
42	愛媛	大山祇神社	黄糸威鍔	越智郡大三島町	154,000	
43	福岡	観世音寺	木造 阿弥陀如来坐像	筑紫郡大宰府町	147,000	

番号	県別	所有者	名称	所在地	補助額	備考	
44	福岡	観世音寺	木造 聖観音坐像	筑紫郡大宰府町	550,000		
45	〃	〃	〃 十一面観音立像	〃	675,000		
46	〃	宇美町	筑前国四王寺跡経塚群出土品	粕屋郡宇美町	241,000		
47	佐賀	常福寺	木造 薬師如来坐像	小城郡牛津町	61,000		
48	〃	〃	〃 帝釈天立像	〃	54,000		
49	〃	龍田寺	〃 普賢延命菩薩騎象像	佐賀市久保泉町	159,000		
50	〃	大興善寺	広目天・多聞天立像	三養基郡基山町	195,000		
51	熊本	満願寺	絹本着色 伝北条時定、時宗像	阿蘇郡南小国村	102,000		
52	鹿児島	鹿兒島神宮	色々威鎧兜大袖付 紺絲威鎧兜大袖付	始良郡隼人町	434,000		
計					52 件	14,479,000	

薬師寺薬師三尊等保存修理費補助金

県別	所有者	名称	所在地	補助額	備考
奈良	薬師寺	薬師寺薬師三尊等	奈良市西ノ京町	3,996,000	

史跡名勝天然記念物保存修理費補助金

番号	県別	名称	所在地	補助額	備考
1	北海道	五稜郭跡	函館市	1,000,000	
2	青森	弘前城跡	弘前市	500,000	
3	栃木	下野薬師寺跡	河内郡南河内村	100,000	
4	〃	足利氏宅跡	足利市	200,000	
5	〃	日光杉並木街道	日光市、今市市	448,000	
6	石川	七尾城跡	七尾市	250,000	
7	静岡	韭山反射炉	田方郡韭山村	1,069,000	
8	〃	新居関跡	浜名郡新居町	150,000	
9	三重	北畠氏館跡庭園	一志郡美杉村	300,000	
10	〃	旧林崎文庫	伊勢市	250,000	
11	滋賀	彦根城跡	彦根市	197,000	
12	京都	涉成園	京都市下京区烏丸通り七条上る常葉町	800,000	
13	大阪	大坂城跡	大阪市	1,000,000	
14	兵庫	姫路城跡	姫路市	534,000	
15	岡山	岡山後楽園	岡山市	1,000,000	
16	山口	吉田松陰幽囚の旧宅	萩市	294,000	
17	熊本	熊本城跡	熊本市	558,000	
18	大分	白杵磨崖仏	白杵市	900,000	
19	鹿児島	佐多旧薬園	肝属郡佐多町	350,000	
計 (19件)				9,900,000	

常磐公園保存修理費補助金

県別	名称	所在地	補助額	備考
茨城	常磐公園	水戸市	3,310,000	ほかに昭和31年度から繰越分 2,678,650円

国宝其他防災施設費補助金

番号	県別	名称	所在地	補助額	備考
(建造物防災施設)					
1	岩手	中尊寺	西磐井郡平泉町	5,600,000	A
2	山形	慈恩寺	寒河江市	700,000	E, C
3	栃木	二荒山神社	日光市山内	793,000	A, B, F
4	シ	東照宮	シ	3,494,000	
5	シ	輪王寺	シ	2,463,000	
6	埼玉	喜多院	川越市小仙波	2,040,000	D
7	千葉	観音堂	印旛郡印西町	700,000	E, C
9	東京	増上寺	港区芝	500,000	E
9	長野	新海三社神社	南佐久郡白田町	327,000	E, F
10	シ	葛山落合神社	長野市	400,000	A
11	滋賀	都久布須麻神社	東浅井郡びわ村	1,050,000	A
12	シ	宝厳寺	シ	1,050,000	A
13	京都	賀茂別雷神社外	京都市	3,798,000	D
14	大阪	桜井神社	泉北郡泉ヶ丘町	665,000	E, C
15	奈良	薬師寺外	奈良市	102,000	D
16	広島	厳島神社	佐伯郡宮島町	3,900,000	A, E
17	愛媛	松山城	松山市	3,250,000	A, E, D
		小計	17件	30,832,000	
(宝物類防災施設)					
18	神奈川	覚園寺	鎌倉市二階堂	194,000	D
19	長野	牛伏寺	東筑摩郡片丘村	384,000	A, N
20	京都	智積院	京都市東山区塩小路通	300,000	N
21	奈良	岡寺	高市郡明日香村	652,000	E
		小計	4件	1,530,000	
(宝物類保存施設)					
22	埼玉	向徳寺	比企郡菅谷村	40,000	H
23	神奈川	弘明寺	横浜市南区弘明寺町	250,000	G
24	山梨	永源寺	中巨摩郡玉穂村	250,000	G
25	岐阜	春日神社	関市	500,000	G
26	愛知	田原町	渥美郡	200,000	G
27	京都	宝積寺	乙訓郡大山崎村	596,000	T
28	奈良	聖林寺	桜井市	750,000	G
29	シ	法輪寺	生駒郡斑鳩町	700,000	G
30	和歌山	熊野速玉神社	新宮市	2,584,000	G
31	徳島	最明寺	美馬郡脇町	250,000	G
32	高知	竹林寺	高知市五台山	150,000	G
33	シ	雪蹊寺	シ 長浜	400,000	G
34	佐賀	高城寺	佐賀郡大和村	250,000	G
35	シ	蓮厳院	鹿島市	400,000	G

番号	県別	名称	所在地	補助額	備考
36	佐賀	東 妙 寺 小 計 (史跡名勝天然記 念物防災施設)	神崎郡三田川村 15件	400,000 7,720,000	G
37	千葉	大原幽学遺跡 小 計(1件) (史跡名勝天然記 念物保存施設)	香取郡干潟町	800,000 800,000	A, C D, E
38	北海道	釧路のタンチョウお よびその繁殖地	釧路郡釧路村ほか	50,000	Q
39	〃	音江環状列石	空知郡音江村	100,000	I, J K, O
40	宮城	陸奥国分寺跡	仙台市	100,000	J, K
41	新潟	水原のハクテヨウ渡 来地	北蒲原郡水原町	147,000	V
42	長野	入嶋ヶ原湿原植物群 落	諏訪市	150,000	J, K
43	山梨	富士山	山梨県	100,000	I
44	静岡	銚子塚古墳付小銚子 塚古墳	磐田市	100,000	I, J P
45	三重	御墓山古墳	上野市	65,000	I, J K
46	京都	名勝庭園虫害防止	京都府下	100,000	R
47	大阪	丸山古墳	貝塚市	147,000	I, J K, O
48	〃	黒姫山古墳	南河内郡美原町	100,000	I, J K, O
49	〃	大石塚小石塚古墳	豊中市	110,000	I, J O
50	〃	今城塚古墳	高槻市	81,000	J, K O
51	〃	松岳山古墳	中河内郡柏原町	42,000	J, K O
52	〃	土 塔	堺市	80,000	I, J K, O
53	〃	摩湯山古墳	岸和田市	40,000	J, O
54	奈良	石舞台古墳	高市郡明日香村	400,000	P
55	〃	文珠院西古墳	桜井市	100,000	I, J L, P
56	山口	八代のツルおよびそ の渡来地	熊毛郡熊毛町	50,000	Q
57	高知	土佐のオナガドリ	高知県一円	50,000	Q
58	福岡	竹原古墳	鞍手郡若宮町	100,000	M
59	熊本	弁慶ヶ穴古墳	山鹿市	140,000	M
60	宮崎	南方古墳群	延岡市	200,000	I, J M
61	〃	新田原古墳群	児湯郡新田村	150,000	K
62	鹿児島	鹿児島県のツルおよ びその渡来地	出水市、阿久根市、出 水郡高尾野町、江内村	100,000	Q
63	〃	隼 人 塚 小 計(26件) (埋蔵文化財取蔵庫)	始良郡隼人町	350,000 3,152,000	IJP
64	青森	龜ヶ岡石器時代遺跡	西津軽郡木造町	470,000	G
65	愛知	吉 胡 貝 塚	渥美郡田原町	469,000	G

番号	県別	名称	所在地	補助額	備考
		小計(2件) (埋蔵文化財 緊急調査)		966,000	
66	新潟	磐舟柵跡	村上市	223,000	S
67	愛知	古窯跡群	愛知県一円	572,000	S
68	大阪	大和川遺跡	南河内郡道明寺町	100,000	S
69	奈良	平城宮跡	奈良市	50,000	S
		小計(4件) (古墳買上)		945,000	
70	大阪	鍋塚古墳	南河内郡道明寺町	750,000	T
71	〃	二子塚古墳	〃 太子町	500,000	T
		小計(2件)		1,250,000	
		計	(71件)	47,195,000	

興福寺収蔵庫建設費補助金

県別	名称	所在地	補助額	備考
奈良	興福寺	奈良市登大路町	12,800,000	完

金剛峯寺収蔵庫建設費補助金

県別	名称	所在地	補助額	備考
和歌山	高野山文化財保存会	伊都郡高野町	5,000,000	

観世音寺収蔵庫建設費補助金

県別	名称	所在地	補助額	備考
福岡	観世音寺	筑紫郡大宰府町	3,000,000	

法隆寺管理費補助金

県別	名称	所在地	補助額	備考
奈良	法隆寺	生駒郡斑鳩町	2,000,000	

無形文化財助成金

番号	県別	名称	交付先	補助額	備考
1	東京	(藝能) 能楽	能楽三役養成会	450,000	伝承者養成
2	大阪	文楽	因会、三和会	500,000	〃
3	三重	(工藝) 伊勢型紙	伊勢型紙業組合	200,000	〃
4	香川	蒟醬、存清 (公開)	香川県	800,000	〃
5	東京	日本伝統工藝	社団法人 日本工藝会	220,000	第4回工藝展(東京会場)
6	〃	文楽	東京文楽会	100,000	合同公演
7	〃	郷土藝能	財団法人 日本青年館	100,000	第8回全国郷土藝能大会
8	大阪	大阪府無形文化財特別公開	大阪府藝術祭実行委員会	50,000	
9	香川	日本伝統工藝	社団法人 日本工藝会	50,000	第4回工藝展(高松会場)
		計	9件	2,470,000	

文化財保護委員会昭和三三年度補助金交付一覽

防災設備考欄施設内容略号

- | | | | | | | |
|--------|--------|-------|-------|-------|--------|---------|
| A 消火栓 | D 警火装置 | G 収蔵庫 | J 説明板 | M 覆屋 | P 整地 | S 緊急調査 |
| B 消火水路 | E 貯水水槽 | H 金庫 | K 境界標 | N 防火壁 | Q 飼料 | T 買上 |
| C ポンプ | F 避雷針 | I 標識 | L 囲柵 | O 注意札 | R 虫害防止 | U 消防道路等 |
| | | | | | | V 水路改修 |

昭和三三年度、国立美術館、博物館新収品目録

国立近代美術館

絵画 (日本画)	作者	年代
枝間の歌 池中の舞	石井林響	一九二八
鶺鴒 飼	近藤浩一路	一九三三
犬山 夜漁	〃	一九三〇
雨余 晩駅	〃	一九三一
嘯 画 (洋画)	結城素明	一九〇一
夕陽 陽	浅井忠	一九〇一
香ト リエ	荒井竜男	一九四九
朱の中の朱	糸園和三郎	一九五五
鳥の壁	〃	一九五七
採氷 風景	居申佳一	一九三六
海 音	小出楯重	一九三〇
観 後	古賀春江	一九二一
午 後	佐分真	一九三二
海 辺	田中岑	一九五七
ボナテイ氏の像	裕伊之助	一九四七
新宿 風景	長谷川利行	一九二五
パリー 風景	藤田嗣治	一九一八
黒衣 婦人像	前田寛治	一九二五
作 品	〃	一九二五
朝顔	牧野虎雄	一九四二
梨の花	〃	一九四二
コスチュームの娘	村山槐多	一九一七
腰越 風景	ワীগマン	一九一七
彫塑	中原悌二郎	一九一九

デッサン	作者	年代
裸婦 A・B	佐分真	一九五七
版画	〃	一九五七
村のコンポジション	土橋醇一	一九五七
東の間の幻影	駒井哲郎	一九五七
クローバの実	〃	一九五七
外8点	〃	一九五七
こだまのリズム	カーステン	一九五八
対角線の緊張	ベルトリング	一九五五
アシユアン	〃	一九五六
ネロ	〃	一九五七
ヴィラ、ヴィコザの公爵邸	カルヴァルホ	一九五六
女刑降下	グレコ	一九五五
作品	ファッティニ	一九五五
甘い息吹とるんだ	フリードレン	一九五四
眼	ダーリー、チェス	一九五四
Engraving	〃	一九五四

東京国立博物館

観板 図屏風 絹本着色 住吉具慶筆	六曲一雙 江戸時代
溪山春色 図屏風 金地裏箔紙本着色 松林桂月筆	六曲一雙 昭和一〇年作
山水 図 紙本着画 一幅 幡身のみ	室町時代
地藏菩薩像 幡 絹本着色 一旒 幡身のみ	唐時代
菩薩像 幡 絹本着色 一旒 幡身のみ	唐時代
二菩薩立像 麻布着色 一面 敦煌出土 唐末五代	唐時代
山帰来 図 紙本淡彩 俵屋宗達筆 一幅	江戸時代
兎 桔梗 図 紙本着画 俵屋宗達筆	江戸時代
林和靖 図 紙本淡彩 狩野芳崖筆	江戸時代
月梅 図 紙本着画 橋本雅邦筆	明治時代
遊女聞香 図 絹本着色 宮川長春筆	明治時代
京名所 図屏風 紙本着色 六曲一雙	江戸時代
書跡	〃
本阿弥光悦筆和歌卷 一卷	江戸時代
陶印(橋本雅邦遺品) 三顆	江戸時代
石印(橋本雅邦所用) 二顆	江戸時代
椿山尺牘 一卷	江戸時代
元田永孚筆五言長詩 一幅	現代
藤原忠通自筆書状 一幅	平安時代
彫刻	〃
仏 頭 スツッコ造 一個	四一五世紀
仏 頭 スツッコ造 一個	四一五世紀
仏 頭 スツッコ造 一個	四一五世紀
仏 頭 スツッコ造 一個	四一五世紀
仏 坐像 スツッコ造 一個	四一五世紀
仏 立像 スツッコ造 一個	四一五世紀
比丘合掌像 スツッコ造 一個	四一五世紀
アカントス柱頭 スツッコ造 一個	四一五世紀
アフガニスタン・ハッダ出土	四一五世紀
壁面裝飾 スツッコ造 一個	四一五世紀
アフガニスタン・ハッダ出土	四一五世紀

菩薩	頭部 泥造	一個	五—六世紀
中央アジア・トゥムシユク出土			
仏	頭 泥造	一個	五—六世紀
中央アジア・トゥムシユク出土			
菩薩	頭部 泥造	一個	五—六世紀
中央アジア・トゥムシユク出土			
供養者頭部 泥造	一個	六—七世紀	
中央アジア・トゥムシユク出土			
供養者頭部 泥造	一個	五—六世紀	
中央アジア・トゥムシユク出土			
三眼菩薩頭部 泥造	一個	六—七世紀	
中央アジア・トゥムシユク出土			
供養者頭部 泥造	一個	六—七世紀	
中央アジア・トゥムシユク出土			
供養者頭部 泥造	一個	六—七世紀	
中央アジア・トゥムシユク出土			
供養者頭部 泥造	一個	六—七世紀	
中央アジア・トゥムシユク出土			
比丘頭部 泥造	一個	六—七世紀	
中央アジア・トゥムシユク出土			
金工 (新収品なし)			
三十疋竜三所物 銘祐乗作	光孝(花押)	一揃	
陶磁			
三彩獅子枕			
漆工			
波千鳥蒔絵提重		一個	
染織			
ベルシヤ錦		一枚	一七世紀
ベルシヤ錦		一枚	一七世紀
唐織		一領	江戸時代後期

厚板	織	一領	江戸時代後期
唐織	絹	一領	江戸時代後期
長絹	絹	一領	
長絹	絹	一領	
更紗	布	一枚	
更紗	布	一枚	
刺繡	裂	二枚	
考古			
彌生式土器	壺	二個	
繩文式土器	壺	一個	
厥手大刀	刀	一口	
土師骨壺	壺	一個	
彩文土偶	偶	一個	
四獸葡萄鏡	鏡	一個	
漆耳杯	杯	一個	

京都国立博物館

書跡			
鳥居大路文書		一二通	
考古			
銅造鍍金骨蕨器		一合	
波文方格規矩四神鏡		一面	
流雲文方格規矩四神鏡		一面	
葉文方格規矩四神鏡		一面	
波文方格規矩四神鏡		一面	
流雲文方格規矩四神鏡		一面	
同	右	一面	
流雲菱形文方格規矩四神鏡		一面	
重要美術品獸帶規矩四神鏡		一面	

奈良国立博物館
(新収品なし)
波文方格規矩四神鏡 一面
蓮華文方格規矩禽獸文鏡 一面
流雲文方格規矩渦雲文鏡 一面

第一三回日本美術展覧会出品、入選、陳列点数表

科 別	一般申込	無 鑑 査	総申込数	入 選 数	内新入選	(掛替を含む) 陳列総数
日 本 画	631	86	717	289	28	掛替67を含め て 375
洋 画	1,808	137	1,945	532	81	669
彫 塑	288	91	379	185	25	276
美術工藝	718	86	804	303	46	389
書	1,833	71	1,904	694	292	掛替184を含め て 765
計	5,278	遺作陳列を含めて 471	5,749	2,003	472	2,474

第一三回日本美術展覧会審査員名簿

◎(会長)高橋誠一郎
 第一科(日本画)
 (会)徳岡神泉
 (会)中村岳陵
 (会)山口蓬春
 (会)福田平八郎
 (会)池田正太郎
 (会)岩田深太郎
 (会)伊東小水
 (会)川崎野村
 (会)矢野明村
 (会)橋本英治
 (会)西藤三雄
 (会)加藤栄三
 (会)田中以庵
 (会)山中紫明
 (会)山本倉丘
 (会)寺嶋紫明
 第二科(洋画)
 (会)石井柏亭
 (会)長谷川昇
 (会)川島理一郎
 (会)辻島一永
 (会)中沢弘光
 (会)中村研一
 (会)山下新太郎
 (会)有島生馬
 (会)石川寅治
 (会)伊原宇三郎

第三科(彫塑)
 (会)裕伊之助
 (会)中野和高
 (会)寺内万治郎
 (会)木下義謙
 (会)鬼頭鍋三郎
 (会)金沢秀之助
 (会)棟方志功
 (会)山下忠平
 (会)高野三三男
 (会)安藤信哉
 (会)佐藤一信
 (会)佐藤章哉
 (会)柚木久太郎
 (会)光安浩行
 (会)新道繁男
 (会)平通武男
 (会)吉田三佑郎
 (会)藤井浩夫
 (会)朝倉文夫
 (会)斎藤雄夫
 (会)北村望雄
 (会)加藤清望
 (会)吉田久継
 (会)国方三三
 (会)後藤清一
 (会)沢田政広
 (会)中川清三
 (会)長沼孝三

第四科(美術工藝)
 (会)山本稚彦
 (会)朝倉響子
 (会)北村治禱
 (会)岩田藤七
 (会)山鹿清華
 (会)山崎覺太郎
 (会)松田権六
 (会)飯塚琅玕齋
 (会)大須賀一齋
 (会)吉田醇一郎
 (会)高野松山
 (会)内藤春治
 (会)岸本景春
 (会)坂谷梅樹
 (会)帖佐美行
 (会)叶佐美夫
 (会)染川鉄之助
 (会)辻川鉄之助
 (会)中村翠恒
 (会)寺井直次
 (会)佐治直次
 (会)新開寛正
 (会)皆川月華
 (会)豊道春海
 (会)西川寧

第五科(書)
 (会)大池晴嵐
 (会)辻本史邑
 (会)中村蘭雲
 (会)柳田泰右
 (会)手島聖空
 (会)安東春空
 (会)羽田藍田
 (会)殿村哲三
 (会)高木孝三
 (会)保多如流
 (会)松井東魚
 (会)松丸知石
 (会)木村知石
 (会)宮本竹峰
 (会)菅谷幽溪
 (会)鈴木梅溪
 (会)山本稚彦
 (会)朝倉響子
 (会)北村治禱
 (会)岩田藤七
 (会)山鹿清華
 (会)山崎覺太郎
 (会)松田権六
 (会)飯塚琅玕齋
 (会)大須賀一齋
 (会)吉田醇一郎
 (会)高野松山
 (会)内藤春治
 (会)岸本景春
 (会)坂谷梅樹
 (会)帖佐美夫
 (会)叶佐美夫
 (会)染川鉄之助
 (会)辻川鉄之助
 (会)中村翠恒
 (会)寺井直次
 (会)佐治直次
 (会)新開寛正
 (会)皆川月華
 (会)豊道春海
 (会)西川寧

◎印 審査主任

加藤氏調査 佐々木ヨシ子

各大学美術関係講義題目

〔国立〕

岩手大学

〔文学部〕「美術概論」「西洋美術史」「日本美術史」
 〔工芸学〕「工芸概論」「教授森口多里」「西洋音楽史」
 〔式論〕「教授新藤武」「図画教育法」「絵画理論」「教授藤原徳太郎」「構成理論」「窠藝理論」「工作教育法」「助教千葉運孝」「考古学概説」「実習」「助教草間俊一」「色彩学」「図案理論及実技」「助教宮村他家次」「木材工藝理論」「建築概説」「助教佐藤松敏

東北大学

〔文学部〕「文学部美学美術史学科」〈学部〉「西洋美術史講義」
 「美学演習 (H. Read: Philosophy of Modern Art)」〈学部大学院〉「西洋美術史演習 (B. Berenson: Aesthetics and History)」〈大学院〉「西洋美術史演習 (Tietze: Methode der Kunstgeschichte)」
 「西洋美術史特選問題研究(美術史学の諸問題)」
 「教授村田潔」
 〈学部〉「美学普通講義(美学概論)」
 〈学部大学院〉「美学特殊講義(現代美学の問題)」
 「美学演習 (E. Uitz: Geschichte der Aesthetik)」
 「美学講読 (Hegel: Vorlesungen über Aesthetik)」
 「助教西田秀穂」
 「美学特殊講義(藝術と技術)」
 「講師竹内敏雄」
 「音楽論及音楽史」
 「講師辻莊一」
 〈学部〉「東洋藝術史普通講義(日本美術史、奈良—平安時代)」
 〈学部大学院〉「東洋藝術史特殊講義(絵巻物)」
 「東洋藝術史演習(東洋の画論)」
 「教授亀田孜」
 「東洋藝術史特殊講義(西域美術史)」

各大学美術関係講義題目

講師熊谷宣夫、〈学部〉「考古学普通講義(日本考古学概説・古墳時代)」
 「考古学特殊講義(考古学研究法及実習)」
 教授伊東信雄

千葉大学

〔教育学部〕「六朝の書」「唐代之書」「中国書道史」「奈良朝の書」「平安朝の書」「日本書道史」「書論」「書の鑑賞」「書道教育法」「教授浅見錦吾」「図工教材研究」「助教奈良坂昂」「材料学」「工作教育法」「図工教材研究」「講師伊藤孝」
 「図工教育法原理」「図工教材研究」「図案教育法」「教授森桂一」
 「図工教育法」「図工教材研究」「助教海老沢巖夫」
 「文理学部」
 「考古学概論」「考古学特殊講義」「講師吉田章一郎」
 「日本美術史」「講師檜崎宗重」
 「西洋美術史」「講師三輪福松」
 「美学概論」「講師神保常彦

東京大学

〔文学部〕「文学部美学美術史学科」
 〈学部〉「文藝学概論」「藝術の類型」
 「Hegel: Aesthetik」
 「教授竹内敏雄」
 「造形美術論」
 「講師大成龍雄」
 「音楽美学」
 「講師野村良雄」
 「映画藝術論」
 「講師佐々木能理男」
 「西洋絵画史」
 「H. Focillon: La Vie des Formes」
 「教授吉川逸治」
 「日本近世絵画史」
 「日本美術史演習」「助教山根有三」
 「中国画論の研究」
 「講師米沢嘉圃」
 「日本上代美術史研究」
 「講師松本栄一」
 〈大学院〉「美学演習」
 「教授竹内敏雄」
 「近代オペラ史」
 「講師渡辺護」
 「比較音楽学概論」
 「助教岸田成雄」
 「言語美学の諸問題」
 「講師小林英夫」
 「西洋美術史演習」
 「教授吉川逸治」
 「中国山水画研究」
 「教授米沢嘉圃」
 「日本近世画論」
 「助教山根有三」
 「文学部考古学」
 〈学部〉「考古学概論」
 「東亜古瓦の研究」
 「旧石器時代演習」
 「教授駒井和愛」
 「日本考古学」
 「考古学演習」
 「講師八幡一郎」
 「野外考古学」
 「講師関野雄」
 「西南アジア考古学」
 「講師杉勇」
 〈大学院〉「東亜考

古学の現状」
 「考古学演習」
 「教授駒井和愛」
 「南鮮の古代文化」
 「教授三上次男」
 「中国考古学」
 「助教関野雄」
 「北太平洋における考古学上の諸問題」
 「講師八幡一郎」
 「古代イランの文化」
 「講師杉勇

東京教育大学

〔教育学部〕「美術概論」
 「講師山本正男」
 「考古学概説」
 「講師斎藤忠」
 「日本考古学」
 「教授木代修一」
 「東亜考古学」
 「講師関野雄」
 「西洋美術史特殊講義(ギリシヤ彫刻史)」
 「日本美術史外演習」
 「教授沢柳大五郎」
 「藝術学概論」
 「日本美術史概説」
 「日本美術史外演習」
 「東洋美術史特殊講義(仏教図像学)」
 「助教町田甲一」
 「中国絵画史(中国山水画史)」
 「講師鈴木敬」
 「西洋美術史(中世)」
 「講師柳宗玄

東京学藝大学

〔文学部〕「美学概説」
 「日本美術史概説」
 「日本美術鑑賞」
 「教授中野勇」
 「西洋美術史概説」
 「美術史特殊講義(近代日本美術の展開)」
 「西洋美術鑑賞」
 「教授久富貢」
 「音楽美学」
 「音楽美学特殊講義」
 「西洋音楽史特殊講義」
 「西洋音楽鑑賞」
 「教授吉田辰雄」
 「西洋演劇史特殊講義(ギリシヤ)」
 「演劇鑑賞」
 「助教原経重」
 「西洋音楽通史」
 「藝術論(ハイデッガー研究)」
 「西洋音楽史特殊講義(現代音楽)」
 「西洋音楽鑑賞」
 「講師土田貞夫」
 「東洋音楽史特殊講義」
 「講師田辺尚雄」
 「専攻科」
 「美学美術史特殊講義(美術史方法論)」
 「教授中野勇」
 「美術史特殊講義(近代日本洋画の諸問題)」
 「教授久富貢」
 「西洋音楽史特殊講義」
 「教授吉田辰雄」
 「音楽美学特殊講義」
 「講師土田貞夫

東京藝術大学

〔美術学部〕「美学」
 「美学特殊講義(美術史における美学の問題)」
 「教授村田良策」
 「西洋美術史概説」
 「西洋美

術史特殊講義(ルネッサンス絵画論)「教授摩寿意善郎」
 「東洋美術史概説」
 「東洋美術史演習(東洋絵画論)」
 教授谷信一、「日本美術史概説」
 「日本美術史演習(文献研究)」
 教授脇本十九郎、「美術史特殊講義(東西美術の比較研究)」
 教授上野直昭、「美学概論」
 「美学演習」(Utlitz; Grundlegung der allgemeinen Kunstwissenschaft)「助教西本順」
 「美術史特殊講義」
 「工藝論」(Ruskin; Sesame and Lilies)「助教前田泰次」
 「西洋美術史特殊講義(ヨーロッパ絵画史—古代中世を中心として)」
 「西洋美術史演習」(H. Focillon; La Vie des Formes)「講師吉川逸治」

横浜国立大学

「文学部美学美術科」
 「美学」
 「美学概論」
 「美学史概説」
 「比較美学」
 「美学美術史演習」
 「美学特殊講義」
 「助教山本正男」
 「西洋美術史」
 「講師村田良策」
 「日本美術史」
 「講師崎崎宗重」
 「デザイン原論」
 「講師阿部公正」
 「書道史」
 「講師藤原喜一」

京都大学

「文学部美学美術史学科」
 「美学序論」
 「藝術制作の構造」
 「美学美術史研究上の諸問題」
 「美学の諸問題」
 「教授井島勉」
 「仏教美術の図像学的考察」
 「教授上野照夫」
 「室町時代水墨画の伝統と創造—特に雪舟を中心として」
 「日本美術史の研究」
 「助教速連重康」
 「Dilthey; Dichtung und Erlebnis」
 「助教梶野野殿」
 「西洋絵画の性格」
 「講師吉川逸治」
 「近東の古代美術」
 「講師新規矩男」

「文学部考古学科」
 「考古学序説」
 「考古学の諸問題」
 「教授有光教一」
 「中国考古学」
 「教授水野清一」
 「Hoerners-Mengen; Usgeschichte der bildenden Kunst in Europa」
 「教授長広敏雄」
 「古鏡の研究」
 「助教樋口隆康」
 「古代技術史の諸問題」
 「講師小林行雄」
 「日本上

代建築とその遺跡」
 「講師浅野清」
 「ギリシヤ文化の発展」
 「講師村田敏之亮」
 「英書購読」(M. Wheeler; Archaeology from the Earth)「教授有光教一」
 「仏書購読」(Dechelle; Manuel d'Archéologie Préhistorique Celtique et Gallo-Romaine)「助教樋口隆康」
 「考古学実習」
 「講師小林行雄」

京都学藝大学

「学藝学部特修美術科(美学美術史)」
 「美学概論」
 「西洋美術史概説」
 「日本美術史概説」
 「西洋近代美術論」
 「美学特殊講義」
 「助教中村二柄」
 「美学特殊講義」
 「美術史特殊講義」
 「京都の国宝」
 「講師吉岡健二郎」
 「イタリヤ・ルネッサンス美術史」
 「講師上平貢」

京都工芸繊維大学

「工芸学部」
 「美学概論」
 「美学特論」
 「美学演習」(Moholy Nagy; Vision in Motion)「工芸美学特論」
 「西洋美術史」
 「教授河本敦夫」
 「東洋美術史」
 「美術史特論」
 「美術史演習」
 「日本美術史」
 「教授土居次義」
 「意匠工芸学」
 「形態構成」
 「宣伝美術論」
 「意匠工芸学」
 「教授福永俊吉」
 「建築史」
 「I・II」
 「建築史演習」
 「建築史各論」
 「I」
 「教授藤原義一」
 「建築論」
 「建築論演習」
 「助教大倉三郎」
 「建築構造学」
 「I」
 「助教高原道夫」
 「住宅論」
 「近代建築」
 「建築論演習」
 「助教白石博三」
 「東洋工芸史」
 「日本工芸史」
 「西洋工芸史」
 「工芸史特論」
 「講師明石国助」
 「建築設備」
 「I」
 「助教石原正雄」
 「建築論演習」
 「助教相川浩」
 「建築構造学」
 「III」
 「建築構造学演習」
 「I・II」
 「助教松岡理」
 「産業工芸」
 「産業工芸特論」
 「講師赤沢鏡太郎」
 「室内構成論」
 「室内構成論特論」
 「意匠工芸計画」
 「綜合デザイン」
 「講師野口茂」
 「工業デザイン」
 「講師高橋秀雄」
 「建築意匠」
 「講師元良敷」

神戸大学

「文学部藝術学科」
 「実証藝術学(世界の形成)」
 「世界藝術史(ローヤ彫刻)」
 「特殊講義(中国の人物画)」
 「演習」(Mallarmé; Relativement au Vers)「教授小太市郎」
 「日本美術史概説」
 「日本美術史特殊講義」
 「中世—鎌倉—室町—絵画史」
 「美術史演習(美術品の鑑賞)」
 「教授谷信一」
 「西洋美学史(ドイツロマン派美学・ヘーゲル)」
 「講師辻部政太郎」
 「美術史(東洋・西洋)」
 「美術概説」
 「教授黒田英一郎」
 「色彩学」
 「助教大塚尚武」
 「近代絵画論(印象派以後)」
 「助教兼行武四郎」
 「考古学概論」
 「講師樋口隆康」

九州大学

「文学部美学美術史学科」
 「東洋美術史」
 「美術史演習」
 「(歴代名画記)」
 「教授谷口鉄雄」
 「大学院美学美術史専門課程」
 「演習」(Lalo; Notions d'Esthétique)「演習」(Hegel; Vorlesungen über Aesthetik)「教授谷口鉄雄」
 「西洋美術史」
 「講師植田寿藏」
 「東洋美術史」
 「講師小野清一」

〔公立〕

金沢美術工芸大学

「東洋美術史」
 「教授秋山光夫」
 「西洋美術史」
 「教授板垣鷹穂」
 「西洋工芸史」
 「講師大隅為三」
 「工芸史(漆工史)」
 「教授小松森作」
 「工芸史(陶磁史)」
 「教授北出塔次郎」
 「美術概論」
 「助教森嘉紀」
 「美学概論」
 「古代日本美術史」
 「近代西洋美術史」
 「造形理論」
 「美学序説」
 「美学演習」
 「助教鈴木正明」
 「日本工芸史」
 「講師遠藤元男」

京都市立美術大学

「近代建築工芸史」
 「教授上野伊三郎」
 「日本美術史概説」
 「彫刻史A・B」
 「作風論」
 「教授佐和隆研」
 「書道及書道

史「教授中田勇次郎、「西洋美術史概説」「西洋美術史特講」助教堀内正和、「色彩学」助教長崎盛輝、「建築工藝概論」「図学」助教向井正也、「原始美術論」「表現の構造」「美術史演習」講師木村重信、「西洋近世絵画史」「西洋近世彫刻史」講師上平貢、「西洋中世工藝史」「西洋近世工藝史」講師元井能、「藝術学概論」「藝術学特講」講師井島勉、「美術史概説」講師上野照夫、「音楽の美」講師片岡義道、「東洋美術史概説」「唐絵と大和絵」講師下店静市、「支那絵画史」講師島田修二郎、「建築史」講師村田治郎、「美術解剖学」講師山元孝吉、「文様史」講師明石国助、「陶磁器工藝史」A・B「講師光岡忠成、「工藝概論」「染織工藝史」講師龍村謙、「漆工史」講師溝口三郎

大阪市立大学

〔文学部〕「日本美術史(平安時代以後)」「美術論」教授望月信成、「美学概論」「美術史」講師西垣雄次郎、「宣傳藝術論」講師下店静市、「考古学概論」教授角田文衛
〔家政学部住居科〕「意匠学」「造形美論」助教辻合喜代太郎、「工藝概論」助教高田克巳
〔家政学部被服科〕「西洋被服文化史」助教辻合喜代太郎、「被服意匠学」「被服文化史(東洋及日本)」講師元井能

〔私立〕

早稲田大学

〔文学部藝術科美術専攻〕「美学」「美術概論」教授青柳正広、「東洋美術史」「美術演習」(東洋)教授小杉一雄、「日本美術史」「美術演習」(日本)教授安藤正輝、「日本建築史」「東洋建築史」「西洋建築史」教授田辺泰、「西洋美術史」「美術演習」(西洋)助教大沢武雄、「美術研究」(一)講師熊谷宣夫、「美術研究」(二)教授今和次郎、

講師中川千咲、「美術研究」(三)講師板垣鷹穂

〔大学院文学研究科藝術学専攻〕「美学特論」「美術史学演習」(一)教授青柳正広、「東洋美術特論」「美術史学演習」(二)教授小杉一雄、「日本美術特講」講師田中一松、「西洋美術特論」講師板垣鷹穂、「建築学特論」教授田辺泰、「西洋古代美術史」講師富永悠一、「美術史学文献」(一) Bazin; Epoque Impressioniste) 助教大沢武雄、「美術史文献」(二)「古今著聞集」(画図)) 講師田中一松、「美術史文献」(三) Read; Icon and Idea) 講師富永悠一、「美術史文献」(四)「法隆寺再建非再建論争に關する論文」) 教授安藤正輝

慶応義塾大学

〔文学部美学美術史学科〕「美学概論」「西洋美術史概説」(古代)「西洋美術史演習」(Müser; Europäische Malerei) 教授守屋謙二、「美学特殊講義」(文藝学概論) 講師竹内敏雄「美学演習」(Sisowel; a Critical History of Modern Aesthetics) 講師高橋敏、「教授守屋謙二」「日本近世美術史」(一八〇六年から一八六八年までの浮世絵板面論) 講師洪井清、「東洋美術史概説」講師菅沼貞三、「東洋美術史演習」(前堅華) 中国絵画史) 講師松下隆章、「藝術学」(音楽文化史) 助教村田武雄、「原典講読」(Venturi; Four Steps toward Modern Art) 講師八代修次
〔大学院文学研究科〕「美学特論」(比較美術学)「美学演習」(D. Frey; Kunstwissenschaftliche Grundfragen)「美学特殊研究」(プラトンの美学) 教授守屋謙二、「美学美術史研究」(日本彫刻史上の諸問題) 講師丸尾彰三郎、「考古学特殊講義」(考古学史) 講師藤田亮策

女子美術大学

〔西洋美術史概説(ルネサンス以後)〕教授坂崎坦、「美

学史概説(近世美学)」「西洋美術史概説」講師中山公男、「人体美学」講師西田正秋、「服飾美学」(デザインの基礎) 講師松井直樹、「日本美術史概説(平安時代)」講師久野健、「日本美術史概説」講師永井信一、「考古学」(原始藝術の発達) 講師後藤守一

日本大学

〔藝術学部〕「藝術学」「藝術史学」「藝術思潮史」教授湯川制、「住宅史」教授山脇敏、「美術学」「鑑賞批評論」「美学」助教中山公男、「写真藝術学」教授金丸重嶺、「西洋美術史」講師穴沢一夫、「日本美術史」「東洋美術史」講師秋山光和、「美術作品研究」講師阿部公正、「工藝」(金工) 講師深瀬嘉臣、「考古学」講師佐野大和、「藝術心理学」講師桜林仁

同志社大学

〔文学部文化学科美学及藝術学専攻〕「美学概論」「美学演習」教授園類三、「藝術学概論」「西洋美術史概説」「美学史」(独書講読) 教授金田民夫、「考古学」教授酒詰仲男、「藝術学特論」(藝術の形式) 助教中川勝正、「日本美術史概説」講師土居次義、「工藝概論」(近代西洋工藝史) 講師元井能、「工藝概論」(近代建築思想) 講師白井博三、「美学特論」(現象学派の美学中) 講師杉山芳子、「藝術思潮」講師河本敦夫、「美術史特論」講師村田数之亮、「東洋美術史」講師下店静市

〔大学院文学研究科哲学専攻〕「美学体系」「美学体系演習」(N. Hartmann; Aesthetik)「藝術学特講」(藝術美の問題)「藝術学特講演習」(Lipps; Aesthetik)「美術史特殊講義」(美術史の理論)「美術史特講演習」(Passarge; Philosophie der Kunstgeschichte) 教授園類三、「藝術哲学特殊講義」講師井島勉、「藝術思想特殊講義」講師河本敦夫、「先史学特殊講義」(日本貝塚概説)「文化史特殊研究演習」(日本貝塚各説) 教授

佐伯 祐三	ガス燈と広告	みづゑ	六九	堂本 印象	ダリヤと虞美人	草	三	彩	六九	松林 桂月	新	樹	春	四	
カフエのテラス	〃	〃	〃	中川 一政	紫 陽	花	三	彩	六六	前田 青邨	(無)	樹	春	四〇	
街附近	〃	〃	〃	中村 岳陵	甲斐駒ヶ岳雪景	明	三	彩	六六	宮脇 公実	メ	樹	春	四〇	
靴屋の箱	〃	〃	〃	中村 善策	漁村の春	アトリエ	三	彩	六六	三輪 節子	花	三	彩	六六	
白い壁の家	〃	〃	〃	中山 巍	ポブラの牧場	〃	〃	〃	〃	三輪 晃勢	新	山	春	四五	
煉瓦の教会堂	〃	〃	〃	鍋井 克之	赤い燈	台	三	彩	六六	南 桂子	樹	山	春	四五	
風景	〃	〃	〃	西村 愿定	裸	婦	三	彩	六六	村岡 平蔵	の	肖	春	四五	
坂田 一男	背	戸	六三	橋本 雅邦	山水図(東京国立博 物館保管)	牛	三	彩	六三	安田 鞆彦	(無)	信	春	四〇	
信太 金昌	青い森と	原	六三	橋本 三郎	大同雲崗石窟仏像写	三	彩	六三	山口 蓬春	唐	三	彩	六三	四〇	
杉山 寧	ミイラの棺	三	六三	橋本 明治	花 菖蒲	三	彩	六三	山口 蓬春	唐	三	彩	六三	四〇	
関根 正二	子の阿蘇山	美術手帖	一三	長谷川路可	ドレスコ壁面・アル ドブランデイニ婚 礼図(部分)	婦	三	彩	六三	横山 大観	山	川	春	四〇	
田崎 広助	夏の阿蘇山	美術手帖	一三	林 武	裸	婦	三	彩	六三	横山 大観	山	川	春	四〇	
田中 喜良	水辺	美術手帖	一三	東山 魁夷	か	げ	三	彩	六三	〃	〃	〃	〃	〃	
田中以知庵	水辺	美術手帖	一三	平福 穂	荒	磯	三	彩	六三	〃	〃	〃	〃	〃	
田中 岑	三宅康直像	美術手帖	一三	福沢 一郎	少	女	三	彩	六三	吉岡 堅二	朱	鷺	三	彩	
高山 辰雄	猫と玉葱	美術手帖	一三	福田 多津	大	原	三	彩	六三	渡辺 学	魚	と	人	三	彩
田淵 安一	有機的表徴	美術手帖	一三	福田 豊四郎	埋	女	三	彩	六三	脇田 和	鳥	と	女	三	彩
田村 一男	冬の老婦人	アトリエ	三六	福田 平八郎	梅	干	三	彩	六三	アトラン	作	品	三	彩	
近岡 善次郎	巴里の老婦人	アトリエ	三六	藤井 令太郎	アツカドの椅子	美	術	手	帖	一三	ヴァン・	オ	ウ	エ	ル
津高 和一	香る風	美術手帖	二〇	藤川 栄子	本の構成	美	術	手	帖	一三	エトルスク	洗	濯	舟	美
辻 正男	恐怖する人	美術手帖	二〇	藤島 武二	黒衣婦人像	美	術	手	帖	一三	ヴァン・	オ	ウ	エ	ル
鶴岡 政男	三	彩	六三	堀 文子	積	三	彩	六三	カルズー	風	景	〃	〃	〃	
徳岡 神泉	三	彩	六三	藤松 博	回	三	彩	六三	ヨール	老	婆	と	孫	娘	
利根山 光人	いけにえ	美術手帖	二三	堀 文子	積	三	彩	六三	カルズー	風	景	〃	〃	〃	
土橋 醇	村のコンポジション	美術手帖	二三	堀 文子	積	三	彩	六三	カルズー	風	景	〃	〃	〃	
〃	セーヌ河畔の森	みづゑ	六五	堀 文子	積	三	彩	六三	カルズー	風	景	〃	〃	〃	

カルズー	美しい旅	みづゑ	六四	ド	ガ浴	後	みづゑ	六三	ブリューゲ	婚礼のお祝い	みづゑ	六九		
クールベ	室内	みづゑ	六六	ニコルソン	作	品	美術新潮	八〇一	ブルーム	青と緑(原寸大部分)	みづゑ	六八		
クラウヴェ	山小屋	美術手帖	一三三	ス	9月14日	(バレルリック)	美術手帖	一三六	ベルセ	ボリスの遺跡	みづゑ	六三		
クリッパ	「かるた」	する人	六八	ス	アルシノの9月	像	美術手帖	六四	ヘンリー・	デッサン	みづゑ	六五		
クレイ	魚	形	一三〇	ス	母	像	美術手帖	二六	マチュウ	大さそり座	みづゑ	六八		
グレイヴス	鶴の姿になる意識	三彩	八九	ス	太陽の像	像	美術手帖	二九	マネシエ	「讀うべきかな! 聖母」	美術手帖	一三四		
ス	春	美術手帖	二九	ス	緑の構	図	みづゑ	六七	マリニー	馬と騎士	みづゑ	六八		
ゴーガン	純潔の喪失	美術新潮	八〇七	ス	作品	I	みづゑ	六七	マルシャン	イタリア風景	みづゑ	六六		
ゴーギャン	タヒチ風景	美術手帖	一三三	ス	エッフェル塔	美術手帖	一三六	マンロー	お告げの天使	三彩	九			
ゴルキー	肝臓はおんどりの鶏冠だ	ス	一三三	ス	煙草の静物	みづゑ	六六	ミ	作	品	美術新潮	八〇一		
サム・フラ	作	品	みづゑ	ス	サクレク	トル	ス	六七	モディリア	下	女	ス	六七	
ンシス	い	品	みづゑ	ス	ピザンティン	のモザイク聖デメトリオスの部分	美術新潮	八〇八	モネ	青いニフの池	美術新潮	八〇四		
サザランド	頭	II	美術新潮	ス	ピカソ	アトリ	エ	ス	モルヴァン	鳥とロマネスクの瓦	みづゑ	六五		
ス	頭	III	彩	ス	ス	版	画	ス	モンドリア	タブロー II	美術手帖	一三三		
ザウオキ	作	品	みづゑ	ス	陶	版	画	ス	ラ	ザ	村	美術新潮	八〇八	
シヤガール	アクロバット(部分)	みづゑ	六四	ス	マンダリンをもつ少女	美術手帖	一三三	ス	ラ	ム	ジャン	グル	ス	六五
ル	コンボジション	作	六八	ス	食	事	ス	一三五	ス	ス	ス	ス	一三〇	
ジュンキン	作	品	美術手帖	ス	鉢の中の果物	ス	ス	一三〇	ス	ス	ス	ス	一三〇	
ス	踊	子	ス	ス	二人の裸女	みづゑ	六三	ス	ス	ス	ス	ス	六三	
セヴェリー	苦しんでいる人	みづゑ	六四	ス	アトリ	エ	ス	六三	ス	ス	ス	ス	六三	
ニ	垂直な風景	ス	六三	ス	フォトリエ	作	品	三	ス	ス	ス	ス	六三	
タマヨ	腐つた驢馬	ス	ス	ス	二人の裸女	みづゑ	六三	ス	ス	ス	ス	ス	六三	
ダ	消失するヴォルテール胸像のある奴隷市場	ス	六九	ス	フリードラ	作	品	ス	ス	ス	ス	ス	六四	
ス	魚の神様のイメージ	みづゑ	六四	ス	ワッサー	作	品	ス	ス	ス	ス	ス	六三	
デービー	赤い人	ス	六八	ス	ブラック	リト	グラフィ	美術新潮	八〇一	ス	ス	ス	六三	
トビー	砂漠の街	ス	ス	ス	ブリューゲ	牛追	い(部分)	みづゑ	六六	ス	ス	ス	六三	
トレーケス	古代の礼拝	ス	六四	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	六三	

東洋古美術

繪 画

光琳 白梅図	アトリエ	三六
檜図屏風(部分) 東京国立博物館蔵	國華	七八
正嘉本天神縁起繪卷(部分) 上田壻一郎氏蔵	シ	七九
池大雅筆蘭亭曲水図屏風(部分)	シ	七〇
田能村竹田筆山茶花図 守屋正氏蔵	シ	六一
細川蓮丸像(部分) 聴松院蔵	シ	六三
槻峯寺建立修行縁起(部分)	シ	六三
増山雪斎筆游禽図(部分)	シ	六四
王石谷筆山水圖冊(做恵)	シ	六五
波月等薩筆花鳥図屏風(部分) 山中次郎氏蔵	シ	六七
渾南田筆花卉図 瀧山龍泉堂蔵	シ	六八
逸然筆列祖図 五十嵐広八氏蔵	シ	六九
源氏物語繪卷柏木第一段(部分)	三彩	八三
池大雅筆瀟湘八景図屏風(部分)	シ	八五
伝長谷川等伯筆松と草花図屏風	シ	八九
紅蓮図	シ	九二
本阿弥光悦筆扇面散屏風(部分)	シ	九三
御物伝頼寿法橋筆小野道風像(部分)	美術研究	一九〇
クチャ 將來舍利容器	シ	一九一
法華堂根本曼荼羅 ポストン美術館蔵	シ	一九二
竹原古墳奥室壁面 福岡県鞍手郡若宮町竹原所在	シ	一九四
徳力善雪筆雪舟等楊像(部分) 安田鞆彦氏蔵	シ	一九五
源氏物語繪卷 夕霧	美術手帖	一三

群鷄図(部分) 若沖

美術手帖 一三三

湯女

美術手帖 一三六

歌麿筆両国川開(部分)

美術手帖 一九二

薬師寺八幡宮板絵神像(北御殿第三間)

仏教藝術 三

北斎筆五百らかん寺(富岳三十六景より)

みづゑ 六三

俵屋宗達筆風神雷神図(部分)

シ 六九

蕉村筆蘭亭曲水図屏風(部分) 東京国立博物館蔵

シ ムニョジ 三

旧御物大追物図屏風(部分)

シ 七三

風俗図屏風(部分)

シ 七四

大雅筆楼閣山水図(部分)

シ 七五

秦致真筆聖徳太子絵伝屏風(部分)

シ 七七

幡絵地藏菩薩像(部分)

シ 七九

一字金輪像(部分)

シ 八〇

奔湍図 伝元信筆 大和文華館蔵

シ 大和文華 三

松図襖絵 伝宗達筆 養源院蔵

シ 三

唐獅子図杉戸絵

シ 三

婦人像 大和文華館蔵

シ 三

孔雀図 光琳筆 北野隆春氏蔵

シ 三

立葵図

シ 三

書 跡

静嘉堂本是則集 静嘉堂蔵

美術研究 一九

彫 刻

金剛界大日如来像仏頭(白杵・古園石仏)

シ 仏教藝術 三〇

雲岡第一窟、第十二窟

シ みづゑ 六〇

建 築

平等院鳳凰堂外觀

シ 仏教藝術 三

工 藝

古丹波の壺

シ みづゑ 六三

鶴岡八幡宮の神宝女衣

シ ムニョジ 七

繡仏断片(旧法隆寺献納御物) 東京国立博物館蔵

シ 七

天文小袖

シ 八

緑褐釉胡瓶 大和文華館蔵

シ 大和文華 三

古瀬戸大德利

シ 三

古瀬戸巴文壺 梅沢彦太郎氏蔵

シ 三

鍍金神獸鏡断片

シ 三

主要美術展覧会

索引

一 月

秀作美術展(第8回)……………六頁
 春信浮世絵名作展……………六
 伊東深水名品展……………六
 竹内栖鳳名作展……………六
 肉筆浮世絵名作展……………七
 梅原龍三郎仏伊新作展……………七
 米國巡回富岡鉄斎展……………七
 日本アンデパンダン展(第10回)……………七
 美術文化協会展(第17回)……………七
 加賀百万石国宝展……………七

二 月

西洋美術名作展……………七
 サンパウロ・ビエンナーレ出品作
 品国内展示……………七
 水彩連盟展(第16回)……………七
 モダンアート展……………七
 万鉄五郎名作展……………七
 二〇世紀のデザイン展……………七
 南蛮雅陶展……………七
 北川民次・須田国太郎展……………七
 読売アンデパンダン展(第9回)……………七
 未公開作品展……………七

三 月

村上華岳展(第2回)……………七
 池大雅、一八〇年記念名作展……………七
 示現会一〇周年記念展……………八
 棟方志功板画展……………八
 春の青龍展……………八

王朝文化史展……………八
 小出楯重展……………八
 トリエンナーレ展出品作品国内展
 示……………八
 団体選抜新人展……………八
 光風会展(第43回)……………八
 創元会展(第16回)……………八
 新興美術院展(第7回)……………八
 新制作春季日本画展……………八
 日本の水墨画展……………八
 カラコルム展……………八
 大光コレクシヨン展……………八
 河井寛次郎陶業四〇年展……………八
 旧松方コレクシヨン美術展……………八
 岳陵と蒼風展……………八
 フェウザン会回顧展……………八
 鑄金家協会五〇周年記念展……………八
 宋・元・明・清名画展……………八
 坂田一男遺作展……………八
 日本版画協会展(第25回)……………八
 国画会展(第31回)……………八
 春陽会展(第34回)……………八
 柳里恭展……………八
 近世初期風俗画名作展……………八
 高村光太郎遺作展……………八
 五 月

日本画院展(第17回)……………九
 新世紀美術協会展(第2回)……………九

東光会展(第23回)……………九
 アジアの仏像と民藝展……………九
 前衛美術の一五人展……………九
 橋本関雪名作展……………九
 アヴァンギャルド一三人展……………九
 世界の素描名作展……………九
 ピカソ版画展……………九
 日本美術院五浦回顧展……………九
 桃山障壁画名作展……………九
 日本国際美術展(第4回)……………九
 六 月

モリス・グレイヴス白選展……………九
 東京国際版画ビエンナーレ展
 (第1回)……………九
 女流画家協会展(第11回)……………九
 日本水彩画会展(第45回)……………九
 ソ連へ行く現代日本工芸美術国内
 展……………九
 第一美術展(第28回)……………九
 日本木彫会展(第17回)……………九
 ニッポン展(第5回)……………九

七 月

創型会彫塑展(第6回)……………九
 旺文会展(第11回)……………九
 ギメー博物館寄贈品特別展……………九
 良寛生誕二百年記念展……………九
 荻原礫山彫刻展……………九
 日本画府展(第3回)……………九
 朔日会展(第26回)……………九
 太平洋美術会展(第53回)……………九
 光陽会展(第5回)……………九
 百年祭記念広重名作展……………九
 現代美術十年の傑作展……………九

四人の作家展(平福百穂・小林徳
 三郎・三岸好太郎・武井直也)……………九
 世界商業デザイン展……………九
 新樹会展(第11回)……………九

八 月

現代フランス、クリティック賞絵
 画展……………九
 一九五七年日本宣伝美術会展……………九
 新エコール・ド・パリ展……………九
 石井林響遺作展……………九
 長井雲坪名作展……………九
 南画院展(第11回)……………九
 一陽会展(第3回)……………九
 青龍社展(第29回)……………九
 牧野虎雄遺作展……………九
 最近のドイツ版画展……………九

九 月

院展(第42回)……………九
 二科会展(第42回)……………九
 行動美術展(第12回)……………九
 マチウ個展……………九
 立軌会展(第9回)……………九
 墨蹟、水墨画国宝展……………九
 工彩会工藝展(第9回)……………九
 橋本雅邦名作展……………九
 世界の壺展……………九
 西独へゆく現代日本陶藝展……………九
 光悦・宗達・光琳国宝展……………九
 根来実三釜作五十年古稀記念展……………九
 新制作展(第21回)……………九
 一水会展(第19回)……………九

一〇 月

一七人の作家展……………九

トーマス・ジョージ作品展……………	一三九
日本伝統工藝展(第4回)……………	一三九
自由美術家協会展(第21回)……………	一四〇
独立美術展(第25回)……………	一四一
第二紀会展(第11回)……………	一四一
世界・現代藝術展……………	一四一
日本絵巻物展……………	一四一
白描やまと絵展……………	一四一
サム・フランシス個展……………	一四一
林俊衛遺作展……………	一四一
京都国立博物館開館六〇周年記念 展「平安時代の美術」……………	一四一
正倉院展……………	一四一
鎌倉室町時代総合展「中世の美術」……………	一四一
一 一 月	
日展(第13回)……………	一五〇
京都東寺名宝展……………	一五〇
松竹梅展(第3回・最終回)……………	一五一
葛飾北斎名作展……………	一五一
今日の新人・五七年展……………	一五一
蕪村名作展……………	一五一
アジア青年美術家展……………	一五一
彫刻・洋画四人展……………	一五一
世界の中の日本抽象美術展……………	一五七
安井會太郎賞候補新人展……………	一五七
ふりかえつてみる関西洋画壇傑作 展……………	一五七
中国現代絵画展……………	一五七
欧州における日本古美術展国内特 別展観……………	一五九
一 二 月	
スエーデンの陶藝展……………	一五九
アジア・アフリカ美術展……………	一五九

大潮会展(第21回)……………	一五九
安井會太郎未発表作品展……………	一五九
マネ・カツツ個展……………	一六〇
中国敦煌藝術展……………	一六一

美術展覽會

一月

日本の化粧道具展 (新春特別展) 1-15 鎌倉・国宝館
 伊東深水名品展 5-13 日本橋・白木屋 [批] 東京夕刊
 7 (河北倫明)、萌春41号、三彩2月号(No.84)
 春信浮世絵名作展 5-20 日本橋・三越 [批] 三彩2月号(No.84)
 千支にちなむ鶏の名画展 5-12 銀座・松屋 [批] 三彩2月号(No.84)
 酉年に因む手藝と工作展 5-13 日本橋・三越
 酉年に因んで西画名作展 5-13 渋谷・東横
 京都園壇美人画新作展 5-11 上野・松坂屋
 武者小路実篤日本画小品展 5-11 新宿・伊勢丹
 近藤浩一郎富士連作展 5-13 日本橋・三越
 今日の人形美術展 5-11 渋谷・東横
 8回秀作美術展 (一九五六年度)

選抜) 5-20 日本橋・三越 [批] 毎日7 (船戸洪吉)、朝日11 (田近憲三)、産経16 (H)、美術手帖3月 (徳大寺公英)、アトリエ3月 (No.80) (宇佐見英治)

陳列目録

日本画

樹 響 麻田 鷹司
 ア イ ス 故 清 原 齊
 冬の樹 木工藤甲人
 夜明け 野崎 貢
 か り 福王寺法林
 絃 長谷川朝風
 狼 昏 東山魁夷
 光 昏 東山魁夷
 草原 八 上村松篁
 萩 高 原 秀 雄
 葎 王 高 原 秀 雄
 炎々 萩 島 横山 操
 黄 牡 丹 望 月 春江
 柄の若葉 川合玉堂
 伏見の茶亭 安田鞆彦
 舞 妓 太田 聰 雨
 深 雪 小野 竹 喬
 瓶 花 山口 蓬 春
 少 女 小倉 遊 亀
 千 鳥 加藤 榮 三
 山下 橋 附 近 児 玉 希 望

狭霧霽れゆく 中村 岳陵
 浴女群像 前田 青邨
 薄 徳 岡 神 泉
 爽 涼 中 村 貞 以
 濤 福 田 豊 四 郎
 踊 り 杉 山 寧
 魚 と 人 月 森 田 沙 伊
 飛 山 生 成 鴨 岩 橋 英 遠
 新 山 生 成 奥 村 厚 一
 淵 お ち ょ ほ 樋 口 富 麻 呂
 仔 馬 山 口 華 楊
 晩 雪 山 本 丘 人
 松 故 馬 場 不 二
 禪 庭 前 田 暉
 洋画
 僧院の歌(A) 有 岡 一 郎
 彫刻ラツクル 鳥 海 青 児
 メキシコ市場の一隅 北 川 民 次
 月光と海水 鍋 井 克 之
 早 春 土 田 文 雄
 盾をもった武士 三 岸 節 子
 労働(ロール工) 金 子 真 珠 郎
 飯 死 生 誕 秦 森 康 也
 天体の運行 難 波 田 竜 起
 時代の変心 須 田 剋 太

凶 兆 油 野 誠 一
 奇怪な鳥と小鳥 金 田 辰 弘
 日 末 松 正 樹
 ケ ム シ 桂 ユ キ 子
 水田を拓く 山 口 薫
 狩 獵 福 沢 一 郎
 埋れた歴史 榎 戸 庄 衛
 形 象 川 藤 義 重
 漁 村 斎 藤 治 郎
 十字の像 朝 妻 正 敏
 化石する人間 玉 置 正 敏
 い の ち 江 見 絹 子
 青の斑点 村 井 正 誠
 喧嘩なる集会 赤 穴 宏
 和井内の四月 金 山 平 三
 野 外 婦 人 林 鹿 之 助
 雪の発電所 岡 鹿 之 助
 富士山 梅 原 龍 三 郎
 壺 柳 と ベ ル シ ャ 児 島 善 三 郎
 春 行 小 糸 源 太 郎
 踏 の 絵 野 口 弥 太 郎
 き の こ 田 中 君 子
 プルターニユ・コンカルノの港 関 口 俊 吾
 モーゼ十戒を示す 田 中 忠 雄
 ノートルダム 西 山 真 一
 魔 性 故 吉 川 清
 箱 根 宮 本 三 郎

ゆりの花 織 田 彩 子
 (夜明け) 初夏の阿蘇山 田 崎 広 助
 秋 香 佐 伯 米 子
 炭 坑 中 谷 泰
 樹 庭 桜 井 浜 江
 五月の庭 高 周 惣 七
 梅 高 島 達 四 郎
 伯耆大山の秋 小 林 和 作
 静 物 兵 藤 和 男
 水 郷 服 部 正 一 郎
 静 物 柳 田 久
 田 園 奎 田 た け を
 母 子 像 故 吉 岡 憲
 自 画 像 故 笠 置 イ ツ 子
 赤 い 空 (3) 麻 生 三 郎
 南海の教会 飯 島 一 次
 女の兒のいる群 矢 口 洋
 柳緑花紅頰板画 棟 方 志 功
 追 憶 北 岡 文 雄
 モンスリー公園 南 桂 子
 副校長D氏像 浜 田 知 明
 地の泉 吉 田 政 次
 風景銅版画 駒 井 哲 郎
 座の如く 利 根 山 光 人
 パ リ 浜 口 陽 三
 道 化 朝 井 閑 右 衛 門
 丘 田 中 岑
 浜 辺 長 谷 川 三 千 春

五 彫刻 月矢橋六郎

顔 朝倉響子
 女 木内 克
 喰 本郷 新
 裸 婦 千野 茂
 少年の首 新海竹蔵
 坐 る 山本稚彦
 飛 天 菊地一雄
 若 い 女 山本豊市
 アリーヌ嬢の首 清水多嘉示
 エチユード 向井良吉
 作 品 毛利武士郎
 芽 トルソ 植木 茂
 ランス (百二会展) 小野忠弘
 黄 野 豊 福 知 徳
 ○左記の作者は一九五六年度秀作美術展に選ばれたが左記理由により陳列せず。
 △日本画
 ○所有者の都合により
 清秋(百二会展) 福田平八郎、竹外一枝(松・竹・梅展) 横山大観、ともしび(青竜展) 川端龍子、月暈(青羊会展) 高山辰男、群魚(院展) 富取風堂
 △西洋画
 ○作家の都合により
 色割(二紀展) 高山道雄、パリスの審判(春陽会) 三雲祥之助

○アメリカにおける展覧会出品のため

時間(新制作展) 田中田鶴子、トロイの馬(行動展) 田中阿喜良、構体(行動展) 津高一
 ○作者の都合により
 壁(自由美術展) 糸園和三郎
 エポック・アール展 4-9
 村松 [批] アトリエ3月 (No.361) (宇佐見英治)
 6回中央美術協会展 7-12
 日本橋・丸善及びヤナセ 能伸ヤツノ個展 7-13 美松画廊
 鎌倉彫久留美会展 8-13 日本橋・高島屋
 2回芝居錦絵観賞会—錦絵で見る七代目団十郎展— 8-12 大阪・阪急
 田中吉之介因案個展 9-11 京都府ギャラリー
 安井會太郎肖像デッサン展 10-31 文春画廊 [批] 産経夕刊25(H)、東京夕刊26(久富賞)
 夏目雅史個展 10-15 村松田宮進個展 10-15 村松13回童林社展 11-16 東京・大丸
 飯田四郎・広井力絵画と彫刻作品展 11-31 新宿・風月
 3回世界学生美術展 11-16

東京・大丸 2回関口俊夫・正蛙のふ展 11-17 なびす

銅版画展(珠九ほか) 11-20 タケミヤ [批] 朝日15(隆)、読売夕刊18(中原佑介)、美術手帖3月(徳大寺公英)
 1回墨の流派(エコール・ド・ノアール) 12-18 新宿・伊勢丹
 三画会展 12-18 上野・松坂屋
 竹内栖鳳名作展 12-20 渋谷・東横 [批] 毎日16(村松梢風)、東京夕刊18(河北倫明)、三彩2月(Noga)
 出品目録
 芙蓉 明治十三年
 観 明治十七年頃
 池塘浪(新古美術会) 明治二〇年
 静 塘 月
 池内栖鳳(鳥羽僧正筆) 明治二一年
 高獸戯(正筆) 明治二一年
 山水(相阿弥筆) 明治二二年頃
 山水(栖鳳模) 明治二三年頃
 山水(栖鳳模) 明治二三年頃
 山水(栖鳳模) 明治二三年頃
 春郊 明治二六年
 漁村協会出品 明治二七年
 夕照協会出品 明治二七年
 百睡(第三回内閣勸業博覧会) 明治二八年

歸去来水 明治二九年
 松韻花 明治三〇年頃
 観 明治三五年
 和蘭春光・伊太利秋色 明治三七年
 洞天鳴鶴・仙壇遊鹿 明治四二年
 蝸牛 明治四二年
 アレタ(第三回立に(文展)) 明治四三年
 散華 明治四三年
 絵になる最初(下絵) 大正二年
 主基齋(大正天田風俗皇御大典御用) 大正四年
 田風俗(皇御大典御用) 大正四年
 同右小下絵 大正七年
 河口(文展) 大正七年
 遅日 大正八年
 床やま 大正八年
 天女 大正一〇年
 祇園橋(舟慶山山録) 大正一一年
 祇園(黒主山) 大正一一年
 筆と墨(画人祭) 大正一二年
 黄河々(日本美術展) 大正一二年
 畔(術展) 大正一三年
 御物撰(成婚京都府献上) 大正一三年
 和暖(府献上) 大正一三年
 斑猫(第一回淡交会) 大正一三年
 金色界 大正一三年
 馬に乗る狐 大正一四年
 醉 大正一四年
 青花魚(第六回帝展) 大正一四年

蹴合(聖徳太子奉讃会展)(日伊交換展) 大正一五年
 蹴合 大正一五年
 南支風(第七回帝展) 大正一五年
 色宿(帝展) 大正一五年
 宿鴨宿鴨(同右) 大正一五年
 古城松翠 大正一五年
 緑池 大正一五年
 海辺漁艇 大正一五年
 炭尊 大正一五年
 二南風光 大正一五年
 江興(第四回淡交会) 大正一五年
 秋興(淡交会) 大正一五年
 りな 大正一五年
 富 大正一五年
 おぼろ月 大正一五年
 虎(今上天皇御大典京都府献上屏風) 大正一五年
 吟風 大正一五年
 潮来風情 大正一五年
 山湯涼風 大正一五年
 千代田城(水墨) 大正一五年
 (日独展ベルリン出陳) 大正一五年
 潮来小(第六回淡交会) 大正一五年
 暑(同右) 大正一五年
 炎(暑) 大正一五年
 獅子(水墨) 大正一五年
 宝船 大正一五年
 郊野 大正一五年
 あら 大正一五年
 花嫁 大正一五年

清	閑	昭和八年
惜春(第七回)	淡交会	〃
晚鴉(〃)	〃	〃
風竹野雀	昭和九年	〃
苑池白鷺	〃	〃
水村(京都市美術館新築記念展)	〃	〃
花に葺(第八回)	淡交会	〃
松上白鷺(右同)	〃	〃
炉辺(第一回)	春虹会	昭和一〇年
支那風(第九回)	淡交会	〃
光図絵(淡交会)	〃	〃
酒匂川の朝	〃	〃
燕に	〃	〃
秋	〃	〃
水清(高島屋現代名画展)	〃	〃
夏鹿(第一回)	新文展	昭和一一年
秋錦	〃	〃
露	〃	〃
しふ柿(日本画総合展)	〃	〃
水	郷	昭和一二年
国	瑞	〃
芋の	子	〃
秋の(高島屋現代名画展)	〃	〃
松魚(第三回)	春虹会	〃
車(第四回)	春虹会	昭和一三年
早	鶯	〃

南支風	日光	昭和一三年
海	〃	〃
柳蔭(京都府美術倶楽部三十周年記念展)	〃	〃
梅園(鶯語)	昭和一四年	〃
海幸(大阪高島屋展)	〃	〃
飛	瀑	〃
家	瑛	〃
水	清(書)	〃
赤	松	〃
老	梅	〃
寒風破竹(書)	〃	〃
するめ(扇面)	〃	昭和一五年
二龍争珠	〃	〃
艶陽(大毎・東日奉祝展)	〃	〃
狂狗逐雷(書)	〃	〃
浮瓜沈李(書)	〃	〃
毫端春色(書)	〃	〃
風	竹(書)	〃
慈	母	昭和一六年
春	寒	〃
厨の秋(仏印巡廻展)	〃	〃
しぐる(日本画総合展)	〃	〃
る池(綜合展)	〃	〃
千代田春色	〃	〃
春	雪	昭和一七年
海幸・山幸	〃	〃
鼠	〃	〃
海幸(三笠宮御結婚京都府献上)	〃	〃

海	幸	昭和一七
写生・陶品絵附	五十余点	〃
伊東深水現代女性スケッチ展	13-23	銀座・松屋〔批〕
前春41号、三彩2月(6.8)	〃	〃
東京の女性展	13-17	産経画廊
現代アメリカ版画展	14-26	養清堂
藤井令太郎、福井敬一、横地康	〃	〃
国三人展	14-19	トキワ画廊〔批〕
美術手帖3月(徳大寺公英)	〃	〃
佐藤省三郎個展	14-19	美松画廊〔批〕
アトリエ3月(No.381)(宇佐見英治)	〃	〃
棟方志功「鍵」挿画板画展	14-19	京橋・中央公論社画廊
山下充油絵水彩個展	15-21	兜屋〔批〕
アトリエ3月(No.381)(宇佐見英治)	〃	〃
2-1展	15-19	日本橋・丸善
エマ・ポーマン(オーストリア女性)	木版画展	15-20 日本橋・白木屋
大島士一油絵展	15-20	日本橋・高島屋
8回無名会展	15-20	日本橋・三越〔批〕
前春41号	〃	〃
現代ドイツ建築写真展	15-20	日本橋・三越〔批〕
朝日16(隆)、読売夕刊17(河合正一)	〃	〃
美術家による北海道冷害救援展	15-20	日本橋・三越

平沢喜之助個展	15-20	安藤画廊
野末兆光個展	15-21	日比谷画廊
女子美術日本画展	15-19	日本橋・丸善
飯田四郎個展	16-21	村松〔批〕
美術手帖3月(徳大寺公英)	〃	〃
高橋虎之助個展	16-19	ヤナセ
美術文化神奈川グループ展	16-21	三省堂
斎藤直成個展	16-21	村松〔批〕
美術手帖3月(徳大寺公英)	〃	〃
朔日会同人近作展	16-31	上野・エバ画廊
川村久子デッサン展	16-31	渋谷・風月
田中健三個展	16-23	大阪・白鳳画廊〔批〕
美術手帖3月(杉本亀久雄)	〃	〃
須賀通泰彫刻展	17-25	サトウ〔批〕
朝日24(隆)、工藝	〃	〃
ニース Vol.25-2(N)	〃	〃
上条静光東京百景展	18-23	三原橋画廊〔批〕
前春14号	〃	〃
本多美昭、牧谷孝則二人展	〃	〃
なびす	〃	〃
新作日本画小品展	18-23	東京・大丸
九人展(麻田鷹司、三輪良平、	〃	〃

岩沢重夫、浜田台児、山本知克、上原卓、池田道夫、石本正、西村昭二郎	18-22	京都府ギャラリー
石門会展	19-25	新宿・伊勢丹
古沢岩美作陶展	19-25	上野・松坂屋
肉筆浮世絵名作展	19-27	新宿・伊勢丹〔批〕
三彩3月(No.38)	〃	〃
13回現代版画展	21-26	渡辺木版画店
高山辰雄、香月泰男二人展	21-26	ヤナセ〔批〕
前春42号	〃	〃
2回形吐会展	21-27	美松画廊
トキワ一月会・洋画・彫刻展	21-26	トキワ画廊
永井肇作品展	21-26	クレバス画廊
柚木沙弥郎染色展	21-26	丸ビル〔批〕
東京夕刊23	〃	〃
イルゼ・ブラッソン手藝作品展	22-27	日本橋・三越
梅原龍三郎仏新作展	22-24	ブリヂストン〔批〕
読売夕刊22	〃	〃
朝日25	〃	〃
東京25	〃	〃
産経夕刊25	〃	〃
日経29	〃	〃
益田 義信	〃	〃
河北 倫明	〃	〃
今泉 篤男	〃	〃
H	〃	〃
嘉門 安雄	〃	〃

東京タイムズ 加門 安雄
 2月2日
 毎日2月2日 船戸 洪吉
 美術手帖3月 徳大寺公英
 みづる3月 益田 義信
 (No. 620)
 アトリエ4月 宇佐見英治
 (No. 363)
 土方久功彫刻個展 22—26 日
 本橋・丸善 [批] 朝日24
 (隆)、美術手帖3月(徳大寺公英)、アトリエ3月(No. 361)
 (宇佐見英治)
 富岡鉄斎展 22—27 日本橋・三越
 出陳目録 (西曆)

巖棲谷飲図 一九〇五—
 梅溪清隱図 一九一〇
 古石長椿図 一九一二
 擬土佐又平筆法遊戯人物図
 華之世界図 一九一四
 東瀛神境図 一九一五
 大江捕魚図 一九一六
 王元十竹樓記図
 遊山翫水図
 十牛図意図
 遠山雪景図 一九一七
 群僊集會図
 聚沙為塔図
 幽溪魚隱図
 東坡歸院図
 東瀛僊苑図 一九一八
 鍾馗嫁妹図
 山高水長図
 三老吸酢図
 孔明躬耕図 一九一九
 乘槎浮海図
 朝晴雪図(表紙)
 茂松清泉図
 廬全喫茶図
 葛井故宅図
 東坡調仏図 一九二〇
 歲寒二雅図
 蓬萊群僊會図
 蝸牛廬図 一九二〇
 東坡捫腹図
 花板人武士図
 空山靜境図 一九二一

帝者師太公望釣魚図 一九二二
 真愛山居図
 瀛州僊境図
 三尊窟靈蹟図 一九二三
 陸茶僊品水図
 豐干禪師図
 山居安樂図
 東坡閑居図
 前赤壁図
 後赤壁図
 赤壁四面図
 嫦娥奔月図 一九二三
 吉祥聚叢図
 思遊僊窠図
 水鄉清趣図
 層巒僊閣図
 瓢中快適図
 觀瀑滌心図
 靜居掃塵図
 既飽既醉図
 蓬丘仙境図
 古仙寵図
 蓬萊山図 一九二四
 聖者問答図
 猿猴捉月図
 花鳥図
 普陀洛山觀世音菩薩像
 忠孝雙全図
 敬栖十六羅漢圍碁図
 松芝不老図
 弘法大師在唐遊歴図

寿老分昇図 一九二四
 二神會舞図
 能因法師図
 水墨清趣図
 溪居讀書図
 西湖全景図
 蓬萊仙境図
 昇天龍図
 瀛州僊境図
 聖者舟遊図
 蓬萊山図
 暮心会日本画展 22—27 日本橋・高島屋
 2回吉田道宏油絵作品展 22—27 村松
 幸丸辰門個展 22—31 タケミヤ
 日本美術院十大家名幅展 22—27 渋谷・東横
 芥川紗織個展 22—27 村松
 [批] 美術手帖3月(徳大寺公英)、アトリエ3月(No. 363) (宇佐見英治)、工藝ニエース Vol. 35—2
 目撃者グループ展 22—27 村松 [批] 美術手帖3月(徳大寺公英)
 深秋美人画小品展 22—25 産経画廊
 倉八千代、真殿サク二人展 22—27 大阪・阪急 [批] 美術手帖3月(杉本亀久雄)
 伊賀信楽茶陶展 22—27 日本

橋・三越 [批] 萌春41号
 1回俊銳クレバス画展 22—27 大阪・大丸 [批] 美術手帖3月(杉本亀久雄)
 石本茂子個展 23—28 三省堂
 安孫子萩声日本画展 25—30 東京・大丸 [批] 朝日29(隆)、萌春41号
 一九五七年展(日本洋画商連盟創立二十周年記念展) 25—30 銀座・松坂屋 [批] 東京夕刊27(美術点想)、朝日29(隆)、毎日30(船戸洪吉)、読売夕刊2月1(植村鷹千代)
 保科米三個展 25—26 銀座・東電サービステント
 アートクラブ展(河原温ほか) 25—31 なびす
 斎藤正治個展 25—29 大阪・梅田画廊 [批] 美術手帖3月(杉本亀久雄)
 辻好子油絵個展 25—29 大阪・梅田画廊 [批] 美術手帖3月(杉本亀久雄)
 むつき会日本画展 26—2月3 上野・松坂屋
 足立源一郎油絵新作展 27—31 日動画廊
 21世紀展 27—30 産経画廊 [批] アトリエ3月(No. 361) (宇佐見英治)
 10回日本アンデパンダン展 28—2月8 東京都美術館 [批]

朝日31	隆	喜田 一夫	永橋 正次
読売夕刊2月1	中原 佑介	伊東 一信	中村良七郎
産経夕刊2月2	日野耕之祐	宮崎 敬喜	
東京夕刊2月2	岡本謙次郎	会員出品目録	
美術手帖4月		田中亜木男	
みづゑ3月	徳大寺公英	座	
(No.620)		立	
アトリエ4月	宇佐見英治	作	
(No.362)		品	
17回美術文化展	28-2月8	作	
東京都美術館		品	
(批)		作	
朝日31	隆	品	
読売夕刊2月1	中原 佑介	品	
産経夕刊2月2	日野耕之祐	品	
東京タイムズ	出原 栄一	品	
2月2		品	
東京夕刊2月2	岡本謙次郎	品	
2月4	田近 憲三	品	
美術手帖4月	徳大寺公英	品	
みづゑ3月		品	
(No.620)		品	
アトリエ4月	宇佐見英治	品	
(No.362)		品	
[受賞]		品	
美術文化協会賞	鈴木 清	品	
奨励賞	永橋 正次	品	
努力賞		品	
中村良七郎	吉田 好斗	品	
宮地		品	
会員推挙		品	
関光	与 熊谷 文利	品	
高橋 勉	蔚島 庸二	品	
宮地	吉田 好斗	品	
	好斗	品	

蛙	旅	水	か	威	魔	等	け	鳥	人	狩	人	矢	小	求	降	哄	胞	脱	再	北	飯	亞	波	G	作	像	作	立	座	
神	愁	鏡	香	庭	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川
庭	田	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川
男	勇	勇	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男

舞	進	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
踏	生	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
会	生	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
会	生	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
会	生	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
会	生	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
会	生	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
会	生	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
会	生	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
会	生	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
会	生	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
会	生	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
会	生	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
会	生	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
会	生	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
会	生	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
会	生	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
会	生	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
会	生	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
会	生	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
会	生	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
会	生	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
会	生	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
会	生	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
会	生	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
会	生	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
会	生	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
会	生	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
会	生	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
会	生	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
会	生	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
会	生	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
会	生	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
会	生	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
会	生	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
会	生	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
会	生	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
会	生	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
会	生	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
会	生	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
会	生	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
会	生	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
会	生	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
会	生	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
会	生	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
会	生	星	暮	秋	季	黒	お	電	祭	泣	歌	大	深	夜	月	池	明	池	新	つ	行	虚	夜	か	ビ	黄	芽	選	假
会	生	星	暮																										

田中阿喜良個展 11—20 大阪・白鳳画廊〔批〕 美術手帖4月(杉本亀久雄)

6 回刊部入油絵個展 12—17 日本橋・三越〔批〕 産経夕刊15(日野耕之祐)

河井寛次郎陶業四十年展 12—17 京都・高島屋

17 日本洋商連盟一九五七年展 12—17 大阪・高島屋

2 回井上長三郎、井上照子作品展 12—17 日本橋・高島屋

〔批〕 産経夕刊15(日野耕之祐)、毎日16(船戸洪吉)、みづゑ4月(No.621)(針生一郎)

真鍋博個展〔動物〕 12—20 タケミヤ〔批〕 美術手帖4月(東野芳明)

宮原柳徳国宝復元仏画展 12—17 日本橋・三越〔批〕 東京タイムズ18

丸木スマ遺作展 12—17 渋谷・東横〔批〕 産経夕刊15(横川毅一郎)、東京13

鍛金協会新作品展 12—17 日本橋・三越〔批〕 萌春42号

自由学園美術工藝展 12—17 日本橋・高島屋

九谷古陶展 12—17 大阪・阪急

辻正人淡彩画展 12—17 大阪・阪急〔批〕 美術手帖5月(杉本亀久雄)

皆光茂個展 13—18 三省堂

豊田一男、須賀通泰絵画と彫刻作品展 15—28 新宿・風月あすなろ展 15—19 京都府ギヤラリー

平井進個展 15—20 村松〔批〕美術手帖4月(東野芳明)

松山治樹個展 15—20 村松

富取風堂、酒井三夏子、田中以知庵小品展 15—20 銀座・松坂屋

一瀬繁彦小品展 15—28 下北沢・風月

日本画府同人展 16—21 産経画廊

太平洋画会新人展 16—22 新宿・伊勢丹

中近東文化展 16—24 新宿・伊勢丹〔批〕 読売22(内藤智秀)

1 回虹原会展(加山又造、麻田鷹司、稗田一穂ら五名) 18—23 三原橋画廊〔批〕 三彩3月(No.620)

中神潔個展 18—23 サトウ〔批〕美術手帖4月(東野芳明)

3 回エンピツ会展 18—24 美松画廊

河合紀、八木一夫陶展 18—23 養清堂〔批〕 朝日21(隆、美術手帖4月(東野芳明)、工藝ニュースVol.25—3(N))

14 回現代版画展 18—23 渡辺

木版画廊

上社一九五七年展 18—3月 23 トキワ画廊

アトリエ・ド・ジュウネス展 18—19 銀座・東電サーピスセンター

如月会日本画展 18—23 丸ビル 中央公論社画廊

現代版画秀作展 19—24 日本橋・三越〔批〕 産経夕刊22(日野)、毎日24(船戸洪吉)

6 回このはな会染色展 19—24 日本橋・高島屋〔記〕読売22、産経夕刊22、日経夕刊25

渥美英峰俳詩賛日本画個展 19—24 日本橋・三越〔批〕 萌春43号

鹿兒島寿蔵紙型人形展 19—24 日本橋・三越

箸尾清作品展 19—24 渋谷・東横

日本刺繍院展 19—24 渋谷・東横

上田民子個展 19—24 大阪・阪急〔批〕 美術手帖4月(杉本亀久雄)

5 回さくら会洋画展 19—20 上野・松坂屋

4 回工研展 19—24 鹿兒島市工藝研究所〔批〕工藝ニュースVol.25—4(S)

崎谷武男、加治木俊道二人展 20—25 三省堂

加山四郎水彩画近作展 20—25 此花画廊

松寿会絵画展 20—27 上野・松坂屋〔批〕 萌春42号

9 回現代人形美術展 20—27 上野・松坂屋〔批〕 萌春42号(H)

小林恒火子日本画個展 20—24 兜屋

二十世紀のデザイン展—ヨーロッパとアメリカ— 20—3月31 国立近代美術館〔批〕記

日経夕刊19

朝日23 勝見 勝

朝日夕刊3月4、5、6、7、8、18、19、21、22、24、26、27、28、29

東京夕刊10 三雲祥之助

読売夕刊15 浜口 隆一

東京タイムズ15 東横

美術手帖4月 劍持 勇

合評 渡辺 力

浜口 隆一

みづゑ4月(No.621) 小川 正隆

村上圭二作品展 21—26 村松

田中稔之、深見隆、前川佳子、朝比奈隆四人展 21—26 村松〔批〕 美術手帖4月(東野芳明)、アトリエ4月(No.362)(宇佐見英治)

泉茂リトグラフ展 21—28 タケミヤ〔批〕 朝日26(隆)、美術手帖4月(東野芳明)、みづゑ4月(No.621)(針生一郎)

上島龍個展 21—28 大阪・白鳳画廊〔批〕 美術手帖4月(杉本亀久雄)

2 回桜彩会洋画展 22—27 東京・大丸

千寿会人形展 22—27 銀座・松坂屋

日本人形展 22—3月10 鎌倉・国宝館

中島つとむ個展 22—28 なび

日本画府同人展 22—28 上野・エバ画廊

岡村吉右衛門染絵展 22—28 たくみ

諸家滞欧小品展 22—26 産経画廊

日本洋商連盟一九五七年展 23—3月4 名古屋・丸栄

日動画廊創業30年記念日本洋画代表作家展 23—3月3 名古屋・愛知県美術館

古屋・愛知美術館

北川民次、須田国太郎展 23—3月31 鎌倉・近代美術館〔批〕

東京夕刊3月7 岡本謙次郎

産経夕刊3月15 日野

毎日3月17 船戸 洪吉

みづゑ4月(No.621)

中原 佑介
南蛮雅陶展 23—3月31 鎌倉

・近代美術館
東京藝大美術学部卒業製作展

23—25 東京藝大美術学部本館

創作人形神成澤展 23—3月1
新宿・伊勢丹

十河雁油絵個展 23—28 大阪・
三越〔批〕美術手帖5月(杉本亀久雄)

全日本学生油絵コンクール発表展 24—3月5 東京都美術館〔批〕毎日2

福井昭雄個展 25—3月2 サトウ

稲垣知雄版画個展 25—3月2 養清堂

鎌田和子個展 25—3月2 トキワ画廊

渡辺貞一個展 25—27 丸ビル
・中央公論社画廊

入江比呂・高山良策・大塚睦・山下菊二四人展 25—3月3
美松画廊〔批〕アトリエ5月(No.363)(宇佐見英治)

9回読売アンデパンタン展 25—3月12 東京都美術館

〔批〕
読売3月1 滝口 修造
毎日3月1 船戸 洪吉
産経夕刊3月1 日野 隆

朝日4 隆

朝日4 隆

朝日4 隆

美術展覧会(2・3月)

東京タイムズ3月13 渡辺鴻
美術手帖4月 岡本謙次郎
みづゑ4月(No.621) 植村鷹千代

アトリエ5月(No.363) 宇佐見英治

未公開作品展 26—3月24
リヂェストン〔批〕産経夕刊3月1(日野)

1回覽会展 26—3月2 壺中居〔批〕朝日28(隆)、東京夕刊3月1(久富貢)、萌春42号、三彩4月(No.86)

岡本水新美術人形展 26—3月3 日本橋・高島屋

青玲社日本画展 26—3月3 大阪・阪急

高倉一二近作展 26—28 高岡・大和百貨店

俊鋭クレパス画展 26—3月3 神戸・大丸

アルバート・エバレット油絵展 26—3月3 渋谷・東横

〔批〕美術手帖5月(植村鷹千代)

壇輪と土器の会 26—3月3 上野・松坂屋

和田香苗油絵展 26—3月3 日本橋・三越

全国試験所グッド・デザイン作品展 26—3月3 日本橋・三越〔批〕朝日28(隆)

結城絨展 26—3月3 日本橋

結城絨展 26—3月3 日本橋

結城絨展 26—3月3 日本橋

結城絨展 26—3月3 日本橋

三越〔記〕日経夕刊25
2回制作者集団「極」展 27—3月4 村松〔批〕アトリエ5月(No.363)(宇佐見英治)

三月会展 27—3月4 村松草々春季展 27—3月3 産経画廊

日美校作品展 27—3月4 三省堂〔批〕産経夕刊1(日野)

島田由紀子個展 27—日本橋・丸善

玉須道人南画展 28—3月2 丸ビル・中央公論社画廊

6回五都展 28—3月1 東京美術倶楽部〔批〕萌春42号(H)

三 月

2回村上華岳展 1—24 市立神戸美術館

戸津勇作、安谷大、堀内菊三三人展 1—15 上野・エバ画廊

芥川紗織、向井良吉絵画と彫刻作品展 1—15 新宿・風月

西良三郎個展 1—10 タケミヤ

千葉大学工業意匠学科5回学生デザイン展 1—5 銀座画廊

榎倉省吾個展 1—5 大阪・梅田画廊〔批〕美術手帖5月(杉本亀久雄)

青松会展 1—6 銀座・松坂

青松会展 1—6 銀座・松坂

青松会展 1—6 銀座・松坂

青松会展 1—6 銀座・松坂

屋
塙賢三洋画展 1—7 上野・松阪屋

光陽会春季展 1—9 上野・松阪屋

矢田部和子個展 1—15 渋谷・風月

清尚会日本画展 1—6 東京・大丸〔批〕萌春42号

鎌倉彫小ゆるぎ借作品展 1—9 上野・松坂屋

3回ホリジヤン会新作木彫展 2—8 新宿・伊勢丹

中島弘二個展 2—8 日比谷画廊

クロード・岡本展 2—4 なび川端龍子個展 2—7 大阪・三越

4回関野準一郎版画個展 4—9 サトウ

佃武昭個展 4—9 産経画廊

三月展(糸井けい子、高野雅彦、野沢秀綱、三浦勉、三輪照生)

4—7 日本橋・丸善

土屋幸夫スケッチ展 4—6 トキワ画廊

グループ発展 4—7 山口市・八木

愛原賢介個展 4—8 丸ビル・中央公論社画廊

5回日社小品展 5—10 日本橋・高島屋〔批〕萌春42号、

5回日社小品展 5—10 日本橋・高島屋〔批〕萌春42号、

三彩4月(86号)
昭和31年度朝日広告賞入選作品典示会 5—10 日本橋・高島屋

池大雅百八十年記念名作展 5—17 日本橋・三越

新制作協会選抜展 5—10 渋谷・東横〔批〕朝日8(隆)、三彩4月(86号)

芳美会日本画展 5—10 渋谷・東横

4回サンシユマン展 5—10 日本橋・高島屋〔批〕産経夕刊8(阿部辰也)、朝日8(隆)

金剛会新作日本画展 5—10 日本橋・高島屋〔批〕三彩4月(86号)

比田井天来記念前衛書展 5—10 村松〔批〕東京夕刊8(阿部辰也)

1回輸出織維デザイン展 5—6 大阪・国際見本市会館

〔批〕工藝ニュースVol.25—28 渡力敷唯信個展 5—9 サエグサ

金沢秀哉、菅原正記、矢吹公郎三人展 5—10 村松

2回且生会展 5—10 上野・松阪屋〔批〕三彩4月(86号)、萌春42号、〔記〕三彩4月(86号)(三村石邦)

和田三造「職人づくし版画」展

和田三造「職人づくし版画」展

和田三造「職人づくし版画」展

和田三造「職人づくし版画」展

和田三造「職人づくし版画」展

和田三造「職人づくし版画」展

- 5-10 日本橋・三越
- 私のお母さん図画渡米展 5-10
- 10 日本橋・三越
- 無声会同人南画展 5-10 日
- 本橋・三越
- 毎日産業デザイン展 5-10
- 日本橋・三越
- 須山計一近作展 5-19 自由
- ケ丘・田園
- 6回五都展 5-6 金沢美術
- 倶楽部
- 新作日本画展 5-10 京都・土橋画廊
- 京都工芸美術展 5-10 京都・大丸
- 郭仁植油とクロッキー展 6-11 三省堂 [批] 美術手帖
- 5月(植村鷹千代)
- 関西二紀会展 6-12 大阪市
- 立美術館 [批] 美術手帖 5月(杉本亀久雄)
- 都立日比谷図書館フレスコ壁画原案展示会(JAN同人共同製作) 7-9 トキワ画廊
- 棕櫚会彫刻展 8-13 銀座・松坂屋 [批] 東京夕刊 11(本間正義)、美術手帖 5月(植村鷹千代)
- 高橋惟一洋画展 8-13 銀座・松屋
- 京都版画展 8-12 京都府ギヤラリー
- 能村政吉素描展 8-12 日本

- 橋・丸善
- 現代版画展 8-12 兜屋
- 鎌倉彫朱桜会習作展 8-13 銀座・松屋
- かおすグループ展 8-13 東京・大丸
- 得一会展 8-13 銀座・松屋
- 現代創作版画展 8-12 京都府ギヤラリー
- ヒモトタロウ(漫画)、鳥居利彰(油絵)、一村哲也(写真)三人展 9-14 日比谷画廊
- 6回五都展 9-10 京都美術倶楽部
- 5回新商美展 11-16 サトウ [批] アトリエ 5月(宇佐見英治)
- (宇佐見英治)
- 内間安理、流政之木版画と石彫展 11-16 養清堂 [批]
- 朝日15(隆)、読売夕刊15(中原佑介)美術手帖 5月(植村鷹千代)、みつる 5月(宇佐見英治)、工芸ニュース Vol.25-3(N)
- 鬼頭正人個展 11-16 村松 [批] 美術手帖 10月(植村鷹千代)、アトリエ 5月(宇佐見英治)
- (宇佐見英治)
- 中野恵祥板金展 11-16 村松
- 深沢春郎個展 11-16 トキワ画廊
- ゴヤエッチング「ロス・プロヴ

- エルピオス」展 11-16 求竜堂 [批] 読売夕刊 15
- 堀文子、朝倉摂、秋野不矩、広田多津四人展 11-16 三原橋画廊 [批] 三彩 4月(86号)
- 滞欧作洋画展(井手宣通、西山真一、小野彦三郎ら十名) 11-16 産経画廊
- 三枝会油絵鑑賞展 11-16 サエグサ [批] 朝日15(隆)、東京夕刊15(岡本謙次郎)
- 芽ばえ会手織作品展 11-16 丸ビル・中央公論社画廊
- 麒麟の会展 11-16 村松 [批] 読売夕刊15(中原佑介)
- 3回ナガハマ塾染色展 12-17 上野・松坂屋
- 独立十人の会展 12-17 日本橋・高島屋
- 河村喜太郎作陶展 12-17 日本橋・三越
- 長浜重太郎染色展 12-17 上野・松坂屋
- 横山一夢木工藝展 12-17 日本橋・三越
- 充美会特選展 12-17 大阪・阪急
- 1回全国輸出雑貨見本市 12-15 神奈川県中小企業会館 [批] 工芸ニュース Vol.25-3
- 6回五都展 12-13 大阪美術倶楽部

- 梶原緋佐子日本画展 12-17 日本橋・三越
- 穂積昭二個展 13-18 三省堂
- 2回雨晴会展 13-16 兼素河 [批] 産経夕刊15(横川)、日経15(嘉間安雄)、朝日15(隆)、東京夕刊15(久富真)、萌春42号、三彩 4月(86号)
- 武蔵野美術学校デザイン科卒業制作展 13-20 武蔵野美術学校
- 内山秀子、亀本信子、松江佑子、吉村郁子四人展 13-16 日本橋・丸善 [批] 産経夕刊15(日野)、読売夕刊15(中原佑介)
- 9回三軌会展 14-27 東京都美術館 [批] 産経夕刊22(日野)、東京タイムズ22、美術手帖 5月(徳大寺公英)
- 十周年記念示現会展 14-27 東京都美術館 [批] 産経夕刊22(日野)、東京タイムズ22、美術手帖 5月(徳大寺公英)
- 1回柴原貴、久松雅子二人展 14-18 兜屋 [批] 産経夕刊15(日野)
- 7回一線美術展 14-27 東京都美術館 [批] 産経夕刊22(日野)、東京タイムズ22、美術手帖 5月(徳大寺公英)
- 33回白日会展 14-27 東京都美術館 [批] 産経夕刊22(日

- 野)、東京タイムズ22、美術手帖 5月(徳大寺公英)
- 今洋子個展 14-18 美松画廊
- 美術文化協会神奈川展 14-19 横浜・有隣堂
- 小出橋重、佐伯祐三二人展 14-20 大阪・フジカワ
- 現代版画展 14-20 大阪・白鳳画廊
- 2回大阪美術協会展 14-19 大阪市立美術館
- 戸田浩堂個展 14-20 新宿・伊勢丹 [批] 萌春42号
- 柏光会日本画展 14-24 日本橋・白木屋 [批] 萌春42号
- 水崎竣介個展 15-20 タケミヤ [批] 読売夕刊15(中原佑介)
- 3回吉光会展(龍村平蔵創作) 15-17 日本橋・高島屋 [批] 東京17
- 創作染織美術衣装展(大彦、野口真造) 15-17 日本橋・高島屋 [批] 東京17
- 山口達春スケッチ展 15-25 銀座・松屋 [批] 朝日18(隆) 日経19(北川桃雄)、東京夕刊23(久富真)、毎日22(船戸洪吉)、美術手帖 5月(植村鷹千代)
- 高橋貞一郎遺作展 15-20 銀座・松坂屋 [批] 朝日18(隆)
- サンコム会同人展 15-19 大阪・梅田画廊

葉風染色展 15—19 京都府ギ

ャラリー

4 回野田好子個展 15—20 フ

オルム [批] 朝日18(隆)、

美術手帖5月(植村鷹千代)、

アトリエ5月(6,363)(宇佐

見英治)

田崎広助個展 15—20 八重州

画廊 [批] 朝日18

青玄会作品展 15—20 東京・

大丸

開館一周年記念現代日本絵画展

(特別陳列)近代フランス絵

画の名作) 15—5月20 久留

米市・石橋美術館

池田龍雄、向井良吉絵画と彫刻

作品展 16—31 新宿・風月

築地進個展 16—31 渋谷・風

月

三輪一郎バステル画個展 17—

20 産経画廊

3 回鬼集会同人展 17—22 村

松及び三原橋画廊

吉田照子、小川依子二人展

18—23 トキワ画廊

3 回「橋」グループ展 18—23

サトウ

2 回要樹平個展 18—21 日本

橋・丸善 [批] 産経夕刊20

(日野)

竹内多美子作品展 18—23 養

清堂 [批] 美術手帖5月(植

村鷹千代)

井上三綱近作展 18—23 日動

画廊 [批] 東京夕刊21(岡本

謙次郎)

1 回URアクセサリー協会展

18—23 和光 [批] 工藝ニ

ュースVol.25—3(N)

木村百木水墨展 18—23 丸ビ

ル・中央公論社画廊

現代版画展 18—23 渡辺木版

画店画廊

春の青龍展 19—31 日本橋・

三越

[批]

産経夕刊20

毎日22 横川毅一郎

東京夕刊28 船戸 洪吉

朝日29 久富 貢

萌春42号 隆

三彩5月(87号) 多田 信一

美術手帖5月 徳大寺公英

春の青龍社々人展 19—31 日

本橋・三越

6 回きぬた会染色作品展(野口

道方主宰) 19—24 日本橋・

高島屋

近代人形工藝展 19—24 日本

橋・三越

棟方志功藝業展 19—27 渋谷・

東横 [批] 朝日22(隆)

ミラノ・トリエンナーレ展出品

国内展示会 19—24 日本橋

高島屋 [批] 東京21、読売夕

刊22(中原佑介)、朝日22(隆)

1 回輸出繊維デザイン展 19—

20 東京都産業会館 [批]

工藝ニュースVol.25—3

田之口青晃個展 19—24 日本

橋・三越

青龍会展 19—23 美松画廊

鈴木琢磨作品展 19—25 樺画

廊 [批] 美術手帖5月(植

村鷹千代)

矢野橋村新作画展 19—24 大

阪・阪急

6 回生活と工藝展 19—24 福

岡・岩田屋 [批] 工藝ニユ

スVol.25—4,5

小林恒火子日本画個展 20—24

兜屋

七大家新作日本画展 (大観、

玉堂、桂月、翠嶂、清方、放

庵、龍子の近作) 20—24 上

野・松坂屋 [批] 萌春43号

王朝文化展 20—31 上野・松

坂屋

唐物茶陶展 20—4月27 根津

美術館

モダンアート写真グループ展

20—25 三省堂

染織名裳展 20—31 上野・松

坂屋

2 回大西茂印画展 21—30 タ

ケミヤ [批] 朝日29(隆)

福田平八郎スケッチ展 21—26

京都府ギャラリー

6 回五都展 21—22 名古屋美

術楽部

鴻川誠一新作油絵展 22—27

東京・大丸

有田徳一個展 22—26 日本橋

丸善

柳緑会人形展 22—27 銀座・

松坂屋

JUNE展 23—28 村松

[批] 読売夕刊29(中原佑

介)、美術手帖6月(中原佑介)

「青い鳥」五十周年記念舞台美術

と人形展 23—25 銀座・松

屋

多摩四人展 (熊谷六朗、志村

茂、小畑次郎、福原保) 23—

29 なびす

伊藤翠壺新作陶藝展 23—28

日本橋・三越

現代一流美術家名士作品即売会

23—26 銀座・松屋

6 回LETTIA展 24—28

美松画廊

上島龍個展 25—30 トキワ画

廊

2 回萩原英雄版画展 25—30

養清堂 [批] 読売夕刊29(中

原佑介)、美術手帖6月(中原

佑介)

3 回小久保晴行絵画彫刻展 25

—30 サトウ

須賀卯夫個展 25—30 丸ビ

ル・中央公論社画廊

3 回黒潮会展 26—31 京都・

大丸

小出橋重遺作展 26—4月21

ブリヂストン

[批]

産経夕刊29

朝日4月1

毎日4月14

週刊朝日4月14

出品目録

油彩水彩

銀 1914

アネモネ 1915

静 1919

Nの家族

静 1920

風景

自 1921

裸婦立像

汽車の見える風

景 1922

室内

カーニユ風景

フランス人形

あきみ 1923

貝細工

子供立像

人形のある静物

フランス人形

帽子をかぶった

自画像

椅子に凭る裸婦

(水) 1924

フランス人形

草花 静物

野	地球儀のある	1924	裸	別府の海	1930
静物	裸婦	1925	裸婦	?	
白布を持てる裸婦	"	"	臥裸婦	1930	
芦屋風景	"	1926	枯木のある風景	"	
毛糸束	"	"	裸女(水彩)	"	
鏡と裸婦	"	"	裸婦(シ)	"	
花	"	1927	素描	?	
草花静物	"	1927	花(淡彩)	1929	
裸女結髪	"	"	支那寝台の裸婦	"	
静物トマト	"	"	裸婦(シ)	"	
黒卓静物	"	"	支那寝台の裸女	"	
黒卓花	"	"	テーブルと裸女	1930	
横たわる裸女	"	1928	裸女(ペン)	"	
西瓜のある静物	"	"	裸女(ガラス絵の下絵)	"	
ばら	"	"	フランス人形	"	
ばら	"	"	花	1923	
蔬菜静物	"	"	裸婦	1924	
支那寝台の裸婦	"	1929	裸婦	1926	
裸婦	"	"	支那寝台の裸女	1927	
芦屋	"	"	フランス人形	1928	
牡屋	"	"	裸女	1929	
"	"	"	支那寝台の裸女	"	
"	"	"	フランス人形	"	
"	"	"	支那寝台の裸女	1930	
"	"	1930	静物	"	
"	"	"	水	1928	
"	"	"	支那寝台の裸女	"	
"	"	"	墨	"	
"	"	"	支那寝台の裸女	"	
"	"	"	フランス人形	"	
"	"	"	冬	"	
"	"	"	秋	"	
"	"	"	夏	"	
"	"	"	春	"	
"	"	"	支那寝台の裸女	"	
"	"	"	裸婦	"	
"	"	"	支那寝台の裸婦	"	
"	"	"	フランス人形	"	
"	"	"	晴	"	
"	"	"	支那寝台の裸婦	"	
"	"	"	裸婦	"	

鏡にうつる	1928	日本
支那寝台の裸女	"	"
美術団体選抜新人展(朝日新聞社主催)	26-4月7日	日本橋・白木屋
本橋・白木屋	[批] 朝日29	"
(隆)、東京タイムズ	4月4(渡)	"
辺鴻)、美術手帖	6月(中原佑介)	"
2回米倉正弘個展	26-31	三省堂
省堂	[批] 読売夕刊29	(中原佑介)
綱谷義郎、安宅礼子、明日香文、小島安正四人展	26-30	大阪・梅田画廊
日本人形美術院展	26-4月3	銀座・松屋
回創玄会工藝展	26-31	日本橋・高島屋
1回河合瑞豊作陶展	26-31	日本橋・三越
武者小路実篤個展	26-31	野・松坂屋
加納三菜個展	26-31	高島屋
山中清一郎油絵展	27-31	兜屋
高田正二郎個展	27-30	日本橋・丸善
笹島喜平版画小品展	27-4月	1 産経画廊
甲曜会洋画展	28-30	京都書院画廊
久野真個展	29-4月3	村松
[批] 読売夕刊5	(中原佑介)	"

VIVAN展	29-4月2	美松画廊
無名の工人展(神戸市立盲学校生徒作品)	29-4月2	東京・大丸
黒田浩一郎、志村直信、野尻佐木、大橋皓也四人展	29-4月4	日比谷画廊
2回織染色工藝展	29-4月	新宿・伊勢丹
3回珊瑚光会展	29-4月3	東京・大丸
三彩5月(87号)(多田信一)	3回吉沢章制作折り紙展	29-4月3
4月3	東京・大丸	"
駒田嘉一郎個展	29-4月3	銀座・松坂屋
43回光風会展	30-4月15	京都美術館
産経夕刊	4月5	日野
東京夕刊	4月5	大島隆一
朝日	4月6	岡本謙次郎
毎日	4月7	船戸洪吉
東京タイムズ	4月8	渡辺鴻
みづゑ5月	(No.622)	岡本謙次郎
アトリエ6月	(No.364)	宗左近
岡田賞	松本正人	"
南賞	浅井光男	"

光風特賞	角卓、太田美代子、根岸秀雄
光風賞	小島清雄、木村雅徹
工藝特賞	坂本和子、宮入装
装雄	"
光風工藝賞	久保翠、三橋国民

会員出品目録

厨卓	杉村惇
舵輪	"
踊り	西尾善積
東京の河	国領経郎
東京の谷	"
四谷風景	山口猛彦
窓辺群像	柳瀬俊雄
CARNIVAL	阪倉宣暢
サン・ミッシェルの裏通り	"
裸婦	金沢秀之助
娘の像	高光一也
「千芽」礼賛	"
緋いサリイ	南政善
パリの壁	西山真一
ウムプリアの対	渡辺武夫
話	"
カアニユ	"
オルレアン河岸	"
ウイリアム物語	笹岡了一
青桐	伊藤四郎
静物	"
椅子の静物	黒田頼綱

赤いチヨッキの
女

LEMBRASS
EMENT

工 場 浅井光男
石 工 笹鹿彪
早 春 高木春太郎
白 教 会 三輪孝
洋 蘭 藤原坦
鶏と少年 藤江理三郎
パリー風景 山下忠平
シヤルトルの眼 鬼頭鍋三郎
鏡橋
修道尼像 辻村八五郎
静 物 安達真太郎
ヴェトイユの丘 大沢海蔵
ロ 裸 婦 寺内万治郎
横 臥 像 中村研一
島 浮 渡 永
座 像 中村研一
パリー郊外新道 繁
トレド城門
伊豆の海 石橋武治
熱 海 河井清一
水門のある風景 小糸源太郎
雪 後 中沢弘光
拓本の前に 耳野卯三郎
紫 陽 花 中沢弘光
秋の草花 耳野卯三郎
雪 景 角野判治郎
緑のサリ 田中実一
湖畔の雪 小寺健吉
白 山 田新一

五月風景 和田清
葡萄もつ 高宮一栄
本を讀む子 榎松正利
六 甲 山 藤本東一良
南 仏 景 島野重之
午 後 朝比奈文雄
座 像 朝比奈文雄
雪 山 朝比奈文雄
人 形 高倉一二
窓 外 雪 小川博史
赤い風 三尾文夫
赤い風 三尾文夫
かなぐつや 矢口洋
しやも 矢口洋
天 竜 山 白川一郎
貝 花 黒田久美子
春 黒田久美子
美 弥子 岡田又三郎
風 弥子 岡田又三郎
黒い裸婦 伊藤悌三
古 見 干 潮 池野寿彦
自 画 飯田弥生
少 年 幸島重雄
青い服の女 庄司栄吉
縫い服の女 庄司栄吉
冬の川 菅谷邦敏
黒衣婦人像 篠田喜与志
残 雪 辻 朗
天 主 堂 山中清一郎
波 切 A 中条茂
波 切 B 中条茂
いがみと燦製 益山英吾
静 物 秋元松子

横むき婦人像 江藤純平
漁 村 山喜多二郎太
二月の港 井手宣通
婦 人 像 A 森田元子
冬 山 田村一男
丘の上から 遠山清
冬 田 大桃寛
早 春 溝江勘二
房 総 海 岸 溝江勘二
早 春 溝江勘二
婦 人 像 宮脇憲三
静 物 村岡平蔵
人 物 村岡平蔵
ケ 色 の コ ー ト 藤彦衛門
薄色のコート 藤彦衛門
室 内 反町博彦
丘の風景 寺島竜一
裸 婦 日 戸 田 定
平 日 戸 田 定
ニコライ堂 鷗飼幸雄
立つたポーズ 松尾正巳
志 摩 風 景 鈴木三五郎
燈 台 藤井芳子
A夫人像 藤井芳子
春 浅 日 藤井芳子
食 卓 根津莊一
遠 坊 根津莊一
鈴 鹿 早 舟木徳重
婦 人 像 水上信雄
浜 人 像 水上信雄
町 の 雪 日 原 晃

函室にて 北浜淳
函館の港 森桂一
真鶴早春 松本正人
山手風景 久山章
初 秋 久山章
オリブの岡 桜田精一
港の見える丘 桜田精一
裸 婦 名渡山愛順
沖 繩 の 女 足立真晃
残雪の鹿沢高原 足立真晃
ほろほろ鳥 戸塚孝三郎
画 室 上島一司
山 腹 内山孝
海 辺 足代義郎
台風の眼 A 岩船修三
鳥を飼う 由里明
化学工場 石河彦男
男 学 永田精二
白 壁 の 道 御正伸
海 原 小林易夫
高 原 星野正三
朝の神 久本弘一
秋の神 熊沢欽三
座 像 大倉克次
街 角 大倉克次
八 重 洲 井上武
船 通 井上武
港 井上武
蒲 郡 海 辺 中島音次郎
三 原 山 高田正二郎
農 具 丸山豊一

T氏肖像 和田香苗
静 物 清原重以知
梅 樹 大原省三
Y君の像 大原省三
座 像 斎藤 齊
少女二人 斎藤 齊
少 女 二 人 斎藤 齊
春 近 水 門 野平上
早 春 の 丘 伊藤鎗一
風 景 手塚義三郎
花 店 岡本由郎
卓 上 の 花 市ノ木慶治
閑 日 梶原貫五
牧 場 西村喜久子
漁 港 西村喜久子
税 関 附 近 川端謹次
曇 日 荒井邦朝
小 河 内 荒井邦朝
閑 村 中岡恒雄
早 春 村 中岡恒雄
室 内 田 中 実
ま ど 田 中 実
風 景 A 山本彪一
土器・つぼとさ 馬淵 聖
る 土器・つぼとさ 馬淵 聖
母 子 永瀬義郎
日 子 永瀬義郎
春の海 長坂春雄
古池の蓮花 長坂春雄
わかもの竹沢基

美術展覧会(3月)

3 回具体美術展 3-10 京都

市美術館 [批]美術手帖6月 (杉本亀久雄)

京都市民合同美術展 3-8 京都市美術館

モダンアート展 3-12 京都市美術館

能楽美術品、徳川期美術品展 3-5 5月5 神戸・白鶴美術館

矢柳剛個展 4-9 村松

露屋社展 4-15 東京都美術館 [批] 萌春43号

大森朔術個展 4-9 村松

今田謹吾水墨画展 4-6 丸

ビル・中央公論社画廊

墨の藝術「中国と日本の絵画」 5-5 5月5 国立近代美術館 [批] 産経夕刊12(日野)、東京夕刊12(野間清六)

国宝源平鎧複製展 5-14 銀座・松屋

太平洋画会春季展 5-10 東京・大丸

黄芽会展 5-9 日本橋・丸善

守屋多々志イタリア・スケッチ展 5-10 銀座・松坂屋

[批] 三彩5月(89号)(多田信一)

アート・クラブ・グループ展

6-12 なびす

青井辰雄、真領博二人展 6-1

美術展覧会(4月)

11 日本橋・三越

平塚運一版画展 6-11 台東区役所

カラコルム展(アフガニスタン、イラン、パキスタン美術)

6-12 鎌倉・近代美術館

大光コレクション展 6-8

新潟・大光相互銀行新潟支店

京都と「きもの今昔」展 7-17 池袋・西武

阿部展也個展 8-13 養清堂 [批・記] 朝日13(隆)、美術手帖6月(阿部展也)、みづゑ

5月(2023)(徳大寺公英)

田坂乾油絵展 8-12 兜屋

長谷秀三作品展 8-13 サトウ

3回アルファ展 8-13 クレ

バス画廊

裸婦代表作品展 8-15 大阪・フジカワ

宮川富佐子個展 8-13 トキ

安川愛子個展 8-13 丸ビ

ル・中央公論社画廊

川端龍子個展(主題一金・銀) 9-14 日本橋・高島屋

[批] 朝日11(隆)、産経夕刊12(横川)、東京夕刊11(久富貴)、萌春44号、三彩5月(87号)

矢野茫土日本画展 9-14 日本橋・三越

橋・高島屋 [批] 朝日11(隆)

産経夕刊12(横川)、萌春43号 (久富貴)、三彩5月(87号) (多田信一)

12回日本美術院小品展 9-14

日本橋・三越 [批] 朝日11 (隆)、産経夕刊12(横川)、萌

春43号

河井寛次郎陶業四十年展 9-14 日本橋・高島屋 [批] 朝日11(隆)

旧松方コレクション名作美術展 9-28 日本橋・白木屋 [批・記]

産経夕刊12

読売夕刊12

毎日12

東京夕刊18

東京タイムズ19

アトリエ6月(2023)

読売夕刊11

読売夕刊12

読売夕刊13

読売夕刊15

読売夕刊16

読売夕刊17

読売夕刊19

アルピニ

イスラエル

ヴァンダイク

ウイリスン

ヴラマンク

ヴァイヤール

ウオーレス

エンネル

オーベン

オットマン

カザン

ガルジ

ギリス

ギョーマン

グアルデイ

クールベ

ゲンスボロ

ゴイエン

ゴイブ

ゴッガン

コロー

シスレー

ヴァンダイク

ウイリスン

ヴラマンク

ヴァイヤール

ウオーレス

エンネル

オーベン

オットマン

カザン

ガルジ

ギリス

ギョーマン

グアルデイ

クールベ

ゲンスボロ

ゴイエン

ゴイブ

ゴッガン

コロー

シスレー

ヴァンダイク

ウイリスン

ヴラマンク

ヴァイヤール

ウオーレス

エンネル

オーベン

オットマン

カザン

ガルジ

ギリス

ギョーマン

グアルデイ

クールベ

ゲンスボロ

ゴイエン

ゴイブ

ゴッガン

デ・ブレイ	軍人の肖像	ボスール	獅子獅子	リッチモンド	シアナ郊外	ジェームス卿の像	斎藤宋馬造形てん刻個展
ドービニー	山村風景	マ・ネ	オペラの仮装舞踏会	T・ルツソー	コロローの肖像	像	13 日本橋・丸善
シ	水辺風景	マ・ス	バルビゾンのミレーの家	ルノアール	風流	景	田辺栄次郎滯欧作品展
シ	漁場	ミ・レ	パリー像	ルーパーズ	赤ネクタイの男像	景	大阪・梅田画廊
シ	馬を伴うアラビアン	ミ・ル	山の風景	ルーパーズ	裸婦	景	窓井会洋画展
シ	(伝) 楽園	ミ・ニ	サザニエ侯爵夫人	レ・トク	(エッチング)	景	伊勢丹
シ	トローペン花	ミ・ツ	ストリンドベルの像(石版)	レ・トク	裸婦	景	瑛九個展
シ	トローワイヨン	ム・ク	ムンクの自画像	レルミット	休息する老農夫	景	19(中原佑介)、美術手帖6月(中原佑介)
シ	ネーデル	シ	マドンナ(木版)	ロセッティ	放羊	景	現代大家彫塑展
シ	パイン・ジョー	シ	ストラウドの女(木版)	ロワベ	鳥の毛むしり	景	京・大丸
シ	ハリデイ	シ	かなしみ(銅板)	ロダ	十字軍	景	生活造型展
シ	ピサロ	シ	アッセル博士の像(シ)	シ	柱頭の婦人像	景	3回すみれ会人形展
シ	ヒュッテ	シ	なかつた母	シ	女の首(ブロンズ)	景	6人展(長江達雄、刀根真澄、柴田紗千夫ら)
シ	ブラングイン	シ	他5点	シ	風景	景	面廊(批) 美術手帖6月(中原佑介)
シ	失題	シ	メンツェル	シ	イダ山上のバリ	景	花と色の和風展
シ	小さな港	シ	メルラー	シ	婦人像	景	座・松屋
シ	橋二十景の中	シ	モネ	シ	ジュピターの少年時代	景	名織展
シ	時化の日	シ	ヤンセン	シ	作者不詳	景	12-21 上野・松坂屋
シ	材木屋	シ	つみわら	シ	風景	景	新制作京都春季日本画展
シ	少女像	シ	モンソー公園	シ	宗教画(キリスト)	景	18 京都市美術館
シ	自画像	シ	ベン川の令嬢	シ	イスパニヤの女王	景	13回造形教育センター展
シ	牧神と美女	シ	エトリロ	シ	王	景	マある新しい絵
シ	静物	シ	ラアファエリ	シ	王	景	なびす
シ	屠られた牛	シ	卵売	シ	王	景	大光コレクション展
シ	(エッチング)	シ	卵売	シ	王	景	13-15

(徳大寺公英)、朝日18(隆)、
産経18(日野)、日経夕刊20、
毎日20(船戸洪吉)、東京夕刊
21(美術点想)、萌春43号
2回久里洋二漫画展 14-18
美松画廊 [批] 東京タイム
ズ14(日)
田中恒夫個展 14-18 兜屋
杉山寧写生展 15-24 銀座・
松屋 [批] 朝日18(隆)、東
京夕刊19(河北倫明)、毎日20
(船戸洪吉)、日経21(福島繁
太郎)
島戸繁近江風景油絵展 15-17
日本橋小伝馬町・滋賀ビル
小野州一個展 15-20 養清堂
グロッタの画家展 15-20 サ
トゥ
朝日18 隆
読売夕刊19 中原 佑介
美術手帖6月 シ
みづゑ6月(No.623) 東野 芳明
アトリエ6月(No.324) 宗 左近
自由美術会員10人展 15-20
ヤナセ [批] 美術手帖6月
(中原佑介)
3回朔日会展 15-19 産経画
廊
鈴木猛入ニューステンドグラス
展 15-20 丸ビル・中央公

論社画廊
爽吐会油絵展 15-20 トキワ
画廊
八木正風個展 15-18 日本
橋・丸善
フェウザン会回顧展 15-30
京橋・中央公論社画廊
[批]
産経19 日野
朝日25 隆
東京夕刊26 河北 倫明
毎日30 船戸 洪吉
アトリエ6月(No.324) 宗 左近
出品目録
斎藤与里 春 光
暁 光
木村荘入 風景(虎門附近)
雑司ヶ谷畑
窓 外屋 根
岸田劉生 外套を着た自画
川に行く道(居
留地)
居留地の夕
日のあつた道
自 画 像
高村光太郎 上高地風景
小林徳三郎 軽 業(木版)
習作(エッチン
グ)
動物園

鈴木金平 有楽町附近
万 鉄五郎 風景
自 画 像
女の顔
エチュード
静 物
川上涼花 初夏路
鉄 景
風 景
風 景
風 景
真田久吉 風景
清宮 彬 習 作
鑄金名作展(鑄金家協会五十周
年記念) 16-21 日本橋・
三越 [批] 工藝ニュース
Vol.25-45(N)
河原温、阿井正典絵画と彫刻作
品展 16-30 新宿・風月
坂田一男遺作展 16-42 ブリ
ヂストン [批] 東京夕刊11
(寺)、産経19(日野)、読売夕
刊19(中原佑介)、毎日21、美
術手帖6月(中原佑介)
春の青龍展 16-21 京都・大
丸
伊藤常磐個展(舞台美術のため
の) 16-30 渋谷・風月
8回荻野康児個展 16-21 日
本橋・高島屋
岡部繁夫、森兵五、勝保泰蔵、
望月鏡一四人展 16-21 村
松

中村瑠璃子個展 16-20 サエ
グサ
森田正治個展 16-23 南画廊
[批] 朝日18(隆)、産経19
(日野)、読売夕刊19(中原佑
介)、毎日21、美術手帖6月
(中原佑介)
長野静司個展 16-20 フォル
ム
日本画・洋画大家新作展 16-
21 渋谷・東横 [批] 萌春44
号
菊地辰幸個展 16-21 村松
浦崎永錫個展 16-21 大阪・
フジカワ
生沢朗ゴルフコース風景展 16
-21 安藤画廊
我妻碧宇、加藤辰明二人展 16
-21 上野・松坂屋 [批]
萌春44号
清瓊会日本画展 16-21 日本
橋・三越 [批] 萌春43号
三輪休雲茶陶展 16-21 日本
橋・三越
染谷元蔵、中野勉、柘植勇三油
絵三人展 16-21 大阪・阪急
末村笙文花籠新作展 16-21
大阪・阪急
宋・元・明・清時代中国画展
16-28 酒田・本間美術館
朝比奈文雄個展 17-20 求龍
堂 [批] 産経19(日野)
小牧源太郎展 17-21 京都市

美術館 [批] 美術手帖6月
(杉本亀久雄)
5回日本彫塑展 17-5月6
東京都美術館 [批] アトリ
エ6月(No.324)(宗左近)
アンリ・ガイヤール個展 17-
22 三省堂
カルチエ・プレッソン写真展
17-5月5 日本橋・高島屋
[批] 読売夕刊23(瀬木慎
一)、朝日25(宮本三郎)、毎
日28(志賀直哉)、
友永マリ個展 18-22 樺画廊
16回現代版画展 18-24 渡辺
版画店
3回関東私鉄沿線風景南画展
18-24 新宿・伊勢丹 [批]
萌春43号
25回日本版画協会展 18-5月
4 東京都美術館
朝日23 隆
毎日5月4 船戸 洪吉
週刊朝日5月12 明人
美術6月 対談(植村鷹千代
手帖6月 対談(徳大寺公英
アトリエ6月 宗 左近
(No.324)
31回国画会展 18-5月4 東
京都美術館
[批]
東京都美術館
朝日23 隆
毎日24 土方 定一

読売夕刊26 中原 佑介
 産経夕刊26 日野 禰島繁太郎
 日経26
 週刊朝日5月12 明人
 美術6月 対談(植村鷹千代 徳大寺公英)
 手帖6月 中野 佑介
 みづゑ6月 (No.623)
 アトリエ6月 宗 左近
 (No.304)
 [受賞]
 会友優作賞
 絵画—鎌田雛子、金子三蔵、
 本田克己
 版画—伊藤勉、中川雄太郎
 工藝—関口信男
 国画賞
 絵画—島田章三、彼末宏
 版画—岩見礼花
 写真—柴田豊次
 工藝—金城次郎
 新人賞
 絵画—橋野富彦、森孝子、
 宮田長哉
 版画—佐藤宏、天野邦弘
 写真—尾村義一、山岡登喜
 男
 工藝—大島郁子、大沢昭子
 新会友
 絵画—水野英夫、藤本俊子、
 高瀬捷三、宮芳平
 版画—金守世士夫、中尾義
 隆
 写真—山田慶次郎、木村昌

斗志
工藝—金城次郎

出品目録

○印は会員△印は会友

隣の部屋 小橋康秀
 風景(瀬戸) 音部幸司
 町(瀬戸) 中条正一
 水門 岩田和子
 作品(2) 秋斎藤光孝
 耶馬の岩 長野静司
 舟 鈴木正二
 来 鈴木正二
 沼と 木福井敬一
 ある風景 橋本三郎
 白牛 橋本三郎
 綾取 松田正平
 東京湾 松田正平
 冬の海 木内 広
 燈台落 水野英夫
 破壊 大倉昭吾
 旗物 竹内 浩
 静物 黒沢晋子
 食後 徳沢隆枝
 かれ 草和 田忠志
 空槽
 水による作品 宇治山哲平
 (白)

山による作品
(緑)

にわとり 横田忠子
 望郷 重延瓊子
 春 服部邦行
 帰帆 吉島鉄井
 家 青木一美
 編蝠 秦 克彦
 へび使い 座野田好子
 風の景 石原宏策
 夜の師 菅原和夫
 奇術 菅原和夫
 風術 菅原和夫
 サカス 三橋 健
 錨つくり 横溝 洋
 装置 保 隆
 船戸 杉野 正
 井戸 申崎 虎夫
 河岸のあたり 萩原剛夫
 二つの樹木 向井千代子
 土 向井千代子
 版 景 矢野和三
 風院 矢野和三
 寺 矢野和三
 作品(2) No.6
 「動物詩」
 夜 中尾義隆
 仲仕 佐藤 宏
 印象 佐藤 宏
 破船 佐藤 宏
 円の装い 金守世士夫
 物語贈冠 玉上桓夫
 女ネクレスをし
 た首

鳥 故萩原吉二
猫 静物(昭和二十
四年作)
城 趾 黒木貞雄
円 影 B 岩見礼花
C 山 源

ろまれてる。ほ 山口 源
 ろんでる 山口 源
 こわれた思想 山口 源
 なげく山男 畦地梅太郎
 森の習作 B 関野準一郎
 A 関野準一郎
 海港展望台 川 西 英
 夜の港(アネモ 益田義信
 シカゴ 益田義信
 ルアン夕照 下沢木鉢郎
 隅田川 下沢木鉢郎
 林香 院 小橋康秀
 角 笛 小橋康秀
 花を喰ふ蛾 小橋康秀
 山 湖 A 笹島喜平
 B 小野賛二
 小さな工場 小野賛二
 二人の海女 小坂竜二
 ここでは総ての 品川 工
 ものが生きてゐる
 た 品川 工
 白陽(ニューメ 斎藤 清
 キシコ) 斎藤 清
 小さな教会(メ キシコ)
 極地の時計 星 裏一

植 輪 玉井忠一
温 情 中川雄太郎
歌 園 小口益一
虫 の 園 河原健二
か 岬 野津佐吉
野 島 岬 野津佐吉
会 話 天野邦弘
街の中の女 天野邦弘
白い花 河野 薫
小鳥 稲垣知雄
つめ人形(親子) 稲垣知雄
門と遠侍 橋本興家
逆光溪流(伊豆 平塚運一
狩野川)
曲阜周公廟(山 東省)

蔵王火口壁 前田政雄
 花 (1) 川上澄生
 (2) プノワ
 静物 川上澄生
 園外の夜 伊藤 勉
 十代の時間 橋本西祐三郎
 祈りの時間 橋本西祐三郎
 群像 高橋信一
 趙飛燕のような 長谷川春子
 人 長谷川春子
 松島五大堂 松木満史
 神 戸 大淵武夫
 長崎 大谷房吉
 富士 山 大谷房吉

猫四態 その1 コバト半平
 冬の風景 △三浦 悠
 野島 翁。錦古里 孝治
 雪中群像 松原 茂
 風船と女 松本 恭一
 パタイン 松田 静夫
 寒夜 1 牧 重人
 廃寺より1石段
 雪国の子供(2) 森 義一
 このはた △中山 巖
 作品 A。長浜 慶三
 シ 品 B
 葡萄(2) 西山 清
 シ(1) 中居 正躬
 歩道。中居 正躬
 コンポジション
 線と影。錦古里 孝治
 作品 品 △中山 嶺
 エンゼルフィツ 中山 純
 シュ 中山 亮
 女品 中山 亮
 女(わだち) 野津以和雄
 轍 中川 明
 近代建築(其1) 西山 隆
 フォールム 永田 英顕
 ネット 長崎 港舟
 美術教室 南部弥之助
 作品 A △岡島 菅吉
 シ B
 光彩 小野 由行
 湖 尾村 義一

人形 岡島 慶松
 (岩槻市にて) 太田 文太郎
 武蔵野(1) 朝 大野 信吾
 鉄 A △大野 信吾
 面 A △大野 信吾
 墓地 奥野 潔
 鹿(B) 岡正 一郎
 裸婦(C) 小沢 俊樹
 或るポーズ 尾内 七郎
 二本の槍 △清水 武甲
 浅間 浅春
 木 其2。鳥田 貫一郎
 シ 1 △鳥田 貫一郎
 作品 B 関藤 昌明
 野火(1) 佐藤 平吉
 船材 杉野 誠三
 線 笹本 繁宏
 なまはげ(秋田 里吉 永太郎
 男鹿) 柴田 豊次
 鶴舎 柴田 豊次
 木柵 △坂卷 高次
 早春 坂卷 高次
 浮氷 鳥田 謙一郎
 農家の印象 川 迫 幸一
 雪林。竹見 義雄
 反転 木 △竹見 義雄
 干潟の構成 辻 宏志
 土岐善磨氏像 竹田 正雄
 河原 武田 真
 火 花 敏 藤 英三
 がま 高橋 定夫
 町工場にて 富田 藤作
 残雪 田代 章治
 仏像(円空 鈍彫) 高桑 勝

老婆 像 豊水 寅夫
 冬の子供 △内田 美胤
 (チヤンバ) 菊。内田 美胤
 潮騒(スード) △内田 美胤
 氷の幻想 生方 忠常
 山下町ニテ 和田 好雄
 其の3 若杉 慧
 野の仏その3 若杉 慧
 シ その4 若杉 慧
 雪路(炭敷) 渡辺 徹郎
 閻魔石 像 若杉 慧
 筆 意 吉川 富三
 ひざし 山本 深
 柵 吉田 栄二
 青のエチユード 山田 慶次郎
 赤のエチユード 山田 慶次郎
 雪の構成 山岡 登喜男
 湖情 好川 文治
 樹木と雪 山岡 登喜男
 光る鉄路 八木 常治
 工 藝
 流し一りん生 新垣 栄三郎
 大根模様皿 △相田 照子
 名古屋帯地 相田 照子
 染布六ヤール 秋山 弘夫
 葉赤と黒名古屋 土手 武彦
 葉藍と黒名古屋 土手 武彦
 帯 土手 武彦
 藍地、広はば、 出川 三男
 裂地、広はば、 出川 三男
 押文楕円鉢。船木 道忠
 湯呑 △船木 道忠

五号手付碗(B) △船木 研志
 四号手付碗(A) △船木 研志
 二号ピッチャー △船木 研志
 三号鶏冠壺 △船木 研志
 緑 △原田 麻那
 えんじ △原田 麻那
 青 △原田 麻那
 黒 △原田 麻那
 かすり △原田 麻那
 テーブル掛 △原田 麻那
 ヤタラ縞帯 平松 哲司
 型染 福島 輝子
 型染 福島 輝子
 藍地布(六尺三寸) 本荘 フミエ
 漆器 盛鉢 A 石村 英一
 シ B 石村 英一
 こたつ掛け 石井 隘子
 卓布 飯田 玲子
 ショール A 飯田 二三子
 呉洲木爪鉢。河井 武一
 筒描 呉洲 方壺
 丸紋長角鉢 △河井 武一
 切子辰砂碗 △河井 武一
 草花 壺 △河井 武一
 屏風楽譜(鴉冬。小島 愷次郎
 の旅より) 小島 愷次郎
 鉄 釉 鉢 △喜多村 作太郎
 刷毛目大壺 △喜多村 作太郎
 呉須絵長型花瓶 金城 敏男
 抱瓶黒釉指描 金城 敏男
 呉須絵大壺 △金城 敏男
 ひざ掛け 鎌田 マサ子
 麻板締壁掛 A 片野 元彦

小紋茶羽織 加藤 喜久子
 鉢 A 河井 博次
 食籠 B 河井 博次
 花 瓶 △河井 博次
 筒描染め小袖一 貴志 陶子
 点(つむぎ地) 貴志 陶子
 樺細工小物入 小柳 金太郎
 (チラシ) 小柳 金太郎
 (無地) 小柳 金太郎
 (ヒビ) 小柳 金太郎
 樺細工目鏡入 小柳 金太郎
 (チラシ) 小柳 金太郎
 麻染絵額(暮の 森 義利
 市) A 森 義利
 シ B 森 義利
 絨 △前川 典子
 紙印金四枚折 森泉 音三郎
 屏風 森泉 音三郎
 辰砂釉六角盒子 宮下 貞一郎
 辰砂釉小壺 宮下 貞一郎
 角 盒 子 宮下 貞一郎
 四枚折屏風(干 宮脇 綾子
 しかれい) 宮脇 綾子
 染 布 増田 猪富
 壁 掛 △長沼 孝一
 ベットカバー △長沼 孝一
 帯地(八尺) △長沼 孝一
 大巾卓布 △長沼 孝一
 広巾捺染裂地 △長沼 孝一
 赤絵大皿二個組 成井 正克
 赤絵大皿二個組 成井 正克

敷物	中川浩子	筒描藍染壁掛	関口信男
染布	成石貞子	藍染貝ト漢着物	左能周
ふろしき	中村操	失透釉茶碗	鈴木昭一
着尺	小紋△大橋豊久	状箱 樺細工	筆筒 樺細工
緑地室内衣	及川全三	小物入 樺細工	コプト布(試作)
茜地室内衣		帯	白神久和子
焦茶地室内衣		テール掛	下平清人
四季星座屏風	岡村吉右衛門	縹白地梅名古屋	坂和正春
茶盤 A	岡本蕭一	型染白地着物	鈴木光子
黒釉扁壺		はつび A	関俊子
茶盤 B		藍地名古屋帯	立花長子
煙草セツト		壁掛、あざみと	
手附型打の壺	岡本章	蝶 着尺	夏子
紺四曲屏風	太田仔至子	花かご(着尺)	△榎
ベツトカバー	大沢昭子	椀皮小物入	田口芳郎
着物 (1)	大島郁子	椀皮抹茶入(A)	
シヨール		椀皮抹茶入(B)	
紺布		椀皮抹茶入(C)	
躍動	後藤清吉郎	名古屋帯	高木明子
麻のれん	△五味佐千夫	呉須赤絵大皿	滝田頂一
藍地はかた柳		呉須赤絵大皿	
九曜文袖地藍染	五味一幸	船袖しのぎ手大皿	
着尺		呉須赤絵中皿	
型染窯場模様縮	芹沢銈介	磁製呉須角高盃	上田恒次
緋着物		六客	
夏著		磁製呉須角鉢	
型染紙飛の字額		白磁角高盃	
三彩打紋鉢	佐久間茂太郎		
柿黒刷毛目鉢			
三彩流大皿			
浮織着尺	△鈴木ふじ子		

えりしやの図	△渡辺禎雄
(1)	
型染屏風鳥草花	
刺子織カーテン	柳悦幸
刺織赤布	
緋着物木綿乱格	
子	
広巾注染布	柚木沙弥郎
黄花織帯	柳悦博
蘇芳紅裂	△吉田悌三
淡エンヂ地名古	山内武志
屋帯	
茶テーブルセン	吉田たすく
ターIA	
書棚カーテン	山田香代子
裂(つむぎ二	四本貴資
ヤール)	
34回春陽会展	18-5月4日 東
京都美術館	
(批)	
東京夕刊22	岡本謙次郎
朝日24	隆
毎日24	土方定一
読売夕刊26	中原佑介
産経夕刊26	日野
日経5月2	福島繁太郎
週刊朝日5月12	明人
美術手帖6月	
対談(植村鷹千代	
徳大寺公英	
みづゑ6月(No.623)	中原佑介
アトリエ6月(No.384)	宗左近

〔受賞〕
春陽会費

- 安谷屋正義
沢田哲郎
林俊行(水彩)
宮下登喜雄(版画)
松島治基
小島朝呷(舞台)

準会員推挙

- 田畔司郎
宮城音蔵
安喰虎雄
山本千香子
木村晃郎(版画)
市川揚一郎(版画)
小林雅夫(舞台)

会員推挙

- 五味秀夫
大嶺政敏
井上重生
清宮質文(版画)

出品目録

- 印会員
△印準会員
積石竹内利枝
孔雀藤浦康子
風景秋元恒
静物戸田節
OP五七ノ八一瀬茂治

OP五七ノ二	OP五七ノ一〇	南ノ国大西江二	アツカドの椅子。藤井令太郎	トルソーと椅子	山麓。岡鹿之助	断層のある窟△五味秀夫	異次元の影	赤い影を持つ幼	造船工宮城音蔵	熔接工高楠昭子	石工高楠昭子	花と少女B高楠昭子	よたか田畔司郎	馬と鑑	誕生市川治	花市川治	矢A△三吉雅子	魚と花山本英子	静物	うさぎ沢田哲郎	にわとりや	ぼくどろ	仮象安谷屋正義	建築設	と港松島治基	とある静物	裸木と街吉田遊亀
--------	---------	---------	---------------	---------	---------	-------------	-------	---------	---------	---------	--------	-----------	---------	-----	-------	------	---------	---------	----	---------	-------	------	---------	-----	--------	-------	----------

静物 小峰静子
静物 山田隆一
静物 A 藤田怜子
B 静物 B 宮脇晴
じやんけんほん。宮脇晴
しやほんだま
羽豆岬 1。魚津良吉
姉 2。森本光子
硝子工場 斎藤昭雄
花をだく少女 上林智子
石灰工場 保浦清顕
橋 A。上原欽二
B
展(ひらく) 田中岑
潮(うしお) 中岑
湧(わく) 中岑
大阪風景 A。高田力蔵
B
盲いた鳥。川島昇太郎
虚景 佐藤昌胤
よしやま。佐藤昌胤
鮭 佐藤昌胤
積薬 武繩道子
白いフリージャ
とバンデー 武繩道子
庭 ストープと長靴 南川郁雄
ス トー プ と 長 靴 南 川 郁 雄
俺達の村 都築武雄
キニユーポラーと
すだれ 山本千香子
赤いパイプ 安喰虎雄
と 安喰虎雄

絵を描く女。荒木市三
婦人座像 市川晃
裸婦 市川晃
種ランブ静物 市川晃
淡水風景 楊三郎
古水屋 楊三郎
石楠花 川合秀子
ひまわり 村瀬富男
肉 村瀬富男
えい。テーブル。高木勇次
赤い。魚。高木勇次
赤い。魚。高木勇次
牛 三吉亮久
松島 三吉亮久
静物 中野敏
伝説 望月計男
鏡を持つ女 松原鉄之
かめとさめ 広瀬功
家の田んぼ 志村一男
冬の田んぼ 志村一男
山の静物 小川緑
花の静物 小川緑
小川 小川緑
長崎 小川緑
学院に行く坂道 伊藤慶之助
アトリエ。伊藤慶之助
紫布と花 伊藤慶之助
白布とミモザ 伊藤慶之助
貝 伊藤慶之助
あこ 伊藤慶之助
魚 伊藤慶之助
東山手風景 畑中三次

稲摺 川澄敏次
争い 坪井鼎
干網と人 角田武彦
屋根 河野昭二
静物 D 市川京子
ふすまをのぞく 市川京子
女性 市川京子
蜜柑 稲葉淑郎
卓上静物。加藤秀夫
F 子 加藤秀夫
窓辺のバラ 加藤秀夫
教会 堂 加藤秀夫
ハナト、コトリ 早川清蔵
静物 西尾高子
レモンと魚 新井邦子
植 山内賢一
倉庫 山内賢一
静物 山内賢一
飛躍する世界 赤井利根美
山路 長尾和義
山ある室内 佐藤規子
花ある室内 佐藤規子
箱根の春 伊藤敏博
森の夜 伊藤善
森の寓話 伊藤善
静物 居町子
夢に見た階段 中島国雄
花の家 中島国雄
庭 中島国雄
貯木場 水野豊彦
アジサイ 稲村昌作
鋤造作業 築瀬武夫
赤い空地のある 入江観

花咲くころ 三森泰
子供と馬 小坂茂
夜の花園 山根義雄
風景 A。曾根徹
雪 B。曾根徹
雪 曾根徹
秋の浅間山 曾根徹
風 曾根徹
マドリッド風景。角南松生
アルカンタラ橋 角南松生
ブラッセル裏街 角南松生
早 春。関四郎五郎
浅 春。関四郎五郎
雪 春。関四郎五郎
静物 金井りつ
網 千巻本辰夫
チェリッシュと女 加藤信一
魚と果物 日高のり子
枯れる居倉 幸子
中頭骨のある静物 片岡覚
四角いタンクとパイプ 片岡覚
鉦山風景 吉田正明
源氏ヶ丘 森田守
花 梅田博之
コロン 梅田博之
伊那市風景。徳田信保
工事場の人人 徳田信保
とり遊ぶ。秋口保波
野 秋口保波
白間津の海女。豊泉恵三

青い海。豊泉恵三
白い海。豊泉恵三
思想 北条信和
椅子と静物の構 望月礼三
成造船所 市川陽一郎
木と植生 駒英世
石と秋。伊川鷹治
中流(初秋) 伊川鷹治
深 秋。伊川鷹治
よつと A。岩田栄之助
金蓮花 岩田栄之助
よつと B。岩田栄之助
壺を持つ女。田中寿太郎
畑と木 田中寿太郎
動乱 斎藤釜太郎
花とシン。岩崎又二郎
冬の仕事場 岩崎又二郎
枯葉と山鳥 前田謙一
卓上静物 片桐欣子
立木(風景) 小松忠雄
たこ壺と貝がら 鈴木一弘
窓外 鈴木一弘
生・浮遊 高瀬保栄
木手風景 B。鬼塚金華
山手風景 A。鬼塚金華
冬の港 鬼塚金華
静物 木下公男
風 木下公男
工 山口和佐夫

赤い実のなる木。古川龍生
 黒い壺の花と草。カすみ草
 コップの雑草。並木路。長谷川潔
 半開の窓。小鳥。A市原宏郎
 街。B市原宏郎
 いらぬ魚田中進
 海辺の静物。ノートルダム寺。北岡文雄
 窓。院。窓。道路工事。二つの窓。或る空虚。駒井哲郎
 樹。幻覚的静物。清宮賢文
 ふるさとのうた。火を運ぶ女。海底(十字路)。菅原桂吾
 日本レーキ記。り。天日槍。万葉竹取翁。サツォ(西風)。小林ドンゲ
 森の目覚め。森の目覚め。夜の裏街。前田藤四郎

果て(フグ)。(エッチング) 森村惟一
 果て(フグ)。(フグ) 市川陽一郎
 花。I 市川陽一郎
 II 上野長雄
 むしのおどり。しのかなしみ。風景。野村侯三
 さかな。顔。低地の街。宮下登喜雄
 月と街。密集した街。静物。岡田敬
 月の営み。生の営み。(絵画) ばら田中峰子
 裸婦。花。残雪の頃。野村千春
 新開地。冬。壺とぶどう。山。小林政雄
 ずり山。花守屋。桐ノ。妙高春色。須田敏夫
 秋の庭。あじさい。月の森の魚。笠木実

木馬館。笠木実
 とび上る木馬。黒鯛と金目鯛。川上尉平
 S嬢。黒鯛とおこぜ。ランプ。A斎藤勉
 B 斎藤勉
 枯木のある石置。砂にあげられた。カッター。春。訪。橋本愛子
 牡。紅天に鳴く。日下昌三郎
 バスのある風景。原田武男
 冬の桜並木。野の鳥より(渡)。谷口一芳
 野の鳥より(墜)。菓場。見える村。四方れい
 花と椅子。亀野積治
 車。静物。大岡澄雄
 革命のエスキ。マンホルの蓋。をする。青春のエスキ。砂上の魚箱。越智雄二
 港。まき上げ機。磯。研究室の壁。石。弘。森川。鏡

風車のある郊外。高垣又太郎
 教会。堂。田家裕久
 室内。裸婦。黄。碧月
 花。エジプトへの逃。亡。子。像。森村惟一
 母。子。像。森村惟一
 果。城へのファンタ。池内登
 ゼ。建。物。A山崎秀夫
 シ。B。今竹七郎
 ト。ドライなウエツ。ウエツト。今竹七郎
 イ。馬と屋根。大嶺政寛
 沖繩。風。景。珊瑚礁の魚。本。莊。起
 鳩。海。辺。井。上。重。生
 パン。の。静。物。魚。市。場。石。田。正。典
 黄色い。船。三。根。孝。子
 菜。の。花。態。寺。本。国。雄
 形。布。に。て。包。む。増。井。英
 静。物。大。久。保。圭。子
 雪。山。池。田。新。平
 運河(大阪横堀)。田。川。勤。次
 水。辺。の。建。物。川。隅。路。之。助
 残。雪。赤。城。山。藤。島。清。雄
 路傍(石とコンクリート)

路傍。藤島清雄
 七夕祭。飛騨高山。加賀孝一郎
 白。イ。馬。スタン。ド。と。女。金。魚。鉢。東。晴。司
 作品(KIRO)。加藤秀雄
 (HIDA)。津。谷。鹿。市
 鶏。家。鴨。の。静。物。津。谷。鹿。市
 建。物。村。瀬。金。光
 水。族。館。長。森。敏
 砂。場。郡。守。昭。義
 に。わ。と。り。B。久。野。満。男
 室内。の。え。び。中。野。正。男
 港。街。松。島。正。男
 逆。光。中。村。巽
 山。妻。橋。附。近。奈。良。義。雄
 吾。妻。橋。附。近。西。村。清。暁
 鯉。城。の。あ。と。西。村。清。暁
 丘。の。家。清。水。耕。一
 釜。前。の。人。米。田。和。美
 勉。強。す。る。稲。垣。毅
 静。物。森。松。治
 工場。の。風。景。藤。井。俊。一
 鳥。と。女。金子。宇。宙。治
 橋。の。あ。る。風。景。井。出。実
 建。物。越。山。公。夫
 静。物。浦。野。吉。人
 丘。村。杉。覚
 花。田。中。重。治
 室内。裸。婦。二。態。笠。井。正。樹

荷馬車の通る道 千本祐三
 人物 浮田勝利
 果物 星野匡信
 やぎ 伊藤勲志
 網のある風景 加藤助八
 静物 平田峻三
 黒土の畑 清水源太郎
 漁村 田中隆夫
 母 鈴木智子
 横浜風景 小清水金司
 ダリヤ 田中澄子
 トランプの少年 小林仁
 花と子供 吉沢康子
 火葬場 稲垣取
 手風琴を持つ裸婦 萩原烈
 破れたカンパン 小林博次
 樹のある風景 森田賢
 運河風景 長野栄次郎
 母子像 土屋義郎
 子供 佐藤正雄
 黒いチュリッ 柳田三千子
 静物 大岡澄雄
 冬の赤石 細川昭
 卓上静物 藤崎敏夫
 階段 池田雅夫
 農婦 山田文宏
 プイ置場 猪又三郎
 流れのある風景 三谷武
 白い工場 日高万典
 サークスの旗 丹下年男
 二本の木 高木敏子

マンリキとバイ 前川鋼平
 ク 秋の丘 吉田雖一
 初秋の丘 三橋玲子
 サイネリヤ 永井孝和
 風景 山下博司
 風(景) 尾関重之介
 静物 秋元寛
 壁のある道 杉浦延寿
 丸い丘のある風景 須見興太
 水門 須見興太
 住居 花山良彦
 三人 金森与一
 静物 塚田邦彦
 木片 上田健一
 捨てられたベンチ 西尾健
 いタンク 玉那覇正吉
 ある風景 林幸四郎
 かかし 仙仁秀泰
 トルソーのある室内 竹内延江
 カンナのある庭 広永京子
 花子 楠田照子
 椅子 西沢洋
 木菟 木原康行
 冬のII 森下平衛
 河口 金子進
 赤い静物 駒村久弥
 ホッ プ 駒村久弥
 桐の四季 東政雄
 作品の加藤正明
 希望 山口繁
 庭 狩野幹夫
 工 田中英明

静物 安藤宗明
 やどかりと海鳥 黒木邦彦
 静物 川上健次
 敵冬の村 中西静男
 本をよむ子 前田和子
 ランプのある静物 池田斗九三
 木立堀 信春
 鹿 永田照枝
 丘 石川隆雄
 (舞台藝術)
 一つのテーマによる二つの表現 △真野誠二
 「猫」
 「柳」(舞台衣裳デザイン)
 「花」
 「エジプト」
 「蒙」古
 「郵便局」(衣裳デザイン)
 「義経とチャレンカ」匠装デザイン
 舞踊劇 小寺緋紗子
 舞踊劇 織田音也
 木下高太郎原作 花柳輔三郎作舞
 「まりも笛」
 オペラ「マダム・バタフライ」二幕
 プッチーニ作曲 木下順二作「おもん藤太」
 飯沢匡作「飯と鼻」
 牧野不二夫作「黒い炎」
 小島一糸

モダンダンス 小島一糸
 「都会の幻想」 小島一糸
 「危険な曲り角」 小島朝岬
 「青年演劇装置」
 「俳優座劇場舞台模型」(1/30) 児島範昭
 「黄仮面」 静岡潮太郎
 多くのイメージに構成出来る集と離散・個と集団のための装置 鈴木俊郎
 久藤達郎作「シガマの嫁」 石井康
 関矢幸雄作振付 舞踊一残され楽園 浜野純二
 小川未明原作 檜健次演出・舞踊「国ざかい物語」
 草野心和子原作 高山和子作健次演出・舞踊 宇野耕二
 高演出・舞踊 田中千禾夫作「雲の涯」 宇野耕二
 デザイン「日本の土俗舞踊の為に」 根岸正晃
 中野実作「永六輔脚色」山小屋 菊岡久利作「ベ」ルダマシテエロ(希望の星)第四話劇団東演百回記念公演 吉田謙吉
 横ホーニル上演「君達は何をしをてあけられるか」 北条秀司作「霧の音」 孫福幸弘
 木下順二作「三年寝太郎」

ワグナー作 オペラ「さまよえるオランダ人」より 矢島正二郎
 モリエール作 「ドン・ジュアン」五幕 岡田道哉
 「色彩様達引」東京踊り 古賀充一
 T・アスイ作「ロメオとジュリエット」 〃
 川口直作「夕顔源氏」 〃
 山本有三作「海彦山彦」 〃
 モダン・バレエ「玄黄」 〃
 ビーター・ユスティーフ作「四人の隊長の恋」第一幕 金子和一郎
 伊藤道郎振付「牧神の午後」 中嶋八郎
 ラジース作「文学座所演」文タニキユース 河野国夫
 菅原卓訳・演出、民藝所演「アンネの日記」 〃
 ポール・グリノン作「白い晴着」 小林雅夫
 ウィリヤム・サローヤン作「飢えたる者ども」 坂上健司
 ミハルコフ作「うぬはれ兜」東京少年劇団俳優座劇場上演 松下朗
 田村耕一作陶展 橋・高島屋 19-28 日本

- 中村善策個展 19-24 東京・大丸
- 野沢一郎古稀個展 19-23 日本橋丸善 [批] 産経19(日野)
- 稲垣皓司、岡本博、酒井健三三人展 19-23 美松画廊
- 親光ホスターコンクール入選原画発表展 19-24 東京・大丸
- 青松会日本画展 19-24 銀座・松坂屋
- 丁酉会展 19-25 此花画廊 [批] 萌春45号
- 土陽会日本画展 19-29 池袋・西武
- 栗原信、田村孝之介、宮本三郎近作油絵展 20-24 兜屋
- 古美術と番合展 20-5月26 大阪・藤田美術館
- 近世初期風俗画名作展 20-5月19 東京国立博物館 [批] 週刊朝日5月12(明人)
- 柳里燕を中心とする初期南画展 20-5月20 奈良国立博物館
- 2回紫宸会工芸展 20-25 大阪・三越
- 9回東陶会春季展 21-29 東京美術館 [批] 萌春43号 (大山広光)
- 新倉喜作個展 21-30 タケミヤ
- レバ・スチュワード版画個展

- 22-27 養清堂
- 中林松太郎個展 22-27 サトウ
- 近代壁画展(高沢七郎ほか) 22-27 トキワ画廊 [批] 工藝ニエースVol.25-45(N)
- 3回きずな会展 22-27 村松永田精二滞欧作品展 22-27 村松 [批] 産経夕刊26(日野)
- 和田正一画展 22-27 中央公論社画廊 [批] 産経夕刊26(日野)
- 半場久也、中山徹、山田治展 22-28 文房堂
- 矢野知道人個展 23-28 日本橋・三越 [批] 三彩6月(88号)(多田信一)
- 高村光太郎遺作展 23-28 日本橋・三越 [批] 朝日25(隆)、東京26(谷川徹三)
- 出品目録 (彫刻)
- 虎の首 石膏 明治55年
- 獅子吼(卒業制作) 明治55年
- 解剖台上の紅葉山人 明治55年
- 蒨命児男子 明治55年
- 頭部 明治55年
- 父の首 明治55年
- 松方正義の首 明治55年

- 園田孝吉胸像 大正四年
- 裸婦坐像 大正五年
- 腕 大正七年
- ピアノを弾く手 大正二年
- 老人の首 大正三年
- 蟬 大正二年
- 鯉 大正二年
- 鯉 大正二年
- 白文鳥 大正二年
- 蓮根 大正二年
- 鯨 大正二年
- 大倉喜八郎の首 大正五年
- 桃 昭和二年
- 黒田清輝胸像 昭和七年
- 成瀬仁蔵胸像 昭和八年
- 高村光雲胸像 昭和二年
- 手 昭和六年
- 裸婦像原型 昭和六年
- 裸婦像(小) 昭和九年
- 倉田雲平胸像(未完) 昭和九年
- 自画像 大正二年
- 上高地風景

- 佐藤春夫像 大正三年
- 裸婦 大正三年
- 素描、書、原稿、書簡、書籍、デスマスク 昭和二年
- 高村智恵子作品紙絵 昭和二年
- 川上耐平個展 23-27 ヤナセ橋本関雪名作展 23-28 京都・大丸
- 時代染織裂と肉筆浮世絵の会 23-28 日本橋・高島屋
- 山田治、中山徹二人展 23-28 文房堂
- 小串里子、桜井富美栄、石橋よし郎、服部宏、星島浩展 23-28 襪画廊
- 須磨弥吉郎遍歴印象写生展 23-25 壺中居
- 椿貞雄展 23-28 上野・松坂屋
- 日本漆工藝会展 23-28 日本橋・高島屋 [批] 萌春43号 (大山広光)
- 矢野鉄山日本画展 23-28 日本橋・三越
- 伊東翠齋作品展 23-28 日本橋・三越 [批] 萌春43号 (大山広光)
- 笠師昌春齋作品展 23-28 日本橋・三越
- 二科会五人展(服部、松本、大沢、鷹山、東郷) 23-27 八重洲画廊
- 青桐会日本画展 23-28 渋谷

- 東横 [批] 萌春44号
- 江戸小紋と伝統江戸ゆかた展 23-28 日本橋・三越
- 上枝久七宝ミニチュア展 23-28 大阪・阪急
- 7回未更会展 24-27 兼素河 [批]
- 朝日25 隆
- 毎日26 船戸 洪吉
- 産経夕刊26 横川 安雄
- 日経27 嘉門 安雄
- 萌春44号
- 三彩6月(88号) 多田 信一
- 森本三郎、森本光子油絵二人展 24-28 美松画廊
- 矢部友衛個展 24-27 日本橋・丸善
- デザイングループ7展 24-30 なびす
- 3回無頼派展 25-5月1日 比谷画廊
- 岡本吉右衛門染絵個展 25-29 サン画廊
- 青松会展 26-5月1日 銀座・松坂屋 [批] 萌春44号
- 行動美術全関西展 25-5月9日 大阪市立美術館 [批] 美術手帖7月(杉本亀久雄)
- 1回一九六〇年展(春日部洋、植松真治、山下充ら) 26-30 兜屋
- 淡島雅吉新作ガラス展 26-5月1日 東京・大丸 [批] 工

藝ニヒリス Vol.25-45(N)

素仙洞日本画展 26-5月1

銀座・松屋

中川力近作油絵展 26-28日

本工業倶楽部

グループとしたす展 26-28

京都書院画廊

東山紗智子(ガラス製品による)

作品展 26-30 新宿・伊勢

田辺栄次郎滞欧作品展 28-5

月4 村松 [批] 美術手帖

7月(中原佑介)、アトリエ6

月(宗左近)

グループ56展 28-5月3 村

大雅展 28-5月19 大阪市立

美術館

会津八一、武者小路実篤作品特

別展 29 京都・陽明文庫

道存社、又玄社文人聯合の展観

会 29 京都・陽明文庫

峰岸市郎、安谷大、堀内菊二三

人展 29-5月4 サトウ

都竹伸政個展 29-5月3 美

松画廊

岸正豊個展 29-5月2 日本

橋・丸善 [批] 美術手帖7

月(中原佑介)

山下摩起新作個展 30-5月5

日本橋・高島屋 [批] 産経

5月3(日野)

8回新作博多人形展 30-5月

5 日本橋・三越

北岡文雄滞仏版画展 30-5月

5 日本橋・三越 [批] 産経

5月3(日野)、朝日5月3

(隆)、毎日5月4(船戸洪吉)、

美術手帖7月(中原佑介)、み

づる6月(N.S.623)(徳大寺公

英)

12回行動美術春季展 30-5月

5 日本橋・三越 [批] 産

経5月3(日野)、みづる6月

(No.626)(中原佑介)、アト

リエ6月(N.S.364)(宗左近)

聖五人展 30-5月4 文房堂

杉本健吉個展 30-5月5 日

本橋・三越 [批] 朝日3(隆)、

東京5月3(久富貢)、みづる

6月(N.S.628)(徳大寺公英)

晨光会日本画展 30-5月2

養清堂

創造美術有志展 30-5月4

サン画廊

小竹久子水墨展 30-5月2

中央公論社画廊

松本泰山新作日本画展 30-5

月5 上野・松坂屋

住谷磐根東洋画展 30-5月5

大阪・阪急

重藤翠雨染色作品展 30-5月

5 大阪・阪急

野中暉子、新妻実絵画と彫刻作

品展 1-15 新宿・風月

1回土曜会日本画展(岩崎英遠、

小倉遊亀、太田聰雨、加藤栄

三、杉山寧、高山辰雄、橋本

明治、東山魁夷、森田沙伊、

山本丘人、吉岡堅二) 1-

11 京橋・中央公論社画廊

[批] 萌春45号、三彩6月(88

号)(多田信一)

城口幸男作品展 1-7 なび

す [批] 産経3(日野)

稀友会展 1-4 トキワ画廊

9回京都市美術展 1-14 京

都市美術館 [批] 美術手帖

7月(杉本亀久雄)

伊勢正義作品展 2-7 兜屋

[批] 産経3(日野)

9回全日本染織工藝図案展 2

東京都美術館

8回童研展 2-6 日比谷画

廊

南蛮美術春季展 2-25 市立

神戸美術館

1回恵下会日本画展(前田青邨

塾) 3-8 銀座・松屋

[批] 萌春44号、三彩6月(88

号)(多田信一)

前田青邨写生展 3-18 銀座

・松屋 [批] 産経夕刊10(横

川)、日経11(嘉門安雄)

8回彩尚会展 3-8 銀座・

松坂屋 [批] 萌春44号、三

東京・大丸

皆川月華帰朝記念染色展 3-

8 東京・大丸 [批] 萌春

43号(大山広光)

桃山江戸小袖展 3-16 シル

クギャラリ

江見絹子個展 4-9 村松

[批] 美術手帖7月(中原佑介)

日本中国禅林名僧墨蹟展 4-

19 根津美術館

小野木学個展 4-9 村松

水彩三人展 4-8 美松画廊

春の青龍展 4-9 大阪・三

越

2回新世紀美術協会展 5-21

東京都美術館 [批] 産経夕

刊10(日野)、東京夕刊10(久

富貢)

17回日本画院展 5-21 東京

都美術館 [批] 産経夕刊10

(日野)、東京夕刊10(久富貢)、

萌春44号

河野芳夫個展 5-11 資生堂

一九五七年ロード美術展 5-

18 日比谷公園

山下清作品頒布展 5-15 東

京・大丸

山下清作品展 5-12 川崎・

小美屋百貨店

4回国際見本市 5-19 晴

海、大手町 [批] 朝日16(剣

23回東光会展 6-21 東京都

美術館 [批] 産経夕刊10(日

野)、東京夕刊10(久富貢)

リー・チエスニール版画個展 6

-11 養清堂

稲木秀臣、市村司絵画展 6-

11 サトウ [批] 美術手帖

7月(中原佑介)

6回創作工藝展 6-11 和光

[批] 朝日11(隆)、工藝ニユー

ス Vol.25-6(N)

日本古代土器展 6-11 ヤナ

七

2回一展 6-12 トキワ画

廊

今井鱸人作品展 6-11 丸ビ

ル・中央公論社画廊

カレンダー企画展 6-22 凸

版印刷本社 [批] 工藝ニユー

ス Vol.25-6

新しいカレンダー資料展 6-

11 大日本印刷サービス・ス

テーション [批] 工藝ニユー

ス Vol.25-6(I)

ピシヨップ英郎個展 7-11

フォルム

嵐川重滯米油絵展 7-12 日

本橋・三越

アジアの仏像と民藝展 7-19

日本橋・三越

矢野橋村個展 7-12 日本橋

・三越

6回王水会日本画展 7-12

- 渋谷・東横
- 10回日本美術協会展 7-12
- 日本橋・三越 [批] 萌春44号
- こんにちのグッド・デザイン展 7-12 京都・大丸 [批]
- 工藝ニエース Vol.25-6
- 14回東丘社展 7-12 京都・大丸 [批] 萌春45号、三彩6月(88号)(三木一弘)、美術手帖7月(杉本亀久雄)
- 美術文化関西展 7-13 大阪市立美術館
- 暖話会洋画展(旧弥生会洋画展、林武、梅原龍三郎、中川一政、野口弥太郎、児島善三郎ら8名) 7-11 弥生画廊 [批] 朝日11(隆)
- 3回日本竹藝家協会展 7-12 日本橋・高島屋
- 藍青会展 7-11 文房堂
- 二青会洋画展 7-12 上野・松坂屋
- 高田力蔵別府、由布、九重油絵展 7-12 大阪・阪急
- 主潮社日本画展 7-13 大阪市立美術館
- 長谷川ハナ滯歌作展 7-11 サエグサ
- 鬼塚金華油絵展 7-11 壺中居
- 2回朱々会展 8-14 なびす
- 11回童画展 8-12 新宿・伊勢丹

- 須賀卯夫個展 8-14 白鳳画廊 [批] 美術手帖7月(杉本亀久雄)
- SARA六人展 8-11 日本橋・丸善
- 源氏物語展 8-12 日本橋・白木屋
- 源氏物語展 8-29 歌舞伎座別館ギャラリー
- 川原章二、下高原龍巳二人展 9-31 兜屋
- 河野齊川彫書展 9-13 美松画廊
- 4回青陶会展 9-13 京都府ギャラリー
- 前衛美術の15人展(特別陳列) アメリカ現代美術) 10-6 月5 国立近代美術館 [批] 東京夕刊17(植村鷹千代)、読売夕刊17(中原佑介)、朝日30(隆)、日経6月6(植村鷹千代)、美術手帖7月(中原佑介)、アトリエ8月(No.386)(宗左近)
- 橋本関雪名作展 10-15 東京・大丸 [批] 東京夕刊12(河北倫明)、朝日13(隆)
- 十東敏染色工藝展 10-14 安藤七宝店画廊
- 1回アバンギャルド13人展 10-15 東京・大丸 [批] 朝日11(隆)、東京12(岡本謙次郎)、美術手帖7月(中原佑介)、

- アトリエ8月(No.386)(宗左近)
- 一陽会々員小品展 10-15 日動画廊
- モダン・アート協会六人展 10-16 樺画廊 [批] 読売夕刊17(中原佑介)、美術手帖7月(中原佑介)
- 長谷川富三郎板画展 10-15 ところ
- 勝本富士夫、谷沢秀晃、勝呂忠展 10-16 樺画廊
- 城所昌夫、広井力、清野克巳展 10-16 樺画廊
- 1回雨・風・量美術展 10-15 銀座・松坂屋
- 中畑草人個展 10-15 ところ
- 2回青人展 10-15 村松
- 4回全日本自動車ショー 10-19 日比谷公園 [批] 朝日16(剣持勇)、工芸ニエース Vol.25-6
- 福田豊四郎、福沢一郎、棟方志功、本郷新四人展 11-20 新宿・ブランシェ画廊
- 丹波の古陶展 11-19 神戸新聞会館
- 小林清親展 11-19 京都・汎美画廊
- 恩賜賞、院賞受賞者作品展 11-19 上野・松坂屋 [批] 萌春45号
- 藤原孚石彩絵展 12-17 京都

- ・大丸
- 4回土くれ社新作陶藝展 13-18 養清堂
- 富田溪仙、土田麦穂スケッチ展 13-18 京橋・中央公論社画廊
- 2回阪倉宜暢個展 13-18 トキワ画廊 [批] 朝日16(隆)、産経夕刊17(日野)
- 吉坂博洋画展 13-18 丸ビル
- ・中央公論社画廊
- 佐藤泰治個展 13-16 日本橋・丸善
- 吉仲太造個展 13-18 サトウ [批] 朝日16(隆)、美栄手帖7月(中原佑介)、みづゑ7月(No.624)(東野芳明)
- 石川寅治近作油絵展 14-19 日本橋・三越 [批] 朝日16(隆)
- 春の青龍展 14-19 神戸・大丸
- 東丘社展 14-19 大阪・大丸
- 3回碧青会展 14-18 美松画廊
- 西村保史郎個展 14-18 サエグサ
- 2回地中会展 14-19 文藝春秋画廊
- 青木大乗新作展 14-19 日本橋・高島屋 [批] 産経夕刊17(日野)、萌春44号
- 稲田年行個展 14-18 フォール

- ム [批] 美術手帖7月(中原佑介)
- 日本竹藝会展 14-19 日本橋・高島屋
- 岡本為治作陶展 14-19 日本橋・三越
- 三珠会日本画展 14-19 日本橋・三越 [批] 産経夕刊17(日野)、萌春45号、三彩6月(88号)(多田信一)
- 日本漆藝会々員展 14-19 日本橋・三越
- シンクグラス新作品発表会 14-22 和光
- 関西新制作展 14-22 大阪市立美術館 [批] 美術手帖7月(杉本亀久雄)
- 2回春虹会日本画展 14-22 東京・大丸
- 山崎安以禎染個展 14-19 渋谷・東横
- 緑樹会日本画展(山口華楊ほか) 14-19 上野・松坂屋
- 陶藝・日本画京生れ三人展(陶藝一田中穂山、絵つけ久留島秀三郎、日本画松宮左京) 14-19 日本橋・白木屋
- 13回武石勇深絵展 14-19 大阪・阪急
- 立花みどりガラス絵展 15-21 なびす
- 楠野友明個展 15-20 三省堂
- 三輪淑子陶藝作品展 15-16

銀座・東電サービスセンター
学生の鑑賞のための浮世絵名作
展 15—29 第一会場(肉筆
画) 一国立国会図書館、第二
会場(版画) 東京都美術館
佐藤泰治油絵展 16 日本
橋・丸善 [批] 毎日15(船戸
洪吉)、朝日16(隆)

勝呂忠、新妻実絵画と彫刻作品
展 16—31 新宿・風月
秋保正三、斎藤慶、三浦暹爾展
16—21 村松
日本俳画協会俳画展 16—19
日本橋・高島屋
ローゼンブルーム銅板エナメル
画展(アメリカ画家) 16—18
日動画廊

世界の素描名作展 17—6月4
銀座・松屋
[批・記]
東京20 宮本 三郎
朝日20
朝日21 柳 亮
東京タイムズ23
朝日夕刊28、29、31、6月1、
2、3
アトリエ8月 宗 左近
(No.38)

詩画展 詩一梶野隆一、画一原
叶人 17—23 傑画廊
辻永二万花譜出版完成記念展
17—21 日本橋・丸善
近藤せい子、良悦二人展 17—
21 画廊サン

大村連個展 17—22 銀座・松
坂屋 [批] 読売夕刊24(中原
佑介)
2回春虹会日本画展 17—22
東京・大丸
ピカソ版画展 18—6月30 鎌
倉・近代美術館
倉・近代美術館
[批・記]

朝日22 滝口 修造
東京夕刊23 難波田龍起
読売夕刊6月6 中原 佑介
朝日6月18、19、21、22、
(隆)
毎日6月27
美術手帖7月号特集
2回おのざわ・さんいち漫画展
19—23 美松画廊
2回可社日本画展 20—25
三原橋画廊 [批] 萌春45号
2回淡彩デッサン展 20—25
サエグサ [批] 朝日25(隆)
5回富ノ井政文個展 20—25
サトウ [批] 読売夕刊24(中
原佑介)

平野遼作品展 20—25 南画廊
[批] 読売夕刊24(中原佑介)、
朝日25(隆)、毎日25(船戸洪
吉)
1回父子彫刻展(三國慶一、恭
三) 20—25 京橋・中央公論
社画廊
六島会展 20—26 大阪・フォ
ルム

二科春季会員展 20—29 芸芸
春秋画廊 [批] 産経夕刊24
(日野)、朝日25(隆)
若狭映男個展 20—25 養清堂
[批] 読売夕刊24(中原佑介)
村尾隆栄個展 20—24 兜屋
大橋城個展 20—25 丸ビル・
中央公論社画廊
分家展 20—25 トキワ画廊
京都学芸大学生作品展 20—26
[批] 工芸ニュースVol.25「
独立美術春季展 21—26 日本
橋・三越 [批] 産経夕刊24
(日野)、朝日25(隆)
11回新しき村美術展 21—26
日本橋・三越
橋本関雪名作展 21—26 大阪
大丸
1回小林丙個展 21—26 安藤
七宝店画廊
上代和歌名筆展(附硯箱名品)
21—31 鎌倉国宝館
2回七象会油絵展 21—26 日
本橋・三越 [批] 毎日25(船
戸洪吉)
17回現代版画展 21—25 渡辺
木版画店画廊
日比野近三染色工芸展 21—26
日本橋・高島屋
同人会表装展 21—26 渋谷・
東横 [批] 産経夕刊24(横川)
岩田藤七新作硝子器展 21—26
日本橋・高島屋 [批] 産経夕

刊24(日野)、朝日25(隆)、萌
春44号、工芸ニュースVol.25
—9
31回青甲社展 21—26 京都・
大丸
古賀文字個展 21—25 フォル
ム
10回彩光会染色展 21—26 上
野・松坂屋
蕨風会日本画展 21—26 日本
橋・三越 [批] 産経夕刊24
(横川)、萌春44号、三彩7月
(89号)(多田信一)
清水六兵衛新作陶展 21—26
日本橋・三越 [批] 産経夕
刊24(日野)、萌春44号
松邨翼油彩邦画展 21—26 日
本橋・三越
砥部焼新作展 21—26 日本橋・
三越
京都蒔絵染織美術工芸展 21—
26 日本橋・三越 [批] 産
経夕刊24(日野)
新設計洋家具陳列会 21—26
日本橋・三越 [批] 工芸ニ
ュースVol.25—6(Y)
新匠会展 21—27 京都市美術
館
1回朱玄会漆芸展 21—26 京
都・大丸
東京表具経師文化協会作品展
21—23 東京美術倶楽部
七人展(川端実、土屋幸夫、難

波田龍起、村井正誠、山口長
男、末松正樹、杉全直) 22—
31 新宿・ブラッシュ [批]
朝日25(隆)
後藤愛彦洋画個展 22—25 日
本橋・丸善
田沢茂洋画個展 22—27 村松
2回クラフト五人展 22—27
松村 [批] 工芸ニュース
Vol.25—6(N)
2回女流三人展 22—26 画廊
サン
鳥会展 23—25 ヤナセ
彫刻と油絵七人展 23—29 な
びす
グループ連合展 23—31 大阪
市立美術館 [批] 美術手帖
8月
4回日本国際美術展 23—6月
16 東京都美術館
[批・記]

毎日夕刊15 土方 定一
毎日夕刊14 柳 亮
毎日夕刊13 嘉門 安雄
毎日夕刊12 滝口 修造
毎日夕刊11 田近 憲三
毎日夕刊10 嘉門 安雄
毎日夕刊9 植村鷹千代
毎日夕刊8 徳大寺公英
毎日夕刊7 岡本謙次郎
毎日夕刊6 田近 憲三
毎日夕刊5 土方 定一

毎日夕刊6月3 河北 倫明
 シシ 6 徳大寺公英
 シシ 7 富永 惣一
 シシ 8 瀬木 慎一
 シシ 9 岡本謙次郎
 毎日夕刊6月10 岡本謙次郎
 毎日 26 瀬木 慎一
 シシ 29 柳 亮
 シシ 30 田村泰次郎、加藤周
 一、平林たい子、川
 口松太郎
 東京タイムズ31 鴻
 朝日31 河北 倫明
 産経夕刊31 日 野
 東京夕刊6月1、2 野
 対談(岡本謙次郎
 三雲祥之助
 読売夕刊6月3 針生 一郎
 毎日6月2 嘉門 安雄
 土方 定一
 シシ 6 植松鷹千代
 東京夕刊6月7 岡本謙次郎
 毎日6月9 田近 憲三
 東京タイムズ6月10 鴻
 毎日6月17
 東京タイムズ7月4 鷓
 三彩7月(89号) 瀬木 慎一
 美術手帖7月 特集
 みづゑ7月 岡本謙次郎
 (No.624)
 シシ 出品作家十四名アンケート
 アトリエ8月 宗 左近
 (No.386)

〔受賞〕
外国部

外務大臣賞
 グレアム・サザラランド
 (イギリス)
 文部大臣賞
 ビエール・スーララジエ
 (フランス)
 東京都知事賞
 フリッツ・ウインテル
 (ドイツ)
 毎日新聞社賞
 サム・フランシス
 (アメリカ)
 アントン・レムデン
 (オーストリア)
 日本部
 最優秀賞 福沢 一郎
 国立近代美術館賞 海老原喜之助
 鎌倉近代美術館賞 藤井令太郎
 佳作賞 糸園和三郎
 川端 実
 三雲祥之助
 加山 又造
 齋藤 義重
 東郷 青児
 大衆賞
 出品目録
 アメリカ
 ノ・54
 パークレイ
 リチャード・
 デイビー
 コーリン

赤の中の黒 サム・フラン
 シス
 蜃気楼 ヘレン・フラ
 ラー
 楽しいチャー
 リーの静物II
 グ
 静 物 ロバート・
 グッドナウ
 水泳する人 グレイス・
 ハーテガン
 ウォルター クリーニング
 クリーニング
 カーツ 駅 アルフレド・
 レスリー
 ノ・12 ジョン・ミッ
 チェル
 ファウストII ジャン・ミュ
 ラー
 55 06 ステファン・
 ペイス
 心配しないで レイモンド・
 パーカー
 ノ・2 ミルトン・レ
 スニック
 運動選手の夢 ラリー・リ
 バリー
 戦 争 サイ・ツォン
 プリー
 オーストリア
 ノ・18 グスタフ・
 ベック
 11月の月 ク
 工場の戦 アントン・レ
 ムデン
 タンクの戦 ムデン
 戦 争

懺悔する人 アントン・レ
 ムデン
 二つの人物 ムーゼフ・
 ミツケル
 人物 B A
 記念品 アルスイフ・
 ノイヴィエト
 左に飛ぶ カール・ウン
 ガ
 街の灯 ガ
 海のはずれ カール・ウン
 ガ
 森の間
 林の間
 取 穂 アルベール・
 サヴェリス
 静 物 B A
 エドガール・
 スコフレール
 ピアノと静物
 運命を操る三人
 の女神
 心配する人
 電化された鉄道
 A B
 アンリ・ウ
 オ
 ルヴェンス
 小 屋
 レオン・ナ
 ヴェズ
 母と子
 安楽椅子と女
 黒衣の女
 ガラス玉と男
 ウイレム・ペ
 レルス
 ロッテルダム
 のムーズ
 モントン湾

ブラジル
 バファイアから来
 た娘(リトグラ
 ム)
 マリナ・カラ
 ム
 建築 NO・10
 アルシオ・カ
 ルヴァン
 作品(チャイナ・
 インク)
 ロヤタル・
 シャロー
 変調の表面
 NO・2
 リヒア・ク
 ラーク
 目に見える理想
 (フレックス・グ
 ラス)
 ワルデマ
 ル・コルデロ
 ナ デ イ ア
 ジャック・ケ
 ス・ドウシ
 作品(チャイナ・
 インク)
 ド・レモス
 作品 NO・5
 マナブ・マ
 ベ
 版 面
 リヒア・パ
 ペ
 ロッシーニ・
 ベロス
 丘(エッチング)
 レオポルド・
 ライモ
 コンボジション
 コンクリーショ
 ン
 ロイス・サン
 ロット
 赤い四角
 デシオ・ヴィ
 エイラ
 イギリス
 牡猫の夢
 アラン・デー
 ビー
 黄色と赤の絵
 魚の神様のイ
 メージ
 褐色とレモン
 テリー・フロ
 スト
 黄色と赤と黒
 青(冬)の絵

アルシノの9月	ペン・ニコル
9月14日(パレリック)	ソ
アレツオNO. 27月31日	シ
緑の樹の構成	グレナム・サザランド
いば	シ
頭	シ
記念	ブライアン・ウインタター
リバー・ポート・ブルース	シ
V	シ
フランス	シ
浜辺	ベルナル・ピユッフェル
シ	シ
エッフェル塔	シ
風景	ジョルジュ・ルオー
ピエロタン	シ
梨	ジョルジュ・ブラック
黒いリンゴ(石版画)	シ
(ニスをぬつた鳥)	シ
アクロバット	マルク・シャガール
室内の女たち	フェルナン・レジェ
五つのひまわり	シ
カジノのブリッジ遊び(壁掛)	ラウル・デュファイ

海軍省のレセプシオン(壁掛)	ラウル・デュファイ
美しい旅	カルズ・リユシアン・クトー
三匹の魚	シ
可愛い娘	シ
日曜の釣師たち	シ
波	ロジェ・シャステル
風	シ
NO. 40	シ
NO. 33	シ
コンボジション	シ
スーパの静物	シ
スペインの女たち	シ
マナド	シ
かもめ	シ
海の月	シ
アールズ劇場のアールの女	シ
闘牛風景	シ
焼けた丘	シ
赤い国	シ
ジャスマインの樹のあるオークルの風景	シ
小さい白い風景と丘	シ
冬	シ
室内設計	シ

コンボジション	シ
道化師と牡羊A	シ
リンゴの籠を持つつた若い女	シ
あひると静物	シ
霜(グアッシュ)	シ
秋()	シ
11月(エッチング)	シ
作品A()	シ
月光の中の若い女(エッチング)	シ
手()	シ
二つの花瓶(エッチング)	シ
マルセル・デュシャン()	シ
ドイツ	シ
網を持つ漁夫	シ
網を運ぶ漁夫	シ
杭の上の村	シ
木のバゴダ	シ
青い地のの上	シ
アルプスの風景(版画)	シ

別れ()	シ
黄金の木	シ
半音の幻想	シ
静物とパイナツプル	シ
景	シ
闊	シ
クカラチャ	シ
古代の礼拝	シ
大きな庭	シ
たそがれ	シ
三重奏	シ
化粧	シ
悲しみ	シ
避難	シ
街の中心	シ
タイラニイ	シ
悲しむ人	シ
誘惑	シ
真夜中	シ
乾草と女	シ
花と植木	シ

人形の家	シ
牡牛	シ
井戸にて	シ
演劇	シ
インドの農夫	シ
静物(水彩)	シ
静物()	シ
イタリア	シ
坐つた人物	シ
裁き	シ
青い形像	シ
婦人像	シ
青い像	シ
静物	シ
躍動	シ
風景A	シ
浴する女	シ
ルフィージ(聖)	シ
風景	シ
コンボジション	シ

コンポジション	アルチオーネ・グベリーニ
赤い舟の水夫	ベッペ・グッツイ
コンポジション	アントニオ・コルボラ
畑の上の青い光	ジョヴァンニ・オミッチオリ
窓のない壁	サンテ・モナケージ
炎	スタニスラオ・レブリ
ジョーバネの頭	フレイノール
メキシコ	
大地	ラウル・アンギアノ
イストモの女たち	ド・カストロ・パチエコ
風景	ホセ・チャベス・モラド
教会	エンリケ・クリメント
アポトロパイック・イメー	ガンサー・ゲルソ
荷物をかづぐ人たち	リカルド・マルティネス
マテリアル・ソング	カルロス・メリダ
転換期	ギエルモ・メサ
スド	アルフォンソ・ミッチェ
キャバレー	ホセ・クロメコ・オロス

真夜中	カルロス・オロス・ロメ
野菜売り	ロスコ・ゴリ
マックロピオ・エレラの壁面の研究	デイエゴ・リベラ
気が狂つた鳥	ダビッド・アケイロス
苦しんでいる人	ケイロス・ソリアノ
スペイン	ルフィノ・タマヨ
山地の人々	ペンハミン・パレンシア
月	
ティタールの谿	
赤い馬	
鱒	
マドリッドの屋根	マスエル・ロペス・ウイリャセニョール
マドリッド大広場	
トレードの家々	
ヴェニス	
ローマ	
コンポジション	ビクトリア・ガリンド
静物	
サンマルコ広場湖(ヴェニス)	
オの誘惑	

スイス	マックス・ピル
広がり	クルノ・アミエット
早春	セルジュ・ブリニョーニ
コンポジション	ハンス・エルニ
めおと馬	E・ヨシダ・フリュー
貝	ハンス・フィッシャー
仮装行列	ハンス・フィッシャー
浮彫	シユス・フィッ
ジュエームズ・ジョイス肖像	ウィルヘルム・ギンミ
少女の頭	アドルフ・ヘルプスト
水晶の庭	ヤヌコフ・エマヌエル
コンポジション	レオ・ロイツ
静物	オイゲン・フリュー
コンポジション	ギエス・デソ
雨	M・V・ミニレネン
読書する人	ワルター・ザウター
リヴィア(イタリア)の下女	フアルリ
氷	ハインツ・グッゲンハイム
ユーゴスラビア	マイサー
室内の裸婦(水彩)	ネデリコ・グアイツデノ

風景A(シ)	ネデリコ・グアイツデノ
風景B(シ)	
室内の少女(シ)	
風景の中の女(シ)	
少女と花	ミリエンコ・スタンチッチ
結婚式	
死博	
賭博師	
パラスティンの通り	
自画像	ガブリエル・スツピサ
果実	
リースを持つ女	
L・M氏の肖像	
ざくろ	
洋画	
女作品	伊藤継郎
鳥の壁	伊藤久三郎
アルメニヤのトリオ	糸園和三郎
仕事する女達	井上長三郎
島の春	井上三綱
古い建物(英国)	井手宣通
水郷	石川滋彦
十一月	服部正一郎
裸婦	原勝一郎
狂つた男(銅版)	原精一
浜田知明	

静物(エッチング)	浜口陽三
伊賀瓶子とメロン	東郷青児
雪のカアニユ	鳥海青児
形(象(緑))	渡辺武夫
国際海港(木版画)	川端実
人	川西英
太閤様(木版画)	川口軌厩
静物	川上澄生
東方の地	加山四郎
人間の生態像	香月泰男
馬のいる家	米倉寿仁
作	横地康国
石垣と木	吉井忠
田甫と車	吉原治良
隔壁の声	高島達四郎
花園の少女	高橋忠弥
薄暮	多賀谷伊徳
鳥	鷹山宇一
弟子の足を洗う	高田誠
変身	高間惣七
神話	田中忠雄
磯(あしび)	田中鶴子
朝の山ひだ	田中佐一郎
人物	田中岑
冬	田辺三重松
作	田村孝之介
岩と	田村一男
夏の九重山	玉置正敏
入笠	竹谷富士雄
山	田崎広助
山	曾宮一念

秋の道土田文雄
 群棲土屋幸夫
 射的鶴岡政男
 芽津高和一
 風景名井万亀
 水ぬるむ中之鳥鍋井克之
 公園典中西勝
 祭典中西勝
 煤煙中谷泰
 林の中川紀元
 花の女仲田好江
 貝と女仲田好江
 婦人像中村琢二
 裸体中村琢二
 風景中村善策
 植木鉢を抱く女中山巍
 歩く人中岡冊夫
 展開難波田龍起
 木馬南城一夫
 山麓雨日向井潤吉
 追開、般若波羅棟方志功
 密多心経板画欄
 黒い線村井正誠
 静物村岡平蔵
 陶工内田武夫
 森の太陽宇治山哲平
 カンヌ梅原龍三郎
 丸いタンク牛島憲之
 佐世保の教会納富進
 風をみる裸婦景野村守夫
 本を見る裸婦野口弥太郎
 早春野間仁根
 海の見える風景太田忠
 反映大沢昌助

港の村大野五郎
 虫と子供岡本太郎
 花の物織田喜
 曲藝師と子供萩太郎
 夏の夜(水彩)小山田二郎
 静物黒田頼綱
 夜の犬吠久保守
 奈の犬吠久保守
 人を描く人桑田道夫
 菜の花畑矢橋六郎
 二山人中春雄
 千手「黒夫人」像山口薫
 抽象山口長男
 夏のこだま(水彩)山口正城
 磁場藪内正直
 「ウーッ!!」山本敬輔
 旧港松島正幸
 内牧の阿蘇松本弘二
 顔(版画)前田藤四郎
 雪の最上川真下慶治
 シカゴの貧民窟益田義信
 執念古沢岩美
 埋葬福沢一郎
 アツカドの椅子藤井令太郎
 変身藤川栄子
 道小糸源太郎
 大原女小磯良平
 明石海峡小出卓二
 山湖小林和作
 自画像小泉清
 亡骸の華河野通紀

ミチ子さん高野三三男
 或る終曲駒井哲郎
 人間的像小松義雄
 伊呂波仁保止小牧源太郎
 熱海児島善三郎
 裸婦古茂田守介
 遺産榎戸庄衛
 燃行先のスケッチ(メキシコ市)寺田竹雄
 店(マイカ)の露寺田竹雄
 白く夜阿部政明
 めくく阿部政明
 くさむら青柳暢夫
 女は水を汲みま丸木俊子
 赤い空と人麻生三郎
 道化朝井閑右衛門
 五朝妻治郎
 中村斎藤長三
 壱川斎藤清
 鬼(版画)斎藤義重
 二人斎藤義重
 人斎藤義重
 風景佐野繁次郎
 花景佐伯米子
 春三田康
 流水と雲(版画)北岡文雄
 はなよめ北川民次
 浅草新仲見世木村莊八
 残雪の山を望む木下義謙
 風景イリオン木下孝則

ひびき(響)南大路一
 パリスの審判三雲祥之助
 立夏宮田重雄
 裸婦宮本三郎
 ハニワ三岸節子
 かけら品川工
 雪の湯沢島野重之
 目刺と煙島岡実
 岩子広頼功
 母三つのポーズ森田元子
 田園(五七-B)李田たけを
 秋市菅野恵介
 魚市場須田国太郎
 同時併存須田国太郎
 黄須田国太郎
 五透する空間末松正樹
 西ノ京杉本健吉
 丘陵の雄鶏鈴木保徳
 港(長崎風景)鈴木信太郎
 日本画
 清水伊東深水
 審判岩崎巴人
 姉妹岩崎巴人
 街川端龍子
 夕照川端龍子
 冬の山川本末雄
 歌舞伎座所見片岡球子
 見山猫加納三楽輝
 黒い鳥加山又造
 台風亀井玄兵衛

群鶏吉岡堅二
 水草上村松篁
 水草奥村土牛
 樹海奥村厚一
 森い花山田申吾
 白い花山崎豊
 サン・ホセへの松田文子
 道林丸木位里
 石林丸木位里
 水辺福田豊四郎
 花簪(君子蘭)小島鼎子
 小原屋琴塚英一
 大原風景小松均
 飛鳥麻田弁次
 壁富麻田鷹司
 肯定的にとらえられた生朝倉撰
 裸婦秋野不矩
 猫夫人像安西啓明
 風景酒井亜人
 海青い森と原信太金昌
 青い森と原信太金昌
 曉流に啼く東山魁夷
 彫刻
 うたう女石井鶴三
 荷揚人新田実
 荷吹く人(石膏)西常雄
 愁い岡本庄三

ペステム 加藤 顕清
 有機体(セメン 象 笠置 季男
 作品Aの7 長野 隆業
 琥珀のオブジェ 向井 良吉
 立つてゐる女 畝村 直久
 トルソ 植木 茂
 トルソ 黒田 嘉治
 四股(石膏) 久保 孝雄
 黒人裸婦 柳原 義達
 と 山本 豊市
 裸婦(石膏) 松村 外次郎
 ドン・キホーテ 昆野 恒
 傷ついた魚 舟越 保武
 足なげる女 佐藤 忠良
 女 木内 克
 顔 木内 岬
 女 (石膏) 菊池 一雄
 か が む 峯 孝
 裸婦 清水 多嘉示

五浦回顧展 24—6月2 茨城
 県立美術館
 石川讓治、高橋正、四辻一郎童
 画三人展 24—28 美松画廊
 3 回京都陶藝家クラブ粘土会新
 作陶展 24—29 東京・大丸
 [批] 萌春44号
 石塚三郎油絵個展 24—30 櫛
 画廊
 第一美術十二人展 24—31 上
 野・エバ画廊
 木田金次郎油絵小品展 25 北

海道銀行東京支店
 2 回青塔社展 25—29 京都府
 ギャラリー [批] 萌春45号
 うるみ会漆藝展 25—31 和光
 小出卓二個展 26—30 兜屋
 むさしの画会展 26—28 クレ
 パス画廊
 2 同グラフィックアート春季展
 27—6月1 養清堂
 2 回春秋会展(明治、英遠、聰
 雨、遊亀、栄三、辰雄、蓬
 春、沙伊) 27—30 村越画廊
 [批] 三彩7月(89号)(多田
 信一)
 3 同トロア・ブリアン展 27—
 6月1 ヤナセ
 坪内正個展 27—6月1 サエ
 グサ
 2 同高野譲個展 27—6月1
 サトウ [批] 読売夕刊31(中
 原佑介)
 五人展(須賀卯夫、野村基義、
 川元顯山、庭田定男、半田三
 男之介) 27—6月2 鈴屋
 ギャラリー
 守田哲郎ガラスデザイン展 27
 —6月1 丸ビル・中央公論
 社画廊
 五味悌四郎浅草風景展 27—6
 月1 トキワ画廊
 13 同佐藤コレクション展示会
 (浮世絵版画約六百点) 27—
 29 日大図書館

精密鑄物展 27—29 東京産業
 会館 [批] 工藝ニュース
 Vol.31—6(H)
 田辺栄次郎滯欧作品展 28—6
 月2 金沢・片町 大和
 桃山障壁画名作展 28—6月9
 日本橋・高島屋
 1 回葵窓会美術展 28—6月2
 安藤七宝店画廊
 石橋和美個展 28—6月2 村
 松 [批] 読売夕刊31(中原
 佑介)
 5 回草月会日本画展 28—6月
 2 日本橋・高島屋 [批]
 萌春45号、三彩7月(89号)
 (多田信一)
 青甲社展 28—6月2 大阪・
 大丸 [批] 美術手帖7月(杉
 本亀久雄)
 2 回因藤寿油絵展 28—6月2
 日本橋・丸善
 江森礫個展 28—6月1 フォ
 ルム
 貝原六一個展 28—6月3 村
 松 [批] 読売夕刊31(中原佑
 介)、みづる7月(No.624)(東
 野芳明)
 田中阿喜良作品展 28—6月2
 村松 [批] 読売夕刊31(中原
 佑介)、みづる7月(No.624)
 (東野芳明)
 蒔絵名品展 28—6月22 根津
 美術館
 清鶴会染色展 28—6月1 光

風会館
 2 回洗々会展 28—6月2 上
 野・松坂屋 [批] 萌春45号
 松坂万古佐久間一夫茶陶展 28
 —6月2 大阪・阪急
 白墨会日本画展 28—6月1
 文房堂
 井上恒女日本画展 28—6月2
 日本橋・三越
 吉向松月作陶展 28—6月2
 日本橋・三越
 西山英雄陶板陶画展 28—6月
 5 大阪・大丸
 舞台を使用する具体美術
 大阪・産経会館 [批] 美術
 手帖8月
 2 回空間グループ展 29—6月
 3 美松画廊
 3 回匹垂展 29—6月3 三省
 堂
 松本慎三水彩バラ展 31—6月
 5 銀座・松坂屋
 石井弥一郎個展 31—6月5
 東京・大丸
 草木染展 31—6月6 文藝春
 秋画廊
 岡田章人漆藝展 31—7月4
 京都府ギャラリー
 六 月
 山内壮夫彫刻と素描展 1—
 5 兜屋 [批] アトリエ8
 月(No.386)(宗左近)

8 回サロン・ド・ジュワン 1
 —6 銀座画廊 [批] 美術
 手帖8月(中原佑介)
 山本恵一、木内岬絵画と彫刻作
 品展 1—15 新宿・風月
 構成展 1—7 なびす [批]
 工藝ニュースVol.31—6(N)
 伊勢正義個展 1—5 大阪・
 フジカワ
 DELTA展 1—6 神戸・イ
 サビヤ
 グループF展 1—6 日比谷
 画廊
 春陽会展 1—10 大阪市立美
 術館
 兵庫県日本画家連盟展 1—13
 市立神戸美術館
 新美術協会展 2—10 大阪市
 立美術館
 女流十五人展(堀文子、神谷信
 子、野田好子、小川マリ子、
 小川孝子、小田彩子、小山田
 チカエ、福島秀子、朝倉撰、
 赤穴桂子、芥川紗織、安部真
 智、斎藤愛子、桜井浜江、三
 岸節子) 2—9 新宿・ブラ
 ンシェ
 染色二人展(広川青五、中村光
 哉) 2—8 養清堂 [批]
 萌春44号、工藝ニュースVo
 l.35—6(N)
 毛利武士郎個展(新進作家展第
 一週—彫刻) 3—8 サト

ウ [批] 朝日8(隆)、美術手帖8月(植村鷹千代)、新進作家展評—美術手帖8月(植村鷹千代)、みづゑ8月(N. 26)(東野芳明)

加藤高臥動物画個展 3—5 丸ビル・中央公論社画廊

新具象展(井上武吉、木内岬、中野淳、中本達也、永田力、比田井仁史、松田博、森川昭) 3—8 村松 [批] 産経夕刊7(日野)、朝日8(隆)、美術手帖8月(植村鷹千代)

浜田信油絵個展 3—6 日本橋・丸善 [批] 産経夕刊7(日野)

金森馨舞台美術展 3—8 トキワ画廊

清希卓作品展 3—8 サエグサ

関西二科クラブ展 3—9 神戸新聞会館

段々社金工展 3—8 和光 [批] 萌春45号、工藝ニューズ Vol. 25—6(N)

堀部哲郎、本橋恒夫、鈴木健司 三人展 3—8 村松

伊藤誠二個展 3—9 此花画廊

モリス・グレイヴス自選展 4—7月20 プリヂェストン [批]

産経夕刊7 日野

美術展覧会(6月)

東京夕刊8 山田智三郎 朝日13 嘉門 安雄 日経15 福島繁太郎 毎日5 船戸 洪吉 萌春45号 三輪 福松 三彩7月(89号)

三輪晃勢個展 4—9 日本橋・高島屋 [批] 産経夕刊7(横川)、萌春45号、三彩7月(89号)(多田信一) いけばな勅使河原蒼風、岩田藤七新作ガラス展 4—9 渋谷・東横 宇田荻邸個展 4—9 日本橋・三越 [批] 萌春45号、三彩7月(89号)(多田信一) 香月泰男湯沢政作品展 4—8 フォルム [批] 毎日7(船戸 洪吉)、朝日8(隆)、美術手帖8月(植村鷹千代) 2回アルファ工藝展 4—9 日本橋・高島屋 [批] 工藝ニューズ Vol. 25—6 染絵展 4—5 銀座・東電サービステンター 批紀会展 4—9 上野・松坂屋 香川県漆藝展 4—9 大阪・阪急 新匠会工藝展 4—6 神戸・大丸 荒木道夫個展 5—10 三省堂

[批] 美術手帖8月(植村鷹千代) 甲斐虎山南画近作展 5—9 新宿・伊勢丹 9回VOU形象展 5—11 櫛画廊 [批] 美術手帖8月(植村鷹千代) 岡村不二創作装幀展 6—8 丸ビル・中央公論社画廊 加藤栄三デッサン展 7—17 銀座・松屋 [批] 毎日8(船戸 洪吉)、朝日12(隆)、日経13(嘉門安雄)、産経夕刊14(横川毅一郎)、萌春45号(浜村順)、三彩7月(89号)(中村 溪男)、美術手帖8月(植村鷹千代) 石川滋彦滞欧作品展 7—12 日動画廊 [批] 毎日7(船戸 洪吉) 高沢万起個展 7—11 兜屋 [批] 美術手帖8月(植村鷹千代) 3回羊々会展 7—11 日本橋・丸善 [批] 美術手帖8月(植村鷹千代) 新作日本画展(松島画舫主催) 7—12 東京・大丸 武者小路実篤日本画展 7—12 銀座・松坂屋 子供のための漫画展 7—12 東京・大丸 牛島憲之個展 7—14 大阪・

フジカワ 京都陶藝家クラブ新作陶展 7—11 京都府ギャラリ— 美術文化関西グループ選抜展 7—12 神戸・イサビヤ 新世紀美術協会展 8—17 名古屋・愛知県美術館 河野芳夫個展 8—15 大阪・白鳳画廊 アッシュ展 8—12 美松画廊 日本藝術院賞展 8—28 歌舞伎座別館ギャラリ— 16回春泥会展(中村貞以塾) 8—13 大阪・三越 [批] 美術手帖8月 RP画西洋美術展 8—29 文藝春秋画廊 [批] 毎月27(船戸 洪吉) 石田茂吉個展 9—13 産経画廊 中井幸一展 9—14 村松 [批] 朝日12(隆)、美術手帖8月(植村鷹千代)、みづゑ8月(N. 26)(瀬木慎一) 4回ヴォロンテ展 9—14 村松 十周年記念若屋市美術展 9—16 芦屋市・精道小学校講堂 積田登士個展 10—17 南画廊 小野佐世男遺作、小野寧子近作展 10—17 新宿・ブランシェ 3回野火展 10—15 ヤナセ [批] 産経夕刊14(日野)、美

術手帖8月(植村鷹千代) 前田常作個展(新進作家展第 二週—絵画) 10—15 サトウ [批] 朝日15(隆)、美術手帖8月(植村鷹千代) 6回晴日会展 10—15 養清堂 [批] 産経夕刊14(日野) アルシミスト展 10—15 トキワ画廊 中村三千代個展 10—15 丸ビル・中央公論社画廊 52回魯山人展 11—16 日本橋・高島屋 [批] 産経夕刊14(日野) 植木茂作品展 11—16 日本橋・白木屋 [批] 朝日15(隆)、美術手帖8月(植村鷹千代)、工藝ニューズ Vol. 25—7(N) 葵洗会工藝展 11—16 日本橋・高島屋 [批] 産経夕刊14(日野)、萌春44号 日本藝術院恩賜賞院賞受賞作家美術作品展 11—19 上野・松坂屋 日本藝術院第二部第三部会員揮毫作品展 11—19 上野・松坂屋 2回PIVOT硝子工藝展 11—16 日本橋・高島屋 6回現代日本陶藝展 11—19 上野・松坂屋 [批] 萌春45号(大山広光) 武藤完一銅版画展 11—16 大

一〇七

分市・トキワギヤラー
能彫会十周年記念展 11-16
日本橋・三越
大貫松三油絵展 11-16 日本橋・三越 [批] 産経夕刊14 (日野)
須田寿個展 11-5 サエグサ [批] 美術手帖8月(植村鷹千代)
宮坂房術彫金展 11-14 壺中居
現代工藝連合展 11-16 日本橋・三越
真野紀太郎水彩画展 11-16 日本橋・三越 [批] 産経夕刊14(日野)
たぶろお会洋画展 11-16 上野・松坂屋
栗原信油絵個展 11-16 大阪・阪急
研水会展 11-18 大阪市立美術館
本田克己個展 11-15 フォルム [批] 朝日15(隆)、美術手帖8月(植村鷹千代)
5回鑑賞展 12-15 日本橋・丸善
堂本印象新作花の絵展 12-15 兼素洞 [批] 産経夕刊14(横川毅一郎)、朝日15(隆)、萌春45号、三彩7月(89号)(多田信一)
春田しんさい個展 12-18 櫛
画廊 [批] 美術手帖8月(植村鷹千代)

佐藤辰洋洋画個展 12-18 新宿・伊勢丹
美術出版社「現代の洋画」出版記念複製展 12-15 日本橋・丸善
彩青会展 12-16 此花画廊 [批] 萌春48号
日本画大家新作展 12-17 東洋美術画廊 [批] 萌春45号
起展 13-17 美松画廊 [批] 美術手帖8月(植村鷹千代)
斎藤正夫、合田小三郎二人展 13-17 兜屋 [批] 毎日15 (船戸洪吉)
新制作協会油絵部会員展 14-19 銀座・松坂屋 [批] 東京夕刊18、みづゑ8月(No.625)(瀬木慎一)
17回日本山岳画協会展 14-19 東京・大丸
女流画家協会展(第二会場) 14-19 銀座・松屋
青々会油絵展 14-18 銀座画廊
富永風生句画賛展 14-19 銀座・松屋
青陶会展 14-19 銀座・松屋 [批] 萌春45号(大山広光)
高間惣七新作油絵展 14-19 東京・大丸 [批] 東京夕刊18、朝日19(隆)、美術手帖8月(植村鷹千代)、みづゑ8月(No.625)(瀬木慎一)

28回菁莪会小品展 14-18 京都
都府ギヤラー
原田直康硝子絵展 14-18 画廊サン
5回生活工芸展 14-19 銀座松坂屋 [批] 工藝ニュース Vol. 25-1
1回東京国際版画ビエンナーレ展 15-17 第一会場(国際展) 読売会館、第二会場(歌磨と北斎展) 国立近代美術館 [批・記]
読売夕刊5月9 富永 惣一
読売夕刊6月13 徳大寺公英
14 今泉 篤男
15 阿部 展也
17 東野 芳明
20 中原 佑介
24 瀬木 慎一
25 宇佐見英治
28 徳大寺公英
29 久保貞次郎
7月2 針生 一郎
山田智三郎
矢内原伊作
読売6月19
東京夕刊6月21 久富 貢
毎日6月27
読売夕刊7月2 滝口 修造
朝日7月2 瀬木 慎一
日経7月4 福島繁太郎
産経夕刊7月5 野

美術手帖8月号特集
アトリエ9月号 宗 左近 (No.367)
受賞記事 読売6月14 (受賞)
国際大賞
ジョルジュ・アダム (フランス)
外務大臣賞
リコ・デベンヤーク (ユーゴスラビア)
文部大臣賞
もり まなぶ (日本)
国立近代美術館賞
浜口陽三 (日本)
新人賞
ジェフリ・クラーク (イギリス)
オットー・エグラウ (ドイツ)
泉 茂 (日本)
吉田政次 (日本)
ブリヂストン美術館賞
アントニ・クラールベ (フランス)
神奈川県立近代美術館賞
J・フリードレンダー (フランス)
大原美術館賞
ヤコブ・ピンス (イスラエル)
レオナード・バスキン (アメリカ)
Noa展 15-20 村松

五木田有為子作品展 15-20 村松 [批] 美術手帖8月(植村鷹千代)
小林二郎ペン画展 15-20 村松
アート・クラブ・グループ展 15-21 なびす
春陽会展 15-25 市立神戸美術館
3回練馬区美術展 16-20 練馬区民館
新制作協会日本画部会員展 17-22 ギヤラー創苑 [批] 朝日22(隆)、三彩8月(90号)
11回女流画家協会展(第一会場) 17-27 東京都美術館 [批]
毎日23 船戸 洪吉
東京夕刊23 寺 隆
朝日25 隆
美術手帖8月 植村鷹千代
みづゑ8月(No.625)
瀬木 慎一
45回日本水彩展 17-28 東京都美術館 [批] 東京夕刊23 (寺)
藤松博個展(新進作家展第三週) 17-22 サトウ [批] 読売夕刊21(中原佑介)、美術手帖8月(植村鷹千代)
1回陸水会展(熊谷守一、中川一政、長与善郎、武者小路実

篤) 17-22 サエグサ [批]

東京夕刊 18

岡田節子湯歌作展 17-22 求

龍堂画廊 [批] 東京夕刊 18、

毎日 20(船戸洪吉)、美術手帖

8月(植村鷹千代)

18回現代版画展 17-22・渡辺

大阪画店

11回大須賀力、黒田嘉治彫刻展

17-20 日本橋・丸善 [批]

朝日 19(隆)

中山正リトグラフ展 17-22

養清堂

13回現代美術協会展 17-28

東京都美術館 [批] 東京夕

刊 23(寺)

河越虎之進山岳風景画展 17-

22 丸ビル・中央公論社画廊

神保俊子油絵展 17-22 トキ

ワ画廊 [批] 東京夕刊 20

9回北斗会展 18-23 上野・

松坂屋 [批] 萌春 45号、三

彩 8月(90号)

8回日月社展 18-23 日本橋・

三越 [批] 朝日 22(隆)、産

経夕刊 21(横川)、東京夕刊 22

(久富)、萌春 46号

井手宣通油絵展 18-23 日本

橋・白木屋 [批] 毎日 20(船

戸洪吉)、東京夕刊 20、産経夕

刊 21(日野)、美術手帖 8月

(植村鷹千代)、みづゑ 8月

(No. 625)(柳亮)

美術展覧会(6月)

4回県会展 18-23 日本橋・

高島屋 [批] 東京夕刊 22(久

富實)、萌春 45号、三彩 8月

(90号)

2回横田峰斎竹藝個展 18-23

日本橋・高島屋

ソ連へ行く現代日本工芸美術団

内展 18-23 日本橋・白木

屋 [批] 東京夕刊 20(剣持

勇)、朝日 22(隆)

晴港会油絵展 (川島実、氏田喜

一郎、島田四郎、賛助出品中

沢弘光) 18-23 日本橋・三

越 [批] 産経夕刊 21(日野)

奥の細道展 (絵画田中以知庵、

俳句、カメラ、植物、食物、

挿花) 18-23 日本橋・三越

[批] 産経夕刊 21(横川)

棟方志功板画屏風展 18-30

ブリヂストン

朝日新入展 18-23 日本橋・

高島屋

1回日本金工制作協会展 18-

26 銀座・松屋 [批] 朝日

22(隆)、工芸ニュース Vol. 35

、(N)、萌春 45号(大山広光)

おろうる会展 18-22 美松画

廊

目でみた中国考古学展 18-23

日本橋・三越

爽々会水彩画展 18-23 日本

橋・三越 [批] 東京夕刊 20、

産経夕刊 21(日野)

内島北朗新作陶展 18-23 日

本橋・三越

保谷クリスタル・グラス新制品

展 18-23 大阪・阪急

8回農鳥社展 18-23 京都・

大丸 [批] 萌春 48号

28回第一美術展 19-28 東京

都美術館 [批] 東京夕刊 23

(寺)

金原昌平個展 19-23 兜屋

[批] 東京夕刊 20

日本南画壇展 19-23 京都市

美術館 [批] 萌春 48号

東光会展 19-26 大阪市立美

術館

17回 MAHANI 展 21-25 日

本橋・丸善

栗原信水彩画展 21-26 東京・

大丸

げるぼあ展 21-26 村松

[批] 美術手帖 8月(植村鷹

千代)

宮地龍、村瀬隆展 21-26 村

松 [批] 美術手帖 8月(植

村鷹千代)

高間惣七個展 21-26 東京・

大丸

京都府推薦工芸十人展(京都工

藝美術展入選者十名) 21-

25 京都府ギャラリー

春潮会水壘展 22-25 大阪・

梅田画廊

荻野康児個展 23-30 新宿・

プランシエ

安野光雅、佐藤諒、米倉正弘三

人展 23-27 美松画廊

造形教育センター展 23-30

なびす

安部真知個展(新進作家展第四

週) 24-29 サトウ [批]

東京夕刊 27、読売夕刊 28(中

原佑介)、美術手帖 8月(植村

鷹千代)

浜口陽三、南佳子二人展 24-

29 東京画廊 [批] 朝日 26

(隆)、東京夕刊 27(岡本謙次

郎)、毎日 27、読売夕刊 28(中

原佑介)、美術手帖 9月(中原

佑介)、みづゑ 8月(N. 625)

(柳亮)

榎本和子、福島秀子二人展 24

-29 養清堂 [批] 東京夕刊

27、読売夕刊 28(中原佑介)、

美術手帖 9月(中原佑介)

山本蘭村、中村忠二人展 24

-25 東電サービスセンター

古沢岩美個展 24-29 大阪・

フジカワ

久野修男、辻壽介、菅沼五郎三

人展 24-29 丸ビル・中央

公論社画廊

1回次元会展 24-29 此花画

廊

童画十人展 24-28 画廊サン

[批] 産経夕刊 26

新制作京都展 24-26 京都・

土井撰美堂

第二紀念新人特選展 25-30

日本橋・三越 [批] 東京夕刊

27、産経夕刊 28(日野)、みづ

ゑ 8月(N. 625)(瀬木慎一)

青甲社会員展 25-7月1日 日

本橋・高島屋 [批] 産経夕

刊 28(日野)、萌春 47号、三彩

8月(90号)

西欧ガラスと工芸の会展 25-

30 日本橋・高島屋

17回日本木彫会展 25-30 日

本橋・高島屋

佐々文夫デザイン・クリスタル

硝子屋 25-7月1日 日本橋・

高島屋 [批] 工芸ニュース

Vol. 35-(N)

1回白岬会洋画展 25-30 日

本橋・白木屋 [批] 東京夕

刊 27、産経夕刊 28(日野)、みづ

ゑ 8月(N. 625)(瀬木慎一)

青年会日本画展 25-30 日本

橋・三越 [批] 萌春 45号、

三彩 8月(90号)

宮之原謙新作陶展 25-30 日

本橋・三越 [批] 萌春 45号

(大山広光)

五沐会工藝展 25-30 日本橋・

三越

5回龍土会展 25-30 銀座・

松屋

墨心会日本画展 25-30 上野・

松坂屋 [批] 萌春 45号、三

- 彩8月(90号)
- 3 回來龍會展 25—29 弥生画廊 [批] 萌春45号、三彩8月(90号)
- 石井茂個展 26—7月1 三省堂
- 大兼実個展 26—29 日本橋・丸善
- 23才展 26—30 襟画廊
- 牛玖健治濼版画展 26—30 襟画廊 [批] 東京夕刊27、美術手帖9月(中原佑介)
- 川元願山画道展 26—7月1 大阪・梅田画廊 [批] 美術手帖8月
- 伊藤好一郎、奥口徳雄、笠井一、吉川三伸、福田杜子夫、篠原宏六人展 27—7月2 村松
- 3 回 NAVA 作品展 27—7月 2 村松
- 首代俊夫個展 27—30 日比谷画廊
- 白合会作品鑑賞展 27—28 东条会館 [批] 萌春47号
- 2 回五人展 28—7月2 美松画廊
- 三花会日本画表装展 28—7月 3 東京・大丸
- 伊東深水小唄絵小品展 28—7月3 銀座・松屋 [批] 萌春48号
- 3 回びぞん染色展 28—7月2 京都府ギャラリー

七月

- 深谷徹素描展 29—7月2 画廊サン
- 5 回ニッポン展 30—7月11 東京都美術館 [批] 美術手帖9月(中原佑介)
- 9 回連立展 30—7月11 東京都美術館 [批] 産経夕刊5(日野)
- 深沢紅子個展 1—6 求龍堂 [批] 東京2、朝日4(隆)
- 土橋醇個展 1—10 南画廊 [批] 東京2、朝日4(隆)、読売夕刊5(中原佑介)、美術手帖9月(中原佑介)、みづゑ8月(No.625)(柳亮)
- 11 回 旺玄会展 1—11 東京都美術館 [批] 美術手帖9月(中原佑介)
- 6 回創型会彫塑展 1—10 東京都美術館
- ホヘミア・ガラス製品展 1—7 日本橋・白木屋
- 京都陶藝竹工藝展 1—14 日本橋・白木屋
- 1 回 稔晴会展(東山魁夷、森芳雄、山口薫、山本丘人) 1—6 サエグサ [批] 東京2、朝日4(隆)
- 宮田重雄濼欧スケッチ展 1—7 新宿・ブランシエ

- 菅野陽銅版画個展 1—6 養清堂 [批] 東京2、美術手帖9月(中原佑介)
- 佐藤多都夫個展 1—6 サトウ [批] 読売夕刊5(中原佑介)、朝日6(隆)、美術手帖9月(中原佑介)
- 立花一花作品展 1—4 日本橋・丸善
- 6 回自由美術九人展 1—6 ヤナセ [批] みづゑ8月(No.625)(瀬木慎一)
- 1 回 塩出千鶴子個展 1—6 トキワ画廊
- クリスタルガラス陳列会 1—12 和光
- グループ JUNE 同人展 1—6 襟画廊 [批] 美術手帖9月(中原佑介)
- 近藤浩一路個展 1—7 上野・松坂屋
- 熊野速玉神社御神宝特別展 1—31 奈良国立博物館
- 内田邦夫作陶展 2—7 日本橋・高島屋
- 村山密濼欧作品展 2—8 日本橋・三越 [批] 東京夕刊4、みづゑ8月(No.625)(柳亮)
- 創元会々員展 2—7 日本橋・高島屋 [批] みづゑ8月(No.625)(柳亮)
- 2 回 山本豊市作品展 2—12

- ブリヂストン [批] 産経夕刊5(日野)、東京夕刊5(本間正義)、読売夕刊5(中原佑介)、美術手帖9月(中原佑介)、みづゑ8月(No.625)(柳亮)
- 井上覚造濼欧作品展 2—7 日本橋・高島屋 [批] みづゑ8月(No.625)(柳亮)
- 金子千恵子近作油絵展 2—7 日本橋・高島屋 [批] 東京夕刊4、みづゑ8月(No.625)(柳亮)
- 尚美展 2—6 壺中居 [批] 萌春45号、三彩8月(90号)
- 窯彩硝子即売会 2—7 日本橋・高島屋
- 山本常一・駿介(父子)シ鳥シデッサン展 なびす [批] 朝日6(隆)
- 萌春会日本画展 2—7 日本橋・三越
- 日下部道寿画展 2—7 日本橋・三越 [批] 萌春47号
- 6 回瀬戸陶藝展 2—7 日本橋・三越
- 笹川由為子個展 2—6 フォルム [批] 朝日4(隆)
- 現代イストラエル絵画展 2—7 新宿・伊勢丹 [批] 読売4(東野芳明)、美術手帖9月(東野芳明)、美術手帖9月(東野芳明)
- キメー博物館寄贈品特別展観 2—14 東京国立博物館

- [批] 萌春46号(中村溪男) 作家美術家色紙展 2—8 日本橋・三越
- 勝尾青龍洞作陶展 2—7 大阪・阪急
- 泰西名画複製展 2—7 大阪・阪急
- 1 回大阪朝日新人展 2—7 大阪・高島屋 [批] 美術手帖9月(杉本亀久雄)
- 2 回カトル展 3—8 村松なかいて漢油絵個展 3—7 大貫写真店画廊
- 5 回小島謙個展 3—8 三省堂
- 斎藤正治作品展 3—8 村松グループ具現展 3—7 美松画廊
- 覆倉省吾個展 5—11 銀橋画廊 [批] 東京11(岡本謙次郎)
- 足立真一郎北アルプス油絵展 5—10 画廊サン
- 梅澤五郎、松永和夫二人展 5—9 日本橋・丸善
- 小野竹雪写生展 5—11 銀座・松屋 [批] 東京夕刊7(河北倫明)、朝日9(隆)、毎日12(船戸洪吉)、産経夕刊12(横川)、萌春46号(船戸洪吉)
- 山口誓子、下田実花二人展 5—10 東京・大丸
- 薔薇会日本画展 8—13 ヤナセ [批] 東京12(久富貢)、

朝日13(隆)、萌春47号、三彩8月(90号)
 牛島憲之個展 8-15 サエグサ [批] 東京11(岡本謙次郎)、毎日13(船戸洪吉)、朝日13(隆)
 中村琢二新作油絵発表展 8-12 日動画廊 [批] 東京11(岡本謙次郎)
 現代版画展 8-14 日本橋・高島屋
 武政忠個展 8-13 サトウ平塚運一新作版画展(主題 石木) 8-13 養清堂 [批] 東京12、美術手帖9月(中原佑介)
 3回一九五五年会展 8-13 求龍堂画廊 [批] 朝日11(隆)、東京12、読売夕刊12(中原佑介)、毎日13(船戸洪吉)
 中井勝郎個展 8-14 傑画廊 [批] 美術手帖9月(中原佑介)
 夏の民藝の会 8-14 日本橋・高島屋
 古沢岩美個展 8-14 銀座・松坂屋
 3回燦光会展 8-17 銀座・松坂屋 [批] 萌春47号(中村湊男)、三彩8月(90号)
 田中寅三個展 8-13 中央公論社画廊
 吉田政次版画展 8-13 トキ

ワ画廊 [批] 朝日11(隆)、美術手帖9月(中原佑介)
 石川滋彦滞欧スケッチ展 8-14 新宿・ブランシエ
 現代名僧墨跡展 8-15 新宿・伊勢丹
 藤田喬平手吹ガラス器新作展 8-14 上野・松坂屋
 女流十一人展 8-12 美松画廊
 桜井慶治滞欧油絵展 9-15 日本橋・三越 [批] 朝日11(隆)
 9回清流会展 9-14 日本橋・三越
 毎日12 船戸 洪吉
 東京12 久富 貢
 朝日13 隆
 日経14 嘉門 安雄
 萌春47号 中村 湊男
 三彩8月(90号)
 生誕二百年記念真寛展 9-21 日本橋・高島屋
 荻原碌山彫刻展 9-14 日本橋・三越 [批] 朝日11(隆)
 東京12
 出品目録
 彫刻 (1907)
 夫 (ハ)

文 覚 (1908)
 習作(戸張孤雁像) (1909)
 北条虎吉像 (ハ)
 デス・ペア (ハ)
 労働者 (ハ)
 爺 (ハ)
 小児の首 (ハ)
 香炉 (ハ)
 灰皿 (ハ)
 宮内氏像 (1910)
 女内 (ハ)
 銀盤 (ハ)
 メダ (ハ)
 ニューヨーク近郊 (ハ)
 ジャンク (ハ)
 波止場 (ハ)
 海平線 (ハ)
 フォーザ (1908)
 ブラザー (ハ)
 病める子 (1910)
 二階から (ハ)
 ジョー (ハ)
 花(黄水仙) (ハ)
 柳肖像 (ハ)
 桐 (ハ)
 宮内氏像 (1909)
 風景 (ハ)
 盆の小児(男) (ハ)
 盆の小児(女) (ハ)

ニューヨーク東河畔 素描
 スケッチブック
 1回日本銅版画協会展 9-19 文房堂 [批] 東京12、朝日13(隆)、美術手帖9月(中原佑介)
 2回七人展 9-14 村松
 鳥羽克昌陶器個展 9-14 村松 [批] 工藝ニエースVol. 35-8(N)
 勝田寛一個展 9-14 村松 [批] 美術手帖9月(中原佑介)
 安宅安五郎墨彩画展 9-15 日本橋・三越
 関西水彩画連盟会員展 9-14 大阪・阪急
 名取詳之助中国麦積山写真展 9-16 銀座・富士フォトサロン
 2回フライトル展 (田代光一家・田代三善・高之・佑司、小野塚馨干、滝瀬弘) 10-13 日本橋・丸善
 高塚篤個展 10-15 三省堂
 にかわ絵グループ展 11-16 画廊サン
 10回広告八火賞作品展 11-13 電通八階
 3回日本画府展 12-24 東京都美術館 [批] 東京夕刊19(寺)

26回朔日会展 13-24 東京都美術館 [批] 産経夕刊19(日野)、東京夕刊19(寺)
 安井曾太郎水彩・デッサン展 13-8月11 鎌倉・近代美術館 [記・批] 朝日25、26、27、28、31、読売夕刊26(中原佑介)
 53回太平洋美術会展 14-23 東京都美術館 [批] 産経夕刊19(日野)、東京夕刊19(寺)
 5回光陽会展 14-23 東京都美術館 [批] 東京夕刊19(寺)
 富士原誠一能面遺作展 14-16 京都府ギヤラリ・野田好子個展 14-20 大阪・フォルム
 6回渥美芙蓉峰門日本画展 15-21 日本橋・三越
 飯田康夫個展 15-20 サトウ
 中村忠二個展 15-20 養清堂 [批] 東京18
 三保憲司硝子絵個展 15-21 新宿・ブランシエ
 6回筵上会展 15-18 日本橋・丸善
 4回現代新人展 15-20 村松 [批] 美術手帖9月(中原佑介)
 三人展(川村、窪添、信清) 15-20 村松
 山本蘭村個展 15-20 トキワ画廊 [批] 東京18

- 亜土グループ展 15-21 樺田
- 関西独立展 15-21 大阪市立美術館 [批] 美術手帖 9月 (杉本亀久雄)
- 日米交換版画展 16-21 日本橋・三越 [批] 朝日18(隆)、東京18、産経夕刊19(日野)、毎日20(瀬木慎一)
- 百年祭記念広重名作展 16-28 日本橋・三越 [批] 産経夕刊19(日野)、萌春45号(中村溪男)
- 1 回東光会々員展 16-21 日本橋・白木屋
- 7 回日本陶彫会展 16-21 日本橋・三越 [批] 萌春45号(大山広光)
- 白隠禪師遺墨展 16-21 日本橋・白木屋
- 信沢照子個展 16-30 渋谷・風月
- 寺戸恒晴、是松勝美絵画と彫刻作品展 16-31 新宿・風月
- 田中湖山陶藝展 16-24 新宿・伊勢丹
- 加藤栄三新作展 16-19 兼素洞 [批] 朝日18(隆)、毎日19(船戸洪吉)、東京18、産経夕刊19(横川)、萌春48号(中村溪男)、三彩9月(91号)(多田信一)
- 十芳会日本画展 16-21 渋谷・東横

- 北村明道大和絵展 16-21 上野・松坂屋 [批] 萌春47号
- 編原耕佐子日本画展 16-21 上野・松坂屋 [批] 朝日18(隆)、産経夕刊19(横川)、萌春47号
- 4 回さし系祭 16-21 上野・松坂屋
- 加藤陽油絵個展 16-20 サエグサ [批] 東京18
- 東邦美術院展 16-21 渋谷・東横
- 2 回紀州漆工藝展 16-21 大阪・阪急
- 新世紀会員油絵展 16-21 大阪・阪急
- 常夏会日本画展(岩田正巳、高山辰雄、服部有恒、山口蓬春、橋本明治、山本丘人、錦木清方、杉山寧) 17-21 日本橋・高島屋 [批] 三彩9月(91号)
- 沢田哲郎、織田広喜二人展 17-23 画廊ひろし
- 1 回五頭会油絵展 17-22 三省堂
- 舞台を使用する具体美術 17 産経ホール [記・批] 産経18、読光19(中原佑介)、産経夕刊19、産経24(武智鉄二)
- 寺田竹雄アメリカ、メキシコスケッチ展 17-23 日興証券
- 二階サロン

- 現代美術十年の傑作展 17-25 渋谷・東横 [記・批] 毎日17、18、19、20、21、24、25、朝日20 隆、毎日23 嘉門安雄、毎日23 岡田譲、アトリエ9月(ZO. 宗左近、萌春48号中村溪男、美術手帖9月船戸洪吉)
- 出品目録
- 日本画
- 秋野 不矩 少年群像
- 3 回創造美術展(昭和26年)
- 朝倉 撰 働く人
- 16 回新作展(昭和27年)
- 伊東 深水 鏡
- 3 回日展(昭和22年)
- 岩橋 英遠 庭石(四題の内月)
- 38 回院展(昭和28年)
- 上村 松篁 池
- 18 回新作展(昭和29年)
- 太田 聰雨 青
- 38 回院展(昭和28年)
- 奥村 土牛 踊り子
- 41 回院展(昭和31年)
- 小倉 遊亀 裸婦
- 39 回院展(昭和29年)
- 小野 竹喬 夕空
- 9 回日展(昭和28年)
- 堅山 南風 O 氏 像
- 39 回院展(昭和29年)
- 加藤 栄三 草
- 7 回日展(昭和26年)
- 金島 桂華 冬
- 9 回日展(昭和28年)

- 鍋木 清方 春雪
- 1 回日展(昭和21年)
- 加山 又造 駝ける
- 19 回新作展(昭和30年)
- 川合 玉堂 若竹
- 兼素洞素洞松竹梅展(昭和30年)
- 川端 龍子 鰻祭
- 21 回青龍社展(昭和24年)
- 小林 古径 壺
- 35 回院展(昭和25年)
- 杉山 寧 孔雀
- 12 回日展(昭和31年)
- 高山 辰雄 沼
- 12 回日展(昭和31年)
- 田中以知庵 甲州路
- 7 回日展(昭和26年)
- 堂本 印象 トレドの丘の家
- 1 回現代日本美術展(昭和29年)
- 徳岡 神泉 池
- 8 回日展(昭和27年)
- 中村 岳陵 狭霧霽れゆく
- 11 回日展(昭和30年)
- 中村 貞以 遙
- 40 回院展(昭和30年)
- 西山 翠峰 黒豹
- 10 回日展(昭和29年)
- 西山 英雄 桜島
- 11 回日展(昭和30年)
- 橋本 明治 まり千代像
- 10 回日展(昭和29年)
- 裨田 一穂 かんむりづる
- 3 回国際美術展(昭和30年)

- 東山 魁夷 光昏
- 11 回日展(昭和30年)
- 広田 多津 大原女
- 19 回新作展(昭和30年)
- 福田豊四郎 滝
- 19 回新作展(昭和30年)
- 福田平八郎 新雪
- 4 回日展(昭和23年)
- 堀 文子 高原
- 17 回新作展(昭和28年)
- 前田 青邨 出を待つ
- 40 回院展(昭和30年)
- 丸木 位里 牛
- 3 回国際美術展(昭和30年)
- 丸木 寸ま 池の友達
- 水越 松南 虎穴 凶全米展
- 望月 春江 黄牡丹・黒牡丹
- 12 回日展(昭和31年)
- 安田 靱彦 伏見の茶亭
- 41 回院展(昭和31年)
- 山口 華楊 仔馬
- 11 回日展(昭和30年)
- 山口 蓬春 まりも
- 8 回彩交会展(昭和30年)
- 山本 丘人 北濤
- 19 回新作展(昭和30年)
- 横山 大観 風簾々分易水寒
- 40 回院展(昭和30年)
- 横山 操 川
- 1 回個展(昭和31年)
- 吉岡 堅二 湿原
- 2 回創造美術展(昭和25年)

洋画・版画

麻生 三郎 母と子

1回美術団体連合展(昭和22年)

畦地梅太郎 山にさけぶ

30回国画会展(昭和31年)

阿部 展也 変身

昭和29年個展

荒井 龍男 ムーンライトソナタ

(昭和29年)

有岡 一郎 アンサムブル

5回立軌会展(昭和28年)

糸園和三郎 叫ぶ子

2回国際美術展

井上 三綱 馬を御す

30回国画会展(昭和31年)

井上長三郎 叫び

18回自由美術展(昭和29年)

猪熊弦一郎 K氏の像

(昭和24年)

牛島 憲之 水門

(昭和26年)

内田 巖 ラ・ベ(婦人像)

(昭和27年)

梅原龍三郎 富士山凶

海老原喜之助 靴屋

3回国際美術展(昭和30年)

江見 絹子 生誕

シエル賞美術展(昭和31年)

岡 鹿之助 遊蝶花

5回美術団体連合展(昭和26年)

岡本 太郎 森の掟

35回二科展(昭和25年)

荻須 高德 モンマルトルの絵具屋

小野 末街

小野 忠弘 タキスの天

20回自由美術展(昭和31年)

恩地孝四郎 (抒情No.36) 傷心と忿満

2回国際美術展(昭和28年)

香月 泰男 かに

2回型生派展(昭和27年)

川口 軌屋 港の朝

28回国画会展(昭和29年)

河原 温 黒人兵

今日の新人展(昭和31年)

川端 実 ガラス工場

1回日本国際美術展(昭和27年)

北岡 文雄 滞船

29回春陽会展(昭和27年)

北川 民次 メキシコ市場の隅

41回二科展(昭和31年)

木下 義謙 馬籠峠

9回一水会展(昭和22年)

木下 孝則 M君像

18回一水会展(昭和31年)

小糸源太郎 春雪

2回国際美術展(昭和28年)

児島善三郎 アルプスへの道

19回独立展(昭和26年)

小林 和作 行く春

19回独立展(昭和26年)

駒井 哲郎 東の間の幻影

小牧源太郎 道祖神図

小山 敬三 姫路城

12回日展(昭和31年)

小山田二郎 いやなやつ

自由美術展

斎藤 清 凝視(花)

坂本繁二郎 水より上る馬

2回国際美術展(昭和28年)

桜井 浜江 樹

24回独立展(昭和31年)

佐藤 敬 赤いノートルダム

佐野繁次郎 海の生物

8回二紀会展(昭和29年)

佐伯 米子 高原の花

二紀会展

品川 工 円舞(終曲のない踊り)

現代版画五人展

鈴木信太郎 長崎の家

34回二科展(昭和24年)

須田 国太郎 窪八幡

23回独立展(昭和30年)

須田 剋太 作品No.17

型生派展(昭和29年)

高田 誠 山の貯水池

2回日展(昭和21年)

高島達四郎 暮色

5回美術団体連合展(昭和26年)

鷹山 宇一 山脈

38回二科展(昭和28年)

田崎 広助 外輪山の阿蘇

13回一水会展(昭和26年)

田中阿喜良 ぶだ

11回行動美術展(昭和31年)

田中 岑 丘

シエル賞美術展

田中 忠雄 キリストの怒り

9回行動美術展(昭和29年)

田辺三重松 函館港風景

11回行動美術展(昭和31年)

島海 青児 川沿ひの家

22回独立展(昭和29年)

津高 和一 水河

個展(昭和31年)

鶴岡 政男 落下する人体

1回現代日本美術展(昭和29年)

東郷 青児 母と子

38回二科展(昭和28年)

中川 一政 福浦(突堤)

個展(昭和31年)

中谷 泰 炭坑

33回春陽会(昭和31年)

中西 利雄 曇り日の離宮と駅

11回新制作展(昭和22年)

中村 琢二 扇をもつ女

15回一水会展(昭和28年)

中山 巍 マチス礼讚

5回美術団体連合展(昭和26年)

鍋井 克之 朝の勝浦港

3回二紀会展(昭和24年)

難波田龍起 天体の運行

20回自由美術展(昭和31年)

野口弥太郎 雲仙

20回独立展(昭和27年)

野間 仁根 海の花苑

37回二科展(昭和27年)

谿 三彩亭 ムッシュ、ボナツテイ

1回美術団体連合展(昭和22年)

長谷川 潔 窓辺の卓子

(昭和29年作)

浜口 陽三 ジブシー

1回現代日本美術展(昭和29年)

浜田 知明 初年兵哀歌

2回個展(昭和29年)

林 武 梳るる女

3回美術団体連合展(昭和24年)

原 勝郎 森

新樹会展

福沢 一郎 笛吹く男

個展(昭和31年)

藤井令太郎 ひとつの椅子

32回春陽会展(昭和30年)

藤田 嗣治 人物

松本 竣介 建物

2回美術団体連合展(昭和23年)

三岸 節子 静物(金魚)

14回新制作展(昭和25年)

三雲祥之助 パリスの審判

33回春陽会展(昭和31年)

宮本 三郎 箱根

10回二紀会展(昭和28年)

野口弥太郎 雲仙

20回独立展(昭和27年)

野間 仁根 海の花苑

37回二科展(昭和27年)

谿 三彩亭 ムッシュ、ボナツテイ

1回美術団体連合展(昭和22年)

長谷川 潔 窓辺の卓子

(昭和29年作)

浜口 陽三 ジブシー

1回現代日本美術展(昭和29年)

浜田 知明 初年兵哀歌

2回個展(昭和29年)

林 武 梳るる女

3回美術団体連合展(昭和24年)

原 勝郎 森

新樹会展

福沢 一郎 笛吹く男

個展(昭和31年)

藤井令太郎 ひとつの椅子

32回春陽会展(昭和30年)

藤田 嗣治 人物

松本 竣介 建物

2回美術団体連合展(昭和23年)

三岸 節子 静物(金魚)

14回新制作展(昭和25年)

三雲祥之助 パリスの審判

33回春陽会展(昭和31年)

宮本 三郎 箱根

10回二紀会展(昭和28年)

野口弥太郎 雲仙

20回独立展(昭和27年)

野間 仁根 海の花苑

37回二科展(昭和27年)

谿 三彩亭 ムッシュ、ボナツテイ

1回美術団体連合展(昭和22年)

長谷川 潔 窓辺の卓子

(昭和29年作)

浜口 陽三 ジブシー

1回現代日本美術展(昭和29年)

浜田 知明 初年兵哀歌

2回個展(昭和29年)

林 武 梳るる女

3回美術団体連合展(昭和24年)

原 勝郎 森

新樹会展

福沢 一郎 笛吹く男

個展(昭和31年)

藤井令太郎 ひとつの椅子

32回春陽会展(昭和30年)

藤田 嗣治 人物

松本 竣介 建物

2回美術団体連合展(昭和23年)

三岸 節子 静物(金魚)

14回新制作展(昭和25年)

三雲祥之助 パリスの審判

33回春陽会展(昭和31年)

宮本 三郎 箱根

10回二紀会展(昭和28年)

- 棟方 志功 歡喜の櫛
- 2 回国際美術展(昭和28年)
- 村井 正誠 白の上に
- 3 回国際美術展(昭和30年)
- 森 芳雄 うずくまる女
- 13 回自由美術展(昭和28年)
- 森田 元子 婦人像
- 2 回国際美術展(昭和28年)
- 安井曾太郎 桃
- 1 回現代日本美術展(昭和29年)
- 山口 薫 花子誕生
- サロン・ド・メイ展
- 山口 長男 作品(かたち)
- 1 回現代日本美術展(昭和29年)
- 吉原 治良 作品
- 38 回二科展(昭和28年)
- 脇田 和水槽の鳥
- 19 回新制作展(昭和30年)
- 〔彫刻〕
- 朝倉 響子 女の首
- 9 回日展(昭和28年)
- 雨宮 治郎 健人
- 12 回日展(昭和31年)
- 石井 鶴三 風
- 植木 茂 トルソー
- 2 回現代日本美術展(昭和31年)
- 加藤 顕清 人
- 7 回日展(昭和26年)
- 菊池 一雄 青年像
- 12 回新制作展(昭和22年)
- 木内 克 テラコッタ座像

- 5 回新樹会展(昭和26年)
- 木村賢太郎 ポーズ
- 今日の新人展(昭和31年)
- 昆野 恒 生長の形態
- 18 回自由美術展(昭和29年)
- 佐藤 忠良 はだか
- 1 回現代日本美術展(昭和29年)
- 沢田 政広 五木之精
- 7 回日展(昭和26年)
- 清水多嘉示 裸婦(すこやか)
- 8 回日展(昭和27年)
- 新海 竹蔵 少年
- 1 回現代日本美術展(昭和29年)
- 建畠 覚造 貌
- 10 回行動美術展(昭和30年)
- 橋本 朝秀 華嚴
- 10 回日展(昭和29年)
- 本郷 新 きけわたつみの声
- 14 回新制作展(昭和25年)
- 向井 良吉 アフリカの木
- 今日の新人展(昭和31年)
- 毛利武士郎 作品
- 四十六人展
- 柳原 義達 犬の唄
- 13 回新制作展(昭和24年)
- 山本 豊市 エチエード
- 7 回新樹会展(昭和28年)
- 横江 嘉純 大悲に歩む
- 6 回日展(昭和25年)
- 吉田 三郎 ひだまり
- 7 回日展(昭和26年)
- 〔工藝〕

- 荒川 豊蔵 志野茶碗
- 1 回伝統工藝展(昭和29年)
- 生野祥雲斎 竹花器「怒濤」
- 12 回日展(昭和31年)
- 石黒 宗磨 失透釉壺
- 3 回伝統工藝展(昭和31年)
- 磯井 如真 鋳鑄八角盛器
- 2 回伝統工藝展(昭和30年)
- 板谷 波山 彩磁桔梗文水指
- 朝日陶藝展
- 岩田 藤七 長頸瓶
- 個展
- 宇野 三吾 碧釉壺
- 3 回伝統工藝展(昭和31年)
- 各務 敏三 クリスタル花器
- 10 回日展(昭和29年)
- 加藤土師萌 金襴手角皿(色変七種)
- 楠部 弥式 素紋花瓶
- 朝日陶藝展
- 熊倉 順吉 傷心(陶器オブジェ)
- モダンアート展(昭和32年)
- 黒田 辰秋 飾棚
- 3 回伝統工藝展(昭和31年)
- 佐治 正 八角塗鉢
- 創作工藝展
- 佐藤潤四郎 灰皿
- 創作工藝展
- 佐野 猛夫 蒨縷屏風
- 12 回日展(昭和31年)
- 芹沢 銈介 春夏秋冬型絵染屏風

- 国画会展(昭和30年)
- 高村 豊周 青銅花入
- 10 回日展(昭和29年)
- 富本 憲吉 色絵八角蓋物(赤地金銀彩)
- 作陶35周年記念展(昭和31年)
- 内藤 春治 青銅鳥
- 12 回日展(昭和31年)
- 内藤 四郎 照明のある花挿
- 六窓会展(昭和28年)
- 西 大由 青銅壺(鍍銅花瓶)
- 11 回日展(昭和30年)
- 浜田 庄司 鉛釉十字文盛鉢
- 3 回伝統工藝展(昭和31年)
- 松田 権六 詩絵卓
- 3 回伝統工藝展(昭和31年)
- 森口 華弘 友禅薫
- 3 回伝統工藝展(昭和31年)
- 山脇 洋二 花瓶(ぐりぐり文)
- 3 回日展(昭和22年)
- 芳武 茂介 鉄灰皿(二枚)
- 創作工藝展
- 吉田 丈夫 花瓶
- 9 回日展(昭和28年)
- 〔書〕
- 川村 躰山 辭古堂劍掃語
- 6 回日展(昭和25年)
- 鈴木 翠軒 禅牀夢美人
- 12 回日展(昭和31年)
- 辻本 史邑 白詩七律
- 8 回日展(昭和31年)
- 西川 寧 隸書七言聯
- 10 回日展(昭和29年)

- 松本 芳翠 雄飛
- 10 回日展(昭和29年)
- 19 回現代版画展 18—24 渡辺 木版画店
- アートクラブ・グループ展 18
- 24 なびす〔批〕美術手帖9月(中原佑介)
- 長谷川善四郎個展 18—22 美松画廊
- 未知会展 18—21 光風会館
- 田辺稔海洋油絵展 19—23 日動画廊
- 1 回ドンブー個展 19—23 日比谷画廊
- 5 回龍土会展 19—24 銀座・松屋〔批〕萌春47号
- 2 回スポーツ芸術展 19—31 銀座・松屋
- 四人の作家展(平福百穂、小林徳三郎、三岸好太郎、武井直也) 19—8月25 国立近代美術館〔批〕東京22岡本謙次郎、産経夕刊26日野、朝日29日、読売夕刊26中原佑介、毎日22船戸洪吉
- 五龍展(荒谷直之介、池田治三郎、上田康照、春日部たすく、小堀進、古川弘) 20—25 銀座・松坂屋
- 北形喜吉、北山泰斗二人展 21
- 26 村松
- オム・ヌーヴォー展 21—26 村松

岩崎巴人個展 21-25 大阪・梅田画廊 [批] 美術手帖9月(杉本亀久雄)
 平和美術展 22-30 東京都美術館
 バトリシア・ヴィ・カスパー版画展 22-27 養清堂
 2 回杉村美文個展 22-30 サトウ
 清川泰次個展 22-27 トキワ画廊 [批] 東京夕刊25、美術手帖10月(江川和彦)
 真鍋博フォト・カラージュ個展 22-28 櫛画廊
 岡村吉右衛門染絵個展 22-27 丸ビル・中央公論社画廊
 鬼原素俊スケッチ展 23-28 日本橋・白木屋 [批] 東京夕刊25、萌春47号
 阿部六陽日本画展 23-28 日本橋・高島屋 [批] 萌春47号
 田岡春彦南画展 23-28 日本橋・三越 [批] 萌春47号
 前衛美術15人展 23-28 岡山・天満屋
 米良道博個展 23-27 大阪・フジカワ [批] 美術手帖9月(杉本亀久雄)
 沼田一郎ガラス絵個展 23-28 日本橋・三越
 ろくに会洋画展 23-28 渋谷・東横
 竹杖会展 23-28 京都・大丸

伊東深水デッサン展 23-28 大阪・阪急
 岡崎立成日本画小品展 23-28 大阪・阪急
 青嵐会展 23-26 画廊サン
 DAC染織展(広川青五ほか) 23-27 美松画廊 [批] 工藝ニュース Vol.25-8(N)
 2 回相生展 23-28 上野・松坂屋 [批] 工藝ニュース Vol.25-8(N)
 1 回岡本唐貴作品展 24-27 日本橋・丸善 [批] 産経夕刊26(日野)
 グループ「壁」展 24-29 三省堂
 職場美術展 25-8月6 東京都美術館
 渡辺恂三個展 25-31 なびす一行会展(新興美術院女流作家) 25-31 新宿・伊勢丹 [批] 萌春48号
 清水正策個展 25-31 鈴屋ギヤラリー
 一九五七年平和美術展 25-31 大阪市立美術館 [批] 美術手帖10月(杉本亀久雄)
 3 回川西英近作版画展 26-31 東京・大丸
 備前焼名工作品展 26-31 銀座・松屋
 二紀会女流六人展 26-31 銀座・松坂屋

緋青会日本画展 26-30 東洋美術館画廊 [批] 萌春47号
 2 回藤江幾太郎山の絵展 26-27 銀座・東電サービステンター
 三宅瑞穂滞欧作品展 27-8月 2 画廊・サン [批] 産経8月1(日野)
 加藤武利個展 27-8月1 村松
 1 回碎三人展 27-8月1 村松
 池辺一郎風景素描淡彩展 27-31 画廊ひろし
 首代俊夫個展 27-30 日比谷画廊
 7 回四階美術展 28-8月1 京都府ギャラリー
 前沢賢治、戸田信孝、デザイン展 28-8月3 日本橋・丸善
 かかし座のかけ絵作品展 28-8月1 美松画廊
 ベティ・ガイ作品展 29-8月 3 養清堂
 羽阪清、島駿一郎二人展 29-8月3 大阪・白鳳画廊
 浅野弥術個展 29-8月3 トキワ画廊
 佐藤努個展 29-8月3 丸ビル・中央公論社画廊
 5 回松雲会水墨展 30-8月4 日本橋・白木屋
 樋口五葉遺憶展 30-8月4

渋谷・東横 [批] 東京夕刊8月1
 時代民藝品卸売会 30-8月4 日本橋・高島屋
 8 回茜会展 30-8月3 壺中居 [批] 東京夕刊8月1(久富真)、萌春47号
 岸田麗子個展 30-8月4 上野・松坂屋
 初瀬川作品展 30-8月4 日本橋・高島屋
 大田健一油絵展 30-8月4 大阪・阪急
 相羽一男、越野茂二人展 31-8月5 三省堂
 小野忠重版画展 31-8月4 日本橋・三越 [批] みづゑ9月(20)(瀬木慎一)
 4 回日本水墨派展 31-8月4 日本橋・三越
 7 回世界商業デザイン展 31-8月4 日本橋・三越
 [批]
 東京タイムズ8月1 勝見 勝
 朝日8月3 隆
 東京夕刊8月3 美術点想
 読売夕刊8月5 勝見 勝
 工藝ニュース Vol.25-8 塚田 敢
 Vol.25-9
 11 回新樹会展 31-8月4 日本橋・三越 [批]

産経夕刊8月2 日野
 東京夕刊8月2 岡本謙次郎
 朝日8月3 隆
 毎日8月3 嘉門 安雄
 三彩9月(91号) 中原 佑介
 みづゑ9月(76号) 瀬木 慎一
 アトリエ9月(No.23) 宗 左近
 美術手帖10月 江川 和彦
 出品目録
 彫刻
 座 像1 仁田原英二
 作 品1 大滝直平
 曲 スラ 藝 渡辺利植
 レスラ 女 古鳥 実
 エチュード 女 土方久功
 エスキース二人 人 A
 裸 B
 シ A
 シ B
 シ A
 シ B
 首 B
 トルソ
 立っている浴女(エチュード) 山本豊市
 浴女(エチュード) シ
 布をもつた女 シ
 エチュード シ
 女 木内 克
 座 像 シ

小	品	木内 克
関一氏記念像原	清水多嘉示	
型		
伸びゆく	原型	
エチュード		
眠る幼児		
新開	伊藤 勉	
踊り		
夜の窓	千葉かつお	
樹		
山		
駒沢風景		
たそがれ	岡田又三郎	
山の屋		
廃		
イエズス死刑の	A・カルペン	
宣告を受け給う	ティール	
十字架降下		
姦淫の女		
植物の乾杯	門倉芳枝	
消化の音律		
友の像		
田園風な表情		
木		
漁村	武田邦雄	
女		
深海魚		
馬と童子	永瀬義郎	
裸女四重奏		
海	長坂やす子	
曼珠沙華		

白	花	ビショップ
水	蓮	英郎
新緑の雨		
タウ	山本道子	
Archaic Figure Serigraph		
東	影	山本蘭村
南	鳥	
埴	輪	
「まんだら」連作	木宮龍太郎	
1愛		
2哀		
3裸婦		
薄	日	井手宣通
踊	子	
漁	港	
雨季の伊豆		
裏	道	勝郎
裏	山	
静	物	
森	C	
風	景	
クロロバの実・	浜口陽三	
あざみ		
籠	の	大河内信敬
薔薇(黒のバツク)		
薔薇(青のバツク)		
静	物	
西瓜		
真鶴の月明	大久保 泰	

春の真鶴	大久保 泰
春の花	
舞踊家	
真鶴の夕月	
島村三七雄君	
中山巍の肖像	
真鶴	
石黒夫人	
ば	朝井閑右衛門
丘の家	
人形の静物	
キューピッド	
ガラス鉢と人形	
肘つく女	政善
裸婦	
少	
作	
品A	三岸黄太
品B	
品C	
品D	
春	
港	島村三七雄

八月

実験工房のメンバーによるサ
マー・エクスピション(モビ
ルー北代省三、ヴァトリ
ー)

ヌー山口勝弘、レリーフー福
島秀子、エッチングー駒井哲
郎、写真ー大辻清司) 第一
次1-15、第二次16-31 新
宿・風月

利根山光人個展(油絵、リトグ
ラフ) 1-10 サトウ
[批]

朝日8 隆
東京夕刊9 寺
三彩9月(91号) 徳大寺公英
美術手帖10月 江川 和彦
みつゑ9月 瀬木 慎一
(No. 626)

アトリエ9月 宗 左近
(No. 367)

畦地梅太郎版画展 1-7 画
廊ひろし [批] 東京夕刊3
野村義義作品展 1-31 しや
るむ

信沢照子個展 1-15 下北沢・
風月

矢野茫土日本画個展 1-4
京都・土橋画廊

一線美術小品展 2-7 銀座・
松坂屋

1回明窓会展 2-6 美松画
廊 [批] 萌春48号

グループ次元展 2-7 村松
[批] アトリエ9月(No. 367)
(宗左近)

3回点々会展 2-7 銀座・
松屋 [批] 東京夕刊3

仁戸田英吉水彩画展 2-7

一一六

東京・大丸 [批] 産経3(日
野)

石川重信個展 3-7 画廊サ
ン

斎藤愛子個展 5-10 養清堂
[批]

朝日8 隆
東京夕刊9 寺
三彩9月(91号) 瀬木 慎一
アトリエ9月 宗 左近
(No. 367)

美術手帖10月 江川 和彦
岡本公夫個展 5-10 丸ビル・
中央公論社画廊

長谷川彰一水彩展 5-11 櫟
画廊 [批] 美術手帖10月(江
川和彦)

小山田二郎、チカエ小品展 5
-10 トキワ画廊
[批]

朝日8 隆
東京夕刊9 寺
三彩9月(91号)
みつゑ9月 瀬木 慎一
(No. 626)

アトリエ9月 宗 左近
(No. 367)

美術手帖10月 江川 和彦
生野敬明個展 5-8 日本橋・
丸善 [批] 朝日8(隆)、アト
リエ9月(No. 367)(宗左近)、
美術手帖10月(江川和彦)

丹波百盤展 5-11 大阪・阪
急

小島直次郎染繪展 5—11

大阪・阪急

5 回示現会々員展 6—11 日

本橋・三越

16 回双台展 6—11 日本橋・

三越

2 回 J・A・N インターナシヨ

ナル現代フランスクリテック

賞絵画展 6—15 日本橋・

白木屋

〔批・記〕

読売夕刊 9 中原 佑介

産経夕刊 9 日野 慎一

朝日 10 瀬木 慎一

東京夕刊 10 今泉 篤男

東京タイムズ 13 渡辺 鴻

毎日 14 船戸 洪吉

萌春 47 号 岡本謙次郎

みづゑ 8 月 (No. 625)

9 月 (No. 626) 座談—

中原佑介、徳大寺公英、田

中岑、難波田龍起

アトリエ 9 月 宗 左近

(No. 361)

三彩 9 月 (91 号) 柳 亮

美術手帖 9 月 江川 和彦

10 月 和彦

鱈利彦油絵展 6—11 日本

橋・高島屋〔批〕東京夕刊 9

(寺)、アトリエ 9 月 (No. 361)

(宗左近)

大井基水墨画発表展 6—11

渋谷・東横

精神薄弱児作品展 6—11 渋谷

谷・東横

新日本版画会展 6—11 上野・

松坂屋

武者小路実篤個展 6—10 弥

生画廊

現代版画展 6—11 日本橋・

三越

10 回 VIVAN 展 7—11 美

松画廊〔批〕美術手帖 10 月

(江川和彦)

1 回日本孔版画会展 7—12

三省堂

福田眉山個展 7—12 大阪・

高島屋

小川マリ子、野田好子、織田リ

ラ、弓庄由美四人展 8—14

画廊ひろし

5 回実証展 8—13 村松〔批〕

三彩 9 月 (91 号) (瀬木慎一)、

美術手帖 10 月 (江川和彦)

荻野康児個展 8—13 名古屋・

丸栄

3 回生閉社展 8—15 新宿・

伊勢丹〔批〕萌春 48 号

上地珠一郎山岳個展 9—14

銀座・松屋

新興美術院秋季展 9—14 銀

座・松屋〔批〕萌春 48 号

5 回創造美術名士肖像展 9—

14 銀座・松屋

25 回日本バステル画会展 9—

14 銀座・松坂屋

悠心会日本画展 9—14 東京・

大丸〔批〕萌春 48 号

宮原明良近作日本画展 9—13

日本橋・丸善〔批〕萌春 48 号

新牧品特別展 9—9 月 8 東

京国立博物館

勝田寛一個展 11—17 大阪・

白鳳画廊〔批〕美術手帖 10

月 (杉本亀久雄)

広本モリ才版画展 12—17 養

清堂

郭仁植水彩画個展 12—18 襟

画廊〔批〕美術手帖 10 月

(江川和彦)

2 回三軌会水彩研究グループ展

12—16 美松画廊

グラフィック・アート夏季展

第一週 12—17、第二週 19

—24、第三週 26—31〔批〕

東京夕刊 15 (中原佑介)、美術

手帖 10 月 (江川和彦)

松浦清油絵展 12—18 大阪・

阪急

3 回笹島喜平版画展 13—18

日本橋・高島屋〔批〕産経

夕刊 16 (日野)

三軌会水彩七人展 13—18 日

本橋・白木屋〔批〕産経夕

刊 16 (日野)、美術手帖 10 月 (江

川和彦)

17 回カトリック美術展 13—18

日本橋・三越

染織、陶磁、洋装創作展 13—

18 渋谷・東横

11 回紅土会展 13—18 日本橋・

三越

新作小品展 (石川寅治、林武、

高間惣七等一二名) 13—17

八重洲画廊

恒友、鉄斎、芋鏡、劉生四人小

品展 13—18 上野・松坂屋

中古額装絵画コレクション即売

会 (安井曾太郎、岸田劉生、

万鉄五郎、小出楢重、藤田嗣

治、長谷川利行、狩野芳涯、

橋本雅邦、下村観山、土田麦

遷、村上華岳、森田恒友外七

〇名) 13—18 上野・松坂屋

山下幸男個展 14—19 三省堂

石上泰三三宅島美術展 14—20

なびす

桂寛、米沢久陶二人展 14—19

村松

高森茂夫個展 14—19 村松

〔批〕三彩 9 月 (91 号) (瀬木慎

一)、美術手帖 10 月 (江川和彦)

大江孝、根城良雄、伴勝雄三人

展 15—31 新宿・ヴェルテ

ル

島田澄也作品展 17—21 美松

画廊

グループ・ポイントデザイン展 18

—24 樺画廊

大木卓スケッチ展 18 産

経画廊〔批〕産経夕刊 16 (日

野)

20 回現代版画展 19—24 渡辺

木版画店

水波博個展 19—24 養清堂

若尾亘渡政記念個展 19—21

銀座・松屋

熊本美術家集団展 19—24 ク

レパス画廊

2 回深沢春郎個展 19—24 ト

キワ画廊

武林敬吉個展 19—22 日本橋・

丸善

S・A・R・A 小品展 (神戸文子、

吉江麗子ほか) 19—25 新

宿・プランシエ

3 回新美術協会会員展 20—25

渋谷・東横〔批〕萌春 51 号

7 回 (一九五七年) 日本宣伝美術

会展 19—25 日本橋・高島

屋

〔批〕

朝日 22

読売 23

東京夕刊 24 中原 佑介

毎日 24 小池岩太郎

三彩 9 月 (91 号) 船戸 洪吉

美術手帖 10 月 船戸 洪吉

Y・O・I 25 8 浜村 順

Y・O・I 25 9 塚田 敢

〔受賞〕

日宣美会賞—和田誠

特選—神原健、杉浦康平、田

名網敬一、平山英三、山藤

章三

- 奨励賞—飯島啓二、池辺沈、加藤晴一郎、日下弘、倉島真理、杉田豊、野本喜三郎、村瀬秀明
- 五七年度会員賞—大橋正新
- 新エコール・ド・パリ展 20—9月8日 プリヂストン
- 〔批・記〕
- 朝日26 隆
- 東京夕刊22 岡本謙次郎
- 毎日29 瀬木 慎一
- 産経夕刊23 日野
- 読売夕刊9月2 ミッシェル・ラゴン(瀬木 慎一訳)
- 萌春47号 岡本謙次郎
- 三彩10月(92号) 針生 一郎
- 美術手帖10月 ミッシェル・ラゴン(小林善彦訳)
- みづゑ10月 瀬木 慎一
- (No. 65)
- 錦戸新視作仏像展 20—25日 日本橋・高島屋
- 石井林響遺作展 20—25日 日本橋・白木屋〔批〕 産経夕刊23(横川)
- 11回南画院展 20—9月1日 日本橋・白木屋〔批〕 萌春48号
- 野村博個展 20—25日 村松
- 〔批〕 産経夕刊23(日野)
- 2回氏家秀之進水彩個展 20—25日 上野・松坂屋
- 10周年記念スバル展 20—25トキワ画廊
- グループ黒色東京展 20—25日 村松〔批〕 美術手帖10月(江川和彦)
- 長井雲坪名作展 20—25日 日本橋三越〔記・批〕 産経7月23(柳亮)、産経夕刊23(横川)
- 飛彈春慶茶道具の会 20—25日 日本橋・三越
- 日本の名畫展 20—25日 大阪・阪急
- 岡田正敏近代個展 21—28日 恩田秋夫、沢田俊一二人展 21—26日 三省堂
- 松田ハルミ、稲田敏行二人展 22—26日 美松画廊〔批〕 美術手帖10月(江川和彦)
- 6回日本宣伝クラブ繪画部会写真部会展 23—28日 日本橋・丸善
- 墨洋会二人展 23—27日 画廊ひろし
- 3回昆野清一油絵展 23—25日 八戸市・三万
- 時代仏像仏画展 23—28日 銀座・松坂屋
- 5回島田洗耳日本画展 23—28日 銀座・松屋〔批〕 産経26(日野)、萌春48号
- 連兆会染色展 23—28日 銀座・松坂屋
- 太平洋美術会染色会員展 23—28日 東京・大丸
- 森泰木版画展 25—31日 大阪・白鳳画廊〔批〕 美術手帖11月(杉本龜久雄)
- 小橋康秀版画展 26—31日 養清堂
- 村上巖個展 26—9月1日 新宿・プランシエ
- 3回中川タマオ個展 26—31日 村松
- 小溝一夫、福沢忠夫二人展 26—31日 村松
- 江口週、関敏、湯原和夫彫刻三人展 26—31日 トキワ画廊
- 仏教美術彫刻展 27—9月1日 日本橋・三越
- 11回南画展 27—9月1日 日本橋・白木屋
- 2回漫画集団展 27—9月1日 上野・松坂屋
- 7回LETTIA展 27—9月1日 美松画廊
- 天井陸三油絵個展 27—9月1日 上野・松坂屋
- 野中修平個展 27—31日 文房堂
- 別染平結城の会 27—9月8日 日本橋・三越
- 本多豊子木彫工藝展 27—9月1日 大阪・阪急
- 3回一陽会展 27—9月8日 日本橋・高島屋
- 〔批・記〕
- 読売夕刊29 中原 佑介
- 東京夕刊29 久富 貢

- 産経夕刊30 日野耕之祐
- 朝日9月2日 隆
- 日経9月4日 福島繁太郎
- 朝日9月5日 土方 定一
- サンデー毎日9月22日 三彩10月 岡本謙次郎(92号)
- 美術手帖 対談(岡本謙次郎、11月 中原 佑介)
- みづゑ10月 柳 亮
- (No. 66)
- 〔受賞〕
- 一陽賞—沢田正太郎(絵画)、金田忠(彫刻)
- 青麦賞—山本ひろの(絵画)
- 特待賞—萩原栄一、堀内千里、小川哲郎、山田治、上田春雄、弓削次雄(以上絵画)、郷悦三、宮川和博、山崎猛(以上彫刻)
- 会員推挙—片瀬忠男(絵画)
- 会友推挙—沢田正太郎、勝一平、飯田慶三、田辺栄次郎、小野幼郎、指田由米、村上英男、野間佳子、沢田重隆、小出泰弘(以上絵画)、水野清、綿引惇人、金田忠(以上彫刻)

- 出品目録
- 印会員
△印会友
- 絵画
- 流木の歌。長谷川三千春
 - 海水浴場
 - 産経夕刊30
 - 朝日9月2日
 - 日経9月4日
 - 朝日9月5日
 - サンデー毎日9月22日
 - 三彩10月
 - 美術手帖
 - みづゑ10月
 - (No. 66)
 - 〔受賞〕
 - 一陽賞—沢田正太郎(絵画)、金田忠(彫刻)
 - 青麦賞—山本ひろの(絵画)
 - 特待賞—萩原栄一、堀内千里、小川哲郎、山田治、上田春雄、弓削次雄(以上絵画)、郷悦三、宮川和博、山崎猛(以上彫刻)
 - 会員推挙—片瀬忠男(絵画)
 - 会友推挙—沢田正太郎、勝一平、飯田慶三、田辺栄次郎、小野幼郎、指田由米、村上英男、野間佳子、沢田重隆、小出泰弘(以上絵画)、水野清、綿引惇人、金田忠(以上彫刻)

- ながれ。長谷川三千春
- 雲の散歩
- 金髪の子。近藤長三郎
- 空を見上げる
- 聖堂
- 裸婦
- 室内裸婦。米良道博
- 鏡の前の裸女
- 座裸女
- 卓上静物
- 花瓶とレモン
- 松と海。森 由太郎
- A
- B
- いなかの会堂。棟方寅雄
- ヨブ記さしえ
- 五月の二人。松下明治
- 女
- 石膏像と壺
- 海潮。野間仁根
- 渦潮
- 魚介
- 像(A)
- シ(B)
- シ(C)
- コムポジション
- (A)
- (B)
- 旅愁。荻野康児
- 都心
- 聖堂
- 街角
- 深夜

東山手風景(長。鈴木信太郎) 嶮崎の丘 夏の木々 人の国 燈の台 屋の根 草原 海 室 静 楽器を持つ女 追想の果て。山路真護 旗とポリー 水を汲む人 森の音楽家。山谷鉄一 森の憩い 森の母子 みなとのひ。片柳忠男 黒崎 河岸△橋戸茂 箱崎 天理教新館△西山閣二 靴屋店頭風景 第一生命住宅△パト風景 紙工場にて△岡本耕介 軽金属工場 漁夫の家族△山内靖巳 観覧車 沢田正太郎 西洋風の見世物 小屋

廻転飛行 沢田正太郎 掛小 屋 沢田正太郎 かんざし 萩原楽一 海のはと 精 にはと 抗 田辺栄次郎 漸 動 困 枯れた花 山本ひろの 孔 雀 夜かける木馬 花の抒情 花による構成 陸橋 久松雅子 線路 堀内千里 家畜(W) 飯田慶三 追想 木の十字架 落書と子供 蝶々と子供 (1) ラパウルの女 鍛冶昇治 (1) ラパウルの女 鍛冶昇治 (3) ドライブウェイ 小出泰弘 の夜 小屋裏の人々 月 池 森山敬典 白い斜面 朝の森村上英雄 控室 小川哲郎 踊る男 小川哲郎

バスを待つ 岡野正平 街と少女 小野竹郎 第七号病棟(紫陽の花咲く) 手術場(裏庭よみみた) 組板の上の魚 島田徳三 魚 魚族の球技 上田春雄 マスコット 父の顔 山田治 目 樹(B) 浅井一介 静 物 新井恵美子 小さい道化と女 浅井康男 巖頭落暉 荒川彪三郎 街(C) 千種園子 騎士 江川光信 樹 藤田悟 あぢさい 後藤俊春 黄色な影 後藤泰洋 早 春 平 畑 筆 一 鳥 たち 東 義 雄 或る風景 原 健 二 作 品(3) 原 友 木 ビン(ハ) 五十嵐二郎 満 月 石 田 徹 七 夕 伊 藤 博 次 窓 今 村 春 吉 夏 山 岡 野 隆 密琴をひく人 岩 佐 清 Patin Enelgity 石川量一 作 品(C) 石井 誠 夏の夕月 市川 勉

樹と少女 岩田喜芳 鳥の戸隠山 絹笠省三 夏の戸隠山 菊地豊 灯の見える庭 橋野松恵 海の見える庭 熊田藤作 人(子供) 琉球の漁村 嘉数能愛 森の小路 笠井浩代 信濃風景 小宮富士子 姉 妹 木下誠一 作 品(A) 亀井広栄 漁 夫 国本克己 下世古風景 久保田正剛 風 景(A) 小谷野半二 組立てる 小林 丙 ア パー ト 小宮宗大郎 二 人 栗 林 丈 荷 物 小島鉄男 作 品 21 神門四郎 孤 独 な 食 卓 郡 慧 子 埋 片 岡 広 太 郎 植 林 河 合 孝 基 初 秋 の 海 木 本 重 利 風景の縮図 河 井 光 吉 花 と 庭 葛 西 康 風 景(B) 村 上 英 隆 TORA 村 上 透 森 島 八 洲 樹 森 嶋 忠 銀 扇 三 橋 英 子 花束(りんどう など) 三 橋 義 太 郎 水 道 松 本 幸 十 郎 伸 益 子 昭 雄

黄色い静物 三橋兄弟治 朝市 宮越弘三 風船 松尾平蔵 節分 村尾克己 驚駭 中村秀雄 雑草 西川高次 工場の街 永井芳松 大阪の街 中沢啓子 箱の中のピン 野中重利 村 道 中村亮一郎 窓 中 山 安 閑 庭 中 島 正 治 街 景(B) 成瀬忠昭 魚 河 岸 中 島 哲 郎 徒(D) 野 田 典 男 作 品(B) 野 間 佳 子 風 景(A) 押 野 白 鳳 作 品(三) 大 野 隆 之 鶏 と 卵 越 智 映 介 港の見える庭 大塚伊次 不安の散歩 小 川 博 工 尾瀬沼の印象 竜 一之介 坂道の家々 坂本ハクト ガラス器の静物 佐藤文雄 古風な建物(C) 柴 原 雪 樹(A) 鈴 木 一 夫 工場街 相 良 文 雄 室内裸女(E) 斎 藤 光 子 垣(B) 坂 藤 忠 雄 浜(A) 定 岡 玲 子 湘南風景 佐 藤 道 子 物売りの老婆 重 村 三 雄 横 隊 裸 婦 杉 本 和 子

風	景	酒井陸治郎	船	鈴木国威	やきもの	佐藤長信	存	指田由米	眠る	沢健太郎	刻	沢田重隆	クラリネット	田所満雄	道	田中英一	陸	田中富彦	信州の山	高梨宏子	風	高野雅彦	千魚の寐ている	高橋隆比古	冷	鶴田猛	北陸のミナト	高尾千代光	年輪の顔	田村ゆたか	民	田井一男	たそがれ(駅)	田辺勝彦	穀はやぶれない	月見里茂	歩	白田輝四郎	黄	上野富蔵	アイヌの家	植田有子	魚	内田吉郎	工場の裏	宇野富美代	黄色い家	渡辺喜久蔵	よめがさ	結城久夫	阿武隈川	山田首	飯	米倉兌	あじさい「静物」	弓削次雄	作品(珪藻石)	矢田部和子	フイーユA	山形八郎	躍動する人	山岸雅子	吉村外人	吉村外人
---	---	-------	---	------	------	------	---	------	----	------	---	------	--------	------	---	------	---	------	------	------	---	------	---------	-------	---	-----	--------	-------	------	-------	---	------	---------	------	---------	------	---	-------	---	------	-------	------	---	------	------	-------	------	-------	------	------	------	-----	---	-----	----------	------	---------	-------	-------	------	-------	------	------	------

住宅	街八重垣逸郎	雲と宿命	横井三郎	作品(B)引く	与儀達治	彫刻	浅野孟府	女1	伊本淳	女	中村暉	A女	中村暉	ポダ	中村暉	マダ	中村暉	少	中村暉	裸	中村暉	(セメント)	植木力	顔A	植木力	(テラコッタ)	植木力	裸	植木力	(テラコッタ)	植木力	顔B	植木力	(テラコッタ)	植木力	女(テラコッタ)	植木力	女(テラコッタ)	植木力	男(木)	植木力	女(木)	植木力	裸(石)	植木力	風化したサント	名塚樹也	トルソーB	名塚樹也	少	名塚樹也	テラコッタ1	福田浩子	テラコッタ2	福田浩子	仰向けの像	悦三	瘡(骨牛)	悦三	頭	悦三
----	--------	------	------	---------	------	----	------	----	-----	---	-----	----	-----	----	-----	----	-----	---	-----	---	-----	--------	-----	----	-----	---------	-----	---	-----	---------	-----	----	-----	---------	-----	----------	-----	----------	-----	------	-----	------	-----	------	-----	---------	------	-------	------	---	------	--------	------	--------	------	-------	----	-------	----	---	----

首(テラコッタ)	郷悦三	人(テラコッタ)	鳥金田忠	母と子	鳥金田忠	傷められた鳥	古林八千穂	少女の首	古林八千穂	女像	宮川和博	女座像	宮川和博	ト	宮川和博	鉄のかたつむり	宮川和博	道祖神	宮川和博	作	神山勝	屈折	山崎猛	和	山崎猛	K	山崎猛	杉崎氏	石坪憲明	女	栗原春代	姉妹	村山功	桶を荷う海女	白石正義	海女の首	白石正義	首	蓮尾一朗	胎動	石原照治	都会の女	小柴利孝	おん	水野清	作	三輪乙彦	父の首	中島英美	女	信田曜子	首	関野初代	首	綿引淳人
----------	-----	----------	------	-----	------	--------	-------	------	-------	----	------	-----	------	---	------	---------	------	-----	------	---	-----	----	-----	---	-----	---	-----	-----	------	---	------	----	-----	--------	------	------	------	---	------	----	------	------	------	----	-----	---	------	-----	------	---	------	---	------	---	------

29回青龍社展	27-9月8日	本橋・三越		(批・記)		産経夕刊30	横井毅一郎	日経30	嘉門安雄	朝日9月2	隆	東京夕刊4	岡本謙次郎	毎日9月5	瀬木慎一	サンデー毎日9月22		週刊朝日9月29	明人	前春47号8頁	船戸洪	9頁		三彩10月(92号)	河北倫明	みづゑ10月		美術手帖11月	柳亮	対談	岡本謙次郎	対談	中原佑介	対談	河北倫明	徳大寺公英		[受賞]		奨励賞一三輪昭、武市政輝、水島裕、岡信孝、横山操、富田保和		新社友一富田保和、岡信孝、山口吉旺、白杵一穂、細野光治		出品目録		御来迎川端龍子		ミスカッパ		田	毎加納三楽輝
---------	---------	-------	--	-------	--	--------	-------	------	------	-------	---	-------	-------	-------	------	------------	--	----------	----	---------	-----	----	--	------------	------	--------	--	---------	----	----	-------	----	------	----	------	-------	--	------	--	-------------------------------	--	-----------------------------	--	------	--	---------	--	-------	--	---	--------

上高地	山崎豊	雨	後市野亨	昭和新山	安西啓明	連作の十九	小島鼎子	札幌時計台	小島鼎子	雨の輪	小島鼎子	港	町時田直善	獣	性亀井玄兵衛	旅	霧塚英一	秋	琴塚英一	海	辺佐藤土筆	嶗	岳佐々木邦彦	夜映	鏡結城天童	紫	鏡結城天童	狐	鏡結城天童	岬(足摺岬)	竹内未明	青	泉渡辺不二根	老	丸山峻	堀川	水島裕	花	月入江北幸	伊勢神	峠渡会伊良子	黄	映	大	高野晴雄	牡	丹吉野新生	カ	加藤輝三	一	中川佐風路	踊	池田洛中	花	酒井白澄	塔	横山操	踏切	横山操	青	武市政輝	犬集り(奨励賞)	武市政輝
-----	-----	---	------	------	------	-------	------	-------	------	-----	------	---	-------	---	--------	---	------	---	------	---	-------	---	--------	----	-------	---	-------	---	-------	--------	------	---	--------	---	-----	----	-----	---	-------	-----	--------	---	---	---	------	---	-------	---	------	---	-------	---	------	---	------	---	-----	----	-----	---	------	----------	------

日経9月15日 山田智三郎
 朝日9月17日 隆
 読売夕刊9月20日 中原 佑介
 毎日21日 船戸 洪吉
 三彩10月(92号) 針生 一郎
 アトリエ10月 宗 左近
 (No.386)

九月

42回日本美術院展 1-20 東

京都美術館

〔批・記〕

産経3 日野耕之裕

毎日5 瀬木 慎一

朝日5 隆

シ7 嘉門 安雄

東京夕刊7、9 岡本謙次郎

サンデー毎日22

週刊朝日29 明 人

萌春47号 鈴木 進

2頁、5頁

シ6頁、7頁

三彩10月(92号) 河北 倫明

みづゑ10月 柳 亮

(No.385)

アトリエ10月 宗 左近

(No.386)

美術手帖 対談 岡本謙次郎

11月 対談 中原 佑介

シ 対談 河北 倫明

〔受賞〕 対談 徳大寺公英

絵画

○日本美術院賞、大観賞

樋笠数慶、真野満、郷倉和子、島田納郎

○日本美術院次賞、大観賞

賞—村田瑞枝、福王寺法林、今野忠一、須田洪中

○奨励賞、白寿賞—森田曠

平、吉田善彦、岡本弥寿子、西川春江、小島丹

濠、松尾冬青、野村栄

韵、大矢黄鶴、野上魏、前田暉、月岡栄貴

○院友推荐—松山春秋、尾

形有載、高野常吉、横溝

由貴、西丸静園、水谷愛

子、仙波久栄、井上陵

華、吉沢照子、大矢紀、中村潤子、伏田実、米良

曠、鈴木至夫、清原節

子、鈴木康之、成神彰

良、小坂澄佳、大野重

幸、木下朔孔、山口達、箕輪芳二

彫

○奨励賞、白寿賞—古島

実、山崎脩、小林あや、

保田春彦、仁田原英二、

四田昌二、小柳津三郎、

小林章、荒川明照、土屋

瑞穂、福家靖夫

○院友推荐—荒川明照、福

家靖夫、小林尚雄、松本

勝弥、仁田原英二、小林

あや、土屋瑞穂、清水正

博、上田弘明、山崎照

彦、塚田喜司郎、染谷英五

出品目録 ○印同人

繪画

葡萄酒の基 野村栄韵

山 村 長井亮之

レツスン 小林淳亮

田 植 頃川辺菊久

森 と 兎島田訥郎

羽 衣 真野満

鶴 樋笠数慶

夜の衣をかへし。小谷津任牛

寝る小町

夏 山。小松均

暮色の人物 小栗正

花 と 壺 相原万里子

樹 と 鷺 今野忠一

畔 横山津恵

岩 間 松尾冬青

尾上梅 幸片岡球子

残 照 番場春雄

サーカスの女 川上芳江

梅 林 梅川三省

白毫寺の家 染谷祐通

湖 風 関口正男

冬 日 池田憲二

唐 織 西川春江

雪のスタクカム 小浜龜角

支 那 服 小松澄佳

秋 の 山 金田豊

夕陽の北海 本間莞彩

交 響 鎌倉秀雄

朝 青木英夫

溪間(無鑑査) 小島一谿

プランセス。前田青都

当麻磨子山。中島多茂都

朴の木(無鑑査) 福王寺法林

群 小市美智子

夕顔映く 岡本弥寿子

念持仏(無鑑査) 須田珠中

雪 鷹 郷倉千鞆

大 輪 横山善信

大 生 堅山南風

暮 先生 酒井三良

鉄 線 雪 新井勝利

夕 映 川手青郷

河 口 小島丹濠

變 原 羽石光志

松 鯨 越春湖

彼 岸 吉沢照子

植 木 中村春泥

雨の駅 篠崎美保子

転生(無鑑査) 長谷川朝風

待 合 室 荻野美智子

松 装 弘子 後藤純男

製 垣 田中嘉三

歌 昼 郷倉和子

真 室 田中青坪

浴 隊 眞道黎明

紫 声 薫 神田英僊

家 路 高野常吉

ハーマニカ 広井稔

寧 前田 善彦

白 杉石 仏 相沢 義二

岩 惠 籠 長谷川 青澄

宝 惠 籠 中庭 煖華

夕の鶴(無鑑査) 平山 郁夫

群 像 西沢 周一

氷 壁 鈴木 三朝

遊魚(無鑑査) 仙波 久栄

舞 妓 桜庭 藤二郎

野 少女と子供 神田 三千枝

少 加藤 将郎

滝 島田 良祐

川 沿い 村田 瑞枝

八重山の踊子た 吊 岩橋 英遠

ち 昂 北沢 映月

懸 帛 富取 風堂

羅 北沢 映月

花 夜 小倉 遊龜

良 心 奥村 土牛

浄 粧 中村 貞以

粉 粧 中村 貞以

卯 月 頃 大矢 黄鶴

微 笑 中 島 清

聖 堂 米本 豊司

和 楽 月岡 栄貴

秋 晴 宮本 青架

層雲峡の秋 松井 宋鳩

漁 村 三村 石邦

大 仏 蓮 後藤 杏

教会の窓 吉川 啓治

水 門 南谷 春雄

磯 森田 曠平

夏 四田 淳三

牛 (無鑑査) 豊秋 半次

朝 笹井崖の夜宮崎茂人 吉川朝衣
 納 涼 房塩出英雄
 彫 影 松村秀太郎
 母 子 像 石川季彦
 習 作 楠木康子
 習 作 鎌田博
 女 立 像 村田徳次郎
 膝を立てた裸婦 小柳津三郎
 故武田先生像 松原松造
 勝鬘夫人幻想 大内青圃
 「雷」試作 石井鶴三
 飛び行く 田中太郎
 番さんの首
 裸婦立像 宮本重良
 伝 少女頭像 保田春彦
 少 女 頭 像 関長造
 西山道遙 平柳田中
 (試作)
 西山道遙
 娘 土井要輔
 宇受亮試作 小林あや
 三沢殿先生像 小林章
 立 像 矢崎虎夫
 アラバマに落ち 基俊太郎
 た星
 青 年 塩沢貞雄
 K 子 像 小栗武
 お 人 像 大里八郎
 杉 江 氏 像 高橋友武
 ト ル ソ 山本力吉
 若 い 人 佐原啓子

非 情 土屋瑞穂
 習 作 女 高木秀世
 有 段 の F 氏 大和作内
 裸 婦 塚田喜四郎
 ト ル ソ 土屋 穰
 中 学 生 黒崎 弘
 ヤ ミ 渡辺義 幻
 静 への 試 作 白田安二
 橋 の 試 作 福家靖夫
 女 の 首 茨木敏夫
 あ 婦 荒川明 満
 裸 ル 案 松本勝 弥
 思 案 松本勝 弥
 裸 婦 千野 茂
 空 間 を 生 け 猫 関 谷 充
 闇 の 芽 山崎 脩
 夜 の 芽 鈴木 実
 へんな服をきた 辻 晉 堂
 人物 怒りと悲しみと 桜井祐一
 双 頭 清水正 博
 無 題 山崎照 彦
 少 女 頭 部 青柳謹 衛
 習 作 武村寿 美子
 お ん な 古島 実
 ト ル ソ 四田昌 二
 S の 顔 染谷英 五
 女 の 顔 仁田原英 二
 横 た わ る 人 本田道 子
 松 籟 上田弘 明

ひ も ろ ぎ 久保寺 恭
 寮 歌 三宅多喜男
 裸 婦 古藤正 雄
 K 翁 の 首 新海竹 蔵
 女 の 顔 山本豊 市
 美 容 体 操 渡辺利 燿
 虫 操 渡辺利 燿
 裸 婦 習 作 河野耕 造
 女の立つ(習作) 山本兼 文
 42回二科展 1-19 東京都美 術館
 [批・記]
 産経3 日野耕之祐
 朝日5 土方定一
 読売夕刊5 中原佑介
 東京夕刊7、9 岡本謙次郎
 朝日12 隆
 日経12 福島繁太郎
 サンデー毎日22 明 人
 週刊朝日29 岡本謙次郎
 三彩10月(92号) 柳 亮
 みづみづ10月(92号) 柳 亮
 アトリエ10月 宗 左近
 (20%)
 美術手帖11月 宗 左近
 対談 岡本謙次郎 中原佑介
 [受賞]
 二科賞 吉田正雄(絵画) 宮下 森(漫画)
 特 待
 (絵 画)
 中川時之助、藤野一友

佐藤陸郎、福島淳志郎
 新田稻実、萩原寛子
 (彫 刻)
 小山田 寿、小鹿尚久
 牧野正次、室田五郎
 大井小夜子
 (商業美術)
 山崎達雄、中林 步
 池田正三、河村久子
 中馬師津夫、馬場利定
 出品目録
 ○印会員
 △印会友
 石伊東俊平
 計 萩原寛子
 丹那漁港A 平野信一郎
 夜の構図 吉井英二
 繋がれた庭 西村龍介
 水 辺 新田稻実
 腐 蝕 高橋満寿男
 作 品 A 青柳三郎
 作 品 B 伊東静尾
 雪 女 吉田一夫
 作 品 A 伊東静尾
 作 品 B 伊東静尾
 青春の構図 竹内 清
 建 物 II 古郷英昭
 海に息吹くもの 磯村和雄
 覆水盆に返らず 狩野 安
 野らの家族 中 照子
 集 田 信夫
 馳 ける 人 森田信夫

苞 子 宗 肇
 鏡 の 中 冬島大二郎
 昇 天 中井勝郎
 旅 人 田坂通晴
 野 の 果 て 安井芳香
 壁の中のイメー 西野秀雄
 ジ 柴田アイリ
 魚 と 海
 空からの風景 貫名 獅郎
 妖 木 吉岡正雄
 感 立松富雄
 花 コンクリート・ 伊地知正明
 ミキサー
 作 品 A (樹) 古賀耕児
 追 放 渡辺義雄
 港 渡辺義雄
 ロ 中村セツ子
 瓶 の 底 小島喆治
 おとづれ 辻 三郎
 化学工場A 杉浦正美
 盛 花 イヴォオンス・ デルボア
 サークスの印象 辻本敬三
 析 願 庵跡芳昭
 家 路 江藤彦彦
 辛 苦 宇野勝三
 雷 神 早川 昌
 反 映 吉仲太造
 サ 映 小玉光雄
 織 カス 大淵陽一
 船にのる女 織田リラ

珊瑚礁	福本春子	ひなた	小沼実	或る印象	岩波泰夫	裸	クジャク	大西金次郎
焦燥	(1) 鈴木幹夫	マンドリ	山神智子	作(4)川内悟	室田五郎	海	女	石田史一郎
公園の鳥	清水一博	パイプと作業	宮原俊彦	いきもの	佐々木馨	人	女	桑原昭夫
牛骨にわたり	磯谷精一	笑う人	斉賀敏彦	と	稲垣智勝	女	女	藤林重治
サーカスの唄	古川広治	樹	高柳種行	田	玉川勝	女	女	内田幸子
窓	加藤若栄	グラジオオラス	横溝環	琴線(水)	菅京子	偶	デ	喜代志松治
屋	米原あい子	お空は夕やけ	村上輝夫	夏	岩崎義治	躍	偶	片桐欣也
盆踊(福知山音)	近森巖雄	新	小田正明	石	池田寅蔵	作	偶	早川収
頭	林鳳子	糸取	芦田康秀	海	沢山卓爾	作	偶	早川収
作品(B)	十河巖	姉	小川弘子	手	鈴木文子	作	偶	早川収
ミス・ニッポン	谷田川卓	夜	松任谷千鶴	刺	赤羽恒男	作	偶	早川収
理と情(理)	穴見清	作	早川英照	彫	高須賀桂	作	偶	早川収
占	田中義章	機械人間	橋本太久磨	刺	村岡三郎	作	偶	早川収
竹林の馬	永丘智行	鳥と猫と少年	寺田健一郎	ママの一	番匠宇司	作	偶	早川収
農家	加藤孝一	密	大貫正	一つの記	号木村敏	作	偶	早川収
墳墓と家	柳井貞己	二人のモデル	戸田聡	福島の	小島尚久	作	偶	早川収
建	大城精徳	植物学研究	野村正三郎	女の	三宅五穂	作	偶	早川収
段	矢田道也	顔	小園井一郎	抱	おん	作	偶	早川収
作	大隈武夫	魚と少女	吉川孟	抱	おん	作	偶	早川収
暮	荻島茂樹	ジェルソミナ	上田民子	第2の標	柱渡辺宏	作	偶	早川収
流	水高田稔	愛Xササヤキ	小野和伸	裸	野口嘉光	作	偶	早川収
嵐に孔	原田筑紫	季節	飯塚八朗	裸	山本恭平	作	偶	早川収
耐	宮崎政広	遺	宮本政幸	裸	黒田勝利	作	偶	早川収
田園の形態	上田弘子	風船と子供	水野美恵	裸	黒田勝利	作	偶	早川収
人	芹川光行	綿	高根沢政子	裸	黒田勝利	作	偶	早川収
積	徳丸成生	岩	竹島俊夫	裸	黒田勝利	作	偶	早川収
水を運ぶ	森元干治	作	中島師津夫	裸	黒田勝利	作	偶	早川収
橋の構図(B)	稲元干治	作	木梨アイネ	裸	黒田勝利	作	偶	早川収
夜の汽車	黒木躍治	作	木梨アイネ	裸	黒田勝利	作	偶	早川収
生活の素顔	芳野二夫	作	木梨アイネ	裸	黒田勝利	作	偶	早川収

一点	首藤正広	藤本良信	佐藤英雄	宮下曠	蟹瀬行雄	中山千里	三東勉	渡辺正敏	寫真	漂着	新山清	山本正勝	白川義員	飯田鉄太郎	平賀真	寿平八郎	吉村伸哉	松本徳彦	重信愛三郎	大神達夫	吉田忠雄	五味賢	秋山和欧	中村由信	佐藤正治	森副二郎	中田昌孝	斎藤康一	笠松節和	高野辰夫	藤川清
----	------	------	------	-----	------	------	-----	------	----	----	-----	------	------	-------	-----	------	------	------	-------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	-----

ストリップ	岡松健次	中村春雄	阿郎保	佐野昌弘	菅原孟	山沢賢一郎	清水文夫	大塚子之吉	沢本吉則	小関四郎	池五郎	米村才一	小林芳作	福田善吉	田中克義	山口正男	石井信夫	青木君夫	多田三省	古沢和子	田中昌三	上野秀夫	藤田一夫	大道治一	中島良太郎	浅野喜市	内海薫	鈴木重助	紅美雄	白井薫	猿野六平	人対木治
-------	------	------	-----	------	-----	-------	------	-------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	-----	------	-----	-----	------	------

黒い花火	中島忠勝	須藤順一	森田英嗣	田中一郎	細江光洋	神山敬明	南谷英寿	近藤龍夫	安土孝	西岡伸太	松尾直治郎	吉田畔夕	田中真知郎	中村吉之介	杉本太朗	増田静夫	追幸一	土屋幹男	三輪亀造	佐藤たかし	沢勝己	松島永之助	武田利三	梶原友治	竹中半兵衛	木下欽一	広友正義	的場勇	重見昭雄	花田富士雄	三木疆	井上喜弘	奥元次
------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	-------	------	-------	-------	------	------	-----	------	------	-------	-----	-------	------	------	-------	------	------	-----	------	-------	-----	------	-----

路の天国	木村正樹	亀井庸之助	古徳博美	豊水寅夫	新田好	越智慎吾	渡部章正	伊藤隆夫	安藤喜多夫	立木香都子	立木真六郎	福島正仁	吉成正一	宮本松司	石坂道夫	小林広次	長崎港舟	徳永昭	相浦昭彦	大崎聡明	原田正	北原洋一	おおは比呂司	若林カズオ	藤谷典靖	シムラ光	横井蛙平	近水昭治	清水昭治	末田時夫
------	------	-------	------	------	-----	------	------	------	-------	-------	-------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	-----	------	--------	-------	------	------	------	------	------	------

妻の座	森田成男	宮下森	小泉紫朗	久里洋二	殿村進	12回行動展	1-19 東京都美術館	産経3	朝日5	読売夕刊5	東京夕刊7、9	サンデー毎日22	週刊朝日29	三彩10月(92号)	みつる10月(No.621)	アトリエ10月(No.368)	美術手帖11月	宗左近	亮	明人	岡本謙次郎	明人	日野耕之祐	土方定一	中原佑介	岡本謙次郎	野野村	殿村進	神武景気去り給	宮下森	小泉紫朗	久里洋二	殿村進
-----	------	-----	------	------	-----	--------	-------------	-----	-----	-------	---------	----------	--------	------------	----------------	-----------------	---------	-----	---	----	-------	----	-------	------	------	-------	-----	-----	---------	-----	------	------	-----

新会友 尾崎悌之助
 藤形一男
 小山内益郎
 吉川家永
 辻好子
 井原康夫
 杉山英行
 仲谷孝夫
 木村良
 芹沢晋吾
 行動新人賞 富樫実
 奨励賞 戸津侃
 新会員 松岡卓
 篠井欽治
 戸津侃
 廣重昌子
 廣重昌子
 橋本惣介
 高橋慎悟
 新会友 戸津侃
 廣重昌子
 橋本惣介
 高橋慎悟
 主要出品目録
 作 品 24 増田悟郎
 祭 祖。保地謹哉
 白の侵蝕 田中稔之
 偶 像 M△松山治樹

偶 像 B△松山治樹
 たつ 樋植太
 夢 河端亮治
 枝 男。辻親造
 女 品。里見常夫
 作 品 12 高井寛二
 赤 い 夜。高井寛二
 作 品 B△吉川家永
 生 まれる C△森口宏一
 飯 面 (A)△深見隆
 器 片。坪内節太郎
 牛 争。井奇武夫
 海 雨。西田秀雄
 真 夏の静物。福井勇
 舟 川原章二
 山 村の冬。大場厚
 イ エ ス。山中春雄
 地 鼓。員原六一
 作 品 A 12 村田實史雄
 層 田中阿喜良
 失 題。河野通紀
 痕 跡。津高和一
 ヌダの足を洗う。田中忠雄
 人 大谷久子
 海 神。野尻弘
 無 人地。高橋進
 開 拓地。斎藤真成
 フ オルム。江見絹子

嬰 児 殺 虐。西 阪 修
 瀬 戸 内 風 景。小 出 卓 二
 花 岡 嶺 山 露 天 堀。伊 谷 賢 蔵
 嵐 山 新 緑。田 川 寛 一
 岩 の 群 (室 戸 岬)。柏 原 寛 太 郎
 夏 の 大 雪 山。田 辺 三 重 松
 ボ タ 山 と 橋。古 家 新
 ヴ エ ニ ス。飯 田 清 毅
 祈 り。小 林 武 夫
 馬 と 新 芽。榎 倉 省 吾
 北 端 の 村。向 井 潤 吉
 蠟 の 燭。田 中 勇 次 郎
 い の る。下 高 原 龍 己
 無 の 抵 抗。斎 藤 正 治
 絶 無。△平川 勇
 樹 No. 8
 No. 1
 城 下 高 原 千 歳
 穀 品。長 谷 川 晶
 作 品。長 谷 川 晶
 シ 夕 山 口 正 雄
 七 夕。山 口 正 雄
 残 (さん) 佐 藤 真
 い き も の。△鬼 頭 正 人
 午 後。△篠 田 正 昭
 海 底 譜。△入 江 信 四 郎
 雪 の 構 内。尾 崎 悌 之 助
 雪 の 機 関 車
 エ チ ュ ー ド。荒 木 由 三
 無 人 人
 作 品。△富 岡 憲 二
 家 へ の 化 石。全 和 光
 執 念 の 海。難 波 香 久 三

網 高 須 国 之
 朝 玉 沢 潤 一
 庭 品。小 西 嘉 純
 吊 され た 籠
 あ ぶ と 裸 婦。三 芳 悌 吉
 閑 日 荒 井 秀 宣
 卓 上 静 物
 う た ご え。大 門 清 次
 幻 想 の 構 図。石 倉 喜 美 男
 窟 の ある 鯛。竹 内 一
 秋 の 山。西 村 清
 草 原。△船 越 かつ 美
 三 人 (A) △渡 辺 彰
 あ み。△福 井 美 智
 西 銀 座 午 後。△長 谷 川 勝 人
 ひ ま わ り。△上 山 哲 夫
 静 物 (A) △中 畑 美 那 子
 シ (B) △山 森 元 龜
 道 づ れ。△山 森 元 龜
 五 つ の パ ン と 二
 つ の 魚 △古 田 十 郎
 石 蔵。△武 本 憲 太 郎
 灰 色 の 土。須 々 木 博
 氏 生 き 残 っ た ゼ ロ
 △永 井 保
 彫 塑
 作 品 R △伊 藤 勝 美
 人 品 △篠 井 欽 治
 飛 べ ない 鳥 △小 谷 謙
 立 士 △藤 庭 賢 一
 立 像 △伊 勢 典 賢
 立 像 △林 是
 雙 △松 田 卓

作 品。今 村 輝 久
 変 貌 せ し つ の
 敷 (かく)。建 晶 寛 造
 エ チ ュ ー ド。向 井 良 吉
 作 品 33。阿 井 正 典
 作 品 33。中 島 快 彦
 作 品。野 崎 一 良
 一 陽 会 会 員 小 品 展 1-5 日
 動 画 廊
 半 田 功 有 可 能 抽 象 展 1-6
 樺 画 廊
 近 馬 治 個 展 1-6 村 松
 菅 野 功 個 展 1-6 村 松
 夏 目 雅 史、山 本 貞、和 田 英 克 三
 人 展 1-10 日 比 谷 画 廊
 大 森 朔 衛、森 義 茂 繪 画 と 彫 刻 作
 品 展 1-15 新 宿・風 月
 キ リ シ タ ン 文 化 展 1-25 市
 立 神 戸 美 術 館
 童 心 美 術 會 展 1-7 大 阪・
 白 鳳 画 廊
 特 別 名 作 展「近 代 の 油 絵」1-
 15 酒 田・本 周 美 術 館
 3 回 山 里 久 郎 個 展 2-7 サ
 トウ
 6 人 展 (伊 藤 年 男、清 水 昭 八、
 熊 谷 吾 良、須 藤 俊、小 松 利 正、
 藤 田 不 美 夫) 2-7 トキ
 ワ 画 廊
 女 流 創 作 版 画 展 2-7 養 清
 堂
 中 村 好 宏 油 絵 個 展 2-8 画
 廊 ひろし

草々秋期展 2-7 画廊サン
7回中央美術協会名古屋展 2

1-7 名古屋・丸善
明治・大正・昭和名作絵画展(文
部省地方巡回展10周年記念作
品披露) 3-8 日本橋・白
木屋 [批] 毎日7(船戸洪吉)
川本末雄個展 3-8 日本橋・
高島屋 [批] 萌春47号、三彩
11月(93号)(北川桃雄)

ゴヤとドミエ作品展(エッチン
グと石版画) 3-8 渋谷・
東横
ジョルジュ・マチユウ個展 3
10 日本橋・白木屋

[批・記]
読売夕刊5 富永 惣一
産経夕刊6 日野 隆
朝日7 隆
美術手帖11月 岡本謙次郎
20代新進作家展 3-7 文房
堂

アート・クラブ・グループ展 3
1-9 なびす
辰々会日本画展 3-7 東洋
美術館 [批] 萌春48号、三
彩11月(93号)(多田信一)

松声会日本画展 (近藤浩一路
ほか) 3-8 上野・松坂屋
藤原啓作陶展 3-8 日本橋・
三越
日本上代史展 3-27 歌舞伎
座別館ギャラリー

きぬた会染色展 3-8 大阪・
阪急
林正治車窓スケッチ展 3-8
大阪・阪急
住谷警根東洋画展 4-8 日
本橋・丸善 [批] 萌春48号
造形画廊開設記念展(長谷川昇
ほか) 5-14 八重洲口五丁
目 造形画廊
ゴッホとロートレック版画複製
展 6-11 東京・大丸
西山英雄素描展 6-11 銀座・
松屋

[批]
朝日11 隆
毎日12 船戸 洪吉
東京夕刊12 河北 倫明
産経夕刊13 横川 安雄
萌春48号 嘉門 安雄
三彩10月(92号) 河北 倫明
中原清隆陶画、油絵、墨絵作品
展 6-11 東京・大丸
現代篆刻名家展 6-11 銀座・
松坂屋
北村幸一個展 6-10 大阪・
梅田画廊
谷沢鉄三、金安暁、山本純輔三
人展 7-11 美松画廊
森物生個展 7-12 村松
稲葉治夫個展 7-12 村松
宗久恭子、長森徹二人展 7-
12 村松
城野誠子、青木和代、山田文字

三人展 7-14 トキワ画廊
染織名作展 8-14 上野・松
坂屋
2回グループ・ネオ・エスパー
ス展 9-14 養清堂 [批]
アトリエ10月(No.386)(宗左
近)
大宮政郎個展 9-14 サトウ
田中佐一郎個展 9-12 日本
橋・丸善
9回立軌会展 10-15 日本橋・
三越
[批・記]
朝日11 隆
読売夕刊12 中原 佑介
東京夕刊12 岡本謙次郎
日経13 福島繁太郎
産経夕刊13 日野 隆
毎日15 船戸 洪吉
三彩10月(92号) 東野 芳明
みづゑ10月
(No.627)
アトリエ10月
(No.386)
美術手帖11月 岡本謙次郎

出品目録
曲 芸A 秋野 卓美
B C D
楽隊と子供有岡 一郎
習作 (A) (B)

イタリーの回想 飯島 一次
当麻寺 〃
虹と子供 五百住 乙
雲と子供 〃
壁と子供 〃
冬の日 牛島 憲之
倉庫 〃
夏の肖像 〃
工場の人 内田光之助
浜の顔 〃
あおい顔 〃
落ちる顔 〃
ある顔 〃
みつめる 〃
こだいのひとび 榎戸 庄衛
と 〃
おうじやのゆめ 〃
とりつかい 〃
とりのさち 〃
やよいぶんか 〃
こだいのひとび 大貫 松三
おうじやのゆめ 〃
とりつかい 〃
構 〃
お化けA 河村 俊子
B C D
解 〃
榎の中の牛須田 寿
木馬 〃
水辺 〃

魚 壳 須田 寿
ピアノをひく 玉置 弘三
街の風景 〃
道の 辻 茂
二人 〃
女 〃
作 (A) 〃
作 (B) 〃
品 (A) 藤橋 正枝
品 (B) 〃
作 〃
静物 〃
海の街 若狭 暁男
ムロラン 〃
工業都市 〃
街 〃
下界 〃
嵐 〃
沖天 〃
赤と緑 〃
風なる争い 〃
内なる争い 〃
風夜の空 小川 イチ
風(夕雲) 〃

AL. EVERETT
EVAELET
ET

三三三

美術展覧会(9月)

風(舞れてゆく) 小川イチ
シ(朝) シ
シ(いたずら) シ
とりの絵 川越昭子
シ
シ
シ
はなの絵 シ
シ

建築展—もえないすまい—(日
本建築家協会主催) 10—15
日本橋・三越
秋季創型会彫塑展 10—15 日
本橋・三越
伊藤龍崖近作個展 10—15 日
本橋・白木屋
墨蹟水墨画国宝展 10—19 日
本橋・白木屋
9回工彩会工芸展 10—15 日
本橋・高島屋 [批] 萌春47
号(大山広光)
目黒ユネスコ美術展 10—15
渋谷・東横
石郷岡敏生個展 10—11 銀座・
東電サービスセンター
水船六州版画展 10—15 上野・
松坂屋 [批] みづみづ10月(25)
26(小野忠重)
グループ連展 10—14 文房堂
大河内夜江個展 10—15 日本
橋・三越 [批] 萌春48号
ピカソ版画展 10—10月6 日
ブリヂストン

[批]
朝日13 久保貞次郎
産経夕刊13 日野
東京夕刊19 桑
東京タイムズ10 鴻
月2
アトリエ10月 宗 左近
(No.328)
鎌倉山やきもの展 10—15 日
本橋・三越
日本古代彫刻複製展 10—15
大阪・阪急
南部飛鳥園古代仏像写真展 10
—15 大阪・阪急
友永安昭、酒井允典二人展 11
—16 三省堂
日野耕之祐大島スケッチ展 12
—16 画廊サン
吉村二三生、中谷貞彦二人展
12—16 美松画廊
日本画府秋季展 13—18 銀座・
松屋 [批] 萌春48号
7回麓人展 13—17 日本橋・
丸善
幸寿個展 13—18 村松 [批]
アトリエ10月(No.328)(宗左
近)、美術手帖11月(徳大寺公
英)

山本不二夫個展 13—18 銀座・
松坂屋
勤草会展 13—17 京都府ギヤ
ラリー
石崎光瑤、中村大三郎、案本一
洋遺作展 13—20 京都市美

術館
インカ展 14—10月13 根津美
術館 [批] アトリエ11月(No.
329)(宗左近)
長江達雄個展 14—19 磯面廊
中島弘二漫画展 14—19 日比
谷画廊
橋本雅邦名作展 14—10月13
東京国立博物館
[批]
朝日20 河北 倫明
東京28 野間 清六
産経夕刊28 日野
毎日10月6 近藤市太郎
陳列目録
御物 四季山水図 四幅
御物 山水図 一幅
御物 山水図 一幅
重文 龍虎図屏風 一雙
松に鶴図屏風 六曲一雙
金地着色(明治32年)
溪流遊覧図屏風 六曲一雙
金地墨画(明治34—5年頃)
日月図屏風 六曲一雙
金地着色
松竹梅図屏風 六曲一雙
金地絹本着色
蓮に鳥図屏風 二曲一隻
金地墨画
瀟湘八景図 二幅 紙本墨画

御物 四季山水図 四幅
御物 山水図 一幅
御物 山水図 一幅
重文 龍虎図屏風 一雙
松に鶴図屏風 六曲一雙
金地着色(明治32年)
溪流遊覧図屏風 六曲一雙
金地墨画(明治34—5年頃)
日月図屏風 六曲一雙
金地着色
松竹梅図屏風 六曲一雙
金地絹本着色
蓮に鳥図屏風 二曲一隻
金地墨画
瀟湘八景図 二幅 紙本墨画

重文 白雲紅樹図 一幅
紙本着色(明治23年)
三井寺 一幅
絹本着色(明治29年)
臨濟一喝
絹本墨画(明治30年)
臨濟一喝下絵 紙本墨画
竹林猫図 一幅
絹本淡彩(明治29年)
御物 竹林に鳩 一幅
紙本墨画
蓬萊山図 一幅
絹本着色(明治31年)
月夜山水図 一幅 紙本着色
松に月図 一幅 絹本墨画
山水図 一幅
絹本淡彩(明治26年)
設色山水十六羅漢図
絹本着色
寿老 図 一幅
紙本墨画(明治27年)
雲龍 図 一幅
紙本墨画(明治40年)
狙公 図 二幅
紙本着色(明治31年)
楼閣山水図 一幅
山間楼閣図 一幅
山水 図 一幅 絹本淡彩
田舎 図 一幅 紙本淡彩
月夜海辺図 一幅 絹本着色
岩上遊鷹図 一幅
太公望図 一幅
紙本墨画(明治35年)

重文 白雲紅樹図 一幅
紙本着色(明治23年)
三井寺 一幅
絹本着色(明治29年)
臨濟一喝
絹本墨画(明治30年)
臨濟一喝下絵 紙本墨画
竹林猫図 一幅
絹本淡彩(明治29年)
御物 竹林に鳩 一幅
紙本墨画
蓬萊山図 一幅
絹本着色(明治31年)
月夜山水図 一幅 紙本着色
松に月図 一幅 絹本墨画
山水図 一幅
絹本淡彩(明治26年)
設色山水十六羅漢図
絹本着色
寿老 図 一幅
紙本墨画(明治27年)
雲龍 図 一幅
紙本墨画(明治40年)
狙公 図 二幅
紙本着色(明治31年)
楼閣山水図 一幅
山間楼閣図 一幅
山水 図 一幅 絹本淡彩
田舎 図 一幅 紙本淡彩
月夜海辺図 一幅 絹本着色
岩上遊鷹図 一幅
太公望図 一幅
紙本墨画(明治35年)

山水 図 一幅 紙本墨画
虎溪三笑図 一幅
阿耨観音図 一幅 絹本着色
蓬萊 図 一幅 絹本着色
布袋 図 一幅 紙本墨画
書初宝珠図 一幅
紙本墨画(明治41年)
大正天皇御像 一幅
紙本墨画
お 福 一幅 絹本着色
寿老 図 一幅
瀟湘八景図 一卷 紙本墨画
四季山水図襖絵 二十八面
四季風景襖絵廿四枚並腰襖絵
八枚 紙本墨画
四季山水図 四十枚
紙本墨画(明治24年頃)
山水画稿 二卷
毘沙門天像 一幅 紙本墨画
十六羅漢図 二幅 絹本着色
梅月 図 六十九才筆 一幅
紙本墨画
山水 図 一幅
龍虎図試作 一幅 紙本着色
世界の壺展 15—10月20 鎌
倉・近代美術館
恩地邦郎油絵個展 16—21 養
清堂 [批] アトリエ11月
(No.328)(宗左近)
富ノ井政文、森義茂絵画と彫刻
作品展 16—30 新宿・風月

山水 図 一幅 紙本墨画
虎溪三笑図 一幅
阿耨観音図 一幅 絹本着色
蓬萊 図 一幅 絹本着色
布袋 図 一幅 紙本墨画
書初宝珠図 一幅
紙本墨画(明治41年)
大正天皇御像 一幅
紙本墨画
お 福 一幅 絹本着色
寿老 図 一幅
瀟湘八景図 一卷 紙本墨画
四季山水図襖絵 二十八面
四季風景襖絵廿四枚並腰襖絵
八枚 紙本墨画
四季山水図 四十枚
紙本墨画(明治24年頃)
山水画稿 二卷
毘沙門天像 一幅 紙本墨画
十六羅漢図 二幅 絹本着色
梅月 図 六十九才筆 一幅
紙本墨画
山水 図 一幅
龍虎図試作 一幅 紙本着色
世界の壺展 15—10月20 鎌
倉・近代美術館
恩地邦郎油絵個展 16—21 養
清堂 [批] アトリエ11月
(No.328)(宗左近)
富ノ井政文、森義茂絵画と彫刻
作品展 16—30 新宿・風月

渡辺木版画店
沖利男、土屋幸夫近作展 16—
21 トキワ画廊

石川滋彦滞欧水彩展 16—21
造形画廊

及川全三毛織物展 16—21 丸
ビル・中央公論社画廊 [記]

東京18
上田吉二郎個展 16—22 新
宿・ブランシェ

塩津誠一作品展 16—20 大
阪・梅田画廊 [批] 美術手
帖11月(杉本亀久雄)

美術文化秋季展 第二会場—17
—22 日本橋・白木屋 第一
会場—19—24 村松[批]美術
手帖11月(徳大寺公英)、アト
リエ11月(No.369)(宗左近)

荒井陸男近作展 17—22 日本
橋・高島屋 [批] 東京夕刊
19(桑)

幸松春浦個展 17—22 大阪・
高島屋 [批] 前春51号

西ドイツへ行く現代日本陶藝展
17—22 上野・松坂屋 [批]
産経夕刊18、産経夕刊20(大島
隆一)、前春47号(大山広光)

光琳生誕三〇〇年記念光悦、宗
達、光琳国宝展 17—29 日
本橋・三越 [批] 毎日26(松
下隆章)、東京夕刊26(東山魁
夷)、アトリエ11月(No.369)
(宗左近)

足立源一郎新作油絵展 17—12
日動画廊 [批] 東京夕刊19
(桑)

青珠会日本画展 17—22 洪
谷・東横

4回白樹会彫塑展 17—22 日
本橋・白木屋

信州民藝展 17—22 日本橋・
高島屋

野村侯三木口版画個展 17—23
画廊ひろし

多摩美四人展 17—21 文房堂
亜吐会三人展 17—21 美松画
廊

前田青邨日本の胃スケッチ展
17—22 日本橋・三越 [批]
東京夕刊19(桑)、三彩11月(93
号)(多田信一)

村瀬治兵衛木工漆藝展 17—22
日本橋・三越

高橋亮個展 17—22 画廊サン
古代楽器展 17—22 大阪・阪
急

9回野村東山新作日本画展 17
—22 大阪・阪急

郡山三郎個展 18—21 日本
橋・丸善

富本憲吉模様選集記念展 18—
28 京橋・中央公論社画廊

岩手彩虹社三人展 18—23 三
省堂

スエーデン展 18—25 上野・松
坂屋 [記]美術手帖11月86頁

津高和一個展 20—25 銀座・
松屋 [批] みづゑ10月(No.
367)(東野芳明)、美術手帖11
月(徳大寺公英)、アトリエ11
月(No.369)(宗左近)

小野竹齋スケッチ展 20—25
京都府ギャラリー

上条静光個展 20—29 上野・
エバ画廊

赤土会グループ油絵展 20—24
襟画廊

10回創造美術協会展 20—29
大阪市立美術館 [批] 美術
手帖11月(杉本亀久雄)

佐々木邦彦個展 21—26 大
阪・三越

2回黒沢梧郎個展 21—26 美
松画廊

幸形栄治、平林克之二人展 23
—28 サトウ [批] アトリ
エ11月(No.369)(宗左近)

石郷岡敏佳個展 23—29 新
宿・ブランシェ

北浦愛子個展 23—29 大阪・
フォルム

河野通紀個展 23—28 大阪・
梅新画廊

宮城音蔵水彩画個展 24—28
トキワ画廊 [批] 東京夕刊26
(桑)、アトリエ11月(No.369)
(宗左近)

根来実三製作五十年古稀記念展
(宗左近)

24—29 日本橋・高島屋
[批] 前春48号(大山広光)
近藤悠三、篠田義陶藝展 24—
29 洪谷・東横

10回磯部草丘日本画個展 24—
29 日本橋・三越 [批] 前
春48号、三彩11月(93号)(多田
信一)

青龍社展 24—29 名古屋・松
坂屋

深尾庄介作品展 24—28 サエ
グサ

伊藤勉、巻白版画二人展 24—
28 文房堂

山口源版画展 24—28 養清堂

上野春香滞欧油絵作品展 24—
28 ヤナセ [批] 朝日27(隆)、
三彩11月(93号)(多田信一)

深尾庄介作品展 24—28 サエ
グサ [批] 東京夕刊26(桑)

中村善策新作小品展 24—28
造形画廊 [批] 産経28(日野
耕之祐)

山崎昭男油絵個展 24—28 フ
ォルム

荻野康児個展 24—29 大阪・
高島屋

鶴岡毅個展 24—29 画廊サン
[批] 産経28(日野耕之祐)

大野新三個展 24—30 三省堂

グループ第三作品展 24—30
画廊ひろし

松本慎三水彩バラ画展 24—29

上野・松坂屋
金鏝会茶道工藝展 24—29 日
本橋・三越

3回北星会日本画展 24—29
大阪・阪急

極小袖絵名品展 24—29 大阪
・阪急

池田達郎個展 24—30 大坂・
とりゑ屋画廊

広重百年祭記念名作展 24—29
博多・大丸

山田光陶器個展 25—30 村松
[批] 朝日27(隆)、アトリエ
11月(No.369)(宗左近)、工
藝ニオス Vol.25—10(N)

朝倉撰、佐藤忠良、中谷泰三人
展 25—30 村松
[批]

朝日27 隆
読光28 中原 佑介
産経28 日野耕之祐
毎日29 船戸 洪吉
美術手帖11月 徳大寺公英
みづゑ11月(No.626)

アトリエ11月(No.369)
宗 左近
針生 一郎

福島積美日本画展 25—27 日
本工業倶楽部

赤土会展 25—29 襟画廊

新倉喜作個展 25—29 襟画廊

21回新制作協会展 25—10月7
東京都美術館

山手展望 野中一二三
 未完(絶筆) (故)有安隆
 作 品 小山タロ
 母 子 像 大橋三恵子
 砂浜のテーマに
 よる作品 川津汎子
 作 品 A 加藤金一郎
 作 品 A 篁敏生
 作 品 B 木南哲夫
 建 品 塚本英一
 生 けるもの 竹内幸昭
 西瓜を食う人 服部和益
 町の 女 大木達雄
 有機の世界 小林繁良
 鳥の 巢 安田 巖
 日本画
 田 園 風景 伊藤正男
 岩 景 ヒマ 太田正弘
 風景 イケタ 星野和子
 風景 (昼) 井崎昭治
 鳥 景 井崎昭治
 冬 景 加山又造
 冬 景 山信時次郎
 樹 景 古橋清昭
 或る工場風景 物部隆一
 ひまわり 橋本竜美
 鍋 二つ 曾我部鑑子
 戯 れ 大林青楓
 花 か げ 西村昭二郎
 く もり 日衣川弘子
 黒い木のある場 佐藤昌美
 桃 実 上村松篁

ECCE HOMO 若松古径
 花のある道 百々茂貫
 四と池のある風 川辺隆啓
 春 近き山 宮本和子
 鳥 と 茅 横山朱実
 火 と 池 伊東周子
 森 と 池 大庭繁雄
 黒 い と 池 鳥頭尾精
 生 垣 と 道 堀 信夫
 小 垣 と 道 堀 信夫
 村 道 堀 信夫
 樹 の ポーズ 小野崎猩樹
 う ら 街 高畑郁子
 黒 い 雨 善 鳩 人
 河 岸 善 鳩 人
 砂防垣のある風 西垣風江
 景 西 垣 風 江
 風 景 北村友江
 植 物 須田絢子
 転 向 井久万
 丘 の 家 五十嵐撥一
 さ み だ れ 齊藤宗男
 沼 地 城 貞 男
 滝 の 像 福田豊四郎
 男 の 像 秋野不矩
 女 の 像 秋野不矩
 道 の 像 秋野不矩
 白 夜 上村 宏 靱
 街 上 村 文 子
 梟 と 残 雪 山本丘人

水 樹 鳥 吉岡堅二
 風 景 景 佐藤厚一
 風 景 景 竹山 博
 高 原 の 花 福田 鑿治
 武 庫 の 山 松 下 邦 夫
 目 ざ め る 仔 牛 森 山 茂
 群 な 鶏 北村美智子
 家 な み 其阿弥赫土
 風 根 と 鳥 西井正氣
 樹 根 と 鳥 石 本 正
 鳥 (つぐむ) 広田多津
 嘖 と 森 信太金昌
 葦 と 高橋周桑
 梅 と 高橋周桑
 逆 む 光 菊池隆志
 ね む り 麦倉則子
 少 女 と 猫 生駒沢子
 赤 い 机 大河内正夫
 夜 景 本庄美佐子
 窓 か ら 上原 卓
 停 車 場 富田利吉郎
 松 仏 殿 寺平誠介
 大 殿 松平春樹
 分 岐 点 浜田勝久
 林 村 永定 観
 港 外 川 利 雄
 裏 街 近藤勝彦
 工 場 宮本昌雄
 不 信 坂 下 晃
 秋 (A) 関 好 明
 (B) 関 好 明

平原の町 堀川年夫
 車 と 馬 と 川上三郎
 樹 い 風 景 岩崎道子
 赤い風景 黒川富士雄
 鶴とキリスト 田島佐理
 裸 工 婦 笠城竜杖
 農 夫 坂本好一
 郡 船 越 修
 雨 木 季 大森運夫
 雑 木 渡 辺 重
 並 ぶ 高橋綾子
 魚 白 藤 朱 根
 人 小鳥を飼う 鈴木雅子
 小鳥を飼う 鈴木雅子
 鉄骨のある工場 平川敏夫
 タンクのある工 平川敏夫
 仕 事 楠田信吾
 花 屋 朝倉 撰
 部 屋 朝倉 撰
 大きな鳥の子供 浜田泰介
 七本の化木 浜田泰介
 森 宗 雪 淑 子
 港より帰る人々 吉原麻美
 池 上 野 泰 郎
 母 子 上 野 泰 郎
 母 子 上 野 泰 郎
 ネ ハ ン 子 上 野 泰 郎
 Aさん夫婦の像 田 辺 芳 子
 母と子の像 田 辺 芳 子
 月と馬と上村 賀子
 Tさんの首 岡野比呂子

エチエード 中野 絳
 か が む 井上 和子
 若い女(石) 牧野 英
 水くむ女 吉岡達也
 セイ子 像 岩淵忠雄
 座 小 金 丸 幾 久
 ト ル ソ 佐藤文則
 裸 婦 山 口 幸 子
 前 品 E 小 本 昌 彰
 蒼 色 彩 と フォルム 江 戸 健
 色 彩 と フォルム 江 戸 健
 潜水する男 館石 昭
 人 々 網 谷 義 郎
 船 骨 関 屋 俊 彦
 ブロードウェイ 杉原富康
 呪 呪 する 女 山 東 洋
 洪 水 II 小 関 利 雄
 赤 い 空 坂 井 範 一
 時 間 田 中 鶴 子
 蝶 と 像 中 尾 進
 母 子 像 中 尾 進
 風 神 雷 神 角 浩
 グ ジャ ン グ ル ソ ン 宮 脇 公 実
 灰色の季節 竹谷富士雄
 画 架 の 前 桑 田 道 夫
 緑 園 脇 田 和
 作 品 川 端 実
 コンポジション 川 端 実

牛 B 伊藤 傀
手をくむ女。早川 巍 一郎
かがむ。本郷 新
砂 氏 像。吉田 芳夫
K 氏 像。佐藤 忠良
俳 優。柳原 義達
女 柳原 義達
眼を伏せた女。西 常雄
風 菅原 安男
立 菅原 安男
玉 乘 山本 常一
裸婦立像。明田 川孝
女の首。小坂 圭二
人 五十嵐 芳三
立 像
黒い坐像
坐 像
イ 舟越 保武
S 夫人
家族(新潟市片舎建築の彫刻)
原爆の子(記念像の一部)
原爆の子(記念像の一部)
原爆の子(記念像試作)

CHAIRS
住宅三題
小見利信
佐藤 博
松村 勝男
連合設計社団分室
みねぎしやす
吉田 秀雄
吉田 桂二
小宮山 雅夫
戒居 研造
サロンス
サロンス
オフィス(或る船会社)
証券会社(或る小住宅のための椅子とテーブル)
井上一郎
池田 暁子
土屋 晃一
松園 淑子
島崎 信
山本 敏郎
谷口 真美
千葉 周子
田中 仁子
円の研究(食卓と食事イス)
池 辺 陽
船越 三郎
鶴志田 厚子
小寺 節夫
神奈川大学図書館
山口 文象
三葉グループ
小林 保治
原田 貞次郎
鈴木 誠太郎
荒川 清
F 村井 惣一郎

座・松坂屋
千家十職展 27—10月6日 日本
橋・白木屋
デザイン3展 27—30 たびす
尾上柴舟遺墨展 27—10月2日
銀座・松屋
信濃路拓本頒布展 27—10月2日
東京・大丸
4回新作木版画展 27—10月2日
銀座・松坂屋
小磯良平小品デッサン展 27—10月2日
東京・大丸
東郷青児新作展 27—10月2日
東京・大丸
杜子会日本画展 27—10月2日
美松画廊
カネホーコレクション「コプロト文様写動物」展 27—10月13日
新宿・伊勢丹
19回一水会展 27—10月6日
東京都美術館
〔批〕
産経28
毎日10月2日 日野耕之祐
朝日10月2日 土方 定一
東京タイムズ10月3日 田近 憲三
東京10月3日 植村鷹千代
読売夕刊10月4日 中原 佑介
週刊朝日10月27日 明人
三彩11月(93号) 植村鷹千代
みづゑ11月 柳 亮
(No. 288)

アトリエ11月 宗 左近
(No. 320)
美術手帖12月
対談 植村鷹千代
徳大寺公英
〔受 賞〕
一水会優賞—林鶴雄、田中春弥、大津鎮雄
賞—伊藤正、泉治彦、新井邦雄
一水会賞—中沢茂、岩館知義、皆吉志郎
船岡賞—滝川武雄、北川五郎
ブルーヴ—賞—青木節子、鈴木益郎
新会員—巻島友治、林登美、小松崎邦雄、関口和子、西沢今朝夷、元川嘉津美、山川忠義、五味悌四郎、中村徳次郎、加藤清江、森下徑、松井恵美子、深山鎮男、松本茂、松村秀夫、加藤水城、塩原文二
主要出品目録
△印委員
△印会員
緑色のチユチユ△加藤 一豊
背向裸婦△中川 力
白壁の家△林 鶴雄
桜 △野崎利喜男
化粧 前△田辺朋子
西伊豆の山△野村光司

狭い通り△高 勇
高原晚秋△幸 雅二
静 物△見島三吉
日ノ岬風景△中川藤次郎
女 くしけずるM嬢△尾崎正章
白い空△北村 巖
客 イスと子供△荒井一郎
静 物△木村辰彦
武蔵野早春△菊地秀一
山をかざる雲△山川勇一郎
函 館 港△池谷寅一
裸 婦△弦田英太郎
静 物△丸野豊司
静 物△大津鎮雄
Pigeon △近岡善次郎
大浦天主堂△堀 忠義
雪どけの街△鷺見憲治
春 座 像△坂元一男
春 山△広 瀬 功
たいわんぎり△久富邦夫
鳥籠のある静物△柚木祥吉郎
馬籠への道△須山計一
山合の町△小 栗 精
初秋(下総御料牧場)△中畑 艸人
回 荒 磯(夕)△河上一也
南予 風景△三宮雪夫
漁港 静日△本郷 惇
小網町風景△鍋谷伝一郎
裏 門△能勢真美

潮 岬△伊藤立巳
 秋の九重山△田崎広助
 夏の阿蘇山△
 原爆受難の浦上△小山敬三
 聖堂
 小松 風景△木下義謙
 静 物△深沢紅子
 あみもの△
 江の島二題(A)△石井柏亭
 (B)△
 真夏の庭△有島生馬
 江の島遠望△
 奈良公園新緑△山下新太郎
 花 笠△池部 鈞
 山 国△中村善策
 信 濃 路△
 黒い首飾△安宅虎雄
 靴△
 紫陽花△
 素々木海岸△鈴木良三
 金色 桜△島△
 黒島の教会△納富 進
 めがね橋風景△
 梨をむく少女△池辺 一郎
 東京の町△
 少 女△中村琢二
 瀬 戸 内△
 ピアノによるア△木下孝則
 イリオン
 川べりの学校△高田 誠
 野沢 風景△
 イヤリング△福田新生
 若 い 人△
 関門 風景△

赤い 衣服△高野三三男
 緑 衣△
 椅子 子△仲田好江
 野 草△
 画室における小△金丸直衛
 羊 能取湖初秋△大月源二
 セメント工場△高橋庸男
 裸 婦△
 並 木 道△
 黒岳(大雪山)△小竹義夫
 安 良 里△松村三冬
 磯の静物△与志美登野
 虫をみる猫△滝川太朗
 井口氏像△渡辺正一
 春のきざし△朝倉力男
 湖畔の石像△尾沢勝朗
 初 秋△千ヶ崎悌六
 卓上静物△関戸伊三郎
 奥 日 光△三浦俊輔
 海 △松田晃八
 少女と埴輪△岡田行一
 冬の最上峡△真下慶治
 めざしのある静△林 貞子
 物
 黄色い壺△名取明德
 人形たち△甲斐仁代
 手賀沼風景△末松 勇
 学 生△源川 雪
 名 張 川△矢野雄蔵
 森の 小 径△石川真五郎
 婦 人 像△日塔笑子
 妻 人 △斎藤 大
 疎林の丘△佐藤 進

め ば え△新井邦雄
 踊 る△富田通雄
 波切 風景△青野馬左奈
 「水だまり」に拾 △上田哲農
 つた小曲
 二人の裸婦△荒谷直之介
 腰かけた裸婦△
 初夏の町△卓出守雄
 石 仏 群 像△岡崎祇容
 柿の木と薄菘原 △実
 夏 衣△不破 章
 須磨浦の丘△別車博資
 窓 △山中仁太郎
 △成田みさ子
 パレー教室にて△菅沼金六
 横 隊 裸 婦△徳田良仁
 赤い 帽子△伊藤 正
 春の丹 沢△片山芳樹
 飛 形 山△三角嘉寿男
 東京葛蒲園(朝)△高橋卯八
 慶大生の像△泉 治彦
 雲 と 水△木下米子
 藤椅子の女△中谷龍一
 兜町 河岸△田坂 乾
 母とその家族達△田中春弥
 千 曲 川△谷内俊夫
 聖ジャンスダル △木下寿々子
 ク
 冬 山△菅野矢一
 阿 修 羅△松田忠一
 少女とキリギリ △岡崎陽子
 ス だるま船△高森捷三
 裸 婦 △坂本正春
 ゆ か た△安藤軍治

清流(伊豆湯ヶ △松田文雄
 島) △金子博信
 校 △森 寅雄
 裸 婦 △泉 治作
 静 物 △泉 治作
 造 船 △常岡卯三郎
 秋たけなわ△宮部 進
 赤い 背景△大館健三
 種 蒔 き△岡田高平
 裸 婦 △許 長 貴
 小 春 日△黒田外喜男
 上牧風景(B)△酒井精一
 座せる裸婦と花△等々力巳吉
 九谷焼色絵皿△木下義謙
 瑠璃釉藤大皿△
 九谷焼(五色南 蛮)色絵九角皿△
 がまの穂大鉢△
 桃花紅牡丹浮彫 △
 香合 △
 はままつこう大 鉢△
 九谷焼銀杏絵皿 △
 飛青磁・角形水 滴 △
 九谷上絵・麻の 菊 △
 トルコ青の女 △
 吸坂手・熊 △
 九谷上絵・桜草 △
 九谷上絵大皿 △
 夜 △
 九谷上絵・とく △
 佐々木邦彦個展 28-10月2
 京都府ギャラリー

会津八一名作展 30-10月9
 京橋・中央公論社画廊
 古川恂個展 30-10月6 櫛面
 廊
 2回春陽会13人展 30-10月3
 日本橋・丸善
 長野祥三個展 30-10月5 サ
 トウ
 藤田慎治近作展 30-10月5
 養清堂
 荒木省三、五十嵐二郎、春日部
 洋三人展 30-10月5 トキ
 ワ画廊
 島田晃宏個展 30-10月5 求
 龍堂画廊
 東邦美術院小品展 30-10月5
 丸ビル・中央公論社画廊
 十一人会展 30-10月5 造形
 画廊
 一〇月
 岡見富雄滯仏油絵展 1-6
 日本橋・三越 [批] 産経夕
 刊4(日野)
 2回第二紀会特選展 1-6
 日本橋・三越 [批] 東京夕
 刊4(桑)、朝日4(隆)、産経
 夕刊4(日野)
 十七人の作家展—現代の絵画、
 彫刻シリーズ—(奥村土牛、
 丸木位里、岩橋英遠、上村松
 篁、福田豊四郎、加山又造、

児島善三郎、岡鹿之助、有岡一郎、斎藤義重、三岸節子、桜井浜江、麻生三郎、杉全直、新海竹蔵、淀井敏夫、熊倉順吉) 1-27 国立近代美術館〔批〕産経夕刊11(日野)東京夕刊12(岡本謙次郎)彼末宏個展 1-5 サエグサトーマス・ジョージ個展 1-10 ブリヂストン〔批〕東京夕刊4(桑)、朝日4(隆)、読売夕刊10(中原佑介)、みづゑ11月(No.628)(針生一郎)鬼集会洋画彫刻秋季展 1-6 渋谷・東横

一陽会々員小品展 1-5 日動画廊

生活工芸集団小品展 1-10 日本橋・高島屋

一回池袋画廊展 (新設十月一日開場、伊藤四郎、春日部たすく、吉井忠、横堀角次郎、田中佐一郎、鶴田吾郎、長沢節、桑原実、山本蘭村、青山竜水、笹鹿鹿、光安浩行、広本了、森田茂) 1-13 池袋画廊

佐田勝、中島快彦絵画と彫刻作品展 1-15 新宿・風月

林田重正、前川直、石森美津子 川村久子四人展 1-7 なびす

5回稀星会油絵展 1-6 日本橋・高島屋

思い出の三人展(滝廉太郎・音楽、竹久夢二・さし絵、北原白秋・詩) 1-14 池袋・西武

志賀健蔵、鶴野政二人展 1-6 村松

5回丹桂会日本画展 1-6 新宿・伊勢丹

熊倉順吉陶器展 1-10 フォルム

大家絵画作品と応用綴帯、美術工藝きもの染の美展 1-13 新宿・伊勢丹

一回武石純一個展 1-15 渋谷・風月

3回産業工芸展 1-6 日本橋・高島屋〔記・批〕日経

2、工芸ニュース Vol.25-30(阿久)

むさしのに因む日本画展 1-6 池袋・三越〔批〕萌春

48号、三彩11月(93号)(多田信一)

静賞会展 1-6 上野・松坂屋〔批〕萌春49号

一九五五年会展 1-7 大阪・フジカワ

乾龍平、上田春雄油絵二人展 1-6 大阪・阪急

中国唐時代陶磁展 1-11月10 白鶴美術館

高野山秘宝特別展 1-14 大阪・藤田美術館

秋の南蛮美術展 1-20 市立神戸美術館

有秋会展 1-10 大阪市立美術館

大羊居(野口功造)、川島織物染と織の秀作展 1-9 池袋・西武

保谷クリスタル秀作展 1-9 池袋・西武

日本洋画代表作家展 1-6 宇都宮市・栃木会館ギャラリー

真垣武勝個展 2-7 画廊ひろし

工藤哲己個展 2-7 新宿・ブランシェ

4回青紀展 3-8 美松画廊

2回佐藤洋画個展 3-7 一哉堂銀座店〔批〕産経夕刊4(日野)、東京タイムズ4

サロン・ド・ジュワン 4-9 銀座画廊〔批〕みづゑ11月(No.628)(針生一郎)、美術手帖12月(東野芳明)

小糸源太郎写生展 4-13 銀座・松屋〔批〕

日経8 福島繁太郎

朝日8 隆

東京10 船戸洪吉

毎日11 田近憲三

三彩11月(93号) 岡本謙次郎

みづゑ11月(No.628)

杉の芽会油絵展 4-10 文房堂

物故諸大家日本画小品展 4-9 東京・大丸

逸翁美術館開館特別展(第一回定期展覧) 4-12月10 池田市・逸翁美術館

二科13人新作展 5-16 池袋・西武

サロン・ド・カスク(兜屋秋季油絵展) 6-20 兜屋〔批〕朝日10(隆)、毎日12(船戸洪吉)、東京夕刊14(寺)

1回知求会展(小川哲郎、幸田佑三、佐藤多持、山内頼吾) 7-12 ヤナセ

5回グループJUNE展 7-12 襟画廊〔批〕みづゑ11月(No.628)(針生一郎)、美術手帖12月(東野芳明)

5回古城弘個展 7-12 求龍堂

米原二郎作品展 7-12 丸ビル・中央公論社画廊

島村彦彦個展 7-12 養清堂〔批〕読売夕刊10(中原佑介)、美術手帖12月(東野芳明)

鶴見雅夫、内藤圭介二人展 7-12 サトウ〔批〕みづゑ11月(No.628)(針生一郎)、美術手帖12月号(東野芳明)

納富進個展 7-12 襟画廊

関谷一夫個展 7-12 村松

多賀谷伊徳油絵展 7-12 ト

キワ画廊

〔批〕

読売夕刊10 中原佑介

三彩11月号(93号) 東野芳明

みづゑ11月(No.628) 針生一郎

美術手帖12月 東野芳明

4回八人の会作品展(飯田善国、伊原乙彰ほか) 7-12 村松

田中吉之介新形象文様展 7-8 京都・丸紅

木内広個展 8-12 フォルム

〔批〕みづゑ11月(No.628)(針生一郎)、美術手帖12月(東野芳明)

4回日本伝統工芸展 8-20 日本橋・三越〔批〕朝日17(小山富士夫)、萌春48号(西沢笛舫)、工芸ニュースVol.25-30(H)

斎藤清版画展 8-13 日本橋・三越〔批〕三彩11月(93号)(多田信一)

四人展 8-10 京都書院画廊

〔批〕美術手帖33年2月(中村義一)

石の絵に花を 和田三造、勅使河原蒼鳳展 8-13 日本橋・高島屋〔批〕東京10、朝日10(隆)、産経夕刊11(日野)、三彩11月(93号)(多田信一)

加藤幸兵衛作陶展 8-13 日
 本橋・高島屋
 青龍社展 3-13 京都・大丸
 高沢七郎滯欧作品展 8-13
 日本橋・三越
 2回華厳会水墨画展 8-13
 渋谷・東横
 国際印刷文化展 8-13 上野
 ・松坂屋
 2回きんぼうげ展 8-14 新
 宿・ブランシェ
 大聖寺古郷遺作展 8-13 上
 野・松坂屋
 中川哲哉、鹿野薫斎漆藝二人展
 8-13 新宿・伊勢丹
 2回益子焼新作展示会 8-13
 日本橋・三越
 茶道竹藝展 8-13 日本橋・
 三越
 矢野知道人個展 8-13 大阪
 ・近鉄アベノ百貨店
 2回近代フランス クリチック
 賞絵画展 8-15 鹿児島市
 立美術館
 4回具体展 8-10 小原会館
 [批]
 三彩11月(93号) 針生一郎
 みづゑ11月 針生一郎
 (No.698)
 美術手帖12月 東野芳明
 2回染織錦裳会 9-10 日本
 橋・白木屋
 2回伸起展 9-13 美松画廊
 宮崎利行個展 9-14 三省堂

[批] 美術手帖12月(東野芳
 明)
 一水会委員小品展 10-16 イ
 エナ画廊
 倉田三郎滯欧作品展 10-16
 名古屋・パルナス画廊
 21回自由美術展 10-26 東京
 都美術館
 [批]
 産経12
 毎日17 日野耕之祐
 東京タイムズ17 土方定一
 東京夕刊17 柳 亮
 朝日18 今泉篤男
 日経18 小川 隆
 読売夕刊18 福島繁太郎
 週刊朝日27 中原 佑介
 三彩11月(93号) 針生一郎
 美術手帖12月
 対談 植村鷹千代
 徳大寺公英
 柳 亮
 針生一郎
 みづゑ12月(No.699)
 柳 亮
 アトリエ12月(No.370)
 鶴岡政男
 主要出品目録

作 品 迫田潤一
 沢野井信夫
 孤 品 宮本正之
 ムチン Y 小野忠弘
 変 容 豊田一男
 作 品 早川重章
 前 兆 前田常作
 カリ プソ 藤沢友一
 空 間 西田信一
 シ 0 シ 田中朝吉
 作 品 川口精六
 作 品 清 希 東
 動 画 関 戸 仲
 港 水 谷 武 彦
 新 しい 風景 井上武吉
 昆 虫(シ) 三雲祥之助
 少 女(彫刻) 山本新蔵
 葉 脈 山本新蔵
 作 品 文 挾 克 明
 田 中 健 三 夫
 黄色い 空間 矢島甲子夫
 極 品 金 野 宏 治
 錯 綜 香 山 逸 人
 終 焉 小 谷 博 真
 カインの末裔 万 城 信 郎
 作 品 伊 藤 昭 二
 休 火 山 難 波 田 竜 起
 天 体 の 形 象 難 波 田 竜 起
 作 品 井 上 照 子
 収 穫 井 上 照 子
 正 午 末 松 正 樹
 庭 午 末 松 正 樹
 顔 荒 木 道 夫
 広 場 の 子 供 達 松 野 庸 子

作 品 (1) 池田一末
 侵 蝕 灰 谷 正 夫
 群 像 金 光 珠
 作 品 青 木 正 春
 棲 息 永 田 力
 アソコミセテス 小 野 忠 弘
 作 品(シ) 安 藤 士
 虫 設 小 谷 博 真
 建 設 小 谷 博 真
 拓 地 小 野 州 一
 ロマネスク 小 野 州 一
 渦 の 中 西 良 三 郎
 不 死 鳥 赤 塚 徹
 恐 怖 す る 人 鶴 岡 政 男
 秋 み の る 比 田 井 仁 史
 果 樹 園 シ 藤 間 清
 挑 む 藤 間 清
 護 符 上 原 二 郎
 外 人 の 悔 恨 有 村 真 鉄
 番 人 の モニユマン 田 尻 稻 四 郎
 或るモニユマン 小 林 良 曹
 樹 木 と 岩 小 林 良 曹
 珠 江 夜 曲 江 見 崇
 生 き 富 田 卓 司
 虫 の 世 界 安 部 真 知
 立 つ て い る 前 川 博 人
 風 景 吉 本 時 昌
 作 品 大 村 連
 風 化 高 木 勲
 赤 い 雲 佐 藤 省 三 郎
 赤 い 雲 佐 藤 省 三 郎

二 人 像 寺 田 政 明
 い き も の 寺 田 政 明
 コスチューム 峰 村 リ ッ 子
 裸 婦 奥 富 修
 静 物 八 幡 健 二
 秋 景 小 菅 德 二
 葉 景 大 野 五 郎
 風 景 山 内 豊 喜
 山 す 所 加 藤 一
 車 ガ ス タ ン ク 磯 村 敏 之
 ガ ス タ ン ク 磯 村 敏 之
 開 拓 塩 水 流 功
 零 落 松 永 浩 二 郎
 潜 夫 塚 谷 政 義
 丘 の ひ と 吉 井 滋 夫
 担 ぶ 三 井 滋 夫
 網 ふ 三 井 滋 夫
 倉 糸 園 和 三 郎
 木 馬 と 少 年 小 野 木 学
 前 進 富 山 妙 子
 し ら 山 田 光 春
 人 物 曹 良 奎
 農 夫 渡 田 猛
 杖 渡 田 猛
 凍 る カ ノ ン 山 口 正 城
 葡 萄 の 房 浜 口 陽 三
 け も の 間 稲 田 三 郎
 時 間 間 稲 田 三 郎
 落 葉 南 桂 子
 曆 上 野 省 策
 ポ ー ズ 小 谷 良 徳
 聚 存(シ) 森 堯 茂
 おどりNo.14 (彫刻) 昆 野 恒

静 清水七太郎
 風 景土井 栄
 海 女 山口英哉
 裸 婦 奈知安太郎
 海の二 森川 昭
 九月の花 島田由紀子
 あじさい 廣田嘉子
 聖堂にて 柿手春三
 森 (体・塔) 三木 弘
 山 森 芳雄
 三つの壺 浜田方一
 静 牧野重信
 マス ク 川合喜二郎
 フェニキヤの石 竹中三郎
 静 佐藤美代子
 眺められた風景 一木平蔵
 森 平沢熊一
 窓 辺 中条 顕
 ひと 深見公道
 戦跡(於沖繩) 池田淑人
 猫 久保田九一
 風 景 新田 実
 裸 婦(彫刻) 杉原清司
 男 佐藤吉彦
 ひと 田中彦次
 女の肖像 中本達也
 かれひなど 西村保史郎
 憩える海人 富成忠夫
 の 老いたユニコー 小山田二郎
 夜 井上長三郎
 こども

めがね 堀内規次
 漁 船 中野 淳
 ワリミイ・ブラ ジェヌス寺 島 鉄生
 M 鉢山所見 西 八郎
 荷 物 尾内健治
 喰 色の情景 根岸 正
 黄色の情景 根岸 正
 枯れた林 矢嶋貞男
 ERIMON 八 鉄四郎
 立像(彫刻) 井上信道
 かまむ(シ) 峯 幸
 やすむ女(シ) 木内 岬
 静 登崎太三郎
 汗 鈴木国稔
 25回独立美術展 10-26 東京
 都美術館
 (批)
 産経12 日野耕之祐
 毎日17 土方 定一
 東京タイムズ17 柳 亮
 東京夕刊17 今泉 篤男
 読売夕刊18 中原 佑介
 日経20 福島繁太郎
 週刊朝日27 明 人
 三彩11月(93号) 針生 一郎
 美術手帖12月 針生 一郎
 対談 植村鷹千代
 徳大寺公英
 柳 亮
 針生 一郎
 みづる12月(No.62) 柳 亮

アトリエ12月(No.370)
 伊藤 康
 井上長三郎
 田近 憲三
 仲田定之助
 独立賞—和氣史郎
 佐藤辰治
 古川盛雄
 江田 豊
 福富 栄
 水野恭子
 山田貞美
 小林敦雄
 高橋 秀
 新 員—入江一子
 新 員—高須鞆子
 下川都一郎
 松樹路人
 大内のぶ子
 出品目録
 供 物。江田 豊
 栗 物。針生 鎮郎
 東洋の燔祭 針生 鎮郎
 漁 港。西田藤次郎
 発 電 所 二宮哲男
 基地に怒る 朝比奈靖司
 うかぬドラマ 鶴谷 浩
 いそもの 小野教治
 作品 永野敏男
 母と子 吉田政照
 花

山の池。小林和作
 八月(1957) 森 兵五
 (1957)
 根 田中繁一
 ひ と 高杉昭子
 水枯れの水門 岩田弘行
 女 森省一郎
 指 市川正三
 転 古川吉重
 分 裂 松田春雄
 都 会 木村俊夫
 立 物 仲村俊夫
 人 物 山田康三郎
 建 物 窪田且佳
 魚 山岡恒二
 沈 黙 山岡恒二
 港 景 鈴木登
 風 景 河尻隆次
 丘の教会 中塩克郎
 おどる人 田岡秀男
 休む二人 山本鉄男
 原子時代 A 山本鉄男
 牛の頭と鳥 仲村一男
 心の象 山添克己
 記 憶 片岡 清
 よろこび 土井俊泰
 機 械 B 土井俊泰
 静 物 A 中込芳子
 道 化 物 A 伊東都三郎
 柵の中 三瓶昭蔵

絶望的欲望 B 石原百合子
 黒い馬 C 安田 謙
 白い馬 宮崎精一
 自 噴。宮崎精一
 熔 鉢 炉 B 古賀 猛
 心の中の塊 殿村 端
 羅 僅 石 人 斉藤健二郎
 假 人 江添栄二郎
 造 船 江添栄二郎
 木 中村一雄
 群 像 有馬良昨
 回 生 山本みどり
 鉄 骨 小無田 泉
 聖 像 飯田実雄
 はばたき 上出穂美
 黄色い半円 横田智男
 落 日 山田貞実
 花と孔雀 西村美代子
 分 裂 和氣史郎
 抵 抗 和氣史郎
 雪の竜江村 関 竜夫
 オークルの花 川上きよ子
 静 物 東 英学
 傀 偏 北 山 茂
 禿 鷹 浦上正則
 静 物 正信茂登喜
 静 物 小林数雄
 拡 げ 物 中 嘉通
 オロケ 中 嘉通
 森 の 中 齊藤満温
 風 高 間 惣七

赤と青と。高間惣七
 室内。錦織恭一
 風景。奥村日出雄
 絶望。西山吉夫
 飯眠。岡本陽
 作品。後藤昭人
 園い。堀口千鶴雄
 二。大櫛豊
 静。人。塚本文夫
 一。人。松樹路人
 原。野。藤。明夫
 表。微。遠。藤。明夫
 静。物。梅。林。文夫
 船。付。赤。尾。長二
 汚れた空気。木下新
 貧しい家。池野清
 足を洗う女。池野清
 虫の舞。池島勤治郎
 はに。わ。酒。井。寿雄
 月。に。夜。辻。正人
 アレキ。西。田。哲郎
 静。物。高。橋。正武
 郊外。藤。原。常次
 作。品。下。山。良範
 落日。市。信。野。和子
 明。暗。B。A。岡。部。繁夫
 落。日。大。沼。貞夫
 漁師の家族。大沼貞夫
 受難。赤。星。孝
 杜。三。浦。洋一
 静。物。中。山。巍
 二人の女。

二。人。梁。沢。清。広
 アトサスプリ。野口弥太郎
 (硫黄山)
 オイナオシ浜
 魚によるコンボ
 ジシヨン
 魚。遠。内。勝。二
 浜。斎。田。武。夫
 喜劇(レア)。吉。田。照。子
 コンボジシヨン。吉。田。修。三
 揺ぐ。樹。芝。田。米。三
 果物とオウム。西。野。久。子
 朝やけの鯉。西。野。久。子
 母。子。小。林。茂
 作品。品。B。松。本。富。二
 作。品。岸。正。豊
 水。辺。岡。秀。四。郎
 作。品。中。井。克。巳
 幾。河。水。島。清
 街。心。吉。村。裕
 傷。心。秦。森。康。屯
 再。会。熊。代。駿
 対。話。熊。代。駿
 静。物。原。田。直。種
 仏。願。殿。南。照。賢
 花。の。幻。想。平。山。寛。治
 古。里。八。木。昌。一
 鳥と花と少女。河。野。剛
 帽子の二人。岡。田。寿。子
 洪。水。川。戸。二。郎
 有。明。海。足。達
 祭。壇。中。谷。健
 ひざしの中。中。谷。健
 廃墟の華。上。田。朗

白。い。馬。横。地。康。国
 帯。芥。松。山。幾。三。郎
 樹。蔭。裸。婦。島。村。三。七。雄
 魚。勝。俣。泰。蔵
 網。干。舟。船。市。村。力
 公園の立樹。早。川。すみ
 等。ひ。から。び。た。もの。高。橋。秀
 静。物。富。士。本。昇
 作。品。A。富。士。本。昇
 禽。舎。尾。崎。良。二
 汽。場。猪。股。勇
 花。車。竹。岡。羊。子
 狩。獵。関。根。勢。之。助
 らんぶとガス容。鈴。木。正。教
 器。鈴。木。正。教
 会。話。後。藤。可。与。子
 夜。釣。の。男。西。山。舜。之。助
 海。釣。の。女。永。井。功
 風。景。永。井。功
 作。品。河。西。伍。男
 羽。物。橋。喜。久。雄
 植。物。橋。喜。久。雄
 教。堂。大。河。久。恒。章
 家。會。志。村。計。介
 裸。青。小。出。三。郎
 井。川。ダム。工。事。中。村。綾。子
 出。土。芝。田。耕
 古。世。人。芝。田。耕
 漁。港。大。矢。迪。雄
 街。角。

アパルトの見え。小。原。稔
 る。静。物。小。原。稔
 吊。柿。と。風。車。小。原。稔
 引。越。し。の。男。幸。形。栄。治
 鍛。冶。屋。杉。実。平
 日向の海村。池。田。実。人
 樹。幹。沢。村。美。佐。子
 初。秋。関。口。誠
 馬。と。人。間。花。野。五。壘
 女。子。像。尾。形。幸。雄
 母。子。像。山。中。馨
 魚。な。ど。本。多。豊
 突堤のある港。久。保。一。雄
 雪。の。朝。市。久。保。一。雄
 山。麓。清。水。鍊。徳
 赤。川。西。村。伊。勢。松
 風。景。西。村。伊。勢。松
 静。物。石。原。栄。子
 秋。山。山。辻。敏。雄
 鉦。山。山。辻。敏。雄
 静。物。山。辻。敏。雄
 街。物。荒。木。絢。子
 二。人。伊。藤。洋。一。郎
 花。と。仏。陀。鳩。川。誠。一
 美女と空の対。黒。住。貞。夫
 建物と空の対。黒。住。貞。夫
 決。落(夏)斎。藤。長。三
 村。落(冬)斎。藤。長。三
 流。水。石。橋。幸。子
 鴨。宮。風。景。古。宮。節。二
 赤。衣。の。婦。人。林。武

熱。海。風。景。中。周。冊。夫
 黒。い。人。間。中。周。冊。夫
 山。の。静。佐。々。木。弘
 本。人。入。江。一。子
 齒。科。医。生。阿。部。洋
 私。の。モ。ニ。ユ。マン。阿。部。洋
 窓。荒。井。不。可。志
 しんきろう。来。栖。重。郎
 遺。跡。星。野。喜。代。子
 女。性。三。態。星。野。喜。代。子
 風。景。菅。野。輝。男
 卓。上。静。物。吉。田。西。縉
 畑。馬。頭。繁。次。郎
 牡。馬。頭。繁。次。郎
 馬。と。日。蝕。馬。頭。繁。次。郎
 夏。の。午。后。鈴。木。亜。夫
 夏。の。日。鈴。木。亜。夫
 舟。景。大。内。の。ぶ。子
 花。景。大。内。の。ぶ。子
 風。景。大。内。の。ぶ。子
 岡。の。町。江。島。和。男
 阿。の。町。江。島。和。男
 ほ。し。あ。み。梶。谷。寿。雄
 母。子。竹。内。豊
 コンボジシヨン。谷。川。歳。男
 山。中。湖。熊。谷。登。久。平
 椰子の実。杉。崎。正。子
 合。奏。杉。崎。正。子
 女。子。佐。川。敏。子
 う。つ。く。ま。る。女。子。佐。川。敏。子
 花。品。水。馬。道。子
 作。品。B。中。村。善。種
 人。は。棲。む。鈴。木。保。徳

積 藁・鈴木保徳
 静 塚田とほる
 岬(伊豆赤沢)・高島達四郎
 唐松と雲
 街 柳瀬正代
 作 品 ① 赤星信子
 黒い 壺 豊田逸二
 栗い 大地 宮島佐一郎
 青い 大地 加藤充男
 白い 大地 加藤正幸
 北海道(日高)・松島正幸
 若い 人 吉村清
 田園 (A) 高須頼子
 森 閉された門 狭間二郎
 灰色の建物 下平善三
 薪割る 男 小島善太郎
 カンナ 小成凌市
 拘置所風景 織田彩子
 コムボズイン
 ダリ ヤ
 街 佐藤洋
 作 品 ② 松島スズ子
 ハ 洞 西川武人
 大 洞 緑川広太郎
 林 道 白石定生
 家 々 松原久明
 たてる 女 松尾一枝
 月・塔

ヒラメ 佐藤 仁
 セイウン 尾崎寛道
 子供のいる風景 下川都一朗
 白い 村 菅野恵介
 丘陵 秋 野恵介
 静 話 山中としみ
 対 海 秋 景 児島善三郎
 熱 菊 花 森 永 凡
 菊 海辺の構図 菊地精二
 海 森の若者たち 鳥居敏文
 農 風の若者たち 鳥居敏文
 農 風の若者たち 鳥居敏文
 港 風 景 佐々木毅
 屋台の静物 条原国治
 には 西さだ子
 作 品 上林千珂
 樹 木 核井浜江
 風 景 吉平泰明
 作 品 景 鉄指公蔵
 風 景 景 門坂達朗
 シロマヌクナ女
 鉄 骨 C 浅羽保治
 シ 工場 帯 梶川清彦
 工 護 岸 工事 寺尾半次郎
 花 下 街 浮島弘行
 六 号

白い 風景 伊藤 隆
 森 中の道 斑目秀雄
 畑 勝谷富佐子
 厨 コンサート 生田翠子
 港 遠望 若林和夫
 網 福島正治
 呪 縛 加来保
 磯 木村武輝
 海 底 佐藤政輝
 機 械 山口孝雄
 風景 坂道 三枝大二
 火山灰地・樹立 森 健
 街 江川平三
 卓 上 武田和美
 うつむく女 森 通
 静 物 宮之原和親
 修 理 吉田一雄
 奮 起 斉藤 実
 樹 齋 中富くい子
 魚 室 田坂英典
 温 室 能登谷正樹
 馬 喰 能登谷正樹
 石 焼 場 世利徹郎
 ドルメン 今井憲一
 彷彿 風 景 稲森祐一
 お祭り 風 景 中村節也
 火 口 壁 雲 中村節也
 風 景 雲 中村節也
 行 風 景 藤岡 翠
 河 口 朝 奈良原 浩
 町の 譜 吉浦摩耶

車 二宮 毅
 瓦 屋 根 佐野 賢
 景 谷川 義和
 船 アクロバット 吉岡 一
 風 景 品 青山 照夫
 作 品 景 植田 完治
 風 景 品 青山 照夫
 木と土と石 青柳 暢夫
 枯木と水 片山 公一
 家と木と水 片山 公一
 魚 池 新津 文紀
 山 池 新津 文紀
 広 場 夜 佐々木 憲一郎
 製 油 所 佐原 光
 静 物 飯田 健治
 い 骨 植松 真治
 港 骨 植松 真治
 鉄 骨 植松 真治
 作 品 井上 寛信
 光 輪 橋本 太郎
 人物 構成 A 砂田 友治
 シ 人物 構成 B 砂田 友治
 石 江口 良
 卓 本 豊
 猿 鳴 峽 徳永 豊
 山 峽 徳永 豊
 叫 び 吉田 俊雄
 静 夜 小笠原 ヒサオ
 志賀高原にて 岡部文之助
 冬 枯 岡部文之助
 東 中野 風 景
 静 物

穂高岳新雪 岡部文之助
 秋の巴里郊外 山田 栄二
 静 物 愁
 旅 と 磨屋 愁
 花の中の花 シューブルーズ
 窓の冬枯れ
 花と夜 秋愁
 黄昏のカーニバル シューブルーズ
 南 欧 の 夢
 宵 の 花
 紫 の 花
 モンテカルロ
 赤 の 花
 群 の 花
 崖 の 花
 シ 松島 一郎
 シ 磯野 慶子
 シ 鬼木 美代子
 シ 黄色いアロハの 大保 久泰
 シ 山田耕筈先生
 シ 野外 裸婦
 シ 夕 眺 の 風景 入重 実
 シ 花 A 池田 恭子
 シ 奇妙な店 長 秀彦
 シ 水母 今 西政 司
 シ 作 品 本 塾都志 子
 シ 研 究 室 岸口 順子
 シ 厨 子 卓 田 中 行 一
 シ 山 手 風 景 梶原 幸雄

鳥	聞く	人	。字根元警	群	ろ	り	宇藤義一	裸	の	鳥	高岡陸	昼	と	夜	岡村芳男	象	と	白の高杯	福山和太留					
二つの	傘	寺沢宏三郎		鳥の	墓	井上勝衛		森と	水	と	斎藤紅一	漁	船所	B	福見正明	黒と	白の高杯	額田晃作						
かつぐ	女	坂井俊雄		赤い	つぼ	利水嘉治		花	景	柳沢毅一		造園	の郷愁	吉岡美朗	湖	畔	静物	篠原邦夫						
ひまわり	浜	古瀬虎龍		風	景	佐藤富治郎		樹	立	鷯川五郎		田園	の郷愁	石村洋子	夜	あ	け	杉原香子						
ソ像と人	と	横山明男		リボン	を結んだ	岡本信		静	物	山川磐夫		え	対置された	妹尾民子	街	の	一角	溝部嗣雄						
化身(月・ラン)	。加藤陽			母	子	像	広瀬通秀	樹	物	高野次郎		赤	い	家	西尾武俊	い	ん	と	高外海岐夫					
解	体	白野文敏		海	の	群	峽	矢崎	牧	廣		木	の	朝	細見良彦	下	町	井上博						
楽	園	岩瀬憲一		舟	大	工	稲田颯吾	カ	1	屋	鈴木圭治	森	の	妹尾民子	死	木	齊藤卓布							
デッサン	会	斎藤鉄洲		山	と	樹	高木幸太郎	魚	ガスタンク	の	見	西川幸雄	二つの	機	岸	萩原勇雄	馬	と	山	佐藤卓布				
井戸のある	静物	秋田寅雄		花	と	樹	岡本智恵	ガ	ス	タンク	の	見	西川幸雄	二つの	機	岸	萩原勇雄	馬	と	山	佐藤卓布			
静	物	安川博		習	作	菊地忠彦		石	切	山	脈	須永正道	変	電	所	佐野久	無	語	在	生	鳥居耕平			
静	物	本間弘之		は	に	わ	群	想	ら	乙	女	宮崎弘	卓	上	静	物	A	向	井	タ	カ			
風	景	織田武義		建	物	神谷真恵		風	建	物	と	青	い	木	立	沢	田	元	美					
風	景	青木昌三		裸	婦	水原房次郎		キ	リ	キ	リ	影	佐	藤	公	一	埴	切	風	景	岡田義之輔			
風	景	樋口加六		室	内	小野垣哲之助		キ	リ	キ	リ	影	佐	藤	公	一	埴	切	風	景	岡田義之輔			
花	瓶	など	小瀬光子	長	崎	中村幸平		聖	者	の	楽	園	海	老	原	喜	之	助						
奔	馬	赤堀佐兵		花	エ	口	奥田淳弼	森	の	祭	典	四	宮	礼	吉	窓	コ	ン	ポ	ジ	シ	ヨ		
太	陽	馬	赤堀佐兵	南	瓜	など	安田比良久	牛	の	祭	典	四	宮	礼	吉	窓	コ	ン	ポ	ジ	シ	ヨ		
月	天	中	佐一郎	鬼	百	合	と	自	画	像	山	元	慶	子	オ	シ	リ	ス	。松	崎	真	一		
オ	シ	リ	ス	鬼	百	合	と	自	画	像	山	元	慶	子	オ	シ	リ	ス	。松	崎	真	一		
ミ	ノ	ス	。松崎真一	花	幸	福	なる	家	の	う	妹	尾	正	彦	え	の	空	の	散	歩	三	塩	雅	博
犬	の	散	歩	幸	福	なる	家	の	う	妹	尾	正	彦	え	の	空	の	散	歩	三	塩	雅	博	
静	物	三	塩	雅	博																			

電 氣 炉 巨 理 尚 寛
 哀 し み 一 瀬 繁 彦
 漁 港 山 中 茂 樹
 有 限 的 存 在 の 自 本 泉 喜 好
 覚 大 田 俊 子
 鵝 巴 剎 堀 尾 貞 治
 ひ と り 岡 野 マ チ エ
 裸 婦 二 人 内 田 敬
 雪 山 杉 田 正 雄
 木 立 菊 地 義 彦
 漁 港 池 上 三 郎 右 衛 門
 貝 が ら の あ る 静 門 佐 々 木 耕 成
 牛 寺 林 金 治
 馬 A 岡 村 義 敏
 窓 外 田 中 舍 密
 た て も の 安 達 鉄 也
 静 物 大 鷲 豊 文
 裸 婦 林 ひ さ 子
 動 物 の い こ い 菅 原 稔 三
 魚 浜 田 芳 硯
 人 物 榊 原 萬 枝
 壺 と 女 山 田 三 千 子
 木 立 竹 田 稔
 ろ く 立 松 永 繁 雄
 材 木 の あ る 風 景 尾 崎 一 雄
 水 辺 矢 野 徳 一
 白 い ピ ン の あ る 静 物 家 入 寛 助
 静 物 静 物 春 日 久 志
 塑 像 の あ る 室 九 里 保
 卓 上 静 物 吉 島 昭 子
 と ん び が い つ も 吉 島 昭 子
 きて と ま る

井ノ頭公園 飯田清子
 海辺の漁婦 鞍掛徳磨
 スンガリ 佐久間保雄
 白い壁 伊藤定夫
 甲 板 山崎秀治
 建 物 横田敬幸
 相 模 湖 正木智海
 映 像 川端義彦
 運 河 佐藤吉五郎
 建 物 A 青木生吉
 海 辺 の 街 宮本浩二
 一 人 お か し い 人 井出文子
 冬 の 山 岡崎善夫
 樹 の 清 水 和 男
 す る め 真 藤 ア ヤ
 船 の あ る 静 物 田 村 靖 明
 海 の あ る 風 景 長 谷 川 純 一
 オ ル ガ ン 清 水 康 和
 あ お い ク レ ー ン 川 崎 治 義
 カ ラ ム 荒 木 貞 人
 乱 品 大 内 弘
 作 品 B 尾 口 馨
 胎 動 古 田 安 夫
 干 網 B 福 富 栄
 夕 暮 永 瀬 正 己
 肉 屋 の 秤 益 田 遠 吉
 工 事 小 笠 原 昭 司
 人 と 馬 上 条 明 吉
 高 地 の 夏 藤 原 清 澄
 群 れ 柳 沢 真 一
 窓 栗 山 な か の
 斗 技 久 保 田 明 通
 作 品 A 井 岡 友 諒

著 想 松 原 敏
 秋 景 A 沼 沢 芳 夫
 風 景 岡 田 フ ク
 静 物 坂 田 武 夫
 緑 の フ ォ ル ム 米 谷 哲 夫
 働 ら く 女 (二 人) 黒 川 義 己
 造 船 所 星 加 要
 木 立 立 星 加 要
 開 幕 鈴 木 慶 則
 首 の あ る 空 間 B 鎌 田 和 子
 コ ヤ ネ コ ・ コ ネ 上 野 菊
 夏 庭 小 松 恒 太 郎
 庭 有 る 風 景 中 沢 清
 ノ サ ッ プ 風 景 水 町 千 代 子
 ブ イ と ア ン カ ー 長 島 常 吉
 港 の 裏 道 宇 留 野 寿 男
 工 場 の 島 湯 川 美 千 子
 み の り 清 水 監
 2-15 中 島 啓 匡
 月 と 水 町 田 京 子
 追 わ れ る 馬 佐 野 益 男
 ア パ ラ ー ト Q 大 塚 三 千 代
 ス ト ー ル の あ る 盛 装 荒 井 勝 子
 龜 (か め) 中 野 修 行
 骨 を は こ ぶ 天 使 山 田 文 子
 海 の 見 え る 窓 際 大 野 鉄 雄
 動 物 木 村 健 児
 飲 木 佐 藤 道 功
 夏 (十 和 田 湖) 長 谷 川 善 四 郎
 あ ま の じ や く と 大 庭 シ ヅ 子
 ほ と け た ち 殿 白 鳥 三 郎

教 会 大 坪 浩
 橋 德 嵩 光 造
 鳥 松 崎 八 笑 亭
 コ ム ポ ジ シ ョ ン 高 崎 文 夫
 (バ) ひ ま わ り 松 村 薫
 静 物 新 見 棋 一 郎
 風 景 藤 井 茂
 建 物 の コ ン ポ ジ シ ョ ン 坪 井 甚 喜
 磯 の 人々 (緑) 寺 沢 良 元
 働 く 人々 (緑) 大 石 和 寿
 黄 色 い 仔 馬 服 部 与 一
 機 械 笠 松 宏 有
 長 崎 の み や げ 店 平 沢 一 晃
 坐 人 森 田 修
 荷 上 げ 場 A 松 藤 真 澄
 作 品 A 岩 永 忠 喜
 准 砵 と 不 動 木 村 初 男
 街 と 主 人 佐 野 比 呂 志
 雞 と 主 人 久 保 吉 文
 牛 と 家 岡 田 俊 夫
 横 浜 風 景 菊 地 茂 雄
 藍 那 西 条 茂
 塔 小 田 原 久 生
 ダ リ ヤ な ど の 静 物 浜 田 宜 伴
 物 景 井 原 敏 夫
 風 景 浅 田 欣 三
 牛 飼 い 斎 藤 敏
 母 子 像 柳 沢 宏
 機 関 区 風 景 田 中 米 吉
 作 品 B 楠 瀬 盛 一
 貝 が ら 桶 瀬 盛 一

鳥 の 井 戸 門 脇 幸
 蔵 よ こ た え る 鈴 木 武
 子 供 松 崎 禪 戒
 静 物 山 口 義 朗
 モ ッ コ の アル 作 高 田 文 男
 業 場 兵 士 た ち 後 藤 孝 三
 裸 婦 と 鳥 松 島 マ サ ミ チ
 裸 婦 と 鳥 細 野 猛
 鳥 を 飼 う 小 女 金 丸 啓 子
 閉 さ れ た 寺 木 山 修 一
 院 閉 さ れ た 寺 木 山 修 一
 ズ リ 山 遠 藤 正 三
 た き 火 山 中 德 次
 情 愛 平 井 憲 迪
 作 品 A 渡 辺 正
 コ ン ポ ジ シ ョ ン 春 名 満 郎
 モ デ ル A 渡 辺 鴻
 人 体 B 小 幡 博 志
 サ ー カ ス (象) 江 口 賢 一
 偶 人 の 歩 み 山 田 美 瑩
 い つ く し 有 本 弘
 海 の 幸 鯨 津 政 男
 女 の 幸 津 藤 論
 わ か れ 国 清 勝 美
 船 と ろ く ろ 四 方 長 夫
 は し り 町 田 勝 利
 捕 獲 さ れ た 貝 佐 藤 辰 治
 蔭 の 中 の 貝 藤 辰 治
 ト ン ネ ル の あ る 風 景 恩 田 秋 夫
 と べ な い 鳥 サ カ ウ エ 栄 治
 鳥 と 女 下 垣 内 末 寿

恐 帶 K・T・山口操助
 連 R・P・
 胎 成 横井礼以
 芥子とアザミ
 洞窟の写生
 若も
 試作の秋保正三
 のろい歩み。小島真佐吉
 原野
 北方の港
 幻想 岡田登志男
 鳥典 中西勝
 古典 中西勝
 日本魚 中西勝
 狂宴
 工場地帯
 不安なる兆 松村三之
 壁 (二日堂) 土岐国彦
 シ (経蔵)
 裏道 藪野正雄
 観光地 藪野正雄
 魚市場 底 眞野伝左衛門
 海 底 眞野伝左衛門
 雪 景 桑山節生
 果実 中村健而
 逆水門 青木 寿
 照水 青木 寿
 水 青木 寿
 神々の失墜 浜田 信
 若き太子とヤシ
 ヨダラ
 秋芳黄金柱 松井正雄
 祭囃子 近藤嘉男

日本人(四部作) 近藤嘉男
 煙 島岡 実
 火と煙 鍋井克之
 梅林の山 西村 功
 赤い山
 時間表をみる人
 たち
 ○時五分
 ホテルの給仕
 文化生 熊野俊一
 若人 古賀 肇
 樹想 A 古賀 肇
 詮索 窪 三郎
 二 人 東山紗智子
 ジブシ 東山紗智子
 鏡の前の二人
 静物 中谷ミユキ
 カスタネット持 神保俊子
 つ人 岡田 忠
 ヒマワリ 岡田 忠
 ヨット製作所附 大兼 実
 近 高 原の製材所
 清里の教会
 類脚・百合など 黒田重太郎
 芽出し頃の芦の
 湖 華 果 静 物
 太田の沢水 清公子
 海 辺 原 勝 四郎
 最後の日曜の釣
 り 最後の日曜の釣
 港 素 描
 カルズ

少 女 フォンタナ
 道 化 山本直治
 廃 虚の窓 山本直治
 港 ラントレ 佐伯米子
 マンデユシヤゲ
 白い花 松田 豊
 女 ち 松田 豊
 大 花 薊 正宗得三郎
 松 林 正 宗 得 三 郎
 アトリエと八日
 の月
 陽のあたる日 西田静子
 野 外 裸 婦 津田周平
 菱蟹とサザエ
 室内 裸 婦 遠山陽子
 考 え 倉 大石俊彦
 舟 倉 大石俊彦
 漁 夫 の 家 田村孝之介
 部 屋 田村孝之介
 裸 婦 田村孝之介
 故 郷 の 道 峰 岸 義 一
 風 の 中 栗 原 信
 山 門 栗 原 信
 裸 婦 宮本三郎
 農 夫 宮本三郎
 薪を運ぶ人
 町 D 斎藤芳子
 サン・ジェルマ 成井弘文
 ア・ラ・ロートリ
 洞窟 中野安次郎

高 原 中野安次郎
 男 滝 久野修男
 石 調 廻 加藤敏子
 同 調 廻 加藤敏子
 夜 の 構 想 島田しづ子
 群 像 II 島田しづ子
 ト レ ロ 吉田富士夫
 ゴ ヲ ウ 吉田富士夫
 脈 おどけの場 鈴 木 博
 蒼白なる宴 A 吉野 純
 虫 B 吉野 純
 石 の 花 吉野 純
 最後の晩餐(レ
 オナルドの作よ 牧 ハルナ
 Notre-Dame
 De Paris 清 原 昭
 講 獄 花 清 原 昭
 地 獄 花 清 原 昭
 煩 悩 宮 沢 貞子
 胎 宮 沢 貞子
 月 光 会 沢 貞子
 雨のネオン
 種 幽 霊 眞 鍋 博
 蜘蛛 一 族 眞 鍋 博
 右手炎上
 消えてゆく川 宮 島 美 明
 街の母子 宮 島 美 明
 居 酒 屋 堀 江 万 寿 男
 屋 敷 町

不 空 堀 江 万 寿 男
 ミラノのドーモ 堀 雅 隆
 サンチエロマン
 ロクセロワ
 干された者達 須 摩 と お る
 (二紀實)
 狂 声
 生 き る
 地球観測年 鈴 木 猛 人
 夜曲(ビルと教 山田 一 雄
 会堂)
 鮫とラムプ
 魚と少年 林 健 造
 脇 役
 日本魚 中西 勝
 天体を食う人々
 花を食う魚
 アクバット日
 本
 海岸 風景 山本秀臣
 山 景 山本秀臣
 よ せ や
 港都の夜景 藤本かをり
 青いリンゴ 丸 樹 長 三 郎
 パ イ プ 上 野 与 一 郎
 鯨 な ど 岩 月 虎 雄
 孔雀と小供 藤 田 礼
 種 職 上 島 悦 三
 作 品 D 印 牧 邦 一
 遺 族 三 宅 輝 夫
 杜の精霊(木) 山 中 恒 夫
 交叉する枝(木)
 アイヌ親子 黒 沢 三 郎
 仏 師 C 市 野 長 之 介

仏師 A市野長之介
 空の物 △小島謙
 静物 △中原四十二
 鮭と枯れた瓜 △
 羅籠 △島葵
 浮標を積んだ舟 △北島達夫
 砂丘 △宮永岳彦
 作品 △高階重紀
 街品 △結田信
 子供達と山羊 △森谷讓太郎
 沈むケーソン △堀場良夫
 砂利とりのあと △内海九郎
 流亡 △
 貯酸タンクのある風景 △會我芳子
 喜劇日本(B) △鴨居玲
 山羊と俱に △芝野武男
 運ぶ △石腸悦三
 ガラス器と花 △加藤雪子
 聚落 △伊藤歳夫
 男と女 △小林莊利
 或る風景 △三浦和志
 裸婦 △瀬尾暹
 群像(あのころ) △北村脩
 抱かれた鳥 △
 彫刻
 作品 Bノ三。坂上政克
 作品 Cノ二。長野隆業
 擬透明体作品 C
 ノ三
 Cノ四 △

作品 品。斎藤聖香
 作 (一) 丹羽康晴
 品 (二) 三越
 裸婦。松村外次郎
 若い女 △滝川美一
 N 婦。中川為延
 あ E △新谷秀雄
 雲 お △北川薫
 四 十 五 △真鍋忠
 エスキース(女) △堀野秀雄
 裸女 △水野欣三郎
 女の坐像 △長谷川八十
 少女トルソー。菅沼五郎
 女 △八柳恭次
 人 △
 世界現代藝術展 11—11月10プ
 リヂェストン
 東京18 岡本謙次郎
 読売22 芳賀徹
 朝日24 隆
 読売夕刊24、29 滝口修造
 美術手帖12月 東野芳明
 4回新作木版画展 11—16 銀
 座・松坂屋
 2回陶展 11—15 京都府ギヤ
 ラリ
 仲田好江個展 11—15 大阪・
 梅田画廊
 日本美術院同人院友新作展
 11—16 東京・大丸

日本藝術院会員受賞者美術展
 12—20 日本橋・白木屋
 吉岡松月作陶展 12—17 大阪・
 三越
 日本絵巻物展 13—11月10 大
 阪市立美術館
 今関一馬個展 13—18 村松
 (批) 三彩11月(93号)、美術
 手帖12月(東野芳明)
 金子真珠郎個展 13—18 村松
 (批) 三彩11月(93号)、みつ
 糸11月(No.628)(針生一郎)、
 美術手帖12月(東野芳明)
 片山和子個展 13—18 村松
 矢島美枝子個展 13—17 襪画
 廊(批) 美術手帖12月(東野
 芳明)
 村山八王子絹染織布特別展
 13—22 光輪閣シルクギヤラ
 リ
 境野一之個展 14—19 養清堂
 大川三平個展 14—19 丸ビル
 中央公論社画廊
 吉見久城、由木礼二人展 14—
 20 サトウ
 平松讓個展 14—16 銀座・松
 屋
 8回水彩展 14—19 文房堂
 山内秀臣、張替真宏二人展
 14—18 美松画廊
 金原昌平個展 14—19 サエグ
 サ
 古山保子個展 14—19 トキワ

画廊(批) アトリエ12月
 (No.310)(井上長三郎)
 小山夏修、丸山東美男、岡田正
 二、藤江志津油絵展 14—19
 文房堂
 林麗利個展 14—19 京橋・中
 央公論社画廊
 高橋庸男個展 14—19 造形画
 廊
 白描やまと絵展 14 東京国立
 文化財研究所
 林優衛造作展 15—20 プリヂ
 ストン(批) 東京夕刊17(裕
 伊之助)、産経夕刊18(日野)
 三彩11月(43号)(多田信一)
 菊池良爾日本画展 15—20 日
 本橋・三越(批) 産経夕刊
 18(横川)、萌春50号、三彩11
 月(93号)(多田信一)
 国松登個展 15—19 フォルム
 (批) みづゑ11月(No.628)
 (針生一郎)
 石川県工芸美術展 15—20 日
 本橋・三越
 2回シマストーン複製巧藝展
 15—20 日本橋・三越
 中村貞以日本画展 15—20 日
 本橋・三越(批) 東京18(河
 北倫明)、毎日19(船戸洪吉)、
 萌春49号
 加賀染織衣裳陳列会 15—20
 日本橋・三越
 サム・フランスと今井俊満展

15—20 渋谷・東横
 (批)
 読売夕刊15 滝口修造
 東京夕刊18 桑
 毎日20 徳大寺公英
 日経24 富永惣一
 美術手帖12月 東野芳明
 アトリエ12月 (白木正一
 (No.310) 岡鹿之助
 1回異色作家展—竹久夢二特集
 15—20 渋谷・東横
 5回鳥取民藝新作展 15—20
 渋谷・東横
 野中春清作陶展 15—20 日本
 橋・高島屋
 寂の茶陶展 15—20 日本橋・
 高島屋
 1回十月会洋画展(林武、田
 近憲三の推薦した中堅作家13
 名—島あふひ、中谷ミユキ、
 野村千春、田中君子、熊岡ま
 ゆみ、兒玉佐規子、兵頭和
 男、木沢定一、俵有作、馬越
 祐一、柳田久、松永和夫、森
 清次郎) 15—20 日本橋・
 白木屋(批) 産経夕刊18(日
 野)、東京夕刊18(桑)
 戸川喜久良作品展 15—21 安
 藤七宝店画廊
 群芳社美術展(武者小路実篤、
 木内克、棟方志功、麻生三
 郎、井上長三郎、原勝郎、雛
 波田龍起、山本豊市) 15—30
 池袋画廊

潮会洋画展(岡、小糸、小磯、中山、野口ら十六名) 15—20 上野・松坂屋
 龍村平蔵作錦帯展 15—20 日本橋・高島屋
 1回のみみずく会展 15—20 渋谷・東横
 河内山賢祐彫刻個展 15—18 日本橋・丸善
 日本橋・丸善
 330AC展 15—20 名古屋・文天堂画廊
 青龍社展 15—20 神戸・大丸
 吉田一夫、山下明油絵二人展 15—20 大阪・阪急
 山本陶秀新作陶展 15—20 大阪・阪急
 7回墨洋画展(網千戸根、水波博、中村忠二、岡沢長生、山本蘭村) 16—20 画廊ひろし
 美術文化五人展(原田圭司、加藤純雄、尾崎キクオ、森義孝、小関通) 16—21 三省堂
 郭仁植、中島快彦絵画と彫刻作品展 16—31 新宿・風月いちい会展(田中佐一郎、中間冊夫、小出三郎ら独立会員五名) 16—19 ヤナセ(批)
 産経夕刊18(日野)、東京夕刊18(桑)
 3回中村玲方個展 18—23 銀座・松屋(批) 萌春50号

4回寺田春次作品展 18—23 東京・大丸(批) みづゑ12月(Mo.arts)(嘉門安雄)
 新倉喜作個展 18—23 樺画廊
 新東京百景展 18—23 銀座・松坂屋(批) 産経夕刊18(日野)
 みの水淳個展 18—23 村松愛知総合文化財展 18—11月13 名古屋・愛知県美術館
 名古屋・愛知県美術館
 金田辰弘個展 18—24 大阪・白鳳画廊(批) 美術手帖12月(杉本亀久雄)
 浅生田光司個展 19—24 村松6回視察展 19—23 美松画廊
 郭仁植個展 19—24 村松(批) 美術手帖12月(東野芳明)
 變遷石版画展 19—24 村松(批) 美術手帖12月(東野芳明)
 岡戸・金・岩間日本画三人展 20—31 上野・エバ画廊
 吟峰会日本画展 20—22 画廊サン
 開館六十周年記念特別展「平安時代の美術」 20—11月15京都国立博物館
 1回グループ拓展(黒坂晴雄・彫、高野徐一・油、宮下勝行・油) 21—26 サトウ(批)
 美術手帖12月(東野芳明)
 2回伍伸会展(山口薫、森芳雄、香月泰男、牛島憲之、矢橋六郎) 21—26 サエグサ

[批] 東京18(河北倫明)、毎日25(船戸洪吉)、朝日26(隆)、三彩12月(94号)(中原佑介)
 矢口洋個展 21—26 日本橋画廊(批) 朝日26(隆)
 22回現代版画展 21—26 渡辺木版画店
 35回龍駿介富士油絵展 21—22 日本橋倶楽部
 二紀会血絵展 21—26 トキワ画廊
 1回漁樵会展 21—26 ギャラリー・創苑(批) 東京夕刊24(桑)、三彩12月(94号)
 金曜会展 21—26 ヤナセ
 11回正倉院展 21—11月3 奈良国立博物館
 中沢弘光近作展 22—27 日本橋・高島屋(批) 東京夕刊24(桑)
 光風会秋季会員展 22—27 日本橋・高島屋(批) 東京夕刊24(桑)、毎日25(船戸洪吉)
 池田勇八彫塑展 22—27 渋谷東横
 岡常次個展 22—25 日動画廊
 大野鈍阿遺作展 22—27 日本橋・白木屋
 橋本三郎近作展 22—27 フォルム(批) 朝日26(隆)、三彩12月(94号)
 1回グループ葉展 22—27 新宿・ブランシエ

高瀬捷三油絵展 22—28 画廊ひろし
 南画院同人展 22—27 上野・松坂屋
 1回グループTUCHI展 22—26 文房堂
 茶道具展観(奈良興福寺名木「花の松」による) 22—27 日本橋・高島屋
 梅原龍三郎、長与善郎、武者小路実篤三人展 22—27 日本橋・三越(批) 東京夕刊24(桑)
 風霜会日本画展 22—27 日本橋・三越(批) 萌春50号
 黒田辰秋木漆藝作品展 22—27 日本橋・三越
 潤工会工藝展 22—27 新宿・伊勢丹
 18回半弓会洋画展 22—27 大阪・阪急
 島田修油絵個展 22—27 大阪阪急
 鍋井克之小品展 22—27 大阪とりみや美術店(批) 美術手帖12月(杉本亀久雄)
 京都産業美術展 22—28 京都市美術館(批) 工芸ニューズVol.25—12
 洋画近作三人展 23—27 富山ホテル・ホール
 日本木彫会名古屋展 23—28 名古屋・中村百貨店画廊

立花みどり乙展 23—28 なび
 鎌倉室町時代総合展「中世の美術」 23—11月24 東京国立博物館(記) 萌春50号特集、三彩12月(94号)(北川桃雄)
 福沢一郎近作油絵展 24—30 兜屋
 [批]
 東京夕刊26 岡本謙次郎
 朝日26 隆
 毎日27 船戸 洪吉
 読売夕刊11月1 中原 佑介
 三彩12月(94号) 中原 佑介
 美術手帖12月 東野 芳明
 みづゑ12月 植村鷹千代
 安藤憲三油絵個展 24—26 銀座・東電サービスセンター
 張替正次、田辺竹次二人展 24—28 美松画廊
 美術文化関西グループ展 24—29 大阪・丸善
 古美術と茶器展 25—27 大阪藤田美術館
 熊川昭則個展 25—30 村松野口園生人形展 25—30 銀座松屋
 武者小路実篤個展 25—30 銀座・松坂屋
 巨匠展(靱彦、清方、龍子、桂月) 25—30 東京・大丸
 小野佐世男展 25—30 池袋・西武

知られていない鎌倉の絵画展

25—11月20 鎌倉・国宝館

佐野猛夫新作染色展

25—29 京都府ギャラリー

クラフティック・アート展

25—30 村松〔批〕朝日30(隆)

常盤山文庫秋の特別展

26—27 鎌倉・常盤山文庫

2回座標展

26—11月3 神戸・三越

林悽衛遺作小品展

26—30 日動画廊

ユーゴスラビア中世壁画展

26—11月24 鎌倉・近代美術館

〔批〕

読売夕刊11月1 中原 佑介

東京夕刊11月17 三雲祥之助

毎日22 倉田 三郎

〔記〕

三彩12月(94号) 柳 宗玄

回グループ「ラウイ」油絵展

26—11月1 銀座画廊

中村貞以個展

26—31 大阪・三越

浅井忠回顧展

28—11月2 求龍堂画廊〔批〕朝日30(隆)

東京夕刊31(桑)、毎日11月1

(船戸洪吉)

島田威郎個展

28—11月2 サトウ

3回伊東深水新作展

28—31 兼索洞〔批〕朝日30(隆)、

毎日31(船戸洪吉)、萌春50号
(三宅正太郎)、三彩12月(94号)

荒木由三郎個展

28—11月2 キワ画廊

大竹久一郎油絵個展

28—11月2 養清堂

深谷徹作品展

28—11月2 造形画廊

木村百水水墨展

28—11月2 丸ビル・中央公論社画廊

安西啓明、小島鼎子日本画展

29—11月3 日本橋・三越

〔批〕東京夕刊31(桑)、萌春

49号、三彩12月(94号)

国画会秋季展

29—11月3 池袋三越〔批〕東京夕刊31(桑)

舞台美術展

29—11月3 池袋三越

渥美初江日本画展

29—11月3 池袋・三越

弦田英太郎個展

29—11月3 日本橋・白木屋

井上三綱個展

29—11月3 上野・松坂屋〔批〕東京夕刊

31(桑)、三彩12月(94号)

宇治山哲平個展

29—11月2 フォルマ〔批〕東京夕刊31(桑)、三彩12月(94号)

白井畑高個展

29—11月3 渋谷・東横

小山周次水絵展

29—11月3 日本橋・高島屋

千葉かつお個展

29—11月2 サエグサ

久本弘一油絵展

29—11月3 大阪・阪急

5回日本彫塑家クラブ関西支部

彫塑展

29—11月3 京都府ギャラリー

現代版画小品展

30—11月2 文房堂

1回三橋兄弟治、英子二人展

31—11月5 村松

西洋美術の会

31—11月3 日本橋・高島屋

3回「期」展

31—11月5 村松

三岸節子素描展

1—10 銀座・松屋〔批〕

東京夕刊2

朝日4 隆 桑

毎日8 船戸洪吉

三彩12月(94号) 植村鷹千代

みづゑ33年1月(No.620)

會宮一念近作油絵展

1—7 植村鷹千代

兜屋〔批〕東京夕刊2(桑)

新しき村展

1—11 池袋画廊

鈴木威帰国記念作品展

1—4 日動画廊

田中稔之、井上武吉絵画と彫刻

作品展

1—15 新宿・風月

白眉会新作展

1—7 なびす〔批〕東京夕刊2(桑)

三又展

1—7 日比谷画廊

伊太利ヤンデリアとガラス工

藝展

1—6 和光

関西在住工藝作家西工会展

1—6 東京・大丸

東西日本画、洋画壇大家展

1—10 大阪・高島屋

万人の為の展覧会

1—9 大阪・フジカワ

山内壮夫彫刻展

1—10 山口県宇部市 明幸堂画廊〔批〕

三彩12月(94号)(水沢澄夫)

東寺名宝展

1—19 銀座・松屋〔記〕三彩12月(94号)(北川桃雄)

13回日展

1—12月2 東京都美術館〔批〕

産経5 日野耕之祐

毎日8 土方定一

産経9 横川毅一郎

東京夕刊10 大島隆一

久富 貢

本間正義

朝日11 隆

読売夕刊12 田村泰次郎

日経12、13 嘉門安雄

朝日12 隆

東京タイムズ12 植村鷹千代

伊福部隆彦

東京夕刊14 野間清六

週刊朝日17 明人

サンデー毎日12月1 ぶ

萌春49号二頁〜四頁 河北倫明

四頁〜六頁 三宅正太郎

六頁〜八頁 久富 貢

八頁〜一頁 久富 貢

一一頁〜一二頁 末吉菊丸

一六頁〜一九頁 末吉菊丸

三彩12月(94号) 上島長健

一五頁〜二八頁 北川桃雄

座談 宮本三郎

みづゑ12月(No.629) 柳 亮

工藝ニュースVol.25—12 浜村 順

アトリエ33年1月(No.371)

〔記〕

東京タイムズ7、8、14、15、

(鴻)27 朝日12月3

産経12月3 石井柏亭

三彩12月(94号) 二九頁〜三〇頁

水沢澄夫

三〇頁〜三一頁 中原佑介

主要出品目録

(会)は日本藝術院会員の略

(参)は日展運営会参事の略

(審)は審査員の略

(依)は出品依頼者の略
 (無)は無鑑査の略
 (特)は特選の略
 (白)は白寿賞の略
 (北)は北斗賞の略
 (買)は川合玉堂氏資金により買入文籍
 省寄贈作品

日本画

埠頭 福本達雄
 コレクシオン 山崎忠明
 黒の空間 (依)山本知克
 滝 桑原清明
 北国の市 (無)川崎鈴彦
 林苑 加倉井和夫
 磯室 (特・白)浦田正夫
 浴室 (特・白)長繩士郎
 火口原 (特・白)下保昭
 ひととき (特・白)東韶光
 ポンゴ (特・白)白鳥映雪
 浅間 (依)関主税
 静物 (特・白)池田道夫
 室内 (依)伊東万耀
 梅 (特・白)猪原大華
 河畔 (依)伊東隆雄
 女 (依)中村正義
 尾瀬沼 (特・白)小栗潮
 高原初秋 佐藤因夫
 陶土の町 岩沢重夫
 市場 具志堅古雅
 水田 松原久治郎
 観 三浦朗舟
 夜 山口吉三郎
 紫陽花 佐藤昭三
 鶉 高橋澄夾

市場の魚店 河原悦人
 沼 西野新川
 菱 猪田青以
 たに ま松本郭南
 新 緑中田晃陽
 業平 竹坂倉半徑
 山みち (無)中野蒼穹
 沼辺 (依)麻田辨次
 網船 (無)特・白 沢野文臣
 裸 (依)野島青枝
 日陰 (依)立石春美
 ピアノ (依)加藤長明
 冠鶴 (審)山本倉丘
 石 (參)審池田遙邨
 岩 (審)實西山英雄
 歌 (依)杉山寧
 月 (審)實加藤栄三
 燎湖 (依)高山辰雄
 岑 (依)山田申吾
 道映 (依)山田申吾
 流映 (依)山田申吾
 静 池倉光博
 蓮 女松本栄
 海雲 (依)加藤東一
 夏 依大山忠作
 石 依大山忠作
 峽 谷大平華泉
 蕪 苑太田稻吉
 黒 苑望月定夫
 北越の浜 鳥望月定夫
 火 口太田竜一
 夕 中瀬昂
 水影 (依)曲子光男

海女 (特・白)丸山石根
 照明の交彩 (依)堂本元次
 パナナ (無)望月美江
 初秋 (無)鈴木竹柏
 棘 (依)堂本阿岐羅
 花売る少女 梶喜一
 青夜 (參)審岩田正巳
 無明 (會)堂本印象
 虎児 (參)山口華揚
 楽舞抜頭籠 (依)菅橋彦
 太鼓を廻る (依)菅橋彦
 山かげ (依)東山魁夷
 ペルシャ (參)審伊東深水
 清水寺 (參)宇田荻邨
 芍薬 (會)審山口蓬春
 黒い髪 (審)寺島紫明
 砂丘 (參)審川崎小虎
 炭窯 (會)故結城素明
 屋根草を刈る (會)故川合玉堂
 潮 顯 (參)審矢野橋村
 堤 (依)近藤浩一路
 潮 審田中以知庵
 蓮室にて (參)望月春江
 暮色 大野博
 志 摩谷野圭一
 夜の海 (依)三谷十糸子
 河添いの家 (依)松浦満
 鏡の前 (無)海老名正夫
 郷 山岸純
 白夜 (大雪) 山村松乙彦
 沼 (依)松本姿水

黒鳥 (依)野村一生
 朝 (依)江崎孝坪
 滝 (依)矢野鉄山
 河沿ひ (かわぞ) 下川千秋
 鯉 (依)佐藤太清
 菖蒲 (依)浜田台兒
 夕暮 (依)奥田元宋
 長湖 (依)川本末雄
 花室 (參)審森白甫
 生 (依)鳴谷自然
 軍庭 (依)尾山幡
 前庭 (依)常岡文亀
 津久井風景 河部貞夫
 秋 峽 福与悦夫
 桂、松翠亭 (依)三輪晃勢
 暮雪 (依)加藤美代三
 房 風 景 小林朱土
 け 風 景 杉浦盈二
 市 日の乙女 佐藤美雄
 工 場 戸田英二
 は っ な つ 宮内英好
 池 映 (無)杉原元人
 滝 (依)中野草雲
 池 塘 藤谷雅春
 池 木村広吉
 古賀志 山石塚青我
 入 江 大宮俊興
 石神井風景 伊藤弘
 静 長 鈴木由太郎
 潤 声 戸田浩堂
 飯能風景 森正元
 裸 婦 渡辺阿以湖

磐梯初秋 秋葉長生
 洋蘭 (依)崑山錦成
 立 秋 秋元節朗
 花 森戸国次
 牛と 森村宜永
 華 蝶 米陀寛
 海女 (依)梶原緋佐子
 南総九十九谷 杉原笛邦
 黒い海 鈴木石甌子
 魚窓 融 紅鸞
 妙 高 浜田昇兒
 三月堂 (依)水野深草
 輪廻曼陀羅 (依)中谷光炎
 鷺 (能) 武藤嘉亭
 夕 光 池田尚志
 紀州南 島宇田裕彦
 提 琴 関根雅雄
 緑 峽 川崎春彦
 神興振 (依)生田花朝
 富貴花苑 (依)福田翠光
 万峰晴雪 (依)水田竹圃
 雨 餘 (依)吉田登毅
 湖上の雨 (依)小川翠村
 祇園新春 磯田又一郎
 池 関口如水
 茶 盃 (依)勝田哲
 雪 林 河合健二
 花 茂 兒玉壺津衣
 け し(芥子) 高野薫邦
 月 明 三河義太郎
 残 照 菅谷晴亮
 秋 高直原玉青

早春雪景 (依)渡辺義一
 (蔵王村) 裸婦 (無)不破章
 湖畔初秋 (依)早出守雄
 霞ヶ浦 (依)小堀進
 緑の鉄板 (依)上田哲農
 大漁 (依)家永三郎
 憩ひ (依)斎藤俊雄
 飯山の舟 (岡田賞)樋口哲
 白鳥の踊 (岡田賞)菅沼金六
 り子
 修道院裏庭 (依)刑部人
 黒い帽子 (無)竹沢基
 誕生石 (依)能見三次
 初秋 (依)能勢真美
 ある日の山 (依)伊藤清永
 田耕筈
 山葡萄 (依)長原坦
 芦の湖 (依)大津鎮雄
 書斎のY氏 (依)弦田英太郎
 秋の庭 (依)中条茂
 船磯風景 (依)日原晃
 ジエーム (岡田賞)角卓
 スより
 N氏像 (特)寺島竜一
 巴里郊外 (依)大内田茂士
 放心 (依)堀田清治
 橋 (依)西山真一
 弾 (依)土佐林豊夫
 坐像 (依)森田茂
 あさやけ (依)岡田又三郎
 牛 (無)奈良岡正夫
 熱処理工場 (特)中村一郎
 魚と貝 (依)胡桃沢源人

カルラとク
 ハンダ (無)西岡義一
 踊る (依)西尾善積
 人と牛肉 (審)金沢秀之助
 静物 (依)伊藤四郎
 夜の人達 (依)西村憲定
 無 (依)金子徳衛
 雪空 (特)三輪孝
 裏磐梯 (依)楡原健三
 寝台の裸婦 (依)高光一也
 太宰府神苑 (審)光安浩行
 白いテル (依)南政善
 ノイ
 残雪の駒 (審)買佐藤一章
 ケ岳
 樹 (依)山喜多二郎太
 夏 (依)買島野重之
 日照雨 (依)井手宜通
 宇奈月早春 (依)倉員辰雄
 シシリーの (特)松木重雄
 町
 静物 (特)秋元松子
 牧場 (特)三井滋雄
 初秋白衣 (依)飯田弥生
 潮騒 (依)大沼静蔵
 十一面観音 (特)武永楨雄
 像
 静物 (依)渡辺浩三
 阿修羅 (無)松田忠一
 裸婦 (依)伊藤悌三
 双子山を望 (依)辻朗
 んで
 秋 (依)田中繁吉
 楽器を抱く (依)森田元子
 奥入瀬 (参)佐竹徳

室内 (審)安藤信哉
 比良雪 (依)田村一男
 耳輪をつけ (審)平通武男
 タモデル (依)大沢海蔵
 ローマ (依)江藤純平
 帽子の女 (依)吉村芳松
 晴 (依)奥瀬英三
 甲斐駒初夏 (依)岩下三四
 琉球踊 (依)大蔵敏秋
 淡路人形 (岡田賞)大河内信敬
 秋山家 (依)大内信敬
 坐像 (依)村岡平蔵
 秋の山 (審)柚木久太
 鳥籠と野菊 (参)耳野卯三郎
 裸婦 (会・審)長谷川昇
 パリーの (審)買山下忠平
 家 (参)鈴木千久馬
 朝顔 (参)審寺内万治郎
 髪 (参)審寺内万治郎
 瑞立春雪 (会・審)辻永
 奈良公園
 春日山新 (会・審)山下新太郎
 緑
 縞のきも (会・審)中村研一
 の
 南仏の家 (審)新道繁
 室内 (参)審鬼頭鍋三郎
 腰越海景 (会・審)有鳥生馬
 蟹今昔 (会・審)中沢弘光
 佳人 (会・審)石井柏亭
 蘭花図 (会・審)川島理一郎
 少女 (参)審中野和高
 落花醉態 (依)池部釣
 女 (依)河井清一
 畑の富士 (参)斎藤与里

雪山 (依)小寺健吉
 朝花 (依)有馬三斗枝
 花のカーデ (依)高宮一栄
 ガン (無)宮脇憲三
 露路 (特)高橋道雄
 編物 (無)塚本張夫
 漁村 (依)高木春太郎
 午後のお客 (依)石本秀雄
 涼風 (依)遠山清
 カアニユ (依)渡辺武夫
 宵 (参)大久保作次郎
 寄せる浪 (参)審石川寅治
 十勝平野 (参)三上知治
 ヨットのか (依)山田新一
 聖窓 (無)山中清一郎
 裸婦と二匹の仔犬 (特)二重作竜夫
 刺繍 (依)辻村八五郎
 木立 (依)田代順七
 お巡りさん (無)梅津五郎
 裸婦 (依)大島士一
 葡萄みのある (依)桑原福保
 モーターサイ (依)川口雄男
 イョウの家族 (依)川口雄男
 たち
 高原 (無)矢口洋
 魚々 (無)益山英吾
 神将 (依)田原輝
 街 (特)宮地亨
 子供と海 (依)星野正三
 埠頭 (依)西村喜久子
 高原暮色 (依)橋本花

雨の海 (依)石橋武治
 或るポーズ (依)中村新治郎
 裸婦とサラ (依)長屋勇
 サ
 船 (無)井上武
 岳 (無)松本富太郎
 パキスタンの少女 (依)梶原貫五
 銚子大吠岬 (依)岩井井一郎
 漁村 (無)柳沢淑郎
 アピニヨンの丘 (依)中谷竜一
 「吾道を行く人々」 (依)鶴田吾郎
 森とすすき (依)河上一也
 風景 (依)和田清
 三月堂 (依)小野彦三郎
 竹林 (依)金沢重治
 女 (依)川村精一郎
 微倉の静物 (依)上野山清貢
 カムイト (依)上島一司
 川越風景 (依)和田香苗
 デッサンの少女 (依)田中実一
 長崎山手風景 (依)堀忠義
 老松のある風景 (依)筒井広道
 庭の雪 (依)角野判治郎
 聖クララ修道院 (依)高橋庸男
 中之島風景 (依)河井達海
 習作 (依)高田正二郎
 裸婦と花 (依)片岡銀蔵
 赤いコト (依)中川力

彫 塑

円盤投(無・特)難波孫次郎
 女座像(依)服部仁郎
 漁婦(無・特)原田新八郎
 崩える(依)中野桂樹
 若い駱駝(無・特)伊藤芳雄
 森の曲(參)佐々木大樹
 男性像(依)分部順治
 大地神女像(依)長谷川義起
 野牛と女(依)長谷川塊記
 見心のうた声(依)毛利教武
 雙心(依)宮地寅彦
 打球(依)富永直樹
 立てる女(依)佐藤静司
 立女(依)瀬戸団治
 青年M(無)平野敬吉
 裸婦(依)中野五一
 月光(依)木島正夫
 若い人(依)佐藤助雄
 群像(依)三国慶一
 遙かなる(依)杉浦藤太郎
 青年像(特)草野春三
 女の顔(依)小森邦夫
 少女座像(無)阿部正基
 巖頭に立つ(依)矩幸成
 五七年第八(依)安永良徳
 平原(依)伊藤五百亀
 感(依)野々村一男
 岩上(參)藤野舜正
 幽婉(依)昼間弘

農人(依)一色五郎
 紀映(依)太田良平
 夕映(依)榎山三毅
 土師部(依)森山朝光
 朝女(依)久原濤三
 浴女(依)古川順三
 裸婦(依)岡本錦朋
 大気(依)中野素昂
 きくじどう(依)森野円象
 裸婦立像(無)浅井行雄
 風媒花(依)袖月芳
 潮風(依)綿引司郎
 銀河(依)富永朝堂
 早春(依)柴田佳石
 青年(依)杉本宗一
 青志(依)羽下修三
 幻想(依)矢野判三
 鋼路の馬(依)池田勇八
 草牛(依)岩田千虎
 小兒(依)山根八春
 騎蕩(依)和田金剛
 座像(依)倉持芳
 くにたち(參)審沢田政広
 立女(參)審吉田久継
 裸婦(審)中川清
 立ひざの女(依)畝村直久
 女(審)長沼孝三
 女の首(審)朝倉響子
 像(參)審加藤顕清
 馬車馬(特)三井高義
 K画伯(會)審吉田三郎
 白羽の矢(會)審北村西望
 孤独者(參)審後藤清一

H氏の像(會)審朝倉文夫
 海にきく(參)雨宮治郎
 仔鹿(依)橋本高昇
 女の顔(依)安田周三郎
 鏡の前(會)審藤井浩佑
 おもい(依)宮本光庸
 裸婦(依)黒田嘉治
 もたれる(依)大須賀力
 女性(參)買松田尚之
 エゴイス(會)審斎藤知雄
 ト機(依)木村珪二
 待光(參)北村正信
 青年(無)特小田寛一
 鳥(依)水船六州
 裸婦(參)清水多嘉示
 裸婦(特)石原昂
 未完記(參)古賀忠雄
 雲(依)山畑阿利一
 思澄(審)北村治禎
 若き女(依)渡辺弘行
 幻想(依)買円鏑勝二
 たつ(特)溝口寛
 坤山老公(會)平櫛田中
 鷺(參)橋本朝秀
 青年の歌(審)山本稚彦
 裸婦(依)木下繁
 ポピ(依)進藤武松
 山田三良先(參)堀進二
 生像(參)堀進二
 バレエ・(無)特高橋剛
 ダンサー(無)特高橋剛
 みのり(依)小倉右一郎

美術工藝

白鳳(依)赤堀信平
 鍔銅花器(無)坂辰治
 「希望」
 寿徽花瓶(依)宮下善寿
 鶏冠飾壺(審)中村翠恒
 珠鷄置物(依)平松宏春
 壁面裝飾(依)皆川泰蔵
 柄の漁港(依)新開寛山
 頰春花瓶(審)井上良斎
 透し花器(依)井上良斎
 鉄花器(無)槻尾宗一
 三耳壺(依)河村喜太郎
 白夜(無)飯田美郎
 蠟染(特)北岸田宗三郎
 「薰風」
 遙かなる郷(依)高橋節郎
 愁(依)高橋節郎
 漆絵
 「陽をま(審)買辻光典
 つ女」
 伝説(依)般若侑弘
 刺繡額(依)平野利太郎
 「鶏頭」
 ガラス器(無)岩田久利
 クリスタル
 硝子飾鉢(參)各務鉦三
 白銅花器(審)染川鉄之助
 「楕円」
 刷じめ壺(審)買叶光夫
 青想連作(審)帖佐美行
 花籃(炎)(特)北生野祥雲斎
 釣花器(依)安原喜明
 鍔銅花挿(依)蓮田脩吾郎
 菱(會)審岩田藤七

白瓷(依)浅見隆三
 草花文陶板(依)唐杉濤光
 風鶴二曲屏(依)小松芳光
 渦潮(無)春日井秀雄
 冠鶴手織錦(依)中村鵬生
 壁掛
 蠟燭染額カ
 ナ(依)山岸堅二
 壁面裝飾獅
 子文(參)二橋美術
 硯宮(錦)(參)審吉田醇一郎
 秋宮(綠陰)(參)宮之原謙
 陶皿(綠陰)(參)福沢健一
 手箱(參)福沢健一
 青銅花挿(參)審内藤春治
 双禽・漆の宮(參)前大峰
 線文小箱(參)審高野松山
 器金象嵌花(參)三井義夫
 仙桃彫文水
 差(會)板谷波山
 幽静花瓶(參)清水六兵衛
 八弧の花器(參)香取正彦
 四耳花瓶(參)楠部弥弌
 衝立犬(依)山崎立山
 青ノ光(依)佐野猛夫
 初子と太郎(依)小合友之助
 「漆器屏風」
 「姿態」(審)佐治正
 両面刺繡(參)審岸本景春
 よとみ
 「馬」衝立(會)審山崎寛太郎
 手織錦世
 界及六壁(會)審山鹿清華

朽葉文染屏 (依)大坪重周
 風 (依)木村雨山
 かげ (依)山脇洋二
 金彩馬 (依)審皆川月華
 染彩岩に咲く (依)審浦省吾
 漆衝立濤 (依)宮坂房衛
 薨 (依)海野建夫
 「楽園」花器 (依)森野嘉光
 塩菜六角花 (依)介川芳秀
 鳥花瓶 (依)会田富康
 彫金水花瓶 (依)藤平伸
 白瓷花瓶 (依)井上治男
 「構成の美」花盛 (特)北浅蔵五十吉
 顔 (特)北吉賀大眉
 舞姫クリシ (無)岩田藤七
 ユナ (無)山本正年
 花器 (無)大極年郎
 「鶏」緑釉 (特)北大極年郎
 壺 (依)山室百世
 鉢銅二枚足 (依)北清水洋
 層容 (特)北大鳥唯史
 盆 (依)滝一夫
 小文壺 (依)滝一夫
 テラスの為の裝飾 (特)北鈴木貫爾
 火蛾の踊り (依)審飯塚琅玕斎
 魚らん花 (依)大場松魚
 平文屏風 (依)大場松魚

モザイク香 (審)板谷梅樹
 盆 (依)六角頼雄
 渦文盤 (依)藤井親文
 飛翔鳥片切 (依)岡部達男
 沈金彫棚 (依)丸谷端堂
 物金人物置 (依)堀柳女
 水紋花生 (依)信田洋
 縦縞銀瓶 (依)北原三佳
 鉢銅鳥文花瓶 (依)鹿兒島壽蔵
 奈良朝風智恵の女神ミネルヴァ紙像 (依)寺井直次
 夕顔書類篋 (審)大須賀喬
 彫金手篋 (依)音丸耕堂
 彫漆色紙篋 (依)長野埜志
 青銅花瓶 (依)本間舜華
 影金胎漆器花瓶 (無)河合喜燕
 爽秋花瓶 (依)三井安蘇夫
 鳥の置物 (依)伊東陶山
 ほろ鳥 (依)伊東陶山
 飛翔花瓶 (依)伊東陶山
 黄昏壺 (依)野惠祥
 板金端鈕 (依)中野蘇峯
 柘榴文花瓶 (依)中村董一
 壁面裝飾海への誘い (依)堂本漆軒
 水草文盛器 (依)阿部鉄蕉
 絶句賜麗人旅のうた (特)平田華邑

旅懐 (無)小出聖水
 王守仁五絶 (無)中平南谿
 「山中示諸生」 (依)岡本松堂
 良寛詩 (特)兼松泛香
 白楽天詩 (特)伊東參州
 高青邱詩 (依)梅丁齋
 威百蛮 (依)保多孝三
 生甲三日後 (審)村藤香石
 智不責愚 (無)内藤香石
 終日無車馬 (依)山田正平
 多能鄙事 (特)路熊隨旭
 世短意常多 (依)関野香雲
 不老長春 (依)関野香雲
 老子語 (參)中村蘭台
 長生久視 (參)石井双石
 游魚出水 (參)田湖城
 破草履 (依)生井子華
 員易闕 (審)丸東魚
 老至長飢 (無)天石東村
 西寺晚歸 (依)鈴木汪亭
 僧院唐積 (依)上条信山
 靈一作 (依)西脇吳石
 唐詩五絶 (依)近藤秋篁
 鳴門觀潮七絶 (依)谷辺橋南
 飲中八仙歌 (依)徳野大空
 禪語 (依)谷辺橋南
 原生林 (依)徳野大空
 一去一來 (審)羽田春瑩
 ただ一道に (依)青山杉雨
 唐詩七言絶 (依)炭山南木
 句 (依)殿村藍田
 白楽天詩 (審)殿村藍田

湖 (買)内田鶴雲
 石濤詩 (審)高木哲洲
 山部赤人の歌 (審)鈴木梅溪
 菜根譚 (審)菅谷幽峰
 王漁洋詩 (審)木村知石
 撥雲尋道 (依)赤羽雲庭
 陶淵明詩四言 (依)山崎節堂
 萬葉歌 (審)宮本竹逕
 「蘇東坡和王聖詩」 (依)村上三島
 双六 (依)日比野五鳳
 柴秋村の詩 (依)小坂奇石
 遊洞庭湖 (依)石田泉城
 七絶回郷偶書 (特)安井寿泉
 長塚節和歌一首 (特)西谷卯木
 房東雜詩 (無)広津雲仙
 同寅協恭和衷哉 (依)藤本竹香
 羌邨 (特)山崎大抱
 白 (依)大石隆子
 元福源石屋和尚山居詩 (依)佐藤祐豪
 ふじのね (無)松本直
 逢「寶島」 (特)三村秀竹
 閑居雜詠節五 (依)森田翠香
 雲 (無)山本御舟
 高青邱詩 (特)安原阜雲
 田中冬二詩 (依)金子鷗亭
 園境 (依)阿部珂山
 魏下蘭座右銘 (依)阿部珂山
 正気歌 (無)亀井清堂

処黙詩 (特)北村九皋
 自見 (依)熊谷恒子
 開眼 (參)審手島右卿
 白秋の歌 (參)田中塊堂
 小隠 (參)審大池晴嵐
 真如 (依)印南溪龍
 豊旗雲 (參)相沢春洋
 楷書七言 (參)審柳田泰雲
 对句 (參)審鈴木翠軒
 李長吉待 (參)審西川翠
 爽秋 (參)松本芳翠
 自詠和歌 (依)中村春堂
 白楽天七律 (參)審辻本史邑
 良し久 (會)審豊道春海
 醉古堂劍掃 (參)川村驥山
 無得 (參)江川碧潭
 水くきのあ (依)高塚竹堂
 藤波 (參)審安東聖空
 陸放翁詩 (審)松井如流
 七絶二首 (依)買平尾孤往
 は (依)桑田笹舟
 香具山帖 (會)故尾上柴舟
 秋の大倉陶東洋陶器新作展 2-10 渋谷・東横
 美術文化会友九人展 2-16 銀座画廊
 額装デザイン展 2-4 高田
 市「いづもや」(批)工藝
 ニース Vol.25-12
 梅原龍三郎展 2-12月1 久

- 留米・石橋美術館
- 3回レアラ・ロンド展 3—9
- 大阪・北浜ギヤラリー
- 日本民藝協会新作展 3—24
- 日本民藝館
- 加山又造個展 4—9 東京画廊 [批] 毎日8(土方定一)、東京夕刊8(桑)、朝日9(隆)
- 2回野栗會展 4—9 ヤナセ [批] 東京夕刊8(桑)、萌春50号、三彩12月(94号)
- 小早川篤四郎油絵近作展 4—9
- 9 造形画廊
- 馬場彬個展 4—9 サトウ
- 樫沢伸行彫刻展 4—9 養清堂
- 3回松竹梅日本画展 4—8
- 兼素洞 [批] 萌春50号(河北倫明)、三彩12月(94号) [記] 萌春50号(桜井猶司)
- 大森実、水島茂、奥水哲太郎、加藤秀夫、清水浩五人展 4—9 クレパス画廊
- ナガハマ重太郎染彩画個展 4—10 文藝春秋画廊
- 丹葉會展(森田元子、遠山陽子、中谷ミユキ、小川マリ、朝倉撰) 4—9 サエグサ [批] 東京夕刊8(桑)、朝日9(隆) 榎戸喜子個展 4—10 榎戸画廊 [批] 朝日9(隆)、三彩12月(94号)

- 青峰重倫作品展 4—8 日本橋・丸善
- 小野義個展 4—9 トキワ画廊
- 鈴木正彦油絵小品展 4—9 丸ビル・中央公論社画廊
- 二紀会委員小品展 4—10 新宿・ブランシェ
- 佐伯米子油絵展 5—10 日本橋・三越
- [批] 毎日8 船戸 洪吉 東京夕刊8 桑 朝日9 隆
- みづゑ12月(No.629) 植村鷹千代
- アトリエ33年1月(No.371) 順
- 今日の新人五七年展 5—10 日本橋・白木屋 [批] 毎日8(土方定一)、アトリエ33年1月(No.371)(浜村順)
- 小島善太郎個展 5—10 渋谷・東横 [批] 三彩33年1月(95号)
- 素仙洞日本画展 5—10 新宿・伊勢丹
- 1回七三會作品展 (日本画とその表装の研究を目的とするグループ展) 5—10 日本橋・白木屋 [批] 萌春51号
- 青龍社展 5—10 大阪・大丸
- 8回丹風會展 5—10 日本

- 橋・高島屋
- 3回群青展 5—9 文房堂
- 音部幸司個展 5—9 フォルム
- 井高昇山新作陶展 5—10 日本橋・三越
- 葛飾北斎名品展 5—10 池袋・三越
- 遠藤啄郎光の造形展 5—11 富士フォトサロン
- 蕨村名作展 5—17 日本橋・三越
- 中国書道展 5—10 日本橋・高島屋 [批] 毎日8(金子鸚亭)
- 錦繡衣裳陳列會 5—10 日本橋・三越
- 京都藤平正文窯新作陶器展 5—10 渋谷・東横
- 京都陶藝青陶會展 5—10 大阪・大丸
- 山本陶秀作陶展 5—10 大阪・阪急
- 有光直紀、有光ユウ油絵二人展 5—10 大阪・阪急
- 森村惟一個展 6—11 村松ドウエイン・ヘリング水彩展
- 6—11 村松
- 北条聡個展 6—11 三省堂
- 西山博個展 6—11 村松
- 西尾善積渡仙展 6—8 丸ノ内・工業倶楽部
- グロッタ三人展 7—10 京都書院画廊 [批] 美術手帖33

- 年2月(中村義一)
- 3回創作の空綜合展 7—13 大阪・毎日会館
- 2回まつひろし(松井宏)個展 8—14 なびす
- 東原徹個展 8—13 諏訪・白作ホール
- 広野殷生滯欧作品展 8—11 銀座・松坂屋
- 山本鉄男・高木勲二人展 8—10 豊橋・浦榮屋画廊
- 榎倉省吾個展 10—14 銀橋画廊
- 3回凡樹画社展 11—16 ヤナセ [批] 萌春50号、三彩33年1月(95号)
- 山口昭個展 11—16 サトウ
- 2回一九六〇年展 11—17 文藝春秋画廊
- 4回陶磁工藝展 11—16 和光 [批] 工藝ニュースVol.35—10、萌春50号(大山広光)
- モザイク版画試作展 11—13 銀座・松屋
- 藤江志津、渡辺百合子二人展 11—13 トキワ画廊
- 甲斐仁代個展 11—16 求龍堂画廊
- 桑原正昭個展 11—16 サエグサ
- 童画四人展 11—17 新宿・ブランシェ
- 肅察宝個展 11—15 大阪・梅

- 田画廊
- 青木大葉個展 11—17 大阪・高島屋
- 清水鍊徳作品展 11—16 造形画廊
- 彫刻、洋画46人展 12—17 渋谷・東横
- [批]
- 読売夕刊15 中原 佑介
- 朝日16 隆
- 毎日17 船戸 洪吉
- アトリエ33年1月(No.371) 順
- 河井寛次郎新作陶磁器展 12—17 日本橋・高島屋 [批] 三彩33年1月(95号)(北川桃雄)、萌春50号(大山広光)
- 河合卯之助作陶展 12—17 日本橋・三越 [批] 工藝ニュースVol.35—11(N)、三彩33年1月(95号)(北川桃雄)
- 17回丹阿弥若吉日本画個展 12—17 日本橋・白木屋 [批] 萌春51号
- 9回日本板画院展 12—17 日本橋・白木屋 [批] 東京夕刊14(桑)
- 鎌倉彫現代名作展 12—17 渋谷・東横
- 1回アジア青年美術家展 12—17 渋谷・東横 [批]
- 読売夕刊11 植村鷹千代

東京夕刊15 植村鷹千代
読売夕刊15 中原 佑介
産経夕刊15 日野 隆
朝日16 隆 日野
毎日17 船戸 洪吉
アトリエ33年1月(No.371) 浜村 順

〔受賞〕

大賞―前田常作(日本)
ライシユマン賞、シユトラ
レム賞―V・S・ゲイトン
デ(インド)、ラムチャンド
ラ・サバント(インド)、ブ
ット・モクタール(インド)
ネシヤ、黄磊生(香港)、陸
可陶(香港)、モハメット・
キビリア(バキスタン)、藤
松博(日本)、内田光之助(日
本)、関和弥(日本)、田中稔
之(日本)、永田力(日本)、
金沢博(日本)
世界の中の日本抽象美術展 12
―24 プリヂストン

〔批〕
東京夕刊14 桑 隆
朝日19 隆
読売夕刊21 中原 佑介
産経夕刊22 日野 隆
アトリエ33年1月(No.371) 浜村 順
木内克テッサン展 12―21 池 順
袋画廊
安井賞候補新人展 12―24 国
立近代美術館

〔批〕
産経夕刊15 日野 隆
毎日17 船戸 洪吉
アトリエ33年1月(No.371) 浜村 順
藤本能道個展 12―17 村松 順
明日の画家達展(香月泰男、宇
治山哲平ほか) 12―22 フォ
ルム

〔批〕
毎日17 船戸 洪吉
東京18 桑 隆
朝日20 隆
アトリエ33年1月(No.371) 浜村 順
川西英新作品展 12―17 東 順
京・大丸
3回SEIHO展 12―17 村 松
西沢笛人形玩具絵個展 12―
17 日本橋・三越〔批〕 萌
春50号(鹿兒島寿蔵)、三彩33
年1月(95号)

窪田知矩個展 12―17 村松 順
伊藤清永近作展 12―17 上野
・松坂屋
長谷川三千春、植木力二人展
12―16 八重洲画廊
5回山田皓齋個展 12―16 大
阪・三越
中国美術考古川千年展 12―16
倉敷市・倉敷考古館
柴山蘭亭絵画展 12―17 大

阪・阪急
清水茂郎油絵個展 12―17 大
阪・阪急
新協美術展 12―18 文房堂、
13―18 三省堂
3回不木会展 13―17 美松画
廊

1回高樹会展 15―30 京橋・
中央公論社画廊〔批〕 朝日
26(隆)、萌春51号(鈴木進)、
三彩33年1月(95号)
藤本東一頁油絵個展 15―20
銀座・松屋〔批〕 朝日20(隆)、
みづゑ33年1月(No.630)(柳
亮)
No.30 アートクラブ展 15―
21 なびす
大家によるクレパス画八人展
林武、中村研一ほか) 15―20
東京・大丸
太田聰雨展 15―20 銀座・松
坂屋

〔批〕
産経夕刊15 横川 順
東京18 桑 隆
毎日19 船戸 洪吉

日経19 嘉門 安雄
朝日20 隆
萌春50号 水沢 澄夫
三彩33年1月(95号) 北川 桃雄
みづゑ33年1月(No.630) 河北 倫明
6回なにわ会展 15―20 大
阪・梅田画廊
濂原英子、井上武吉絵画と彫刻
作品展 16―30 新宿・風月
竹藝六人小品展(飯塚小汗齋、
林尚月齋、横田峰齋、中田錦
石、近藤実、平沼浄) 16―24
日本橋・高島屋

内田如風油絵展 17―23 兜屋
〔批〕 毎日23(船戸洪吉)
中野淳シベリア、モスクワ作品
展 18―22 サエグサ〔批〕
朝日20(隆)、アトリエ33年1
月(No.371)(浜村順)
清野恒北方の街油絵展 18―22
養清堂

〔批〕
三彩33年1月 植村鷹千代
(95号)
美術手帖33年2 徳大寺公英
月 植村鷹千代
みづゑ33年1月 植村鷹千代
(No.630)
アトリエ33年1 浜村 順
月(No.371)
6回新工藝協会展(佐々文夫、
清水洋、巽勇、中村富栄、建

皇清子) 18―23 和光
〔批〕工藝ニュースVol.25―
12(N)
23回現代版画展 18―23 渡辺
木版画店
1回横山幸雄個展 18―23 サ
トウ
奥瀬英三個展 18―21 日動画
廊

みのわ淳個展 18―23 村松
実在四人展 18―28 村松
八木保次個展 18―23 村松
安岡正樹個展 18―22 トキワ
画廊
13回日展受賞作品展 18―30
光風会館
上田臥牛個展 18―22 丸ビル・
中央公論社画廊
2回(大阪)寺田春式展 18―25
大阪・フジカワ
3回東京黒百合展 18―23 プ
ランシエ
京都美大彫刻科展 18―22 美
松画廊
江上龍介個展 18―22 ヤナセ
山中嘉一リトグラフ展 18―24
大阪・白鳳画廊
11回丁亥会展 19―24 上野・
松坂屋〔批〕 萌春50号
佐藤一章近作油絵個展 19―24
日本橋・白木屋
中国現代絵画展 19―24 渋谷・
東横〔批〕 毎日21(北川桃雄)

〔批〕
産経夕刊15 横川 順
東京18 桑 隆
毎日19 船戸 洪吉

10 回白壽會展 (横山大観、松林桂月、籾木清方、野田九浦、小杉放庵、西山翠嶺、安田靉彦、前田青邨) 19—24 日本橋・高島屋 [批] 東京夕刊21(桑)、産経夕刊22(横川)、
 秋季水彩聯盟會員展 19—24 日本橋・三越 [批] 東京夕刊21(桑)
 高野清二個展 19—23 日本橋・丸善
 進藤隆太郎個展 19—12月2 自由ヶ丘・田園画廊
 奈良県伝統工藝展 19—24 日本橋・三越 [批] 工藝ニュースVOL.25—12(阿久)
 鈴木信太郎近作油絵展 19—24 日本橋・三越 [批]

萌春50号 水沢 澄夫
 三彩33年1月(95号)
 坂田泥華秋焼作陶展 19—24 日本橋・三越
 丹光会日本画展 19—26 新宿・伊勢丹
 真波奈会染色展 19—24 渋谷・東横
 前田青邨日本の宛スケッチ展 19—24 大阪・阪急
 西山真一滞欧油絵展 19—24 大阪・阪急
 日本近代洋画名作展 19—12月 1 鹿児島県立美術館
 4 回佐藤多持個展 20—25 三省堂
 長崎紅毛文化展 20—12月5 神戸市立美術館
 村岡萌芽個展 22—30 池袋画廊
 絵更紗展 22—27 銀座・松屋
 現代大家彫塑展 22—27 東京・大丸
 古茂田守介個展 23—29 画廊
 ひろし [批]
 毎日27 船戸 洪吉
 朝日29 産経夕刊22 横川
 2 回グループ9展 23—28 美松画廊
 16 回造形教育センター展 23—28 なび子

パンリアル展 23—27 京都市美術館 [批] 美術手帖33年2月(中村義一)
 走泥展 23—27 京都市美術館
 3 回古川吉重個展 24—29 村松 [批] 三彩33年1月(95号)
 吉岡常雄染色個展 24—29 村松
 2 回永島勝介個展 24—29 村松
 8 回檀会展 25—30 兜屋 [批]
 朝日26 隆
 東京27 今泉 篤男
 産経夕刊29 日野
 毎日29 船戸 洪吉
 アトリエ33年1月(No.371) 浜村 順
 2 回永田力作品展 25—30 エグサ
 東京夕刊28 桑
 産経夕刊29 日野
 アトリエ33年1月(No.371) 浜村 順
 4 回対象鑄(金工)藝展 25—30 和光 [批] 工藝ニュースVol.25—12(N)
 脇田和個展 25—30 求龍堂画廊 [批]
 毎日27 船戸 洪吉
 東京夕刊27 岡本謙次郎
 産経夕刊29 日野

火の会展 25—30 サトウ 赤羽良知、後藤又兵衛二人展 25—30 養清堂 [批] みづゑ33年1月(No.330)(植村鷹千代)
 藤井二郎新作展 25—30 大阪・フジカワ
 白桐会日本画展 26—12月1 日本橋・白木屋 [批] 萌春51号
 4 回東西大家日本画展 26—12月1 渋谷・東横 [批] 萌春51号
 青々会日本画展 26—12月1 日本橋・三越 [批] 萌春51号
 踏青会日本画展 26—12月1 日本橋・三越 [批] 萌春51号
 尚美展 26—30 壺中居 [批]
 東京夕刊28 桑
 朝日29 隆
 萌春51号
 三彩33年1月(95号)
 36 回龍駿介富士真景油絵展 26—30 ヤナセ [批] 産経夕刊29(日野)
 花明山薫新作展 26—12月1 大阪・阪急
 加藤溪山青磁百趣展 26—12月1 日本橋・高島屋
 1 日本橋・高島屋
 日本木彫会小品展 26—12月1 日本橋・高島屋
 白日会秋季展 26—12月1 日

本橋・高島屋 [批] 東京夕刊28(桑)、産経夕刊29(日野)
 6 回杉全直個展 26—30 フォルム [批]
 毎日29 船戸 洪吉
 読売夕刊26 中原 佑介
 朝日29 隆
 三彩33年1月(95号)
 美術手帖33年2月 中原 佑介
 みづゑ33年1月 植村鷹千代(No.330)
 兆展 26—30 文房堂
 いざよい会押絵展 26—12月1 日本橋・三越
 川端龍子個展(富士と周辺) 26—12月1 日本橋・三越 [批]
 東京夕刊28 桑
 産経夕刊29 横川
 萌春51号
 三彩33年1月(95号)
 新作木彫工藝品展 26—12月1 大阪・阪急
 グループ4/4作品展 26—30 京都書院画廊
 菊地長市ほか六人展 27—12月 三省堂
 伊藤禎郎個展 28—30 トキワ画廊
 独立美術会員水彩画展 29—12

月4 銀座・松屋

3 回玄峽会展 29—12月4 銀座・松坂屋

3 回藍入会染色展 29—12月3 美松画廊

久保田万太郎、木村莊八下町十

二景展 29—12月4 上野・松坂屋

橋本明治、山口薫二人展 29—

12月4 銀座・松坂屋

4 回錦虹会日本画展 29—12月

4 東京・大丸

つるばみ(松)会展 29—12月4

東京・大丸 [批] 萌春51号

白合会秋季展 29—12月4 池

袋・西武 [批] 萌春51号

欧洲における日本古美術展国内

特別展 30—12月5 東京

国立博物館(出品目録は一六

一頁に追補)

近代工藝の百年展 30—33年1

月19 鎌倉・近代美術館

[批] 記 東京夕刊24(岡田

護)、産経夕刊27(日野)

7 回京ほり人形作品展 30—12

月5 村松

高松健太郎個展 30—12月5

村松

石井茂雄個展 30—12月5 村

松

[批]

読売夕刊12月5 中原 佑介

三彩33年1月(95号)

アトリエ33年2 江川 和彦

月(No.32)

3 回玄峽会展 30—12月4 銀座

座・松坂屋 [批] 萌春51号

青山熊治遺作展 30 日本橋画

廊 [批] 朝日26(隆)

二二月

8 回墨洋会展 1—8 池袋画

廊

柴田紗千夫絵画作品展 1—20

新宿・風月

いとう・ときわデザイン展

1—7 なびす

4 回グループ橋展 1—6 櫛

画廊

石橋三幸、菊地昇栄、佐熊桂一

郎具象三人展 1—15 渋谷・

風月

日動画廊「日本洋画代表作家展」

1— 教寄屋橋ショッピング

センター二階

2 回深沢幸雄銅板画展 2—7

サトウ [批] 読売夕刊5(中

原佑介)、三彩33年1月(95号)、

アトリエ33年2月(No.32)

(江川和彦)、美術手帖33年2

月(中原佑介)

上条静光スケッチ画展 2—7

丸ビル・中央公論社画廊

田辺三重松近作展 2—7 造

形画廊 [批] 産経6(日野)

芝浦工業大学工芸部新作展

2—7 トキワ画廊

玄々社彫金工藝展 2—7 和

光

スエーデンの陶藝展 2—11

上野・松坂屋

山本丘人個展 3—13 プリヂ

ストン

[批]

読売夕刊12月5 中原 佑介

東京夕刊5 河北 倫明

毎日6 船戸 洪吉

産経6 日 野

三彩33年1月 河北 倫明

(95号)

みづゑ33年2月 河北 倫明

(No.32)

武石勇、河合匡造漆藝展 3—

8 日本橋・白木屋

島田章三個展 3—7 フォル

ム、画廊ひろし [批] 三彩

33年1月(95号)(多田信一)、

アトリエ33年2月(No.32)

(江川和彦)

江藤哲個展 3—7 サエグサ

[批] 産経6(日野)

東洋美術館小品展 3—7 東

洋美術館 [批] 萌春51号

小野忠重、中山正、森村惟一版

画近作展 3—7 養清堂

[批] アトリエ33年2月(No.

32)(江川和彦)

アジア・アフリカ美術展 3—

15 日本橋 高島屋

3 回京都名匠陶藝展 3—8

渋谷・東横

7 回芝英会展 3—8 日本橋・

高島屋

[批]

産経6 横 川

朝月7 隆

萌春51号

三彩33年1月 多田 信一

(95号)

民藝品の会 3—8 日本橋・

高島屋

島岡実油絵展 3—8 兜屋

蕭紫宝色紙ガラス絵展 3—7

此花画廊

旺彩会展 3—8 横浜・有隣

堂ギャラリー

白申社展 3—8 日本橋・三

越 [批] 萌春51号、三彩33

年1月(95号)

浜田庄司展 3—8 日本橋・

三越

島田由紀子個展 3—7 ヤナ

七

21 回大潮会展 4—19 東京都

美術館

黙鬼会展 4—9 三省堂

3 回三彩会展 5—15 日本橋

画廊(三彩堂) [批] 朝日7

(隆)

新算会展 5—11 新宿・伊勢

丹

独立美術友の会油絵展 5—11

東京・大丸

青年美術家協会展 5—10 銀座

座画廊 [批] アトリエ33年

2 月(No.32)(江川和彦)

わかたけ会染色展 6—11 銀座

座・松坂屋

竹上義治油絵個展 6—11 村

松

山本甚作個展 6—11 村松

5 回工藝青のグループ展 6—

11 村松 [批] 萌春52号、

工藝ニュース33年1月(N)

絵更紗展(宮田茂登絵更紗塾)

6—7 銀座・東電サーピス

センター

東西大家日本画小品展 6—15

銀座・松屋 [批] 萌春52号

安原喜明作陶展 7—9 目黒

区自宅

鈴木軒一油絵個展 8—14 画

廊ひろし

中村潤子個展 8—14 なびす

安井曾太郎未発表作品展 8—

15 大阪・フジカワ

全国勤労者美術展 8—18 東

京都美術館

豚生三郎個展 9—15 サエグ

サ

[批]

東京夕刊12 岡本謙次郎

産経夕刊13 日 野

読売夕刊13 中原 佑介

毎日14 船戸 洪吉

朝日14 隆

三彩33年1月 中原 佑介

(95号)

美術手帖33年 岡本謙次郎
 2月 アトリエ33年 江川 和彦
 2月(No.33) 久野修男個展 9-14 トキワ
 野廊 [批] 産経夕刊13(日)
 末村敬三個展 9-15 池袋画
 廊
 小山田二郎個展 9-14 サト
 ウ、フォルム
 [批]
 東京夕刊12 岡本謙次郎
 産経夕刊13 日野
 読売夕刊13 中原 佑介
 三彩33年1月 東野 芳明
 (95号) 美術手帖33年 東野 芳明
 2月 みづる33年2月 長谷川龍生
 (No.33) アトリエ33年 江川 和彦
 2月(No.33) 24回現代版画展 9-14 渡辺
 木版画店
 有田徳一個展 9-14 丸ビル
 ・中央公論社画廊
 ギヤマン展 9-16 池袋画廊
 リアリズム美術家集団展 9-
 15 大阪市立美術館
 山下忠平個展 9-14 ヤナセ
 [批] 産経夕刊13(日野)
 東陶会秋季展 10-15 日本橋
 ・三越 [批] 萌春51号(大山
 広光)
 森田沙伊新作展 10-13 兼素
 河
 [批]
 朝日11 隆

毎日12 船戸 洪吉
 日経12 嘉門 安雄
 東京夕刊12 桑 川
 産経夕刊13 横 川
 萌春51号
 三彩33年2月 多田 信一
 (96号) 真赤土工藝小品展 10-15 洪
 谷・東横
 山口華楊、上村松雲、池田遙耶
 三人展 10-15 日本橋・三
 越 [批] 萌春51号
 鈴木猛人工芸展 10-27 横浜・
 アメリカ文化センター
 マネ・カツン個展 10-22 ブ
 リヂストン
 [批]
 東京夕刊12 桑 野
 産経夕刊13 日野
 読売夕刊13 中原 佑介
 日経14 福島繁太郎
 毎日21 今泉 篤男
 三彩33年2月 植村鷹千代
 (96号) アトリエ33年 江川 和彦
 2月(No.33) 新作日本画展 10-15 日本橋
 ・三越
 1回めたか会展 10-14 文房
 堂
 新作陶磁器陳列即売会 10-14
 日本橋・高島屋
 陶記会バザール 10-15 上野・
 松坂屋
 善浪迪個展 11-14 なびす
 歳末チャリティ・アート展 11
 -14 養清堂
 島州一、加藤好弘、小華和為雄

異質三人展 12-17 村松
 洛燿会工芸展 12-20 東京・
 丸物
 河井寛次郎新作陶磁器展 12-
 17 日本橋・三越
 日展(京都) 12-33年1月8
 (28)元日休 京都市美術館
 雨宮喜能登窯彩硝子即売会
 12-15 日本橋・高島屋
 9回美術家連盟年末たすけあい
 展
 13-18 銀座・松坂屋
 山本日士良個展 13-17 日
 本橋・丸善
 山崎修、平野秀一彫刻二人展
 13-17 京都府ギャラリ
 1回彩光会日本画展 13-18
 東京・大丸
 福田力三郎新作陶磁器展 15-
 19 日本橋・高島屋
 沢田哲郎、織田広喜二人展
 15-21 画廊ひろし
 大森明悦近畿旅行淡彩画展
 15-21 なびす
 高沢圭一素描展 15-22 銀橋
 画廊
 高山辰雄風景画展 15-20 弥
 生画廊
 [批]
 東京夕刊19 桑 弥
 毎日20 船戸 洪吉
 三彩33年2月 多田 信一
 (96号) みづる33年2月 河北 倫明
 (No.33) 神谷信子個展 16-21 養清堂
 [批]
 東京夕刊19 桑

読売19 中原 佑介
 三彩33年2月 植村鷹千代
 (96号) アトリエ33年2 江川 和彦
 月(No.33) 前木会工芸展 16-20 洪谷・
 東横
 藤野龍個展 16-21 トキワ画
 廊 [批] アトリエ33年2月
 (No.33) 2回棟方志功、斎藤清近作発表
 展 16-24 京橋・中央公論
 社画廊 [批] 東京夕刊19
 (桑)、朝日23(隆)
 松野奏風近作能画展 16-19
 銀座・松屋
 那須日都夫油絵小品展 16-21
 丸ビル・中央公論社画廊
 朱富士会展 16-23 大阪・フ
 ジカワ
 石塚三幸、菊地昇栄、佐熊桂一
 郎具象三人展 16-21 下北
 沢・風月堂
 尾藤豊、中村宏二人展 16-21
 サトウ [批] 読売19(中原佑
 介)、アトリエ33年2月(No.
 33)(江川和彦)
 初霜会展 16-21 日本橋・三
 越 [批] 萌春51号
 彼末宏、吉田清志、宮田農哉三
 人展 17-21 フォルム
 [批] 読売19(中原佑介)
 37回龍駿介富士油絵展 17-21
 銀座画廊
 グループ工芸展 17-21 池袋
 画廊
 藍紅会染色作品展 18-23 村
 松

田宮進個展 18-23 村松
 5回成和会展 18-21 兼素河
 [批]
 東京20 中原 佑介
 毎日20 船戸 洪吉
 朝日20 隆
 萌春52号
 三彩33年2月 多田 信一
 (96号) 若林三郎個展 18-23 村松
 2回五福会陶藝展 19-25 東
 京・大丸
 京道具と茶器の会 20-23 日
 本橋・高島屋
 1回三機会日本画展 20-25
 銀座・松屋 [批] 萌春52号
 前田常作、長野隆業絵画と彫刻
 作品展 21-1月10 新宿・
 風月
 生活工芸集団小品展 21-26
 渋谷・東横
 現青美術協会展 21-23 高崎
 ・貿易会館
 小橋康秀個展 21-25 京都・
 三角堂画廊
 1回八日会(漆藝)小品展 22-
 26 日本橋・高島屋
 生活工芸集団展 22-27 渋谷
 ・東横
 6回実証展 23-28 サトウ
 1回滋野秀夫個展 23-28 養
 清堂 [批] 産経夕刊27(日
 野)
 黒木不具人個展 23-28 トキ
 ワ画廊 [批] 産経夕刊27(日
 野)
 織田広喜個展 23-28 サエグ
 サ

女流十二人展 (長谷川ハツ、

友田みね子、大久保為世子、梅川慶子、岸田麗子、水沢順子、清水信子、阪本全代、河崎千代子、横川律子、武繩通子、安沢鈴子、) 23—27

丸ビル・中央公論社画廊

趣味の美術工藝品陳列会 24—27

2回創軌会洋画展 24—28

ヤ

日本バステル画会小品展 24—29

文房堂

井上洋之助、高橋淳子、竹内完

三人展 24—28 村松

糸井貫二個展 24—28 村松

4回現代詩画展 26—30 美松画廊

中国敦煌藝術展 26—33年1月

12 日本橋・高島屋

(追補)

歐洲における日本古美術展国内特別展 11月30—12月5

東京国立博物館

出品目録

○印国宝

△印重要文化財

繪画

○絹本着色十二天像 伊舎那天、日天二幅 西大寺、○絹本着色五大力菩薩像 無畏十力吼一幅有志八幡講十八箇院、○絹本着色釈迦如来像 一幅 神護寺、○絹本着色普賢延命像 一幅 松尾寺、○絹本着色普賢菩薩像 一幅 漢乘寺、○絹本着色十六羅漢像

(第五番短羅尊者第十二那伽那尊者)

二幅 国、△二天王像 絹本淡彩掛幅二幅 興福寺、△絹本着色仏涅槃図 一幅 国、○絹本着色阿弥陀三尊像 一幅 蓮華三昧院、○絹本着色山越阿弥陀院一幅 禅林寺、△絹本着色阿弥陀二十五菩薩来迎図 一幅 興福寺

△絹本着色文殊渡海図 一幀 光台院、△絹本着色地藏菩薩像 一幅 国、△絹本着色近畿日本鉄道株式会

社、△紙本墨面密教図像 不動明王像 一幅 醍醐寺、△紙本着色

扇面古写経 一幅 西教寺、△紙本着色扇面古写経 一幅 法隆寺、△白描絵料紙墨書金光明經

卷第四断簡(目無経) 一卷 国、○紙本墨面鳥獸人物戯画 丙巻

一卷 高山寺、紙本墨面鳥獸人物戯画断簡 一幅 国、○紙本着色

皴鬼草紙 一卷 国、○紙本着色地獄草紙 一卷 同、○紙本着色

北野天神縁起八巻のうち第一巻 一卷 北野天満宮、○紙本着色華

嚴宗祖師絵伝(華嚴縁起)第三巻 一卷 高山寺、○絹本着色一遍上人

人絵伝法眼田伊筆 第五巻 一卷 歡喜光寺、△紙本淡彩公家列影

図 一卷 国、△紙本墨面蛭子和高岡 可翁筆 一幅 国、△紙本墨

面蘭石図 梵芳筆 自賛アリ 一幅 鹿王院、△紙本淡彩山図 伝

周文筆 大岳周崇等十二僧ノ贊アリ 一幅 財団法人根津美術

館、△紙本淡彩聴松軒図永享五

年得歳等四箇及長録二年等連ノ贊アリ 一幅 財団法人静嘉堂、△紙本淡彩蜀山図 竜派辺三文

明四年一条兼良ノ贊アリ 一幅 同、△紙本墨面淡彩四季山水図

六曲屏風 一雙 松平綾子、○紙本墨面淡彩天橋立図 雲舟筆 一

幅 国、○紙本墨面秋冬山水図 雲舟筆 冬景 一幅 国、△紙本墨

面山水図(伝相阿弥筆)襖貼付 四幅 大仙院、△紙本着色花鳥図

(伝元信)襖貼付 四幅 同、△紙本墨面呂洞賓図 雪村筆 一幅

近畿日本鉄道株式会社、○絹本着色勤操値正像 図上に空海作

故僧正勤操大徳影讃を墨書する 一幅 普門院、○絹本着色伝藤原

光能像(伝藤原隆信筆) 一幅 神護寺、○紙本着色明恵上人像 一

幅 高山寺、△紙本着色婦人像 一幅 近畿日本鉄道株式会社、紙

本淡彩佐藤一斎像面稿 渡辺崋山筆 二幅 西谷彦四郎、△大覚

寺寢殿障壁面(金地著色紅梅図、金地著色牡丹図 襖貼付) 八面

大覚寺、△大書院障壁面(紙本金地著色柳桜草花図附紙本着色秋

草図 襖貼付) 八面 妙法院、△名古屋城旧本丸御殿障壁面 紙本

著色風俗図(対面上段之間) 紙本着色風俗図(対面所次之間) 八面

名古屋市、○紙本墨面松林図 長谷川等伯筆 六曲屏風 一雙 国、

△紙本墨面猿猴図 等伯筆 二幅 竜泉庵、△紙本墨面芦雁図(伝宮

本武蔵筆) 六曲屏風 一雙 財団

法人永青文庫、○紙本金地著色舞踊図 六曲屏風 一雙 京都市、○紙本着色四条河原図 二曲屏

風 一隻 堂本四郎、○紙本着色南蛮人渡来図 六曲屏風 一雙 小林

中、△紙本金銀泥絵和歌巻(鹿下絵) 一卷 宗教法界世界救世館、

△金地著色扇面散図(伝宗達筆) 二曲屏風 一雙 三寶院、△紙本

金地著色秋草図 俵屋宗雪筆 六曲屏風 一雙 国、△紙本金地著色

風神雷神図 尾形光琳筆 二曲屏風、裏銀地著色夏秋草花図 酒井

抱一筆 一雙 国、△紙本墨面維摩図 尾形光琳筆 一幅 反町茂

作、△紙本淡彩西湖春景銭塘觀潮図 池野大雅筆(銭塘觀潮図)

六曲屏風 一隻 国、紙本淡彩秋山行旅図 与謝蕪村筆 六曲屏風

左隻 一隻 同、△紙本着色山水図 浦上玉堂筆 辛未(文化八年)

浦上春翠、田能村竹田の跋がある一帖 梅沢彦太郎、紙本墨面

欲雨欲晴図 浦上玉堂筆 一幅 赤星五郎、△紙本着色保津川図

円山応挙筆 八曲屏風 寛政七年ノ年記アリ 一雙 東村総左衛門

△絹本着色黒き猫圖 菱田春草筆 一幅 細川護立、紙本墨面淡

彩山莊風雨図 富岡鉄斎筆 一幅 内藤乾吉、絹本着色春雨図 下村

親山筆 六曲屏風 一雙 国、御物

絹本着色和暖図 竹内栖鳳筆 六曲屏風 二雙 宮内庁

彫刻

△土偶 埼玉県岩槻市真福寺貝

塚出土 一箇 中沢武男、△土偶 青森県西津軽大造町亀岡出土

一箇 越後谷源吾、土偶 山梨県 東八代郡黒駒村出土 一箇 国、

△埴輪武裝男子像 埼玉県北埼玉郡中条村中条出土 一箇 根

玉郡十条村出土 一箇 大倉倉、△埴輪女子像 群馬県邑楽郡大

川村大字古海出土 一箇 国、埴輪鹿(北) 茨城県出土 一箇 高熊

敬二、△埴輪猿 茨城県行方郡立花村出土 一箇 中沢武男、△銅

造釈迦如来坐像 一箇 国、△銅造菩薩半跏像 一箇 同、△銅造觀

音菩薩立像(夢違觀音) 一箇 法隆寺、△木造獅子吼菩薩立像 一

軀唐 招提寺、旧御物 木造伎楽面三面 国、△木造薬師如来立

像 一箇 元興寺、△木造弥勒菩薩坐像(伝良弁念持仏) 一箇 東大

寺、△木造神像(老貌男神坐像) 一箇 松尾大社、△木造雲中供養

菩薩像 五軀 平等院、△木造十二神將立像(伝長勢作) 安底羅大

將摩虎羅大將 二軀 広隆寺、△木造舞楽面 地久、納會利 二面

春日大社、△木造舞楽面 陵王一面 觀世音寺、△木造地藏菩薩

坐像 一箇 六波羅蜜寺、△木造二十八部衆立像 摩和羅女、神母

房坐像 一箇 明月院、△木造能面般若 一面 細川護立、△木造

能面白色尉(伝日光作) 一面 同、木造能面小面 一面 国

一六一

「物故者」 ページ (162～174 ページ)

個人情報保護のため非公開

Pages of the Articles of the Deceased (pp.162-174)

Cut for protection of the personal information

美術文献目録 (昭和三二年)

凡 例

- 一、ここに採録した文献はわが国において昭和三二年中に発行された単行図書、定期刊行物、および諸新聞に掲載されたものである。但し、三年の文献の補遺も適宜組み入れた。
- 二、単行図書の形で刊行されたもののうち多数の論文を集録したものは単行図書としてあげた他、その内容を定期刊行物中にも組み入れた。
- 三、現代美術文献目録は明治大正以後の美術に關するものを集めた。
- 四、建築ならびに工藝の範圍は本文最初の凡例に記した範圍にとどめた。
- 五、各項目内の配列は内容別順とした。
- 六、この目録をつくるために採録した定期刊行物および新聞は下のとおりである。但し例外の特殊刊行物等は記載しなかつた。
- 七、雑誌の号数は主として通巻番号を採用したが、通巻番号によらない場合は括弧を用いて區別した(例、(五)は昭和三二年五月号を示す)尚六〇三一六〇五は六〇三号、六〇四号、六〇五号に亘ることを示し、九・一―三は昭和三二年九月一日から三日附に亘る新聞を示す。

朝日新聞	現代の眼(国立近代美術館ニュース)	建築史研究	工藝ニュース	国際建築	古代研究	三彩研究	史海	史迹と美術	信濃	書陵部紀要	人文論	新造	朝鮮学	東京タイムズ	銅鐸	東方学報(京都)	南都	日本工芸	日本漆工	兵庫史学	美術史	美術史	文化史	墨美	民藝	ユラシア学会研究報告	龍谷史学	歴史考古学
アトリエ	熊本史学	建築学会論文集	建築文化	国立博物館ニュース	古文化財之科学	史淵	史泉	史代文	上新	駿台史	淡年	哲学	刀剣美術	東方学	東方古代研究	日本経済新聞	日本美術工芸	日本文化	美術学	美術手帖	美術史	文化研究	北方文化研究報告	密教文化	大和文華	読売新聞	若美	歴史地理
岩手史学研究	藝術新潮	建築雑誌	考古学雑誌	国学院雑誌	産経時事	史苑	史想	史品	真人宗文	仙臺郷土研究	中央公論	東京新聞	陶新	東方学	東方学	日本建築学会論文報告集	日本史研究	日本歴史	美術研究	美術批評	文化財協会報	萌新	毎日新聞	ミュージアム	大和文化研究	リビングデザイン	歴史教育	

目次

〔定期刊行物所載文献〕

現代美術・西洋美術

総説	内容別順……………	一七
絵画	……………	一六
彫塑	……………	一五
工芸・デザイン	……………	一八
建築	……………	一三
時評	……………	一三
展覧会	……………	一五
作家	人名別五〇音順……………	一六
身辺雑記・随筆	……………	一九
物語作家	……………	一五
美術関係者	……………	一六
その他	内容別順……………	一七

東洋古美術

総説	……………	一六
絵画	……………	二〇
日本	……………	二〇
中国・其他	……………	二四
書蹟	……………	二五
彫刻	……………	二六
建築・庭園	……………	二七
工藝	……………	二九
陶磁工	……………	二九
金工	……………	三〇
木漆工	……………	三二
染織工	……………	三一
ガラス工・玉工・その他	……………	三一
考古学関係	……………	三一
歴史関係・其他	……………	三三
〔単行図書〕		
現代美術・西洋美術	……………	三四

定期刊行物所載文献

現代美術文献 西洋美術

総説

藝術の領域

ハーパー・朝 日 二・九

空間と表現

タビエ・墨 美 五

藝術制作に関する一
試論

元井 能 研究紀要 四

開かれた形 (Forme
ouverte) 試論—形
而上的なるもの意
味

北山 正迪 墨 美 五

世界の現代美術にお
ける民族性と風土の
問題 (座談会)

柳 定一 美術手帖 三六

特集・今日の美術の
諸問題

針生 一郎 みづゑ 六八

人間と物質

針生 一郎 シ

造型の問題—A今
日のマテイエール
B有限空間から無
限空間へ—

富永 惣一 シ

今日の美術とパ
ー

宇佐見英治 シ

今日の美術の問
題 (座談会)

徳大寺公英 井上長三郎 井上正誠 富永 惣一 美術手帖 三六

伝統の問題

富永 惣一 美術手帖 三六

美術文献目録

伝統とは抽出するも
の

田中 岑 美術手帖 一三

アンフォルメルをめぐ
つて・西洋と東洋
・伝統と現代 (座談
会)

今井 俊満 針生 一郎 山口 勝弘 東野 芳明 瀨木 慎一朝 日 一三・元

ひとつのアンフォル
メル観

瀨木 慎一朝 日 一三・元

誇張された論議—ア
ンフォルメル派につ
いて—

佐波 甫 産経時事 一〇・五

世界の現代美術にお
ける日本の位置

今泉 篤男 美術手帖 一五

第一回日本旅行の精
神的決着書

M・ラゴン ミシエール・タビエ 芳賀 徹訳 S・スペンダー 河北 倫明 アドルフ・ホフマイスター 滝口 修造 長谷川路可 今井 俊満 前 春 九

日本人は世界の現代
美術に何を貢献でき
るか

ダール シ

スペインダー氏のこと

シ

日本を想う—独得の
抽象藝術—

朝 日 八・三

日本に向けられる眼
イタリヤにきた日本
藝術

九・九

パリ「道元の日」—合
理主義への挑戦—
パリの文化と庶民気
質 (対談)

芦原 英了 高野三三男 美術手帖 一三

新しいエコール・ド
・パリについて
新エコール・ド・パ
リ

ミシエール・ラゴン 瀨木 慎一 みづゑ 六三

マールグザール十年—
フランス美術の一断
面

東野 芳明 藝術新潮 八ノ三

大衆と現代美術 (一)
美術と大衆 (座談会)

三輪 福松 針生 一郎 岡本 太郎 羽仁 進 西田 正秋 井島 勉 前 久夫 高橋 一男 富村 伝 沢柳大五郎 野村 久康 高橋 巖 摩寿意善郎 矢代 幸雄 山田智三郎 岡本謙次郎 山田智三郎 元木 省吾

特集・人体の美学
「現代」の問題
藝術史に於ける古典
の意味について

西田 正秋 アトリエ 三六

欧州前古典古代学
の展望 (1)
埃及古代学
3 | 埃及王朝文化の
起源問題

高橋 一男 古代学 六・三

ルネサンス美術史の
要点二三
クラシック様式成立
前後における質的転
換について

野村 久康 美術史 三

パロック美術とスベ
イン神秘主義—パロ
ック自然主義の一視
覚—

高橋 巖 学 元

イタリヤ美術の伝統
と現代

読 売 二・二

現代ドイツの美術
新編・西洋美術史
(座談会)

七・三

アメリカの抽象表現
派

東京夕刊 七・三

ドイツ・アメリカの
見た二十世紀美術
ロシア文化伝来百年

八ノ六

台湾文化の現状	西川 満朝	日	三七
日本近代美術史一	中原 佑介	美術手帖	二四一—二六〇
近代日本美術の流れ(明治期)	三木 多聞 中村伝三郎	国立近代美術館 ニュース	二六〇—二六二
二十世紀美術の展開	中山 公男	美術手帖	一三三
フォヴィスム	植村鷹千代	シ	一三三—一三四
キュビスムとその背景1、2	野上 素一	シ	一三五
フトゥリズモ(未来派)とその周辺	針生 一郎	シ	一三六—一三九
表現主義1、2	江原 順	シ	一三〇
ダダイスム	東野 芳明	シ	一三三—一三三
シュルレアリスム	瀨木 慎一	シ	一三四
抽象主義	滝口 修造	みづゑ	一六〇—一六二
記号について(I)、(II)	シュルレアリスム研究会	シ	一六三
オートマチスム	ファンデルトワッサール	シ	一六三
抽象的空間—超オートマチスムについて	瀨木 慎一	シ	一六三
オブジェの思想的意義	針生 一郎	シ	一六六
オブジェについて	シュルレアリスム研究会	シ	一六六
シュルレアリスムのオブジェ	江原 順	シ	一六六
あるシュルレアリスムの見たエロチスム	清岡 卓行	シ	一六九
シュルレアリスムと心理	中原 佑介	シ	一七〇
シュルレアリスムのエロチスム	シュルレアリスム研究会	シ	一七〇
現代美術におけるオブジェの問題	武田 恒夫	美術	三三
リアリズム(あいまいな言葉10)	朝 日	朝日	四—六
成熟の秘密	岡本謙次郎	藝術新潮	八ノ二
藝術は学べるか—二の問題	シ	シ	八ノ六
現代美術入門	岡本 太郎	美術手帖	一三
目的としての絵画	川端 実	シ	一三
手段としての絵画	池田 竜雄	シ	一四
具象から抽象への発展	建昌 覚造	シ	一五
批評精神と諷刺の効用	山口 勝弘	シ	一六
前衛彫刻とはなにか	シ	シ	一六
素材の解放	シ	シ	一六
絵画と社会	中原 佑介	みづゑ	一六
近代絵画(一—二—三)	小林 秀雄	藝術新潮	三—一
特集・民俗と絵画—第四回日本国際美術展から—	富永 惣一	シ	一六
美術と民族	針生 一郎	シ	一六
伝統と前衛	岡本 太郎	シ	一六
民族性と世界性	宮川 寅雄	シ	一六
美術における民衆	林 武	シ	一六
美術に見る民俗の体質	植村鷹千代	シ	一六
日本画壇の位置	宇佐見英治	美術手帖	一三〇
現代絵画の様式	シ	シ	一三〇
日本画の反省と今後の方向	河北 倫明	彩	九
児童画にあらわれた天才(座談会)	北川 民次	藝術新潮	八ノ五
朱の世界	久保貞次郎	シ	八ノ二
緑の世界	滝口 修造	シ	八ノ三
眼(生きている絵画・1)	難波田 竜起	シ	八ノ三
手(生きている絵画・2)	土方 定一	シ	八ノ一
子供と大人(生きている絵画・3)	シ	シ	八ノ二
顔(生きている絵画・4)	シ	シ	八ノ三
空間(生きている絵画・5)	シ	シ	八ノ四
肌(生きている絵画・6)	シ	シ	八ノ五
足(生きている絵画・7)	シ	シ	八ノ六
頭(生きている絵画・完)	シ	シ	八ノ七
明治中期の洋画(白馬会を中心として)	隈元謙次郎	美術研究	一九三
西洋の風俗画(一七世紀オランダ絵画史の覚え書として)	嘉門 安雄	ミュージウム	七
巨匠の近作	富永 惣一	藝術新潮	八ノ一
日本にある世界的名画	嘉門 安雄	シ	八ノ六
世界美術館への招待(1) (2)	シ	シ	八ノ六
インドの現代絵画	坂西 志保	文藝春秋	三五—一三
ユーゴスラヴィアの壁面	柳 宗玄	読売夕刊	二—六
壁面・宗教藝術・フレスコの歴史と技術(座談会)	長谷川路可 宮本三郎	美術手帖	一三三

素描試験 世界の素描名作展に よせて	鈴木 進	三 彩 六
東西素描考 日本の素描を中心 として	三輪 福松 中村 溪男	三 彩 四
スケッチとデッサン	水沢 澄夫	国立博物 館ニュー 二 三
山水画の画法	フリッツ・ ヴァン・ブ リーセン 今井綾子訳	国立近代 美術館ニ 二 元
今日の版画 版画の本質をめぐつ て	小野 忠重 久保貞次郎	三 彩 六 美術手帖 二 元
日本は果して版画王 国か?	徳大寺公英	みづゑ 六 五
版画に賭ける日本の 気質	柳 亮	六 六
版画に困境はない	ト・リード 滝口修造訳	読売夕刊 一・四
「最近のドイツ版画 展」によせて	バルバラ・ クラフト 石川公一訳	国立近代 美術館ニ 二 四
「最近のドイツ版画」 展作品解説	斎藤 清 関野準一郎 駒井 哲郎 脇田 和	シ
日本の版画・アメリ カの版画	斎藤 清	国立博物 館ニュー 二 八
セロファンのリトグ ラフ	大道 武男	美術手帖 三 三
新しい教材・滲透版 画の作り方	船井 美周	シ
版画の豆辞典	小野 忠重	シ
トランプの話(版画 の歴史として)	グ・デザ ン	リピン 二 五

素描A	森 芳雄	美術手帖 三 三
水彩A	宮本 三郎	三 三
水彩B	上田 哲農	三 四
グワッシの話	鈴木信太郎	三 五
油彩(静物の場合)	川口 軌厓	シ
(風景の場合)	小川マリ子	三 〇
版画A(木版)	中谷 泰	三 三
版画B(銅版・石版)	関野準一郎	三 三
特集・新しいシステ ムによる絵画の教室 (カリキュラム)	駒井 哲郎	三 四
特集・世界五十ヶ国 児童画集	指導・柳亮 実習・画家 12人	アトリエ 三 九
外国の児童画	湯川 尚文	シ
世界の児童画の流 れ	霜田 静志	シ
私の世界児童画観	倉田 三郎	シ
外国児童画のテ ーマ	熊本 高工	シ
世界の児童画につ いて	桑原 実	シ
特集・石膏デッサン の実技	井上長三郎	三 六
石膏デッサンを学 ぶ人へ	指導・井上 長三郎、武 蔵野美校生 徒作品50	シ
石膏デッサンの教 室	諸 家	シ
私は如何に石膏デ ッサンを学んだか	中村 善策	三 三
特集・風景画の四季 色彩と構図の研究 を主題に	倉田 三郎	三 三
特集・名作による構 図の研究	シ	三 三
構図の類例	シ	三 三

構図とモチーフ	竹谷富士雄	アトリエ 三 三
人物画	松本 弘二	シ
風景画	森 芳雄	シ
静物画	阿部 展也	シ
構図から構成へ	阿部 展也	シ
特集・制作入門 東 京藝術大学伊藤教官 一ヶ年間に於ける制 作研究記録	解説・伊藤 廉	三 四
特集・スケッチの実 技	諸 家	三 五
特集・女の描き方 (続・構図と色彩) 新しいシステムによ る共同制作の記録	諸 家	三 六
特集・石膏デッサン 3ヶ月	西村 愿定	シ
オーヴェールの通り	式場隆三郎	みづゑ 六 六
面壇新地図(1)-(5)	読売夕刊	二・二八 五・三三 三・二二 三
彫 塑		
日本彫刻会小史 岡 倉天心と日本近代彫 刻	中村伝三郎	美術研究 一 〇
世界の彫刻(3)-(14)	A・マルロ	藝術新潮 八ノ一
ギリシャ浮彫の考察	小松 清訳	三 三
クワトロチェント彫 塑藝術の成立 ギベ ルティとドナテロを 中心として	海津 忠雄	美 学 三 三
ゴローアのア美術 彫 刻を中心として	上平 貢	研究紀要 四
彫塑A・B	水村 重信	シ
	乗松 巖	美術手帖 二六、三 九

広島平和聖堂・正面彫刻について
広島平和聖堂の彫刻について
La Jeune Sculpture 展紹介

工芸・デザイン

特集・日本デザイン
の生態
工業デザインと美術
工芸

「工業デザイン」と
「技術の文明」

デザインの泉

平面・空間・平面
地図

設計図

工業デザインの新傾
向

今日のデザイン

今日のグラフィック
(対談)

グッド・デザインと
はなにか(座談会)

グッド・デザインは
どうして選ばれるか

伝統工芸とグッド・
デザイン

伝統と前衛を観る
(京都の陶藝)

型友禪の模様

明治の写友禪

特集ーデザイン十年
の歩み
一九五七年のデザイ
ン界
船体の幾何学
公衆電話(街で拾つ
たデザイン・八)

窓(街で拾ったデザ
イン・九)

船とマークデザイン
包装紙
イラストレーション
画家のゆかたデザイ
ン

日本のかたち
日本のデザインへの
注文

外国デザインの濫用
一億円のコレクション
の工芸

米国における日本趣
味
戦後における意匠問
題の経緯

デザインナーの地位の
向上
アロハ柄とスポー
ツ・ウェア柄の知識

経営とデザイン
デザインとデザイ
ナー

COIDデザイン・
センターの利用状況
生活に根ざした工芸
品

外村吉之介

日本経済

リビン
グ

工
藝

ニ
ュー
ス

リ
ビ
ン
グ

デ
ザ
イ
ン

日本産業意匠の将来
織物にみる「こころ」
模様
色彩の象徴性
デザインから製品ま
で(その一・二)

型紙捺染
友禪染と絞染
スクリーン捺染と
ほぐし織

機械捺染とオパ
ル・ジョーゼット
緞緞・カーベット
機械レース・再織
先染サロン・オシ
マク

ネイティブ・クロ
ンカチーフ
紋織物
薄板ガラスによる装
飾

フォーテックサー
(写真に基いたパ
ターン作成法)
写真によるデザイン
ムラージュという美
術

ガラスの島
デザイン講座
タイの諸事情

岡田 信治

陸郎

デザイン

ナル

三

三

三

三

三

三

タイ向作品の批評

小川信治
木下勝太郎
赤沢鉦太郎
柴田貢

デザイン
ナル

三

ビルマの諸事情

谷川順一
杉本欽弘
小野勉

三

ビルマ向作品批評

小野勉
柴田貢

三

インドシナ諸事情

小川信三
京谷禎三

三

インドシナ向作品の批評

小川勝治
木下鉦太郎
赤沢鉦太郎

三

香港の諸事情

能崎英二
牧野英二

三

香港向作品の批評

能崎英二
木下勝太郎
赤沢鉦太郎

三

フィリッピンの諸事情

井沢元一
谷川順一

三

フィリッピン向作品の批評

井沢元一
木下勝太郎
赤沢鉦太郎
柴田貢

三

パキスタンの諸事情

三浦初男
谷川順一

三

パキスタン向作品の批評

三浦初男
赤沢鉦太郎
柴田貢

三

セイロンの諸事情

京谷禎三
小川信治

三

セイロン向作品の批評

小川信治
木下勝太郎

三

イラン・イラクの諸事情

谷川順一
牧野英二
山崎元夫

三

イラン・イラク向作品の批評

山崎元夫
木下勝太郎
柴田貢

三

アデンの織維意匠

谷川順一
市山敬喬
榎並喬

デザイン
ナル

三

アデン向作品の批評

榎並喬
赤沢鉦太郎
木下勝太郎

三

回教藝術について

谷川順一

三

東アフリカの諸事情(附エチオピア)

谷川順一
鈴木弘

三

西アフリカの諸事情

谷川順一
三浦初男

三

アフリカ向作品の批評

杉山仁一郎
木下勝太郎
赤沢鉦太郎
三浦初男

三

白領コンゴ

柴田貢
谷川順一
竹内寅雄

三

南アフリカ(南ア連邦)

松井隆一
谷川順一

三

白領コンゴ、南アフリカ向作品の批評

内海俊一
赤沢鉦太郎
柴田貢
谷川順一

三

欧州のデザイン事情

佐野正男
野崎英二

三

欧州向作品の批評

佐野正男
赤沢鉦太郎
柴田貢

三

米国とカナダ

谷川順一
佐野正男

三

中南米

谷川順一
中後己次

三

ハワイ

高木良明
榎並喬

三

太平洋

谷川順一
横沢元吉
井沢一

デザイン
ナル

三

中国の図案(一・二・三)

庵原謙

三

新しい中国服

マンチエス
デイ・ガー
り、W・G・

三

戦後の英国壁紙

ド稿
スザラン

三

ノルウェー男子の手工藝

ハルフダン
ルグ

三

フランスのデザイン教育の一例

永松幹生

三

米国のデザイン教育について

服部勝之

三

イタリヤのデザイン事情

景

三

英国と米国のグッドデザイン

ルネ・エル
ヴィイ

三

米国の流行とその背景

織田彰二郎

三

米工業デザインの現状

ジョン・キ
ムバリー・キ
ムフオー

三

中近東諸国の服装と意匠

野際芳之助

三

東方鍛通のデザイン

エイ・セシ
ル・エド

三

デザインナーの見たシ
ンガポール

ワーズ

三

ベルシヤ・カーペツ
トのデザイン

ワーズ

三

アディレーヨルバ族の模様染	S・ウェン ガーH・U・ ベイアー	デザイン ・ジャーナル	四	東京の都市造形 上・下	板垣 應穂	東京夕刊	六二四 六二五	札幌農学校および模範家畜房の建築について	横山 尊雄 木村 徳国	日建学会 論文報告集	五ノ二
ガーナのナイジュリア人	インド工業 協会	シ	五	東京都庁舎と読売会館に含まれる問題	瀬木 徳一 徳永 正三 浜口 隆一 森田 茂介 ミド 同人 連合設計社	建築文化	二九	センセーションナリズムの建築・序説(その2)——劇的效果の追求について	向井 正也	シ	シ
インドの伝統染織	加藤土師萌	陶 説	五	都庁舎への疑問に答える	丹下 健三	藝術新潮	八ノ三	A. W. N. Pugin に関する諸評論	島田 家弘	シ	シ
欧州の意匠傾向	工 藝	シ	五	現代建築の反省(座談会)	竹山謙三郎 丹下 健三 浜口 健一 宮城 音弥	シ	八ノ五	特集・国立劇場 日本の劇場抄史 劇場抄史年表	小泉嘉四郎	国際建築	二四ノ一
特集・北欧の工藝	工 藝	シ	五	大丸からそごうまで——戦後のデパート建築——	竹山謙三郎	シ	八ノ七	劇場建築用語解説	中村 隆臣	シ	シ
私の見た海外のガラス器	工 藝	シ	五	現代建築への疑問(各界交流9)	大宅 壮一	読売夕刊	二・二八	アテネとシシリーの古代劇場	久保 正彰	シ	シ
世界をめぐつて(デザイン対談・二)	工 藝	シ	五	「現代建築への疑問」再論(各界交流11)	大宅 壮一	シ	二・二九	劇場の性格	船越 徹 守屋 秀夫	シ	シ
ヨーロッパのガラスを尋ねて	工 藝	シ	五	再び大宅壮一氏へ(各界交流12)	吉阪 隆正	シ	二・二九	演劇的空間	板垣 應穂	シ	シ
木製玩具——スエーデンを中心に	工 藝	シ	五	現代建築における全人的考察への序説	渡辺 貞清	日建学会 論文報告集	五七—二	特集・都市にかえる みちを求める	浜口 隆一	シ	シ
スイス工作連盟とドイツ工作連盟の合同大会	工 藝	シ	五	現代建築の表現について(抽象主義の問題並びに不安感の問題)	伊東 行	シ	五七ノ二	建築と政治と人間と	シ	シ	シ
ギリシヤ陶器画の変容——アルカイスムからクラシスムへ——	野村 久康	みづゑ	六〇	明治期に於けるビジュネスセンターの誕生とその発展——三菱煉瓦を中心として(その一)	近江 栄	シ	シ	特集・建築ブームと建設産業	金 雲峰	シ	シ
モンドリアン問答	デザイン ・ジャーナル	シ	四七	Stipa Sedra 研究(1)その成立——Measurement について	辻合喜太郎	シ	シ	朝鮮の建築界に与えられた課題	シ	シ	シ
イヴ・クザリエ氏ノート(一〜四)	シ	シ	四一—四四	自然と融合する建築	池辺 陽	シ	シ	特集・自然景観と建築	シ	シ	シ
建築という藝術(18)	中村 順平	国際建築	二四ノ二 一四—六 一三	自然と調和する建築	江山 正美	シ	シ	特集・大量建築は住宅設計に何を要求するか	シ	シ	シ
生活空間と造形1・二つの都市の試み	河合 正一	彩	九	自然と調和する建築	シ	シ	シ	特集・自然景観と建築	シ	シ	シ
近代建築への誘い	清家 清	東京夕刊	一・三	自然と調和する建築	シ	シ	シ	自然と融合する建築	シ	シ	シ
日本の家屋への誘い	谷口 吉郎	シ	二・八	自然と調和する建築	シ	シ	シ	自然と調和する建築	シ	シ	シ
日本建築界の新風	小川 正隆	朝 日	六・六	自然と調和する建築	シ	シ	シ	自然と調和する建築	シ	シ	シ

特集・池袋によせて
特集・ベルリンのイ
ターバウ

国際建築 二四ノ九

たたみ

伊藤ていじ 建築文化 二三

コンクリート住宅の
設計について

建築文化 一三四

関西とモダンリビ
ング

西山 卯三 新建築 三ノ二

日本調デザインの基
調—6考—

菊竹 清訓

寝室の美学

清水 一 文藝春秋 三五ノ一

土地と建築家の応答

神代雄一郎

近代和風建築の価値

中村 登一

空想の建築

天野 太郎 藝術新潮 八ノ九

土地の価値について

池辺 陽

欧米住宅雑感

浅羽 三郎

空間とデザイン

河合 正一 彩 九四

敷地と建物との関係

増沢 洵

民族主義と伝統2

山口 文象

デイスブレイの魅力

浜口 隆一 国際建築 二四ノ四

《増沢洵論》への序章
として

浜口 隆一

家具は誰のものだ

半沢 重信

プラスチックと建
築

田村 恭 二四ノ五

壁構造

清家 清

庶民のための家具が
ほしい

須賀 通泰

仏陀記念碑の国際コ
ンベ結末

野生司義章 二四ノ三

空間概念としての壁

山本 学治

家具デザイン暗黒時
代からの訣別

長 大作

一九五八年ブラッセ
ル万国博覧会の建築

藤井 三郎 二四ノ二

技術の歴史

三枝 博音

デザイナーのノート

剣持 勇

ソヴェト建築家同盟
の新しい規約

矢内原伊作 みづゑ 六三

現代日本における病
院建築の諸問題

伊藤 誠

作家の個性を通じて
全体の問題へ

池辺 陽

アッシイの教会堂

柳 宗理 藝 五九

一病院建築研究者の
証言

吉武 泰水

美術館採光問題の一
検討

佐藤 鑑

蟻塚の民家—南イタ
リアルペロペロの
部落

工藤喜代美 東京夕刊 一三〇〇

床の意味の再認識

浜口 隆一

建築家の主体性の可
能性

伊藤ていじ

新しい造園

谷口 吉郎 藝術新潮 八ノ〇

生活の歴史を映すも
の

大高 正人

ギリシャの柱と日本
の民衆

神代雄一郎

現代の庭

田近 憲三 東京タイ
ムズ 一八

明日の都市像をめざ
して

浅田 孝

建築家の主体性

吉阪 隆正

今日の現実と明日の
写真

富永 惣一 東京夕刊 一三〇

都市像形成の基底を
さぐる

針生 一郎

環境・しごと・人—
大阪の建築と建築家

池辺 陽

美術団体というもの

柳 亮 四三六

現代建築の主題とし
ての百貨店

神代雄一郎

関西の建築について—
東京の建築家とし
て—

岡本 剛

「美術交流」中央機関
の設置を(論壇)

土方 定一 朝 日 五三九

現代住宅へのアプ
ローチ

編集部

体育館における構造
と表現

山本 学治

梅原辞任の投じた一
石(藝術院を再検討
する)

柳 亮 産経時事 六三三

人間の空間としての
生産空間

編集部

鉄・建築・人間

薬師寺 厚

盗用

板垣 直子 日経夕刊 七三三

生産的空間の抒情
—町工場のメタモ
ルフォーリス

関根 弘

郵政省の建築に關連
して

小坂 秀雄

藝術院を廃止せよ

土方 定一 読 売 七三三

スポーツ的なものか
らドレッシングなもの
への傾向(対談)

生田 勉

超機能主義

神代雄一郎

日展・藝術院問題に
ついて

読 売 七三三

藝術院問題はどこへ行く	東京	七四	今日の美術・白と黒	瀬木 慎一	三	彩	五	戦後美術の評価をめぐる一〇章	船戸 洪吉	美術手帖	二〇
日展・藝術院の分離では不十分(社説)	毎日	八一	今日の美術・視覚言語	〃	〃	〃	〃	日本の美術批評を檢对する(その1)	竹田道太郎	〃	三三
日展はどうあるべきか	柳 亮	東京	今日の美術・墨の藝術	〃	〃	〃	〃	明治から戦前まで現代美術と批評について	東野 芳明	文学	二五ノ三
「日展さむぎ」延焼中	サンデー	八・八	今日の美術・先進と後進	〃	〃	〃	〃	藤山外相の受難(日本メーカリー、英デザイン盗用問題)	勝見 勝	藝術新潮	八ノ二
美術団体に要望する	今泉 篤男	東京	今日の美術・民衆藝術としての版画	〃	〃	〃	〃	美術時評	〃	〃	〃
上・一水会の日展	〃	〃	日本画の可能性について	植村鷹千代	〃	〃	〃	迎客	杉村 丁	国立博物館ニュー	〃
脱退問題	〃	〃	展示形式について	水沢 澄夫	〃	〃	〃	第二回ホノルル展について	蔵田 蔵	〃	二六
下・美術施策の根本改革を	〃	〃	時評・台風の対策	〃	〃	〃	〃	デパート展の新傾向	近藤市太郎	〃	二七
日展・審査の内幕	朝 日	一〇・五	時評・東京都美術館の改築	〃	〃	〃	〃	春の特別展について	石沢 正男	〃	二八
日展をどうするか(社説)	東京	一〇・七	時評・日本美術に求められている一現代の意識	河北 倫明	〃	〃	〃	表慶館の考古陳列によせて	三木 文雄	〃	二九
日展のお家騒動(トビック)	毎日	一〇・六	「現代の意識」	中原 佑介	〃	〃	〃	忘れられた伝統傑作展に思う	田中作太郎	〃	三〇
日展はどうなるか	〃	〃	「現代の意識」	水沢 澄夫	〃	〃	〃	視光ブーム	堀江 和彦	〃	三一
藝術院・日展・その他の美術団体の歴史・機構(運営をめぐつての調査報告)	編集部	美術手帖	都美術館の改築と美術団体	船戸 洪	〃	〃	〃	美術図書について	野間 清六	〃	三二
日展・藝術院をめぐつて	〃	〃	美術団体の氾濫	高橋 義孝	〃	〃	〃	伝統と技術	奥平 英雄	〃	三三
美術家は実力で発言せよ	富永 惣一	〃	日本現代美術の盲点	徳大寺公英	〃	〃	〃	古美術展回顧	千沢 植治	〃	三四
藝術院は養老院であつてはいけないのか	中村 哲	〃	美術批評論	水沢 澄夫	〃	〃	〃	漫画的精神について	飯島 勇	〃	三五
ピラミッドと頂上	船戸 洪	〃	現代美術の評価をめぐつて(座談会)	今泉 篤男	〃	〃	〃	抽象絵画への疑問(各界交流5)	鶴見 俊輔	東京夕刊	六二四、二五
広い視野を持つ美術政策の確立	阿部 展也	〃	模倣の心理	石原 竜一	〃	〃	〃	白井氏(抽象絵画への疑問)に反論	白井 吉見	読売夕刊	一〇・元
アンフォルメル・本もの贋もの	今泉 篤男	〃	絵は誰のために描くのか	船戸 洪吉	〃	〃	〃	徳大寺公英氏へ	徳大寺公英	〃	一〇・三
今日の美術・アンフォルメル	富永 惣一	〃	機能を通して絵画を蘇生させることの必要	望月 衛	〃	〃	〃	再び白井吉見氏へ	白井 吉見	〃	二〇・七
今日の美術・具象と抽象	阿本謙次郎	〃	世界の美術批評家をめぐる三章	植村鷹千代	〃	〃	〃	面壇は新人を欲しているか上・下	徳大寺公英	東京夕刊	二〇・三
	瀬木 慎一	〃	美術批評の宿命的ぶざま	佐々木基一	〃	〃	〃	ひとのデザインを尊重せよ(論壇)	岡本謙次郎	東京夕刊	二〇・七
	三 彩	〃		瀬木 慎一	〃	〃	〃		井上 尚一	朝 日	二二・三
	八四	〃		高橋 義孝	〃	〃	〃				

国際美術評論家会議
から
瀨木 慎一 朝 日 二〇二

今年美術界の問題
から(座談会)
植村 鷹千代
針生 一郎
徳大寺 公英
中原 佑介
造 形 三ノ九

何が何だか判らない
(対談)
時評・デパート・
ブーム
N・K 新建築 三ノ七

への批判
ニューバロック時代
シ
三ノ八

非作家とは何か
Y・M
三ノ九

展 覧 会

シヨッキング・ピク
チュアー今日の美術
展をみて
雪どけアンデパンダ
中谷 泰 八ノ四

第4回国際美術展の
焦点
岡本謙次郎 八ノ六

第4回日本国際美術
展(座談会)
富永 惣一
河北 倫三
岡本 謙次郎
瀨木 慎一 八ノ七

アウトサイダーのみ
た国際美術展
諸 家 美術手帖 二二六

日本国際美術展評
第2回クリティック
賞絵画展作品紹介
岡本謙次郎 みづゑ 六四

クリティック賞絵画展
をめぐる(座談会)
徳大寺 公英
中原 佑介
田中 琴
難波 竜起 六六

戦後美術の一〇年
「近代日本の名作」展
解説号
国立近代
美術館 ニニ

三一個の椅子―二〇
世紀のデザイン展よ
り
ニニス 二五ノ四

二〇世紀のデザイン
展
山田智三郎 美術館 ニ

「二〇世紀デザイン」
展作品解説
山田智三郎 美術館 ニ

二〇世紀のデザイン
展によせて
勝 宗理・勝見 三

A、デザインにお
ける人間像
浜口 隆一 三

B、生活の造形
向井 良吉 三

二〇世紀のデザイン
(座談会)
勝見勝、柳
宗理、吉村
順三、山田
智三郎 美術館 八ノ三

アメリカ現代美術の
特別陳列に関して
山田智三郎 国立近代
美術館 三〇

第一回東京国際版
画展に寄
せて
富永 惣一 三

第一回国際版画ビ
エナリー展(座談会)
山田智三郎
O・スタ
久保貞次郎 美術新潮 八ノ八

第一回東京国際版
画展出品
作家の発言
諸 家 美術手帖 二二五

トリエンナレ参加
は実現したが
トリエンナレ展日
本参加計画
西塔 孝 国際建築 二四ノ三

トリエンナレに参
加して
坂倉 準三 建築文化 二六

ミラノ・トリエン
ナリー展を見て
加藤土師前 読売夕刊 八八

ミラノ・トリエン
ナリー展から
瀨木 慎一 朝 日 二・一

ナリー工展
第一回トリエン
ナリー展
シ 美術新潮 八ノ三

サンパウロ・ビ
エナリー展につ
いて
半田 知雄 国立近代
美術館 三〇

第四回サンパウ
ロ国際美術展
から
水谷 清 毎 日 一〇・三

サンパウロ・ビ
エナリー展から
栗原 信朝 日 一〇・五

サンパウロ・ビ
エナリー展の
焦点
丹下 健三 美術新潮 八ノ三

美術が果す道徳教育
(世界思潮美術展
から帰つて)
森 桂一 日 経 三・六

アメリカの鉄畜展
ポルトナ
上林澄雄訳 美術新潮 八ノ七

今年のサロン・ド
メエ
針生 一郎 みづゑ 六五

ホルルルにおける第
二回日本美術展に
ついて
矢島 恭介 国立博物
館ニユ 二九

演出の美術―平安美
術展によせて
白畑 よし 美術新潮 八ノ三

写実の「夜明け」中
世の「美術展」を
見
三雲祥之助 三

松竹梅展を終つて
桜井 猶司 萌 春 五〇

グラフィック集団第
四回展
阿部 展也 リビング・云

新制作協会展(建
築部)の批判に
応えて
板垣 勇 新建築 三ノ二

国際見本市所感
一九五七年・秀作
ベ
ストテン
土方 定一 国際建築 二四ノ六

裝飾空間展評

勝見 勝

グ・デザ
イン 三五

欧州のステンドグラス
(パリ近代美術館
の教会美術展より)
展覧会特集

芦原 初子

工 藝
ニュース 三五ノ五

第五回新日本工業デ
ザイン入賞作品

作家

(絵画・日本)

特集・青木大乗

稀有な画家(青木
大乗君のこと)

宇野 浩二

造 形 三ノ七

巨匠・青木大乗

吳 文炳

小森 盛

大乗先生のこと

山田 皓齋

市川猿之助

青木大乗先生

花柳芳次郎

荒城 季夫

争相手として

青木 大乗

作家の言葉

青木大乗略年譜

和田伊都夫

美術手帖 一三

足立源一郎(美術人
論断)

紅毛日本画家

東京夕刊 二・九

荒谷直之介(美術人
論断)

有島生馬、
谷口、隈元

東京夕刊 八ノ四

(座談会)

有島生馬、
谷口、隈元

東京夕刊 二・三

伊勢正義(美術人論
断)

伊東 深水

東京夕刊 五・四

わがふるさと

荏 春

藝術新潮 四九

わが名品展

荏 春

藝術新潮 八ノ三

井上三綱(美術人論
断)

藤本 四八

東京夕刊 四・三

アメリカにいる猪熊
弦一郎(海外作家訪
問2)

猪熊弦一郎(美術藝
談)

東京夕刊 八・三

猪熊弦一郎(訪問)

和田 定夫

美術手帖 一三四

日本画壇をとり出す
私の発言・ランフォ
ルメルの土壤

岩崎 巴人

藝術新潮 八ノ二〇

岩田専太郎(近況報
告)

今井 俊満

三 彩 九

岩田藤七(横顔)

岡本謙次郎

産経時事 八・一

牛島憲之の作品

私の知る宇田荻郎

みづゑ 六三

内閣安理の版圖

岡部 三郎

みづゑ 六三

カンヌに打ちこむ梅
原竜三郎

徳大寺公英

読 売 一・二

梅原竜三郎(きよ
のり)

徳大寺公英

読 売 一・二

梅原竜三郎氏に聞く
| 藝術院会員脱退を
申出た心境

朝 日 六・六

梅原竜三郎(きよ
のり)

徳大寺公英

読 売 一・二

梅原竜三郎(きよ
のり)

徳大寺公英

読 売 一・二

梅原竜三郎(きよ
のり)

徳大寺公英

読 売 一・二

梅原竜三郎(きよ
のり)

徳大寺公英

読 売 一・二

梅原竜三郎(きよ
のり)

徳大寺公英

読 売 一・二

梅原竜三郎(きよ
のり)

徳大寺公英

読 売 一・二

梅原竜三郎(きよ
のり)

徳大寺公英

読 売 一・二

梅原竜三郎(きよ
のり)

徳大寺公英

読 売 一・二

梅原竜三郎(きよ
のり)

徳大寺公英

読 売 一・二

大久保作次郎(美術
人論断)

小倉 遊亀

東京夕刊 五・六

画業四十年

小倉 遊亀

藝術新潮 八ノ一

小倉遊亀(人物点描)

太田 忠

サンデー 一・七

絵は機関車に乗って

太田 忠

日 経 三・三

太田聰雨

水沢 澄夫

三 彩 八六

写生帖拜見、太田聰
雨

野沢 久雄

東京夕刊 九・二〇

太田聰雨(美術藝談)

野沢 久雄

美術手帖 一三

岡鹿之助(訪問)

野沢 久雄

東京夕刊 一〇・元

岡田謙三(美術藝談)

荒城 季夫

造 形 三ノ〇

純潔の画家・岡見富
雄

吉野 正弘

毎 日 一〇・二四

クロード・岡本君

岡本 太郎

文藝春秋 三ノ四

わが二等兵物語

針生 一郎

美術手帖 一三三

「日本学」の勉強(近
況報告)

加藤 一雄

東京夕刊 七・九

小野忠弘

船戸 洪

美術探求 一四四

小野竹喬(美術藝談)

針生 一郎

美術手帖 一三三

小野竹喬論

加藤 一雄

東京夕刊 七・九

竹喬写生帖にふれて

船戸 洪

美術探求 一四四

大山忠作の話

針生 一郎

美術手帖 一三三

小山田二郎(現代作
家小論)

針生 一郎

美術手帖 一三三

風間完(美術人論断)

針生 一郎

美術手帖 一三三

堅山南風の生家

針生 一郎

美術手帖 一三三

泥棒作家・会見記

針生 一郎

美術手帖 一三三

女流画家ヨーロッパ
をゆく

針生 一郎

美術手帖 一三三

加藤栄三のデッサン
にふれて

針生 一郎

美術手帖 一三三

加藤芳郎(横顔)

針生 一郎

美術手帖 一三三

加藤芳郎(人寸描)

針生 一郎

美術手帖 一三三

ヒゲのある漫画

針生 一郎

美術手帖 一三三

金島桂華

針生 一郎

美術手帖 一三三

会えなかつた金島桂 水沢 澄夫 萌 春 四

華 金島桂華年譜 産経時事 一・三五

金山平三(横顔) 河北 倫明 三 彩 九四

加山又造 河北 倫明 三 彩 九四

加山又造 徳大寺公英 美術手帖 一三五

特集・川島理一郎 造 形 三ノ四

川島さんのプロファイル 横川毅一郎 三

雪の朝(川島先生 仁村美津夫 三

の清熱) 中沢 弘光 三

川島理一郎君のこ と 長谷川 昇 三

パリタンの川島君 小 熊 捍 三

川島君の画と私の 飯田 美稲 三

生活 荒城 季夫 三

或一面 川島理一郎 三

川島先生・寸描 作家のことは 美術探求 一四

川本末雄を訪ねて 川島理一郎 三

川端竜子氏(好きな 清水 崑 朝日夕刊 九・六

もの) モデルになった画家 木田金次郎 日 経 六・四

北川民次(訪問) 久保貞次郎 美術手帖 一三四

北岡文雄(美術人論 断) 東京夕刊 五・七

久保守(訪問) 園田 高弘 美術手帖 一三六

郷倉千靱(美術人論 断) 東京夕刊 五・三

栗原信(美術藝談) 東京夕刊 七・三

小糸源太郎(東京ッ 子) 毎 日 九・九

小糸源太郎のデッサン 岡本謙次郎 みづゑ 六・六

児島善三郎(美術藝 談) 東京夕刊 一〇・三

私のモチーフ 小林 和作 藝術新潮 八・一

小三敬三(訪問) 竹田道太郎 美術手帖 一三

近藤浩一路の作品 隈元謙次郎 萌 春 四

写生帖拜見酒井三良 三 彩 八四

桜井浜江(美術人論 断) 東京夕刊 三・三

佐藤忠良 岡本謙次郎 美術手帖 一三

信太金昌の話 美術探求 一四三

パリで評判の菅井汲 堀口特派員 産経時事 九・六

氏 藝術院賞の杉山寧 河北 倫明 東京タイ ムズ 三・五

杉山寧について 岡本謙次郎 萌 春 四

杉山寧小論 福島繁太郎 三

デッサンの個性的錯 誤(杉山寧のデッサン展を見て) 水沢 澄夫 みづゑ 六・三

菅橋彦(時の人) 毎 日 二・七

関口俊吾(美術人論 断) 東京夕刊 一・五

曾宮一念(美術藝談) 二・九

高間惣七(美術藝談) 六・五

高山辰雄 河北 倫明 三 彩 五

写生帖拜見、高山辰 雄 造 形 三ノ九

特集・田辺三重松 荒城 季夫 三

大らかなる風景 徳大寺公英 三

田辺三重松の位置 三宅三太郎 三

田辺さんの自信 近藤 哲士 三

雲と石の藝術 森野 亮 三

田辺先生のこと 田辺三重松 三

作家の言葉 田辺三重松 三

田辺三重松・略年 譜 三

田村孝之介(私の亭 主操縦法) 田村 ふき サンデー 毎日 二・五

島海青児(美術藝談) 東京夕刊 二・〇

辻永氏と「万花譜」 東京夕刊 五・元

津高和一(現代作家 小論) 徳大寺公英 美術手帖 一三〇

特集・椿貞雄 造 形 三ノ二〇

椿貞雄のこと 北川 桃雄 三

椿貞雄の画 武者小路実篤 三

椿について一言 長与 善郎 三

椿貞雄君の事 中川 一政 三

童顔・童心 平塚 運一 三

椿先生と私 林 彦三郎 三

椿先生寸感 金子 鋭 三

椿さんの絵につい て 荒城 季夫 三

作家の言葉 椿 貞雄 三

椿貞雄・略年譜 今 日出海 美術手帖 一三〇

東郷青児(人物点描) サンデー 毎日 六・六

極道五題ばなし 東郷 青児 文藝春秋 三ノ二〇

徳岡神泉(時の人) 徳岡神泉 毎 日 一・三

利根山光人(現代作 家小論) 岡本謙次郎 三 彩 八

土橋醇訪問 東野 芳明 美術手帖 一三三

大幸館のころ―中沢 弘光氏を囲んで― 藤本 四八 三 彩 九

中沢弘光(美術藝談) 隈元謙次郎 国立近代 美術館 ニュース 三

中村貞以 水沢 澄夫 東京夕刊 二・三

難波田竜起(美術藝 談) 中村貞以 東京夕刊 一・三

西山翠嶂(美術藝談) 西山翠嶂 毎 日 一〇・五

西山翠嶂(文化勲章 受賞の横顔) 西山翠嶂 毎 日 一〇・六

身に余る感激(文化 勲章拜受) 西山 翠嶂 造 形 三ノ二

西山英雄のデッサン	嘉門 安雄	朝 日	九・七	耳野卯三郎(美術人論断)	東京夕刊	四・九
西山英雄のデッサン	中村 溪男	美術探求	一四三	わが十代の思い出	宮本 三郎	毎 日
特集・西山英雄	造 形	三ノ二	七・三〇	拝みつゝ仏画復元	宮原 柳櫻	日 経
西山英雄のこと	河北 倫明	東京夕刊	七・三〇	放浪する「模写」よ	向井 潤吉	シ
西山英雄の魅力	藤森 淳三	三 彩	九四	棟方志功(作家訪問)	三木 多聞	国立近代美術館 ニュース
西山さんと岩と山	上野 照夫	針生 一郎	東京夕刊	棟方志功の板画(私の美術鑑賞)	ワルワラ・ブルノワ	東 京
西山英雄氏のこと	井島 勉	東京夕刊	六・二	棟方志功(横顔)	清水 崑	朝日夕刊
ひでおくんのこと	下川 千秋	横川毅一郎	三 彩	棟方志功氏(好きなもの)	清水 崑	朝日夕刊
お水取りに詣でて	安藤 哲信	福田平八郎「梅干」	美術手帖	冠風の道(近況報告)	棟方 志功	読売夕刊
西山英雄先生と私	松島 歳巳	福田平八郎「柿紅葉」(解説)	三 彩	写生帖拝見、森白甫	森白甫(美術人論断)	東京夕刊
西山さんの描写力	荒城 季夫	藤井令太郎(現代作家小論)	二六	森白甫(美術人論断)	矢野知道人の風景	美術探求
作家の言葉	西山 英雄	若々しい藤田嗣治画伯	読売夕刊	山口薫(美術藝談)	山口薫	東京夕刊
西山英雄・年譜	瀨木 慎一	ユキの打明け話(フジタと私)	四・三〇	山口蓬春論	山口蓬春	東京夕刊
ギリシャの神たち―萩原英雄の作品によせて―	みづゑ 六三	ブブノワ(紅毛江戸子)	毎 日	蓬春のデッサン	今泉 篤男	東京夕刊
橋本明治(美術藝談)	東京夕刊	脱退はしたけれどスケッチする前田青邨	八ノ四	山下清の将来	嘉門 安雄	東京夕刊
長谷川昇(美術人論断)	二・二六	「石橋」を描く(映画化された皇居の壁)	八ノ九	菓ごもりする「放浪の画伯」山下清	式場隆三郎	東京タイムズ
長谷川町子さん(好きなもの)	清水 崑	松林桂月の竹の詩	美術探求	風景画二十年	山本 丘人	美術新潮
長谷川路可(美術藝談)	朝 日	丸木位里(私の亭主模範法)	一四	特集・横山大観	斎藤 隆三	シ
イタリヤでの制作生活	長谷川路可	三岸節子	一四二	現代を超越した偉材	横山 大観	シ
海に消えた七年の労働・嘆きの長谷川画伯	朝 日	三岸節子(美術藝談)	一四二	大観の山水画	限元 謙次郎	シ
戦後の蠅螂―日本で拾つた異色画家(畑野玉次郎)	二・六	三雲祥之助・小川マリ夫妻(訪問)	一四二	大観の歴史画について	北川 桃雄	シ
浜口陽三(二人の大賞作家)	八ノ一	御正伸(美術人論断)	三・三	大観の人物画	鈴木 進	シ
浜口陽三の銅版画	八ノ八					
浜口陽三(時の人)	九・九					
毎 日	九・九					

落款からみた大観
画伯 野間 清六 萌 春 四〇

「屈原」のことなど 木村 毅 シ

大観先生と下館 外地格次郎 シ

横山大観制作年譜 及び事歴 シ

横山大観氏（一筆対面） 清水 崑 朝日夕刊 三・三

名誉台東区民・大観画伯 東 京 七・三

横山大観作江天暮雪（瀬瀨八景のうち） 嘉門 安雄 ミュージアム 七〇

大観・紫紅・青邨の八景図 シ

わが十代の思い出 横山 隆一 毎 日 三・二

壁（私のフォト・スケッチ、パリニューヨーク） 脇田 和 藝術新潮 八ノ八

脇田和（一九五七年の顔・美術） 和 田 定夫 東京タイムズ 一・九

スガイとイマイ（パリの個展を見る） 佐藤 朔 読 売 四・二

パリの日本人画家 瀨木 慎一 毎 日 三・一

靱彦・青邨・土牛の舞台藝術 仁村美津夫 三 彩 六

特集・画家の眼、東郷青児・三岸節子・小磯良平・高橋忠弥・向井潤吉・林武 アトリエ 三〇

日本画の新人たち 久富 貢 萌 春 四七

版画作家の横顔 和 田 伊 都 夫 美術手帖 二・九

浜口陽三・泉茂・棟方志功・もりまなぶ・岡野準一郎・胸井哲郎・吉田政次・牛玖健

日本のモダンアーチストの探点 G・ワッツ 藝術新潮 八ノ七

パリの日本人画家 富永 惣一 シ 八ノ六

日本の美術家と語る エレンブル シ 八ノ六

美術家の親子地図 三宅正太郎 シ 八ノ二

一七人の作家 河北 倫明 国立近代美術館 ニュース 五

前衛美術の一五人 徳大寺公英 瀨木 慎一 シ 三〇

特集・風土と藝術（日本画関西篇） 日記帖より 造 形 三ノ五

畏敬する先輩 小野 竹喬 シ

京の春 金島 桂華 シ

寸感 宇田 荻邨 シ

中庸 山口 華楊 シ

二言三言 池田 遙邨 シ

私の写生地 寺島 紫明 シ

ある学者 浜田 観 シ

山のことなど 麻田 弁次 シ

絵描きと野獣 西山 英雄 シ

サンパウロ・ピエンナレ展に出品する作家たち 我妻 碧宇 シ

パリで売れる日本人画家 阿本謙次郎 国立近代美術館 ニュース 三〇

宮田重雄氏・牛山喜久子さん（日曜対談） 河北倫明 美術手帖 三

高岡徳七・尾山鷹二郎（ゲタバキ交友録） 本間 正義 シ

望月春江・大河内信敬（ゲタバキ交友録） 船戸 洪 藝術新潮 八ノ二

岡本太郎・横山はるひ（日曜対談） 日 経 一・三

宮本三郎・三益愛子（日曜対談） シ 二・八

（絵画・外国）

ザイスル・アベディン氏 内藤 智秀 朝 日 三・五

ウィンテル「大きな庭」 針生 一郎 美術手帖 二・二

カルズ「風景」 岡 鹿之助 シ 二・五

グレイヴスの作品 三輪 福松 萌 春 四〇

モーリス・グレイヴス 福島繁太郎 美術手帖 二・二

グレイヴスと日本画の反省（座談会） 東山魁夷・福田豊四郎・岩崎巴人・加山又造・河北倫明 藝術新潮 八ノ九

中国の「画聖」齊白石 北川 桃雄 朝 日 二・六

齊白石の画 杉村 丁 萌 春 四九

ザウオキ（海外作家訪問） 藤本 四八 三 彩 三

サザランド「頭II」 岡本謙次郎 美術手帖 二・二

中国で会ったシケイロス 草野 心平 藝術新潮 八ノ三

シャガールの「バイブル」 小山田二郎 シ 八ノ一

ヴァイエイラ・ダ・シルヴァ 矢内原伊作 みづゑ 六三

日本に版画を学ぶ R・スチュワート 藝術新潮 八ノ八

ダリ小論（グロッタの画家・八） 東野 芳明 みづゑ 六三

ニコルソン「九月十四日」 岡本謙次郎 美術手帖 三・二

一九五五—五六年度のピカソ	宇佐見英治	みづゑ	六三三
ピカソの「食事」	東野 芳明	美術手帖	二二五
ピカソの陶板画によせて	鶴岡 政男	藝術新潮	八ノ二
ピカソの版画	土方 定一	みづゑ	六三五
ピカソの版画	久保貞次郎	美術手帖	二二六
ピカソ「針の中の果物」	小川 マリ	シ	一三〇
カメラの前のピカソ	アンリ・ジョルジュ・クルウゾウ	藝術新潮	八ノ六
変貌するピカソ	針生 一郎	シ	八ノ七
わが師ピカソ	室 淳介訳	シ	シ
博物誌の余白にピカソ素描をめぐつて	滝口 修造	シ	八ノ三
ピカソとレジェ	宇佐見英治	みづゑ	六三三
二つの空間	東野 芳明	美術手帖	二二六
ピュッフエ「エツフェル塔」	福島繁太郎	シ	二二五
ジャン・デュ・ブエツフェ	徳大寺公英	シ	二二六
フランス「赤い中の黒」	サム・フランシス	藝術新潮	八ノ三
未定形な自画像	橋本 明治	朝 日	一・三
中国の画家・傅抱石氏	矢内原伊作	みづゑ	六三五
版画家フリードレンダー	滝口 修造	読 売	一〇・三
ジャックソン・ポロック(今日の美)			
ジョルジュ・マチュー(美術藝談)			
ジョルジュ・マチュー	滝口 修造	三 彩	六三
東洋の伝統と私	吉田 博厚	東京夕刊	二・七
書道との対決	高田 博厚	東京夕刊	二・七
ミロの印象(現代作家会見記)	矢原内伊作	みづゑ	六三〇
中国の彫刻家・劉開渠氏	北川 桃雄	朝 日	一・三
フランスの若い画家たち	岡本謙次郎	萌 春	四七
フランス美術の新人	福島繁太郎	シ	八ノ五
現代ふらんすクリチック賞作品をみて			
パリに新人を拾う			
特集・現代作家一五人(欧米の画家と彫刻家)			
(彫 塑)			
朝倉文夫(一筆対面)	清水 崑	朝日夕刊	一・三
朝倉響子(人寸描)	朝 日	朝 日	六・七
笠置季男(美術藝談)	東京夕刊	二〇・一	
仁王像を作る後藤良名前と住居(茶の間)	斎藤 知雄	朝 日	三・六
辻晋堂(美術藝談)	東京夕刊	二・三	
パリの三十年	高田 博厚	読売夕刊	二・七
イサム・野口(美術藝談)	東京夕刊	六・八	
毛利武士郎(現代作家小論)	針生 一郎	美術手帖	二四
土方久功(美術人論断)	長谷川路可	みづゑ	六三六
平橋田中(美術人論断)	富永 惣一	三 彩	六三
グレコとファッチーニ			
世界の新人・チャドウィクの彫刻			
世界の新人・ドラエの彫刻について			
ヘンリーモアのデッサン	今泉 篤男	みづゑ	六三五
(工藝・日本)			
淡島雅吉(美術人論断)	東京夕刊	四・三	
各務鉦三(美術藝談)	西沢 笛吹	萌 春	四三
鹿兒島寿蔵君とその人形を作つて四十年(絵と文)	鹿兒島寿蔵	東京夕刊	三・三
河井寛次郎の人と作品	式場隆三郎	陶 説	五〇
父・河井寛次郎	河井 博次	藝術新潮	八ノ六
河井寛次郎(美術藝談)			
河井寛次郎(時の人)	毎 日	二・三〇	
河井田柿右衛門(横顔)	産経時事	二〇・二	
新古典派の田村耕一とその藝術	内藤 匡	陶 説	五〇
龍村平蔵氏(一筆対談)	清水 崑	朝 日	三・五
富本憲吉先生の模様	内藤 匡	陶 説	五〇
法隆寺附近に生れて	富本 憲吉	朝 日	九・三
国井喜太郎氏(漆工界百人伝・二五)			
根来実三(美術藝談)	日本漆工	八〇	
浜田庄司の人と作品	式場隆三郎	陶 説	五〇

堀柳女・塚田十一郎
(日曜対談) 日 経 三〇〇

宮之原謙の陶藝 林屋 晴三 萌 春 翌

「抹茶茶碗」の個展に
よせて 三輪 休雪 日 経 四〇〇

矢加部六郎(人寸描) 朝 日 四〇三

山鹿清華を語る 大山 広光 萌 春 翌

山崎寛太郎について 鎌倉芳太郎 シ

山崎寛太郎先生の作
品 新村 撰吉 シ

山崎寛太郎制作年譜 東京夕刊 一・三

山崎寛太郎(美術人
論断) 日本漆工 三

山田源次氏(漆工界
百人伝・二六) 木村 弘道 金沢美術
工芸大学 二

原弘 東京夕刊 四・六

広橋桂子さん 東京タイ
ムズ 四・五

朝日広告賞の作品と
作家の言葉 リビング
デザイン 六

(工藝・外国) 山本喜美子 藝術新潮 八ノ七

エタラジスト修業
ショウウインドウ藝
術家登場 東 京 一三・六

訪日のチャールズ・
イームズの話 剣持 勇 読 売 一三・四

チャールズ・イーム
ズの素描 浜村 順 美術手帖 一三

クプリエのデイスブ
レー (建 築)

芦原義信 Y M 新建築 三ノ三

生田勉 シ 三ノ一

伊藤喜三郎 Y M 新建築 三ノ五

入江雄太郎(地方の
現実と闘う作家) 浜口 隆一 シ 三ノ九

佐藤武夫(人寸描) 朝 日 二・六

坂倉準三(美術藝談) 東京夕刊 二・七

坂倉準三(美術藝談) 建築文化 二・三

白井晟一論(日本の
創造) 吉中 道夫 シ 二・三

曾原国蔵(つかみを
求める未完の作家) N・K 新建築 三ノ七

丹下健三(美術人論
断) 東京夕刊 三・九

丹下健三氏(好きな
もの) 清水 崑 朝日夕刊 六・三

丹下健三(本と私) 朝 日 四・二

堀口捨巳の人と建築 大江 宏 建築文化 一・三

堀口捨巳(人寸描) 朝 日 二・六

アトリエから脱皮し
て共同体へ(前川国
男建築設計事務所
吉阪隆正(時の人)) 林田 二郎 新建築 三ノ八

近代数寄屋と吉田先
生 山本 学治 毎日夕刊 三・元

作家と非作家(座談
会) 建築文化 一・三

作家という立場か
らの発言 大高正人
白井晟一
丹下健三
徳永正三
林昌二
司 一 浜口 隆 一

作家という立場
からの発言 大場則夫
田中浩
沼純一郎
村松貞次
司 一 浜口 隆 一

力学を超えた建築家
(アントニオ・ガウ
ディのこと) 今井 兼次 藝術新潮 八ノ二

ル・コルビュジェの
綴帳 坂倉 準三 リビング
デザイン 六

レーモンドさんの一
面 増沢 洵 建築文化 一・三

(書) 井上有一の書 有田 光甫 墨 美 六

資料として 井上 有一 シ

河井釜廬先生のこと 西川 寧 書 品 六

河井釜廬書・篆刻積
文 河井釜廬書・篆刻積
文 六

熊谷恒子(時の人) 毎 日 六・四

わたくしの書 榊 莫山 リビング
デザイン 五

掌説篠田桃紅 安西 均 藝術新潮 八ノ〇

篠田桃紅(人寸描) 朝 日 一・九

手島右卿(美術人論
断) 東京夕刊 二・六

手島右卿小論 松井 如流 墨 美 六

自作に添えて 手島 右卿 シ

豊道春海(人寸描) 朝 日 二・六

豊道春海(横顔) 産経時事 二・二

豊道春海・柳田美代
子(ゲタバキ交友録) 柳田誠二郎 シ 一・三

身辺雑記・随筆・紀行 青木 大乗 毎日夕刊 七・三

カナリヤと人(茶の
間) 朝井閑右衛門 東京夕刊 八・九

ライオンと語る 朝倉 文夫 シ 一・四

彫初め(茶の間) 浅見 淵 シ 四・六

志野の窯を訪ねて 足立真一郎 産経時事 七・二

北アルプスの山々
(旅の画帳) 荒井 陸男 東京夕刊 三・五

中国で入院する記
(七)

中国で入院する記 (下)	荒井 陸男	東京夕刊	三・六	東南アジアの旅 (漁火の画帖)	植村鷹千代	三	彩	九四	某月某日	川路 柳虹	日	経	四・二
いのちの火花	有馬 稻子	美術手帖	一・三	アカシヤ	羽藤馬佐夫	産経時事	七・三	群集(スケッチブッ	川端 実	読売夕刊	三・四	三・六	三・六
チヴィタ・ヴェッキ ヤの日本聖人祭を見 て	飯田 善国	東京夕刊	三・三	イラク発掘の外国調 査団	梅崎 春生	美術手帖	二・三	風(スケッチブック)	川端 実	読売夕刊	三・四	三・六	三・六
両国・浅草に遊ぶ	池部 鈞	東京夕刊	六・元	都会の季節	江上 波夫	朝	日	五・七	飛ぶ(スケッチブッ	川端 実	読売夕刊	三・四	三・六
石(パリの「日本の 庭」を作る)	イサム・野 口	藝術新潮	八ノセ	徳沢の新緑樹木(旅 の画帖)	大久保 泰	毎日夕刊	三・三	富士へ登つて	川端 実	読売夕刊	三・四	三・六	三・六
某月某日	石井 柏亭	日	経	シャンソン	大河内信敬	産経時事	六・四	来年こそは	川端 実	読売夕刊	三・四	三・六	三・六
グッド・デザインの 処女地	石垣 綾子	美術手帖	二・五	パレ「狼」(スケッ チブック)	岡 鹿之助	毎	日	一・一	日曜画家とくろろ と画家	神原 泰	日	経	六・一
奄美大島(旅の画帳)	石川 重信	産経時事	七・四	彼の画室の一隅(ス ケッチブック)	読売夕刊	五・六	五・三	スキート私	神原 泰	日	経	六・一	六・一
ピカソと柔道(茶の 間)	石川 滋彦	日	三・八	夜の淑女たち(スケ ッチブック)	読売夕刊	五・六	五・三	広島の碑	岸田日出刀	文藝春秋	五ノ二	六・二	六・二
マッターホルン	日	経	三・三	人形(スケッチブック)	読売夕刊	五・六	五・三	大同と雲崗—中国美 術紀行—	北川 桃雄	みづゑ	六・二	六・二	六・二
ヨーロッパの婦人	日	経	五・七	わが家の三筆	奥平 英雄	国立博物 館ニュー	一・三	ねこ絵(私の美術鑑 賞)	木村 荘八	東	京	一・七	一・七
世界の海の色	日	経	五・七	時蔵の「切れお富」	奥村 土牛	日	経	一・一	二十代に猛訓練を (読書・古典への道 しるべ)	日	二・三	二・三	二・三
某月某日	石田 茂作	東京夕刊	七・三	版画の散歩、一・城 大和路	小野 忠重	三	彩	九	ネコ絵(趣味の遍歴)	日	二・三	二・三	二・三
貝(私のコレクション)	伊勢 正義	東	京	五・六	小野彦三郎	産経時事	六・五	私の審美眼	木村 鉄雄	東京タイ ムズ	二・九	二・九	二・九
某月某日	伊東 深水	日	経	六・八	加藤 一雄	三	彩	九	パリの秋(上)(下)	日	二・三	二・三	二・三
志摩安乗の海女	伊藤 清永	産経時事	七・九	一葉女史の墓 南の郷	加藤 正信	造	形	三ノ二	私の審美眼	邱 永漢	美術手帖	二・四	二・四
夜間照明(茶の間)	伊原宇三郎	毎	日	四・五	加藤 正信	朝	日	四・三	絵を持つ楽しさ— 版画の普及をめぐつ て—	久保貞次郎	朝	日	三・三
美術とお金	文藝春秋	三ノ六	三・三	パナマ運河	風間 完	朝	日	四・三	絵を持つ楽しさ— 版画の普及をめぐつ て—	久保貞次郎	朝	日	三・三
ハンブルグの婦人 (画信)上・中・下	岩崎 鐸	朝	日	パリの婦人たち	春日部たす く	東京夕刊	二・四	サンパウロ(南北ア メリカ通信)	栗原 信	東京夕刊	二・三	二・三	二・三
パリで(画信)	朝日夕刊	二〇・四	二・五	ネコの聖家族	春日部たす く	東京夕刊	二・四	テレビ句会	小糸源太郎	朝日夕刊	三・七	三・七	三・七
スイスからイタリヤ (画信)	朝	日	二・五	最上川の畔りに(旅 の画帖)	産経時事	七・七	七・七	美術祭・今は昔	日	二・九	二・九	二・九	二・九
某月某日	岩田専太郎	日	経	一・七	産経時事	七・七	七・七	奈良日記(茶の間)	日	二・七	二・七	二・七	二・七
キバ(茶の間)	岩田 藤七	毎日夕刊	二・七	かりまぐら(私の美 術鑑賞)	産経時事	七・七	七・七	ゴッホに惹かれる映 画監督	五所平之助	美術手帖	二・四	二・四	二・四
しぎを飼う	上村 松篁	東京夕刊	八・三	青木の実(茶の間)	鶴下 晃湖	毎日夕刊	二・六	信州のしろかき(旅 の画帖)	神津 港人	産経時事	六・三	六・三	六・三
東南アジアの美術界 をみて(上・下)	植村鷹千代	日	九・三	多摩の草屋	川合 玉堂	三	彩	六	小年ヤクザ(茶の間)	日	二・九	二・九	二・九
				消えたい梅原竜三郎	川口松太郎	美術手帖	二・三	二・三					

五人の指揮者(茶の間)	小杉 二郎	毎日夕刊	九・二〇	才能鑑定(スケッチブック)	高島達四郎	読売夕刊	七・三三	冬のつり(茶の間)	野間 仁根	毎日夕刊	二・三三	
ベルリンの夏(茶の間)	小塚新一郎	シ	八・二八	建物におもむ	竹山 義治	造 形	三ノ六	ローマから東京へ	長谷川路可	毎 日	九・五	
外房州(旅の画帖)	小寺 健吉	産経時事	六・一八	九重山(旅の画帳)	田崎 広助	産経時事	六・一	賑やかなわが静寂	長谷川春子	日 経	五・二	
噴水(茶の間)	駒井 和愛	毎日夕刊	九・一五	わがふるさと	田中以知庵	萌 春	五	こけしは笑う	初山 滋	東京夕刊	四・五	
夢みる「人形まんだら」	五味 文郎	日 経	三・三三	ノイ魔(茶の間)	田中比左良	毎日夕刊	二・一五	鷗漫談	原田 淑人	国立博物	二・六	
アメリカの旅	小山富士夫	三 彩	九・四	カラー・スライド	谷川 徹三	日 経	三・三三	某月某日	早川 治平	日 経	九・二〇	
ブリューゲルの絵をもつて途方に暮れる	小牧 正英	美術手帖	一・三	揭示場(茶の間)	谷口 吉郎	毎日夕刊	八・〇	若き藝術志望者の手記	林 敬二	藝術新潮	八・四	
声帯模写	近藤日出造	シ	一・三	琵琶湖(旅の画帖)	田村 一郎	産経時事	六・七	横浜の丘(スケッチブック)	林 武	読売夕刊	二・四	
化仏・小仏像(私のコレクショ)	沢田 政広	東 京	八・三	人間のたための美術	田村泰次郎	美術手帖	二・六	女掃き(スケッチブック)	シ	シ	二・二四	
不可思議な蒐集心理	志田勝次郎	美術手帖	一・三	人間の解放	丹下 健三	読 売	一・三	十和田湖(スケッチブック)	シ	シ	二・一八	
鶴と書道	柴田錬三郎	シ	一・三	ローマ通信・歐洲一六〇〇年代展	辻 永	毎日夕刊	八・四	東踊り(スケッチブック)	シ	シ	二・二五	
東京のしん(茶の間)	渋谷 清	毎日夕刊	六・一四	花の香(茶の間)	津田 青楓	東京夕刊	八・一五	姨子富士(茶の間)	東山 魁夷	毎日夕刊	二〇・二	
赤城山大沼湖畔(旅の画帖)	島野 重之	産経時事	六・五	俗字と非俗字	角南 松生	造 形	三ノ二	随想・抽象絵画	平林たい子	読売夕刊	二・一三	
中共旅日記(1)(2)(3)	杉村 勇造	国立博物	一・三	セーヌの水垢	寺田 竹雄	毎 日	九・四ノ	スペイン(夏のペン)	福沢 一郎	朝 日	八・七	
居すわりドロ君	鈴木信太郎	東 京	二・八	アメリカの婦人	中野 淳	美術手帖	一・三	歩道(茶の間)	福島繁太郎	毎日夕刊	二・一〇	
旅にひろう美術の思い出	須磨弥吉郎	美術手帖	二・四	クレムリンの赤い月	中村 研一	東京夕刊	二・七	民謡と秋田犬	福田豊四郎	朝 日	八・五	
ナボリの美術会議	瀬木 慎一	読売夕刊	九・三〇	わが庭の記	中村 真一郎	美術手帖	二・三	某月某日	藤懸 静也	日 経	七・五	
日本ブーム(茶の間)	千田 是也	毎日夕刊	二・七	わが家の桜草が咲くころ	中山 巍	東京夕刊	五・二	某月某日	藤川 栄子	美術手帖	二・五	
藝術一家の家長	曾宮 一念	東京夕刊	六・七	名刺(茶の間)	鍋井 克之	毎日夕刊	五・七	孤独な画家	藤田 亮策	日 経	三・一	
椋島の溶岩	園田 高弘	美術手帖	一・五	乗鞍にて(旅の画帖)	楡原 健三	産経時事	七・六	画家志願(茶の間)	藤田 亮策	日 経	三・一	
思いがけない傑作	互井 開一	造 形	三ノ二〇	神武以来(茶の間)	西川 寧	毎日夕刊	三・四	某月某日	三津浜(旅の画帖)	豊道 春海	シ	七・二四
ナボリのファイブミニューツ	高島達四郎	読売夕刊	七・三	黒部の野天風呂(旅の画帖)	西村 愿定	シ	七・四	三津浜(旅の画帖)	榎 さび	シ	七・二四	
随筆(スケッチブック)	高島達四郎	読売夕刊	七・三	阿波踊り	シ	東京夕刊	八・三	煙幕外交(茶の間)	堀 柳女	毎日夕刊	四・三	
山の恐怖(スケッチブック)	シ	シ	七・九	灘山の丁場(小豆島)	西山 真一	産経時事	九・四	私の家屋のこと	シ	東京 京	六・三	
蚊(スケッチブック)	シ	シ	七・五	手品自慢	野口弥太郎	シ	六・七	名士の傑作(茶の間)	摩寿意善郎	毎日夕刊	二・三	
				スズランの香(旅の画帖)	野間 仁根	東京夕刊	一・三	パリの思い出	マダム・マサコ	美術手帖	二・三	
				わが子に囁す	朝 日	八・四		日本の思い出	シ	読売夕刊	九・九	
				夏の女	シ	シ						
				「うすしお」の夜景(夏のペン)	シ	朝 日	八・四					

僕の寝言
伝統というもの
藤本 四八三 彩 六
石元 泰博 シ

物故作家

(絵画・日本)

石井林響 岩佐 新三 彩 三
石井林響展に懐く 山中 蘭径 萌 春 罌
「林間の歌」と「地中の歌」 岩佐 新 シ

伊上凡骨の事ども(一) 吉川 英治 東京夕刊 二・七二
上村松園とその作品 関 千代 美術研究 一五
川合玉堂翁の百か日を迎えて 産経時事 二〇・二

玉堂のしやれ(茶の圃) 吉田五十八 毎日夕刊 二〇・三
川合玉堂を悼む 鈴木 進 藝術新潮 八ノ八
川合玉堂・日本のコロ 柳 亮 三 彩 六

川合玉堂 岡本謙次郎 シ
玉堂先生を思う 中村 研一 シ
川合玉堂年譜 シ
川合玉堂の逝去を悼む 横川毅一郎 萌 春 罌

川合玉堂 河北 倫明 美術手帖 二九
小出楯重の裸婦 東野 芳明 みづゑ 六三
小出楯重「地球儀のある静物」 仲田 好江 美術手帖 二六

楯重の「横たわる裸女」(私の美術鑑賞) 宇野 浩二 東 京 二・六
小林古径の死 矢代 幸雄 藝術新潮 八ノ五
鬼籍の翫陶 室生 厚生 シ
小林先生追悼 奥村 土牛 国立近代美術館 三

古径さん 山内金三郎 大和文華 三

特集・小林古径追悼

作画一途 細川 護立 シ 三 彩 七
澄んだ静かさ 小杉 放庵 シ
自己へのきびしさ 奥村 土牛 シ
古径の藝術・黒い影法師と白い手 鈴木 進 シ

古径の藝術・小林古径 河北 倫明 シ
無口の人 土門 拳 シ
甲斐の山村における小林さん 石井 鶴三 シ
修道者の心情 郷倉 千毅 シ
誠実と謙虚 森田 沙伊 シ

湯河原での古径先生 泉 治朗 シ
小林古径さんのこと 遠山 孝 シ
白磁の壺 奥平 英雄 シ
想いだすまゝに 山内金三郎 シ
古径先生の思い出 岡本 孝平 シ
あの人この人・小林古径 藤本 詔三 シ

小林古径年譜 村田 泥牛 シ
小林古径追悼号 村田 泥牛 シ
小林古径論 藤懸 静也 萌 春 罌
革新の良心 富永 惣一 シ
古径の一面 杉村 丁 シ

小林古径の藝術 河北 倫明 シ
古径さんの死を悼んで 町田 甲一 シ
教授時代の古径先生 村田 良策 シ
小林古径制作年譜 村田 泥牛 シ
小林古径のことは 村田 泥牛 美術手帖 二六

天徳堂(小林徳三郎) 裕 伊之助 東京夕刊 八・四
うた日記・上、下 八・五

フェウザン会ごころの小林徳三郎 裕 伊之助 国立近代美術館 三

特集・佐伯祐三 岡本謙次郎 シ
佐伯祐三覚え書 佐伯 米子 シ
佐伯祐三のこと 小島善太郎 シ
佐伯祐三の回想 山尾 薫明 シ
戦災と山本コレク ションの佐伯 富山 秀男 シ
年譜・文献 福島繁太郎 海老原喜之助 三

抽象絵画の先駆・坂田一男 福島繁太郎 海老原喜之助 三
高橋由一筆「三宅康正像」 隈元謙次郎 国 華 七六
栖鳳ざらい 河北 倫明 藝術新潮 八ノ三
竹久夢二の夢 金井 徳子 朝 日 三・〇

土田麦櫻の滞欧書簡 飯田 美乃 比較文化 三
滞欧中の土田麦櫻 O・スタッ トライ 藝術新潮 八ノ三
私観「鉄斎」 隈元謙次郎 萌 春 罌
附橋本雅邦略年譜

橋本雅邦の人と作品 隈元謙次郎 萌 春 罌
雅邦について 鷹巢 豊治 シ
橋本雅邦と川合玉堂 鷹巢 豊治 シ
橋本雅邦 鈴木 進 シ
橋本関雪を考へる 鈴木 進 萌 春 罌
林俊衛の思い出 広津 和郎 東京夕刊 二〇七
林俊衛をしのぶ 別府貫一郎 みづゑ 六九

平福百穂の藝術 太田 桃介 三 彩 九
あの人・この人・平福百穂 藤本 詔三 シ
百穂におけるレアリズムの展開 小高根太郎 国立近代美術館 三

百穂におけるレアリズムの展開 小高根太郎 国立近代美術館 三

あの人・この人長谷川三郎	藤本 韶三	三	彩	六
モダンアート指導者の死―苦行者・長谷川三郎	沢野井信夫	藝術新潮	八ノ五	
サンフランシスコの長谷川君	益田 義信	みづゑ	六三	
先駆者長谷川三郎の死をいたむ	難波田竜起	シ	シ	
私の家	長谷川三郎	三	彩	七
長谷川三郎の死	西田 信一	美術手帖	二五	
三岸好太郎のこと	三岸 節子	国立近代美術館	三	
村上華岳	水沢 澄夫	三	彩	三
村上華岳(1)	阿部 展也	シ	三	八四
華岳の絵と書―その人と藝術	河北 倫明	墨	美	六
華岳・祐三展を見る	三好 達治	藝術新潮	八ノ一	
結城素明追憶	石井 柏亭	造	形	三ノ五
結城素明追悼号	金鈴社以前	蒨	春	三
素明画伯の逝去を悼んで	田中 一松	シ	シ	
結城素明画伯の思い出	森井 健介	シ	シ	
結城先生の急逝について	川崎 小虎	シ	シ	
結城先生の死を悼む	添田 達嶺	シ	シ	
結城素明制作年譜	宮下武一郎	日	経	八・三
明治の光線画家たち(小林清親・小倉柳村らのこと)				

(絵画・外国)

エルンスト「ニンプ・エコー」 東野 芳明 美術手帖 二三

カステイリオーネ・オローナの「おつげの天使」	三輪 福松	三	彩	九
クレエの版画	滝口 修造	藝術新潮	八ノ二	
クレイ「魚形」	鮎川 信夫	美術手帖	二二	
ゴッギャン・タヒチの秘密	W・メナア	藝術新潮	八ノ六	
ゴッギャン「タヒチ風景」	中谷 泰	美術手帖	一三	
セザンヌの不安	大沢 武雄	早稲田大学大学院文学研究科紀要	三	
ドランのダリア	大淵 武夫	みづゑ	六元	
ピター・ブリューゲルの時代	土方 定一	シ	六元	
ブリュエルとアン	山宮 允	東京夕刊	二・元	
ワイリアム・ブレイクの生誕二百年に当つて	福島金一郎	藝術新潮	八ノ七	
ボナール訴訟事件	針生 一郎	みづゑ	六三	
ムンクの位置	モディリアニの場合	曾根 元吉	六七	
モネーの復活	富永 惣一	藝術新潮	八ノ四	
ピエト・モンドリアン	瀨木 慎一	シ	八ノ三	
デイエゴ・リベラを悼む	今泉 篤男	東京夕刊	二・三	
ルドンの復活	滝口 修造	藝術新潮	八ノ三	
ルノアール「静物・花」	高野三三男	美術手帖	三四	
レジェ「五つのひまわり」	植村鷹千代	美術手帖	二六	

(彫 塑)

光雲の彫刻(私の美術鑑賞) 高村 豊周 東京 一九

高村光太郎氏の一周忌を迎えて	尾崎 喜八	東京夕刊	三・〇
連翹忌(高村光太郎の死後一年)	草野 心平	東京タイムズ	四・二
武井直也の人と藝術	外山卯三郎	国立近代美術館	三
(工 藝)			
人及び藝術家としての柴田是真	渡辺 素舟	日本漆工	七
レオナルド・ダ・ヴィンチ(偉大なるデザイナ―)	岡田 晋	リビング・デザイン	三
(書)			
尾上先生の思い出	相沢 春洋	書	品 六
尾上柴舟短歌鑑賞	松田 常憲	シ	シ
尾上先生の歌と書	松井 如流	シ	シ
尾上先生のこと	西川 寧	シ	シ
尾上柴舟先生遺作	武者小路実篤	藝術新潮	八ノ二
多くの好きな四人の書			
美術関係者			
追想・会津八一―秋艸道人の排他と不安	堀口 大学	藝術新潮	八ノ一
秋艸道人の書	三好 達治	東京夕刊	三ノ四
会津八一の日記抄	会津蘭子編	藝術新潮	八ノ三
石田茂作(時の人)	石田茂作(横顔)	毎	日 三・〇
石田茂作(横顔)	産経時事	三・三	
石田新奈良国立博物館長とその学業	野間 清六	国立博物館	二〇
石橋正二郎氏(好きなもの)	清水 崑	朝	日 六・三
今泉篤男(批評家診断)		東京夕刊	二・四

東京藝大・上野直昭氏(総長歴訪)

勝見勝(横顔)

黒田源次氏を偲ぶ

後藤守一(横顔)

滝口修造(訪問)

田口柳三郎(時の人)

富永惣一(批評家診断)

国際美術協議会委員長になつた富永惣一(きよまのり)

ミッシェル・タビエ氏をかこんで(座談会)

団伊能(人寸拙)

画商三十年

原田淑人(時の人)

福島慶子とその宿六

福田勝治(美術藝談)

日本美術の恩人たち(1)(2)

柳亮(批評家診断)

ミッシェル・ラゴン氏との対談

その他

美術風土記・福井県

千葉県

大分県

大阪府

神奈川県

東京夕刊 五・三

産経時事 二・五

国立博物館ニユー 二・七

産経時事 七・三

美術手帖 二・六

毎日 二・二

東京夕刊 二・二七

東京 八・二〇

針生一郎・東野芳明・中原佑介・大岡信

朝日 二・七

藝術新潮 八ノ三

毎日 一・四

文藝春秋 五ノ八

東京夕刊 八・三〇

文藝春秋 一・三

東京夕刊 三・二

東京夕刊 三・二

東京夕刊 三・二

東京夕刊 三・二

東京夕刊 三・二

東京夕刊 三・二

東京夕刊 三・二

東京夕刊 三・二

東京夕刊 三・二

東京夕刊 三・二

東京夕刊 三・二

秋田(日本美術風土記・1)

長崎(2)

京都(3)

出雲(4)

岩手(5)

大阪(6)

四国(7)

日本文化の風土(完)

中近東の過去と現在 1-3

ゴッホ偽作事件-1

九三二年の名画裁判

拾万円の鑑定料

藝術の裏窓(ニューヨーク、パリ)

チンパンジーとオウム画伯

発掘隊遠征合戦

原始藝術地帯をゆく

日本に於ける近代美術館設立運動史(2)

近代美術館という場所

国際美術会議に出席して

北海道の博物館

ギメー美術館について

アメリカ雑感(一)、(二)

中近東の国立博物館

写真と文 岡本太郎

藝術新潮 八ノ四

藝術新潮 八ノ五

藝術新潮 八ノ六

藝術新潮 八ノ七

藝術新潮 八ノ八

藝術新潮 八ノ九

藝術新潮 八ノ二

藝術新潮 一・三

藝術新潮 一・三

藝術新潮 一・三

藝術新潮 一・三

藝術新潮 一・三

藝術新潮 一・三

藝術新潮 一・三

藝術新潮 一・三

藝術新潮 一・三

藝術新潮 一・三

藝術新潮 一・三

藝術新潮 一・三

藝術新潮 一・三

藝術新潮 一・三

藝術新潮 一・三

藝術新潮 一・三

藝術新潮 一・三

藝術新潮 一・三

アメリカの美術館

逸翁美術館開く

日本の美術館12の問

題

欧州に於ける博物館

附属研究所

都美術館の壁面争奪

戦

絵画の保存と修理(上)、(下)

表装に生涯を賭けて

額装工場

怪談・文化財事務局

日本の藝術と文部官僚

上野の杜の不思議な物語

法隆寺を荒すもの

文化財は日本爆撃からいかにして護られたか

京都の文化財と観光

パリの画商・I(ダヴィッド・ガルニエ画廊)

一億円のゴッギャン

パリの絵の競売

私達のグループ・ひこばゆ

私達のグループ・一

私達のグループ・パ

私達のグループ・パ

教師の記録・佐原小

教師の記録・源池小

村田 良策

今 東光

登石 健三

船戸 洪

青木 勝三

井浦 石衛

岡村 辰雄

松原 正美

坂上 史

大森 忠行

関口 俊吾

中村 恒夫

田村泰次郎

上野 泰郎

山田 申吾

下村良之介

宮本寿太郎

井上 武美

美術手帖

美術手帖

美術手帖

美術手帖

美術手帖

美術手帖

美術手帖

美術手帖

国立博物館ニユー 二・九

藝術新潮 八ノ三

古文化財の科学 一・四

藝術新潮 八ノ七

国立近代美術館ニユー 三・三

藝術新潮 八ノ二

藝術新潮 八ノ二

藝術新潮 八ノ二

藝術新潮 八ノ二

藝術新潮 八ノ二

藝術新潮 八ノ二

藝術新潮 八ノ二

藝術新潮 八ノ二

藝術新潮 八ノ二

藝術新潮 八ノ二

藝術新潮 八ノ二

藝術新潮 八ノ二

藝術新潮 八ノ二

藝術新潮 八ノ二

藝術新潮 八ノ二

藝術新潮 八ノ二

藝術新潮 八ノ二

藝術新潮 八ノ二

藝術新潮 八ノ二

藝術新潮 八ノ二

藝術新潮 八ノ二

日本の美術
野間 清六
久野 健
中村 溪男
鈴木 進

付 東洋美術略年表

日本美の一形態
野間 清六
ミューム 二

古代日鮮間の文物の交流
梅原 末治
朝鮮学報 二

飛鳥文様の一系について
井上 正
美術史 二

奈良初期の帰化人の技術と造像説話
橋本 克彦
中央大学文学部紀要 九

奥羽地方に現存する平安朝美術
佐和 隆研
京都市立美術大学研究紀要 四

中世美術の三高峰
谷 信一
ジューム 一〇

中世のリアリズム
野間 清六
萌 春 五

西欧からみた禅藝術―東洋美術の「空無」―
アルベルト・タイレ
藝術新潮 八ノ六

今日の美術 墨の藝術
瀨木 慎一
三 彩 六

民藝論について(四)―藝術分野の諸相―
篠岡 博
民 藝 五

古都随想 9―12
上野 直昭
藝術新潮 一四ノ一

黄金花咲くみちのく山
今井 啓一
史迹と美術 二五

寺院分布に見る中世東北地方の仏教流伝
及川儀右衛門
岩手史学 六

玉置山紀行
杉山 二郎
大和文化研究 六

香川県で出来た文化財で現在県外に存在するもの
福家 惣衛
文化財協定会報 二

高松市の文化財
美術風土記 大分県 武藤 完一
美術手帖 二二

新古寺巡礼

40 大聖山頂の蔵
王堂
ミューム 七

41 法華寺
建長寺
杉村 丁
ミューム 七

42 書写山円教寺
信濃の清水寺(せいすいじ)
伊藤 延男
ミューム 七

43 東寺(教王護国寺)
東寺(教王護国寺)
倉田 文作
ミューム 七

44 新薬師寺
備後の安国寺と萩寺
西川 新次
ミューム 七

45 中山の法華寺
加賀の大乗寺
木内 武男
ミューム 七

46 総持寺別院
定光寺(愛知)みちのく
大西 芳雄
ミューム 七

47 天台寺
雙林寺
嘉門 安雄
ミューム 七

48 黒石寺
東楽寺
竹内 尚次
ミューム 七

49 白水阿弥陀堂
かくれたる古社寺
久野 健
ミューム 七

50 山梨県大善寺・善光寺
山梨県放光寺・観盛院
三村 幸一
ミューム 七

51 京阪神カメラ紀行
無動寺
熊野 紀一
ミューム 七

52 宝菩提院
法金剛院
日本美術工藝 三〇

53 安楽寿院
おむろ仁和寺
ミューム 七

54 勝尾寺
六波羅密寺
ミューム 七

満願寺

清澄寺(清荒神)
陸中正法寺に関する新史料
三村 幸一
日本美術工藝 三三

陸中正法寺に関する新史料
東京都谷中の五重塔礎石発見の紺紙金字經と仏舍利
及川 大溪
岩手史学 三五

鎌倉五山
イセ神宮寺の創建
矢島 恭介
ミューム 一〇

鳳凰堂昭和修理概要
鳳凰堂落慶法要の日
菅原 通濟
藝術新潮 八ノ五

鳳凰堂落慶
鳳凰堂真珠庵と朝倉大徳寺
大森 健二
史迹と美術 三三

鳳凰堂落慶
鳳凰堂真珠庵と朝倉大徳寺
川勝政太郎
史迹と美術 三三

鳳凰堂落慶
鳳凰堂真珠庵と朝倉大徳寺
秋山 光
藝術新潮 八ノ五

鳳凰堂落慶
鳳凰堂真珠庵と朝倉大徳寺
横田 健一
史迹と美術 三三

鳳凰堂落慶
鳳凰堂真珠庵と朝倉大徳寺
竹島 卓一
新建築 三ノ一

鳳凰堂落慶
鳳凰堂真珠庵と朝倉大徳寺
野間 清六
ジューム 一〇

法隆寺の裏方
法隆寺を荒すもの
久野 健
藝術新潮 八ノ四

法隆寺を荒すもの
法隆寺を荒すもの
坂上 史
藝術新潮 八ノ二

法隆寺を荒すもの
法隆寺を荒すもの
水野柳太郎
南都仏教 三

法隆寺を荒すもの
法隆寺を荒すもの
榎本 杜人
大和文化研究 六

法隆寺を荒すもの
法隆寺を荒すもの
松浦美智子
文化財協定会報 二

法隆寺を荒すもの
法隆寺を荒すもの
原田 良雄
歴史考古 一

法隆寺を荒すもの
法隆寺を荒すもの
松本 雅明
熊本史学 三

法隆寺を荒すもの
法隆寺を荒すもの
賀川 光夫
別府大学紀要 七

法隆寺を荒すもの
法隆寺を荒すもの
滝川政次郎
史迹と美術 二六

法隆寺を荒すもの
法隆寺を荒すもの
P・デヴィ
藝術新潮 八ノ一

法隆寺を荒すもの
法隆寺を荒すもの
小山富士夫
藝術新潮 八ノ一

法隆寺を荒すもの
法隆寺を荒すもの
正倉院三彩
上原之節
ゆうびん 九

法隆寺を荒すもの
法隆寺を荒すもの
正倉院の再検討
上原之節
ゆうびん 九

法隆寺を荒すもの
法隆寺を荒すもの
恩智神社考
上原之節
ゆうびん 九

法隆寺を荒すもの
法隆寺を荒すもの
宇佐弥勒寺に関する二、三の問題
上原之節
ゆうびん 九

法隆寺を荒すもの
法隆寺を荒すもの
小国満願寺の画像と彫刻
上原之節
ゆうびん 九

法隆寺を荒すもの
法隆寺を荒すもの
万葉と筑紫観音寺
上原之節
ゆうびん 九

法隆寺を荒すもの
法隆寺を荒すもの
小国満願寺の画像と彫刻
上原之節
ゆうびん 九

法隆寺を荒すもの
法隆寺を荒すもの
宇佐弥勒寺に関する二、三の問題
上原之節
ゆうびん 九

法隆寺を荒すもの
法隆寺を荒すもの
恩智神社考
上原之節
ゆうびん 九

昭和28、30年正倉院御物材質調査	大賀 一郎	書陵部紀 八	要
正倉院御物の減圧殺虫	森 八郎	古文化財 四	
正倉院御物の昆虫学的調査とその虫害の防除について	熊谷 百三	之科学 五	
正倉院年報	森 八郎	三田学会 五	
伏見城と桃山文化	森 八郎	書陵部紀 八	
博物館の珍品	桑田 忠親	国学院雑 五ノ三	
有職菓子雛形	溝口 三郎	国立博物館ニコー 二六	
酒は呑まねど大上の薙刀	佐藤 貫一	二七	
お公家さん用の尿筒	山辺 知行	二八	
目潰し道具	蔵田 蔵	二九	
鍼灸経穴銅人形	千沢 楨治	三〇	
図書室にある塵袋	樋口 秀雄	三一	
不味公の白	田中作太郎	三三	
風俗図屏風(筆者不詳)	近藤市太郎	三三	
北海道の博物館	深見吉之助	シ	
美術館めぐり	大阪市立美術館	村松 寛	日本美術 三〇
(完)	市立神戸美術館	シ	三三
(一)	白鶴美術館(一)	シ	三三
(二)	藤田美術館(一)	シ	三四
(三)	京都国立博物館	シ	三七
(四)	根津美術館の茶陶	奥田 直栄	陶 説 三三
市立神戸美術館の美術品	奥田 直栄	陶 説 三三	
物粹工芸館の美術品	久志 卓真	三	
大阪市立美術館の美術品	佐藤 雅彦	五	
白鶴美術館の美術品	三杉 隆敏	三	
鉄道博物館の美術品	石沢 正男	三	
本間美術館の美術品	佐藤 進三	五	
箱根美術館の日本陶磁	久志 卓真	五	
箱根美術館の中国陶器	近藤市太郎	五	
熱海美術館の美術品	今 東光	ハノ三	
逸翁美術館開く	今 東光	ハノ三	
ギメー博物館の寄贈品	秋山 光和	ハノ九	
ギメー美術館の寄贈品	井垣 春雄	陶 説 三三	
品一曰仏考古資料の交換	細見古香庵	日本美術 三三	
アメリカ美術館めぐり	満岡 忠成	交 二〇九	
12 ミネアポリス美術館	細見古香庵	二二	
古美術叢話13-24	矢代 幸雄	大和文華 二四	
茶器の見方	邑木 千以	日本美術 三三	
1 水指	邑木 千以	日本美術 三三	
3 釜	邑木 千以	日本美術 三三	
歎美抄	邑木 千以	日本美術 三三	
愛蔵弁あり	邑木 千以	日本美術 三三	
50 小林一三 51 鈴木宗保 52 前田清 53 佐藤石洞 54 堀久良 55 吉田 巖 56 江守奈比古	加藤土師萌 陶 説 五		
欧米の旅を終へて	斎藤 利助 藝術新潮 八ノ五		
大宛立物語	矢田三千男	八ノ三	
真説・春峰庵偽作事件	矢田三千男	八ノ三	
美術時評	杉村 丁	国立博物館ニコー 二六	
迎客	蔵田 蔵	二七	
第二回ホルル展について	近藤市太郎	二八	
デパート展の新傾向	石沢 正男	二九	
春の特別展について	鎌原 正巳	三〇	
美術図書の問題点	三木 文雄	三三	
表慶館の考古陳列によせて	田中作太郎	三三	
忘れられた伝統	堀江 知彦	三三	
傑作展に思う	野間 清六	三四	
観光ブーム	奥平 英雄	三五	
美術図書について	千沢 楨治	三六	
伝統と技術	飯島 勇	三七	
古美術展回顧	佐和・毛利・梅津	三三	
今秋の古美術展の展望(座談会)	小野 勝年	国立博物館ニコー 二六	
奈良の正倉院展	白畑 よし	シ	
平安時代の美術展によせて	北川 桃雄	ハノ三	
演出の美術—平安美術展によせて—	北川 桃雄	ハノ三	
秘宝開帳—東寺の密教美術—	北川 桃雄	ハノ三	

「中世の美術」展を見
て—
富永 次郎
国立博物館 ニ二六

「中世の美術展」を見
る—科学者の感想
勝谷 稔
三 二七

中世展の印象
北川 桃雄
三 二七

写実の夜明け—中世
美術展を見て
三雲祥之助
藝術新潮 八ノ三

東寺展と中世展
北川 桃雄
三 二七

光悦・宗達・光琳展
のノート
東山 魁夷
藝術新潮 八ノ二

二回日本美術展につ
いて
矢島 恭介
国立博物館 ニ二九

ハワイ・ホノルルに
おける第二回日本古
美術展
ス
二二〇

ホノルルにおける第
二回日本古美術展陳
列と観覧者
ス
二二〇

はのるると日本美術
一九五七年の回顧
溝口 三郎
ス
二二〇

東京国立博物館の
展観と事業
岡田 譲
ス
二二〇

古美術界
中村 溪男
ス
二二〇

西域美術の系統(上)
(下)
山本 智教
密教文化 三、三九

A Reliquary Bro-
ught Back by the
Otanai Mission
KUMAI-
GAI No-
hno
国際東方
学者会議
二

印度・ネパールの美
術遺跡
鬼原 素俊
萌 春 四

シワキ村の仏蹟紀行
牧野 正巳
国際建築 二四ノ二〇

駝足で見た東南アジ
ア
植村鷹千代
三 彩 四

中近東の遺跡をめぐ
つて1、2、3
深井 晋司
ス
二二九

イラン—ベルセポリ
ス遊記
三上 次男
みづゑ 六三

現代の探検について
—イラク・イランの
調査より歸りて—
江上 波夫
藝術新潮 八ノ七

レバノンとシリア
深井 晋司
三 彩 四

中近東の国立博物館
増田 精一
国立博物館 ニ二六

北方亜細亞古代学界
の展望(8)南シベリ
アの古代文化(4)・(5)
A・ミチユ
古代学 六ノ一、二

南方亜細亞古代学界
の展望(2)ドイッ印
度学界の現状
佐々木現順
ス
六ノ二

水墨画の主流と展開
中村 溪男
ス
二二六

南画と文人画
松林 桂月
萌 春 四

山水画の画法
ヴァンツ・ブ
リイセン
国立近代
美術館 元

用語解説・絵画
詩画軸
中村 溪男
ス
二二七

職人尽絵
高崎富士彦
ス
二二七

日本画技法の流れ9
12
中村 丘陵
萌 春 四

淡絵考—泥(デイ)と
淡(タム)について—
片野 達郎
ス
二二七

座談会 絵と書(雪
舟・大雅・玉堂・竹
田・鉄齋)
今泉 篤男
ス
二二七

宮原柳櫻氏の古仏画
の復原
源 豊宗
ス
二二七

古典にみる顔の表情
1 笑い 2 眠り
3 怒り 4 驚き
5 かなしみ 6
よろこび 7 お
それ 8 傲慢
中村 溪男
ス
二二七

新筆手絵考上、中
講座・近世絵画思潮
五、六
大道 弘雄
ス
二二七

古画評判 鳥鷲覚
鷹奥儀
石川 淳
ス
二二七

随筆 雪景
杉村 丁
ス
二二七

福岡県鞍手郡若宮町
竹原古墳の壁画
森 貞次郎
ス
二二七

玄証本の一例(阿
弥陀鈎召法)
松下 隆章
ス
二二七

中世の仏画
柳沢 孝
ス
二二七

法華寺阿弥陀三尊画像の意想 二	亀田 孜	大和文華 三	小野道風の画像について	田中 一松	美術研究 一〇	On the Genji monogatari Picture Scrolls	AKIYAMA Terukazu	国際東方学者会議紀要
法華堂根本曼荼羅の回想	矢代 幸雄	美術研究 二五	上疊歌仙 貫之像解説	水尾 博	国華 七〇	源氏物語絵巻の構成と技法	秋山 光和三	彩 三
興福寺曼荼羅再出記	毛利 久	国立博物館ニユール 二七	上疊歌仙 宗千像解説	山根 有三	国華 七〇	源氏物語絵巻の主として力学的構成について	山口 薫	美術手帖 三三
興福寺曼荼羅と同事安置仏像 上・下	シ	国華 七六	細川蓮丸像解説	高崎富士彦	ミュージ アム 七	源氏物語絵巻の俯瞰法について	倉田 敬子	美学 二
智光曼荼羅について	シ	国華 七六	旧法隆寺献納御物聖徳太子絵伝屏風	松下 隆章	国立博物館ニユール 二二	柏木絵第一段の表現	熊谷 宜夫	彩 三
元興寺極楽坊板絵本を中心として	浜田 隆	美術史 二五	東寺山水屏風の模本	森 暢	ス 二二	東屋の一段詞	田中 一松	彩 三
鳳凰堂の彩色に用いられた「顔料」について	山崎 一雄	仏教藝術 三	浄瑠璃寺の落書	奥平 英雄	ミュージ アム 五	駒鏡行幸絵詞残欠解説	水尾 博	国華 七六
鳳凰堂の屏絵と壁画	佐和 隆研	三	絵巻における諸問題	神谷 和男	金城学院大学論集 八	地獄草紙 雲火霧処図解説	藤懸 静也	七六
南都阿弥陀寺藏「観經十六観相図」について	浜田 隆	大和文化 二八	絵巻物史の諸問題一 絵巻物の展開	武者小路稔	日本文学 五	地獄草紙 膿血所図解説	水尾 博	七九
二河白道図解説	水尾 博	国華 七六	物語と物語絵一・二	むしやこう じみのる	文 学 七	正嘉本天神縁起絵巻解説	梅津 次郎	七九
無畏十力吼菩薩像解説	佐和 隆研	七六	縁起の文学(純)	篠田 融	東京教育大学文学部国文学漢文学論 三	藤田本紫式部日記絵巻について	白畑 よし	大和文華 三
十王図解説	浜田 隆	七六	中世の絵巻—宗教絵巻と似絵—	高崎富士彦	ミュージ アム 〇	本願寺本三十六人集の装飾の成立ちに就いて—特に下絵を中心として—	安田 靱彦	美術研究 一五
岡寺の八大龍王扇額	川勝政太郎	史迹と美術 二六	中世絵巻のリアリズム	荊 春	春 五	平家納経の補修	安田 靱彦	美術新潮 八〇三
神道曼荼羅の性格	景山 春樹	仏教藝術 三三	絵巻に関する資料寛書—能恵法師伝と春日権現験記—	近藤 喜博	美術史 二五	黙庵筆四睡図 解説	米沢 嘉圃	国華 七九
生駒曼荼羅図解説	浜田 隆	国華 七三	白描やまと絵展記	中村 溪男	春 四	愚溪筆山水図と布袋図	中村 溪男	ミュージ アム 三
熊野権現影向図説	近藤 喜博	仏教藝術 三三	清浄光寺所蔵の一遍上人絵詞伝について	服部 清道	日本歴史 二五	聰松軒図	松下 隆章	大和文華 三
薬師寺八幡宮板絵神像解説	蓮実 重康	三	転寝草子 上・下	橋崎 宗重	国華 七六	得殿贊李白観瀑図についで—室町時代観瀑図の系譜—	田中 一松	国華 七六
みこもりひめの画像	景山 春樹	大和文華 三	概峯寺建立修行縁起	橋崎 宗重	国華 七六	雪舟について	島田修二郎	若美津 二
中世の肖像画	飯島 勇	三	源氏物語絵巻序説	橋崎 宗重	国華 七六			
頂相について	シ	ミュージ アム 〇		橋崎 宗重	国華 七六			
真言八祖龍猛像解説	藤懸 静也	国華 七五		橋崎 宗重	国華 七六			
法然上人像解説	白畑 よし	七二		橋崎 宗重	国華 七六			
逸然筆列祖像二図解説	藤懸 静也	七九		橋崎 宗重	国華 七六			

雪のこと	熊谷 宣夫	ゆうびん	七
雪舟の前半生―拙宗等揚論批判―	蓮実 重康	ミュージアム	七〇
戊子入明と雪舟上・下	熊谷 宣夫	美術史	三、五
雪舟構図の一契機	守尾 謙二	大和文華	三
雪舟筆仿玉圃山水図解説	米沢 嘉圃	国華	七四
西湖図と天橋立	熊谷 宣夫	大和文華	三
伝雪舟筆四季花鳥図屏風の謎―雪舟研究の一節―	蓮実 重康	ス	三
新資料紹介			
雪舟山水図巻(雲谷等覆換)	松下 隆章	ミュージアム	五
雪舟研究の問題点	蓮実 重康	歴史研究	二〇七
一九五六年の雪舟研究	熊谷 宣夫	美術史	二六
徳力善雪筆雪舟等楊像	田中 一松	ス	三
徳力善雪筆及雲谷等益筆雪舟等楊像解説	熊谷 宣夫	美術研究	一九五
甫雪等禪筆墨画山水図解説	楢崎 宗重	国華	七三
波月等薩筆花鳥図屏風解説	山根 有三	ス	七七
伝元信筆奔馬図解説	菅沼 貞三	大和文華	三三
大和文華館蔵			
松榮直信について	楢崎 宗重	国華	七五
宮殿絵画―桃山屏障画の序―	谷 信一	萌春	四
楡図屏風解説	山根 有三	国華	七六
桃山屏障画家略伝	宮 次男	萌春	四
風俗画の研究史	谷 信一	ミュージアム	七
近世初期の風俗画	藤懸 静也	萌春	四
近世初期風俗画とその源流	近藤市太郎	ミュージアム	七

近世初期風俗画とはなにか	菊地 貞夫	美術手帖	二六
近世初期風俗画			
美人画の魅力	中村 岳陵	藝術新潮	八ノ六
「十二月月図帖」によせて	山口 蓬春	ス	ス
初期風俗画の迫力	棟方 志功	ス	ス
テーマとしての風俗画	菊地 貞夫	萌春	四
風俗画にみる長髪美	大和 勇三	ス	ス
風俗図屏風(東京国立博物館保管)解説	高崎富士彦	ミュージアム	七
洛中洛外図屏風(上杉家蔵)	中村 溪男	ス	ス
四条河原図屏風(静嘉堂蔵)	吉田 映二	ス	ス
犬追物図小論	竹内 尚次	ス	七
旧御物犬追物図屏風解説	ス	ス	ス
琴棋書画見立風俗図	楢崎 宗重	国華	七二
婦人像解説	菅沼 貞三	大和文華	二
本多平八郎姿絵(黎明会蔵)	楢崎 宗重	ミュージアム	七
縄のれん図屏風(原家蔵)	菊地 貞夫	ミュージアム	七
「湯女」礼讃	松下 隆章	国立博物館	二〇
湯女図(熱海美術館蔵)	北川 桃雄	ミュージアム	七
湯女図はもう一つあった	矢田三千男	萌春	四
伝統とは抽出されるもの(湯女図に因んで)	田中 岑	美術手帖	二六
面期的な作順礼図について	菊地 貞夫	ミュージアム	七
新取品紹介			

狩野派合作の帝鑑図屏風について	中村 溪男	ミュージアム	七
和歌巻に見る光悦と宗達	ス	墨美	究
光悦・宗達・光琳展のノート	東山 魁夷	藝術新潮	八ノ二
宗達・革命的伝統主義者	アル・エ	ス	ス
扇面構図論―宗達画構図研究への序論―	水尾 博	国華	七五
伝宗達の養源院杉戸絵・襖絵について	山根 有三	大和文華	三
宗達の風神雷神図について	岡本謙次郎	みづゑ	六九
風神雷神図偶感	川端 龍子	彩	九
光琳の師山本素軒の画跡 上・下	田能村忠雄	国華	七六
大阪市立美術館蔵の光琳資料	望月 信成	大和文華	三
光琳の背景	谷 信一	萌春	四
光琳画の想い出	田中 親美	ス	ス
光琳筆孔雀立葵図屏風解説	衛藤 駿	大和文華	二
尾形光琳筆龍虎図解説	水尾 博	国華	七六
渡辺始興と乾山	相見 香雨	大和文華	三
鈴木其一筆春秋草花図屏風解説	楢崎 宗重	国華	七九
岩佐又兵衛	矢田三千男	彩	一
土佐光起筆桜花楓樹図屏風解説	楢崎 宗重	国華	七九
円山応挙筆稲麻図解説	水尾 博	ス	七三
若冲の「群鶏図」	杉全 直	美術手帖	二三
高山寺に於ける冷泉	近藤 喜博	国華	七二
為恭筆模本などについて	大崎 定一	文化財協	ニ
金刀比羅宮蔵品から			

日本南画の性格	鈴木 進	萌 春 哭	浦上玉堂論考―鼓琴 余事帖を中心に―	鈴木 進	国 華 六四	蹄斎北馬筆峰茶屋図 解説	水尾 博	国 華 六五
柳里恭展と大雅展― 奈良と大阪の博物館 展観―	竹内 尚次	国立博 館ニユー 二三	田能村竹田一―三 ・蟹図解説	横川毅一郎	萌 春 五八―	広重の感傷	近藤市太郎	藝術新潮 八ノ九
柳里恭の伝記の検討	松村 政雄	ス ミュージ 五三	立原杏所筆喜連川真 景図解説	米沢 嘉圃	国 華 六一	広重と北斎の風景画	野村 胡堂	美術手帖 二四
柳里恭の師	ス 国立博物 館ニユー 二〇	ス 二〇	福田半香あての椿椿 山の書簡―波辺華山 に關する新資料―	藤懸 静也	シ 六二	広重と安井曾太郎	山田智三郎	藝術新潮 八ノ九
大雅論	鈴木 進	萌 春 四三	波辺華山筆大図解説	金岡 丈夫	九州文学 三ノ六	錦絵で見る七代目团 十郎	小笹 昇	日本美術 三〇
池大雅	西脇順三郎	三 彩 八五	椿椿山筆軍鶏図解説	格崎 宗重	国 華 六一	役者風俗絵の話	小笹 昇	工藝 三〇
池大雅に關する二章	難波田龍起	シ 八	白隠の総法算「観音 像画稿解説	吉沢 忠	シ 七六	花菖蒲佐野八橋―役 者風俗絵の話二―	シ 三三	三三
池大雅略年譜	樋口 秀雄	萌 春 四三	芭蕉翁の俳画	須磨弥吉郎	日本美術 一	高輪海岸の図―役者 風俗絵の話三―	シ 三六	三六
大雅の藝術	鈴木 進	ス ミュージ 五	蕪村の俳画について	菊山当年男	萌 春 四	冬の風俗役者絵の話	シ 三三	三三
池大雅筆紙本墨画山 水図(五曲屏風一双) 解説	藤井 源一	仏教藝術 三	西川祐信試論	飯島 勇	ス ミュージ 六	秋田蘭画の研究(中)	武埴林太郎	秋田大学 学芸学部 学七
大雅筆楼閣山水図屏 風解説	鈴木 進	ス ミュージ 五	日本名匠伝	近藤市太郎	シ 七〇	小田野直武筆富獄図 解説	格崎 宗重	国 華 七九
池大雅筆蘭亭曲水図 屏風解説	田中 一松	国 華 七〇	東州斎写楽三―五	横川毅一郎	萌 春 四一―	中国文人画の流れ	吉沢 忠	萌 春 哭
大雅の墨竹図屏風に ふれて	鈴木 進	大和文華 二四	歌麿の魅力	浪井 清	国立近代 美術館ニユース 三	中国の美人風俗画	鈴木 敬	ス ミュージ 七
掘り出された大雅堂 ―真作か、贋作か―	山中蘭崖 鷹巣豊治 脇本英之軒	藝術新潮 八ノ四	歌麿と北斎	藤懸 静也	シ 七	吳道子の技法	小杉 一雄	綜合世界 三
池玉蘭筆夏景山水図 解説	水尾 博	国 華 七九	鳥居清長の絵馬	菊地 貞夫	ス ミュージ 七	新発見の唐代壁画	北川 桃雄	三 彩 八
蕪村の絵画―屏風画 を中心に―	飯島 勇	ス ミュージ 七三	北斎の構図とその近 代性について―I―III	柳 亮	ス ミュージ 七三	幡絵地蔵菩薩像解説	野間 清六	ス ミュージ 六
東京国立博物館蔵蕪 村筆蘭亭曲水図屏風 解説	ス 七	シ 七	悠ばりな北斎	吉田 映二	国立近代 美術館ニユース 三	敦煌発見「ギメ」博 物館寄贈	野間 清六	ス ミュージ 六
丹羽嘉言画について	竹内 尚次	シ 七	足で歩いた「富獄三 十六景」	浪井 清	藝術新潮 八ノ二〇	五代に於ける庶民画 の性格とその意義	岸田 勉	佐賀大学 教育学部 七
増山雪斎筆游禽図解 説	格崎 宗重	国 華 六四				宋元画概観	川上 涇	歴史教育 五ノ八
						柏子庭筆石菖蒲図解 説	米沢 嘉圃	国 華 六三
						雪窓筆光風転蕙・懸 崖双清図解説	田中 一松	シ 七六

平山處林贊 寒林歸
樵図解説 米沢 嘉圃 国 華 七七

林良筆鳳凰図解説 鈴木 敬 シ 七二

周臣筆松泉煮茶図解 島田修二郎 シ 六三

張靈筆赤壁後遊図巻 鈴木 敬 シ 六〇

那多佳筆溪山方隱図 米沢 嘉圃 国 華 六〇

石壽の肖像解説 西川 寧 書 品 三

八大人山人 小高根太郎 萌 春 四

揮南田筆花卉図解説 鈴木 敬 国 華 六八

揮南田廐香館画跋 池田醇一・ 三 彩 六〇

王石谷筆山水画冊解 米沢 嘉圃 国 華 六五

高其佩筆困屋秋思図 改琦筆梅下美人図解 説 米沢 嘉圃 国 華 六三

陳逸舟筆米法山水図 解 説 シ 七九

白石の画 杉村 丁 萌 春 四

朝鮮画を眺めて 柳 宗 悦 民 藝 五

クチャ将米の彩画舎 熊谷 宜夫 美術研究 一九

ペリオ将米のスパシ 秋山 光和 シ 七

出土木製舍利容器三 種 シ 七

書 蹟

書の講座一—四 堀江 知彦 国立博物 館ニユ一 二〇一

東と西の書 滝口 修造 墨 美 三

N・H・K対華放送 第一回 晉・唐の書 法と日本の書道 西川 寧 書 品 三

用語解説・書蹟

粘葉綴と大和綴 小松 茂美 アムニュージ 七

墨跡放談 堀江 秋鞠 萌 春 四

墨象とは何か 峰岸 義一 書 品 三

からけい談義 西川 寧 アムニュージ 六

旧法隆寺献納御物・ 書跡 財津 永次 シ 七

奈良時代の古文書 春名 好重 墨 美 七

藤原仲麻呂と前山寺 堀池 春峰 大和文化 七

寺古経巻に就いて 補遺 藤原仲麻呂と前山寺 前山寺古経巻に就いて 田岡 香逸 史迹と美術 三

播磨加東郡社町住 古神社大般若経につ いて 田岡 香逸 史迹と美術 三

文覚上人の経軸 景山 春樹 アムニュージ 三

醍醐寺五重塔天井板 の落書 伊東 卓治 美術史 四

新取品研究 小松 茂美 アムニュージ 五

絹地切白氏文集 法華経冊子について 久曾神 昇 愛知大学 文学部論 文 十

西本願寺本三十六人 集の成立 伊東 卓治 美術研究 一九

静嘉堂本是則集上・ 下 伊東 卓治 美術研究 一九

古本「近江御息所歌 合」の書風 源 豊宗 墨 美 六

天野山金剛寺「宝篋 印陀羅尼経」料紙和 歌 近藤 喜博 国学院雑 志 六

熊野懷紙 堀江 知彦 アムニュージ 三

一休「尊林」の書蹟 古田 紹欽 日本美術 工藝 三五

江戸時代歴代天皇の 御書流 大窪 太朗 書陵部紀 八

光悦の世界 小松 茂美 墨 美 六

光悦承図・光悦年譜 山崎 安雄 書 品 七

良寛さま覚書き一— 七 堀江 知彦 アムニュージ 七

良寛八にせ物・享 年 堀江 知彦 アムニュージ 七

良寛の書 東郷 豊治 三 彩 九

山陽の書(二) 豊田 清史 日本美術 工藝 三五

先賢の遺墨と蒐集 山下 寅次 文化財協 会報 二

書の講座中国篇一— 四 杉村 勇造 国立博物 館ニユ一 二七

漢篆について 西川 寧 書 品 六

漢碑篆額集小解 松井 如流 シ 六

臨甯封泥文字叙目 王 獻 唐 六

居延出土の木簡 森 鹿三 墨 美 六

北魏・李壁墓誌 同 松井 如流 書 品 七

水牛山・文殊般若若 經 同 松井 如流 書 品 七

西域出土の六朝写経 小川 貫式 龍谷大学 論集 三五

西域出土の六朝初期 の写経 小川 貫式 仏教史学 六〇

興福寺断碑 松井 如流 書 品 三

道教と金石文 松原 三郎 墨 美 七

敦煌発見の勸善文 入矢 義高 シ 三

敦煌発見大曆四年牛 實踐巻について上 池田 温 東洋学報 四〇

石壽と八大人山人 赤羽 雲庭 書 品 三

吳讓之の臨雲台碑 松井 如流 シ 七

建築・庭園

観心寺の如意輪に似
た石仏 野間 清六 ミニージ
石人 森 貞次郎 仏教藝術 三
鳳凰像 白畑 よし シ
新羅の阿弥陀像につ
いて 榎本 杜人 ミニージ 七
西域出土のテラ・コ
ッタ共命鳥像 熊谷 宜夫 美術研究 一九四

建築における批評方
法の問題点 嶋田 勝次 日本建築
学会論文 報集 五ノ二

開放的な空間という
意味(日本建築の性
格1) 篠原 一男 シ

6尺5寸間の発生に
就いて(圓の建築的
研究13) 内藤 昌 シ

数奇の意味 高田 克巳 シ

一五世紀末における
奈良番匠の生活(そ
の夫役について) 大河 直躬 シ

笠口座・菩提山座に
ついて 〃 シ

講座 〃 〃 〃

古建築への入門
(40-42) 近藤 豊 史迹と美
術 二七三、
二七四、
二七七

禅院寺考 藤野 道生 史学雑誌 六ノ九

毛越寺伽藍第一次発
掘調査及び観自在王
院跡第二次発掘調査
略報 藤島玄治郎 建築史研
究 五

ことしの陸奥国分寺
跡発掘 伊東 信雄 仙台郷土
研究 二七〇二

陸奥国分寺七重塔址
解説 〃 〃 〃

美術文献目録

天龍寺の繪門につい
て 藪田嘉一郎 史迹と美
術 二七

平等院鳳凰堂 村田 治郎 新建築 三ノ三

鳳凰堂建築の研究史 〃 〃 〃

古典-醍醐三寶院縁
(えん) 太田博太郎 建築文化 二二三

船橋大和川床の未詳
座寺址 二川 幸夫 〃 〃 〃

泉南熊取町来迎寺本
堂について 山本 博 古代学 六ノ二

飛鳥寺の諸門及び東
西金堂 天岸 正男 史迹と美
術 二七

第二次飛鳥寺の調査 浅野 清 日本建築
学会論文 報集 五ノ二

日本最古の寺を掘る
(飛鳥寺発掘) 〃 〃 〃

法隆寺の金堂と五重
塔 青山 茂 藝術新潮 八ノ二

東大寺の南大門と大
仏殿 竹島 卓一 新建築 三ノ一

東大寺南大門におけ
る重源 棚橋 諒 シ

上代に於ける観音堂
の一系列と東大寺三
月堂 伊藤 延男 シ

東大寺三月堂-転換
期に息づく創造の精
神 山本 栄吾 日本建築
学会論文 報集 五ノ二

東大寺大湯屋私考-
故黒田昇義氏説の批
判と二月堂湯屋の紹
介 山本 栄吾 新建築 三ノ六

東大寺大湯屋論の検
討 川勝政太郎 史迹と美
術 二七四

古保山庵寺の塔心礎
古建築めぐり 松本 雅明 熊本史学 三

1 古内賀茂神社 北匠 散人 仙台郷土
研究 二七〇一

2 熊野堂熊野神
社 横山 秀哉 シ

長野県西筑摩郡三岳
村若宮遺跡調査概報 大場・藤島 信 濃 九ノ三

難波館址考 滝川政次郎 大和文華 三

飛鳥岡本宮・後飛鳥
岡本宮并飛鳥浄御原
宮の所在 田村 吉永 史学雑誌 六ノ七

豊浦-小墾田両宮の
位置について 支野 彊 史 泉 五

平城宮の中宮-皇后
宮と西宮について 大井重二郎 大和文化
研究 八

江戸時代に於ける会
之間-小御所につい
て(仙洞御所-女院
御所の研究-その9) 平井 聖 日本建築
学会論文 報集 五ノ二

二条城二之丸殿舎の
寛永度作事について 川上 貢 シ

二条城二之丸殿舎員
享度破損見分ならび
に修理 村田 治郎 シ

平安時代後期におけ
る寢殿の「用」につい
て 川上 貢 シ

伏見殿について 野地 修左 〃

南庭より車寄へ(運
動的空間の萌芽) 多淵 敏樹 シ

聴秋園 井上 充夫 シ

銀沙灘について 藤岡 通夫 新建築 三ノ二〇

表千家の茶室 岡田 孝男 新建築 三ノ三

利休と待庵の歴史的
位置 太田博太郎 シ

待庵の二畳 白井 晟一 シ

茶室めぐり-数寄屋
の教えるもの-利休
の待庵 木村 宗憲 日本美術
工藝 三六

西芳寺湘南亭	増田 友也	新建築	三ノ一	南部の曲り家	吉川 保正	民藝	五	常陸玉取西方寺板碑群	高井悌三郎	史迹と美術	二七
燈心亭	〃	〃	〃	野州の石屋根	塚田泰三郎	〃	〃	泉佐野市在石燈籠調査小記	天岸 正男	〃	二七〇
環溝住居趾小論(二)	鏡山 猛	史淵	四	宋道湖畔の民家	太田 直行	〃	〃	考古雜記 互のつかい方	滝口 宏	歴史考古	一
居間中心形住宅様式の史的成立	木村 徳国	日本建築学会論文報告集	五ノ二	吉備の民家	外村吉之介	文化財協会報	二	白鳳時代古瓦考	大沢 静枝	〃	〃
盛岡藩における上級武士住宅の間取形式に就いて	佐藤 巧	〃	〃	男木島の民家と民俗考	市原 輝士	〃	〃	奈良朝の戲面瓦について	内藤 政恒	美術研究	一九
町方文書による藩政期彦根町方住居の考察―城下町と住居(2)	西川 幸治	〃	〃	城の日本的性格	丸山 尚一	新建築	三ノ九	多賀城・粟切谷両古瓦の一考察	〃	歴史考古	一
近世に於ける隠れ切支丹の住宅とその変遷(長崎県月島の場合)	今和 次郎 富田 乃生 渡辺 明	〃	〃	松本城の築造とその背景	大川 直躬	〃	〃	瓦町に於ける国分寺瓦窯跡について	田村 昭	仙台郷土研究	二七ノ二
有壁本陣の建築	小倉 強	仙台郷土研究	二七ノ一	仙台城下の構造	小林 清治	仙台郷土研究	二七ノ一	東村山の瓦塔遺跡―瓦塔遺跡研究その二―	石村 喜英	大和文化研究	六
飛騨高山日下部邸倉下考―古代倉庫の構造と機能―	藪田 香融	建築文化	二七	日光道中「崔宮街」に就いて	金井 円	日本建築学会論文報告集	五ノ二	武蔵多武峯の瓦塔遺跡―瓦塔遺跡研究その三―	〃	史迹と美術	二七
奈良時代における難波の倉庫	滝川政次郎	社会経済史学	三ノ四	講座	大田 静六	〃	〃	大野寺の土塔と人名瓦について	森 浩一	文化史学	二
日本の劇場抄史 附劇場抄史年表	小泉嘉四郎	国際建築	二四ノ一	16 石造美術講義15―能登の石造重層塔	川勝政太郎	史迹と美術	二七	兵庫県揖保郡鷓尾寺址出土の鷓尾について	宇野信四郎	歴史考古	一
農村歌舞伎舞台とその舞台機構	松崎 茂	日本建築学会論文報告集	五ノ二	越前高雄神社七重石塔	日野 一郎	歴史考古	一	庭の発展的創造	菊竹 清訓	建築文化	二三
山形県黒川能の舞台(左構の能舞台について)	横山 秀哉	〃	〃	資料 滝泉寺九重石塔	増永 常雄	史迹と美術	二七	京都庭園史の研究	三品 彰英	文化史研究	五
民家における細文的なるもの	西川 號	建築文化	二三	五輪塔の形の起原	村田 治郎	〃	〃	序にかえて	〃	〃	〃
近世における所謂「健家」民家の一形成について	白木小三郎	日本建築学会論文報告集	五ノ二	能登国妙成寺の笠塔婆	桜井 甚一	〃	〃	庭園史と文化史	笠井 昌昭	〃	〃
山形にみる地方の造形	伊藤ていじ	新建築	三ノ七	武蔵須賀広の嘉祿・寛喜板石塔婆について	川勝政太郎	〃	〃	京都と庭園	遠 日出典	〃	〃
天龍川下流域に於ける民家について	鈴木 楢	日本建築学会論文報告集	五ノ二	永久四年在銘の経塔	石田 茂作	大和文華	四	鎌倉時代	浅田源三郎	〃	〃
				宗像神社阿弥陀經石	副島三喜男	仏教藝術	三	室町時代	遠 日出典	〃	〃
				福岡県宗像郡宗像町宗像神社蔵	谷口 鉄雄	大和文化	七	桃山時代	小林 正義	〃	〃
				資料 延久二年銘の梵字石碑	司東 直雄	岩手史学研究	五	江戸時代	塩見 誠一	〃	〃
				徳治三年の石庇寺板碑をめぐって	〃	〃	〃	現代	笠井 昌昭	〃	〃
					〃	〃	〃	中世的藝術の空間の問題	小林 正義	〃	〃

室町庭園構式考序

小林 正義 文化史研 六

龍安寺庭園

中根 金作 新建築 三ノ〇

修学院離宮の庭

谷口 吉郎 三ノ四

庭の素人観―庭の具

三島八十三 羽陽文化 三

文化財指定を顧みて―

角田 文衛 古代学 六ノ一

所謂「李陵の邸宅址」について

角田 文衛 古代学 六ノ一

工 藝

陶 磁 工

やきもの講座

茶碗の見方と種類 佐藤 進三 陶 説 五―五

ちやわん抄

加藤義一郎 日本美術 三〇―三二

96 空中作御室焼透高台

97 権兵衛高麗 工藝 三〇―三二

98 黒い茶盃

99 薩摩染付柳絵賛 100 古帖佐 松皮手 101 弥生土器の盃 102 黒織部山水文 平杏 103 越窯花文盃 104 弥生式の盃 105 備前三猿齋手造 106 ペルシヤ緑釉盃 107 手造 飴釉大服

和物茶碗使用年表

陶 説 四

やきものかんじんか

なめ

7 伊賀茶碗

岡田 宗敬 陶 説 四

8 民藝という名の陶器

黒田 領治 陶 説 四

9 李朝辰砂

久志 卓真 陶 説 四

10 織部の徳利

佐藤 進三 陶 説 四

11 志野・織部

加藤唐九郎 陶 説 四

12 李朝陶器

広田 照 陶 説 四

13 天啓染付

内藤 匡 陶 説 四

14 呉須赤絵・呉須染付

広田 照 陶 説 四

美術文献目録

15 うづくまる

岡田 宗敬 陶 説 五

16 織部

瀬津伊之助 陶 説 五

陶器に現われた花鳥模様の特徴

西沢 笛敏 日本工藝 一九

水指談議

満岡 忠成 淡 交 二〇九

油壺考

日本工藝 一九

アメリカの美術館にある東洋古陶磁一、二

小山富士夫 陶 説 五、五

アメリカの旅・東洋陶器の権威ブライマー博士をたずねて

三 彩 画

欧米やきもの行脚

加藤士師前 陶 説 五―四

古代の日本工藝

日本美術 三六―三九

縄文式土器の話

小林 行雄 日本美術 三九

1、2 弥生式土器の話

山本 清史 泉 七、八

隠岐島の須恵器

本多 静雄 陶 説 四九

須恵器長首子持壺解説

桂 又三郎 日本美術 三五

色彩土器の新研究

小山富士夫 藝術新潮 八ノ一

正倉院三彩

吉田章一郎 上智史学 二ノ一

埼玉県寄居町末野円良田赤岩の窯址

本多 静雄 陶 説 四九、五〇

愛知県猿投山西南麓の古窯址群一、二

榎崎 彰一 ミュージ 七

愛知用水地域出土の藤原陶器

田中 朔生 陶 説 五

鎌倉期の尾張陶

本多 静雄 陶 説 五

陽刻蓮瓣文花瓶解説

満岡 忠成 大和文華 三

古瀬戸大徳利解説

大和文華 三

大和文華館蔵

古瀬戸巴文壺

古常滑人物文壺

志野茶盃・銘「瑞雲」解説

伊勢天目殿町窯跡及附近出土瓶子

益子焼と絵模様

古九谷の鑑賞

古九谷と柿右衛門

古九谷と柿右衛門

純古九谷と柿右衛門

古九谷色絵新春吉祥文台鉢解説

大阪府名窯略伝

御室焼・仁清の文献

究明四―六

江戸城内の御室焼その他

尾形乾山考

満岡 忠成 大和文華 二

沢田 由治 陶 説 四九

岡田 宗敬 陶 説 五

稲山 泰次 陶 説 四九

西沢 笛敏 日本工藝 一九

古屋 煙石 陶 説 五

今泉 元祐 陶 説 五

梅沢 曙軒 陶 説 四

保田 憲司 若美津 二

鈴木 半茶 陶 説 四六、四九

杉本 捷雄 陶 説 五

横川毅一郎 春 四一―四七

乾山の江戸下向について

乾山龍田川茶碗(円照寺蔵)解説

五代乾山西村菟庵一―三

満岡 忠成 大和文華 三

鈴木 半茶 陶 説 五―七

佐藤・磯野 堀口・保田 田中・林屋 亀井勝一郎

長次郎幻想

長次郎文獻

長次郎作品解説

長次郎作赤茶碗銘

早船解説

伊賀・信楽

丹波の陶技

林屋 晴三 国 華 七

菊山当年男 陶 説 五

杉本 捷雄 陶 説 五

生れるものをつくるものとして丹波の古陶に因んで

備前額鉢解説 佐藤 進三 陶 説 五
日本陶史図譜10 藤岡 了一 日本美術工藝 三〇

唐津

水町氏の「再び唐津の起源について」を駁す 佐藤 進三 陶 説 四
岸嶽出土の影唐津 久志 卓真 五
古伊万里管見 今泉 元佑 四
再び柿右衛門初期作品について 今泉 元佑 四

十八世紀のヨーロッパの窯に影響を与えた柿右衛門 齋山 順吉 三
色鍋島蒲公英絵八寸皿解説 佐藤 進三 三
松ヶ谷色絵磁器に就いて 今泉 元佑 三
松ヶ谷色絵小皿解説 佐藤 進三 三
松ヶ谷古窯資料考 岡田 宗淑 三
高取焼断章 岡田 宗淑 五

中国その他

東洋陶磁講座二一五 長谷部 楽爾 国立博物館ニユー 二六―二九

中国と琉球の陶器に見る花模様 西沢 笛吹 日本工藝 一九
縁裾袖胡瓶 小山富士夫 大和文華 三

中国青磁史 陳 万里 陶 説 四六、四八
北方青磁について 米内山庸夫 日本美術工藝 三〇―三三
再び粉紅青磁について 陶 説 五

哥窯論一―五 米内山庸夫 日本美術工藝 三三、三五

柴汝官哥考一、二 赤塚 幹也 陶 説 五、五三
東京の元明陶磁 ジョン・エイヤーズ 五

金襴手瓢形寿之字大瓶解説 小山富士夫 四

石湾窯・宋胡録・オランダ陶器 稲岡 進 五
伊羅保と御木 編 集 室 若美津 二

李朝の水滴と宋胡録 西沢 笛吹 日本工藝 一九
琉球の南蛮 小山富士夫 三
南蛮焼初見参 中川 伊作 陶 説 五
ラスター手人物図浅鉢 三上 次男 国 華 六三

金工

庄内金工概論 佐藤 貫一 刀剣美術 四
旧法隆寺 献納御物 蔵田 蔵 ミュージ アム 六
(新重要文化財)金工品

若狭国遠敷郡十善寺森古墳出土 双龍透文鈴飾金銅鑿鏡板 (鏡)解説 梅原 末治 考古学雑誌 四ノ三

備前瑠珈山出土の銅剣 末永 雅雄 三

資料紹介・再び土佐国出土の細形銅劍新資料 岡本 健児 三ノ二

丙子椒林・七星両劍の研磨感想 小野 光敬 刀剣美術 四
長谷寺千仏多宝仏塔の造立年代 田村 吉永 史迹と美術 三二

金峯山出土の銅板經 矢島 恭介 大和文化研究 一七
東京都谷中五重塔塔見の経筒並舍利容器 谷中五重塔礎心から発見された金銅ガラズ舍利塔 石田 尚豊 ミュージ アム 三

三角五輪塔 藤田 蔵 三
三角五輪塔考 藤田 蔵 三
金銅灌頂轆小考 矢島 恭介 三
金銅灌頂轆金具考 矢島 恭介 三
熊野那智飛滝神社前出土 金剛界曼荼羅の成身会・三昧耶会の遺物 野間 清六 国 華 六〇

中尊寺華鬘解説 野間 清六 国 華 六〇
伝来寺の古鐘に就いて 国安 泰嶺 仙台郷土研究 二七ノ二

古久良岐郡の東漸寺鐘 岩越 二郎 史迹と美術 三三
銅製水滴 中野 政樹 ミュージ アム 八
釜の出来るまで 高木 四郎 淡 交 二〇

紹益の手焙 加藤 増夫 日本美術工藝 三五
用語解説 辻本 直男 ミュージ アム 六
名刀はどうして生れたか(完) 霞 俊夫 刀剣美術 四
伝大宝沼出土の太刀 久山 峻 三
刀工の受領について 小泉富太郎 三
所謂銘切師の存在 村上 孝介 三
越前康継の研究(完) 佐藤 貫一 三
粟田口藤四郎吉光と越前康継 ミュージ アム 三

越前康継と写し物の研究 佐藤 貫一 刀剣美術 四

播磨守輝広について 三玉 浩正 シ

栗原謙司信秀のことども 渡辺淳一郎 シ

主水正清の前銘について 角替 利策 シ

景吉・清盈のことども 寒 山 シ

繁慶と清堯銘の研究 佐藤 貫一 シ

伊賀守金道一門系譜の訂正 福永 酔剣 シ

大金家の末流 服部 栄一 シ

「江」・「おそらく」などの呼び名の由来 辻本 直男 シ

「中心の文字」について 久我 春 シ

豊国祭図屏風にみる朱鞘の文字 沼田 鎌次 アム

中国古銅器における伝世の問題 岡田芳三郎 史 林 一六

新中国で着目した漢六朝鏡 樋口 隆康 考古学雑誌 三ノ二

景初三年銘の神獸鏡 末永 雅雄 大和文華 三

木 漆 工

用語解説・工藝木工 木内 武男 ミュージック

国宝物語一、二 吉野 富雄 日本漆工 八〇、八二

玉虫厨子に関する問題 野間 清六 アム

千体寺の厨子 守田 公夫 大和文華 二

旧法隆寺献納御物・木竹工品その他 岡田 謙 ミュージック

木造天蓋一具 所在 倉田 文作 仏教藝術 三

鳳凰堂

御物木函手管について 木内 武男 ミュージック

牡丹螺鈿鞍解説 岡田 謙 国 華 七九

葡萄螺鈿炬燵 シ

純金箔製地粉の研究 小松 芳光 工 藝 大 学 二

光悦の蒔絵 岡田 謙 三 彩 五

秋草蒔絵見合解説 シ

五十嵐時絵について シ

堆朱と鎌倉彫 シ

春日大社の儀仗弓具 吉野 富雄 大和文華 二

染 織 工

我國女装における帯の研究(第1報)上古時代(壇輪の帯) 藤永 しも 実践女子 大 学 紀 要 四

衣服構成の基本型について 村井 真一 シ

用語解説・染織平織 今永清二郎 アム

天寿国繡帳に関する一、二の問題 林 幹弥 史 学 雜 誌 六ノ九

旧法隆寺献納御物(新重要文化財)染織品 山辺 知行 アム

繡仏断片(東京国立博物館保管)解説 シ

正倉院御物の模様染について 明石 国助 書 陵 部 紀 八

兵主大社の繡幡について 北村 哲郎 美 術 史 二

鶴岡八幡宮の神宝女衣について 日野西資孝 アム

古典は今日のようにならぬか・城の生んだ色彩とフォルム陳羽織 村井 正誠 美 術 手 帖 三

紙本着色婦人像の服飾覚え書き 山辺 知行 大和文華 二

天文小袖解説 日野西資孝 アム

天文小袖修理記録 山辺 知行 シ

お狂言師と歌舞伎衣裳 相馬 皓 国 立 博 物 館 ニ ュ ー ス 二七

近世模様染の発達四 明石 染人 日 本 工 藝 二六

小紋と中型一歴史的に見たる 山辺 知行 シ

江戸小紋の製作工程 小宮 康孝 シ

江戸小紋と共に 小宮 康助 シ

江戸小紋の技法 野口 真造 シ

小宮翁の話 山辺 知行 国 華 六

イカット織解説 吉野 富雄 大和文華 三

黒漆革蝶文末金鍍作脇軾

ガラス工・玉工・その他

石の工藝 加藤 増夫 日 本 美 術 工 藝 三三

ビードロ障子 板橋 倫行 国 立 博 物 館 ニ ュ ー ス 二五

殷墓出土の琮に就いて 梅原 末治 考 古 学 雜 誌 四ノ三

用材別に観た鶏玩具 稲垣 長賢 日 本 工 藝 一五

鶏玩具の分布状況 シ

考古学関係

講座・考古学的遺跡の発掘上・下 久保 常晴 歴 史 教 育 五ノ四、五

無土器文化の研究動向 芹沢 長介 シ

土器内面に附着せる黒色物質のX線廻折による確認について 一戸 良行 古 代 学 六ノ二

用語解説

貝塚

モヨロ貝塚出土の石器

野口 義麿 アム 七

若生貝塚発掘報告

大場 利夫 北方文化 研究報告 三

金海貝塚の甕棺と箱式石棺(金海貝塚の再検討(承前))

名取 武光 峰山 叢 三

青森県上北郡早稲田貝塚

榎本 杜人 考古学雑誌 五ノ一

山形県河島山発見の無土器文化

二本柳正一 角藤 達夫 佐藤 嗣夫 五ノ二

前期縄文文化に対する一考察

小野 忠熈 江坂 輝弥 史 想 七

早期縄文式文化に就ての一考察

小岩 末治 岩手史学研究 五

縄文式時代における農耕文化

清水 潤三 歴史教育 五ノ三

中部山岳地帯における前期縄文時代住居址

樋口 昇一 信 濃 九ノ二

飛驒の縄文中期文化について

小江 慶雄 史 想 六

小豆島の縄文遺跡を訪ねて

森井 正 文化財協 二

南九州後期の縄文式土器―市来式土器―

河口 貞徳 考古学雑誌 四ノ二

弥生式土器の編年とその文化

樋口 清之 歴史教育 五ノ三

茨城県那珂川流域出土の弥生式土器(底面の布目文について)

大賀 一 古文化財 一四

布目文の研究第五(報)

井上 義安 佐藤 次男 古文化財 一四

茨城県長岡遺跡の弥生式土器(予報)

井上 義安 史 想 七

滋賀県新旭町お屋敷弥生式遺跡について

紫郊史学会 史 想 七

丹後古代文化の源流―竹野川流域の弥生式文化を中心として

小江 慶雄 京都学藝 大学学報 A-1-2

資料紹介

堅田 直 考古学雑誌 五ノ一

堺市浜寺諏訪の森出土の弥生式土器

大場 利夫 古代学 六ノ二

上富美遺跡

北村 英夫 古代学 六ノ二

岩手町の遺物の二三について

草間 俊一 岩手史学研究 五

釜石市出土土器について

三上 昭 岩手史学研究 五

遠軽町下社名淵(家庭学校)遺跡の発掘について

兒玉 作左衛門 北方文化 研究報告 三

土器胎土中の鉱物組成について―北海道厚岸郡茶内遺跡出土の擦文式土器の場合―

山田 祐弘 古代学 六ノ三

セント・ポール・グリーンハイッ内遺跡調査概報

中川 成夫 史 苑 五

資料紹介

川村 喜一 史 苑 五

加賀国片山津町に於ける玉製造址〔予報〕

上野 与一 考古学雑誌 四ノ二

長野県北安曇郡松川村風穴字桜沢遺跡

鈴木 孝志 四ノ二

資料紹介

鈴木 孝志 四ノ二

長野県小諸市氷発見の土製品について

永峯 光一 史 想 七

長野県埴科郡松代町西条地区入組稲葉遺跡調査概報

永峯 光一 信 濃 九ノ四

長野県上高井郡東村石小屋洞窟遺跡

永峯 光一 信 濃 九ノ五

北信濃長峯丘陵柳町遺跡調査概報

桐原 健 史 想 七 九ノ三

松本市大柳町所在低湿地遺跡(仮称丸の内遺跡)

藤沢 宗平 信 濃 九ノ二

獣骨を出した長野県上田市北上田遺跡

五十嵐幹雄 史 想 七 九ノ二

上信国境「入丸峠」祭祀遺跡について

山崎 義男 考古学雑誌 五ノ一

飛驒小坂町水口遺跡の遺物

大江 命 史 想 七

歴史地理的にみた鈴鹿市広瀬台地の初期歴史時代遺跡群―軍団趾の問題と付近の開発をめぐって―

藤岡謙二郎 史 想 七 二七九

播磨福本遺跡の押型土器

西村 陸男 史 想 七 二七九

紫雲出山遺跡

増田 重信 兵庫史学 三

上代祭祀遺物の特質

高橋 邦彦 文化財協 二

古墳について

大場 馨雄 国学院雑誌 五ノ四

古墳築造技術に関する一考察

小林 行雄 歴史教育 五ノ四

長野県東筑摩郡宗賀村平出第一号古墳調査概報

大場 馨雄 兵庫史学 三

美濃国の石製品伴出古墳に就いて

藤井 治左衛門 岐阜史学 二九

調査報告・堂山古墳の発掘

村井 富雄 国立博物館 ニュー 二九

愛知県知多郡上野町三ツ屋一号墳の子持勾玉について

杉崎 章 考古学雑誌 四ノ三

洛西広沢古墳発掘調査概報

樋口 隆康 史 林 一六

養父の三宅と古墳

山根 武 兵庫史学 三

御願塚前方後円墳に関する一資料―伊丹市稲野字御願塚―

村川 行弘 史 想 七 三

谷奥第一号古墳発掘状況について

山根 幸恵 考古学雑誌 四ノ三

歴史関係・その他

柴田 実史 泉 六

大川郡にある二、三の古墳について―黄泉の葬送儀礼―

六車 恵一 文化財協 二

考古学と民俗学との間―葬制の問題に寄せて―

原田 淑人 歴史評論 八九

九州における突起ある横穴式石室墳

三島 格 熊本史学 三

日本原始農業試論

酒詰 仲男 考古学雑誌 四ノ二

装飾古墳弁慶が穴調査報告

原口 長之 二

初期大和政権の勢力圏

小林 行雄 史 林 一六四

A Stone Industry of Patijaman Tradition from Central Japan

Jone Maringar 考古学雑誌 四ノ二

建国紀元談義

川崎 浩良 羽陽文化 四

北海道の石冠についての二、三の観察

扇谷 昌康 古代学 六ノ三

欽明紀十三年冬十月の記事について(八) 仏教伝来の謎

佐藤 昭夫 アム 七

資料紹介

岩野 見司 考古学雑誌 四ノ二

二の補足的考察

西田 長男 大倉山論 六

擦切痕を残した石斧の新例

志田 諄一 四ノ一

日本仏教公伝年代の一考察

北条 文彦 駒沢史学 六

茨城県日立市発見の石庖丁の新例

桐原 健信 濃 九ノ八

聖徳太子仏教の特質

古谷 明寛 南都仏教 三

信濃における石庖丁について

石村 喜英 歴史考古 一

奈良朝の国家的宗教

竹園 賢了 大阪学藝大学紀要 A-15

外容器伴出の一蔵骨器について

中国新石器文化研究の動向

山城の上代文化―三―

景山 春樹 史 術 三九一

資料紹介

榎本 杜人 四ノ二

播磨風土記の歴代記事(七)―その歴史記述の考察―

高藤 昇 国学院雑誌 五ノ二

徳蔵寺所蔵の獸脚付蔵骨器について

中国新石器時代の物質文化上・下の二、三

資料・東大寺図書館蔵成実論卷十五天長点

鈴木 一男 南都仏教 三

滋賀県坂田郡米原町出土鹿角器解説

中国考古学的新資料

円融要義集の逸文―華嚴宗の草創に關する史料―

谷 省吾 史 術 三

古墳出土の鈿(やりがんな)について

新中国の考古品を視る

円融要義集の逸文―華嚴宗の草創に關する史料―

小野 勝年 大和文化 六

郡山古墳出土の鉄斧

中国の考古品を視る

円融要義集の逸文―華嚴宗の草創に關する史料―

長島 健 学院研究 二

墳輪のいのししとし

ヒットタイトについて

円融要義集の逸文―華嚴宗の草創に關する史料―

宮本 延人 史 学 二九ノ四

美濃発見の墳輪について

台湾の石器遺物と高砂族との関係の諸問題

東亜における鋸の系譜

上田 舒 考古学雑誌 四ノ三

大和高田市出土の鶏頭墳輪

東亜における鋸の系譜

室生伝説成立私考

遠 日出典 文化史研究 六

寺社と在家	長井政太郎	羽陽文化	三
貞慶の観音信仰と覚	工藤定雄	龍谷史壇	三
紀州に明恵上人の遺跡を尋ねる―白上と施無畏寺を中心に―	佐脇 貞明	龍谷史壇	三
阿弥陀仏号についての一考察(下)	景山 春樹	仏教藝術	三
慈円の顔について	水上 一久	国学院雑誌	五ノ二
藤原時代の文化の性格	多賀 宗準	歴史地理	八ノ一
栄花物語に現れた藤原道長	池田 源太	奈良学藝大学紀要	七ノ一
貞信公記人物考	山中 裕	歴史地理	五三
院政と鳥羽離宮	桃 裕行	歴史地理	五四
「日本書紀」の成立過程―説話伝承者の問題―	村山 修一	史 林	一六三
源氏物語の発端とその周辺	鹿苑 大慈	龍谷史壇	四
源氏物語の絵画性について	室伏 信助	国学院雑誌	五ノ二
古典と熊野	加藤 正雄	史 林	五ノ一
中世禅林の官寺制度	松本 芳夫	大和文華	三
鎌倉五山	今枝 愛真	歴史地理	五四
五山教団の発展に關する一考察	菅原 通斎	藝術新潮	八ノ五
東山という時代	藤岡 大拙	仏教史学	六ノ二
茶道と上方町人文化	中村 淡男	若美津	二
利休の精神―茶道漫歩14―	暉峻 康隆	交 交	二二三
茶屋四郎次郎由緒考	松永 安左衛門	陶 説	五
所謂島井宗室日記について	中田 易道	歴史地理	五三
近畿万葉地誌四	田中 健夫	史 林	シ
	北島 葎江	史迹と美術	二六九

撰津国の部6―13

奈良時代における難波の地理について―北島葎江氏の反論を駁す―	滝川政太郎	史迹と美術	三三〇、三三六、三三七、三三八、三三九
大化改新と寺領地	田村 吉永	史迹と美術	三三三
山城国宇治郡の条理坪付と醍醐御陵兆域について	杉山 信三	史迹と美術	三七七
後高倉院の御葬地北白川について		史迹と美術	三七八

現代美術 西洋美術 単行 図 書

世界藝術論大系、9 ドイツ現代	ディルタイ 他、高橋義孝訳	河出書房	二二四
藝術論(新潮文庫)	フロイド 高橋義孝訳	新潮社	二二四
藝術論集	ハーバート リード、増野、飯沼、森訳	みすず書房	二二四
イコンとイデア《人類史における藝術の発展》	ハーバート リード、宇佐見英治訳	紀伊国屋書店	二二四
シンメトリー《美と生命の文法》	ヘルマン・ヴァイル、遠山啓訳	岩波書店	二二四
マルクス・エンゲルス藝術論、上	エルベンベック編、滝沢安之助訳	岩波書店	二二四
京鎌倉の往還(下)	田中 重久	史迹と美術	二六九
藤原四代遺体の微生物学的調査とその保存処理に就いて1	大槻 虎男	古文化財科学	二四
豊臣氏印章攷	岩沢 愿彦	歴史地理	八ノ一
オドアケルの立場―貨幣からみた一考察―	角田 文衛	文化史学	二三
郷土玩具について	細川 亮平	文化財協 会報	二
フランスにおける仏教研究の現状	柴田 増美	仏教藝術	三
高昌仏教の研究	小笠原宣秀	龍谷史壇	四
文学・藝術と共産主義―ソ同盟共産党20回大会後の新しい発展―	N・フルン、チョコフ他、高橋勝之他訳	新日本出版社	二二四
藝術は何のためにあるか	伊藤 整	中央公論社	二二四
日本の藝術論(創元選書)	安田 章生	東京創元社	二二四
日本藝術学の話	日夏耿之介	新 樹 社	二二四
藝術心理学講座	波多野、宮城、相良、編	中山書店	二二四
藝術作品	小保内、編	中山書店	二二四
藝術と人間	関 計夫	慶応通信	二二四
藝術教育	アンドレ・マルドロ、小松 清訳	新潮社	二二四
美術の心理	ハンズ・ゼーデルマ、イヤー、石川公一訳	美術出版社	二二四
東西美術論			
2.1. 空想的美術館			
2. 藝術的創造			
近代藝術の革命			

抽象藝術の冒険

ミツシエル・ラゴン 紀伊国屋書店

モダン・デザイン展
—モリスからグロピウス
まで—

高階秀爾訳 N・ペヴス
ナ、白石博
三訳 みすず書房

二〇世紀の藝術

瀬木 慎一 昭 森 社

西洋美術史 (美術手帖増
刊)

木村 重夫 造形藝術研究
会

近代日本美術史

木村 重夫 美術出版社

現代美術を理解しよう
(美術手帖臨時増刊)

ブルック・ハルト 東京 堂

ギリシヤ文化史

ブルック・ハルト 東京 堂

3. ギリシヤの美術、
詩、音楽

新関良三訳 東京 堂

ルネッサンスの美術と社
会

会田 雄次 創 元 社

美術カード

3. 西洋絵画 (17—18
世紀)

1510 9. 5. 西洋彫刻全期
日本絵画現代
日本彫刻全期
東洋、印度、西域
その他

美術出版社

絵 画

改訂近代絵画史

柳 亮 美術出版社

構図法へ名作の分析と図
解

柳 亮 美術出版社

画をかく喜び
—美の発見と表現

武者小路実 創 元 社

世界名画全集

111. 日本 4. 中世、
19世紀 座右宝刊行
会編 河出書房

一二枚の絵 (みづゑ別冊
16号)

柳 亮編 美術出版社

現代の洋画

柳 亮編 美術出版社

日本の洋画家 (藝術と技
法) (アトリエ別冊35号)

アトリエ出版
社

現代の壁画 (みづゑ別冊
17号)

美術出版社

名作デッサンの手法 (ア
トリエ別冊31号)

伊藤 廉編 アトリエ出版
社

白と黒のよここび (みづ
ゑ別冊19号)

美術出版社

モデルと名画 (アトリエ
別冊36号)

野口弥太郎 アトリエ出版
社

日本画とともに—一〇大
巨匠の人と作品—

鈴木道太郎 雪 華 社

五人の画家

難波専太郎 美術探求社

大津絵

旭 正秀 美術出版社

俳画描方 (春夏篇)

赤松 柳史 創 元 社

現代作家一五〇人

美術出版社

水壁画集

井上靖原作 朋 文 堂

梅原竜三郎伊近作画集

久保守、石 朝日新聞社

信濃画帖

加藤 海綾 白玉書房

清方画集

清方画集編 美術出版社

小糸源太郎 (日本現代画
家選)

美術出版社

みせられない日記

竹久 夢二 組合書店

鉄斎

武者小路、 筑摩書房

鉄斎落款帖

梅原中川、 小林 監修 五禾書房

日本の胃—前田青邨スケ
ッチ集—

前田 青邨 中央公論社

民家と風土—画文集—

向井 潤吉 美術出版社

武者小路実篤画集

武者小路実 美術刊行会

石井柏亭 (日本百選画集)

美術書院編 美術書院

岡鹿之助 (シ
小山敬三 (シ
)

美術書院

福沢一郎 (日本百選画集)

美術書院編 美術書院

藤島武二 (シ
森 芳雄 (シ
)

芸 艸 堂

現代作家デッサン集

伊東深水

小野竹喬

加藤栄三

小糸源太郎

杉山 寧

西山英雄

前田青邨

三岸節子

山口蓬春

長沢節デッサン集2

白馬に乗れるロゴス

キュービズムの画家たち

三浦アンナ 新教出版社

立休派の画家たち—美学
的省察— (今日の芸術叢
書)

ギイヨーム・アポリ
ネール、斎 藤正二訳 緑 地 社

グロツタの画家

ギョーム・アポリネール、斎 藤正二訳 昭 森 社

ゴッホの水彩と素描

小林 秀雄 角川書店

ゴッホの手紙 (角川文庫)

ゴッホの百年

ヴァン・ゴッホの世界

ヴァン・ゴッホの耳切事

ヴァン・ゴッホの耳切事

ポール・クレイ (造形藝
術論 作品と生涯)

ピカソ版画・図録

モネ (原色版美術ライブ
ラリー)

片山 敏彦

展覧委員会編 明 治 書 房

勝見勝訳編 三笠書房

ピカソ版画

片山 敏彦

展覧委員会編

明 治 書 房

勝見勝訳編

三笠書房

ピカソ版画

展覧委員会編

セザンヌ2(原色版美術ライブラリー)	河北 倫明	みすず書房
ゴッホ()	碓 伊之助	
ボナール2()	安部 幸毅	
ルノワール2()	石川 公一	
ブ拉克2()	矢内原伊作	
クレイ2()	柳 宗玄	
ニコルソン()	宇佐見英治	
ピーター・ブリューゲル(フューバー世界名画集)	トレンチャード・コックス	平凡社
マネ()	加藤周一訳	
ローゼンスタイン・ウイレンスキ	ローゼンスタイン・ウイレンスキ	
新規短男訳	ハーパー	
ゴガン()	ハーパー	
ドガ2()	保貞次郎訳	
マイクル・エアトン	マイクル・エアトン	
吉田健一訳	吉田健一	
ルノアール2()	バーナード・デンバー	
岡本謙次郎訳	岡本謙次郎	
ジャン・カスティー	ジャン・カスティー	
安藤一郎訳	安藤一郎	
ハーパー	ハーパー	
滝口修造訳	滝口修造	
ゴッホ(アルル、サン・レミ時代)(アート・ギャラリー)	ジャン・レマリ	紀伊国屋書店
フランソワ・マテイ	フランソワ・マテイ	
ゴッホ(オーヴェル・シュル・オワーズ)()	エドアール・ジュリアン	
エドアール・ジュリアン	エドアール・ジュリアン	
ロートレック(サーカス)	エドアール・ジュリアン	

ドガ(踊り子)(アート・ギャラリー)	クロード・ロジャール	マチス(野獸派時代)	ジョルジュ・イブ
ユトリロ(モンマルトル)	ジャン・オベル	ピカソ(青とばら色の時代)	フランク・エルガ
クレイ(不思議な四角形)	ジョセフ・エミール	たのしい版画	大田 耕士
版画アルバム	小野忠重	簡易石版のやり方	大道 武男
日本の季節(旭正秀自刻版画集)	旭 正秀	斎藤清版画集	斎藤 清
借木板画巻	棟方志功	歌々板画巻	棟方志功
彫刻の藝術	石田波郷		谷崎潤一郎
現代彫刻(原色版美術ライブラリー)	ハーパー		宇佐見英治
世界彫刻名作物語	・リード		徳大寺公英
セメント彫塑(コンクリートパレット51号)	山田 邦祐		乗松 巖
日本石工芸史	川勝政太郎		

現代イタリアの彫刻(座右宝美術叢書3)	土方 定一	河出書房新社
インドの石彫彫刻(インドの藝術2(座右宝美術叢書6))	町田 甲一	
高村光太郎彫刻作品集	高村豊周	今泉篤男
高村光太郎全集	高村豊周	今泉篤男
1巻 詩1	高村豊周	今泉篤男
2巻 評論3	高村豊周	今泉篤男
3巻 評論4	高村豊周	今泉篤男
4巻 評論5	高村豊周	今泉篤男
5巻 評論6	高村豊周	今泉篤男
6巻 評論7	高村豊周	今泉篤男
7巻 評論8	高村豊周	今泉篤男
8巻 評論9	高村豊周	今泉篤男
9巻 評論10	高村豊周	今泉篤男
10巻 評論11	高村豊周	今泉篤男
11巻 評論12	高村豊周	今泉篤男
12巻 評論13	高村豊周	今泉篤男
13巻 評論14	高村豊周	今泉篤男
14巻 評論15	高村豊周	今泉篤男
15巻 評論16	高村豊周	今泉篤男
16巻 評論17	高村豊周	今泉篤男
17巻 評論18	高村豊周	今泉篤男
工藝通論	松田義之	鈴木豊次郎
美と工藝1・6	松田義之	鈴木豊次郎
日本の工藝(角川写真文庫)	松田義之	鈴木豊次郎
工藝(原色版美術ライブラリー)	松田義之	鈴木豊次郎
世界のデザイン(別冊アートエ32号)	岡田 護	中村真一郎
デザイン10年の歩み(季刊リビングデザイン)	岡田 護	中村真一郎
工業デザイン工業デザイン専門視察団報告書	岡田 護	中村真一郎
インダストリアル・デザイン	岡田 護	中村真一郎
構成・デザインの基礎	武村 重典	

Japanese Decorative Design

前田 泰次 日本交通公社
 織染の美 竜村 謙 毎日新聞社
 草木染 山崎 斌 文藝春秋新社
 和紙印伝 後藤清吉郎 美術出版社
 富本憲吉模倣選集 富本 憲吉 中央公論美術出版
 世界の人形(岩波写真文庫) 岩波書店
 日本人形 雄 鶏 社
 日本の人形と玩具 西沢 笛畝 岩崎書店
 第四回日本伝統工藝展図録 日本工藝会 芸 艸 堂

建 築

新制建築様式 堀口捨巳他 オーム社
 近代建築文化史(理工文庫) 田 重郎 理工図書KK
 近代建築(岩波写真文庫) 西川 驍 彰 国 社
 現代建築の日本の表現1(建築文庫) 谷口 吉郎 講 談 社
 日本の住宅(講談社アト・ブックス) 伊藤ていじ 美術出版社
 日本の民家 (解説) 二川 幸夫 (写真)

1 大和・河内 藤田元春編 朝日新聞社
 近畿の民家(アサヒ写真ブック) 清家 清 相模書房
 ぼるてのん 上野 洋 彰 国 社
 北ヨーロッパの住宅1、2(建築文庫) マルセル・ブロイヤール 芦原義信 編 対立と調和

伽藍が白かつたとき
 薔薇窓
 建築雑誌・論文集・研究報告総目録(昭和一一一三〇年) | 日本建築学会創立七〇周年記念

そ の 他

—(岩波写真文庫)—
 アクロポリス(別冊みづゑ15号)
 ギリシアの神々(岩波写真文庫)
 イタリア美術夜話
 アミヤン大聖堂(座右宝美術叢書2)
 ヴェルサイユ春秋
 ヨーロッパの庭園
 乾燥の国—イラン・イラクの旅—
 イラク(アサヒ写真ブック)
 智恵子・紙絵
 新しい児童画指導講座
 3巻 新しい児童画と教師
 2巻 新しい児童画の指導
 博物館・美術館史
 美術年鑑(美術手帖増刊)
 現代美術家名鑑(32年版)
 美術年鑑 —一九五八年版—

ル・コルビュジェ
 生田勉・種口清訳
 佐藤 武夫
 日本建築学会図書委員
 日本建築学会
 日本建築学会

三輪 福松 美術出版社
 柳 宗玄 河出書房新社
 松村 嘉津 東京創元社
 岡崎 文彬
 三笠宮崇仁 平 凡 社
 高村智恵子 朝日新聞社
 高村豊周編 筑 摩 書 房
 国際学童美術研究会編 宝 文 館

橋橋源太郎 長谷川書房
 清水 澄 美術倶楽部出版部
 美術年鑑社

—57年鑑広告美術—

現代色彩講座
 1 工藝と色彩
 2 商業と色彩
 3 生活と色彩
 4 藝術と色彩
 色彩の話
 ひとと色彩
 小事典色いろは(カッパブックス)
 スロドの幻想と美(別冊アトリエ33号)
 日本の漫画家
 年中行事—今と昔—
 カットとそのかき方
 書画・骨董回顧五十年
 骨董裏おもて
 藝術家のことは(河出新書)
 画壇
 画家(顔縁のない自画像)
 故郷
 白沙村人随筆
 わが遍歴の山河
 フェノロサ—日本美術に献げた魂の記録—
 倉敷—古い形の町・美術指導
 幼児童の指導
 児童画と性格(児童心理選書2巻)

美術出版社
 稲村耕雄・田中千代・宮本三郎・大智弘・野尚志・清家清・富永惣一編 修 道 社
 和田 三造 美術出版社
 大智 弘 東 都 書 房
 稲村 耕雄 光 文 社
 建島寛造 成 社
 アトリエ出版
 伊藤逸平編 産業経済新聞社
 宮尾しげを ダヴィッド社
 長瀬 宝 美術出版社
 斎藤 利助 四 季 社
 広田不孤斎 ダヴィッド社
 郡山 三郎 河 出 書 房
 船戸 洪吉 美術出版社
 岩崎 鐸 実業之日本社
 小杉 放庵 竜 星 園
 橋本 関雪 中央公論社
 東山 魁夷 新 潮 社
 久富 貢 理 想 社
 後藤 禎二 岩 波 書 店
 博 文 社
 金子書房

新しい美術教室

マンフレット
ドケイラー
倉田三郎訳
美術出版社

児童画の読み方―知性と
発達段階の研究
子どもの工作

中西 良男
黎明書房
美術出版社

1巻 つくるよろこび

浅利 篤
黎明書房

児童画と家庭

シ
シ

児童画の秘密

宮武 辰夫
岩波書店

ぬたくり(幼児童画シリ
ーズ)

シ
シ

子供の絵(岩波写真文庫)

岩波書店

美を求めて(新編日本少
国民文庫)

小林秀雄編 新潮社

青少年女世界美術全集

西洋編4

藤井源一・
村越英明編
保育社

日本の美術(保育社の少
年写真文庫)

西洋編4

西洋の美術(シ
シ)

世界美術物語(図書文庫)

一〇人の画家(小学生全
集)

スケッチ辞典

楽しい板画

版画―種類と作り方―
(はくくたちの研究室)

シ
シ

北川 桃雄
偕成社

田近 憲三
筑摩書房

河野 薫編

竹川 明男
三一書房

大田 耕士
さえら書房

山形県の文化財1

山形県文化財保護条例、
規則、指定基準

山形県指定文化財目録

大阪文化財目録

岡山県の文化財1

文化財協会報1、2

高知県文化財調査報告
書8

入幡市文化財調査報告2

東洋美術史要説下 中国
朝鮮篇

山西古蹟志(京大人文科
学研究所報告)

シ
シ

山形県教育委
員会

大阪府教育委
員会

日本文教出版
株式会社

岡山県教育
委員会監修

香川県文化財
保護協会

高知県教育委
員会

入幡市教育委
員会

鈴木 三郎
吉川弘文館

水野 清一
中村印刷株式
会社出版部

絵画

日本の名画

華嚴縁起

広重

初期風俗画

光琳

永徳

大雅

日本の古典

5釈迦金棺出現図

原色版美術ライブラリ1

録巻物

宗達

写楽

広重

北斎

録巻(鎌倉国宝館図録5)

信賞山縁起絵巻

元冠と季長絵詞

光琳

中山高陽紀行集

池大雅画譜1―10

近世初期風俗画

梅津 次郎
岡 畏三郎
近藤市太郎
千沢 楨治
中村 溪男
吉沢 忠
山口一松編
山口蓬春

平凡社

武者小路実
篤 野間 宏
谷 信一
三島由起夫
吉田 映二
木下 順二
近藤市太郎
井上 靖
橋崎 宗重
山本 健吉
奥平 英雄

美術出版社

みすず書房

鎌倉市教育委
員会

鎌倉国宝館

東大出版会

徳川美術館

講談社

高知県教育委
員会

中央公論社

小杉放庵
田中一松編
山中蘭徑
東京国立博
物館編

便利堂

シ
シ

安田 章生
創元社

大岡 坦実
岩波書店

田沢 坦
文化財保護委
員会

田中一松編
日本経済新聞
社

朝日新聞社

井上 政次
角川書店

小林 剛
鹿鳴荘

森 蘊
創元社

北川 桃雄
吉川弘文館

文化財保護
委員会編

史跡名勝天然記念物調査
報告1

浄瑠璃寺

夢殿

関東古寺

中山の美

中尊寺(アサヒ写真ブッ
ク)

National Treasures of
Japan, 4

国宝図録4

図説日本美術史

日本の藝術論

浮世絵全集1、4、5

座右宝刊行 河出書房

建築

平城宮跡 (埋蔵文化財発掘調査報告5)

重文岡山城月見櫓修理工事報告書

文化財保護委員会

写楽

吉田 映二 美術出版社

北斎

織田 一磨 創元社

中国の名画

小野 勝年 平凡社

高句麗の壁画

北野 正男 熊谷 宣夫

楊州八怪

西域 小林太市郎

唐宋の人物画

嶺南田 鈴木 敬

敦煌

長広 敏雄

漢代の絵画

水野 清一 岩波書店

山水画—中国—(岩波写真文庫)

美術研究所 便利堂

梁楷

監修 松下 隆章

梁楷・牧谿・玉潤

鈴木 敬 聚楽社

書道

西川 寧 毎日新聞社

定本書道全集18

河出書房

書道全集 5中国南北朝I 8中国唐II 19日本鎌倉II 25日本明治・大正

平凡社

書跡

影刻

日本彫刻図録

雲岡石窟15、16

坂本 万七 朝日新聞社

麦積山石窟

水野 清一 京大人文科学研究所

麦積山(岩波写真文庫)

名取洋之助 岩波書店

インドの石窟彫刻—インドの藝術2—(座右宝美術叢書6)

阿部 展也 河出書房新社

町田 甲一

胆沢城跡—水沢市所在—(文化財調査報告4)

奈良時代僧房の研究 (奈良国立文化財研究所学報)

重文不動院鐘樓修理工事報告書

重文高松城二之丸、月見櫓、統櫓、渡櫓、水手御門修理工事報告書

重文高知城天守修理工事報告書

源実朝供養塔考

塔のある風景

古塔巡礼 (アサヒ写真ブック)

同修理委員会

日本の工藝 (角川写真文庫)

美と工藝1—6

世界陶磁全集2 奈良・平安・鎌倉・室町篇

朝日新聞社

陶器全集 10 唐宋の青磁

朝日新聞社

東洋古陶磁 中近東・東南アジア篇 朝鮮篇

朝日新聞社

丹波の古窯

岩手県教育委員会

同氏遺稿刊行会

奈良国立文化財研究所

同修理委員会

同修理委員会

工藝通論

工藝 (原色版美術ライブラリー)

日本の工藝 (角川写真文庫)

工藝通論

工藝 (原色版美術ライブラリー)

工藝 (原色版美術ライブラリー)

工藝通論

工藝 (原色版美術ライブラリー)

日本の工藝 (角川写真文庫)

美と工藝1—6

世界陶磁全集2 奈良・平安・鎌倉・室町篇

陶器全集 10 唐宋の青磁

東洋古陶磁 中近東・東南アジア篇 朝鮮篇

丹波の古窯

胆沢城跡—水沢市所在—(文化財調査報告4)

源実朝供養塔考

塔のある風景

古塔巡礼 (アサヒ写真ブック)

柿右衛門

柿右衛門調査委員会編

金華堂

日本歴史大辞典6・7

鑄金近代史稿

嶋木久寿弥

鑄金家協会

国史文獻解題

遠藤元男
下村富士男

河出書房
朝倉書房

古鏡

保坂三郎
龍村謙

創元社
毎日新聞社

考古学

埋蔵文化財要覧1

日本考古学協会編

文化財保護委員会

図説日本文化史大系2
飛鳥時代5 平安時代下
6 鎌倉時代7 室町時代
10 江戸時代下 12 大正昭和時代

石田一良

小学館

日本考古学年報5

立大文学部
史学研究室

誠文堂新光社
日本評論社

大日本史料 五ノ二十・
七ノ十五・九ノ十二・十
一ノ十

東大出版会

栗原

大境洞窟遺跡と朝日貝塚

富山県水見市
文化財保護課

大日本古史文書 家わけ二
十 東福寺文書之二 幕末
外国関係文書之二十七

史料編纂所

東大出版会

蜷塚遺跡—その第一次発掘調査—

澄田正一
大参 義一

名大考古学研
究室

史料綜覧16

岩波書店

那須八幡塚

三木文雄
村井 崑雄

吉川弘文館

大日本古記録 後二条師
通記中 上并寛兼日記下
梅津政景日記四

岩波書店

古墳調査報告書 2

石川県考古
学研究会

石川県図書館
協会

平安遺文 8・9

東京堂

県下の貝塚と古墳

秋田県教育委
員会

秋田県教育委
員会

竹内理三編
黒板勝美
国史大系編
編輯会

東大出版会

柏子所貝塚

中津市教育委
員会

中津市教育委
員会

宮内庁書陵部蔵、いはで
しのぶ複製

便利堂

大分県中津市植野貝塚調査報告

原田淑人編

毎日新聞社

宮内庁書陵部蔵、いはで
しのぶ複製

便利堂

中国考古の旅

中国古代史
研究会編

東大出版会

抄複製

抄複製

抄複製

抄複製

抄複製

抄複製

抄複製

歴史・其他

世界史大系8 東アジアII

貝塚茂樹編

みすず書房

和泉松尾寺文書(大阪府
文化財調査報告書6)

大阪府教育委
員会

大阪府教育委
員会

大阪府教育委
員会

大阪府教育委
員会

大阪府教育委
員会

大阪府教育委
員会

誠文堂新光社

誠文堂新光社

誠文堂新光社

誠文堂新光社

誠文堂新光社

誠文堂新光社

誠文堂新光社

誠文堂新光社

附

録

便

覧

(昭和三十三年一月現在)

最近、電話局の新設、編成替え等が多く、記載電話の局名、番号に尚多少変動があることと思ひます。御了承下さい。

美術関係法規

文化財保護法(昭和二十五年五月三十日 法律第二百一十四号)

沿革

昭和二十六年二月二十四日法律第三一八号、二十七年七月三十一日第二七二号、二十八年八月一日第一九四号、一五日第一一三三号、二十九年五月二十九日第一三〇号、三〇年六月二日第一四八号、三〇日第一六三三号改正

文化財保護法をここに公布する。

文化財保護法

目次

第一章 総則(第一条—第四条)

第二章 文化財保護委員会

第一節 総則(第五条—第十五条)

第二節 事務局(第十六条—第十九条)

第三節 附属機関及び事務局出張所(第二十条—第二十四条)

第四節 職員(第二十五条—第二十六条)

第三章 有形文化財

第一節 重要文化財(第二十七条—第五十六条)

第一款 指定(第二十七条—第二十九条)

第二款 管理(第三十条—第三十四条)

第三款 保護(第三十四条の二—第四十七条)

第四款 公開(第四十七条の二—)

美術関係法規

第五十三款 調査(第五十四条—第五十五条)

第六款 雑則(第五十六条)

第二節 重要文化財以外の有形文化財(第五十六条の二)

第三章の二 無形文化財(第五十六条の三—第五十六条の九)

第四章 埋蔵文化財(第五十七条—第六十八条)

第五章 史跡名勝天然記念物(第六十九条—第八十四条)

第六章 補則

第一節 聴聞及び異議の申立(第八十五条—第八十五条の九)

第二節 国に関する特例(第八十六条—第九十七条)

第三節 地方公共団体及び教育委員会(第九十八条—第一百五十二条)

第七款 罰則(第六十六条—第一百二十条)

附則(第一百三十三条—第一百三十三条)

第一章 総則

(この法律の目的)

第一条 この法律は、文化財を保存し、且つ、その活用を図り、もつて国民の文化的向上に資するとともに、世界文化の進歩に貢献することを目的とする。

(文化財の定義)

第二条 この法律で「文化財」とは、左に掲げるものをいう。

一 建造物、絵画、彫刻、工芸品、書跡、典籍、古文書その他の有形の文化的所産でわが国にとつて歴史上又は藝術上価値の高いもの及び考古資料(以下「有形文化財」という。)

二 演劇、音楽、工芸技術その他の無形の文化的所産でわが国にとつて歴史上又は芸術上価値の高いもの(以下「無形文化財」という。)

三 衣食住、生業、信仰、年中行事等に関する風俗慣習及びこれに用いられる衣服、器具、家屋その他の物件でわが国民の生活の推移の理解のため欠くことのできないもの(以下「民俗資料」という。)

四 貝づか、古墳、都城跡、城跡、旧宅その他の遺跡でわが国にとつて歴史上又は芸術上価値の高いもの、庭園、橋りょう、峡谷、海浜、山岳その他の名勝地でわが国にとつて芸術上又は観賞上価値の高いもの並びに動物(生息地、繁殖地及び渡来地を含む)、植物(自生地を含む)及び地質鉱物(特異な自然の現象の生じている土地を含む)でわが国にとつて學術上価値の高いもの(以下「記念物」という。)

2 この法律の規定(第二十一条第二項第一号、第二十七条から第二十九条まで、第三十七条、第五十六条、第一項第四号、第八十八条、第九十四条及び第九十五条の規定を除く。)中「重要文化財」には、国宝を含むものとする。

3 この法律の規定(第二十一条第二項第十五号及び第十六号、第六十九条、第七十条、第七十一条、第七十七条、第八十三条第一項第四号、第八十八条並びに第九十四条の規定を除く。)中「史跡名勝天然記念物」には、特別史跡名勝天然記念物を含むものとする。

(政府及び地方公共団体の任務)

第三条 政府及び地方公共団体は、文化財がわが国の歴史、文化等の正しい理解のため欠くことのできないものであり、且つ、将来の文化の向上発展の基礎をなすものであることを認識し、その保存が適切に行われるように、周到の注意をもつてこの法律の趣旨の徹底に努めなければならない。

(国民、所有者等の心構)

第四条 一般国民は、政府及び地方公共団体がこの法律の目的を達成するために行う措置に誠実に協力しなければならない。

2 文化財の所有者その他の関係者は、文化財が貴重な国民的財産であることを自覚し、これを公共のために大切に保存するとともに、できるだけこれを公開する等その文化的活用に努めなければならない。

3 政府及び地方公共団体は、この法律の執行に当つて関係者の所有権その他の財産権を尊重しなければならない。

第二章 文化財保護委員会

第一節 総則

211

第五條 国家行政組織法（昭和二十三年法律第二十号）第三條第二項の規定に基いて、文部省の外局として、文化財保護委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

2 委員会の委員は、独立してその職権を行う。

（任務）

第六條 委員会は、文化財の保存及び活用、文化財に関する調査研究その他第一條の目的を達成するため必要な事務を行うことを任務とする。

（権限）

第七條 委員会は、その所掌事務を遂行するため、左に掲げる権限を有する。但し、その権限の行使は、法律（これに基く命令を含む。）に従つてなされなければならない。

- 一 予算の範囲内で、所掌事務の遂行に必要な支出負担行為をすること。
- 二 収入金を徴収し、所掌事務の遂行に必要な支払をすること。
- 三 所掌事務の遂行に直接必要な事務所の施設を設置し、及び管理すること。
- 四 所掌事務の遂行に直接必要な業務用資材、図書その他研究用資材、事務用品等を調達すること。
- 五 職員の任免及び賞罰を行い、その他職員の人事を管理すること。
- 六 職員の厚生及び保健のため必要な施設をなし、及び管理すること。
- 七 所掌事務の監察を行い、法令の定めるところに従い、必要な措置をとること。

八 所掌事務の周知宣伝を行うこと。

九 委員会の公印を制定すること。

十 広く利用に供する適当な記録を整備すること。

十一 所掌事務に係る公益法人について許可若しくは認可を与え、又はその許可を取り消すこと。

十二 所掌事務に関する国庫支出金を割り当て、配分すること。

十三 所掌事務に関する物資の確保について援助すること。

十四 所掌事務に関する統計調査の資料及び結果を収集し、解釈し、及び刊行頒布すること。

十五 所掌事務に関する国家的又は国際的関心のある題目について会議、研究会、討論会等を主催すること。

十六 文化財の保護に関する法令案を作成すること。

十七 前各号に掲げるものの外、法律（これに基く命令を含む。）に基き委員会に属せしめられた権限

2 委員会は、その権限の行使に當つて、法律（法律に基く命令を含む。）に別段の定めがある場合を除いては、行政上及び運営上の監督を行わないものとす

（構成）

第八條 委員会は、五人の委員をもつて組織する。

（委員の任命及び欠格事由）

- 1 第九條 委員は、文化に関し高い識見を有する者のうちから両議院の同意を経て、文部大臣が任命する。
- 2 左の各号の一に該当する者は、委員となることができない。
 - 一 禁治産者若しくは準禁治産者又は破産者で復権を得ない者
 - 二 禁こ以上の刑に処せられた者
- 3 委員は、そのうち三人以上が同一政党に属する者となることとなつてはならない。
- 4 委員（委員長である委員を除く。）は、非常勤とする。

（委員の任期）

第十條 委員の任期は、三年とする。但し、補欠の委員は、前任者の残任期間在任する。

2 委員は、再任されることが出来る。

3 第一項の規定にかかわらず委員は、国会の閉会又は衆議院の解散の場合に任期が満了したときは、その後最初に召集された国会において両議院の同意を経て文部大臣が委員を任命するまでの間、なお在任するものとする。

（委員の失職及び罷免）

第十一條 委員は、第九條第二項各号の一に該当するに至つた場合及び既に委員中二人が所属している政党にあらたに所属するに至つた場合においては、その職を失う。

2 文部大臣は、委員が心身の故障のため職務の執行ができないと認める場合

又は委員に職務上の業務違反その他委員たるに適しない行為があると認める場合においては、両議院の同意を経て、これを罷免することができる。

3 文部大臣は、両議院の同意を経て、左に掲げる委員を罷免する。

一 委員中何人も所属していないかつた一の政党にあらたに三人以上の委員が所属するに至つた場合、これらの者のうち二人をこえる員数の委員

二 委員中一人が既に所属している政党にあらたに二人以上の委員が所属するに至つた場合、これらの者のうち一人をこえる員数の委員

4 両議院は、前項各号に規定する事実があると認めるときは、同項各号の規定により罷免すべき員数の委員の罷免の同意を与えるべきものとする。

5 国会の閉会又は衆議院の解散のため、第二項又は第三項の規定による罷免につき両議院の同意を経ることができないときは、その後最初に召集された国会において両議院の承認を得れば足りる。

（委員長）

第十二條 委員会に委員長を置く。委員長は、委員の互選により定める。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 委員会は、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときにその職務を代表する委員を、あらかじめ、定めて置かなければならない。

(委員の給与)

第十三条 委員長及び委員は、別に法律の定めるところにより相当額の給与を受ける。

(会議)

第十四条 委員会は、委員長が招集する。二人以上の委員から請求があるときは、委員長は、委員会を招集しなければならぬ。

2 委員会は、委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(文化財保護委員会規則)

第十五条 委員会は、法律（これに基く政令を含む。）で特に定める場合の外、その権限に属する事項を執行するため必要な手続について、文化財保護委員会規則（以下「委員会規則」という。）を定めることができる。

2 委員会規則は、官報で公布する。

第二節 事務局

第十六条 委員会に、その所掌事務を遂行するため、国家行政組織法第七条第四項の規定に従い、事務局を置く。

第十七条及び第十八条 削除

(事務局長及び次長)

第十九条 委員会の事務局に事務局長及び次長一人を置く。

2 事務局長は、委員長の指揮監督を受けて事務局の事務を掌理し、所属職員

を指揮監督する。

3 次長は、事務局長を助け、事務局の事務を整理する。

第三節 附属機関及び事務局出張所

張所

(附属機関)

第二十条 委員会の附属機関として、文化財専門審議会、国立博物館及び国立文化財研究所を置く。

(文化財専門審議会)

第二十一条 文化財専門審議会は、委員会の諮問に応じて文化財の保存及び活用に關する専門的及び技術的事項を調査審議し、且つ、これらの事項に關し必要と認める事項を委員会に建議する。

2 委員会は、左に掲げる事項については、あらかじめ、文化財専門審議会に諮問しなければならない。

- 一 国宝又は重要文化財の指定及びその指定の解除
- 二 重要文化財の管理又は国宝の修理に關する命令
- 三 委員会による国宝の修理又は滅失、き損若しくは盗難の防止の措置の施行
- 四 重要文化財の現状変更又は輸出の許可
- 五 重要文化財の環境保全のための制限若しくは禁止又は必要な施設の命令
- 六 重要文化財の買取
- 七 重要無形文化財の指定及びその指

定の解除

八 重要無形文化財の保持者の認定及びその認定の解除

九 重要無形文化財以外の無形文化財のうち委員会が記録を作成すべきもの又は記録の作成等につき補助すべきもの選択

十 重要民俗資料の指定及びその指定の解除

十一 重要民俗資料の管理に關する命令

十二 重要民俗資料の買取

十三 無形の民俗資料のうち委員会が記録を作成すべきもの又は記録の作成等につき補助すべきもの選択

十四 委員会による埋蔵文化財の調査のための発掘の施行

十五 特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物の指定及びその指定の解除

十六 史跡名勝天然記念物の仮指定の解除

十七 史跡名勝天然記念物の管理又は特別史跡名勝天然記念物の復旧に關する命令

十八 委員会による特別史跡名勝天然記念物の復旧又は滅失、き損、喪失若しくは盗難の防止の措置の施行

十九 史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可

二十 史跡名勝天然記念物の環境保全のための制限若しくは禁止又は必要な施設の命令

二十一 史跡名勝天然記念物の現状変更等を許可を受けず、若しくはその許可の条件に従わない場合又は史跡名勝天然記念物の環境保全のための制限若しくは禁止に違反した場合の原状回復の命令

二十二 重要文化財の現状変更若しくは史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可又はその許可の取消の権限の都道府県の教育委員会への委任

3 委員会は、前項各号に掲げる事項の外、文化財の保存又は活用に關する専門的又は技術的事項で重要と認めるものについては、文化財専門審議会に諮問するものとする。

4 前三項の規定により所掌する事項を分掌させるため、文化財専門審議会に分科会を置く。

5 文化財専門審議会及びその分科会の組織及び所掌事務並びに専門委員、臨時専門委員その他の職員については、他の法律（これに基く命令を含む。）に特別の定がある場合を除く外、政令で定める。

(国立博物館)

第二十二條 国立博物館は、有形文化財を収集し、保管して公衆の観覧に供し、あわせてこれに關連する事業を行う。

2 国立博物館の名称及び位置は、左の通りとする。

名	称	位	置
東京国立博物館		東京	都
京都国立博物館		京	都
奈良国立博物館		奈	良

3 国立博物館の内部組織は、委員会規則で定める。

(国立文化財研究所)

第二十三条 国立文化財研究所は、文化財に関する調査研究、資料の作成及びその公表を行う。

2 国立文化財研究所の名称及び位置は、左の通りとする。

名	称	位	置
東京国立文化財研究所		東京	都
奈良国立文化財研究所		奈	良

3 国立文化財研究所には、支所を置くことができる。

4 国立文化財研究所及びその支所の内部組織は、委員会規則で定める。

(事務局出張所)

第二十四条 委員会は、その所掌事務の一部を分掌させるため、所要の地に事務局出張所を設置することができる。

その名称、位置、所掌事務の範囲は、委員会規則で定める。

第四節 職員

(職員)

第二十五条 委員会に置かれる職員の任免、昇任、懲戒その他人事管理に關す

る事務については、国家公務員法(昭和二十二年法律第二十号)及びその特例に關して規定する法律の定めるところによる。

(定員)

第二十六条 委員会に置かれる職員の定員は、別に法律で定める。

第三章 有形文化財

第一節 重要文化財

第一款 指定

(指定)

第二十七条 委員会は、有形文化財のうち重要なものを重要文化財に指定することができる。

2 委員会は、重要文化財のうち世界文化の見地から価値の高いもので、たぐいしない国民の宝たるものを国宝に指定することができる。

(告示、通知及び指定書の交付)

第二十八条 前条の規定による指定は、その旨を官報で告示するとともに、当該国宝又は重要文化財の所有者に通知してする。

2 前条の規定による指定は、前項の規定による官報の告示があつた日からその効力を生ずる。但し、当該国宝又は重要文化財の所有者に対しては、同項の規定による通知が当該所有者に到達した時からその効力を生ずる。

3 前条の規定による指定をしたときは、委員会は、当該国宝又は重要文化財の所有者に指定書を交付しなければならぬ。

4 指定書に記載すべき事項その他指定書に關し必要な事項は、委員会規則で定める。

5 第三項の規定により国宝の指定書の交付を受けたときは、所有者は、三十日以内に国宝に指定された重要文化財の指定書を委員会に返付しなければならない。

(解除)

第二十九条 国宝又は重要文化財が国宝又は重要文化財としての価値を失つた場合その他特殊の事由があるときは、委員会は、国宝又は重要文化財の指定を解除することができる。

2 前項の規定による指定の解除は、その旨を官報で告示するとともに、当該国宝又は重要文化財の所有者に通知してする。

3 第一項の規定による指定の解除には、前条第二項の規定を準用する。

4 第二項の通知を受けたときは、所有者は、三十日以内に指定書を委員会に返付しなければならない。

5 第一項の規定により国宝の指定を解除した場合において当該有形文化財につき重要文化財の指定を解除しないときは、委員会は、直ちに重要文化財の指定書を所有者に交付しなければならない。

第二款 管理

(管理方法の指示)

第三十条 委員会は、重要文化財の所有者に対し、重要文化財の管理に關し必

要な指示をすることができる。
(所有者の管理義務及び管理責任者)
第三十一条 重要文化財の所有者は、この法律並びにこれに基いて発する委員会規則及び委員会の指示に従い、重要文化財を管理しなければならない。

2 重要文化財の所有者は、特別の事情があるときは、適当な者をもつばら自己に代り当該重要文化財の管理の責に任ずべき者(以下この節及び第六章において「管理責任者」という)に選任することができる。

3 前項の規定により管理責任者を選任したときは、重要文化財の所有者は、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、当該管理責任者と連署の上二十日以内に委員会に届け出なければならない。管理責任者を解任した場合も同様とする。

4 管理責任者には、前条及び第一項の規定を準用する。

(所有者又は管理責任者の変更)

第三十二条 重要文化財の所有者が変更したときは、新所有者は、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、且つ、旧所有者に対し交付された指定書を添えて、二十日以内に委員会に届け出なければならない。

2 重要文化財の所有者は、管理責任者を変更したときは、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、新管理責任者と連署の上二十日以内に委員会に届け出なければならない。この場

合には、前条第三項の規定は、適用しない。

3 重要文化財の所有者又は管理責任者は、その氏名若しくは名称又は住所を変更したときは、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、二十日以内に委員会に届け出なければならぬ。氏名若しくは名称又は住所の変更が重要文化財の所有者に係るときは、届出の際指定書を添えなければならぬ。

(管理団体による管理)

第三十二条の二 重要文化財につき、所有者が判明しない場合又は所有者若しくは管理責任者による管理が著しく困難若しくは不適当であると明らかに認められる場合には、委員会は、適当な地方公共団体その他の法人を指定して、当該重要文化財の保存のために必要な管理(当該重要文化財の保存のため必要な施設、設備その他の物件で当該重要文化財の所有者の所有又は管理に属するものの管理を含む)を行わせることができる。

2 前項の規定による指定をするには、委員会は、あらかじめ、当該重要文化財の所有者(所有者が判明しない場合を除く)及び権原に基づく占有者並びに指定しようとする地方公共団体その他の法人の同意を得なければならない。

3 第一項の規定による指定は、その旨を官報で告示するとともに、前項に規定する所有者、占有者及び地方公共団

体その他の法人に通知してする。

4 第一項の規定による指定には、第二十八條第二項の規定を準用する。

5 重要文化財の所有者又は占有者は、正当な理由がなくて、第一項の規定による指定を受けた地方公共団体その他の法人(以下この節及び第六章において「管理団体」という。)が行う管理又はその管理のために必要な措置を拒み、妨げ、又は忌避してはならない。

6 管理団体には、第三十條及び第三十條第一項の規定を準用する。

第三十二条の三 前条第一項に規定する事由が消滅した場合その他特殊の事由があるときは、委員会は、管理団体の指定を解除することができる。

2 前項の規定による解除には、前条第三項及び第二十八條第二項の規定を準用する。

第三十二条の四 管理団体が行う管理に要する費用は、この法律に特別の定めのある場合を除いて、管理団体の負担とする。

2 前項の規定は、管理団体と所有者との協議により、管理団体が行う管理に より所有者の受ける利益の限度において、管理に要する費用の一部を所有者の負担とすることを妨げるものではない。

(滅失、き損等)

第三十三條 重要文化財の全部又は一部が滅失し、若しくはき損し、又はこれが亡失し、若しくは盗み取られたとき

は、所有者(管理責任者又は管理団体がある場合は、その者)は、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、その事実を知つた日から十日以内に委員会に届け出なければならない。

(所在の変更)

第三十四條 重要文化財の所在の場所を変更しようとするときは、重要文化財の所有者(管理責任者又は管理団体がある場合は、その者)は、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、且つ、指定書を添えて、所在の場所を変更しようとする日の二十日前までに委員会に届け出なければならない。但し、委員会規則の定める場合には、届出を要せず、若しくは届出の際指定書の添付を要せず、又は委員会規則の定めるところにより所在の場所を変更した後届け出ることをもつて足りる。

第三款 保護

(修理)

第三十四条の二 重要文化財の修理は、所有者が行うものとする。但し、管理団体がある場合は、管理団体が行うものとする。

(管理団体による修理)

第三十四条の三 管理団体が修理を行う場合は、管理団体は、あらかじめ、その修理の方法及び時期について当該重要文化財の所有者(所有者が判明しない場合を除く)及び権原に基づく占有者の意見を聞かなければならない。

2 管理団体が修理を行う場合には、第

三十二條の二第五項及び第三十二條の四の規定を準用する。

(管理又は修理の補助)

第三十五條 重要文化財の管理又は修理につき多額の経費を要し、重要文化財の所有者又は管理団体がその負担に堪えない場合その他特別の事情がある場合には、政府は、その経費の一部に充てさせるため、重要文化財の所有者又は管理団体に対し補助金を交付することができる。

2 前項の補助金を交付する場合には、委員会は、その補助の条件として管理又は修理に關し必要な事項を指示することができる。

3 委員会は、必要があると認めるときは、第一項の補助金を交付する重要文化財の管理又は修理について指揮監督することができる。

(管理に関する命令又は勧告)

第三十六條 重要文化財を管理する者が不適当なため又は管理が適当でないため重要文化財が滅失し、き損し、又は盗み取られる虞があると認めるときは、委員会は、所有者、管理責任者又は管理団体に対し、重要文化財の管理をする者の選任又は変更、管理方法の改善、防火施設その他の保存施設の設置その他管理に關し必要な措置を命じ、又は勧告することができる。

2 前項の規定による命令又は勧告に基いてする措置のために要する費用は、委員会規則の定めるところにより、そ

の全部又は一部を国庫の負担とすることができる。

3 前項の規定により国庫が費用の全部又は一部を負担する場合には、前条第三項の規定を準用する。

(修理に関する命令又は勧告)

第三十七条 委員会は、国宝がき損している場合において、その保存のため必要があると認めるときは、所有者又は管理団体に対し、その修理について必要な命令又は勧告をすることができ

2 委員会は、国宝以外の重要文化財がき損している場合において、その保存のため必要があると認めるときは、所有者又は管理団体に対し、その修理について必要な勧告をすることができ

3 前二項規定による命令又は勧告に基いてする修理のために要する費用は、委員会規則の定めるところにより、その全部又は一部を国庫の負担とすることができ

4 前項の規定により国庫が費用の全部又は一部を負担する場合には、第三十五条第三項の規定を準用する。

(委員会による国宝の修理等の施行)

第三十八条 委員会は、左の各号の一に該当する場合においては、国宝につき自ら修理を行い、又は滅失、き損若しくは盗難の防止の措置をすることができ

1 所有者、管理責任者又は管理団体

が前二条の規定による命令に従わないとき。

2 国宝がき損している場合又は滅失し、き損し、若しくは盗み取られる虞がある場合において、所有者、管理責任者又は管理団体に修理又は滅失、き損若しくは盗難の防止の措置をさせることが適当でないとき認められるとき。

2 前項の規定による修理又は措置をしようとするときは、委員会は、あらかじめ、所有者、管理責任者又は管理団体に対し、当該国宝の名称、修理又は措置の内容、着手の時期その他必要と認める事項を記載した令書を交付するとともに、権原に基く占有者にこれらの事項を通知しなければならない。

第三十九条 委員会は、前条第一項の規定による修理又は措置をするときは、その職員のうちから、当該修理又は措置の施行及び当該国宝の管理の責に任ずべき者を定めなければならない。

2 前項の規定により責に任ずべき者と定められた者は、当該修理又は措置の施行に当るときは、その身分を証明する証票を携帯し、関係者の請求があつたときは、これを示し、且つ、その正当な意見を十分に尊重しなければならない。

3 前条第一項の規定による修理又は措置の施行には、第三十二条の二第五項の規定を準用する。

第四十条 第三十八条第一項の規定によ

る修理又は措置のために要する費用は、国庫の負担とする。

2 委員会は、委員会規則の定めるところにより、第三十八条第一項の規定による修理又は措置のために要した費用の一部を所有者(管理団体がある場合は、その者)から徴収することができ

3 前項の規定による徴収については、行政代執行法(昭和二十三年法律第四十三号)第五条から第七条までの規定を準用する。

第四十一条 第三十八条第一項の規定による修理又は措置によつて損害を受けた者に対しては、政府は、その通常生ずべき損害を補償する。

2 前項の規定による補償額に不服のある者は、訴をもつてその増額を請求することができる。但し、前項の補償の決定の通知を受けた日から六箇月を経過したときは、この限りでない。

(補助等に係る重要文化財譲渡の場合の納付金)

第四十二条 国が修理又は滅失、き損若しくは盗難の防止の措置(以下この条において、「修理等」という。)につき第三十五条第一項の規定により補助金を交付し、又は第三十六条第二項、第三

十七条第三項若しくは第四十条第一項の規定により費用を負担した重要文化財のその当時における所有者又はその相続人、受遺者若しくは受贈者(第二次以下の相続人、受遺者又は受贈者を含む。以下この条において同じ。)(以下この条において、「所有者等」という。)

は、補助又は費用負担に係る修理等が行われた後当該重要文化財を有償で譲り渡した場合においては、当該補助金又は負担金の額(第四十条第一項の規定による負担金については、同条第二項の規定により所有者から徴収した部分を控除した額をいう。以下この条において同じ。)

の合計額から当該修理等が行われた後重要文化財の修理等のため自己の費した金額を控除して得た金額(以下この条において、「納付金額」という。)

を、委員会規則の定めるところにより国庫に納付しなければならない。

2 前項に規定する「補助金又は負担金の額」とは、補助金又は負担金の額を、補助又は費用負担に係る修理等を施した重要文化財又はその部分につき委員会が個別的に定める耐用年数で除して得た金額に、更に当該耐用年数から修理等を行った時以後重要文化財の譲渡の時までの年数を控除した残余の年数(一年に満たない部分があるときは、これを切り捨てる。)

を乗じて得た金額に相当する金額とする。

3 補助又は費用負担に係る修理等が行

われた後、当該重要文化財が所有者等の責に帰することのできない事由により著しくその価値を減じた場合又は当該重要文化財を国に譲り渡した場合には、委員会は、納付金額の全部又は一部の納付を免除することができる。

4 委員会の指定する期限までに納付金額を完納しないときは、国税滞納処分等の例により、これを徴収することができる。

5 納付金額を納付する者が相続人、受遺者又は受贈者であるときは、第一号に定める相続税額又は贈与税額と第二号に定める額との差額に相当する金額を第三号に定める年数で除して得た金額に第四号に定める年数を乗じて得た金額をその者が納付すべき納付金額から控除するものとする。

一 当該重要文化財の取得につきその者が納付した、又は納付すべき相続税額又は贈与税額

二 前号の相続税額又は贈与税額の計算の基礎となつた課税価格に算入された当該重要文化財又はその部分につき当該相続、遺贈又は贈与の時までに行つた修理等に係る第一項の補助金又は負担金の額の合計額を当該課税価格から控除して得た金額を課税価格として計算した場合に当該重要文化財又はその部分につき納付すべきこととなる相続税額又は贈与税額に相当する額。

三 第二項の規定により当該重要文化

美術関係法規

財又はその部分につき委員会が定めた耐用年数から当該重要文化財又はその部分の修理等を行つた時以後当該重要文化財の相続、遺贈又は贈与の時までの年数を控除した残余の年数（一年に満たない部分があるときは、これを切り捨てる。）

四 第二項に規定する当該重要文化財又はその部分についての残余の耐用年数

6 前項第二号に掲げる第一項の補助金又は負担金の額については、第二項の規定を準用する。この場合において、同項中「譲渡の時」とあるのは、「相続、遺贈又は贈与の時」と読み替へるものとする。

7 第一項の規定により納付金額を納付する者の同項に規定する譲渡に係る所得税法（昭和二十二年法律第二十七号）第九条第八号に規定する譲渡所得の計算については、第一項の規定により納付する金額は、同法第九条第八号に規定する譲渡に関する経費とする。

（現状変更の制限）

第四十三条 重要文化財の現状を変更しようとするときは、委員会の許可を受けなければならない。但し、その維持の措置をする場合は、この限りでない。

2 前項但書に規定する維持の措置の範囲は、委員会規則で定める。

3 委員会は、第一項の許可を与える場合において、その許可の条件として同

項の現状の変更に関し必要な指示をすることができる。

4 第一項の許可を受けた者が前項の許可の条件に従わなかつたときは、委員会は、許可に係る現状の変更の停止を命じ、又は許可を取り消すことができる。

（修理の届出等）

第四十三条の二 重要文化財を修理しようとするときは、所有者又は管理団体は、修理に着手しようとする日の三十日前までに、委員会規則の定めるところにより、委員会にその旨を届け出なければならない。但し、前条第一項の規定により許可を受けなければならない場合その他委員会規則の定める場合は、この限りでない。

2 重要文化財の保護上必要があると認めるときは、委員会は、前項の届出に係る重要文化財の修理に関し技術的な指導と助言を与えることができる。

（輸出の禁止）

第四十四条 重要文化財は、輸出してはならない。但し、委員会が文化の国際的交流その他の事由により特に必要と認めて許可した場合は、この限りでない。

（環境保全）

第四十五条 委員会は、重要文化財の保存のため必要があると認めるときは、地域を定めて一定の行為を制限し、若しくは禁止し、又は必要な施設をすることを命ずることができる。

2 前項の規定による処分によつて損害を受けた者に対しては、政府は、その通常生ずべき損害を補償する。

3 前項の場合には、第四十一条第二項の規定を準用する。

（国に対する売渡の申出）

第四十六条 重要文化財を有償で譲り渡そうとする者は、譲渡の相手方、予定対価の額（予定対価が金銭以外のものであるときは、これを時価を基準として金銭に見積つた額。以下同じ。）その他委員会規則で定める事項を記載した書面をもつて、まず委員会に国に対する売渡の申出をしなければならぬ。但し、当該譲受人に対して特に譲り渡したい特別の事情がある場合において委員会の承認を受けたときは、この限りでない。

2 前項の規定による売渡の申出のあつた後三十日以内に委員会が当該重要文化財を国において買い取るべき旨の通知をしたときは、前項の規定による申出書に記載された予定対価の額に相当する代金で、売買が成立したものとみなす。

3 第一項に規定する者は、前項の期間（その期間内に委員会が当該重要文化財を買い取らない旨の通知をしたときは、その時までの期間）内は、当該重要文化財を譲り渡してはならない。

4 委員会が第一項但書の規定による承認をしない旨の処分をした場合において、その処分不服のある者は、委員

会に対し、異議の申立をすることができ
る。

(管理又は修理の受託又は技術的指導)

第四十七条 重要文化財の所有者(管理団体がある場合は、その者)は、委員会の定める条件により、委員会に重要文化財の管理(管理団体がある場合を除く。)又は修理を委託することができる。

2 委員会は、重要文化財の保存上必要があると認めるときは、所有者(管理団体がある場合は、その者)に対し、条件を示して、委員会にその管理(管理団体がある場合を除く。)又は修理を委託するように勧告することができる。

3 前二項の規定により委員会が管理又は修理の委託を受けた場合には、第三十九条第一項及び第二項の規定を準用する。

4 重要文化財の所有者、管理責任者又は管理団体は、委員会規則の定めるところにより、委員会に重要文化財の管理又は修理に関し技術的指導を求めることができる。

第四款 公開

(公開)

第四十七条の二 重要文化財の公開は、所有者が行うものとする。但し、管理団体がある場合は、管理団体が行うものとする。

2 前項の規定は、所有者又は管理団体の出品に係る重要文化財を、所有者及び管理団体以外の者が、この法律の規

定により行い公開の用に供することを妨げるものではない。

3 管理団体は、その管理する重要文化財を公開する場合には、当該重要文化財につき観覧料を徴収することができる。

(委員会による公開)

第四十八条 委員会は、重要文化財の所有者(管理団体がある場合は、その者)に対し、一年以内の期間を限つて、国立博物館その他の施設において委員会の行い公開の用に供するため重要文化財を出品することを勧告することができる。

2 委員会は、国庫が管理又は修理につき、その費用の全部若しくは一部を負担し、又は補助金を交付した重要文化財の所有者(管理団体がある場合は、その者)に対し、一年以内の期間を限つて、国立博物館その他の施設において委員会の行い公開の用に供するため当該重要文化財を出品することを命ずることができる。

3 委員会は、前項の場合において必要があると認めるときは、一年以内の期間を限つて、出品の期間を更新することができる。但し、引き続き五年をこえてはならない。

4 第二項の命令又は前項の更新があつたときは、重要文化財の所有者又は管理団体は、その重要文化財を出品しなければならぬ。但し、委員会が所有者又は管理団体の申請によりやむを得

ない事由があるものと認める場合は、この限りでない。

5 前四項に規定する場合の外、委員会がある場合は、その者)から国立博物館その他の施設において委員会の行い公開の用に供するため重要文化財を出品したい旨の申出があつた場合において適当と認めるときは、その出品を承認することができる。

第四十九条 委員会は、前条の規定により重要文化財が出品されたときは、第百条に規定する場合を除いて、国立博物館所属の職員その他委員会の職員のうちから、その重要文化財の管理の責に任すべき者を定めなければならない。

第五十条 第四十八条の規定による出品のために要する費用は、委員会規則の定める基準により、国庫の負担とする。

2 政府は、第四十八条の規定により出品した所有者又は管理団体に対し、委員会規則の定める基準により、給与金を支給する。

(所有者等による公開)

第五十一条 委員会は、重要文化財の所有者又は管理団体に対し、三箇月以内の期間を限つて、重要文化財の公開を勧告することができる。

2 委員会は、国庫が管理又は修理につき、その費用の全部若しくは一部を負担し、又は補助金を交付した重要文化財の所有者又は管理団体に対し、三箇

月以内の期間を限つて、その公開を命ずることができる。

3 前項の場合には、第四十八条第四項の規定を準用する。

4 委員会は、重要文化財の所有者又は管理団体に対し、前三項の規定による公開及び当該公開に係る重要文化財の管理に關し必要な指示をすることができる。

5 重要文化財の所有者、管理責任者又は管理団体が前項の指示に従わない場合には、委員会は、公開の停止又は中止を命ずることができる。

6 第二項及び第三項の規定による公開のために要する費用は、委員会規則の定めるところにより、その全部又は一部を国庫の負担とすることができる。

7 前項の規定する場合の外、重要文化財の所有者又は管理団体から、その所有又は管理に係る重要文化財を国庫の費用負担において公開したい旨の申出があつた場合において、委員会が適当と認めてこれを承認したときは、委員会規則の定めるところにより、その公開のために要する費用の全部又は一部を国庫の負担とすることができる。この場合には、第四項及び第五項の規定を準用する。

第五十一条の二 前条の規定による公開の場合を除き、重要文化財の所在の場所を変更してこれを公衆の観覧に供するため第三十四条の規定による届出があつた場合には、前条第四項及び第五

項の規定を準用する。

(損害の補償)

第五十二条 第四十八条又は第五十一条の規定により出品し、又は公開したことに起因して当該重要文化財が滅失し、又はき損したときは、政府は、その重要文化財の所有者に対し、通常生ずべき損害を補償する。但し、重要文化財が所有者、管理責任者又は管理団体の責に帰すべき事由によつて滅失し、又はき損した場合は、この限りでない。

2 前項の場合には、第四十一条第二項の規定を準用する。

(所有者等以外の者による公開)

第五十三条 重要文化財の所有者及び管理団体以外の者がその主催する展覧会その他の催しにおいて重要文化財を公衆の観覧に供しようとするときは、委員会の許可を受けなければならない。但し、あらかじめ、委員会の承認を受けた博物館その他の施設において、委員会以外の国の機関又は地方公共団体が主催する場合は、委員会に届け出ることをもつて足りる。

2 委員会は、前項の許可を与える場合において、その許可の条件として、許可に係る公開及び当該公開に係る重要文化財の管理に関し必要な指示をすることができ。

3 第一項の許可を受けた者が前項の許可の条件に従わなかつたときは、委員会は、許可に係る公開の停止を命じ、

又は許可を取り消すことができる。

第五款 調査

(保存のための調査)

第五十四条 委員会は、必要があると認めるときは、重要文化財の所有者、管理責任者又は管理団体に対し、重要文化財の現状又は管理、修理若しくは環境保全の状況につき報告を求めることができる。

第五十五条 委員会は、左の各号の一に該当する場合において、前条の報告によつてもなお重要文化財に関する状況を確認することができず、且つ、その確認のために方法がないと認めるときは、調査に当る者を定め、その所在する場所に立ち入つてその現状又は管理、修理若しくは環境保全の状況につき実地調査をさせることができる。

一 重要文化財の現状変更の許可の申請があつたとき。

二 重要文化財がき損しているとき又はその現状若しくは所在の場所につき変更があつたとき。

三 重要文化財が滅失し、き損し、又は盗み取られる虞のあるとき。

四 特別の事情によりあらためて国宝又は重要文化財としての価値を鑑査する必要があるとき。

2 前項の規定により立ち入り、調査する場合においては、当該調査に当る者は、その身分を証明する証票を携帯し、関係者の請求があつたときは、これを示し、且つ、その正当な意見を十

分尊重しなければならない。

3 第一項の規定による調査によつて損害を受けた者に対しては、政府は、その通常生ずべき損害を補償する。

4 前項の場合には、第四十一条第二項の規定を準用する。

第六款 雑則

(所有者変更等に伴う権利義務の承継)

第五十六条 重要文化財の所有者が変更したときは、新所有者は、当該重要文化財に関しこの法律に基いてする委員会の命令、勧告、指示その他の処分による旧所有者の権利義務を承継する。

2 前項の場合には、旧所有者は、当該重要文化財の引渡と同時にその指定書を新所有者に引き渡さなければならない。

3 管理団体が指定され、又はその指定が解除された場合には、第一項の規定を準用する。但し、管理団体が指定された場合には、もつぱら所有者に属すべき権利義務については、この限りでない。

第二節 重要文化財以外の有形文化財

(技術的指導)

第五十六条の二 重要文化財以外の有形文化財の所有者は、委員会規則の定めるところにより、委員会に有形文化財の管理又は修理に関し技術的指導を求めることができる。

第三章の二 無形文化財

(重要無形文化財の指定等)

第五十六条の三 委員会は、無形文化財のうち重要なものを重要無形文化財に指定することができる。

2 委員会は、前項の規定による指定をするに当つては、当該重要無形文化財の保持者を認定しなければならない。

3 第一項の規定による指定は、その旨を官報で告示するとともに、当該重要無形文化財の保持者として認定しようとする者に通知してする。

4 委員会は、第一項の規定による指定をした後においても、当該重要無形文化財の保持者として認定するに足りる者があると認めるときは、その者を保持者として追加認定することができる。

5 前項の規定による追加認定には、第三項の規定を準用する。

(重要無形文化財の指定等の解除)

第五十六条の四 重要無形文化財が重要無形文化財としての価値を失つた場合その他特殊の事由があるときは、委員会は、重要無形文化財の指定の解除することができる。

2 保持者が心身の故障のため保持者として適当でなくなつたと認められる場合その他特殊の事由があるときは、委員会は、保持者の認定を解除することができる。

3 第一項の規定による指定の解除又は前項の規定による認定の解除は、その旨を官報で告示するとともに、当該重要無形文化財の保持者に通知してす

る。

4 保持者が死亡したときは、保持者の認定は解除されたものとし、保持者のすべてが死亡したときは、重要無形文化財の指定は解除されたものとする。この場合には、委員会は、その旨を官報で告示しなければならない。

(保持者の氏名変更等)

第五十六条の五 保持者が氏名若しくは住所を変更し、又は死亡したとき、その他委員会規則の定める事由があるときは、保持者又はその相続人は、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、その事由の生じた日(保持者の死亡に係る場合は、相続人がその事実を知つた日)から十日以内に委員会に届け出なければならない。

(重要無形文化財の保存)

第五十六条の六 委員会は、重要無形文化財の保存のため必要があると認めるときは、重要無形文化財について自ら記録の作成、伝承者の養成その他その保存のため適当な措置を行い、又は保持者若しくは地方公共団体その他その保存に当ることを適当と認める者に対し、その保存に要する経費の一部を補助することができる。

2 前項の規定により補助金を交付する場合には、第三十五条第二項及び第三項の規定を準用する。

(重要無形文化財の公開)

第五十六条の七 委員会は、重要無形文化財の保持者に対し重要無形文化財の

公開を、重要無形文化財の記録の所有者に対しその記録の公開を勧告することができ。

2 重要無形文化財の保持者又は重要無形文化財の記録の所有者から、重要無形文化財又は重要無形文化財の記録を国庫の費用負担において公開したい旨の申出があつた場合には、第五十一条第七項の規定を準用する。

3 前項の規定により公開したことに起因して当該重要無形文化財の記録が滅失し、又はき損した場合には、第五十二条の規定を準用する。

(重要無形文化財の保存に関する助言又は勧告)

第五十六条の八 委員会は、重要無形文化財の保持者又は地方公共団体その他その保存に当ることを適当と認める者に対し、重要無形文化財の保存のため必要な助言又は勧告をすることができ。

(重要無形文化財以外の無形文化財の記録の作成等)

第五十六条の九 委員会は、重要無形文化財以外の無形文化財のうち特に必要のあるものを選択して、自らその記録を作成し、保存し、若しくは公開し、又は適当な者に対し、当該無形文化財の公開若しくはその記録の作成、保存若しくは公開に要する経費の一部を補助することができる。

2 前項の規定により補助金を交付する場合には、第三十五条第二項及び第三

項の規定を準用する。

第三章の三 民俗資料

(重要民族資料の指定)

第五十六条の十 委員会は、有形の民俗資料のうち特に重要なものを重要民俗資料に指定することができる。

2 前項の規定による指定には、第二十八条第一項から第四項までの規定を準用する。

(重要民俗資料の指定の解除)

第五十六条の十一 重要民俗資料が重要民俗資料としての価値を失つた場合その他特殊の事由があるときは、委員会は、重要民俗資料の指定を解除することができ。

2 前項の規定による指定の解除には、第二十九条第二項から第四項までの規定を準用する。

(重要民俗資料の管理)

第五十六条の十二 重要民俗資料の管理には、第三十条から第三十四条までの規定を準用する。

(重要民俗資料の保護)

第五十六条の十三 重要民俗資料の現状を変更し、又はこれを輸出しようとする者は、現状を変更し、又は輸出しようとする日の二十日前までに、委員会規則の定めるところにより、委員会にその旨を届け出なければならない。但し、委員会規則の定める場合は、この限りでない。

2 重要民俗資料の保護上必要があると認めるときは、委員会は、前項の届出

に係る重要民俗資料の現状変更又は輸出に關し必要な事項を指示することができる。

第五十六条の十四 重要民俗資料の保護には、第三十四条の二から第三十六条まで、第三十七条第二項から第四項まで、第四十二条、第四十六条及び第四十七条の規定を準用する。

(重要民俗資料の公開)

第五十六条の十五 重要民俗資料の所有者及び管理団体(第五十六条の十二で準用する第三十二条の二第一項の規定による指定を受けた地方公共団体その他の法人をいう。以下この章及び第六章において同じ。)以外の者がその主催する展覧会その他の催しにおいて重要民俗資料を公衆の観覧に供しようとするときは、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、観覧に供しようとする最初の日の三十日前までに、委員会に届け出なければならない。

2 前項の届出に係る公開には、第五十一条第四項及び第五項の規定を準用する。

第五十六条の十六 重要民俗資料の公開には、第四十七条の二から第五十二条までの規定を準用する。

(重要民族資料の保存のための調査及び所有者変更等に伴う権利義務の承継)

第五十六条の十七 重要民俗資料の保存のための調査には、第五十四条の規定を、重要民俗資料の所有者が変更し、

又は重要民俗資料の管理団体が指定され、若しくはその指定が解除された場合には、第五十六条の規定を準用する。

(無形の民俗資料の記録の作成等)

第五十六条の十八 無形の民俗資料には、第五十六条の九の規定を準用する。

第四章 埋蔵文化財

(発掘に関する届出、指示及び命令)

第五十七条 土地を発掘して埋蔵物である文化財(以下「埋蔵文化財」という。)について調査しようとする者は、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、発掘に着手しようとする日の三十日前までに委員会に届け出なければならぬ。但し、委員会規則の定める場合は、この限りでない。

2 埋蔵文化財の保護上特に必要があると認めるときは、委員会は、前項の届出に係る発掘に関し必要な事項を指示し、又はその発掘の禁止、停止若しくは中止を命ずることができる。

第五十七条の二 土木工事その他埋蔵文化財の調査以外の目的で、貝つか、古墳その他埋蔵文化財を包蔵する土地として周知されている土地を発掘しようとする場合には、前条第一項の規定を準用する。

2 埋蔵文化財の保護上特に必要があると認めるときは、委員会は、前項で準用する前条第一項の届出に係る発掘に関し必要な事項を指示することができる。

る。

(委員会による発掘の施行)

第五十八条 委員会は、埋蔵文化財について調査する必要があると認めるときは、自ら埋蔵文化財を包蔵すると認められる土地の発掘を施行することができる。

2 前項の規定により発掘を自ら施行しようとするときは、委員会は、あらかじめ、当該土地の所有者及び権原に基づく占有者に対し、発掘の目的、方法、着手の時期その他必要と認める事項を記載した令書を交付しなければならない。

3 第一項の場合には、第三十九条及び第四十一条の規定を準用する。

第五十九条 前条第一項の規定による発掘により文化財を発見した場合において、委員会は、当該文化財の所有者が判明しているときはこれを所有者に返還し、所有者が判明しないときは、遺失物法(明治三十二年法律第八十七号)第十三条で準用する同法第一条第一項の規定にかかわらず、警察署長にその旨を通知することをもつて足りる。

2 前項の通知を受けたときは、警察署長は、直ちに当該文化財につき遺失物法第十三条で準用する同法第一条第二項の規定による公告をしなければならない。

(提出)

第六十条 遺失物法第十三条で準用する同法第一条第一項の規定により、埋蔵物として差し出された物件が文化財と

認められるときは、警察署長は、直ちに当該物件を委員会に提出しなければならない。但し、所有者の判明している場合は、この限りでない。

(鑑査)

第六十一条 前条の規定により物件が提出されたときは、委員会は、当該物件が文化財であるかどうかを鑑査しなければならない。

2 委員会は、前項の鑑査の結果当該物件を文化財と認めるときは、その旨を警察署長に通知し、文化財でないと認めるときは、当該物件を警察署長に差し戻さなければならない。

(引渡)

第六十二条 第五十九条第一項又は前条第二項に規定する文化財の所有者から、警察署長に対し、その文化財の返還の請求があつたときは、委員会は、当該警察署長にこれを引き渡さなければならない。

(国庫帰属及び報償金)

第六十三条 第五十九条第一項又は第六十一条第二項に規定する文化財でその所有者が判明しないものの所有権は、国庫に帰属する。この場合において、委員会は、当該文化財の発見者及びその発見された土地の所有者にその旨を通知し、且つ、その価格に相当する額の報償金を支給する。

2 前項に規定する発見者と土地所有者とが異なるときは、前項の報償金は、折半して支給する。

3 前二項の場合には、第四十一条第二項の規定を準用する。

(譲与等)

第六十四条 政府は、前条第一項の規定により国庫に帰属した文化財の保存のため又はその効用から見て国が保有する必要がある場合を除いて、当該文化財の発見者又はその発見された土地の所有者に、その者が前条の規定により受けるべき報償金の額に相当するものの範囲内でこれを譲与することができる。

2 前項の場合には、その譲与した文化財の価格に相当する金額は、前条に規定する報償金の額から控除するものとする。

3 政府は、前条第一項の規定により国庫に帰属した文化財の保存のため又はその効用から見て国が保有する必要がある場合を除いて、当該文化財の発見された土地を管轄する地方公共団体に對し、その申請に基づき、当該文化財を譲与し、又は時価よりも低い対価で譲渡することができる。

(遺失物法の適用)

第六十五条 埋蔵文化財に関しては、この法律に特別の定のある場合の外、遺失物法第十三条の規定の適用があるものとする。

第六十六条から第六十八条まで 削除。

第五章 史跡名勝天然記念物

(指定)
第六十九条 委員会は、記念物のうち重

要なるものを史跡、名勝又は天然記念物（以下「史跡名勝天然記念物」と総称する。）に指定することができる。

2 委員会は、前項の規定により指定された史跡名勝天然記念物のうち特に重要なものを特別史跡、特別名勝又は特別天然記念物（以下「特別史跡名勝天然記念物」と総称する。）に指定することができる。

3 前二項の規定による指定は、その旨を官報で告示するとともに、当該特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物の所有者及び権原に基づく占有者に通知してする。

4 前項の規定により通知すべき相手方が著しく多数で個別に通知し難い事情がある場合には、委員会は、同項の規定による通知に代えて、その通知すべき事項を当該特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物の所在地の市町村の事務所又はこれに準ずる施設の揭示場に揭示することができる。この場合においては、その揭示を始めた日から二週間を経過した時に前項の規定による通知が相手方に到達したものとみなす。

5 第一項又は第二項の規定による指定は、第三項の規定による官報の告示があつた日からその効力を生ずる。但し、当該特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物の所有者又は権原に基づく占有者に対しては、第三項の規定による通知が到達した時又は前項の

規定によりその通知が到達したものとみなされる時からその効力を生ずる（仮指定）

第七十条 前条第一項の規定による規定前において緊急の必要があると認めるときは、都道府県の教育委員会は、史跡名勝天然記念物の仮指定を行うことができる。

2 前項の規定により仮指定を行つたときは、都道府県の教育委員会は、直ちにその旨を委員会に報告しなければならない。

3 第一項の規定による仮指定には、前条第三項から第五項までの規定を準用する。

（所有権等の尊重及び他の公益との調整）

第七十条の二 委員会又は都道府県の教育委員会は、第六十九条第一項若しくは第二項の規定による指定又は前条第一項の規定による仮指定を行うに当つては、特に、関係者の所有権、鉱業権その他の財産権を尊重するとともに、国土の開発その他の公益との調整に留意しなければならない。

（解除）

第七十一条 特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物がその価値を失つた場合その他特殊の事由のあるときは、委員会又は都道府県の教育委員会は、その指定又は仮指定を解除することができる。

2 第七十条第一項の規定により仮指定

された史跡名勝天然記念物につき第六十九条第一項の規定による指定があつたとき、又は仮指定があつた日から二年内に同条同項の規定による指定がなかつたときは、仮指定は、その効力を失う。

3 第七十条第一項の規定による仮指定が適当でないとき認めるときは、委員会はこの旨を告示することができる。

4 第一項又は前項の規定による指定又は仮指定の解除には、第六十九条第三項から第五項までの規定を準用する。

（管理団体による管理及び復旧）

第七十一条の二 史跡名勝天然記念物につき、所有者がない若しくは判明しない場合又は所有者若しくは第七十四条第二項の規定により選任された管理の責に任ずべき者による管理が著しく困難若しくは不適當であると明らかに認められる場合には、委員会は、適当な地方公共団体その他の法人を指定して、当該史跡名勝天然記念物の保存のために必要な管理及び復旧（当該史跡名勝天然記念物の保存のために必要な施設、設備その他の物件で当該史跡名勝天然記念物の所有者の所有又は管理に属するものの管理及び復旧を含む。）を行わせることができる。

2 前項の規定による指定をするには、委員会は、あらかじめ、指定しようとする地方公共団体その他の法人の同意を得なければならない。

3 第一項の規定による指定は、その旨

を官報で告示するとともに、当該史跡名勝天然記念物の所有者及び権原に基づく占有者並びに指定しようとする地方公共団体、その他の法人に通知してする。

4 第一項の規定による指定には、第六十九条第四項及び第五項の規定を準用する。

第七十一条の三 前条第一項に規定する事由が消滅した場合その他特殊の事由があるときは、委員会は、管理団体の指定を解除することができる。

2 前項の規定による解除には、前条第三項並びに第六十九条第四項及び第五項の規定を準用する。

第七十二条 第七十一条の二第一項の規定による指定を受けた地方公共団体その他の法人（以下この章及び第六章において「管理団体」という。）は、委員会規則の定める基準により、史跡名勝天然記念物の管理に必要な標識、説明板、境界板、囲さくその他の施設を設置しなければならない。

2 史跡名勝天然記念物の指定地域内の土地について、その土地の所在、地番、地目又は地積に異動があつたときは、管理団体は、委員会規則の定めるところにより、委員会にその旨を届け出なければならない。

3 管理団体が復旧を行う場合は、管理団体は、あらかじめ、その復旧の方法及び時期について当該史跡名勝天然記念物の所有者（所有者が判明しない場

合を除く。及び権原に基く占有者の意見を聞かなければならない。

4 史跡名勝天然記念物の所有者又は占有者は、正当な理由がなくて、管理団体が行う管理若しくは復旧又はその管理若しくは復旧のため必要な措置を拒み、妨げ、又は忌避してはならない。

第七十二条の二 管理団体が行う管理及び復旧に要する費用は、この法律に特別の定のある場合を除いて、管理団体の負担とする。

2 前項の規定は、管理団体と所有者との協議により、管理団体が行う管理又は復旧により所有者の受ける利益の限度において、管理又は復旧に要する費用の一部を所有者の負担とすることを妨げるものではない。

3 管理団体は、その管理する史跡名勝天然記念物につき観覧料を徴収することができる。

第七十三条 管理団体が行う管理又は復旧によつて損害を受けた者に対しては、当該管理団体は、その通常生ずべき損害を補償しなければならない。

2 前項の場合には、第四十一条第二項の規定を準用する。

第七十三条の二 管理団体が行う管理には、第三十条、第三十一条第一項及び第三十三条の規定を、管理団体が行う管理及び復旧には、第三十五条及び第四十七条の規定を、管理団体が指定され、又はその指定が解除された場合には、第五十六条第三項の規定を準用す

る。

(所有者による管理及び復旧)

第七十四条 管理団体がある場合を除いて、史跡名勝天然記念物の所有者は、当該史跡名勝天然記念物の管理及び復旧に当るものとする。

2 前項の規定により史跡名勝天然記念物の管理に当る所有者は、特別の事情があるときは、適当な者をもつば自己に代り当該史跡名勝天然記念物の管理の責に任ずべき者(以下この章及び第六章において「管理責任者」という)に選任することができる。この場合には、第三十一条第三項の規定を準用する。

第七十五条 所有者が行う管理には、第三十条、第三十一条第一項、第三十二条、第三十三条並びに第七十二条第一項及び第二項(同条第二項については、管理責任者があつた場合を除く。)の規定を、所有者が行う管理及び復旧には、第三十五条及び第四十七条の規定を、所有者が変更した場合の権利義務の承継には、第五十六条第一項の規定を、管理責任者が行う管理には、第三十条、第三十一条第一項、第三十二条第三項、第三十三条、第四十七条第四項及び第七十二条第二項の規定を準用する。

(管理に関する命令又は勧告)

第七十六条 管理が適当でないため史跡名勝天然記念物が滅失し、き損し、喪失し、又は盗み取られる虞があると認め

めるときは、委員会は、管理団体、所有者又は管理責任者に対し、管理方法の改善、保存施設の設置その他管理に關し必要な措置を命じ、又は勧告することができる。

2 前項の場合には、第三十六条第二項及び第三項の規定を準用する。

(復旧に関する命令又は勧告)

第七十七条 委員会は、特別史跡名勝天然記念物がき損し、又は喪失している場合において、その保存のため必要があると認めるときは、管理団体又は所有者に対し、その復旧について必要な命令又は勧告をすることができる。

2 委員会は、特別史跡名勝天然記念物以外の史跡名勝天然記念物が、き損し、又は喪失している場合において、その保存のため必要があると認めるときは、管理団体又は所有者に対し、その復旧について必要な勧告をすることができる。

3 前二項の場合には、第三十七条第三項及び第四項の規定を準用する。

(委員会による特別史跡名勝天然記念物の復旧等の施行)

第七十八条 委員会は、左の各号の一に該当する場合においては、特別史跡名勝天然記念物につき自ら復旧を行い、又は滅失、き損、喪失若しくは盗難の防止の措置をすることができる。

一 管理団体、所有者又は管理責任者が前二条の規定による命令に従わな

いと。

二 特別史跡名勝天然記念物がき損し、若しくは喪失している場合又は滅失し、き損し、喪失し、若しくは盗み取られる虞のある場合において、管理団体、所有者又は管理責任者に復旧又は滅失、き損、喪失若しくは盗難の防止の措置をさせることが適当でないとき。

2 前項の場合には、第三十八条第二項及び第三十九条から第四十一条までの規定を準用する。

(補助等に係る史跡名勝天然記念物譲渡の場合の納付金)

第七十九条 国が復旧又は滅失、き損、喪失若しくは盗難の防止の措置につき第七十三条の二及び第七十五条で準用する第三十五条第一項の規定により補助金を交付し、又は第七十六条第二項で準用する第三十六条第二項、第七十七条第三項で準用する第三十七条第三項若しくは前条第二項で準用する第四十条第一項の規定により費用を負担した史跡名勝天然記念物については、第四十二条の規定を準用する。

(現状変更等の制限及び原状回復の命令)

第八十条 史跡名勝天然記念物に關しその現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をしようとするときは、委員会の許可を受けなければならない。但し、現状変更については維持の措置をする場合、保存に影響を及ぼす

行為については影響の軽微である場合は、この限りでない。

2 前項但書に規定する維持の措置の範囲は、委員会規則で定める。

3 第一項の規定による許可を与える場合には、第四十三条第三項の規定を、第一項の規定による許可を受けた者には、同条第四項の規定を準用する。

4 委員会又はその権限の委任を受けた都道府県の教育委員会の第一項の規定による処分には、第七十条の二の規定を準用する。

5 第一項の規定による許可を受けず、又は第三項で準用する第四十三条第三項の規定による許可の条件に従わないで、史跡名勝天然記念物の現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をした者に対しては、委員会は、原状回復を命ずることができる。この場合には、委員会は、原状回復に關し必要な指示をすることができる。

(復旧の届出等)

第八十条の二 史跡名勝天然記念物を復旧しようとするときは、管理団体又は所有者は、復旧に着手しようとする日の三十日前までに、委員会規則の定めるところにより、委員会にその旨を届け出なければならない。但し、前条第一項の規定により許可を受けなければならない場合その他委員会規則の定めるところは、この限りでない。

2 史跡名勝天然記念物の保護上必要があると認めるときは、委員会は、前項

の届出に係る史跡名勝天然記念物の復旧に關し技術的な指導と助言を与えることができる。

(環境保全)

第八十一条 委員会は、史跡名勝天然記念物の保存のため必要があると認めるときは、地域を定めて一定の行為を制限し、若しくは禁止し、又は必要な施設をすることを命ずることができる。

2 前項の規定による処分によつて損害を受けた者に対しては、政府は、その通常生ずべき損害を補償する。

3 第一項の規定による制限又は禁止に違反した者には、第八十条第五項の規定を、前項の場合には、第四十一条第二項の規定を準用する。

(保存のための調査)

第八十二条 委員会は、必要があると認めるときは、管理団体、所有者又は管理責任者に対し、史跡名勝天然記念物の現状又は管理、復旧若しくは環境保全の状況につき報告を求めることができる。

第八十三条 委員会は、左の各号の一に該当する場合において、前条の報告によつてもなお史跡名勝天然記念物に關する状況を確認することができず、且つ、その確認のため他に方法がないと認めるときは、調査に當る者を定め、その所在する土地又はその隣接地に立ち入つてその現状又は管理、復旧若しくは環境保全の状況につき実地調査及び土地の発掘、障害物の除去その他調

査のため必要な措置をさせることができる。但し、当該土地の所有者、占有者その他の関係者に対し、著しく損害を及ぼす虞のある措置は、させてはならない。

一 史跡名勝天然記念物に關する現状変更又は保存に影響を及ぼす行為の許可の申請があつたとき。

二 史跡名勝天然記念物が損し、又は衰亡しているとき。

三 史跡名勝天然記念物が滅失し、き損し、衰亡し、又は盗み取られる虞のあるとき。

四 特別の事情によりあらためて特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物としての価値を調査する必要があるとき。

2 前項の規定による調査又は措置によつて損害を受けた者に対しては、政府は、その通常生ずべき損害を補償する。

3 第一項の規定により立ち入り、調査する場合には、第五十五条第二項の規定を、前項の場合には、第四十一条第二項の規定を準用する。

(遺跡発見の届出)

第八十四条 土地の所有者又は占有者が貝つか、住宅跡、古墳その他遺跡と認められるものを発見したときは、その現状を変更することなく、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、発見の日から十日以内に委員会に届け出なければならない。但し、第五

十七条第一項の規定による届出をした場合は、この限りでない。

2 前項の規定による届出があつた場合には、委員会は、当該遺跡の保護上必要な事項を指示することができる。

第六章 補則

第一節 聴聞及び異議の申立

(聴聞)

第八十五条 委員会が左に掲げる処分又は措置を行おうとするときは、関係者又はその代理人の出頭を求めて、公開による聴聞を行わなければならない。

一 第三十八条第一項又は第七十八条第一項の規定による修理若しくは復旧又は措置の施行

二 第四十三条第四項(第八十条第三項で準用する場合を含む。又は第五

十三条第三項の規定による許可の取消

三 第四十五条第一項又は第八十一条第一項の規定による制限、禁止又は命令で特定の者に対して行われるもの

四 第五十一条第五項(同条第七項(第五十六条の七第二項で準用する場合を含む。)、第五十一条の二、第五十六條の十五第二項及び第五十六條の十六で準用する場合を含む。)の規定による公開の中止命令

五 第五十五条第一項又は第八十三条第一項の規定による立入調査又は調査のため必要な措置の施行

六 第五十七条第二項の規定による発

七 第五十八條第一項の規定による発掘の施行

八 第八十條第五項(第八十一條第三項で準用する場合を含む。)の規定による原状回復の命令

2 委員会は、前項の聴聞を行おうとするときは、前項各号に規定する処分又は措置を行おうとする理由、その処分又は措置の内容並びに聴聞の期日及び場所をその期日の十日前までに当該関係者に通告し、且つ、その処分又は措置の内容並びに聴聞の期日及び場所を公示しなければならない。

3 聴聞においては、当該関係者又はその代理人は、自己又は本人のために意見を述べ、又は釈明し、且つ、証拠を提出することができる。

4 当該関係者又はその代理人が正当な理由がなくて聴聞に応じなかつたときは、委員会は、聴聞を行わないで第一項に規定する処分又は措置をすることができ。

(異議の申立)
第八十五條の二 委員会又はその権限の委任を受けた都道府県の教育委員会がした左に掲げる処分不服のある者は、委員会に対し、異議の申立をすることができ。

一 第四十三條第一項又は第八十條第一項の規定による現状変更等の許可又は不許可

二 第四十五條第一項又は第八十一條

第一項の規定による制限、禁止又は命令で特定の者に対して行われるもの

三 第七十一條の二第一項の規定による管理団体の指定

2 前項の規定による異議の申立は、処分の相手方及び処分の通知を受けるべき者にあつては処分のあつた日又は処分の通知を受けた日から、その他の者にあつては処分のあつたことを知つた日から三十日以内に、委員会規則の定める事項を記載した申立書を委員会に提出して、行わなければならない。

3 正当な事由により前項の期間内に異議の申立をすることができなかつたことを疎明した者は、同項の期間の経過後でも、異議の申立をすることができ。

(却下)
第八十五條の三 委員会は、異議の申立が不適当であると認めるときは、申立を却下しなければならない。

(異議の申立のあつた場合の聴聞)
第八十五條の四 異議の申立があつたときは、第八十五條の二第一項第二号の事案に係る場合及び申立を却下する場合を除き、委員会は、申立を受理した日から三十日以内に、公開による聴聞を開始しなければならない。

2 委員会は、前項の聴聞を行おうとするときは、聴聞の期日及び場所をその期日の十日前までに異議の申立をした者に通告し、且つ、事案の要旨並びに

聴聞の期日及び場所を公示しなければならない。

(参加)
第八十五條の五 異議の申立をした者の外、当該処分について利害関係を有する者で聴聞に参加して意見を述べようとするものは、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、委員会にその旨を申し出て、その許可を受けなければならない。

(証拠の提示等)
第八十五條の六 第八十五條の四の規定による聴聞においては、異議の申立をした者、処分の相手方、処分の通知を受けるべき者及び前条の規定による聴聞に参加した者又はこれらの者の代理人に対して、当該事案について、証拠を提示し、且つ、意見を述べる機会を与えなければならない。

(決定)
第八十五條の七 決定は、文書をもつて行い、且つ、理由を附さなければならない。

2 委員会は、決定書の正本を、異議の申立をした者及び聴聞に参加した者に交付しなければならない。但し、申立を却下する決定については、異議の申立をした者に交付すれば足りる。

(決定前の協議等)
第八十五條の八 鉱業又は採石業との調整に関する事案に係る異議の申立については、委員会は、申立を却下する場合を除き、あらかじめ、土地調整委員

会に協議した上、決定をしなければならない。

2 関係各行政機関の長は、異議の申立に係る事案について意見を述べることができ。

(手続)
第八十五條の九 前七条に定めるものの外、異議の申立に関する手続は、委員会規則で定める。

第二節 国に関する特例
(国に関する特例)
第八十六條 国又は国の機関に対しこの法律の規定を適用する場合において、この節に特別の規定のあるときは、その規定による。

第八十七條 重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物が国有財産法(昭和二十三年法律第七十三号)に規定する国有財産であるときは、そのものは、文部大臣が管理する。但し、そのものが文部大臣以外の者が管理している同法第三条第二項に規定する行政財産であるときその他文部大臣以外の者が管理すべき特別の必要のあるものであるときは、そのものを関係各省各庁の長(同法第四条第二項に規定する各省各庁の長をいう。以下同じ。)が管理するか、又は文部大臣が管理するかは、文部大臣、関係各省各庁の長及び大蔵大臣が協議して定める。

2 前項但書の規定により協議する場合には、文部大臣は、委員会の意見を聞かなければならない。

第八十七条の二 前条第一項の規定により重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物を文部大臣が管理するため、所屬を異にする会計の間において所管換又は所屬替をするときは、国有財産法第十五条の規定にかかわらず、無償として整理することができ

る。
第八十八条 国の所有に属する有形文化財又は民俗資料を国宝若しくは重要文化財又は重要民俗資料に指定したときは、第二十八条第一項又は第三項（第五十六条の十第二項で準用する場合を含む。）の規定により所有者に対し行

べき通知又は指定書の交付は、当該有形文化財又は民俗資料を管理する各省各庁の長に対し行ふものとする。この場合においては、国宝の指定書を受けた各省各庁の長は、直ちに国宝に指定された重要文化財の指定書を委員会に返付しなければならない。

2 国の所有に属する国宝若しくは重要文化財又は重要民俗資料の指定を解除したときは、第二十九条第二項（第五十六条の十一第二項で準用する場合を含む。）又は第五項の規定により所有者に対し行ふべき通知又は指定書の交付は、当該国宝若しくは重要文化財又は重要民俗資料を管理する各省各庁の長に對し行ふものとする。この場合においては、当該各省各庁の長は、直ちに指定書を委員会に返付しなければならない。

3 国の所有又は占有に属するものを特別史跡名勝天然記念物若しくは史跡名勝天然記念物に指定し、若しくは仮指定し、又はその指定若しくは仮指定を解除したときは、第六十九条第三項（第七十条第三項及び第七十一条第四項で準用する場合を含む。）の規定により所有者又は占有者に対し行ふべき通知は、その指定若しくは仮指定又は指定若しくは仮指定の解除に係るものを管理する各省各庁の長に対し行ふものとする。

第八十九条 重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物を管理する各省各庁の長は、この法律並びにこれに基いて発する委員会規則及び委員会の勧告に従い、重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物を管理しなければならない。

第九十条 左に掲げる場合には、関係各省各庁の長は、文部大臣を通じ委員会に通知しなければならない。
一 重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物を取得したとき。
二 重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物の所管換を受け、又は所屬替をしたとき。

三 所管に属する重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物の全部又は一部が滅失し、き損し、若しくは喪失し、又はこれを亡失し、若しくは盗み取られたとき。

四 所管に属する重要文化財又は重要

民俗資料の所在の場所を変更しようとするとき。

五 所管に属する重要文化財又は史跡名勝天然記念物を修理し、又は復旧しようとするとき（次条第一項第一号の規定により委員会の同意を求めなければならない場合その他委員会規則の定める場合を除く。）

六 所管に属する重要民俗資料の現状を変更し、又はこれを輸出しようとするとき。

七 所管に属する史跡名勝天然記念物の指定地域内の土地について、その土地の所在、地番、地目又は地積に異動があつたとき。

八 所管に属する土地において貝塚、住居跡、古墳その他遺跡と認められるものを発見したとき。

2 前項第一号及び第二号の場合に係る通知には、第三十二条第一項並びに同項を準用する第五十六条の十二及び第七十五条の規定を、前項第三号の場合に係る通知には、第三十三条並びに同項を準用する第五十六条の十二及び第七十五条の規定を、前項第四号の場合に係る通知には、第三十四条及び同条を準用する第五十六条の十二の規定を、前項第五号の場合に係る通知には、第四十三条の二第一項及び第八十条の二第一項の規定を、前項第六号の場合に係る通知には、第五十六条の十三第一項の規定を、前項第七号の場合に係る通知には、第七十二条第二項の

規定を、前項第八号の場合に係る通知には、第八十四条第一項の規定を準用する。

3 委員会は、第一項第五号、第六号又は第八号の通知に係る事項に關し必要な勧告をすることができ

る。
第九十一条 左に掲げる場合には、関係各省各庁の長は、あらかじめ、文部大臣を通じ委員会の同意を求めなければならない。

一 重要文化財又は史跡名勝天然記念物の現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をしようとするとき。

二 所管に属する重要文化財を輸出しようとするとき。

三 所管に属する重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物の貸付、交換、売却、譲与その他の処分をしようとするとき。

2 各省各庁の長以外の国の機関が、重要文化財又は史跡名勝天然記念物の現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をしようとするときは、あらかじめ、委員会の同意を求めなければならない。

3 第一項第一号及び前項の場合には、第四十三条第一項但書及び同条第二項並びに第八十条第一項但書及び同条第二項の規定を準用する。

4 委員会は、第一項第一号又は第二項に規定する措置につき同意を与える場合においては、その条件としてその措

置に關し必要な勧告をすることができ
る。

5 關係各省各庁の長その他の国の機関
は、前項の規定による委員会の勧告を
十分に尊重しなければならない。

第九十二条 委員会は、必要があると認
めるときは、文部大臣を通じて各省各庁
の長に対し、左に掲げる事項につき必
要な勧告をすることが出来る。

一 所管に属する重要文化財、重要民
俗資料又は史跡名勝天然記念物の管
理方法

二 所管に属する重要文化財、重要民
俗資料又は史跡名勝天然記念物の修
理若しくは復旧又は滅失、き損、衰
亡若しくは盗難の防止の措置

三 重要文化財又は史跡名勝天然記念
物の環境保全のため必要な施設

四 所管に属する重要文化財又は重要
民俗資料の出品又は公開

2 前項の勧告については、前条第五項
の規定を準用する。

3 第一項の規定による委員会の勧告に
基いて施行する同項第二号に規定する
修理、復旧若しくは措置又は同項第三
号に規定する施設に要する経費の分担
については、文部大臣と各省各庁の長
が協議して定める。

4 前項の規定により協議する場合に
は、第八十七条第二項の規定を準用す
る。

第九十三条 委員会は、左の各号の一に
該当する場合においては、国の所有に

属する国宝又は特別史跡名勝天然記念
物につき、自ら修理若しくは復旧を行
い、又は滅失、き損、喪亡若しくは盗
難の防止の措置をすることが出来る。

この場合においては、委員会は、当該
文化財が文部大臣以外の各省各庁の長
の所管に属するものであるときは、あ
らかじめ、修理若しくは復旧又は措置
の内容、着手の時期その他必要な事項
につき、文部大臣を通じて当該文化財を
管理する各省各庁の長と協議し、当該
文化財が文部大臣の所管に属するもの
であるときは、文部大臣の定める場合
を除いて、その承認を受けなければな
らない。

一 關係各省各庁の長が前条第一項第
二号に規定する修理若しくは復旧又は
措置についての委員会の勧告に応
じないとき。

二 国宝又は特別史跡名勝天然記念物
がき損し、若しくは衰亡している場
合又は滅失し、き損し、喪亡し、若
しくは盗み取られる虞のある場合に
おいて、關係各省各庁の長に当該修
理若しくは復旧又は措置をさせるこ
とが適當でないとき。

第九十四条 委員会は、国の所有に属す
るものを国宝、重要文化財、重要民俗
資料、特別史跡名勝天然記念物若しく
は史跡名勝天然記念物に指定するに當
り、又は国の所有に属する国宝、重要
文化財、重要民俗資料、特別史跡名勝
天然記念物若しくは史跡名勝天然記念

物に關する状況を確認するため必要が
あると認めるときは、關係各省各庁の
長に対し調査のため必要な報告を求
め、又は、重要民俗資料に係る場合を除
き、調査に當る者を定めて実地調査を
させることができる。

第九十五条 委員会は、国の所有に属す
る重要文化財、重要民俗資料又は史跡
名勝天然記念物の保存のため特に必要
があると認めるときは、適當な地方公
共団体その他の法人を指定して当該文
化財の保存のため必要な管理（当該文
化財の保存のため必要な施設、設備そ
の他の物件で国の所有又は管理に属す
るものの管理を含む）を行わせること
ができる。

2 前項の規定による指定をするには、
委員会は、あらかじめ、文部大臣を通
じ当該文化財を管理する各省各庁の長
の同意を求めるとともに、指定しよう
とする地方公共団体その他の法人の同
意を得なければならない。

3 第一項の規定による指定には、第三
十二条の二第三項及び第四項の規定を
準用する。

4 第一項の規定による管理によつて生
ずる収益は、当該地方公共団体その他
の法人の収入とする。

5 地方公共団体その他の法人が第一項
の規定による管理を行う場合には、重
要文化財又は重要民俗資料の管理に係
るときは、第三十条、第三十一条第一
項、第三十二条の四第一項、第三十三

条、第三十四条、第三十五条、第三十六
条、第四十七条の二第三項及び第五十
四条の規定を、史跡名勝天然記念物に
係るときは、第三十条、第三十一条第一
項、第三十三条、第三十五条、第七十
二条第一項及び第二項、第七十六条並
び第八十二条の規定を準用する。

第九十五条の二 前条第一項の規定によ
る指定の解除については、第三十二条
の三の規定を準用する。

第九十五条の三 委員会は、重要文化
財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記
念物の保護のため特に必要があると認
めるときは、第九十五条第一項の規定
による指定を受けた地方公共団体その
他の法人に当該文化財の修理又は復旧
を行わせることができる。

2 前項の規定による修理又は復旧を行
わせる場合には、第九十五条第二項の
規定を準用する。

3 地方公共団体その他の法人が第一項
の規定による修理又は復旧を行う場合
には、重要文化財又は重要民俗資料に
係るときは、第三十二条の四第一項及
び第三十五条の規定を、史跡名勝天然
記念物に係るときは、第三十五条、第
七十二條の二第一項及び第七十三条の
規定を準用する。

第九十六条 委員会は、第五十八条第一
項の規定により自ら発掘を施行しよう
とする場合において、その発掘を施行
しようとする土地が国の所有に属し、

又は国の機関の占有するものであるときは、あらかじめ、発掘の目的、方法、着手の時期その他必要と認める事項につき、文部大臣を通じ関係各省各庁の長と協議しなければならない。但し、当該各省各庁の長が文部大臣であるときは、その承認を受けるべきものとす。

第九十七条 第六十三条の規定により国庫に帰属した文化財は、委員会が管理する。但し、その保存のため又はその効用から見て他の機関に管理させることが適当であるときは、これを当該機関の管理に移さなければならない。

第三節 地方公共団体及び教育

委員会

(地方公共団体の事務)

第九十八条 地方公共団体は、文化財の管理、修理、復旧、公開その他その保存及び活用に要する経費につき補助することができる。

2 地方公共団体は、条例の定めるところにより、重要文化財、重要民俗資料、重要無形文化財及び史跡名勝天然記念物以外の文化財で当該地方公共団体の区域内に存するものうち重要なものを指定して、その保存及び活用のため必要な措置を講ずることができ

3 前項に規定する条例の制定若しくはその改廃又は同項に規定する文化財の指定若しくはその解除を行った場合には、教育委員会は、委員会規則の定め

るところにより、委員会にその旨を報告しなければならない。

(権限の委任)

第九十九条 委員会は、必要があると認めるときは、左に掲げる委員会の権限の一部を都道府県の教育委員会に委任することができる。

- 一 第三十五条第三項(第三十六条第三項(第五十六条の十四、第七十六条第二項(第九十五条第五項で準用する場合を含む。))及び第九十五条第五項で準用する場合を含む。)、第三十七條第四項(第五十六条の十四及び第七十七条第三項で準用する場合を含む。)、第五十六条の六第二項、第五十六条の九第二項(第五十六条の十八で準用する場合を含む。)、第五十六条の十四、第七十三条の二、第七十五条、第九十五条第五項及び第九十五条の三第三項で準用する場合を含む。)の規定による指揮監督
- 二 第四十三条又は第八十条の規定による現状変更又は保存に影響を及ぼす行為の許可及びその取消並びにその停止命令(重大な現状変更又は保存に重大な影響を及ぼす行為の許可及びその取消を除く。)
- 三 第五十一条第五項(同条第七項)第五十六条の七第二項で準用する場合を含む。)、第五十一条の二(第五十六条の十六で準用する場合を含む。)、第五十六条の十五第二項及び第五十六条の十六で準用する場合を

含む。)の規定による公開の停止命令
四 第五十三条の規定による公開の許可及びその取消並びに公開の停止命令

五 第五十四条(第五十六条の十七及び第九十五条第五項で準用する場合を含む。)、第五十五条、第八十二条(第九十五条第五項で準用する場合を含む。))又は第八十三条の規定による調査又は調査のため必要な措置の施行

六 第五十七条第二項の規定による発掘の停止命令

2 都道府県の教育委員会が前項の規定による委任に基き同項第二号若しくは第四号に規定する許可の取消又は同項第五号に規定する立入調査若しくは調査のため必要な措置を行う場合には、第八十五条の規定を準用する。

(出品された重要文化財等の管理の委任)

第一百条 委員会は、必要があると認めるときは、都道府県又は地方自治法(昭和二十二年法律第六十七号)第二百五十二条の十九第一項の指定都市の教育委員会に対し第四十八条(第五十六条の十六で準用する場合を含む。))の規定により出品された重要文化財又は重要民俗資料の管理の事務を委任することができる。

2 前項の規定による委任を受けた場合には、都道府県又は前項に規定する市の教育委員会は、その職員のうちから、

当該重要文化財又は重要民俗資料の管理の責に任ずべき者を定めなければならない。

(修理等の施行の委託)

第一百一条 委員会は、必要があると認めるときは、第三十八条第一項又は第九十三条の規定による国宝の修理又は滅失、き損若しくは盗難の防止の措置の施行、第五十八条第一項の規定による発掘の施行及び第七十八条第一項又は第九十三条の規定による特別史跡名勝天然記念物の復旧又は滅失、き損、喪失若しくは盗難の防止の措置の施行につき、都道府県の教育委員会に対し、その全部又は一部を委託することができる。

2 都道府県の教育委員会が前項の規定による委託に基き、第三十八条第一項の規定による修理又は措置の施行の全部又は一部を行う場合には、第三十九条の規定を、第五十八条第一項の規定による発掘の施行の全部又は一部を行う場合には、同条第三項で準用する第三十九条の規定を、第七十八条第一項の規定による復旧又は措置の施行の全部又は一部を行う場合には、同条第二項で準用する第三十九条の規定を準用する。

(重要文化財等の管理等の受託又は技術的指導)

第一百二条 都道府県の教育委員会は、あらかじめ、委員会の承認を得て、所有者(管理団体がある場合は、その者)又

は管理責任者の求めに応じ、重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物の管理(管理団体がある場合を除く)、修理若しくは復旧につき委託を受け、又は技術的指導をすることができらる。

2 都道府県の教育委員会が前項の規定により管理、修理又は復旧の委託を受ける場合には、第三十九条第一項及び第二項の規定を準用する。

(書類等の経由)
第二百三条 この法律の規定により文化財に關し委員会に提出すべき届書その他の書類及び物件の提出は、都道府県の教育委員会を経由すべきものとする。

2 都道府県の教育委員会は、前項に規定する書類及び物件を受理したときは、意見を具してこれを委員会に送付しなければならない。

3 この法律の規定により文化財に關し委員会が発する命令、勧告、指示その他の処分告知は、都道府県の教育委員会を経由すべきものとする。但し、特に緊急な場合は、この限りでない。

4 この法律の規定により委員会に対してなすべき届出、報告、申出又は指定書の返付は、その届書その他の書類又は指定書が第一項の規定により經由すべき都道府県の教育委員会に到達した時に行われたものとみなす。

(指揮監督及び経費の負担)

第二百四条 委員会は、この法律の規定により都道府県又は第百条第一項に規定

する市の教育委員会に行わせる事務につき、その教育委員会を指揮監督することができらる。

2 都道府県又は第百条第一項に規定する市の教育委員会が第九十九条から第百一条までの規定による事務を処理するために要する経費は、国庫の負担とする。

(委員会に対する意見具申)

第二百四条の二 都道府県の教育委員会は、当該都道府県の区域内に存する文化財の保存及び活用に関し、委員会に対して意見を具申することができらる。

(教育委員会の文化財専門委員)

第二百四条の三 都道府県の教育委員会に文化財専門委員を置くことができる。

2 文化財専門委員は、文化財の保存及び活用に関し、都道府県の教育委員会との諮問に答え、又は都道府県の教育委員会に意見を具申し、及びこのために必要な調査研究を行う。

3 文化財専門委員に關し必要な事項は、当該都道府県の条例で定める。

第二百五条 削除

第七章 罰則

(刑罰)

第二百六条 第四十四条の規定に違反し、委員会の許可を受けないで重要文化財を輸出した者は、五年以下の懲役若しくは禁錮又は十万円以下の罰金に処する。

第二百七条 重要文化財を損壊し、き棄

し、又は隠匿した者は、五年以下の懲役若しくは禁錮又は三万円以下の罰金若しくは科料に処する。

2 前項に規定する者が当該重要文化財の所有者であるときは、二年以下の懲役若しくは禁錮又は一万円以下の罰金若しくは科料に処する。

第二百七条の二 史跡名勝天然記念物の現

状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をして、これを滅失し、き損し、又は喪失するに至らしめた者は、五年以下の懲役若しくは禁錮又は三万円以下の罰金若しくは科料に処する。

2 前項に規定する者が当該史跡名勝天然記念物の所有者であるときは、二年以下の懲役若しくは禁錮又は一万円以下の罰金若しくは科料に処する。

第二百七条の三 法人の代表者又は法人若しくは人の代理人、使用人その他の従業者がその法人又は人の業務又は財産の管理に關して前三条の違反行為をしたときは、その行為者を罰する外、その法人又は人に対し、各本条の罰金刑を科する。

(行政罰)

第二百八条 第三十九条第一項(第四十七

条第三項(第五十六条の十四で準用する場合を含む)、第七十八条第二項、第一百一条第二項又は第百二条第二項で準用する場合を含む)、第四十九条(第五十六条の十六で準用する場合を含む)又は第百条第二項に規定する重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝

天然記念物の管理、修理又は復旧の施行の責に任すべき者が怠慢又は重大な過失によりその管理、修理又は復旧に係る重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物を滅失し、き損し、喪失し、又は盗み取られるに至らしめたときは、三万円以下の過料に処する。

第二百九条 左の各号の一に該当する者は、三万円以下の過料に処する。

一 正当な理由がなくて、第三十六条第一項(第五十六条の十四及び第九十五条第五項で準用する場合を含む)又は第三十七条第一項の規定による重要文化財若しくは重要民俗資料の管理又は国宝の修理に關する委員会の命令に従わなかつた者

二 第三十四条の規定に違反して、委員会若しくはその権限の委任を受けた都道府県の教育委員会の許可を受けず、若しくはその許可の条件に従わないで重要文化財の現状を変更し、又は委員会若しくはその権限の委任を受けた都道府県の教育委員会の現状変更の停止の命令に従わなかつた者

三 正当な理由がなくて、第七十六条第一項(第九十五条第五項で準用する場合を含む)又は第七十七条第一項の規定による史跡名勝天然記念物の管理又は特別史跡名勝天然記念物の復旧に關する委員会の命令に従わなかつた者

四 第八十条の規定に違反して、委員会又はその権限の委任を受けた都道府県の教育委員会の許可を受けず、若しくはその許可の条件に従わないで史跡名勝天然記念物の現状を変更し、若しくはその保存に影響を及ぼす行為をし、又は委員会若しくはその権限の委任を受けた都道府県の教育委員会の現状変更若しくは保存に影響を及ぼす行為の停止の命令に従わなかつた者

第一百十条 左の各号の一に該当する者は、一万円以下の過料に処する。

一 第三十九条第三項（第一百一条第二項で準用する場合を含む。）で準用する第三十二条の二第五項の規定に違反して、国宝の修理又は滅失、き損若しくは盗難の防止の措置の施行を拒み、又は妨げた者

二 正当な理由がなくて、第四十五条第一項の規定による制限若しくは禁止又は施設の命令に違反した者

三 第四十六条（第五十六条の十四で準用する場合を含む。）の規定に違反して、委員会に国に対する売渡の申出をせず、若しくは申出をした後同条第三項（第五十六条の十四で準用する場合を含む。）に規定する期間内に、国以外の者に重要文化財又は重要民俗資料を譲り渡し、又は同条第一項（第五十六条の十四で準用する場合を含む。）の規定による売渡の申出若しくは同項但書（第五十六条の

十四で準用する場合を含む。）の規定による承認の申請につき、虚偽の事実を申し立てた者

四 第五十三条の規定に違反して、委員会若しくはその権限の委任を受けた都道府県の教育委員会の許可を受けず、若しくはその許可の条件に従わないで重要文化財を公開し、又は委員会若しくはその権限の委任を受けた都道府県の教育委員会の公開の停止の命令に従わなかつた者

五 第七十八条第二項又は第一百一条第二項で準用する第三十九条第三項で準用する第三十二条の二第五項の規定に違反して、特別史跡名勝天然記念物の復旧又は滅失、き損、喪亡若しくは盗難の防止の措置の施行を拒み、又は妨げた者

六 正当な理由がなくて、第八十一条第一項の規定による制限若しくは禁止又は施設の命令に違反した者は、五千円以下の過料に処する。

第一百十一条 左の各号の一に該当する者は、五千円以下の過料に処する。

一 第二十八条第五項、第二十九条第四項（第五十六条の十一第二項で準用する場合を含む。）又は第五十六条第二項（第五十六条の十七で準用する場合を含む。）の規定に違反して、重要文化財又は重要民俗資料の指定書を委員会に返付せず、又は新所有者に引き渡さなかつた者

二 第三十一条第三項（第五十六条の十二及び第七十四条第二項で準用する

場合を含む。）、第三十二条（第五十六条の十二及び第七十五条で準用する場合を含む。）、第三十三条（第五十六条の十二、第七十五条及び第九十五条第五項で準用する場合を含む。）、第三十四条（第五十六条の十二及び第九十五条第五項で準用する場合を含む。）、第四十三条の二第一項、第五十六条の五、第五十六条の十三第一項、第五十六条の十五第一項、第五十七条第一項、第七十二条第二項（第九十五条第五項で準用する場合を含む。）、第八十条の二第一項又は第八十四条第一項の規定に違反して、届出をせず、又は虚偽の届出をした者

第三十二条の二第五項（第三十四条の三第二項（第五十六条の十四で準用する場合を含む。）及び第五十六条の十二で準用する場合を含む。）又は第七十二条第四項の規定に違反して、管理、修理若しくは復旧又は管理、修理若しくは復旧のため必要な措置を拒み、妨げ、又は忌避した者

三 第三十二条の二第五項（第三十四条の三第二項（第五十六条の十四で準用する場合を含む。）及び第五十六条の十二で準用する場合を含む。）又は第七十二条第四項の規定に違反して、管理、修理若しくは復旧又は管理、修理若しくは復旧のため必要な措置を拒み、妨げ、又は忌避した者

四 第四十八条第四項（第五十一条第三項（第五十六条の十六で準用する場合を含む。）及び第五十六条の十六で準用する場合を含む。）の規定に違反して、出品若しくは公開をせず、又は第五十一条第五項（同条第七項（第五十六条の七第二項及び第五十六条の十六で準用する場合を含む。）、第五十一条の二（第五十六条

の十六で準用する場合を含む。）及び第五十六条の十五第二項で準用する場合を含む。）の規定に違反して、委員会若しくはその権限の委任を受けた都道府県の教育委員会の公開の停止若しくは中止の命令に従わなかつた者

五 第五十四条（第五十六条の十七及び第九十五条第五項で準用する場合を含む。）、第五十五条、第八十二条（第九十五条第五項で準用する場合を含む。）又は第八十三条の規定に違反して、報告をせず、若しくは虚偽の報告をし、又は当該公務員の立入調査若しくは調査のため必要な措置の施行を拒み、妨げ、若しくは忌避した者

六 第五十七条第二項の規定に違反して、委員会又はその権限の委任を受けた都道府県の教育委員会の発掘の禁止又は停止若しくは中止の命令に従わなかつた者

七 第五十八条の規定による発掘の施行を拒み、又は妨げた者

附則 第一百十二条 削除

（施行期日） 第一百十三条 この法律施行の期日は、公布の日から起算して三箇月をこえない期間内において、政令で定める。〔昭和二十五年八月政令第二百七十六号で、同二十五年八月二十九日から施行〕

（施行期日）

第一百十三条 この法律施行の期日は、公布の日から起算して三箇月をこえない期間内において、政令で定める。〔昭和二十五年八月政令第二百七十六号で、同二十五年八月二十九日から施行〕

（施行期日）

第一百十三条 この法律施行の期日は、公布の日から起算して三箇月をこえない期間内において、政令で定める。〔昭和二十五年八月政令第二百七十六号で、同二十五年八月二十九日から施行〕

(関係法令の廃止)

第十四条 左に掲げる法律、勅令及び政令は、廃止する。

国宝保存法(昭和四年法律第十七号)

重要美術品等の保存に関する法律(昭和八年法律第四十三号)

史跡名勝天然記念物保存法(大正八年法律第四十四号)

国宝保存法施行令(昭和四年勅令第二百十号)

史跡名勝天然記念物保存法施行令(大正八年勅令第四百九十九号)

国宝保存会官制(昭和四年勅令第二百十一号)

重要美術品等調査審議会令(昭和二十四年政令第二百五十一号)

史跡名勝天然記念物調査会令(昭和二十四年政令第二百五十二号)

(法令廃止に伴う経過規定)

第十五条 この法律施行前に行つた国宝保存法第一条の規定による国宝の指定(同法第十一条第一項の規定により解除された場合を除く)は、第二十七条第一項の規定による重要文化財の指定とみなし、同法第三条又は第四条の規定による許可は、第四十三条又は第四十四条の規定による許可とみなす。

2 この法律施行前の国宝の滅失又はき損並びにこの法律施行前に行つた国宝保存法第七条第一項の規定による命令及び同法第十五条前段の規定により交付した補助金については、同法第七条から第十条まで、第十五条後段及び第

二十四条の規定は、なおその効力を有する。この場合において同法第九条第二項中「主務大臣」とあるのは、「文化財保護委員会」と読み替えるものとする。

24条の規定は、なおその効力を有する。この場合において同法第九条第二項中「主務大臣」とあるのは、「文化財保護委員会」と読み替えるものとする。

3 この法律施行前に行つた行為の処罰については、国宝保存法は、第六条及び第二十三条の規定を除く外、なおその効力を有する。

4 この法律施行の際現に国宝保存法第一条の規定による国宝を所有している者は、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、この法律施行後三箇月以内に委員会に届け出なければならない。

5 前項の規定による届出があつたときは、委員会は、当該所有者に第二十八条に規定する重要文化財の指定書を交付しなければならない。

6 第四項の規定に違反して、届出をせず、又は虚偽の届出をした者は、五千円以下の過料に処する。

7 この法律施行の際現に国宝保存法第一条の規定による国宝で国の所有に属するものを管理する各省各庁の長は、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、この法律施行後三箇月以内に委員会に通知しなければならない。但し、委員会規則で定める場合は、この限りでない。

8 前項の規定による通知があつたときは、委員会は、当該各省各庁の長に第二十八条に規定する重要文化財の指定

書を交付するものとする。

書を交付するものとする。

第十六条 この法律施行の際現に重要美術品等の保存に関する法律第二条第一項の規定により認定されている物件については、同法は当分の間、なおその効力を有する。この場合において、同法の施行に関する事務は、委員会が行うものとし、同法中国宝」とあるのは、「文化財保護法ノ規定ニ依ル重要文化財」と、「主務大臣」とあるのは、「文化財保護委員会」と、「国宝保存法第一条ノ規定に依リテ国宝トシテ指定シ」とあるのは、「文化財保護法第二十七条第一項ノ規定ニ依リテ重要文化財トシテ指定シ」と読み替えるものとする。

2 文化財専門審議会においては、当分の間、委員会の諮問に応じて重要美術品等の保存に関する法律第一条の規定による輸出及び移出の許可、同法第二条の規定による認定の取消に関する事項その他重要美術品等の保存に関する重要事項を調査審議し、且つ、これらの事項に関し必要と認める事項を委員会に建議する。

3 重要美術品等の保存に関する法律の施行に関しては、当分の間、第百三条の規定を準用する。

第十七条 この法律施行前に行つた史跡名勝天然記念物保存法第一条第一項の規定による指定(解除された場合を除く)は、第六十九条第一項の規定による指定、同法第一条第二項の規定に

よる仮指定(解除された場合を除く)は、第七十条第一項の規定による仮指定とみなし、同法第三条の規定による許可は、第八十条第一項の規定による許可とみなす。

よる仮指定(解除された場合を除く)は、第七十条第一項の規定による仮指定とみなし、同法第三条の規定による許可は、第八十条第一項の規定による許可とみなす。

2 この法律施行前に行つた史跡名勝天然記念物保存法第四条第一項の規定による命令又は処分については、同法第四条及び史跡名勝天然記念物保存法施行令第四条の規定は、なおその効力を有する。この場合において同令第四条中「文部大臣」とあるのは、「文化財保護委員会」と読み替えるものとする。

3 この法律施行前に行つた行為の処罰については、史跡名勝天然記念物保存法は、なおその効力を有する。

(最初の委員の任命)

第十八条 委員会の最初の委員の任命については、国会の閉会又は衆議院の解散の場合に限り、第九条第一項の規定にかかわらず、その後最初に召集された国会において両議院の事後の承認を得れば足りる。

2 文部大臣は、前項の規定による両議院の事後の承認が得られないときは、その委員を罷免しなければならない。(第一回委員会の招集)

第十九条 この法律に基く第一回の委員会は、第十四条の規定にかかわらず、文部大臣が招集する。

(最初の委員の任期)

職務を代理する委員以外のものの任期は、第十條第一項の規定にかかわらず、一人については一年、二人については二年とする。

2 前項の規定の適用を受ける委員の任期は、くじで定める。

(国家行政組織法の一部改正)

第二百一十一條 国家行政組織法の一部を次のように改正する。

別表第一中「文部省」

を「文部省 文化財保護委員会」

に改める。

(文部省設置法の一部改正)

第二百二十二條 文部省設置法(昭和二十四年法律第四百六十六号)の一部を次のように改正する。

目次中「第三章職員(第二十五条・第二十六条)」を「第三章外局(第二十五条・第四章職員(第二十七条・第二十八条))」に改める。

第二条第一項第二号中「国宝、重要美術品、史跡名勝天然記念物その他の文化財」を「文化財保護法(昭和二十五年法律第二百十四号)に規定する文化財」に改める。

同条第三項中「出版」を「文化財保護法に規定する文化財、出版」に改める。

第十條第九号を次のように改める。

九 削除

第十三条中「国立博物館」を削る。

第十四条第一項中「国立博物館」を

削る。

第十七條を次のように改める。

第十七條 削除

第二十四條左表中中国宝保存会、重要美術品等調査審議会及び史跡名勝天然記念物調査会の項を削る。

第三章を第四章とし、第二十五条を第二十七條とし、第二十六条を第二十八條とし、第二章の次に次の一章を加える。

第三章 外局

(外局の設置)

第二十五條 国家行政組織法第三條第二項の規定に基いて文部省に置かれる外局は、左の通りとする。

文化財保護委員会
(文化財保護委員会)

第二十六條 文化財保護委員会の組織、所掌事務及び権限は、文化財保護法の定めるところによる。

(行政機関職員定員法の一部改正)

第二百二十三條 行政機関職員定員法(昭和二十四年法律第二百六十六号)の一部を次のように改正する。

第二条第一項中文部省本省 三九六八

うち六一、八四七人は、国立学校の職員とする。

本省	三九六八	うち六一、八四七人は、国立学校の職員とする。
文化財保護委員会	四〇	は、国立学校の職員とする。
計	三九〇八	

に改める。

(従前の国立博物館)

第二百二十四條 法律(これに基く命令を含む)に特別の定のある場合を除く外、従前の国立博物館及びその職員(美術研究所及びこれに所属する職員を除く)は、この法律に基く国立博物館及びその職員となり、従前の国立博物館附置の美術研究所及びこれに所属する職員は、この法律に基く研究所及びその職員となり、同一性をもつて存続するものとする。

2 この法律に基く東京国立文化財研究所は、従前の国立博物館附置の美術研究所の所掌した調査研究と同一のものについては、「美術研究所」の名称を用いることができる。

(特別職の職員の給与に関する法律の一部改正)

第二百二十五條 特別職の職員の給与に関する法律(昭和二十四年法律第二百五十二号)の一部を次のように改正する。

第一条第十四号の二の次に次の一号を加える。

十四の三 文化財保護委員会の委員長及び委員

別表中「全国選挙管理委員会委員長」「全国選挙管理委員会委員長」「文化財保護委員会委員長」に、「中央更生保護委員会委員長」を「中央更生保護委員会委員」に改める。

(遺失物法の一部改正)

第二百二十六條 遺失物法の一部を次のように改正する。

第十三條第二項から第四項までの規定を削る。

2 この法律施行前に国庫に帰属した埋蔵物については、前項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

(国有財産法の一部改正)

第二百二十七條 国有財産法の一部を次のように改正する。

第三条第二項第二号中「国宝」の下に「その他の重要文化財」を加える。

(屋外広告物法の一部改正)

第二百二十八條 屋外広告物法(昭和二十四年法律第八十九号)の一部を次のように改正する。

[次のよう略す]

(教育委員会法の一部改正)

第二百二十九條 教育委員会法(昭和二十三年法律第七十号)の一部を次のように改正する。

[次のよう略す]

(富裕税法の一部改正)

第三百十條 富裕税法(昭和二十五年法律第七十四号)の一部を次のように改正する。

[次のよう略す]

附則 (昭和二十六年十二月二十四日法律第三百十八号抄)

1 この法律は、公布の日から施行する。但し、第二十条、第二十二條、第二十三條及び第二十四條第二項の改正規定並びに附則第三項の規定は、昭

和二十七年四月一日から施行する。

- この法律施行前にした行為に対する罰則の適用については、改正前の文化財保護法第三十四条の規定は、なおその効力を有する。

附則（昭和二十七年七月三十一日法律第二百七十二号抄）
（施行期日）

- この法律は、昭和二十七年八月一日から施行する。但し、附則第三項の規定は、公布の日から施行する。
 （東京国立博物館の分館の職員に関する経過規定）
- この法律施行の際現に東京国立博物館の分館の職員である者は、別に辞令を発せられない限り、同一の勤務条件をもつて、奈良国立博物館の職員となるものとする。

附則（昭和二十八年八月十日法律第九十四号抄）

- この法律は、公布の日から施行する。
附則（昭和二十八年八月十五号法律第二百三十三号抄）
- この法律は、昭和二十八年九月一日から施行する。〔後略〕

- この法律施行前従前の法令の規定によりなされた許可、認可その他の処分又は申請、届出その他の手続は、それぞれ改正後の相当規定に基いてなされた処分又は手続とみなす。
- この法律施行の際従前の法令の規定により置かれていた機関又は職員は、それぞれ改正後の相当規定に基いて置かれるものとみなす。

附則（昭和二十九年五月二十号九日法律第三百三十一号抄）

- この法律は、昭和二十九年七月一日から施行する。

- この法律の施行前にした史跡名勝天然記念物の仮指定は、この法律による改正後の文化財保護法（以下「新法」という。）第七十一条第二項の規定にかかわらず、新法第六十九条第一項の規定による指定があつた場合の外、この法律の施行の日から三年以内に同条同項の規定による指定がなかつたときは、その効力を失ふ。
- この法律の施行前六月以内にこの法律による改正前の文化財保護法第四十三条第一項若しくは第八十条第一項の規定によつてした現状変更等の許可若しくは不許可の処分又は同法第四十五条第一項若しくは第八十一条第一項の規定によつてした制限、禁止又は命令で特定の者に対して行われたものに不服のある者は、この法律の施行の日から三十日以内に委員会に対して異議の申立をすることが出来る。この場合には、第八十五条の二第二項及び第三項並びに第八十五条の三から第八十五条の九までの規定を準用する。

- この法律の施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。
- 史跡名勝天然記念物を管理すべき団体の指定等に関する政令（昭和二十八年政令第二百八十九号）は、廃止す

る。

- 旧史跡名勝天然記念物を管理すべき団体の指定等に関する政令第一条第一項の規定により指定を受けた地方公共団体その他の団体及び同令附則第二項の規定により同令第一条第一項の規定により指定を受けた地方公共団体その他の団体とみなされたもので法人であるものは、新法第七十一条第二項又は第九十五条第一項の規定により指定を受けた地方公共団体その他の法人とみなす。
- 前項に規定する団体で法人でないものには、新法第七十一条の二、第九十五条又は第九十五条の三の規定にかかわらず、この法律の施行の日から一年間は、新法第七十一条の二第一項、第九十五条第一項又は第九十五条の三第一項に規定する管理及び復旧を行わせることができる。この場合には、新法中第七十一条の二第二項又は第九十五条第一項の規定による指定を受けた法人に関する規定を準用する。

- この法律は、地方自治法の一部を改正する法律（昭和三十一年法律第四百十七号）の施行の日から施行する。
附則（昭和三十一年六月十三号法律第六十三号抄）
- この法律は、昭和三十一年十月一日から施行する（以下略）

- この法律は、公布の日から施行する。
附則（昭和三十一年六月十三号法律第六十三号抄）

細川 護立
 川北 禎一
 内田 祥三
文化財専門審議会令
 （昭和二十五年十月十三日政令第三百九号）
 沿革 昭和二十八年政令第二号（第一次改正）
 昭和二十九年政令第六十三号（第二次改正）
 文化財専門審議会令
 内閣は、文化財保護法（昭和二十五年法律第二百四号）第二十一条第五項の規定に基き、この政令を制定する。
（所掌事務）
 第一条 文化財専門審議会（以下「審議会」という。）は、文化財保護委員会（以下「委員会」という。）の諮問に応じ、左に掲げる事項を調査審議し、及び文化財の保存又は活用に関する専門的又は技術的事項に関し必要と認める事項を委員会に建議する。
 一 文化財保護法（以下「法」という。）
 第二十一条第二項各号に掲げる事項
 二 第二十一条第三項の規定により委員会が重要と認めたる事項
 三 法第六十六条第二項に規定する重要美術品等の保存に関する重要事項
（組織）
 第二条 審議会は、専門委員九十人以内で組織する。
 2 特別の事項を調査審議するため必要があるときは、審議会に臨時専門委員

を置くことができる。
 第三条 専門委員及び臨時専門委員は、学識経験のある者のうちから、委員会が任命する。

第四条 専門委員の任期は、二年とし、その欠員が生じた場合の補充専門委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 臨時専門委員は、特別の事項の調査審議が終了したときは、退任するものとする。

3 専門委員及び臨時専門委員は、非常勤とする。

第五条 専門委員より会長として互選された者は、審議会の会務を総理する。

2 専門委員により副会長として互選された者は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(分科会)

第六条 審議会に置かれる分科会は、左表上欄に掲げる通りとし、それぞれ同表下欄に掲げる事項を分掌する。

分科会の名称	分掌事項
第一分科会	建造物以外の有形文化財(埋蔵物であるものを除く)に関する事項
第二分科会	建造物である有形文化財(埋蔵物であるものを除く)に関する事項
第三分科会	記念物、民俗資料及び埋蔵文化財に関する事項
第四分科会	無形文化財に関する事項

2 前項の規定中有形文化財その他文化財に関する用語の定義は、法における用語の定義による。

第七条 専門委員及び臨時専門委員は、委員会の指名により、前条の分科会のいずれかに分属するものとする。

第八条 各分科会に属する専門委員により分科会長として互選された者は、各分科会の会務を掌理する。

2 分科会長に事故があるときは、その分科会に属する専門委員のうちから分科会長があらかじめ指名する者が、その職務を代理する。

第九条 審議会は、その定めるところにより、分科会の議決又は二以上の分科会の合同の議決をもつて、審議会の議決とすることができる。

(部会)

第十条 第六条の分科会は、その定めるところにより、部会を置くことができる。

2 部会に属すべき専門委員及び臨時専門委員は、分科会長が指名する。

3 各部会に属する専門委員により部会長として互選された者は、各部会の会務を掌理する。

4 分科会は、その定めるところにより、部会の議決又は二以上の部会の合同の議決をもつて、分科会の議決とすることができる。

(議事)

第十一条 審議会は、専門委員及び議事に関係のある臨時専門委員の過半数が出席しなければ、議事を開き議決をすることができない。

2 審議会の議事は、出席した専門委員及び議事に関係のある臨時専門委員の

過半数をもつて決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

3 前二項の規定は、分科会又は部会の議事及び二以上の分科会又は部会の合同の議事に準用する。この場合において、二以上の分科会又は部会の合同の議事を整理する会長には、それぞれ審議会又はその部会を置いた分科会の定めるところにより、その分科会又は部会の会長のうちの一人が当るものとする。

(庶務)
 第十二条 審議会の庶務は、委員会事務局において処理する。

(雑則)
 第十三条 この政令に定めるもののほか、審議会の議事の手続その他その運営に関し必要な事項は、審議会が定める。

附則

この政令は、公布の日から施行する。

附則(第一次改正の附則)

この政令は、公布の日から施行し、第十二条の改正規定は、昭和二十七年八月一日から適用する。

附則(第二次改正の附則)

この政令は、昭和二十九年七月一日から施行する。

文化財専門審議会議事規則

(昭和三十年三月十五日総会決定)

第一条 文化財専門審議会令に規定するもののほか、文化財専門審議会(以下

「審議会」という。)の議事の手続その他その運営に関し必要な事項は、この規則の定めるところによる。

第二条 審議会の会議(以下「会議」という。)は、会長が招集する。

2 一の議案につき、二以上の分科会長が、それぞれ当該分科会の議を経て会議の招集を請求したときは、会長は、会議を招集しなければならない。

第三条 会長は、会議の議長となり、議事を整理する。

第四条 会長及び副会長にともに事故があるときは、あらかじめ会長の指名する委員が会長の職務を代理する。

第五条 発言しようとする者は、議長の許可を受けなければならない。

第六条 建議案を提出しようとする者は、案を作り、三人以上の賛成者と連署して、会長に差し出さなければならない。

第七条 修正の動議を提出しようとする者は、案を作り、議長に差し出さなければならない。ただし、軽易な修正については、口頭で述べることができる。

第八条 動議は、賛成がなければ、議題とすることができない。

第九条 議事の採決は、起立又は挙手によつてきめる。ただし、議決により、記名投票又は無記名投票によつて行うことができる。

第十条 文化財保護委員会の委員及び事務局職員は、会議において、発言をすることができない。

第十一條 第二條第一項、第三條から第五條まで及び第七條から第十條までの規定は、分科会及び部会の会議について準用する。

第十二條 二以上の分科会の合同の議事を整理する会長は、当該二以上の分科会の会長が協議して定める。

第十三條 一の分科会に分属する専門委員は、他の分科会又は他の分科会の部会の会議に出席して意見を述べることができる。

2 前項の場合には、他の分科会又は他の分科会の部会に出席することについて、当該他の分科会又は他の分科会の部会の会長の承認を得なければならぬ。

第十四條 審議会に、幹事及び書記を置く。

第十五條 この規則に定めるもののほか、審議会の運営に關し必要な事項は、審議会の承認を経て会長が定める。

文化財専門審議會常任委員 會設置規則

(昭和三十年三月十五日
總 會 決 定)

第一條 文化財専門審議會(以下「審議會」といふ)に、その能率的かつ一体的運営を期するため、常任委員会を置く。

第二條 常任委員会は、前條の目的を達成するため、左に掲げる事項をつかさどる。

一 審議會から附託された事項の調査

美術關係法規

審議

二 審議會から附託された建議案の作成

三 審議會から審議會に代つて議決することを附託された事項についての議決

四 分科会相互間の連絡調整

第三條 常任委員会は、次に掲げる者をもつて組織する。

一 審議會会長

二 審議會副会長

三 審議會副会長代理

四 分科会会長

五 分科会会長代理

六 部会長

第四條 常任委員会に会長及び副会長を置き、それぞれ審議會の会長及び副会長がこれに當るものとする。

第五條 分科会会長である常任委員会の委員は、分科会の分掌事項に關する調査審議の経過及び結果を常任委員会に報告するものとする。

第六條 文化財保護委員会委員並びに議事に關係のある専門委員及び臨時専門委員並びに事務局職員は、常任委員会において発言をすることができる。

第七條 常任委員会の会長は、第二條の事項に關する調査審議の経過及び結果を審議會に報告しなければならない。

第八條 文化財専門審議會議事規則第二條第一項、第三條から第五條まで、第七條から第九條まで及び第十四條の規定は、常任委員会について準用する。

第九條 この規則に定めるもののほか、常任委員会の運営に關し必要な事項は、常任委員会の会長が定める。

文化財専門審議會諮問事項 等取扱規則

(昭和三十年三月十五日
總 會 決 定)

第一條 文化財専門審議會(以下「審議會」といふ)に對する文化財保護委員会(以下「委員会」といふ)の諮問事項及び委員会に對する審議會の建議の取扱については、この規則の定めるところによる。

第二條 審議會に對する委員会の諮問事項で次に掲げるものは、審議會の總會の議決事項とする。

一 国宝及び重要文化財の指定基準の制定改廃

二 特別史跡名勝天然記念物及び史跡名勝天然記念物の指定基準の制定改廃

三 重要民俗資料の指定基準の制定改廃

四 記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗資料の選択基準の制定改廃

五 重要無形文化財の指定及び保持者の認定の基準の制定改廃

六 記録作成等の措置を講ずべき無形文化財の選択基準の制定改廃

七 前各号に掲げる事項のほか、審議會の会長が總會において議決すべきものと認める事項

第三條 審議會に對する委員会の諮問事項

項のうち国宝の指定及びその指定の解除に係るものは、第一分科会及び第二分科会の合同の議決事項とする。ただし、前條第七號の適用がある場合を除く。

2 前項の議決事項が第一分科会及び第二分科会以外の分科会の分掌事項に關連する場合には、審議會の会長が第一分科会会長及び第二分科会会長並びに当該關係分科会会長と協議して指定する三以上の分科会の合同の議決事項とする。

第四條 審議會に對する委員会の諮問事項で次に掲げるものは、分科会の分掌事項に應じて、一の分科会の議決事項又は審議會の会長が關係分科会会長と協議して指定する二以上の分科会の合同の議決事項とする。ただし、第二十五號を除く各号に掲げる事項については、第二條第七號の適用がある場合を除く。

一 重要文化財の指定及びその指定の解除

二 重要文化財(国宝を含む。以下同じ)の管理又は国宝の修理に關する命令

三 委員会による国宝の修理又は滅失、き損若しくは盜難の防止の措置の施行

四 重要文化財の現状変更の許可

五 前號の許可又はその許可の取消の権限の都道府県の教育委員会への委任

六 重要文化財の輸出の許可

- 七 重要文化財の環境保全のための制限若しくは禁止又は必要な施設の命令
- 八 重要文化財の買取
- 九 特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物の指定及びその指定の解除
- 十 史跡名勝天然記念物の仮指定の解除
- 十一 史跡名勝天然記念物（特別史跡名勝天然記念物を含む。以下同じ。）の管理又は特別史跡名勝天然記念物の復旧に関する命令
- 十二 委員会による特別史跡名勝天然記念物の復旧又は滅失、き損、衰亡若しくは盗難の防止の措置の施行
- 十三 史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可
- 十四 前号の許可又はその許可の取消の権限の都道府県の教育委員会への委任
- 十五 史跡名勝天然記念物の環境保全のための制限若しくは禁止又は必要な施設の命令
- 十六 史跡名勝天然記念物の無断現状変更等の行われた場合の原状回復の命令
- 十七 重要民俗資料の指定及びその指定の解除
- 十八 重要民俗資料の管理に関する命令
- 十九 重要民俗資料の買取
- 二十 記録作成等の措置を購すべき無

- 形の民俗資料の選択
- 二十一 委員会による埋蔵文化財の調査のための発掘の施行
- 二十二 重要無形文化財の指定及びその指定の解除
- 二十三 重要無形文化財の保持者の認定及びその認定の解除
- 二十四 記録作成等の措置を購すべき無形文化財の選択
- 二十五 前各号に掲げる事項のほか、審議会の会長が分科会において議決すべきものと認める事項
- 第五条 前二項の議決を行う場合において、分科会は、必要と認めるときは、他の分科会又は他の分科会の部会の意見を求めることができる。
- 第六条 委員会に対する審議会の建議は、審議会の総会の議決事項とする。
- 第七条 審議会の総会の議決事項は、関係分科会においてあらかじめ審議するものとする。

第一分科会における部会の設置及び議決事項の取扱に関する規程

(昭和二十九年十一月十九日 第一分科会決定)

- 第一条 第一分科会に左表上欄に掲げる部会を置き、各部会の分掌事項は、それぞれ同表下欄に掲げるとおりとする。

部会の名称	分掌事項
絵画彫刻部会	絵画又は彫刻である有形文化財に関する事項
工芸品部会	工芸品である有形文化財に関する事項
書跡部会	書跡典籍又は、古文書である有形文化財に関する事項
考古部会	考古資料に関する事項

- 第二条 左に掲げる第一分科会の議決事項で第一分科会長が緊急に処理することを要すると認めるもの及び文化財専門審議会の会長が第一分科会において議決すべきものと認めた事項のうち第一分科会長が部会において議決すべきものと認めるものは、部会の分掌事項に応じて、一の部会の議決事項又は第一分科会長が部会長と協議して指定する二以上の部会の合同の議決事項とする。
- 一 重要文化財（国宝を含む。以下同じ。）の管理又は国宝の修理に関する命令
- 二 重要文化財の輸出の許可
- 三 重要文化財の環境保全のための制限若しくは禁止又は必要な施設の命令
- 四 重要文化財の買取
- 第三条 第一分科会の議決事項は、関係部会においてあらかじめ審議するものとする。

第三分科会における部会の設置及び議決事項の取扱に関する規程

(昭和二十九年十一月十九日 第三分科会決定)

- 第一条 第三分科会に左表上欄に掲げる部会を置き、各部会の分掌事項は、それぞれ同表下欄に掲げるとおりとする。

部会の名称	分掌事項
史跡部会	記念物のうち貝塚、古墳、都城跡、城跡、旧宅その他の遺跡に関する事項
名勝部会	記念物のうち庭園、橋りょう、峡谷、海浜、山岳その他の名勝地に関する事項
天然記念物部会	記念物のうち動物（生息地、繁殖地及び渡来地を含む）、植物（自由地を含む）及び地質鉱物（特異な自然現象の生じている土地を含む。）に関する事項
民俗資料部会	民俗資料に関する事項
埋蔵文化財部会	埋蔵文化財に関する事項

- 第二条 左に掲げる第三分科会の議決事項で第三分科会長が緊急に処理するこ

(兼) 第三分科会
和辻 哲郎

部会長
部会長代理

本田 正次
渡辺 武男

分科会長代理
芸能部会
部会長
部会長代理

河竹 繁俊
河竹 繁俊
加藤 成之
久保田万太郎

分科会長

籾木外岐雄

内田清之助

部会長

小宮 豊隆

(臨・兼)

坂本 太郎

黒田 長礼

部会長代理

久保田万太郎

(臨)

瓜生 順良

黒田 長礼

部会長代理

小宮 豊隆

(臨)

賀屋 正雄

佐竹 義輔

部会長代理

小宮 豊隆

(臨)

大山 正

藤本 治義

部会長代理

高安 六郎

(臨)

石谷 憲男

吉井 義次

部会長代理

田辺 尚雄

(臨)

福井 政男

辻村 太郎

部会長代理

土岐 善麿

(臨)

小出 栄一

沼田 政矩

部会長代理

中村 祐吉

(臨)

細田 吉蔵

藤田 亮策

部会長代理

新関 良三

(臨)

町田 稔

八幡 一郎

部会長代理

野々村戒三

(臨)

武部 英治

梅原 末治

部会長代理

花柳芳三郎

史跡部会

原田 淑人

後藤 守一

部会長

本田 安次

部会長

坂本 太郎

長谷部言人

部会長

町田 嘉章

(兼)

石田 茂作

石田 茂作

(兼)

三宅周太郎

(兼)

梅原 末治

末永 雅雄

(兼)

西角井正慶

(兼)

後藤 守一

原田 淑人

(兼)

柳田 国男

(兼)

長谷部言人

福山 敏男

(臨・兼)

瓜生 順良

(臨)

藤島玄治郎

長谷部言人

(臨)

高橋 歳雄

(兼)

藤田 亮策

岡 正雄

(臨)

福田 繁

名勝部会

沼田 政矩

今 和次郎

部会長

西沢 昂一

部会長

吉永 義信

渡沢 敬三

部会長代理

野口 真造

部会長代理

辻村 太郎

西角井正慶

部会長代理

浜田 象二

天然記念物部会

沼田 政矩

久保田万太郎

(兼)

松田 権六

文化財保護委員会事務局内部組織

(文部省組織令抄)

(昭和二十七年八月三十日)
(政令第三百八十七号)

第二章 文化財保護委員会事務局
(事務局の分課)

第四十九条 文化財保護委員会事務局に左の六課及び文化財管理官一人を置く。

- 一 庶務課
- 二 会計課
- 三 記念物課
- 四 美術工芸課
- 五 建造物課
- 六 無形文化課

第五十条 庶務課においては、左の事務をつかさどる。

- 一 文化財保護委員会(以下「委員会」という。)の機密に関すること。
- 二 委員会の公印を制定し、並びに委員長、事務局長及び次長の官印及び委員会印を管守すること。
- 三 委員会の組織及び定員に関すること。
- 四 委員会の職員の職階、任免、給与、分限、懲戒、服務その他の人事並びに教養及び訓練に関すること。
- 五 委員会に関する栄典及び表彰に関すること。

すること。

六 委員会の所管行政について総合調査を行ふこと。

七 委員会の所掌事務に関する法令案を作成すること。

八 公文書類を審査し、接受し、発送し、編集し、及び保存すること。

九 委員会の所掌事務の監察に関すること。

十 委員会の政策の普及並びに文化財に関する知識の普及及び理解の徹底その他広報に関すること。

十一 委員会の所掌事務に関する会議、研究会その他の催しの主催又はこれらへの参加に関すること。

十二 文化財の保存又は活用に関する条約その他の国際約束の実施及び文化財の保存又は活用のための国際的諸活動に関すること。

十三 地方公共団体の行方文化財の保存及び活用のための措置に関し、教育委員会の報告を受け、及びこれに対し指導と助言を与えること。

十四 都道府県の教育委員会その他の関係機関に対し、委員会の所掌事務に関する一般的、共通の事項について連絡し、及び助言すること。

十五 委員会の所掌事務に関する民法(明治二十九年法律第八十九号)第三十四條に規定する法人に関する事務を処理すること。

十六 委員会に対する異議の申立及び委員会の行方聴聞に関する事務を処理すること。

理すること。

十七 委員会の所掌事務に関する事項の官報掲載に関すること。

十八 委員会及び文化財専門審議会の会議その他庶務に関すること。

十九 国立博物館及び国立文化財研究所に関する事務を処理すること。

二十 委員会の所掌事務で他の所掌に属しない事務を処理すること。

(会計課)
第五十一條 会計課においては、左の事務をつかさどる。

一 委員会の経費及び収入の予算、決算及び会計並びに会計の監査に関すること。

二 行政財産及び物品の管理に関すること。

三 国の所有又は占有に属する重要文化財(国宝を含む。以下第五十三條第一号及び第五十四條第一号の場合を除き同様とする)、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物(特別史跡名勝天然記念物を含む。以下同じ。)の管理について連絡調整すること。

四 委員会の管理する事務所等の營繕に関すること。

五 委員会の職員の衛生、医療その他福利厚生に関すること。

六 委員会の職員の共済組合に関すること。

七 委員会の職員に貸与する国設宿舍に関する事務を処理すること。

八 庁内の取締に関すること。

九 委員会の所掌事務に関する物資の割当及びあつ旋その他物資の確保についての総括に関すること。

(記念物課)
第五十二條 記念物課においては、左の事務をつかさどる。

一 重要民俗資料、史跡、名勝、天然記念物、特別史跡、特別名勝又は特別天然記念物の指定及びその解除に関すること。

二 無形の民俗資料のうち委員会が記録を作成すべきもの又は記録の作成等につき補助すべきものを選択に関すること。

三 重要民俗資料及び史跡名勝天然記念物の管理又は修理若しくは復旧についての命令、勧告、指示及び指揮監督に関すること。但し、建造物課の所掌に属するものを除く。

四 特別史跡名勝天然記念物の復旧及び滅失、き損、盗難又は喪失の防止の措置の施行に関すること。

五 重要民俗資料の現状変更及び輸出についての届出に関すること。

六 史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可及び史跡名勝天然記念物の環境保全のための制限若しくは禁止又は必要な施設の命令に関すること。

七 史跡名勝天然記念物についての原状回復の命令に関すること。

八 重要民俗資料及び史跡名勝天然記念物についての調査並びに史跡名勝天然記念物の調査のために必要な措置の施行に関すること。

九 重要民俗資料及び史跡名勝天然記念物の管理又は復旧についての届出に関すること。

十 重要民俗資料の出品又は公開についての命令、勧告、承認及び届出に関すること。

十一 出品され、又は管理若しくは修理の委託を受けた重要民俗資料の管理又は修理に関すること。

十二 管理又は復旧の委託を受けた史跡名勝天然記念物の管理又は復旧に関すること。

十三 無形の民俗資料の記録の作成等の実施に関すること。

十四 遺跡発見の届出に関すること。

十五 埋蔵文化財に係る土地の発掘に関する届出、指示及び命令に関すること。

十六 委員会による埋蔵文化財の調査のための発掘の施行に関すること。

置の施行に関すること。

九 重要民俗資料及び史跡名勝天然記念物の管理又は復旧についての届出に関すること。

十 重要民俗資料の出品又は公開についての命令、勧告、承認及び届出に関すること。

十一 出品され、又は管理若しくは修理の委託を受けた重要民俗資料の管理又は修理に関すること。

十二 管理又は復旧の委託を受けた史跡名勝天然記念物の管理又は復旧に関すること。

十三 無形の民俗資料の記録の作成等の実施に関すること。

十四 遺跡発見の届出に関すること。

十五 埋蔵文化財に係る土地の発掘に関する届出、指示及び命令に関すること。

十六 委員会による埋蔵文化財の調査のための発掘の施行に関すること。

十七 埋蔵物として委員会に提出された物件の鑑査に関すること。

十八 埋蔵物として委員会に提出された文化財で国庫に帰属したものの譲与及び譲渡に関すること。

十九 国の所有又は占有に属する重要民俗資料及び史跡名勝天然記念物並びに埋蔵物として委員会に提出された文化財で国庫に帰属したものの管理、修理及び復旧に関すること。

二十 重要民俗資料、選択された無形の民俗資料及び史跡名勝天然記念物

に關する台帳の整備に關すること。

二十一 民俗資料、記念物及び埋蔵文化財に關し、専門的、技術的な指導と助言を与えること。

二十二 有形の民俗資料、記念物及び埋蔵文化財に關する記録、写真、複写及び複製に關すること。

(美術工芸課)

第五十三条 美術工芸課においては、左の事務をつかさどる。

一 建造物以外の有形文化財(以下「美術工芸品」といふ)としての国宝又は重要文化財の指定及びその解除に關すること。

二 刀剣類の製作承認に關すること。

三 美術品若しくは骨とう品として価値のある火なわ銃式火器又は美術品として価値のある刀剣類の登録に關すること。

四 美術工芸品である重要文化財の管理又は修理についての命令、勧告、指示及び指揮監督に關すること。但し、建造物課の所掌に屬するものを除く。

五 美術工芸品である国宝の修理及び滅失、き損又は盗難の防止の措置の施行に關すること。

六 美術工芸品である重要文化財の出品又は公開についての命令、勧告、承認及び許可に關すること。

七 美術工芸品である重要文化財の現状変更及び輸出の許可並びにその環境保全のための制限若しくは禁止又

は必要な施設の命令に關すること。

八 美術工芸品である重要文化財についての調査に關すること。

九 重要文化財の輸出の禁止の確保に關すること。

十 美術工芸品である重要文化財の管理又は修理についての届出に關すること。

十一 出品され、又は管理若しくは修理の委託を受けた美術工芸品である重要文化財の管理又は修理に關すること。

十二 国の所有又は占有に屬する美術工芸品である重要文化財の管理又は修理に關すること。

十三 美術工芸品に關し、専門的、技術的な指導と助言を与えること。

十四 美術工芸品である重要文化財の管理及び修理に必要な資料を刊行すること。

十五 美術工芸品に關し、専門的、技術的な指導と助言を与えること。

十六 文化財保護法昭和二十五年法律第二百十四号)第百六条の規定によりなおその効力を有する旧重要美術品等の保存に關する法律(昭和八年法律第四十三号、以下「旧法」といふ)の施行に關する事務のうち美術工芸品に關するものを処理すること。

(建造物課)
第五十四条 建造物課においては、左の事務をつかさどる。

一 建造物としての国宝又は重要文化財の指定及びその解除に關すること。

二 建造物である重要文化財の管理又は修理についての命令、勧告、指示及び指揮監督に關すること。

三 建造物である国宝の修理及び滅失、き損又は盗難の防止の措置の施行に關すること。

四 建造物である重要文化財の出品又は公開についての命令、勧告、承認及び許可に關すること。

五 建造物である重要文化財の現状変更及び輸出の許可並びにその環境保全のための制限若しくは禁止又は必要な施設の命令に關すること。

六 重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物の管理のための防火施設その他の保存施設に關する命令、勧告、指示及び指揮監督並びに文化財の防火施設その他の保存施設に關する専門的、技術的な指導と助言に關すること。

七 建造物である重要文化財についての調査に關すること。

八 建造物である重要文化財の管理又は修理についての届出に關すること。

九 出品され、又は管理若しくは修理の委託を受けた建造物である重要文化財の管理又は修理に關すること。

十 国の所有又は占有に屬する建造物である重要文化財の管理又は修理に

關すること。

十一 建造物である重要文化財に關する台帳の整備に關すること。

十二 建造物に關し、専門的、技術的な指導と助言を与えること。

十三 建造物に關する記録、写真及び複製に關すること。

十四 旧法の施行に關する事務のうち建造物に關するものを処理すること。

(無形文化課)

第五十五条 無形文化課においては、左の事務をつかさどる。

一 重要無形文化財の指定及びその解除に關すること。

二 重要無形文化財の保持者の認定及びその解除に關すること。

三 重要無形文化財以外の無形文化財のうち委員会が記録を作成すべきもの又は記録の作成等につき補助すべきものの選択に關すること。

四 重要無形文化財の保持者に關する届出に關すること。

五 重要無形文化財についての記録の作成、伝承者の養成その他その保存のための措置の実施に關すること。

六 重要無形文化財の公開及び重要無形文化財の記録の公開についての勧告及び承認に關すること。

七 重要無形文化財の保存に關し、助言と勧告を与えること。

八 無形文化財の記録の作成等の実施に關すること。

九 文化財の修理技術者の養成に関すること。

十 重要無形文化財及び選択された無形文化財に関する台帳の整備に関すること。

(文化財管理官)

第五十六条 文化財管理官は、左の事務をつかさどる。

一 重要文化財についての国庫補助、国庫負担及び損害補償に関すること。

二 重要無形文化財についての国庫補助、国庫負担及び損害補償並びに重要無形文化財以外の無形文化財についての国庫補助に関すること。

三 重要民俗資料についての国庫補助、国庫負担及び損害補償並びに無形の民俗資料についての国庫補助に関すること。

四 史跡名勝天然記念物についての国庫補助、国庫負担及び損害補償に関すること。

五 重要文化財及び重要民俗資料の出品に対する給与金に関すること。

六 重要文化財及び重要民俗資料の買取に関すること。

七 委員会による埋蔵文化財の調査のための発掘の施行に係る損害補償に関すること。

八 埋蔵文化財の発見に対する報償金に関すること。

九 重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物を管理すべき地方

美術関係法規

公共団体その他法人の指定及びその解除に関すること。

十 委員会の権限の委任に関する事務を処理すること。

十一 文化財の保存及び活用に関する一般的統計調査に関すること。

十二 文化財に関する調査研究の委託に関すること。

附則

1 この政令は、昭和二十七年九月一日から施行する。

2 略

文化財保護委員会事務局

局長 岡田 幸平

次長 清水 康平

庶務課長 西森 馨

会計課長 細川 可賀

記念物課長 滝本 邦彦

美術工芸課長 本間 順治

建造物課長 服部 勝吉

無形文化課長 佐藤 薫

文化財管理官 宮沢 武司

東京国立博物館組織規程

(昭和二十六年一月三十一日) 文化財保護委員会規則第四号

沿革 昭和二十七年文化財保護委員会規則第二号(第一次改正)

昭和二十七年文化財保護委員会規則第九号(第二次改正)

文化財保護法(昭和二十五年法律第二百四十四号)第二十二條第四項の規定に基づき、東京国立博物館組織規程を次のよう

に定める。

東京国立博物館組織規程

(東京国立博物館の組織)

第一条 東京国立博物館(以下「東京博物館」といふ。)の所掌事務を分掌せしめるため、左の二部を置く。

庶務部

学芸部

(庶務課の分課)

第二条 庶務部に左の三課を置く。

管理課

会計課

普及課

(管理課の所掌事務)

第三条 管理課においては、左の事務をつかさどる。

一 機密に関すること。

二 別に文化財保護委員会から委任を受けた範囲における、職員の人事に

関すること。

三 公文書類の接受、発送、編集及び

保存に関すること。

四 公印を管掌すること。

五 東京国立博物館評議員会に関する

こと。

六 警備に関すること。

七 翻訳、通訳その他渉外に関するこ

と。

八 他部課の所掌に属さない事務を処理

すること。

九 東京博物館の所掌事務の総合調整

に関すること。

(会計課の所掌事務)

第四条 会計課においては、左の事務をつかさどる。

一 予算案の準備等予算に関すること。

二 経費及び収入の決算その他会計に

関すること。

三 行政財産及び物品の管理に関する

こと。

四 営繕に関すること。

五 職員福利厚生に関すること。

(普及課の所掌事務)

第五条 普及課においては、左の事務をつかさどる。

一 この館の事業を行うために必要な美術及び歴史に関する知識の普及に

関すること。

二 外国人に対しこの館の事業に関する

美術及び歴史資料を解説するこ

と。

三 この館の事業に関する出版物の刊

行及び頒布に関すること。

四 その他この館の事業の普及宣伝に

関すること。

2 普及課が前項各号の事務を行うに当

つては、学芸部各課の助言を得、又は

学芸部各課と連絡して処理するものと

する。

(学芸部の分課)

第六条 学芸部に左の四課を置く。

美術課

工芸課

考古課

資料課

(美術課の四室及び所掌事務)

第七条 美術課に、美術課の所掌事務を分掌せしめるため、絵画室、彫刻室、書跡室及び建築室の四室を置く。

2 絵画室、彫刻室、書跡室及び建築室の四室は、それぞれ絵画、彫刻、書跡及び建築に関する陳列品の収集、保管、陳列、鑑査、修理、模写、模造、調査研究及び解説に関する事務をつかさどる。

(工芸課の五室及び所掌事務)

第八条 工芸課に、工芸課の所掌事務を分掌せしめるため、金工室、刀剣室、陶磁室、漆工室及び染織室の五室を置く。

2 金工室、刀剣室、陶磁室、漆工室及び染織室の五室は、それぞれ金工、刀剣、陶磁、漆工及び染織に関する陳列品の収集、保管、陳列、鑑査、修理、模写、模造、調査研究及び解説に関する事務をつかさどる。

(考古課の四室及び所掌事務)

第九条 考古課に、考古課の所掌事務を分掌せしめるため、先史室、原史室、有史室及び土俗室の四室を置く。

2 先史室、原史室、有史室及び土俗室の四室は、それぞれ先史考古、原史考古、有史考古及び土俗に関する陳列品の収集、保管、陳列、鑑査、修理、模写、模造、調査研究及び解説に関する事務をつかさどる。

(資料課の五室及び所掌事務)

第十条 資料課に、資料課の所掌事務を分掌せしめるため、庶務室、資料室、図書室及び写真室の四室を置く。

2 庶務室は、学芸部の一般庶務をつかさどる。
3 資料室は、図書以外の資料の収集、整理、保管、閲覧及び調査研究に関する事務をつかさどる。
4 図書室は、図書の収集、整理、保管、閲覧及び調査研究に関する事務をつかさどる。
5 写真室は、写真の作成、収集、整理、保管、閲覧及び調査研究に関する事務をつかさどる。

6 資料課がその所掌事務を行うに当つては、学芸部各課と連絡して処理するものとする。

(館長及び次長)

第十一条 東京博物館に館長及び次長を置く。

2 館長は、館務を総理する。
3 次長は、館長を助けて館務を処理する。

(東京国立博物館評議員会)
第十二条 東京博物館に東京国立博物館評議員会(以下「評議員会」といふ。)を置く。

2 評議員会は、館長の諮問に応じて、東京博物館の重要事項について調査審議するのはか、東京博物館の重要事項について館長に助言するものとする。
3 評議員会は、二十人以内の評議員で組織する。

4 評議員は、学識経験のあるものの中から、文化財保護委員会が任命する。

5 評議員の任期は、二年とする。
6 この規則に定めるもののほか、評議員会の議事その他運営に関し必要な事項は、評議員会の議を経て、館長が定める。

附則

この規則は、公布の日から施行し、昭和二十五年八月二十九日から適用する。

附則(第一次改正の附則)

この規則は、昭和二十七年四月一日から施行する。

附則(第二次改正の附則)

この規則は、公布の日から施行し、昭和二十七年八月一日から適用する。

京都国立博物館組織規程

(昭和二十七年三月二十五日)
文化財保護委員会規則第三号)

文化財保護法(昭和二十五年法律第二百四号)第二十二條第四項の規定に基づき、京都国立博物館組織規程を次のように定める。

京都国立博物館組織規程

(京都国立博物館の組織)

第一条 京都国立博物館(以下「京都博物館」といふ。)の所掌事務を分掌させるため、左の二課を置く。

管理課

学芸課

(管理課の所掌事務)

第二条 管理課においては、左の事務をつかさどる。

- 一 機密に関すること。
- 二 別に文化財保護委員会から委任を受けた範囲における職員の人事に関すること。
- 三 公文書類の接受、発送、編集及び保存に関すること。
- 四 公印を管掌すること。
- 五 京都国立博物館評議員会に関すること。
- 六 翻訳、通訳、その他渉外に関すること。
- 七 予算案の準備等予算に関すること。
- 八 経費及び収入の決算その他会計に関すること。
- 九 行政財産及び物品の管理に関すること。
- 十 営繕に関すること。
- 十一 職員福利厚生に関すること。
- 十二 警備に関すること。
- 十三 他課の所掌に属さない事務を処理すること。
- 十四 京都博物館の所掌事務の総合調整に関すること。

(学芸課の五室及び所掌事務)

第三条 学芸課に、学芸課の所掌事務を分掌させるため、左の五室を置く。

- 普及室
- 美術室
- 工芸室
- 考古室

資料室

2 普及室においては、この館の事業に
関する出版物の刊行及び頒布、この館
の事業を行うために必要な美術及び歴
史に関する知識の普及その他この館の
事業の普及宣伝に関する事務をつかさ
どる。

3 美術室においては、絵画、彫刻、書
跡及び建築に関する陳列品の収集、保
管、陳列、鑑査、修理、模写、模造、
調査研究及び解説に関する事務をつか
さどる。

4 工芸室においては、金工、刀剣、陶
磁、漆工及び染織に関する陳列品の収
集、保管、陳列、鑑査、修理、模写、
模造、調査研究及び解説に関する事務
をつかさどる。

5 考古室においては、先史考古、原史
考古、有史考古及び土俗に関する陳列
品の収集、保管、陳列、鑑査、修理、
模写、模造、調査研究及び解説に関す
る事務をつかさどる。

6 資料室においては、写真の作製並び
に図書、写真その他資料の収集、整
理、保管、閲覧及び調査研究に関する
事務をつかさどる。
(館長及び次長)

第四条 京都博物館に館長及び次長を置
く。

2 館長は、館務を総理する。
3 次長は、館長を助けて館務を処理す
る。

(京都国立博物館評議員会)

美術関係法規

第五条 京都博物館に京都国立博物館評
議員会(以下「評議員会」という。)を
置く。

2 評議員会は、館長の諮問に応じて、
京都博物館の重要事項について調査審
議するのほか、京都博物館の重要事項
について館長に助言するものとする。

3 評議員会は、十五人以内の評議員で
組織する。

4 評議員は、学識経験のあるもの
らから、文化財保護委員会が任命す
る。

5 評議員の任期は、二年とする。

6 この規則に定めるもののほか、評議
員会の議事その他運営に関し必要な事
項は、評議員会の議を経て、館長が定
める。

附則

この規制は、昭和二十七年四月一日か
ら施行する。

奈良国立博物館組織規程

(昭和二十七年八月十四日)
(文化財保護委員会規制第八号)

文化財保護法(昭和二十五年法律第二
百十四号)第二十二條第四項の規定に基
き、奈良国立博物館組織規程を次のよう
に定める。

奈良国立博物館組織規程

(奈良国立博物館の組織)

第一条 奈良国立博物館(以下「奈良博
物館」という。)の所掌事務を分掌させ
るため、左の二課を置く。

管理課

学芸課

(管理課の所掌事務)

第二条 管理課においては、左の事務を
つかさどる。

一 機密に関する事。

二 別に文化財保護委員会から政任を
受けた範囲における職員の人事に関
すること。

三 公文書類の接受、発送、編集及び
保存に関する事。

四 公印を管掌すること。

五 奈良国立博物館評議員会に関する
こと。

六 内外文化の交流その他国際文化に
関すること。

七 予算案の準備等予算に関するこ
と。

八 経費及び収入の決算その他会計に
関すること。

九 行政財産及び物品の管理に関する
こと。

十 営繕に関する事。

十一 職員の福利厚生に関する事。

十二 警備に関する事。

十三 他課の所掌に属さない事務を処
理すること。

十四 奈良博物館の所掌事務の総合調
整に関する事。

(学芸課の五室及び所掌事務)

第三条 学芸課に、学芸課の所掌事務を
分掌させるため、左の五室を置く。

普及室
美術室

工芸室

考古室

2 普及室においては、この館の事業に
関する出版物の刊行及び頒布、この館
の事業を行うために必要な美術及び歴
史に関する知識の普及その他この館の
事業の普及宣伝に事する事務をつかさ
どる。

3 美術室においては、絵画、彫刻、書
跡及び建築に関する陳列品の収集、保
管、陳列、鑑査、修理、模写、模造、
調査研究及び解説に関する事務をつか
さどる。

4 工芸室においては、金工、刀剣、陶
磁、漆工及び染織に関する陳列品の収
集、保管、陳列、鑑査、修理、模写、
模造、調査研究及び解説に関する事務
をつかさどる。

5 考古室においては、先史考古、原史
考古、有史考古及び土俗に関する陳列
品の収集、保管、陳列、鑑査、修理、
模写、模造、調査研究及び解説に関す
る事務をつかさどる。

6 資料室においては、写真の作成並び
に図書、写真その他資料の収集、整
理、保管、閲覧及び調査研究に関する
事務をつかさどる。
(館長及び次長)

第四条 奈良博物館に館長を置く。館長
は、館務を総理する。

2 奈良博物館に次長を置くことができ
る。次長は、館長を助けて館務を処理

する。

(奈良国立博物館評議員会)

第五條 奈良博物館に奈良国立博物館評議員会(以下「評議員会」という)を置く。

- 2 評議員会は、館長の諮問に応じて、奈良博物館の重要事項について調査審議するのほか、奈良博物館の重要事項について館長に助言するものとする。
- 3 評議員会は、十五人以内の評議員で組織する。
- 4 評議員は、学識経験のあるものの中から、文化財保護委員会が任命する。
- 5 評議員の任期は、二年とする。
- 6 この規則に定めるもののほか、評議員会の議事その他運営に関し必要な事項は、評議員会の議を経て、館長が定める。

附則

この規則は、公布の日から施行し、昭和二十七年八月一日から適用する。

東京国立文化財研究所組織規程

(昭和二十七年三月二十五日)
文化財保護委員会規則第四号

沿革 昭和二十九年六月二十九日
文化財保護委員会規則第一号(第一次改正)

文化財保護法(昭和二十五年法律第二百十四号)第二十三条第四項の規定に基き、東京国立文化財研究所組織規程を次のように定める。

東京国立文化財研究所組織規程

(東京国立文化財研究所の組織)

第一條 東京国立文化財研究所の所掌事務を分掌させるため、左の三部及び一室を置く。

- 美術部
- 芸能部
- 保存科学部
- 庶務室

(美術部の三室及び所掌事務)

第二條 美術部に、美術部の所掌事務を分掌させるため、第一研究室、第二研究室及び資料室の三室を置く。

2 第一研究室においては、わが国の近代、中世及び近世の美術並びに東洋美術の調査研究並びにその結果の公表に関する事務をつかさどる。

3 第二研究室においては、わが国の近代及び現代の美術並びに西洋美術の調査研究並びにその結果の公表に関する事務のほか、黒田記念室に関する事務をつかさどる。

4 資料室においては、美術研究資料の作成、収集、整理、保管、公表及び閲覧並びに美術研究資料に関する写真の作成及びその原板の保管並びにエックス線写真、赤外線写真、紫外線写真その他の特殊写真による美術の研究に関する事務をつかさどる。

(芸能部の三室及び所掌事務)

第三條 芸能部に、芸能部の所掌事務を

分掌させるため、演劇研究室、音楽舞踊研究室及び郷土芸能研究室の三室を置く。

2 演劇研究室においては、演劇及びその保存に関する調査研究並びにその結果の公表に関する事務をつかさどる。

3 音楽舞踊研究室においては、音楽及び舞踊並びにその保存に関する調査研究並びにその結果の公表に関する事務をつかさどる。

4 郷土芸能研究室においては、郷土芸能及びその保存に関する調査研究並びにその結果の公表に関する事務をつかさどる。

(保存科学部の三室及び所掌事務)

第四條 保存科学部に、保存科学部の所掌事務を分掌させるため、化学研究室、物理研究室及び生物研究室の三室を置く。

2 化学研究室においては、文化財及びその保存に関する化学的及び分析的調査研究並びにその結果の公表に関する事務をつかさどる。

3 物理研究室においては、文化財及びその保存に関する物理学的調査研究並びにその結果の公表に関する事務をつかさどる。

4 生物研究室においては、文化財及びその保存に関する生物学的調査研究並びにその結果の公表に関する事務をつかさどる。

(庶務室の所掌事務)

第五條 庶務室においては、左の事務を

つかさどる。

一 別に文化財保護委員会から委任を受けた範囲における職員の人事に關すること。

二 公文書類の接受及び公印の管守その他庶務に關すること。

三 経費及び収入の予算、決算その他会計に關すること。

四 行政財産及び物品の管理に關すること。

五 職員福利厚生に關すること。

附則

1 この規則は、昭和二十七年四月一日から施行する。

2 美術研究所組織規程(昭和二十六年文化財保護委員会規則第五号)は、廃止する。

附則

この規則は、昭和二十九年七月一日から施行する。

奈良国立文化財研究所組織規程

(昭和二十七年三月二十五日)
文化財保護委員会規則第五号

沿革 昭和二十九年六月二十九日
文化財保護委員会規則第一号(第一次改正)

文化財保護法(昭和二十五年法律第二百十四号)第二十三条第四項の規定に基き、奈良国立文化財研究所組織規程を次のように定める。

奈良国立文化財研究所組織規程

(奈良国立文化財研究所の組織)

第一条 奈良国立文化財研究所の所掌事務を分掌させるため、左の四室を置く。

美術工芸研究室

建造物研究室

歴史研究室

庶務室

(美術工芸研究室の所掌事務)

第二条 美術工芸研究室においては、絵画、彫刻、工芸品、書跡その他建造物以外の有形文化財並びに工芸技術に関する調査研究並びにその結果の普及及び活用に関する事務をつかさどる。

(建造物研究室の所掌事務)

第三条 建造物研究室においては、建造物に関する調査研究並びにその結果の普及及び活用に関する事務をつかさどる。

(歴史研究室の所掌事務)

第四条 歴史研究室においては、考古及び史跡に関する調査研究並びにその結果の普及及び活用に関する事務をつかさどる。

(庶務室の所掌事務)

第五条 庶務室においては、左の事務をつかさどる。
一 別に文化財保護委員会から委任を受けた範囲における職員の人事に関すること。
二 公文書類の接受及び公印の管守その他庶務に関すること。
三 経費及び収入の予算、決算その他

会計に関すること。

四 行政財産及び物品の管理に関すること。
五 職員の福利厚生に関すること。

附則

この規則は、昭和二十七年四月一日から施行する。

附則

この規則は、昭和二十九年七月一日から施行する。

文部省社会教育局芸術課

文部省組織令(抄)

(昭和二十七年八月三十日)
(政令第三百八十七号)

(社会教育局の分課)

第二十三条 社会教育局に左の五課を置く。

一 社会教育課

二 体育課

三 芸術課

四 視聴覚教育課

五 著作権課

(芸術課)

第二十七条 芸術課においては、左の事務をつかさどる。

一 文学、音楽、美術、演劇その他の芸術及び国民娯楽に関し、左に掲げる事務を行うこと。

イ 情報、資料の収集及び利用に関すること。

ロ 研究集会、講習会、展示会その他の催しの主催又はこれらへの参加に関すること。

ハ 向上及び普及のための援助と助言に関すること。

二 国立近代美術館及び日本芸術院に關し、予算案の準備その他の他部局に属しない事務を処理すること。

三 芸術に関する団体との連絡に関すること。

附則

1 この政令は、昭和二十七年九月一日から施行する。

2 略

国立近代美術館

国立近代美術館関係
文部省設置法抜萃

文部省設置法(抄)

(昭和二十四年五月三十一日)
(法律第一四六号)

第二章 本省

第一節 内部部局

(社会教育局の事務)

第十条 社会教育局においては、左の事務をつかさどる。

一 国立科学博物館、国立近代美術館及び日本芸術院に關し、予算案の準備その他の他部局に属しない事務を行うこと。

(以下省略)

第二節 国立の学校その他の機関

(国立の学校等)

第十四条 第二十六条及び第二十七条に規定するもののほか、文部大臣の所轄の下に、国立の学校及び左の機関を置く。

日本ユネスコ国内委員会

国立教育研究所
国立科学博物館
国立近代美術館

緯度観測所
統計数理研究所
国立遺伝学研究所
国立言語研究所
日本芸術院

(評議員会)

第十五条 前条の機関のうち、国立教育研究所、国立科学博物館、国立近代美術館、統計数理研究所及び国立遺伝学研究所にそれぞれ評議員会を置く。

2 評議員会は、それぞれの機関の事業計画、経費の見積、人事その他の運営管理に関する重要事項について、それぞれの機関の長に助言する。

3 それぞれの機関の長は、評議員会の推薦により、文部大臣が任命する。

4 評議員会は、二十人以内の評議員で組織する。

5 評議員は、学識経験のある者のうちから、文部大臣が任命する。

6 評議員の推薦、任期その他評議員会の組織及び運営の細目については、政令で定める。

(国立近代美術館)

第二十条 国立近代美術館は、近代美術に関する作品その他の資料を収集、保管して公衆の観覧に供し、あわせてこれに関連する調査研究及び事業を行う

機関とする。

- 2 国立近代美術館は、東京都に置く。
- 3 国立近代美術館の内部組織は、文部省令で定める。

附則

- 1 この法律は、昭和二十四年六月一日から施行する。

(以下省略)

文部省設置法施行規則(抄)

(昭和二十八年一月十三日) 文部省令第二二号

第三章 所轄機関

第四節 国立近代美術館

(館長及び次長)

- 第四十五条 国立近代美術館に館長及び次長を置く。

- 一 館長は、館務を掌理する。
- 二 次長は館長を助け、館務を整理する。

(内部組織)

- 第四十六条 国立近代美術館に左の二課を置く。

一 庶務課

二 事業課

(庶務課)

- 第四十七条 庶務課においては、左の事務をつかさどる。

- 一 職員に人事に関する事務を処理すること。
- 二 職員の衛生、医療及び福利厚生に関する事務を処理すること。
- 三 公文書類を接受し、発送し、編集し、及び保存すること。

- 四 公印を管掌すること。

- 五 国立近代美術館の所掌事務に關し、連絡調整すること。
- 六 国立近代美術館評議員会に關すること。

- 七 予算に關する事務を処理すること。
- 八 経費及び収入の決算その他会計に關する事務を処理すること。
- 九 行政財産及び物品の管理に關する事務を処理すること。
- 十 展示会の保全の爲の警備に關すること。
- 十一 庁内の取締に關すること。
- 十二 前各号に掲げるものの外、他の所掌に關しない事務を処理すること。

(事業課)

- 第四十八条 事業課においては、左の事務をつかさどる。

- 一 近代美術に關する作品その他の資料を収集し、保管し、展示し、解説し、及び修理すること。
- 二 前号に掲げる資料を館外で展示すること。
- 三 近代美術に關し、専門的な調査研究を行うこと。
- 四 近代美術に關する出版物等を作成し、及びこれらを刊行、頒布する等利用に供すること。
- 五 近代美術に關する展覧会、講演会、講習会、映写会、研究会等の催しを企画し、及び実施すること。

- 六 第一号に掲げる資料の利用に關し、内外の美術館、博物館、その他関係団体等と連絡協力して、刊行物、情報の交換等の相互援助を行うこと。

附則

- 1 この省令は、公布の日から施行し、昭和二十八年一月一日から適用する。
- 2 左に掲げる省令は、廃止する。

(前略)

- 六 国立近代美術館組織規程(昭和二十七年文部省令第二十一号)(後略)

3 略

文部省組織令(抄)

(昭和二十七年八月三十日) 政令第三百八十七号

第一章 本省の内部部局

第四節 社会教育局

(芸術課)

- 第二十七条 芸術課においては、左の事務をつかさどる。

一 (省略)

- 二 国立近代美術館及び日本芸術院に關し、予算案の準備その他の他部局に關しない事務を処理すること。

三 (省略)

附則

- 1 この政令は、昭和二十七年九月一日から施行する。

2 (省略)

(以下省略)

文部省所轄機関評議員会令(抄)

(昭和二十四年七月十八日) 政令第二百七十四号

第三章 国立近代美術館評議員会(所掌事務)

- 第十二条 国立近代美術館に置かれる評議員会(以下「国立近代美術館評議員会」といふ)は、左に掲げる事項に關して審議し、国立近代美術館長に助言する。

- 一 国立近代美術館の行方毎年の事業の計画
- 二 国立近代美術館の行方事業の経費その他国立近代美術館の運営に必要な経費の見積
- 三 国立近代美術館の人事その他の運営管理に關する重要事項

- 第十三条 国立近代美術館評議員会は、(準用規定)

- 第十四条 第一条第二項から第四項まで、第二条第二項及び第三条から第九条までの規定は、国立近代美術館評議員会に準用する。

附則

- 1 この政令は、公布の日から施行する。(以下省略)

国立近代美術館評議員会運営規則

(昭和二十八年三月二十四日) 国立近代美術館評議員会決定

- 第一条 文部省所轄機関評議員会令(昭

和二十四年七月十八日政令第二百七十四号)に規定するものの外、国立近代美術館評議員会(以下「評議員会」といふ。)の議事その他運営に關し必要な事項は、この規則の定めるところによる。

第二条 会長は、會議の会長となり、議事を整理する。

第三条 発言しようとする者は、議長の許可を受けなければならない。

第四条 国立近代美術館長に対する助言の案を提出しようとする者は、案を作り、三人以上の賛成者と連署して、会長に差し出さなければならない。

第五条 動議は、賛成者がなければ、議題とすることができない。

第六条 議事の採決は、起立又は挙手によつて行ふ。但し議決により、記名投票又は無記名投票によつて行ふことができる。

第七条 評議員会に、幹事及び書記を置くことができる。

2 幹事及び書記は、国立近代美術館職員のうちから国立近代美術館長が任命する。

第八条 この規則に定めるものの外、評議員会の運営に關し必要な事項は、評議員会の承認を経て、会長が定める。

附則

この規則は、公布の日から施行し、昭和二十七年九月一日から適用する。

国立近代美術館運営委員会規程

美術関係法規

(運営委員会)

第一条 国立近代美術館(以下「館」といふ。)の事業運営等について協議するため、館に運営委員会を置く。

(議長)

第二条 運営委員会の議事を掌理するため、運営委員会に議長を置く。

3 議長は、館長をもつてあてる。

3 館長に事故があるときは、次長が議長の職務を代理する。

(運営委員)

第三条 運営委員会に運営委員十五人以上を置く。

2 運営委員は、学識経験ある者のうちから館長が委嘱する。

3 館長は、特に必要と認めるときは、臨時に運営委員を委嘱することができる。

4 次長は、運営委員会に出席して、議事に参加することができる。

(分科会)

第四条 運営委員会は、館の事業、運営上、特に必要と認めるときは、運営委員会の下に、分科会を設けることができる。

2 分科会の委員は、運営委員のうちから館長が委嘱する。

3 次長は、分科会の議長となる。

4 次長に事故があるときは、事業課長が議長の職務を代理する。

(資料の提出及び説明)

第五条 運営委員会及び分科会は、議事の必要により、館職員に資料の提出及び説明を求めることができる。

第六條 運営委員会の庶務は、館が掌る。

(その他)

第七條 前各条に規定する事項の外、運営委員会について必要な事項は、館長が運営委員会と協議して定める。

附則

この規程は、昭和二十七年九月一日から適用する。

日本芸術院

明治四十年勅令第二百二十号をもつて美術審査委員会官制が制定され、これに基き毎年文部省美術展覧会を開催し、美術審査委員会は美術展覧会の出品を審議した。大正八年に本官制が廃止され、新たに勅令第四百十七号をもつて帝国美術院規定が制定された。帝国美術院は文部大臣の管理に属し美術の発達を裨補することを目的とし、文部大臣の諮詢に依り、美術に關する意見を開示し、その他美術に關する重要事項を建設する機関であつた。

昭和十年勅令第四百十七号をもつて帝国美術院官制が新たに制定され、帝国美術院規定は廃止された。

昭和十二年勅令第二百八十号をもつて帝国芸術院官制が新たに制定され、美術部門の他に文学及び音楽の兩部門が加えられ、同時に帝国美術院官制を廃止された。

昭和二十二年政令第二百五十四号をもつて帝国美術院は日本芸術院と名称が変更され、昭和二十四年六月一日政令第二百八十一号をもつて日本芸術院令が制定せられ、日本芸術院官制は廃止されて今日に至つてゐる。

(文部省設置法抜萃)

第二節 国立の学校その他の機関

(国立の学校等)

第十四条 第二十六条及び第二十七条に規程するもののほか、文部大臣の所轄の下に、国立の学校及び左の機関を置く。

日本ユネスコ国内委員会

国立科学博物館

国立近代美術館

緯度観測所

統計数理研究所

国立遺伝学研究所

国立国語研究所

日本芸術院

(日本芸術院)

第二十五条 日本芸術院は、芸術上の功績顯著な芸術家を優遇するために置かれる機関とする。

2 日本芸術院会員には、予算の範囲内で、文部大臣の定めるところにより、年金を支給することができる。

3 日本芸術院の内部組織、会員その他職員及び運営については、政令で定める。

附則

1 この法律は、昭和二十四年六月一日

から施行する。

2 左の勅令及び政令は廃止する。但し、法律(これに基く命令を含む。)に別段の定がある場合を除くほか、従前の機関及び職員は、この法律に基く相當の機関及び職員となり、同一性をもつて存続するものとする。

文部省官制(昭和十七年勅令第七百四十八号)

日本芸術院官制(昭和十二年勅令第二百八十号)

日本芸術院令

(昭和二十四年六月一日) 政令第二八一号

内閣は、文部省設置法(昭和二十四年法律第四百十六号)第二十三条第三項の規定に基き、この政令を制定する。

(日本芸術院の目的)

第一条 日本芸術院は、芸術上の功績顯著な芸術家を優遇するための榮譽機関とする。

2 日本芸術院は、芸術に関する重要事項を審議し、芸術の発達に寄与する活動を行い、及び芸術に関する重要事項について文部大臣に建議することができ。

(組織)

第二条 日本芸術院は、院長一人及び会員百人以内で組織する。

2 日本芸術院に左の三部を置く。

第一部 美術

第二部 文芸

第三部 音楽、演劇、舞踊

3 会員は、いずれかの部に分属する。

第三条 会員は、部会が推薦し、総会の承認を経た候補者につき、院長の申出により、文部大臣が任命する。

2 前項の部会の推薦する者は、部会において芸術上の功績顯著な芸術家につき選挙を行い、部会員の過半数の投票を得た者とする。

3 前項の投票において、病氣その他の事故のため出席できない者は、郵便その他の方法により投票することができ。

第四条 会員は、終身とする。但し、会員が、退任を申し出た場合には、総会の承認を経てこれを認めることができる。

第五条 院長は、芸術に關し卓越した識見を有する者につき、会員の選挙により、過半数の投票を得た者を、文部大臣が、任命する。

2 前項の場合において、過半数の得票者のないときは投票の最多数を得た者一人につき、更に会員が投票を行い、多数の得票を得た者をもつて当選者とする。但し、得票数が同数のときは年長者をもつて当選者とする。

3 第三条第三項の規定は、前一項の選挙に準用する。

4 院長の任期は、三年とする。

5 院長は、非常勤とする。

6 院長は、院務を総理する。

7 院長に事故があるときは、部長のうち最年長者がその職務を代理する。

第六条 各部に属する会員により部長として互選された者は、各部の部務を掌理する。

2 部長は、三年ごとに改選する。(会議)

第七条 日本芸術院の会議は、總會、部会及び連合部会とする。

2 總會は、年一回、院長が招集する。但し、必要があるときは、臨時にこれを招集することができる。

3 部会は、部長が招集する。

4 連合部会は、關係する部の部長の申出により、院長が招集する。

5 總會は、会員の過半数が出席しなければ、議決をすることができない。但し、あらかじめ通知した議題について、書面をもつて意思を表示した者は、その議題に限り、出席したものと認めることができる。

6 總會の議決は、出席した会員の多数による。

7 前一項の規定は、部会及び連合部会の会議に準用する。(職員)

第八条 日本芸術院に事務長一人及びその他の職員五人以内を置く。

2 事務長は、院長の指揮をうけ、日本芸術院に關する庶務を整理し、その他の職員は、上司の指導をうけ、庶務に従事する。

(雜則)

第九条 この政令の定めるもののほか、日本芸術院の運営に關し必要な事項

は、總會の議を経て院長が定める。

附則

この政令は、公布の日から施行し、昭和二十四年六月一日から適用する。

日本芸術院會則

(昭和二十五年五月三十日) 總會 議決

第一条 日本芸術院各部の定員は、左に掲げる通りとする。

第一部 美術 五十名以内

第二部 文芸 三十名以内

第三部 音楽、演劇、舞踊 二十名以内

第二条 各部に左の分科を置く。

第一部 美術

第一分科 日本画

第二分科 洋画

第三分科 彫塑

第四分科 工芸

第五分科 書

第六分科 建築

第二部 文芸

第七分科 小説、戯曲

第八分科 詩歌

第九分科 評論、翻訳

第三部 音楽、演劇、舞踊

第十分科 洋楽

第十一分科 邦楽(能楽及び雅楽を含む)

第十二分科 演劇(人形劇及び映画を含む)

第十三分科 舞踊(洋舞及び邦舞を含む)

第十三条 日本芸術院会員の候補者を選考

するため、日本芸術院に日本芸術院会
員選考委員会を置く。

2 前項の委員会については、日本芸術
院会員選考委員会規則の定めるところ
による。

第四条 日本芸術院は卓越した芸術作品
と認められるものを製作した者及び芸
術の進歩に貢献する顕著な業績ありと
認める者に対して賞を授ける。

2 前項の授賞については、日本芸術院
授賞規則の定めるところによる。

第五条 院長は、総会及び連合部会の議
長となり議事を整理する。

2 部長は、部会の議長となり、議事を
整理する。

3 総会、部会又は連合部会の議事が、
可否同数のときは、議長の決するこ
ろによる。

第六条 一の部において、その部に属す
る会員の三分一以上の請求があるとき
は、その部の部長は部会を招集しなけ
ればならない。

2 二の部において、それらの部に属す
る会員の各三分の一以上の請求がある
ときは、院長は、連合部会を招集しな
ければならない。

第七条 部会または連合部会の議長は、
必要があると認めるときは、他の部に
属する会員中適当な者を指名して部会
または連合部会に出席を求め、その意
見を求めることができる。

第八条 会議を公開するか否かは、その
都度これを定める。

第九条 この会則の改正は、総会の議決
がなければ行ふことができない。

日本芸術院会員選考委員会規則

昭和二十五年五月三十日
総会 議決
昭和二十八年五月二十六日
一部 改訂
昭和二十九年五月二十一日
一部 改訂
正

第一条 日本芸術院令(昭和二十四年六
月一日政令第二八一号)第三条第二項
の規定による部会の行い選挙の候補者
(以下「候補者」という)を選考する
ため、日本芸術院に、日本芸術院会員
候補者選考委員会(以下「委員会」とい
う)を置く。

第二条 委員会は、三十人以内の委員を
もつて組織し、委員の任期は一年とす
る。但し、再選を妨げない。

2 委員に欠員を生じたときは、各部に
おいて予め定めた順位に従い委員を補
充する。

3 補充委員の任期は、前任者の残任期
間とする。

4 委員会に美術、文芸及び芸能の三選
考部会を置く。

第三条 日本芸術院の各部会員はその互
選により、各々十人以上の委員を選出
する。

第四条 日本芸術院長は、委員会の委員
長として、その会務を総理する。

2 委員長に事故があるときは、出席委
員により、代理委員長として互選され
たものが、委員長の職務を代理する。

第五条 委員会は、委員の過半数が出席
しなければ議事を開き、議決すること
ができない。但し、委員はやむを得な
い事情があるときは、自己の属する部
会の他の委員に、議決権を委任するこ
とができる。

2 前項の規定は、部会の議事に準用す
る。

第六条 日本芸術院会員は、その所属す
る部会に属すべき候補者を当該選考部
会に対し推薦することができる。

第七条 選考部会は、推薦された候補者
につき、選考に必要な調査をしなけれ
ばならない。

2 選考部会は、推薦者及び被推薦者に
対し、選考に必要な資料の提出を求め
ることができる。

3 選考部会は、日本芸術院会員、会員
以外の学識経験者等適当なる者から、
候補者の選考に関し、意見を聴取する
ことができる。

第八条 各選考部会は、被推薦者につ
き、その調査にもとづく調査書を作成
し、順位を附して委員会に報告しなけ
ればならない。

2 委員会は、選考部会の報告にもとづ
き、候補者に推薦された者について、
補充すべき会員数だけの無記名連記投
票を行う。

3 前項の場合各部の投票数は同数とな
るよう取り計い、また候補者が属すべ
き部会の委員の投票は二倍に計算する
ものとす。

第九条 委員会は、前条の選挙により、
出席委員の過半数の得票を得た者を当
選者とする。但し、過半数の得票者が
各部につき、その部にて補充すべき会
員数の二倍をこえるときは、その限度
に達するまで、得票順によつて候補者
を決定する。各部につき、過半数の得
票者のない場合は、最高点者と次点者
につき、決戦投票を行い、過半数を得
た者を当選者とする。

第十条 委員会は、候補者を決定した後
選考部会の報告にもとづいて審査報告
書を作成しなければならない。

2 前項の報告書には各被推薦者につ
いて、選考部会の決定した順位及び委員
会の得票数を記載しなければならな
い。

第十一条 委員会は、前条の規定により
作成した審査報告書を日本芸術院の各
部長に提出するものとする。日本芸術
院の各部は前項の審査報告書に記載さ
れた候補者について選挙を行う。

日本芸術院授賞規則

昭和二十五年五月三十日
総会 議決
昭和二十八年五月二十六日
一部 改訂
昭和二十九年五月二十一日
一部 改訂
正

第一条 日本芸術院は、卓越した芸術作
品及び芸術の進歩に貢献する顕著な業
績ありと認める者に対して授賞する。

第二条 賞は、恩賜賞及び日本芸術院賞
とす。

2 恩賜賞は、毎年一個とし、もしその年度内に授与しないときは、繰越して授与することができる。

第三条 賞は、賞状及び賞金とする。

第四条 賞は、日本芸術院会員でない者に授ける。但し擬賞の決議があつた後、会員となつた者は此の限りでない。

第五条 授賞は、日本芸術院会員の推薦による。

2 日本芸術院会員が授賞の推薦をしうとするときは、その所属する分科に属すべき候補者を毎年十二月その所属の部に提議しなければならない。

3 前項の提議があつた場合は、部会は各部会員により互選された委員をもつて組織する授賞候補者選考委員会(以下委員会という)において授賞候補者又は授賞候補作品の選考審査を行う。

4 委員は、各部より十名以内互選するものとする。委員の任期は一年とする。但し再選は妨げない。

5 委員会は、選考審査につき必要ある場合は、委員以外の日本芸術院会員又は学識経験者の意見を徴することができる。

第六条 委員会の議決は多数決による。

第七条 委員会は、選考並びに審査の経過及び結果を部に報告しなければならない。

第八条 部会における擬賞の議決には、投票総数の過半数の賛成を要する。

第九条 前条の規定によつて擬賞の議決のあつたときは、部長は部会における

結果について総会に報告しその承認を得なければならない。

第十条 擬賞の議決については、投票は無記名とする。

2 病氣その他の事故で出席することができないものは、封書で投票することができる。

第十一条 賞を受けた者は、受賞の目的である作品又は著書にその旨を表示することができる。

第十二条 擬賞の議決があつた後、賞を受くべき者が死亡した場合には、日本芸術院に授賞の旨を告示しその者に授くべき賞の処分を定める。

日本芸術院年金支給規則

(昭和二十五年五月三十日 総会 議決)

第一条 年金は区分して六月、九月、十二月、三月の四期にこれを支給する。

第二条 年金を支給する場合は、初年度において、その発令が六月三十日以前にある者は全額を、九月三十日以前にある者はその四分の三を、十二月三十一日以前にある者はその二分の一を、三月三十一日以前にある者はその四分の一を支給する。

2 年金受領者が死亡した場合の支給額は、その月の属する受給期分までとする。

日本芸術院会員

院長

昭和二三、八、一一 高橋誠一郎

第一部 会員

昭和一二、六、二四 鈴木健一(清方)

西山卯三郎(翠嶺)

前田 康造(青柳)

松林 篤(桂月)

安田新三郎(靱彦)

昭和二三、四、一七 福田平八郎

奥村 義三(土牛)

野田 道三(九浦)

小野 英吉(竹喬)

中村 恒吉(岳陵)

昭和二三、二、一五 堂本三之助(印象)

山口 三郎(逢春)

有島壬生馬(生馬)

石井 満吉(柏亭)

梅原龍三郎

小杉国太郎(放庵)

中沢 弘光

山下新太郎

和田 英作

和田 三造

昭和二三、四、一七 辻 永

須田国太郎

昭和二三、七、一四 川島理一郎

中村 研一

昭和二三、一〇、五 朝倉 文夫

北村 西望

斎藤 知雄

佐藤 清蔵

内藤 伸

平櫛倅太郎(田中)

藤井 浩佑

石井 鶴三

昭和三〇、一、一 吉田 三郎

昭和一二、六、一四 板谷 嘉七(波山)

清水 六和

昭和二三、四、一七 松田 権六

昭和二三、二、一五 高村 豊周

昭和二三、一、一 岩田 藤七

昭和二三、六、二四 尾上 八郎(柴舟)

昭和二三、七、一四 豊道 慶中(春海)

昭和二三、一、一 吉田五十八

昭和二三、〇、一、一 村野 藤吾

昭和二三、二、二八 徳岡 神泉

長谷川 昇

山鹿 清華

山崎覚太郎

第二部、第三部 会員略 (昭三二年現在)

正倉院評議会規程

(昭和二十二年七月十四日 宮内府訓令第八号)

改正(昭和二十一年六月一日 宮内府訓令第一号)

正倉院評議会規程

第一条 宮内庁に、正倉院評議会を置く。

第二条 正倉院評議会は、宮内庁長官の諮問に応じ、正倉院に関する重要事項を審議する。

第三条 正倉院評議会は、会長及び会員で、これを組織する。

第四条 会長及び会員は、宮内庁長官が、これを委嘱する。

第五条 会長は、会務を総理し、正倉院

評議会の意見を、宮内庁長官に答申する。

会長に事故があるときは、会長の指名する会員が、会長の事務を代理する。

第六条 正倉院評議会に、幹事及び書記を置く。

第七条 幹事及び書記は、宮内庁職員の中から、宮内庁長官がこれを命ずる。

第八条 幹事は、会長の命を受けて、庶務を整理する。

書記は、幹事の命を受けて、庶務に従事する。

正倉院評議会

- | | | |
|----|-------|-------|
| 会長 | 安部 能成 | 稲田 周一 |
| 会員 | 瓜生 順良 | 三井 安弥 |
| | 鈴木 菊男 | 高橋誠一郎 |
| | 西原 英次 | 原田 治郎 |
| | 原田 淑人 | 和辻 哲郎 |
| | 細川 護立 | 安田新三郎 |
| | 上野 直昭 | 浅野 長武 |
| | 藤田 亮策 | |
| 幹事 | 小宮 豊隆 | |
| | 石田 茂作 | 高尾 亮一 |
| | 本郷 定男 | 和田 軍一 |

帝室技芸員

帝室技芸員の制度は明治二十三年一〇月我が皇室におかせられて、明治維新以来芸術的に衰退し経済的に困窮していた当時の我が美術界振興の思召しから制定されたもので、帝室技芸員には人格芸術共に後進の師表と仰がれる大家を、特にそ

の為に選ばれた委員をして監衡させ、任命されたものである。

帝室技芸員名簿

拜命年月

日本画 安田 靱彦 昭和九年一二月

× 西山 翠峰 昭和一九年七月

堂本 印象 〃

楠木 清方 〃

前田 青邨 〃

松林 桂月 〃

洋画 和田 英作 昭和九年一二月

金山 平三 昭和一九年七月

中沢 弘光 〃

梅原龍三郎 〃

彫刻 朝倉 文夫 〃

平櫛 田中 〃

工芸 板谷 波山 昭和九年一二月

武力紛争の際の文化財の保護のための条約

武力紛争の際の文化財の保護のための条約

文化財が最近の武力紛争の間に重大な損害を被つてゐること及び交戦技術の発達のため文化財の破壊の危険が増大してゐることを認識し、

各国が世界の文化に貢献してゐるのであるから、いかなる国民に属する文化財に対する損害も全人類の文化的遺産に對する損害を意味するものであることを

確信し、

文化的遺産の保存が世界のすべての国民にとつて多大の重要性を有すること及びこの遺産に国際的保護を与えることが重要であることを考慮し、

千八百九十九年及び千九百七年のヘーグ条約並びに千九百三十五年四月十五日のワシントン条約において確立された武力紛争の間における文化財の保護に関する諸原則を指針とし、

このような保護が、平時時にその組織化のための国内的及び国際的措置が執られていない限り、効果的でありえないと認め、

文化財を保護するため可能なすべての措置を執ることを決意し、

次の条項を協定した。

第一章 保護に関する一般規定

第一条 文化財の定義

この条約の適用上、「文化財」とは、その源又は所有者のいかなる間わず、次に掲げるものをいう。

(a) 各国民が受け継ぐべき文化的資産にとつて多大の重要性を有する次のような動産又は不動産

- 建築上、芸術上又は歴史上記念すべき物(宗教的であると否とを問わない。)
- 考古学的遺跡
- 全体として歴史的又は芸術的に意義のある建物群
- 美術品

芸術的、歴史的又は考古学的に意義のある書跡、書籍その他の物件
科学的取集、書籍若しくは記録の重要な取集又は前掲の財の複製品の重要な取集
博物館、図書館、記録保管所その他の建造物であつて(a)に定める動産文化財を保存し、又は展覧することを主要なかつ実効的な目的とするもの及び(b)に定める動産文化財を武力紛争の際に防護するための避難施設

(b) 重要な取集

(c)(a)及び(b)に定める文化財が多数所在する集中地区(以下「文化財集中地区」という。)

第二条 文化財の保護

この条約の適用上、文化財の保護とは、文化財を保全し、及び尊重することをいう。

第三条 文化財の保全

締約国は、自国の領域内に所在する文化財を武力紛争による予測される影響に對して保全することを、適当と認める措置を執ることにより平時に用意することを約束する。

第四条 文化財の尊重

1 締約国は、武力紛争の際に破壊又は損害を受ける危険がある目的に自国及び他の締約国の領域内に所在する文化財、その直接の周辺及びその保護のために使用される施設を使用しないようにすることに、並びにその文化財に向けていかなる敵対行為をも行わないようにすることに、その文化財を尊重することを約束する。

2 本条1に定める義務は、真にやむをえない軍事上の必要がある場合にのみ免かれることができる。

3 締約国は、また、文化財のいかなる形における窃盗、略奪又は横領及び文化財に対するいかなる野蛮な行為をも禁止し、防止し、及び必要があるときは停止させることを約束する。締約国は、他の締約国の領域内に所在する動産文化財を徵発してはならない。

4 締約国は、文化財に対し復讐手段としていかなる行為をも行つてはならない。

5 締約国は、他の締約国が第三条の保全措置を実施しなかつたという事実を理由として、当該他の締約国に關し、本条に規定する義務を免かれることはできない。

第五条 占領

1 締約国は、他の締約国の領域の全部又は一部を占領した場合においては、被占領国の文化財の保全及び保存につき、その被占領国の権限のある機関をできる限り援助しなければならない。

2 占領地域内にある文化財で軍事行動によつて損傷を受けたものを保存するために措置を執る必要がある場合において、被占領国の権限のある機関がその措置を執ることができないときは、占領国は、できる限り、かつ、その被占領国の機関と密接に協力して、最も必要な保存措置を執らなければならない。

3 締約国であつて、その政府が対敵抵抗運動を行う者によつて正当政府と認められているものは、可能な場合には、この条約の文化財の尊重に關する規定に従ふ義務についてこれらの者の注意を喚起しなければならない。

第六條 文化財の標識の表示
文化財には、その識別を容易にするため、第十六条の規定に従い標識を附することができ。

第七條 軍事上の措置
1 締約国は、平和時に、この条約の遵守を確保するような規定を軍事上の規則又は訓令の中に入れること並びにその軍隊の構成員の間にすべての国民の文化及び文化財に対する尊重の精神を育成することを約束する。

2 締約国は、文化財の尊重を確保すること及び文化財の保全につき責任を有する文民機関と協力することを任務とする機関又は専門職員を、平和時に、自国の軍隊中に設置し、又はその設置を計画することを約束する。

第二章 特別保護
第八條 特別保護の付与
1 動産文化財を武力紛争の際に防護するための避難施設、文化財集中地区及び他の非常に重要な不動産文化財は、次の要件を満たす場合には、その数を限定して特別保護の下に置くことができる。

(a) 大きい工業地区又は攻撃を受けやすい地点たる重要な軍事目標（たと

えば、飛行場、放送局、国防のために使用される施設、比較的重要な港若しくは停車場又は交通幹線）から妥当な距離に所在すること。

(b) 軍事上の目的に使用されていないこと。

2 動産文化財のための避難施設は、爆弾による害を受けるおそれの全くないように造られてある場合には、その所在のいかなるを問はず、特別保護の下に置くことができる。

3 文化財集中地区は、軍事要員又は軍事資料の移動のため利用される場合においては、通過のため利用される時でも、軍事上の目的に使用されているものとみなされる。軍事行動、軍事要員の駐留又は軍事資料の生産のいずれかに直接に關係がある活動が文化財集中地区内で行われる場合も、同様とする。

4 特別に権限を付与された武装監視人が本条1に掲げる文化財を警衛すること又は公の秩序の維持を通常の任務とする警察隊がその近傍に所在することによつては、その文化財は、軍事上の目的に使用されているものとみなされない。

5 本条1に掲げる文化財が同項にいう重要な軍事目標の近辺に所在する場合においても、保護を要請する締約国が武力紛争の際にその軍事目標を使用しないことを約束するとき、及び特に港、停車場又は飛行場についてはその

締約国がすべての運輸を他に転換することを約束し、かつ、その転換を平和時に用意するときは、その文化財を特別保護の下に置くことができる。

6 特別保護は、文化財が「特別保護文化財国際登録簿」に登録されることによりその文化財に対して与えられる。この登録は、この条約の規定に従い、かつこの条約の実施規則に定める条件に基いてのみ行われるものとする。

第九條 特別保護の下にある文化財の不可侵
締約国は、国際登録簿への登録が効力を生ずる時から、特別保護の下にある文化財に向けていかなる敵対行為をも行わないようにすることにより、及び特別保護の下にある文化財又はその周辺を、第八条5に規定する場合を除くほか、軍事上の目的に使用しないようにすることに、その文化財の不可侵を確保することを約束する。

第十條 表示及び管理
特別保護の下にある文化財は、武力紛争の間、第十六条の識別標識により表示されるものとし、かつ、この条約の実施規則に定める国際管理の下に置かれるものとする。

第十一條 不可侵の停止
1 締約国が、特別保護の下にあるいずれかの文化財に關し、第九条に規定する義務に違反したときは、敵対国は、この違反が継続する間、その文化財の不可侵を確保する義務を免かれるものとする。ただし、敵対国は、可能なと

とす。

きは、あらかじめ、その違反行為を相当な期間内に終止するように要請しなければならぬ。

2 本条1に定める場合を除くほか、特別保護の下にある文化財の不可侵は、避けることができない軍事上の必要がある例外的な場合にのみ、かつ、その必要が継続する期間においてのみ、停止されるものとする。その必要の有無は、師団以上の大きさの部隊の指揮官のみが認定することができる。事情が許すときは、敵対国は、不可侵を停止する決定について、相当な期間の事前の通告を受けるものとする。

3 不可侵を停止する国は、できる限りすみやかに、この条約の実施規則に定める文化財管理監に対し、その旨を理由に記した書面により通告しなければならぬ。

第三章 文化財の輸送

第十二条 特別保護の下における輸送

1 もつぱら文化財を移動するための輸送は、一領域内で行われるものであると他の領域に向けて行われるものであるとを問わず、関係締約国の要請により、この条約の実施規則に定める条件に従つて特別保護の下に行うことができる。

2 特別保護の下における輸送は、前記の実施規則に定める国際的監督の下に行い、かつ、この輸送には、第十六条の識別標識を掲示しなければならぬ。

3 締約国は、いかなる敵対行為をも特別保護の下における輸送に向けて行わないようにしなければならぬ。

第十三条 緊急の場合における輸送

1 締約国が、特に武力紛争の初めに当り、ある文化財の安全のためその移動が必要であり、かつ、事態が緊急であるため第十二条に定める手続によることができないような場合であると認めるときは、すでに第十二条に定める不可侵の要請が行われ、かつ、拒否されている場合を除くほか、その輸送には、第十六条の識別標識を掲示することができる。この移動については、できる限り敵対国に通告しなければならない。ただし、他国の領域への文化財の輸送には、不可侵が明示的に認められていないときは、識別標識を掲示することができない。

2 締約国は、本条1の輸送であつて識別標識を掲示しているものに向けて敵対行為が行われないようにするため必要な予防措置をできる限り執るものとする。

第十四条 押収、拿捕及び捕獲からの不可侵

1 次のものに押収、捕獲又は拿捕からの不可侵を認めるものとする。

- (a) 第十二条又は第十三条に定める保護の利益を受ける文化財
- (b) もつぱら文化財を移動するための

輸送手段

2 本条の規定は、臨検及び捜索の権利を制限するものではない。

第四章 人員

第十五条 人員

安全保障上の利益に反しない限り、文化財の保護に携わる人員は、文化財の利益のために尊重されるものとし、敵対国の権力内に陥つた場合において、その者が責任を有する文化財も敵対国の権力内に陥つたときは、自己の任務を引き続き遂行することを許されるものとする。

第五章 識別標識

第十六条 条約の標識

1 この条約に定める識別標識は、下方がとがり、かつ、青色面と白色面とで斜め十字に四分された楕圓（一角がその楕圓の先端を形成する生青色の正方形、その正方形の上方の生青色の三角形及び両側にある一個ずつの白色の三角形からなつてゐるもの）の形をしたものとする。

2 この標識は、第十七条に定める条件に基づき、一個のみで、又は三個を三角状（一個の楕圓を下方に置く）に並べて使用する。

第十七条 標識の使用

1 三個を並べて用いる識別標識は、次のものを証示する手段としてのみ使用することができる。

- (a) 特別保護の下にある不動産文化財
- (b) 第十二条及び第十三条に定める条件に基づく文化財の輸送

(c) この条約の実施規則に定める条件に基づく臨時避難施設

2 一個のみの識別標識は、次のものを証示する手段としてのみ使用することができる。

- (a) 特別保護の下にない文化財
- (b) この条約の実施規則に従い管理の任に当る者
- (c) 文化財の保護に携わる人員

(d) この条約の実施規則に定める身分証明書

3 武力紛争の間、この識別標識の使用は、本条1及び2に定める場合を除き禁止され、また、この識別標識に類似する標識の使用は、目的のいかんを問わず禁止される。

4 識別標識は、締約国の権限のある機関が正当に日付を附して署名した証書が同時に掲示されていない場合には、いかなる不動産文化財に対しても附することができない。

第六章 条約の適用範囲

第十八条 条約の適用

1 この条約は、平和時に実施すべき規定のほか、宣戦布告があつた戦争その他締約国の間に生ずる武力紛争の場合において、それらの締約国の一又は二以上が戦争状態を承認しているときとを問わず、適用する。

2 この条約は、また、締約国の領域の一部又は全部が占領されたすべての場合について、その占領が武力抵抗を受けるか否かとを問わず、適用する。

3 紛争当時国の一がこの条約の締約国でない場合にも、締約国である諸国は、その相互の関係においては、この条約によつて拘束されるものとする。さらに、これらの諸国は、締約国でない紛争当事国の一がこの条約の規定を受諾する旨を宣言してその規定を適用する間、その国との関係においても、この条約によつて拘束されるものとする。

第十九条 国際的性質を有しない紛争

1 一 締約国の領域内に生ずる国際的性質を有しない武力紛争の場合には、各紛争当事者は、少くとも、この条約の文化財の尊重に関する規定を適用しなければならない。

2 紛争当事者は、特別の協定により、この条約の他の規定の全部又は一部を実施することに努めなければならない。

3 国際連合教育科学文化機関(以下「ユネスコ」といふ)は、その役務を紛争当事者に提供することができる。

4 前諸項の規定の適用は、紛争当事者の法的地位に変更を加えるものではない。

第七章 条約の実施

第二十条 条約の実施規則

この条約を実施する手続は、この条約の不可分の一部をなす実施規則に定めらる。

第二十一条 利益保護国

この条約及びその実施規則の適用は、

紛争当事国の利益の保全の任に当る利益保護国と協力して行われるものとする。

第二十二條 調停の手続

1 利益保護国は、文化財の利益になると認めるすべての場合、特にこの条約又はその実施規則の規定の適用又は解釈に關して紛争当事国間で意見が一致しない場合には、仲介をするものとする。

2 このため、各利益保護国は、紛争当事国の一若しくはユネスコ事務局長の要請又は自国の発意により、紛争当事国に対し、適切と認めるときは適当に選ばれた中立の地域で、紛争当事国の代表者、特に文化財の保護につき責任を有する機関が会合するように提案することができる。紛争当事国は、自国に対する会合の提案に従わなければならない。利益保護国は、中立国に属する者又はユネスコ事務局長の提示する者で前記の会合に議長として参加するよう招請されるべきものの氏名を、紛争当事国に提示して、その承認を求めなければならない。

第二十三條 ユネスコの援助

1 締約国は、その文化財の保護を組織化するに當り、又はこの条約若しくはその実施規則の適用から生ずる他のすべての問題に關し、ユネスコに技術的援助を求めることができる。ユネスコは、その事業計画及び資力の範囲内でこの援助を与えなければならない。

2 ユネスコは、自己の発意により前記の事項についての提案を締約国に対して行い権限を有する。

第二十四條 特別の協定

1 締約国は、別個に規定を設けることが適當であると認めるすべての事項について特別の協定を締結することができる。

2 この条約が文化財及びその保護に携わる人員に与える保護を減ずるような特別の協定は、締結することができない。

第二十五條 条約の普及

締約国は、平和時であると武力紛争時であるとを問はず、この条約及びその実施規則をできる限り広く自国内に普及させることを約束する。特に締約国は、この条約の原則をすべての住民、特に軍隊及び文化財の保護に携わる人員に知らせるため、軍隊の教育及びできれば文民の教育の中にこの条約についての学習を取り入れることを約束する。

第二十六條 訳文及び報告

1 締約国は、ユネスコ事務局長を通じて、この条約及びその実施規則の公の訳文を相互に通報するものとする。

2 締約国は、さらに、この条約及びその実施規則の実施に當つて自国政府が執り、用意し、又は考究している措置に關する情報で適當と認めるものを提供する報告書を、少くとも四年に一回、ユネスコ事務局長に提出しなければならない。

第二十七條 会合

1 ユネスコ事務局長は、ユネスコ執行委員会の承認を得て、締約国の代表者の会合を招集することができる。同事務局長は、締約国の五分の一以上の要請があつたときは、この会合を招集しなければならない。

2 この会合は、この条約及びその実施規則の適用に關する問題を研究し、並びにこれに關して勧告を作成することを目的とする。ただし、この規定は、この条約及びその実施規則によりこの会合に与えられた他のいかなる機能をも害するものではない。

3 この会合は、また、締約国の過半数が代表者を出席させたときは、第三十九条の規定に従ひ、この条約又はその実施規則の改正の手続を執ることができらる。

第二十八條 処罰

締約国は、この条約の違反行為を行ひ、又は行ふことを命じた者を、国籍のいかんを問はず、追求し、かつ、それらの者を刑に処し、又は懲戒するため必要なすべての措置を自国の通常の刑事管轄権の範囲内で執ることを約束する。

最終規定

第二十九條 用語

1 この条約は、英語、フランス語、ロシア語及びスペイン語で作成される。これらの本文は、ひとしく正文である。

2 ユネスコは、その總會の他の公用語によるこの条約の訳文が作成されるよ

うに取り計らうものとする。

第三十条 署名

この条約は、千九百五十四年五月十四日の日付を有し、千九百五十四年四月二十一日から千九百五十四年五月十四日までヘーグで開催された会議に招請されたすべての国による署名のため千九百五十四年十二月三十一日まで開放しておく。

第三十一条 批准

1 この条約は、署名国が各自の憲法上の手続に従つて批准するものとする。

2 批准書は、ユネスコ事務局長に寄託するものとする。

第三十二条 加入

この条約は、その効力発生の日から、第三十条の国でこの条約に署名しなかつたすべての国及びユネスコ執行委員会により加入を招請される他のすべての国による加入のため開放しておく。加入は、ユネスコ事務局長に加入書を寄託することによつて行ふ。

第三十三条 効力の発生

1 この条約は、批准書が五通寄託された後三箇月で効力を生ずる。

2 その後は、この条約は、各締約国につき、その国の批准書又は加入書の寄託の後三箇月で効力を生ずる。

3 第十八条又は第十九条に定める事態に際しては、武力紛争の状態又は占領の開始の前又は後に紛争当事者によつて寄託される批准書又は加入書は、直ちに効果を生ずる。この場合には、ユネスコ事務局長は、第三十八条の通報

を最も迅速な方法で伝達するものとする。

第三十四条 効果的適用

1 この条約の効力発生の日にこの条約の当事国である各国は、その効力発生の日の後六箇月の期間内に、この条約の効果的適用を確保するため必要なすべての措置を執るものとする。

2 前記の期間は、この条約の効力発生の日の後に批准書又は加入書を寄託する国については、その批准書又は加入書の寄託の日の後六箇月とする。

第三十五条 条約の適用地域の拡張

いずれの締約国も、批准若しくは加入の時に又はその後いつでも、ユネスコ事務局長にあてた通告書により、自国が国際関係について責任を有する領域の全部又は一部にこの条約が適用される旨を宣言することができる。この通告は、その受領の日の後三箇月で効力を生ずる。

第三十六条 従前の諸条約との関係

1 千八百九十九年七月二十九日若しくは千九百七年十月十八日の陸戦の法規慣例に関する条約(ヘーグ条約第四号)又は千九百七年十月十八日の戦時海軍力をもつてする砲撃に関する条約(ヘーグ条約第九号)により拘束され、かつ、この条約の当事国である国の間においては、この条約は、ヘーグ条約第九号及びヘーグ条約第四号附属の規則を補足するものであり、この条約及び

その実施規則が識別標識を使用すべきことを定める場合においては、この条約の第十六条の識別標識がヘーグ条約第九条の第五条に定める記章に代るものとする。

2 千九百三十五年四月十五日の芸術上及び科学上の施設並びに歴史的記念物の保護に関するワシントン条約(レトリック条約)により拘束され、かつ、この条約の当事国である国の間においては、この条約は、レトリック条約を補足するものであり、この条約及びその実施規則が識別標識を使用すべきことを定める場合においては、この条約の第十六条の識別標識がレトリック条約の第三条に定める識別旗に代るものとする。

第三十七条 廃棄

1 各締約国は、自国のために、又は自国が国際関係について責任を有する領域のためにこの条約を廃棄することができる。

2 廃棄は、ユネスコ事務局長に寄託される文書により通告されるものとする。

3 廃棄は、廃棄通告書の受領の後一年で効力を生ずる。ただし、廃棄しようとする国が、この期間の満了の時に武力紛争にまき込まれている場合には、その廃棄は、武力紛争の状態の終了又は文化財の送還措置の完了のいずれかおそい時まで効力を生じない。

第三十八条 通報

ユネスコ事務局長は、第三十一条、第三十二条及び第三十九条にそれぞれ定める批准書、加入書及び受諾の文書並びに第三十五条及び第三十七条にそれぞれ定める通告書及び廃棄通告書の寄託を第三十条及び第三十二条に掲げる国並びに国際連合に通報するものとする。

第三十九条 条約及び実施規則の改正

1 いずれの締約国も、この条約又はその実施規則の改正を提案することができる。改正案は、ユネスコ事務局長に通報するものとし、同事務局長は、その改正案を各締約国に転報するとともに、次のいずれかを選ぶかを四箇月以内に回答するように各締約国に要請するものとする。

(a) 改正案を審議するための会議の召集を希望すること。
(b) 会議によらずに改正案を受諾することに賛成であること。
(c) 会議によらずに改正案を拒否することに賛成であること。

第三十九条 条約及び実施規則の改正

1 ユネスコ事務局長は、本条1の規定に基いて受領した回答をすべての締約国に転報しなければならぬ。

2 すべての締約国が、所定の期限までにユネスコ事務局長に対し本条1(b)の規定の趣旨に従つて自国の意見を表明し、かつ、会議によらずに当該改正を受諾することに賛成である旨を同事務局長に通報した場合には、同事務局長は、第三十八条の規定の例により、締

約国によるこの決定を通告するものとする。その改正は、この通告の日から九十日の期間が満了した時にすべての締約国について効力を生ずるものとする。

4 ユネスコ事務局長は、三分の一をこえる締約国の要請があつたときは、当該改正案を審議するため締約国の会議を招集しなければならない。

5 前項の規定に従つて行われるこの条約又はその実施規則の改正は、会議に代表者を出した締約国が全会一致で採択し、かつ、各締約国が受諾した後に、おいてのみ効力を生ずるものとする。

6 本条4及び5に定める会議で採択されたこの条約又はその実施規則の改正の締約国による受諾は、ユネスコ事務局長に正式の文書を寄託することによつて行ふものとする。

7 この条約又はその実施規則の改正が効力を生じた後は、改正後のこの条約及びその実施規則のみを批准又は加入のため開放しておくものとする。

第四十条 登録

この条約は、国際連合憲章第二百二条の規定に従い、ユネスコ事務局長の要請により、国際連合事務局に登録されるものとする。

以上の証拠として、正当に委任された下名は、この条約に署名した。

千九百五十四年五月十四日にヘーグで本書一通を作成した。本書は、ユネスコの記録に寄託され、その認証謄本は、第

三十条及び第三十二条に掲げるすべての国並びに国際連合に送付される。

武力紛争の際の文化財の保護のための条約の実施規則

第一章 管理

第一条 国際名簿

ユネスコ事務局長は、この条約が効力を生じたときに、文化財管理監の任に当る資格のあるものとして締約国が指名したすべての者の国際名簿を作成するものとする。この名簿は、同事務局長の発意により、締約国が行う要請を基礎として定期的に改定される。

第二条 管理組織

いずれかの締約国が条約第十八条の規定の適用を受ける武力紛争の当事者になつたときは、直ちに、

- (a) その締約国は、自国の領域内に所在する文化財のための代表者一人を任命し、また、他国の領域を占領した場合には、その領域内に所在する文化財のための特別の代表者一人を任命し、
- (b) その締約国と紛争の状態にある各国のために行動する利益保護国は、第三条の規定に従い、その締約国への派遣委員を任命し、
- (c) 文化財管理監一人が、第四条の規定に従い、その締約国に対して任命される。

第三条 利益保護国の派遣委員の任命

利益保護国は、その外交職員若しくは領事職員のうちから、又は被派遣国の承

認を得てその他の者のうちから、派遣委員を任命するものとする。

第四条 文化財管理監の任命

1 文化財管理監は、被派遣国とその敵対国のために行動する利益保護国との間の合意により、国際名簿から選ばれるものとする。

2 前記の諸国は、この選任についての討議の開始の日から三週間以内に合意に達しないときは、国際司法裁判所長に管理監の任命を要請しなければならない。このようにして任命される管理監は、被派遣国がその任命を承認するまでは、任務についてはならない。

第五条 派遣委員の職務

利益保護国の派遣委員は、この条約の違反の事実を確認し、違反が生じた事情を被派遣国の承認を得て調査し、違反の停止を確保するために現地で申入れを行い、及び必要があるときは、違反を文化財管理監に通告しなければならない。利益保護国の派遣委員は、その行動を管理監が絶えず知つていようにしておかなければならない。

第六条 文化財管理監の職務

1 文化財管理監は、この条約の適用に關してその所掌に属させられたすべての事項を、被派遣国の代表者及び関係派遣委員と協力して、処理しなければならない。

2 管理監は、この規則に定める場合において、決定し、及び任命する権能を有する。

3 管理監は、被派遣国の同意を得て、調査を命じ、又はみずから調査を行う権限を有する。

4 管理監は、紛争当事国又はその利益保護国に対し、この条約の適用のため有益と認めるすべての申入れを行わなければならない。

5 管理監は、必要と認められるこの条約の適用に關する報告書を作成し、これを關係紛争当事国及びその利益保護国に送付しなければならない。管理監は、この報告書の写をユネスコ事務局長に送付しなければならない。同事務局長は、その技術的内容のみを利用することができる。

6 利益保護国がないときは、管理監は、条約第二十一条及び第二十二条に定める利益保護国の任務を行わなければならない。

第七条 監視官及び専門家

1 文化財管理監は、関係派遣委員の要請又はこれとの協議により必要と認めるときは、特定の職務を担当する文化財の監視官となるべき者を被派遣国に提示して、その承認を求めなければならない。監視官は、管理監に対してのみ責任を負う。

2 管理監、派遣委員及び監視官は、専門家の役務を用いることができる。これらの専門家についても、また、前項の国に提示して、その承認を求めるものとする。

第八条 管理の職務の遂行

文化財管理監、利益保護国の派遣委員、監視官及び専門家は、いかなる場合にもその職務の範囲をこえてはならない。これらの者は、特に、被派遣国たる締約国の安全保障上の必要を考慮しなければならず、また、いかなる事情の下においても、その締約国が行う軍事状況上の要求に従つて行動しなければならぬ。

第九条 利益保護国の代理

紛争当事国は、利益保護国の活動により利益を得ないか又は得なくなつた場合には、中立国に対し、第四条に定める手続による文化財管理監の任命に関する利益保護国の任務を引き受けるように要請することができる。このようにして任命される管理監は、必要があるときは、この規則に定める利益保護国の派遣委員が行うべき職務を監視官に委任するものとす。

第十条 費用

文化財管理監、監視官及び専門家の報酬及び費用は、被派遣国が負担するものとする。利益保護国の派遣委員の報酬及び費用については、利益保護国と利益を保護される国との間の合意によるものとす。

第二章 特別保護

第十一条 臨時避難施設

1 いずれの締約国も、武力紛争の間において、予測されなかつた事情のため臨時避難施設を設けることが必要になり、かつ、その施設を特別保護の下に

置くことを希望するときは、自国に派遣された文化財管理監にこれを直ちに通知しなければならない。

2 管理監は、その事情及びその臨時避難施設内に防護される文化財の重要性によりこのような措置を正当と認めるときは、その施設に条約第十六条に定める識別標識を掲示することを締約国に許可することができる。管理監は、その決定を利益保護国の関係派遣委員に遅滞なく通知しなければならない、これらの派遣委員は、いずれも、標識の即時の撤去を三十日の期間内に命ずることができる。

3 管理監は、当該避難施設が条約第八条に定める条件を満たしていると認められる場合において、前記の派遣委員が同意を表明したときは直ちに、又は関係派遣委員のいずれからも反対がなく三十日の期間が経過したときは、その避難施設を特別保護文化財国際登録簿に登録するようにユネスコ事務局長に要請しなければならない。

登録簿

1 「特別保護文化財国際登録簿」が作成されるものとする。

2 ユネスコ事務局長は、この国際登録簿を管理し、その写を国際連合事務局長及び締約国に送付しなければならない。

3 国際登録簿は、締約国名により部別する。各部は、避難施設、文化財集中

地区及び他の不動産文化財の各表題を附した三項に分ける。各部の細目は、ユネスコ事務局長が定めるものとする。

第十三条 登録の申請

1 いずれの締約国も、ユネスコ事務局長に対し、自国の領域内に所在する避難施設、文化財集中地区又は他の不動産文化財の国際登録簿への登録の申請書提出することができる。この申請書は、当該文化財の所在地について記述しており、かつ、その文化財が条約第八条の規定に合致することを証明するものでなければならない。

2 占領の場合には、占領国が前記の申請を行う権限を有する。

3 ユネスコ事務局長は、登録の申請書の写を遅滞なく各締約国に送付しなければならない。

第十四条 異議

1 いずれの締約国も、ユネスコ事務局長に於てた書簡により、文化財の登録について異議を申し立てることができる。この書簡は、同事務局長が登録の申請書の写を送付した日から四箇月以内に同事務局長により受領されなければならない。

2 この異議には、理由が述べられていなければならない。異議が有効であるための根拠は、次のいずれかに限る。
(a) その財が文化財でないこと。
(b) その財が条約第八条に掲げる条件を満たさないこと。

3 ユネスコ事務局長は、異議申立の書簡の写を遅滞なく各締約国に送付しなければならない。同事務局長は、必要がある場合には、記念物、芸術的遺産、歴史的遺跡及び考古学的発掘物に関する国際委員会の助言を求め、また、適切と認めるときは、適当な他の機関又は人の助言を求めるものとする。

4 ユネスコ事務局長又は登録を申請した締約国は、異議の申立をした締約国に対し、その異議を撤回させるため、必要と認められるいかなる申入れをも行うことができる。

5 平和時に登録を申請した締約国がその登録が行われる前に武力紛争にまき込まれたときは、当該文化財は、ユネスコ事務局長により直ちに、国際登録簿にかりに登録されるものとする。この登録は、異議の申立がある場合においては、その異議の承認、撤回又は否認があるまでの間のものとする。

6 ユネスコ事務局長が、異議申立の書簡を受領した日から六箇月以内に、異議の申立をした国からその異議を撤回した旨の通知を受領しない場合には、登録を申請した締約国は、次項の手続により仲裁裁判を要請することができる。

7 仲裁裁判の要請は、ユネスコ事務局長が異議申立の書簡を受領した日の後一年の期間が経過したときは、行うことができない。紛争の両当事者は、おのおの仲裁裁判官一人を任命するもの

とする。一の登録の申請に対し二以上の異議が申し立てられたときは、異議を申し立てた諸締約国は、共同して一人の仲裁裁判官を任命するものとする。これらの二人の仲裁裁判官は、第一条の国際名簿から首席仲裁裁判官を選定するものとする。これらの仲裁裁判官は、この選定について合意に達しないときは、国際司法裁判所長に首席仲裁裁判官の任命を要請するものとする。この場合には、首席仲裁裁判官は、必ずしも国際名簿から選ばれることを要しない。このようにして構成された仲裁裁判所は、みずからその手続を定めるものとする。その決定は、最終とする。

8 各締約国は、自国が紛議の当事者となつたときは、前項に定める仲裁手続の適用を希望しない旨を宣言することができる。この場合には、登録の申請に対する異議は、ユネスコ事務局長が締約国に付託するものとする。この異議は、投票した締約国の三分の二の多数をもつて異議の承認が決定された場合にのみ、承認されたものとする。投票は、事務局長が条約第二十七条の規定により与えられる権限に基づき会合を開催することが必要であると認めない限り、通信によつて行ふものとする。同事務局長は、通信による投票を行う旨を決定したときは、締約国に対し、封をした書状により投票を行うように要請するものとし、締約国は、そ

の要請を受けた日から六箇月以内に同事務局長に投票を送達するものとする。

第十五条 登録

1 ユネスコ事務局長は、第十四条1に定める期間内に異議の申立を受領しなかつたときは、登録の申請がなされた財を一件ごとに整理番号を附して国際登録簿に登録しなければならぬ。

2 異議の申立があつた場合には、ユネスコ事務局長は、その異議が撤回されたとき、又は第十四条7若しくは8に定める手続によりその異議が承認されなかつたときのみ当該財を国際登録簿に登録する。ただし、第十四条5の規定の適用を妨げるものでない。

3 第十一条3の規定の適用がある場合において、文化財管理監の要請があつたときは、ユネスコ事務局長は、当該財を国際登録簿に登録しなければならぬ。

4 ユネスコ事務局長は、遅滞なく、国際登録簿への各登録の認証謄本を、国際連合事務総長及び締約国に送付しなければならず、登録を申請した国の要請があつたときは、条約第三十条及び第三十二条に掲げる他のすべての国にも送付しなければならない。登録は、その謄本の発送の日の後三十日で効力を生ずる。

1 ユネスコ事務局長は、次の場合には、登録を消さなければならない。

(a) 当該文化財が所在する領域が属する締約国の要請があつた場合
(b) 当該登録を申請した締約国がこの条約を廃棄し、その廃棄が効力を生じた場合
(c) 第十四条5に定める特殊の場合において、第十四条7又は8に定める手続により異議が承認された場合

ユネスコ事務局長は、登録の消除の認証謄本を、国際連合事務総長及び当該登録の謄本を受領したすべての国に遅滞なく送付しなければならない。登録の消除は、その謄本の発送の日の後三十日で効力を生ずる。

第三章 文化財の輸送

第十七条 不可侵を得るための手続

1 条約第十二条1の要請は、文化財管理監にあてて行ふものとする。その要請書には、要請の根拠となる理由を記載し、並びに移動すべき物件の概数及び重要性、その現在の所在、その予定移動先、使用すべき輸送手段、予定輸送経路、予定移動期日その他関係がある情報を明記しなければならない。

2 管理監は、適當と認める意見を考慮に入れた上その移動を正當と認める場合には、提案された実施方法について利益保護国の関係派遣委員と協議するものとする。管理監は、この協議の結果に従い、関係紛争当事国にその移動について通告しなければならない。この通告は、すべての有益な情報を含むものでなければならない。

3 管理監は、要請書に記載された財のみが移動されること、その輸送が承認された方法により行われること及びその輸送に識別標識が附されていることを確認すべき一人又は二人以上の監視官を任命しなければならない。監視官は、目的地までその財と同行するものとする。

第十八条 国外輸送

特別保護の下における移動が他国の領域に向けて行われる場合には、その移動については、条約第十二条及びこの規則の第十七条のほか、次の諸項の規定を適用するものとする。

(a) 文化財が他国の領域内にある間、当該他国は、その文化財の保管者となり、その文化財に対し、それと同程度の重要性を有するその国の文化財に対すると同様の保管の措置を講じなければならない。
(b) 保管国は、紛争状態の終了後においてのみその文化財を返還するものとし、この返還は、それが要請された日から六箇月以内に行われなければならない。
(c) 寄託国及び保管国は、いずれも、当該文化財が移動されている間及び他国の領域内にある間は、これを没収し、及び処分してはならない。ただし、その文化財の安全のため必要があるときは、保管国は、寄託国の同意を得て、かつ、本条に定める条件に従いその文

化財を第三国の領域に輸送することができる。

(a) 特別保護の要請書には、自国の領域に向けて文化財が移動される国が本条の規定を受諾する旨を記載しなければならない。

第十九条 占領地域

他の締約国の領域を占領している締約国が文化財を当該領域内の他の場所にある避難施設に移動し、その移動の際第十条に定める手続に従うことができなかつた場合において、文化財管理監が、平常の管理者と協議の上、その移動が状況上必要であつた旨を書面で証明するときは、その移動は、条約第四条にいう横領とはみなされない。

第四章 識別標識

第二十条 標識の表示

1 識別標識の配置及び識別可能な程度は、各締約国の権限のある当局の裁量に任せるものとする。識別標識は、旗又は腕章に表示することができる。また、物件上に描き、又は他の適当な方法で表示することができる。

2 もつとも、武力紛争の際、条約第十条及び第十三条に定める場合には、標識は、上空からも地上からも日中明らかに識別することができるように輸送手段の上に附するものとする。ただし、さらに安全な表示方法によることを妨げない。

識別標識は、武力紛争の際、次の条件に従い地上で識別することができる

ものでなければならぬ。

(a) 特別保護の下にある文化財集中地区については、その外周を明らかに示すに足りる規則的間隔を置くこと。

(b) 特別保護の下にある他の不動産文化財については、その入口に置くこと。

第二十一条 身分証明

1 条約第十七条(b)及び(c)に掲げる者は、権限のある当局が発給しかつその印章を押した腕章であつて識別標識を附したものを着用することができる。

2 これらの者は、識別標識を附した特別の身分証明書を携帯しなければならない。この身分証明書には、少くとも所持者の氏名、生年月日、地位又は階級及び職務を記載するものとし、所持者の写真及びその署名若しくは指紋又はその双方を附し、かつ、権限のある当局の浮出印を押さなければならぬ。



3 各締約国は、この規則に例示として附したひな型にならつて自国の身分証明書の様式を定めるものとする。締約国は、自国が採用した様式の見本を相互に送付するものとする。この身分証明書は、できれば、少くとも二通作成し、その一通は、これを発給した国が保管するものとする。

4 前記の者は、正当な理由がない限り、この身分証明書をとり上げられることはなく、また、腕章を着用する権

裏面

所持者の 写真	所持者の署名若しくは指紋又はその双方	
証明書発給当局の 浮出印		
長身	眼	頭髪
その他の特徴		
.....		
.....		
.....		
.....		

表面

	
文化財の保護に携わる人員の 身分証明書	
姓
名
生年月日
地位又は階級
職務
上記の者は、千九百五十四年五月十四日の武力紛争の際の文化財の保護のためのヘーグ条約の規定に基づき、この証明書を所持する。	
発給年月日	証明書番号
.....

利を奪われることはない。

美術関係研究施設

東京大学史料編纂所

東京都文京区本富士町

電 小石川二一六六、三一八五

(内線二三〇一六)

史料編纂所は明治二年三月史料編輯国史校正局を旧和学講談所に設置したのに始まり其後数度の改変を経て明治二八年四月史料編纂掛として帝國大学文科大学に置かれ、更に昭和四年七月史料編纂所と改称した。同二年四月東京大学附置研究所に改組、現在に至つてゐる。本邦

に關する史料の研究、編纂及び出版を行い、第一部(編年史料)第二部(古文書)第三部(古記録)第四部(近世、維新史料)第五部(海外史料)第六部(史料調査)事務部の七部を置く。「所長」坂本太郎、「部長」(第一)坂本太郎、(第二)宝月圭吾、(第三)川崎庸之、(第四)伊東多三郎、(第五)岡田章雄、(第六)森末義彰

東京大学東洋文化研究所

東京都文京区大塚町五六

電 大塚五〇九、六九八六

東洋文化の綜合研究を目的として昭和一六年一月東京帝國大学内に設置された。昭和二三年四月、外務省所管東方文化学院を併合し、研究所を文京区大塚町に移した。設立当初は哲・文・史学部、法・政部、經・商部の三部門であつたが

昭和二四年新に三部門を加え、更に二六年二部門を増加し現在、一、哲学・宗教二、文学・言語学 三、歴史 三、文化人類学 五、人文地理学 六、美術史・考古学 七、法律・政治 八、経済・商業の八部門に分れてゐる。研究発表は講演会の外、本研究所発行の「東洋文化研究所紀要」或は東洋学会機関誌「東洋文化」を通じて行つてゐる。

〔所長〕飯塚浩二〔教授〕仁井田陞、飯塚浩二、江上波夫、結城令聞、植田捷雄、米沢嘉圃、(兼)山本達郎、(兼)丸山真男、川野重任、石田英一郎

東京国立文化財研究所 美術部

東京都台東区上野公園

電 駒込四四八七、一九二三

当所は故黒田清輝子爵の遺志に基き、その遺産を以て開始されたもので、昭和五年開設の準備完了とともに政府に寄附移管された。初め帝國美術院附屬として設置されたが昭和一〇年六月帝國美術院改革に伴い、新に美術研究所官制を制定、文部省所管、帝國美術院に附置され、次で昭和二年六月官制改正の上文部省の直轄研究所となつた。昭和二二年

国立博物館官制の成立とともに同館附屬の研究所となり、更に昭和二五年八月文化財保護法制定により国立博物館より分離し、美術研究所として文化財保護委員会の附屬となつた。次いで同二七年四月文化財保護法の一部改正に伴い東京文化財研究所が設置されるに及んで同研究所

の美術部として藝能部、保存科学部と共に新発足し、更に昭和二九年七月文化財保護法の一部改正により、東京国立文化財研究所美術部となつた。現在の内部組織は庶務室(東京国立文化財研究所の人事並びに業務全般の事務的統轄管理及び総合調整を行う)第一研究室(東洋及び日本古美術の調査研究を行う)第二研究室(日本の近代及び西洋美術の調査研究を行う)資料室(図書、写真等基礎資料の蒐集の他、特殊写真による光学的研究を行う)となつてゐる。定期刊行物としては「美術研究」「日本美術年鑑」があり、また「美術研究資料」や「研究報告」等を出版、その他随時講演会・特別展観等を開催する。なお所内には黒田記念室を設けその遺作を陳列、毎週木曜日午後公開してゐる。美術研究のために着実な基礎を提供すると共に文化財の保存活用に貢献してゐる。

〔所長〕田中一松〔美術部長〕福山敏男、〔室長〕熊谷宣夫、(第二研究室)隈元謙次郎、(資料室)中川千咲(二四、二四二、二五四頁参照)

産業工藝試験所

東京本所 大田区下丸子町三一三

電 蒲田六一四一、六一六

東北支所 仙台市二十人町通一〇

電 仙台 七四八、七四九

九州出張所 久留米市津福本町 三六

電 久留米 五三六・五三九

わが国固有の技術である木工・金工・漆工その他各種工藝産業の改善発達を図るため、昭和三年商工省に工藝指導所が設置され仙台市において事業を開始した。其後事業の進展に伴い東京における調査研究の必要を認め、昭和八年五月商工省内に本所出張員事務所を設け常時所員を駐在せしむる事となつた。昭和二二年八月には官制の改正に依り「木工及金屬工品」を「工藝品」に改め職員を増員し、必要と認められる地に支所を置き事務を分掌させることとなつた。昭和一四年八月に輸出工藝雜貨の中心地である大阪江の子島に関西支所を置き、翌一五年一月には商工省告示を以て工藝指導所本所を東京市に移転、又従来の仙台の施設を東北支所に改めて態勢を強化した。戦時中は研究の方向轉換を余儀なくされ、本所、関西支所は戦災焼失した。昭和二年一月川崎市久地元日本化学工場を借用し本所の再建を図ると共に同年八月久留米市に九州支所を設置、同二年四月には布施市に関西支所を新築した。昭和二六年内外情勢の推移に伴い、工藝に關する研究指導のほか工業意匠の改善研究、包装に關する研究等を加えて研究諸施設の整備充実を図つた。昭和二七年三月本所を現在地へ移設、同年四月機構を改め、関西支所を廃し、通商産業省工業技術院の管轄の下に名称も産業工藝試験所として新発足した。組織と事務分掌は左の通りである。

〔所長〕 松崎福三郎
〔指導部〕 藤井左内

指導課(明石一男)―技術相談、試験研究
研究成果の実施、講習、講演会、鑑査の
実施、技術員の養成、展示及び展示設
計等の業務。

調査課(齊藤重孝)―内外工芸技術、事
情の調査、機関誌の編集、写真技術の
応用研究。

〔意匠部〕 豊口克平

意匠研究課(服部茂夫)―工藝品、工業
製品の意匠の基礎的要素並びに原型に
関する試験研究。
意匠設計課(芳武茂介)―工藝品、工業
製品の意匠の設計。

〔技術第一部〕 福岡健太郎

木工技術課(新庄晃)―木材等の材料に
よる工藝品の工作技術の試験、研究、
試作。

金工技術課(櫻尾宗二)―金属等の材料
による工藝品の工作技術の試験、研究、
試作。

〔技術第二部〕 福岡和雄

試験課(小松和)―工藝品の品質及び材
料の試験、研究。
包装材料課(菅原晋)―包装に関する原
料、材料及び印刷に関する試験、研
究。

包装技術課(有吉金太)―包装容器及び
包装加工技術の試験、研究。

〔企画課〕 松田一雄―試験研究等の調整
事業報告の作成、広報業務。

〔庶務課〕 池田秀雄―庶務、人事、会計
用度、厚生。

〔東北支所長〕 安倍郁二

指導課(猪狩英一)―工藝及び意匠の技
術指導、調査並びに工藝品の意匠設計
等。

技術課(武田豊太郎)―工藝品の工作、
技術の試験、研究、試作。

試験課(鈴鹿清之介)―工藝品の品質、
材料及び原料に関する試験、研究。

庶務課(高島得末)―庶務、人事、会計
用度、厚生。

〔九州出張所長〕 船倉鉦―工芸技術の
指導、九州地方工芸事情の調査、木竹工
品、窯業、織維製品の意匠設計、試験、
研究。

京都大学人文科学研究所

京都市左京区北白川小倉町五〇
電 吉田四一一、四二二一

本研究所は昭和一四年八月、国家に須
要なる東亜に関する人文科学の総合研究
を行うため設立された京都大学人文科学
研究所を中核として、外務省所管東方文
化研究所と、財団法人西洋文化研究所を
合併して昭和二四年三月新に世界文化に
関する人文科学の総合研究を行う研究所
として発足した。創立の際には三部門であ
つたが、合併により一―一部門に増加し、
これを日本部、東大部、西洋部に分け相
互に協力して研究を推進している。「京
都大学人文科学研究紀要」其他出版物、
講演会によつて研究発表を行い、又人文
科学夏季講座を開いている。

〔所長〕 塚本善隆〔教授〕(日本部)坂
田吉雄(東大部)安部健夫、貝塚茂樹、水
野清一、森鹿三、藪内清、長広敏雄、岩

村忍、(西洋部)桑原武夫、清水盛光
奈良国立文化財研究所
奈良市春日野町五〇
電 奈良五五七五

昭和二七年文化財保護法の一部改正が
行われ、同法の規定に基き同年四月一
日、奈良市に当研究所が設置された。所
内の組織は庶務室、及び美術工芸研究室
(絵画、彫刻、工藝品の有形文化財並び
に工芸技術に関する調査研究を行う)建
造物研究室(建造物及庭園遺跡に関する
調査研究を行う)歴史研究室(考古及び
史跡並びに古文書に関する調査研究を行
う)の四室からなつている。

〔所長〕 田沢坦〔室長〕(庶務室)森

川幸男、(美術工芸研究室)小林剛、(建
造物研究室)森蘊、(歴史研究室)田沢坦
(二二四、二四二、二五四頁参照)

黒川古文化研究所

芦屋市打出春日町三四
電 芦屋二二九六

本研究所は黒川家歴代の蒐集品をもと
にし、理事長黒川幸七が京大教授梅原末
治指導の下に昭和二五年一〇月財団法人
黒川古文化研究所として設立されたもの
である。主として東洋古文化の調査研究
を目的とし、資料及び研究成果の印刷物
刊行、及び公開講演と展覧を行っている。

〔理事長〕 黒川幸七〔常務理事兼研
究員〕武藤誠、〔理事〕有光次郎、内田幾
助、梅原末治、辰馬悦蔵、江口治郎、石
崎喜兵衛、黒川いく子、魚澄惣五郎、(研
究員兼務)〔監事〕木村徳兵衛、西川源三

美術関係学会(五〇音順)
(括弧内は代表者)
京都大学美学会 京都市左京区吉田
京大文学部美学美術史研究室内 電吉田
四一一一学内(九〇)〔井島勉〕
藝術学会 文京区大塚窪町 東京教育
大学内 電 大塚一八一(田原輝夫)
古文化資料自然科学研究会 台東区上
野公園 東京国立文化財研究所保存科学
部内 電 駒込三七一一―五内線三八
(大賀二郎) 機関誌「古文化財之科学」発
刊
史学会 文京区本富士町東京大学文学
部内(坂本太郎)機関誌「史学雑誌」発刊
デザイン学会 台東区上野公園東京藝
術大学美術学部図案計画研究室内 電
⑧三七六一―六(勝見勝)
東方学会 千代田区西神田二ノ二 電
九段一〇六一(宇野哲人)機関誌「東方
学」年二回刊「東方学論集」不定期刊、
Books and Articles on Oriental
Subjects Published in Japan(年刊)、
The Transactions of the Internatio-
nal Conference of Orientalists in
Japan(年刊)
東洋学会 文京区本富士町 東京大学
東洋文化研究所内 電 小石川二二二一
内線二一九六(仁井田陞) 機関誌「東洋
文化」発刊
日本建築学会 中央区銀座西三ノ一

電 京橋一三三二、一三三八、三四四九、四五七二、六〇二〇、(佐藤武夫)機関誌「建築雑誌」発行

日本考古学会 台東区上野公園 東京国立博物館内 電 駒込三七一一一五 (原田淑人) 機関誌「考古学雑誌」発行

日本考古学協会 文京区本富士町 東京大学文学部考古学研究室内(藤田亮策)「日本考古学年報」発行

日本美術教育学会 京都市左京区吉田京大文学部美術学美術史研究室内 電 吉田四一一一学内九〇 (井島勉) 機関誌「美術教育」発行

日本民俗学会 杉並区西荻窪二ノ一二能田方

美学会 文京区本富士町一 東京大学文学部美学研究室内 電 小石川一一二一内線二三五一(竹内敏雄)機関誌「美学」発行

美術教育学会 台東区上野公園東京藝術大学美術学部内 電 駒込三七六一 (小塚新一郎)

美術史学会 台東区上野公園 東京国立文化財研究所内 電 駒込四四八七 (熊谷宣夫) 機関誌「美術史」発行

仏教史学会 京都市中京区東洞院三条上ル四四九 平楽寺書店内 電 本局一六(禿氏祐祥) 機関誌「仏教史学」発行

三田藝術学会 港区芝三田二ノ一 慶応義塾大学文学部美術史学研究室内 電 三田五一八一(守屋謙二)

早稲田大学美術史学会 新宿区戸塚町一ノ六四七 早稲田大学大学院文学研究

科藝術科研究室内 電 東京(4)四一四一内線八二(小杉一雄)

東北大学美術史学会 仙台市片平

丁 東北大学美術史研究室内 電

仙台(三)一一八一内線(六〇四、二五七、六二四)(村田潔)

美術教育施設

(学校)

東京藝術大学美術学部

台東区上野公園

電 駒込三七六一一六

東京藝術大学美術学部の前身東京美術学校は明治二〇年一〇月勅令を以て設置せられ、文部省専門学務局長浜尾新が学校長事務取扱を命ぜられ、同二年二月授業を開始した。同三年浜尾新に代つて岡倉寛三学校長となつたが、同三年退官し、彼と共に教授橋本雅邦以下多数の教授、助教授が辞職した。高嶺秀夫、久保田鼎に次いで同三四年正木直彦学校長となり昭和七年和田英作、同一年芝田徹心、同一五年沢田源一、更に同一九年六月上野直昭が学校長に任ぜられた。昭和二四年五月三一日法律第五十号を以て国立学校設置法が公布され、東京美術学校は東京音楽学校と共に新制大学に包括され東京藝術大学美術学部及び東京藝術大学東京美術学校として夫々発足した。初代の学長には上野直昭、美術学部長には村田良策が任ぜられ、美術学部長は村田良策の兼任となつた。次いで昭和

二七年三月三一日旧制課程廃止により東京美術学校及び同校附属工機技術講習所は廃止された。

美術学部の学科は本科だけとなり旧制師範科は昭和二七年三月三一日官制を以て廃止された。

(本科)

絵画科 (日本画、油画)

彫刻科 (石井教室、菊池教室)

工機科 (図案計画、金工、漆藝)

建築科

藝術学科

版画研究室

陶磁器研究室

材料研究室

修業年限 四年。授業料 年額九〇〇〇円。

入学資格

(1) 高校卒業者

(2) 通常の課程による一二年の学校教育を修了した者

(3) 文部大臣の指定した者

(4) 大学入学資格検定規程により文部大臣の行う大学入学資格検定に合格した者

(専攻科)

入学資格 本学卒業生及び他の新制大学卒業生

卒業生

(聴講生)

学生以外の者で本学に於て教授する科目中(実技を除く)一科目若しくは教科目を選び学習しようとするものは教授上差支ない場合に限り聴講を許可する。

(四月中に申込み)

聴講料一単位につき三〇〇円。

昭和三三年七月一日に於ける各科学生数は左の通りである。

〔絵画科〕 男一六七名、女七三名

〔彫刻科〕 男六八名、女一七名

〔工機科〕 男一九〇名、女五八名

〔建築科〕 男四八名、女二名

〔藝術学科〕 男三五名、女二二名

〔専攻生〕 男四三名、女一七名

〔聴講生〕 男六名、女一九名

尚、陳列館と正木記念館があり、随時展観を行い学生及び一般に公開している。

〔学長〕上野直昭〔美術学部長〕小塚新一郎〔教授〕村田良策、脇本十九郎、前田廉造、石井鶴三、丸山義男、松田義之、藤田亮策、岡田捷五郎、吉田五十八、内藤春治、松田権六、林武臣、西田正秋、新規矩男、菊池一雄、摩寿意善郎、須藤雅路、伊藤廉、小磯良平、山本豊、加藤一、山脇洋二〔兼任教授〕熊谷宣夫〔助教〕入谷昇、日下喜一郎、田中文雄、磯矢陽、久保守、内藤四郎、笹村良紀、吉村順三、三井安蘇夫、宮川ムツ、寺田春式、西本順、小池岩太郎、前田泰次、末田利一、六角頼雄、野口三千三、桜林仁、小口八郎、新村撰吉、後藤年彦〔講師〕菅原安男、村田徳松、須田善二、岩橋英遠、上原之節、高田正二郎、小山清男、千野茂、田中芳郎、鈴木信一、山本学治、伊藤茂之、山口薫、川合清、牛島憲之、加山四郎、淀井敏夫

電 中野九一〇

〔非常勤講師〕時田宗次、蔵田周忠、黒崎
静男、水谷武彦、佐藤隆三、豊田三郎、
清水正雄、酒井勉、吉川逸治、伊藤要太
郎、石田啓、成川武夫、時岡弘、蔵田蔵
毛利登、明石亀太郎、河野鷹思、松本栄
一、山田智三郎、吉野富雄、脇田和、女
屋勘左衛門、島村三七雄、高山英華

京都工藝繊維大学
本部 京都市上京区北野神
社前
電 (4)七二一七三

工藝学部 京都市左京区松ヶ崎
御所海道町
電 (7)四四一四四

繊維学部 京都市北区大将軍坂
田町
電 (4)六二一六三

明治三五年三月設置された京都高等工
藝学校は昭和一九年四月官制改正により
京都工業専門学校と改称、更に昭和二四
年五月京都繊維専門学校と合併して京都
工藝繊維大学工藝学部及び繊維学部とな
った。京都工業専門学校は昭和二六年三
月廃止された。

〔工藝学部〕 機械工藝学科、建築工藝
学科、色染工藝学科、窯業工藝学科、意
匠工藝学科(昭和29年増設)

〔繊維学部〕 養蚕学科、製糸紡績学科、
繊維化学科

学生定員は昭和三二年四月改正となり

〔工藝学部〕 (機械)一四〇名、(建築)
一〇〇名、(色染)一四〇名、(窯業)一二
〇名、(意匠)一〇〇名

美術教育施設

〔繊維学部〕 各学科一六〇名とする。

〔学長〕 中沢良夫 〔工藝学部長〕 荒
木長次 〔繊維学部長〕 服部達吉 〔美
術関係教授・講師〕 河本敦夫、土居次
義、福永俊吉、藤原義一、大倉三郎、高
原道夫、白石博三、明石国助、霜島正三
郎、松田尚之、石原正雄、相川浩、松岡
理、赤沢鍼太郎、山田新一、川端弥之助、
野口茂

京都市立美術大学
京都市東山区今熊野日吉町五〇
電 (6)七一四一

明治一三年七月京都御苑内旧准后里御
殿を仮校舎として京都府画学校在開校せ
られ明治三二年二月京都市に移管の上、
京都市画学校と改められ、明治四二年三
月京都市立絵画専門学校となり大正一五
年現地に移転した。昭和二〇年京都市立
美術専門学校と改称、更に昭和二五年新
制大学令により京都市立美術大学となつ
た。京都市立美術専門学校は昭和二七年
三月廃止された。

〔学部及学科〕 〔学生定員〕
美術学部 日本画科 一二〇名
西洋画科 一二〇名
彫刻科 四〇名
工藝科 一二〇名

圖案専攻、陶磁器専攻
塗裝専攻、染織圖案専攻
専攻科

〔学長〕川村多実二 〔教授〕榎原安造、
黒田重太郎、須田国太郎、久松真一、金
子光介、上野伊三郎、富本憲吉、金尾音

美、石村忠次、重久篤太郎、岡本午一、
佐和隆研、上村信太郎、川端弥之助、中
田勇次郎、辻晋堂、平館會一郎、小合友
之助、寺田勇、堀内正和、稲垣稔次郎、
近藤雄三

京都市立日吉ヶ丘高等学校
美術工藝課程
京都市東山区泉湧寺山内町
電 祇園四三、七〇

明治一三年京都府画学校在設立され、
その後同二四年に京都美術学校、二七年
に京都市立美術工藝学校と名称を変えた
が、更に昭和二三年京都市立美術高等学
校となり、同二四年には京都市立日吉ヶ
丘高等学校の総合制の中へ美術課程とし
て併置された。

〔学科〕 日本画科
西洋画科
彫刻科
図案科
漆藝科
陶藝科
服飾科

〔校長〕小林儀三郎 〔職員〕勝田哲、天
野大虹、川島浩、松下明治、錦義一郎、
留岡形、矢野判三、藤庭賢一、高橋慎吾、
安田謙、笠岡嘉一郎、水内平一郎、平石
晃祥、中島清、加藤英子、上村健治、原
照夫、田代誠、橋目雅子、寺井二三子、
武田恒夫

女子美術大学

杉並区和田本町八六〇

明治三三年本郷弓町に女子美術学校と
して創立された。後菊坂に移り、昭和四
年専門学校に昇格女子美術専門学校と改
称、同一〇年杉並に移転した。昭和二四
年四月新制大学として女子美術大学とな
った。

〔藝術学部〕
洋画科
日本画科
図案科
工藝科

〔学長〕加藤成之 〔主要職員〕竹中武
重、村岡景夫、沢柳大五郎、西田正秋、
坂崎坦、富永愷一、久野健、後藤守一、
秋山謙蔵、真崎公一、川島理一郎、木下
義謙、中山巍、森田元子、新道繁、佐々
木四郎、高須鞆子、春田安喜子、吉江麗
子、奥村土牛、三谷十糸子、片岡球子、
後藤芳仙、大塚和、麻生秀二、新井泉、
乗松敏、福田良一、由良玲吉、橋本徹
郎、河野鷹思、松井直樹、上原之節、高
田力之、桑沢洋子、柳宗悦、芹沢銈介、
柚木沙弥郎、柳悦孝

世田谷区玉川上野毛町二二三
電 玉川五六、二二〇六

昭和一〇年九月、北聆吉、牧野虎雄、
杉浦非水、近藤清吾らが名儀人となつ
て、多摩帝國美術学校が設立され、更に
昭和三二年専門学校令による多摩造形藝

二七三

術専門学校となつた。昭和二五年新制大
学令に伴い、三年制の短期大学として多
摩美術短期大学と改称したが、二八年度
より四年制の新制大学となつた。

〔学科〕

絵画科 (日本画、油画)

彫刻科 (塑造、木彫)

図案科(商業デザイン、工業デザイン)

修業年限 四年。

〔学長〕井上忻治 〔学部長〕逸見梅栄

〔常務理事兼事務局長〕村田晴彦

〔職員〕奥村土牛、郷倉千穂、森白甫、新

井勝利、島田訥郎、森田曠平、宮本三

郎、鈴木信太郎、鈴木保徳、岡田謙三、

鈴木誠、林武、大沢昌助、川端実、末松

正樹、菊地精二、高橋庸男、長屋勇、

佐々木大樹、笠置季男、早川巍一郎、円

鏝勝二、杉浦非水、山名文夫、吉田謙吉、

剣持勇、服部茂雄、石元泰博、重森弘滝、

脇リギオ、小林英夫、芹沢銈介、木村和

一、豊藤正文、青井辰夫、勝呂忠、三沢

寛三、山名有世

武蔵野美術学校

武蔵野市吉祥寺三二〇

電 武蔵野二四七二

昭和四年設立された帝国美術学校は同

二二年造型美術学園と改称され、更に同

二四年武蔵野美術学校となつた。

なお別にデザインを専門とする武蔵野

美術短期大学を併設している。

〔本科〕

日本画科

西洋画科

彫刻科

デザイン科

以上の入学資格は新制高校、旧制中

学卒業者

研究科

本校卒業程度以上

修業年限 四年。学生定員五〇〇名。

授業料年額 二〇、〇〇〇円。

〔校長〕名取堯 〔学長〕有光次郎

〔主要職員〕奥村土牛、川崎小虎、福田豊

四郎、三雲祥之助、鈴木信太郎、森芳雄、

山口長男、山口薫、麻生三郎、高島達四

郎、井上長三郎、斎藤長三、横地康国、

内田武夫、藤井令太郎、清水多嘉示、原

弘、亀倉雄策、三林亮太郎、河野鷹思、

棟方志功、金原省吾、板垣鷹穂

〔文部省指定図工科教員養成科〕

修業年限二ヶ年 入学資格高校卒以上

〔科長〕名取堯

〔中学図工二級免授与〕

教職員は同じ。

洋画通信教育部

本科・理論講座、実技講座、デザイ

ン講座

職員は同じ。

日本大学藝術学部

練馬区江古田町

電 落合三三三七

昭和二年文学部に藝術専攻科が設置さ

れたのに始まり、昭和二四年新制大学と

なり、大学院も併置している。

〔藝術学部〕

美術学科

音楽学科

文藝学科

演劇学科

写真学科

映画学科

〔藝術学部長〕渡辺俊平 〔美術学科主

任教授〕山脇巖 〔主要教員〕湯川制、桜

林仁、野口弥太郎、山本正、斎藤長三、

糸園和三郎、沢健太郎、柳原義達、深瀬

嘉臣、水谷武彦、三苦正光、富永惣一、

吉田謙吉、田中一松、阿部公正、西川

驥、高橋正年、鈴木太郎、麻生三郎、藤

岡一、原弘

日本美術学校

練馬区向山町一

電 練馬一九三九

大正六年、故早大教授紀淑雄により設

立された。

〔本科〕 修業年限二年、入学資格は新

制高校卒業生或は同程度の者

〔選科〕 修業年限二年、入学資格は新

制中学卒業或は同程度の者

〔研究科〕 年限を定めない、入学資格は

本科修了者及び同程度の者

〔別科〕 修業年限一年、勤労者のため

毎土、日曜日に教授する。特

に資格を問わない。

授業料 年額(本科)(選科)(研究科)六、

〇〇〇円。(別科)三、六〇〇円

他に査料、入学料を必要とする。

〔校長〕田中泰祐 〔講師〕(実技)林武、

高野真美、服部正一郎、鷹山宇一、村山

森人、高橋亮、村松乙彦、坂口英一、大
津鎮雄、寺戸恒晴、山本朝子、古田達
賛、中尾章、斎藤長三、荻太郎 (学科)
田中泰祐、青柳正広、佐波甫

文化学院 美術科

千代田区神田駿河台

電 (東京29)二二七四一五

大正一一年西村伊作により一般の学校

教育とは異なる自由教育を標榜して設立さ

れた。

〔美術科〕

〔夜間美術科〕

修業年限 二年。授業料年額一〇、〇〇

〇円。材料費三、〇〇〇円。

入学資格 旧制中学、新制高校卒業程

度。及び同等の実力を持つ

者。

〔日曜美術科〕

授業料年額五、〇〇〇円。材料費一、五

〇〇円。

〔院長〕西村伊作

岩手県立美術工芸高等学校

盛岡市内丸六九

盛岡短期大学美術工藝科参照。一般高

等学校の学課規程に従い、その他専門学

課と専門実習を課す。

〔学科〕

美術科(日本画専修、油絵専修)

工藝科(図案専修、木工専修、漆工専

修、金工専修)

〔校長事務取扱〕加藤英夫 〔主要職員〕加

藤英夫、松本総、池田龍甫、三ヶ尻正、

堀江起、海野経、深沢省三、佐々木一

郎、奈知安太郎、杉江康彦、中島喜雄、戸田芳鉄、照井儀也、菅原圭三、手塚健二、小関六平、松田俊男、多田進

金沢美術工藝大学

金沢市下本多町三番丁九
電 金沢(3)三五三〇、一

昭和二年七月金沢美術工藝専門学校が設立され同一〇月開校した。同二五年金沢美術工藝短期大学(三年制)として発足、同三〇年更に金沢美術工藝大学となり初代学長に森田亀之助が任命された。

〔美術工藝学部〕

美術学科(絵画専攻、彫刻専攻)

産業美術学科(工業意匠、商業美術)

修業年限四年、入学資格高校卒

〔学長〕森田亀之助 〔教授〕野田九浦、和田三造、高村豊周、小糸源太郎、畠山錦成、北出塔次郎、小松芳光、原田太一、高光一也、矩幸成、板垣應穂、秋山光夫、五井孝夫、平野謙一、天川維文、米永嘉勝、小竹武夫

美術観覧施設

〔東北地方〕

秋田市美術館

秋田市中城町六
電 秋田七五七五

昭和三年六月創立。鉄筋コンクリート平屋建、約九〇坪。郷土の文化的伝統の認識と、市民の美の教室として運営される。

〔館長〕 奈良環之助

〔観覧日〕 一〇月―三月(午前九時半―午後四時半) 四月―九月(九時―五時) 月曜休館

〔観覧料〕 二〇円

本間美術館

山形県酒田市浜畑町二二
電 酒田一四二九

昭和二年五月創立。地方文化に貢献するために旧本間家別邸を美術館として公開した。文書・陶器等東洋美術関係四〇〇点、洋画・版画等西洋美術関係五〇〇点を有し、年平均二五回展覧会を開いている。運営は別に組織された酒田美術協会が当っている。

〔館長〕 本間祐介

〔観覧日〕 月曜を除き、毎日午前九時―午後四時半

〔観覧料〕 四〇円

致道博物館

山形県鶴岡市家中新町戊一
電 鶴岡一一九九

昭和二年七月三月創立。維新後、藩校致道館廃止と共に、旧藩主酒井家邸内に図書研究所文芸堂を設け、各種郷土資料の研究調査公開を行つて来たが、昭和二五年財団法人以文会の設立と同時にこれを継承、同二七年博物館法により財団法人致道博物館になった。古文書五六八点、甲冑二〇点、刀剣三四点、書画数三五〇点、考古学資料二〇〇〇点、民族資料一五〇〇点等を有し、美術展・文化史展等を開き、また、民俗資料室、考古資料室を併設、常時公開している。

そのほか明治一七年建造の初期洋風建築荘内文化会館(県有形文化財)を敷地内に移築し、保存している。

〔館長〕 大塚又太郎

〔観覧日〕 毎日午前九時―午後五時

〔観覧料〕 展覧会の内容に応じて之を定める。

上杉神社釋照殿

山形県米沢市南堀端町三六
電 米沢一七三〇

大正一一年四月創立。上杉神社祭神謙信公及び鷹山公の遺品を収蔵。絵画、工芸品及文書約五〇〇点

〔観覧日〕 希望に応じ随時開館

〔観覧料〕 三〇円

物産工藝館

山形県小松町二九一一
昭和七年四月創立。財団法人組織。學術参考資料として支那、朝鮮及日本の古陶磁約五〇〇点を陳列公開する。

〔館長〕 井上庄七

〔観覧日〕 四、五、六、七、九、一〇の六ヶ月間、毎日午前一〇時―午後三時

〔観覧料〕 無料

中尊寺讀衛蔵

岩手県西磐井郡平泉町
電 平泉四

昭和三〇年五月三日竣工開館。一字金輪仏、大日如来、釈迦・弥陀・薬師の丈六仏、千手観音等の仏像を始め藤原四代副葬品及び多数の経巻、工芸品、古文書類に至る国宝重文を収蔵展観する。又同寺境内に金色堂(国宝)、経蔵(重要文化財)がある。

〔観覧日〕 四月―一〇月(午前八時―午後五時) 一二月―三月(午前八時半―午後四時半)

斎藤報恩会博物館

仙台市大聖寺裏門通三
電 仙台(2)四七七七

大正一二年二月創立。大正一二年文部省認可となり昭和八年に開館一般公開した。昭和二〇年戦災を受けたが二三年修理再開した。東北地方の自然科学資料、文化史資料を陳列する。

〔館長〕 斎藤養之助

〔観覧日〕 月曜日を除き毎日

〔観覧料〕 一〇円

貞観園保存会附属茶道美術館

新潟県刈羽郡高柳町大字岡野町
昭和一五年四月設立。延宝年間造園になる村山家の林泉および書籍、美術品を保存する。毎年数回の特別展を催す。

〔館長〕 村山駟嶺

〔観覧日〕 五月―十一月、月曜定休。

〔関東地方〕

茨城県立美術館

水戸市北三ノ丸県立図書館内
昭和二二年五月創立。新憲法公布を記念して設立され、美術思想の普及向上を図る目的を以て展覧会・講演会等の事業を行つている。日本画・洋画・彫刻・工芸の所蔵品がある。昭和三年右図書館内に移転。

〔館長〕 小島貢

〔観覧日〕 毎火曜日、年末年始、祝祭

日、毎月未整理日を除き毎日午前九時—午後四時三〇分。

〔観覧料〕二〇〇円

笠間町立美術館

茨城県西茨城郡笠間町

佐白山麓公園内

電 笠間四一

創立昭和二五年一月。県内外に存在する国宝指定の仏像の複製(石膏)を保存し、且、国宝仏像管理寺院の照会及び参観視察の便宜を計る。複製仏像の所蔵約一一点、他に随時絵画展なども行ふ。

〔館長〕 榎並栄

〔観覧日〕 毎日午前八時半—午後五時

〔観覧料〕 二〇〇円

鹿島神宮宝物館

茨城県鹿島郡鹿島町宮中

電 鹿島九

甲冑・古文書等鹿島神宮の宝物を陳列。

〔観覧日〕 毎日午前八時—午後五時

〔観覧料〕 一〇〇円

日光宝物館

栃木県日光市山内

電 日光一一四

大正四年五月東照宮三〇〇年祭記念事業として建設され、東照宮、二荒山神社、輪王寺所蔵の宝物類を陳列し、江戸時代の工藝品が多い。

〔観覧日〕 毎日、四月—一〇月午前八時—午後五時。十一月—三月午前八時—午後四時。

〔観覧料〕 二社一寺の殿堂拝観料一〇〇円中に含まれ、本館のみのはな

い。

長瀬汲古館

埼玉県秩父郡野上村大字

本野上四二四

電 野上七五

昭和三年四月創立。財団法人組織。考古、歴史参考資料秩父溪谷天然奇石ならびに化石を蒐集保管し、併せて展覧を行ふ。

〔館長〕 塩谷寛三郎

〔観覧日〕 月曜日をを除き無休。但、一二月は時により休館の予定。

〔観覧料〕 二〇〇円

〔東京〕

東京国立博物館

台東区上野公園

電 駒込三七一一五

創立は明治四年九月、湯島聖堂を陳列館として、古来の宝物、歴史的遺品を保存し、公衆の観覧に供する施設として発足した。後、千代田区内幸町に移した。初め文部省の所管であったが同八年に内務省の所管となり次で一四年農商務省の所管するところとなつた。この間、上野公園に新たな館を建設する議が成り寛永寺本坊跡に建設を始め、一五年三月開館した。敷地三三、〇〇〇余坪、本館は煉瓦石造、二階建、陳列室は三〇室一、一〇〇余坪であつた。一九年宮内省管理となり二二年帝國博物館と改められ、歴史、美術、美術工藝、工藝、天産の五部を設け、三三年帝室博物館に改められた。天産部は大正一四年文部省に移管された。大正天

皇の御成婚記念として造営された表慶館は明治四一年に竣工した。陳列本館は震災に大破し、其の後表慶館を列品陳列に充て昭和十二年従来の歴史課、美術課を廃し列品課に改め、別に学藝課を新設した。今上陛下の御即位記念事業である帝室博物館復興翼賛会の復興大工事が昭和一二年に竣工し、新築本館は同一三年一月開館された。昭和二年五月帝室博物館は文部省国宝調査室、同保存修理室及び美術研究所と合併し、文部省の管轄の下に国立博物館として発足した。陳列課、事業課、調査課、保存修理課、資料課、監理課、附屬美術研究所の六課一室制をとり、奈良帝室博物館は国立博物館奈良分館と称することとなつた。ついで昭和二五年八月文化財保護法が制定実施され、さきに国立博物館に合併された調査課、保存修理課は文化財保護委員会事務局保存部に入ることとなつて再び博物館から離れ、美術研究所も分離し、博物館は文化財保護委員会の附屬機関となつた。その内部組織は館長、次長の下に新に庶務、学藝の二部を設け、庶務部には管理、会計、普及の三課、学藝部には美術、工藝、考古、資料の四課をおき、また諮問機関として国立博物館評議員会を設置し、奈良分館には分館長の下に庶務、学藝、普及の三課が置かれたが二七年四月文化財保護法の一部改正にともない、当館は東京国立博物館と改称され、更に同年八月当館附屬の奈良分館は奈良国立博物館となつて東京国立博物館から

分離した。(二二四、二四二、二五一頁参照)

建物本館は、地上二階、地下二階、総面積六、五二二坪、鉄骨鉄筋コンクリート造りの東洋風建築である。

表慶館は建坪三九五坪、正面の長さ二八〇尺、中央高樓尖頭まで高さ凡一一〇尺、希臘羅馬の古代風を参酌した西洋式建築である。

又構内には九条道秀及び益田孝より夫々寄贈され、昭和一一年開館された九条館及応挙館がある。前者はもと京都御所内九条邸にあつたもので伝山楽山雪筆の四季楼閣山水図の画かれた床張付、襖等があり、後者には円山応挙筆の壁張付、襖等の建物がある。

〔館長〕 浅野長武〔次長〕 田内静三

〔部長〕 (庶務) 深見吉之助、(学藝)

野間清六、〔課長〕 (管理) 山田秀吉、

(會計) 出生清次郎、(普及) 岡田謙

(美術) 石沢正男、(工藝) 蔵田蔵、(考

古) 矢島恭介、(資料) 近藤市太郎

〔評議員〕 宇佐美毅、上野直昭、河田

烈、河原春作、小泉信三、小宮豊隆、坂

本太郎、徳川宗敬、杉栄三郎、原田淑人、

藤田亮策、三矢宮松、和辻哲郎

〔観覧日〕 月曜日、年末年始を除き、

三月—十月午前九時—午後四時半、十一

月—二月午前九時—午後四時

〔観覧料〕 大人三〇〇円、小人一五〇円

国立近代美術館

中央区京橋三ノ一

電 京橋六三二五、五七六

昭和二六年、文部省社会教育局が中心となつて準備が進められ、昭和二七年八月一日創立、二月一日開館。建物は旧日活会館を買上げ、建築家前川国男に依頼して改装した。更に昭和三三年三月、約七〇坪の拡張工事が完成し、近代日本における名作を常時陳列するようになった。(二五五―七頁参照)

敷地 二四〇坪

建坪 総坪数七三〇坪(鉄骨鉄筋コンクリート地上四階、地下一階)

〔観覧日〕 一月四日から二月二八日迄。午前一〇時―午後五時、毎月曜休館。

〔観覧料〕 大人五〇円。学生三〇円、小人二〇円

〔館長〕 岡部長景〔次長〕 今泉篤男〔庶務課長〕 原敏夫〔事業課長〕 河北倫明

〔評議員〕 稲田清助、石橋正二郎、細川護立、大谷竹次郎、河原春作、高橋誠一郎、団伊能、司忠、上野直昭、山下新太郎、矢代幸雄、前田廉造、松田権六、浅野長武、斎藤知雄、坂崎坦、岸田日出刀

〔運営委員〕 池田義信、飯島正、富永惣一、和田新、嘉門安雄、吉川逸治、滝口修造、村田良策、牛原彦彦、野園清六、隈元謙次郎、山田智三郎、前川国男、清水晶、島崎清彦、土方定一、関野嘉雄

美術観覧施設

東京都美術館

台東区上野公園二本杉原

電 〇三二七二六―八

大正一〇年平和博覧会記念事業期成実行会によつて東京に永久的美術館の設立が建議され、佐藤慶太郎の一〇〇万円の寄附及び大正一三年皇太子殿下御慶事に際し宮内省より現敷地約四、〇〇〇坪の無償貸与によつて、大正一三年九月起工、同一五年四月竣工した。五月聖徳太子奉讚美術展を開館記念として開催した。昭和四年東京府より約四〇万円を支出して別館を増築した。昭和一八年旧称東京府美術館を東京都美術館と改めた。昭和三年五月東京都は二五、〇〇〇万円の予算をもつて、二・三階増改築工事を着工、同三年三月竣工、総坪数五、二九三坪六合六勺となつた。

〔館長〕 早川治平〔副館長〕 常田正治〔係長〕 柿沼春雄、友部隆治、〔顧問〕 錦木清方、松林桂月、川端龍子、北村西望、奥村土牛、安田鞆彦、野田九浦、前田青邨、中村岳陵、平櫛田中、松田権六、板谷波山、岩田藤七、豊道春海、藤井浩佑、内藤伸、斎藤知雄、朝倉文夫、佐藤清蔵、小杉放庵、和田三造、山下新太郎、和田英作、石井柏亭、中沢弘光、辻水、有島生馬、梅原龍三郎、石井鶴三、上野直昭、吉田五十八、斎藤隆三、川島理一郎、高村豊周、中村研一、山口蓬春、吉田三郎、山崎覚太郎、伊東深水、堅山南風

〔参互〕 (日本画) 川崎小虎、児玉希望、

橋本明治、岩橋英遠、田中青坪、吉岡堅二、(洋画) 東郷青児、宮本三郎、田崎広助、中山巍、向井潤吉、野間仁根、脇田和、小寺健吉、小堀進、森田茂、森茂雄、中野和高、南大路一、村井正誠、(彫刻) 藤野舜正、山本豊市、木村珪二、菊地一雄、(工藝) 大須賀喬、内藤春治、宮之原謙、吉野醇一郎、(書道) 柳田泰雲、青山杉雨、金子鶴亭、香川京、(学識経験) 有光次郎、野園清六、谷信一、嘉門安雄、村田良策、隈元謙次郎、河北倫明、滝口修造、富永惣一、土方定一、田近憲三

一、東京都美術館処務規程(略)
二、東京都美術館顧問及び参互規程
第一条 東京都美術館(以下館という)に顧問及び参互若干人を置く。都教育委員会がこれを委嘱する。
第二条 参互の任期は二年とし、再任を妨げない。
第三条 顧問及び参互は館の運営について館長の諮問に応ずる。
第四条 館に常任参互若干人を置くことができる。参互の中から都教育委員会これを委嘱する。

附則
この規程は、昭和二十二年四月一日からこれを施行する。

附則 (昭和二十五年教育委員会規則第七号)
この規定は、公布の日から施行する。
東京都美術館使用条例
第一条 東京都美術館(以下館と称する)は、次の目的を有する者にこの条例に

よつて使用せしめる。

一、美術についての創作の展覧
二、新古典美術品の陳列
三、その他美術についての事業
前項各号の使用者がない場合に限り藝術等の会に臨時に使用せしめることができる。

第二条 館を使用しようとする者は、別に定める様式によつて、要項を記して館長の承認を受けなければならない。
第三条 前条によつて承認を受けた者は、使用料を前納しなければならない。但し、特別な事情があると認めるときは、相当の保証人を附け又は保証金を納めさせた上後納を許すことがある。

第四条 使用料は次の範囲内において教育委員会が定める。
一、全分区陳列室使用の場合 一日 五万六千円
二、一分区陳列室使用の場合 一日 五千円
三、彫塑室使用の場合 一日 五千円
四、記念室使用の場合 一日 三千円
五、会議室使用の場合 一日 千円
六、小講堂使用の場合 一日 千円
七、備付器具使用の場合 一台一日 二百円

部屋の模様替その他の設備を必要とするときは、

るときは、館長の承認を受けてその実費を納めなければならない。

看守、受付、下足等については、使用者がその費用によつてこれを施設しなければならない。

第五条 館の使用の承認を受けた後これを他に転貸することはできない。

第六条 既納の使用料はこれを還付しない。但し左の場合はその一部又は全部を還付することがある。

一、不可抗力によつて指定の場所を使用することができないとき。

二、館の都合によつて使用承認を取消したとき。

第七条 使用者が切符売場その他特別の設備をしようとするときは館長の承認を受けなければならない。

第八条 使用者が館についての諸規定及びこれに基いてする館長の指示を遵守せず又は公安風紀を紊る虞があると認められる場合には、館長は、使用者に対してその使用の承諾を取消することがある。

前項の処分によつて使用者に損害が生ずることがあつても、館は、その賠償の責を負わない。

第九条 使用者が使用を終り若くは使用中止したとき又は使用の承認を取消されたときは、速かに使用の場所を原状に回復し館長の検査を受けなければならない。

第十条 故意又は過失によつて建物及び使用物を汚損し又は毀損した場合は、

使用者はその賠償の責を負わなければならない。

第十一条 館長において必要と認めるときは、使用者に対して臨機の指示をなすことができる。

第十二条 この条例施行に必要な細則は都教育委員会が定めることができる。

附則

一、この条例は昭和三十三年四月一日から施行する。

二、この条例施行の際、現に使用の承認を受けているものについては、なお従前の例による。

東京都美術館使用規則(略)

演劇博物館

(早稲田大学坪内博士記念)

新宿区戸塚町一ノ六四七早稲田大学内

電 東京三四局二四一—九

昭和三年一〇月創立。坪内逍遙の古稀の賀及びシニエークスピア全集翻訳完成を記念して学界、藝能界其他有志数千名の拠出により創立、昭和三年一〇月開館した。西洋、日本の演劇に関する参考資料、文献を蒐集陳列して一般の観覧に供する一方、附属演劇図書館をもち、演劇研究及び調査の指導並びに受託など演劇文化の向上発展に資するを目的としている。なお回数随時特別展示会を開催する。早稲田大学の管理に属すが公共機関として一般に無料で公開されている。季刊「演劇博物館」を発行。

〔館長〕 河竹繁俊 「観覧日」 毎日常

前九時—午後四時。休館は毎月曜及び祭日の翌日、年末年始の他八月。

東洋美術陳列館

(早稲田大学附属、会津博士記念)

新宿区戸塚町、早稲田大学内

電 東京三四局一四〇—四

昭和九年会津八一により早稲田大学内恩賜記念館内に創立された。同二〇年戦局非となり、列品の大部分を疎開したが、一部は疎開中戦災に遭つた。二三年図書館内の旧貴賓室の一部を陳列、二九年一〇月学生会館隣設の新館に移り開館した。本学名誉教授会津八一の収集した各種美術品を陳列し、同氏の学藝に対する功績を記念する。中国各時代の明器最も多く、中国、日本の古代瓦・銅鏡・仏像、書道名蹟拓本等を主な収蔵品とする。本大学関係者及び特別希望者のみに無料で観覧させている。

〔観覧日〕 毎週、月・水・金曜日。午前九時—午後四時。

大倉集古館

港区赤坂葵町三

電 赤坂七八一

大正六年八月創立。財団法人大倉集古館は其の土地、建物、蒐集品、維持資金等悉く故大倉喜八郎がその授産記念として寄附したものである。創立当時土地四八二五坪、建物延一〇六四坪、美術品三六九二点、書籍一五、六〇〇冊であつたが大正二二年の大震災で蒐集品の大部分を焼失、大正一五年再び大倉男の寄附により現在の陳列館を起工、焼失を免れた

蔵品を基礎に多数の新収品を加え昭和三年八月開館した。本館は鉄筋コンクリート銅葺屋根延三三七坪の支那風建築である。絵画は毎月陳列替を行い、彫刻、工藝品等は三ヶ月—六ヶ月で陳列替を行う。

〔館長〕 大崎新吉

〔理事長〕大倉喜七郎 〔理事〕 大崎新吉、藤田武雄 〔評議員〕 門野重九郎

大倉喜七郎 大倉喜六郎 大崎新吉 大倉彦一郎 吉武一雄 藤田武雄 伊藤勇二 横田保 西本直民、門野正二

〔観覧日〕 四月—九月午前九時より午後四時迄、一〇月—三月午前一〇時より午後四時迄、但毎月曜、天皇誕生日、憲法記念日、勤労感謝の日、年末年始は休館。

〔観覧料〕 無料

書道博物館

台東区上根岸町一二五

昭和十一年一月創立。財団法人書道博物館は故中村不折が四〇年に亘つて蒐集した書道に関する参考品一二、〇〇〇余点を以て昭和十一年一月開館した。重要文化財一点がある。

〔館長〕 中村丙午郎

〔観覧日〕 月曜を除き毎日午前九時—午後四時 〔観覧料〕 一〇〇円

東洋文庫

文京区駒込上富士前町一四七

電 大塚二二九、六六八

大正六年九月岩崎久弥が前中華民國總統府顧問ジョージ・アーネスト・モリソ

ンより購入したモリソン文庫を核心とし、其後更に東洋に関する諸書の蒐集を行つたもので現在の場所に文庫を新築し大正一三年一月財団法人組織とし東洋文庫と称した。文庫の敷地、建物、図書其他一切の設備は岩崎久弥の寄附によるものである。終戦後昭和二三年八月以來、財団基金喪失のため、文庫の図書部は国立国会図書館の支部東洋文庫として運営されることとなり、研究部は従前の如く内外の寄附金により財団法人にて経営されている。事業としては前記の如く東洋関係の図書を蒐集し閲覧に供するとともに東洋学の研究上有益なる研究、図書の出版、稀覯書の複製をなし又講演会、展覽会等を行い、欧米東洋学諸学会の国際センターとして活躍し、また欧米少壮東洋学者の留学生をもうけられて補導している。

〔国会図書館支部東洋文庫長〕 岩井大慧〔理事長〕 細川護立〔理事〕 和田清 有光次郎 徳川宗敬 沢沢敏三 小倉正恒 山本達郎〔研究部長〕 榎一雄〔監事〕 岡東浩〔閲覧日〕 日曜祝祭日以外毎日午前八時―午後四時半、但毎木曜 午後閉館

〔閲覧料〕 無料、但し紹介を要す。
日本民藝館

目黒区駒場八六一
電 渋谷八七四二

昭和十一年一月創立。民藝品の蒐集並に常置陳列を行い、地方民藝の指導と開発に当るを目的とす。蒐集の事業は大

正一五年に始められたが、昭和十一年一月大原孫三郎の寄附によつて建物完成し、一二月財団法人組織となつた。

〔館長〕 柳宗悦〔閲覧日〕 月曜日を除き午前十一時―午後四時、但八月、一月、二月休館〔閲覧料〕 一〇〇円

根津美術館
港区赤坂青山南町六ノ一―一五
電 青山二五三六、二五八七

昭和十一年一月創立。根津嘉一郎の蒐集になる東洋美術品と邸宅庭園を、翁の歿後その遺志により寄附を受け財団法人根津美術館として設立し、翌一六年一月開館第一回展を開いた。以後、春秋二季の特別展と年数回の小展覧会を行つてきたが第二次大戦により建物を焼失したので二八年一月より早大教授内藤多仲、今井兼次郎の設計による鉄筋コンクリートの和風総坪数一九六の陳列館を新築、三〇年一月八日より常置陳列の美術館として開館、主な収蔵品は仏画、水墨画、写経、茶器、中国古銅器等。

〔館長〕 河西豊太郎〔主事〕 依田太郎〔学藝員〕 酒井千尋 奥田直栄

〔閲覧日〕 月曜日、祝日の翌日、年末年始及八月中を除き毎日午前九時半―午後四時半

〔閲覧料〕 五〇円
プリチストン美術館
中央区京橋一ノ一
電 京橋六三七一

昭和二十七年一月開館。石橋正二郎によりブリヂストンビルの二階に創設された

常設美術館で、所蔵の西洋及日本近代の油絵、彫刻を主として陳列する。

〔顧問〕 和田英作、細川護立、浅野長武〔参事〕 上野直昭、入間野武雄、大原総一郎、久保貞次郎、矢代幸雄、松本栄一、福島繁太郎、秋山光夫、今泉篤男、河北倫明〔運営委員長〕 団伊能

〔運営委員〕 石橋幹一郎、伊原宇三郎、猪熊敏一郎、富永惣一、嘉田安雄、谷信一〔主事〕 岩佐新

〔閲覧日〕 月曜を除き午前十一時―午後五時半。七、八月に限り日曜休館。

〔閲覧料〕 五〇円
牧野記念館
(駒場高等学校美術館)
目黒区上目黒八ノ六六〇
都立駒場高校内
電 渋谷二〇〇八

昭和二十五年七月創立。故牧野虎雄の遺作油絵七七点、スケッチブック一〇冊、絵具一式、衣類若干、他関係資料数点、海外名画複製(一九世紀から現代まで)約四〇点収蔵。春秋二回特別展覧会を行い、他は生徒作品展をはじめ内外ポスター、工芸、デザイン、古美術、書及び各美術大学作品展等年間を通じ開催。

〔閲覧日〕 希望により随時開館

〔閲覧料〕 無料
明治神宮宝物殿
渋谷区代々木外輪町
電 東京三七局一六、一一七

大正一〇年一月開館。明治神宮儀式

課の所管で、明治天皇、昭憲皇太后の御物を保管陳列する。

〔閲覧日〕 無休。四月―九月毎日午前八時半―五時、十一月―三月午前九時―四時

〔閲覧料〕 四〇円
大東急記念文庫
目黒区上目黒七ノ一〇九四
電 渋谷七三七三

東京急行電鉄株式会社取締役会長五島慶太が旧久原文庫を譲り受け、大東京急行電鉄の一大組織を現在の東京急行・京浜急行・京王帝都・小田急の四電鉄と東横百貨店の五社に分離の際に、その記念事業の一つとして、五社及び東映の協力のもとに昭和二四年四月財団法人組織の本文庫を設立したもの。古板本二万五千数百点を蔵し、すでに国宝・重文・重美に指定されたもの二七点に及ぶ。昭和三〇年四月から一般に無料公開している。なおその一部を同年九月初旬東横百貨店で初公開した。なお貴重書漢籍、仏書解題及び去来抄複製題文化講座シリーズ全一六巻などを刊行した。昭和三二年度から、毎年継続事業として期間を定めて文化講座を開設し、さらに昭和三三年一月から当文庫機関紙を発刊する。

〔神奈川〕

金沢文庫
横浜市金沢区金沢町二一七
電 金沢局(七) 九〇六九

昭和五年八月再建。史蹟金沢文庫及び称名寺に収蔵する書籍その他の文化財を

美術観覧施設

二七九

襲蔵し、又図書記録の類を蒐集保存して一般に閱覽させる。金沢文庫は鎌倉中期北条実時が蒐集した和漢書を納れるために創建し、鎌倉末期迄四代に亘つて経営された。その後一時称名寺によつて保管されたが、昭和五年御大典記念事業として神奈川県が現在の文庫を再建した。

〔文庫長〕 熊原政男

〔観覧日〕 毎月末日、祝祭日、年末年始を除き、毎日午前九時—午後四時半

〔観覧料〕 二〇円

神奈川県立近代美術館

神奈川県鎌倉市雪ノ下二〇五

電 鎌倉二五〇〇

昭和二六年一月開館。建物は坂倉準三の設計による。近代美術だけでなく、凡ゆる美術を新しい観点から展観する。

〔館長〕 村田良策〔副館長〕 土方定一

〔運営委員〕 内山岩太郎、伊東深水、木下孝則、小山富士夫、中村岳陵、坂倉準三、佐藤敬、富永惣一、山口蓬春、吉川逸治、山田智三郎、近藤市太郎、田辺至、高間惣七、教育長、県会議長。

〔観覧日〕 毎月曜を除き午前九時—午後四時、但土、日曜日午後四時半

〔観覧料〕 六〇円

鎌倉国宝館

神奈川県鎌倉市雪ノ下二〇三

電 鎌倉七五三

昭和三年四月創立。主に鎌倉を中心とする社寺及び個人寄託の古美術品を収蔵展観する。年約四回特別展開催。

〔館長〕 渋江二郎
〔観覧日〕 毎日午前九時—午後四時半
年末十二月二七日—三二日休館
〔観覧料〕 二〇円

鶴岡八幡宮宝物殿

神奈川県鎌倉市雪ノ下二〇五

電 鎌倉三一五

鶴岡八幡宮に伝来する神宝・刀剣・武器・工芸品等社宝の一般展観をなす。

〔観覧日〕 毎日午前八時—午後五時

〔観覧料〕 二〇円

長尾美術館

本館 鎌倉市鎌倉山

電 鎌倉九二三

分室 東京都品川区北品川

六ノ三八七長研ビル

東京都四四局七七〇三

昭和二二年五月創立。財団法人組織、長尾欽弥の蒐集による絵画、陶磁器、時代衣裳その他美術工芸品を保管公開する。毎年春秋二季特別展観を行う。

〔理事長〕 長尾欽弥〔理事〕 草間時光、村田五郎、太田耕造、井上清一、柴沼直、有光次郎、瀬戸保太郎〔監事〕 清瀬三郎

箱根神社宝物殿

神奈川県足柄下郡箱根町元箱根

電 箱根町三一

明治四〇年六月創立。現在の建物は昭和九年に新設された。同社所蔵の古美術品、古文書等を展観する。

〔観覧日〕 無休、四月—一〇月午前八時—午後五時、十一月—三月午前九時—

午後四時

〔観覧料〕 二〇円

箱根美術館

神奈川県足柄下郡箱根町強羅

電 箱根宮ノ下六二三

昭和二七年六月創立。世界救世教祖岡田茂吉によつて設立され、財団法人東明美術保存会箱根美術館として広く美術品を蒐集し一般に公開する。常設展の他に毎年各種の特別展並に箱根夏期美術講座等開催。

〔館長〕 岡田よし子

〔観覧日〕 四月一日—十一月三〇日迄、午前九時—午後五時(但一〇月、一月は午後四時迄)木曜日休館

〔観覧料〕 普通観覧料一〇〇円。

熱海美術館

熱海市伊豆山大久保九九八

電 熱海四五八六

昭和三年一月創立。箱根美術館と同じく財団法人東明美術保存会に所属し、箱根美術館の姉妹館として絵画、書跡、彫刻、工藝を陳列する。

〔館長〕 岡田よし子

〔観覧日〕 午前九時—午後五時、木曜日休館

〔観覧料〕 一〇〇円

【中部地方】

三嶋大社博物館

静岡県三島市伝馬町一

電 三島一七二

昭和五年三月創立。三嶋大社所蔵の宝物を始め郷土出土品等を陳列する。刀剣

三八点、古文書一四二点、工芸四三点。

〔館長〕 矢田部盛枝

〔観覧日〕 毎日午前九時—午後四時

〔観覧料〕 二〇円

久能山東照宮宝物館

静岡市根古屋三八九

大正三年三月宝物館を新築し現在に及んでいる。家康公遺品等徳川歴代將軍の武器刀剣類四〇〇点を陳列する。

〔観覧日〕 午前八時—午後四時 初穂料として三〇円以上奉納せる者にはのみ拝観させる。

身延山宝物館

山梨県南巨摩郡身延町

電 身延山二、三

大正一五年五月創立。日蓮宗宗門に関する歴史考古資料其他を公開する。

〔観覧日〕 毎日午前八時—午後五時

〔観覧料〕 三〇円

上田市立博物館

長野県上田市新参町

電 上田一二七四

昭和四年九月創立の上田徴古館が昭和二九年四月より市立博物館として新発足したもの。旧上田城南北、西三基の櫓内に郷土資料を陳列公開する。

〔館長〕 清水利雄

〔観覧日〕 毎日午前九時—午後四時、毎月曜休館。

〔観覧料〕 一〇円

諏訪市美術館

長野県諏訪市大字上諏訪中浜町

電 諏訪一二一七

昭和二五年八月創立。従来片倉会館の一部として諏訪湖畔にあり、懐古館と呼ばれ、諏訪地方出土の考古学参考品を陳列し、時に応じ各種展覽会場として利用されてきたが、昭和二五年八月二八日、片倉家より諏訪市に寄附され、昭和三年五月より諏訪市常設美術館として彫刻、油絵、水彩、版画等を收藏、展覧している。

〔館長〕 宮坂完一
〔観覧日〕 月曜日を除き毎日
松本市立博物館

長野県松本市二の丸三
電 松本一三三

日本アルプス、自然科学、考古、民俗、歴史に関する諸資料並に美術品等を蒐集陳列し地方文化の向上を計り、学校・社会教育の資としている。分館松木城記念館は松木城を管理するとともに、城郭歴史資料を、又分館中山考古館は考古資料を展示している。

〔館長〕 下川頼人
碓氷美術館

長野県南安曇郡穂高町

昭和三二年四月創立。財団法人。我国近代彫塑の開拓者、萩原碌山(寸衛)の全作品その他を保存し公開している。

〔館長〕 平林盛人

〔観覧日〕 一月八日から二月二五日まで。但し月曜休館。国祭日の翌日も休む。四月一日―〇月三一日午前九時―午後五時、一月一日―三月三一日午前九時―午後四時。

美術観覧施設

〔観覧料〕 大人五〇円。四月二日は碌山忌につき無料。

善光寺大勧進宝物館

長野市元善町四九二のイ
電 長野二四六

明治四〇年創立。大正七年増設、寺室約二五〇点を收藏、参拝者、信徒に拝観させることを目的とする。

〔館長〕 二宮慶蔵

〔観覧日〕 毎日午前六時―午後五時

〔観覧料〕 一〇円

北方文化博物館

新潟県中蒲原郡横越村大字沢海
電 横越一番甲

昭和二〇年一〇月創立、旧伊藤文吉邸とその所蔵品を基として、財団法人組織により、美術・民俗・考古・郷土資料・農業資料等を展示公開する。尚新潟市に分館を、新発田市に清水園を管理公開している。

〔館長〕 伊藤文吉

〔観覧日〕 毎日午前九時―午後五時

〔観覧料〕 三〇円

高岡市美術館

富山県高岡市古城公園内
電 高岡二六六

昭和二六年八月創立。主として郷土出身作家の作品を所蔵陳列する外地方展及特別展を開催している。日本画、洋画、工芸、彫刻、書等現代美術約三〇〇点。

〔館長〕 中条豊治

〔観覧日〕 毎日午前九時―午後五時

〔観覧料〕 無料

徳川美術館

名古屋市中区徳川町
電 東六六二六

昭和六年一二月財団法人黎明会により設立され昭和一〇年一月開館。尾州徳川家伝来の美術品、古文書等を保存し展観する。絵画、彫刻、工芸品外約一萬点。

〔館長〕 熊沢五六

〔観覧日〕 年中無休 毎日午前九時―午後四時

〔観覧料〕 五〇円

愛知県文化会館美術館

名古屋市中区久屋町(栄公園内)
電 東五五一―三

昭和二九年一二月創立。三〇年二月開館。鉄骨鉄筋コンクリート二階建、展示室一六、計一六四四・四坪。国際美術の消化、国内藝術の交流、産業美術の進展及び郷土美術文化の振興を図るを旨とする。各美術団体の地方巡回展、特別展等を開催。

〔文化会館長〕 徳川義親〔美術館長〕 太田三郎

〔観覧日〕 午前九時―午後五時

〔観覧料〕 展覧会により異なる

〔近畿地方〕

神宮微古館

伊勢市倉田山
電 伊勢二六四四、五〇三〇

当館は、神宮司庁で経営する歴史・美術博物館で、神宮農業館とともに、はじめ財団法人神苑会によつて設立せられ、

明治四四年神宮に献納された。神宮の撤下御装束神宝類をはじめとして、神宮崇敬を物語る歴史参考品及び現代美術を収蔵し、一般に公開する。昭和二〇年戦災により焼失したが、同二八年一〇月第五九回神宮式年遷宮附帯事業として同所に新築開館した。

〔館長〕 神宮少宮司 杉谷房雄〔主幹〕 早山静夫〔学藝員〕 西川元泰

〔書記〕 高山芳太郎

〔観覧日〕 一月一日―二月二八日午前八時半―午後四時半

〔観覧料〕 神宮農業館ともに三〇円

三重県立博物館

津市広明町 津市偕楽公園内
電 津二二八三

昭和二八年六月創立。地方総合博物館として考古・歴史・美術等の人文科学資料および植物・動物・鉱物等の自然科学資料、ならびに県内産業、物産の展覧を行う。

〔館長〕 松林嘉吉

〔観覧日〕 毎日午前九時―午後四時月曜休館

〔観覧料〕 一五円

高野山靈宝館

和歌山県伊都郡高野町高野山
電 高野三三三

大正九年九月三〇日創立。高野山一山の宝物を保管し一般の拝観に供している。

〔館長〕 堀田真快

〔観覧日〕 毎月末及一二月二五日―一

二八一

月三十一日迄を除き毎日、夏季午前八時—午後五時、冬季午前九時—午後三時

〔観覧料〕 五〇円
熊野博物館

和歌山県新宮市新宮一
電 五三三

明治四〇年創立。速玉大社国宝古神宝類約四〇〇点、重要文化財二点の他、熊野郷土関係古美術資料を展覧する。昭和三二年元速玉神社宝物館を博物館と改称した。

〔館長〕 上野殖

〔観覧日〕 毎日午前九時—午後四時

〔観覧料〕 五〇円

滋賀県立産業文化館

大津市東浦一番町

電 六一九一

昭和三年一月創立。開館当初は同一建物内に博物館的な業務と物産陳列所的なものの二様を併設していた。

昭和二年六月隣接地に、鉄筋コンクリート五階建の滋賀会館が建設されて物産陳列部門は同会館内に移し、本館は純美術博物館として内容を充実したが、さらに昭和三年一月古美術部門も滋賀会館三階に移し現在に及んでいる。古画並びに本県関係画家の作品、書蹟、工藝品、考古・民俗資料等約二五〇点を収蔵。

〔館長〕 田中千年

〔観覧日〕 年中無休 午前九時—午後五時

〔観覧料〕 無料

〔京都〕

京都国立博物館

京都市東山区大和太路通

七条上ル

電 54 一三四、五九〇

明治三二年五月宮内省達を以て圖書寮附屬博物館が廃止され帝國博物館、帝國奈良博物館と同時に帝國京都博物館が設置された。二五年工事に着手し二八年竣工、三〇年五月開館した。この後官制改革により京都帝室博物館と改称、大正一三年今上陛下の御成婚に際し宮内省より京都市に下賜され、同年二月一日より恩賜京都博物館と改称し、京都市の経営するところとなつたが、昭和二七年文化財保護法の一部改正により同法の規定に基づき四月一日より国立移管をもつて京都国立博物館として新発足をした。内部組織は館長、次長の下に管理課、学藝課を置き館長諮問機関として京都国立博物館評議員会が設置されている。(二三四、二四二、二五二頁参照)

〔館長〕 神田喜一郎 [次長] 富岡益五郎 [課長] (管理課) 有本利三郎、(学藝課) 梅津次郎

〔評議員〕 本田親男、堂本三之助、大宮庫吉、岡田戒玉、具塚茂樹、高山義三、辰馬悦蔵、武田長兵衛、長崎太郎、村田治郎、上野精一、梅原末治、山川常七、平沢興、須田国太郎

〔観覧日〕 月曜日を除き一月四日—二月二八日及び一月一日—二月二五日

午前九時—午後四時、三月一日—三月三十一日午前九時—午後四時半(但、三月一日—三月三十一日の日曜、祝日は午前九時—午後五時)

〔観覧料〕 大人三〇円

京都市美術館

京都市左京区岡崎法勝寺町

電 吉田四一〇七一八

昭和八年設立。鉄筋コンクリート二階建、一四〇八坪。市主催の美術展を開催する外、一般美術団体に会場を貸与する。所藏品日本画一二一、洋画六九、工藝四〇、彫刻二四。

〔館長〕 重達夫

〔事務長〕 川村源吾 [学藝主幹] 岡部三郎 [学藝員] 加藤一雄 [学藝員補] 阿部弘

北野天満宮宝物殿

京都市上京区馬喰町

電 44 五

昭和二年二月創立。菅原道真公歿後一〇二五年祭(半方燈祭)の記念事業の一つとして設立され、国宝北野天神縁起絵巻を初め絵画、古文书等の宝物類を展示する。

〔観覧日〕 毎月二五日の月次祭当日と春秋二季の臨時開殿 午前九時—午後四時

〔観覧料〕 三〇円

廣隆寺靈宝殿

京都市右京区太秦蜂岡町

大正一一年一〇月創立。聖徳太子一三〇〇年遠忌記念に創設された。同寺蔵の飛鳥時代弥勒菩薩像を始め多くの仏像、仏画、美術工芸品等を収蔵している。

〔観覧日〕 毎日

〔観覧料〕 四〇円

醍醐寺靈宝館宝聚院

京都市伏見区醍醐東大路町三二

電 醍醐二

昭和一〇年四月開館、醍醐天皇一〇〇〇年遠忌の記念事業として設立された。醍醐寺所蔵の彫しい仏画、一般絵画、彫刻、古文書記録、經典等を保管整理し、又一般に公開する。

〔館長〕 佐和隆研

〔観覧日〕 春秋二季(四月—五月、一〇月—十一月) 毎日午前九時—午後四時

〔観覧料〕 五〇円

仁和寺靈宝館

京都市右京区御室仁和寺

電 44 三八

昭和二年五月竣工開館、聖教三十帖冊子、孔雀明王等仁和寺所蔵の国宝その他宝物を保管し一般に公開する。

〔館長〕 花柳智勝

〔観覧日〕 毎日午前九時—午後四時

〔観覧料〕 三〇円

豊国神社宝物館

京都市東山区大和太路正面茶屋

町 電 祇園三八〇二

大正一四年一二月開館。神社宝物、歴史風俗資料を陳列する。

有鄰館

京都市左京区岡崎円勝寺町四四
電 吉田五

大正一五年一月創立。鉄筋コンクリート三階建。藤井善助の寄附行為による財団法人藤井善助の経営。藤井善助蒐集の東洋古美術品を保存展観する。

〔代表理事〕 藤井志づ

〔観覧日〕 毎月第一、第三日曜の正午—三時迄開館、但し一月、八月は休館。

〔観覧料〕 無料

陽明文庫

京都市右京区宇多野上ノ谷町一
電 西陣七五〇

昭和一三年一月財団法人組織として設立。旧近衛家文庫古文書一〇万余点、古典籍三万余部を取蔵し、研究者の求めに応じ随時開覧の便を計つている。

〔理事長〕 細川護立

〔主事〕 小笹喜三

奈良

奈良国立博物館

奈良市登大路 五〇
電 奈良七七七一—三

明治二二年帝國奈良博物館設置せられ同二八年四月開館。三三年官制の改革と共に奈良宮内省博物館と改められ、更に昭和二二年五月官制改革により宮内省博物館は文部省の管轄の下に国立博物館となるに及んで国立博物館奈良分館と改称された。ついで二五年五月文化財保護法の制定にとともに文化財保護委員会の管轄に、又二七年四月東京国立博物館奈良分

美術観覧施設

館に、同年八月文化財保護法一部改正により東京国立博物館より分離し、奈良国立博物館と改められて新発足をした。内部組織は館長の下に次長が置かれ、従前の庶務、学藝、普及の三課は廃されて新たに管理、学藝の二課が置かれ、館長の諮問機関として奈良国立博物館評議員会が設置されている。(二二四、二四二、二四三、二五三頁参照)

〔館長〕 石田茂作〔次長〕 高村峰蔵

〔課長〕 (管理課) 次長併任 (学藝課) 小泉顕夫

〔評議員〕 今村荒男、梅原末治、奥田良三、落合太郎、岡田或玉、岸勇一、佐伯勇、田沢坦、高橋正次、筒井英俊、中山正善、橋本凝嵐、春山武松、村田治郎、和田軍一

〔観覧日〕 毎月第一、第三日曜と同年末年始を除き、三月—一〇月午前九時—午後四時半、十一月—二月午前九時—午後四時

〔観覧料〕 大人三〇円
春日大社宝物殿
奈良市春日野町御蓋山一六〇
電 奈良七七七八、七七八九

昭和一〇年四月創立。歴代朝野から献進の宝物を保存し、展観する。絵画彫刻の他、大工等工芸品約三〇〇〇点所蔵。
〔観覧日〕 毎日午前九時—午後五時
但し、七、八月は午前八時半—午後四時半

〔観覧料〕 二〇円

天理大学附属天理参考館

奈良県天理市布留
電 天理二、三、四

昭和一三年四月創立。天理大学の創立以来三〇年間に蒐集した海外土俗資料に、更に支那朝鮮の古美術、近東・中南米古代資料、日本の貝塚資料、アイヌ資料、キリシタン資料、交通関係資料、文楽人形等も加え天理大学附属施設として公開している。

〔観覧日〕 毎日午前九時—午後四時

〔観覧料〕 無料

東洋民俗博物館

奈良市あやめ池町北園
電 富雄六九

昭和三年一月創立。財団法人組織。大正六年頃より九十九豊勝が個人として蒐集したものを取蔵し展覧する。各国民衆資料、特に比較宗教学に関する資料が多い。

〔館長〕 九十九豊勝〔観覧料〕二〇円

奈良県立橿原公苑大和歴史館

奈良県橿原市畝傍町
電 大和橿原四七八

昭和一五年一月創立の大和国史館を同二四年八月大和歴史館と改称した。の。主として大和に関する上代の遺品、その他歴史的物事の収集、保管、展示をして、歴史教育・文化発展に資する。又、一定期間に亘つて特に調査研究を希望するものに資料を閲覧させる特別観覧の制度を設けている。昭和三〇年二月二八日、博物館相当施設としての指定を受けた。

〔館長〕 土井実〔主任〕 小島貞三

〔観覧日〕 毎日午前八時半—午後四時半・月曜日午後・火曜日及祝祭日休館

〔観覧料〕 二〇円

大阪

大阪市立美術館

大阪市天王寺区茶臼山町二二一
電 天王寺六一〇、四六〇九

古美術品の常設展覧と一般美術展の展覧場としての設備を兼ね、昭和一一年五月落成した。同月開館し、古美術の常設展覧は同年九月より開始した。絵画、彫刻、美術工芸、考古学資料に亘る同館蒐集保存の古美術品を展覧し、展覧会室、講堂は一般美術展、講演会等に貸館する。

〔館長〕 望月信成〔事務課長〕 池永治雄

〔学藝課長〕 藤井源一男

〔観覧日〕 一月六日—二月二八日、午前九時—午後五時〔観覧料〕 二〇円

日本工芸館

大阪市北区堂島上二ノ四六
電 北(五)二一四

昭和二六年六月創立。堂島の米倉であつたものを改増築し、民藝の研究と普及を目的として、財団法人組織により設立された。日本の現代民衆工芸品を主体として現代美術工芸品・版图等を蒐集常時展覧する。

〔館長〕 三宅忠一

〔観覧日〕 日曜・祭日を除き午前—一時—午後五時〔観覧料〕 特別展以外無料

観心寺靈宝館

大阪府河内長野市寺元

電 河内長野一三四

靈宝館は明治三十三年に開設され、重文、八大观音、如意輪观音像を始め、仏像、古文書、楠家遺品等の寺宝を保管展覧する。

〔館長〕 永島行善

〔観覧日〕 毎日午前九時半—午後五時

〔観覧料〕 一〇円

藤田美術館

大阪市都島区網島町四〇

電 堀川四一〇五

昭和二六年三月財団法人設立認可。男爵藤田伝三郎並びに同平太郎に亘つて蒐集された古美術品を主としこれに分家徳次郎の遺品を合わせて創立せられたもの。財団法人設立の認可後、展覧室、庭園、事務室の整備に三ヶ年を費し昭和二九年五月に開館式を挙行した。一般公開は現在のところ春秋二期特別展開催のほか、随時展覧を行っている。国宝六点、重要文化財二七点を含む絵画、彫刻、工芸、書を約三〇〇〇点収蔵している。

〔館長〕 藤田富子 〔理事長〕 菅礼之助 〔理事〕 藤田光一、藤田富子、藤田治子、宮原清、久留島秀三郎、土井清、小川栄一 〔監事〕 坂井隆三、西村圭太郎 〔観覧日〕 春秋二期、午前一〇時—午後四時 〔観覧料〕 一〇〇円

逸翁美術館

大阪府池田市建石町一九六五

電 池田三八六五、四三三八

昭和三年七月創立。一〇月四日開

館。財団法人組織、故小林一三氏蒐集の重要文化財その他美術工芸品の保存展覧を行う。収蔵品は、絵画(日本及東洋)七五〇点(西洋)一〇点、彫刻七〇点、工藝二一〇〇点、書四八〇点。

〔館長〕 佐藤博夫

〔観覧日〕 特別展、春—四・五月、夏—七・八月、秋—一〇・十一月(無休)。

常設展、一月七日—三月二十五日、六月五日—十二月五日(月曜休館)十時—四時

〔観覧料〕 五〇円

【兵庫県】

市立神戸美術館

神戸市葺合区熊内町一丁目

電 葺合一〇四三

南蛮美術の蒐集で著名な池長美術館(昭和一五年三月創立)が建物・所蔵品共に昭和二六年四月神戸市へ寄附され市立神戸美術館となった。同年七月より開館。春秋二回南蛮美術展を開催する。

〔館長〕 荒尾親成 〔学芸員〕 菅瀬正 〔観覧日〕 毎月一日より二五日迄、午前九時—午後五時。月曜休館。 〔観覧料〕 二〇円

白鶴美術館

神戸市東灘区住吉町落合二四五

電 (8)六〇〇一

昭和九年五月創立。昭和六年嘉納治兵衛の古稀を記念し、その美術工芸品、考古資料の蒐集品を永久に保存するため財団法人白鶴美術館を設立した。建物は同九年竣工し、五月から公開した。中国青

銅器、陶磁器、鏡、銀器及日本奈良古物等の工芸品、金石類、刀剣類の所蔵品を春秋陳列し、他に特別展を開催する。

〔理事長兼館長〕 嘉納 治兵衛 〔理事〕 嘉納正治、中村純一、〔学芸員〕 三杉隆敏

〔観覧日〕 四、五、九、一〇月の春秋二季展の他に特別展を随時開き、年間一五〇日開館

午前一〇時—午後四時 月曜休館

〔観覧料〕 五〇円

鶴林寺宝物館

兵庫県加古川市加古川町北在家

電 加古川五六三

大正一〇年一〇月聖徳太子一三〇〇年御忌記念として宝物館を建設し、白鳳時代の金銅聖観音像その他重要文化財、絵画、工芸美術品、古文書等二〇〇余点を陳列し、希望者のある毎に開館する。

〔中国地方〕 大原美術館 岡山県倉敷市新川町 電 倉敷五

昭和五年一月創立。故洋画家兒島虎次郎を記念し、美術の研究発達に資するため絵画及びその他の美術品の蒐集、陳列公開等を行う。大原孫三郎によつて創設され、昭和一〇年三月財団法人となつた。泰西絵画、彫刻、古代エジプト美術、海外古陶器等の収蔵品が著名である。

〔館長〕 武内潔真 〔観覧日〕 年末年始、毎月曜日、祭日を除き、毎日午前九時—午後四時

〔観覧料〕 五〇円、倉敷考古館

岡山県倉敷市前神町一〇一五

電 倉敷一五四二

昭和二五年一月創立。考古学の研究普及と地方文化の向上を目的として、財団法人組織をとつている。考古学関係資料一五〇〇点を収蔵す。

〔館長〕 武内潔真

〔観覧日〕 月曜日、年末二日、年始三日、春分、秋分の日、天皇誕生日を除き、午前九時—午後四時

〔観覧料〕 四〇円、倉敷民藝館

岡山県倉敷市前神町

電 倉敷一六三七

昭和三年一月創立。岡山県民藝協会の事業の一つとして創設され、のち、財団法人として独立した。古今東西の民藝品の蒐集、展覧、普及に当つている。所蔵品約三一〇〇点。附属工芸研究所がある。

〔館長〕 外村吉之介 〔観覧日〕 月曜日、年末年始、祭日を除き、午前九時—午後四時 〔観覧料〕 四〇円、吉備考古館

岡山県都窪郡山手村

電 総社四三三三

昭和一七年創立。吉備地方を中心とし、県内の考古資料・郷土資料を展覧する。 〔館長〕 宮岡清見

〔観覧日〕 毎日、午前九時—午後四時

〔観覧料〕 二〇円

〔観覧料〕 二〇円

〔観覧料〕 二〇円

創立明治三〇年。現在の建物は昭和九年建造され、敬島神社宝物として伝承した藤原時代以後の書蹟・工藝品等を公開する。

〔館長〕 野坂元定

〔観覧日〕 毎日

〔観覧料〕 三〇円

出雲大社宝物殿

島根県簸川郡大社町

電 大社四八、六三

大正三年三月創設。絵画、彫刻、工藝品、古文書、考古資料、祭器等を収蔵する。

〔観覧日〕 毎日。午前八時—午後四時

長府博物館

山口県下関市長府町門前

電 五五五

昭和八年一〇月創立。当初は故桂弥一が財団法人長府尊攘堂を創設し明治維新前後の志士の遺墨等を収集陳列したものであった。戦後は財団法人長府博物館と改称、郷土を中心とした文化資料を蒐集、保管し、常時展観している。また、各種特別展も行。

〔館長〕 椿惣一

〔観覧日〕 三、四、五、九、一〇、一一の各月以外は毎月曜休館、午前九時—午後五時

〔観覧料〕 二〇円

防府天満宮宝物館

〔旧松崎神社宝物館〕

山口県防府市宮南

松崎神社は昭和二七年四月炎上、本殿幣殿拜殿の復旧工事は昭和三三年五月には完了した。同宝物館は災禍を免れたが現在閉鎖中。尚昭和二八年一月二二日松崎神社は防府天満宮と改称した。

忌宮神社宝物館

山口県下関市長府町宮の内

電 長府一九三

大正四年三月創立。神社創建以来の古文書其他寄進による絵画、工藝品等三八〇余点を収蔵する。

〔館長〕 磯部後成雄

〔観覧日〕 無休

〔観覧料〕 二〇円

岩国徴古館

山口県岩国市横山三五八

電 岩国八三三

私立岩国徴古館(昭和一九年四月設立)が昭和二六年四月岩国市へ移管され、市立となったもの。郷土に関係ある美術工藝品、歴史資料を蒐集保存し、且公開して文化の向上に資しようとする。藩制時代の地方的美術品、工藝品、同時代の地方史料、大内、毛利、特に吉川氏に関する多くの古文書等を所蔵する。

〔館長〕 瀬川秀雄

〔観覧日〕 午前九時—午後四時半、毎月曜と祭日の翌日は休館。

〔観覧料〕 無料

〔四国地方〕

市立高松美術館

香川県高松市栗林公園内

電 高松三二一六

昭和二四年一月開館。昭和二四年高松観光大博覧会を機会にその建物の一部三〇六坪を市立美術館として存置し、日展、県展、各種美術展を開催、地方文化の普及を計つている。

〔館長〕 中村良三

金刀比羅宮博物館

香川県琴平町

電 琴平一

金刀比羅宮博物館は、宝物館、学藝館、金刀比羅宮書院の三施設に分れている。宝物館は明治三八年創立。金刀比羅宮所蔵の書画、刀剣、古文書等を収蔵展観する。学藝館は昭和三年創立。学藝参考品、標本等の外高橋由一の作品二六点を収蔵展観する。書院には鶴の間外四室に書かれた応挙の絵(重要文化財)等がある。

〔館長〕 琴陵光重

〔観覧日〕 無休、午前八時—午後四時

〔観覧料〕 二〇円

〔観覧料〕 二〇円

〔観覧料〕 二〇円

〔観覧料〕 二〇円

〔観覧料〕 二〇円

〔観覧料〕 二〇円

〔観覧料〕 二〇円

〔観覧料〕 二〇円

〔観覧料〕 二〇円

〔観覧料〕 二〇円

〔観覧料〕 二〇円

〔観覧料〕 二〇円

〔観覧料〕 二〇円

〔観覧料〕 二〇円

時。秋、冬、午前九時—午後四時

〔観覧料〕 無料

大山祇神社宝物館

愛媛県越智郡大三島町

電 大三島三二、一六

大正一五年六月創立。鏝、太刀等工藝品一〇〇余点を収蔵、展観する。

〔館長〕 三島安久

〔観覧日〕 無休。春、夏、午前八時—午後五時。秋、冬、午前九時—午後四時

〔観覧料〕 六〇円

愛媛文華館

愛媛県今治市山里通

昭和三〇年三月創立、財団法人組織の陶磁美術館。

〔観覧日〕 年二回の特別展観の折開館

〔観覧料〕 年二回の特別展観の折開館

〔観覧料〕 年二回の特別展観の折開館

〔観覧料〕 年二回の特別展観の折開館

〔観覧料〕 年二回の特別展観の折開館

〔観覧料〕 年二回の特別展観の折開館

〔観覧料〕 年二回の特別展観の折開館

〔観覧料〕 年二回の特別展観の折開館

〔観覧料〕 年二回の特別展観の折開館

〔観覧料〕 年二回の特別展観の折開館

〔観覧料〕 年二回の特別展観の折開館

〔観覧料〕 年二回の特別展観の折開館

〔観覧料〕 年二回の特別展観の折開館

〔観覧料〕 年二回の特別展観の折開館

〔観覧料〕 年二回の特別展観の折開館

〔観覧料〕 年二回の特別展観の折開館

〔観覧料〕 年二回の特別展観の折開館

〔観覧料〕 年二回の特別展観の折開館

〔観覧料〕 年二回の特別展観の折開館

る。

〔館長〕 築瀬義一

〔観覽日〕 毎日、午前九時—午後五時

〔観覽料〕 無料

本妙寺宝物館

熊本県熊本市花園町六

電 熊本②〇六三〇

明治四二年五月創立。明治四二年清正公三〇〇年祭に際し公の威徳顕彰の目的を以て開設した。

〔館長〕 池上義豊

〔観覽日〕 毎日、午前八時—午後五時

〔観覽料〕 一〇円

菊池神社宝物館

熊本県菊池郡菊池町隈府

電 二五四九

大正八年一月創立。菊池神社の教化活動の一環として設けたもので、祭神菊池氏の遺品その他関係資料を収蔵、展観する。

〔館長〕 千種宣夫

〔観覽日〕 午前八時—午後四時

〔観覽料〕 二〇円

宮崎県立博物館

宮崎市神宮町東神苑

電 五二三八

昭和二六年四月創立。昭和一五年、紀元二六〇〇年記念事業として奉議会が設立した復古館を同二六年県立博物館として新発足したもの。考古資料を主とした博物館。

〔館長〕 隈江信光

〔観覽日〕 午前九時—午後四時半

〔観覽料〕 二〇円

鹿児島市立美術館

鹿児島市山下町一三四

昭和二九年九月一日開館、黒田清輝記念室を設け、その他藤島武二、和田英作等の洋画、橋口五葉の版画、木村探元の日本画、新納忠之介、安藤照の彫塑等郷土作家の作品及び薩摩工藝品等を展観している。又展示会場として四室以上の場合は有料で使用させている。尚昭和三十一年六月、岩崎弥太郎寄贈の一〇〇坪の新館が完成開館した。

〔館長〕 谷口午二〔次長〕 夏迫丸喜

〔観覽日〕 毎月曜、祝祭日を除き一月五日—二月二八日、毎日午前九時—午後五時

〔観覽料〕 大人二〇円。年間通用券一〇〇円

全国美術館会議

台東区上野公園 東京都美術館内

昭和二七年一月一日発足。昭和三十一年五月熱海美術館、神奈川県立近代美術館に於て第六回全国美術館会議を開催。

全国美術館会議規約

第一章 総則

第一条 本会は全国美術館会議という。

第二条 本会の事務所は東京都美術館内におく。

第二章 目的及び事業

第三条 本会は美術館相互の連絡提携を図るを以て目的とする。

第四条 本会は前条の目的を達成するために左の事業を行う。

(一) 美術に関する協議会、展覧会、講習会、講演会、研究会等の開催

(二) 美術団体との連絡

(三) 美術館相互の連絡情報及び出版物の交換

(四) 其他本会の目的達成上必要な事業

第三章 組織

第五条 本会は全国的美術館施設を以て組織する。

第六条 本会の会費は年額金壹千円とする。

第四章 役員

第七条 本会に左の役員を置く。

会長一名 副会長一名 幹事若干名

第八条 本会の役員は互選による。会長は本会を代表し、会務を総理する。

副会長は会長を補佐し、会長事故あるときは会長を代理する。

幹事は会務を処理する。

第九条 役員任期は二年とす。

第五章 会議

第十条 総会は全会員を以て構成し会長が召集する。

通常総会は毎年一回開く。必要に応じて臨時に総会を開くことができる。

第十一条 総会は会員総員の三分の一以上の出席を以て成立し、其の議事は出席者の過半数を以て決する、可否同数のときは議長が決するところによる。

第十二条 本会の経費は会費及び寄附金

を以てこれにあてる。

第十三条 本会の予算は総会の承認を経なければならない。

第十四条 本会の会計年度は毎年四月一日に始まり翌年三月末日終る。

〔会長〕 東京都美術館長 早川治平〔副会長〕 大阪市立美術館長 望月信成〔幹事〕 プリヂェストン美術館主事 岩佐新、国立近代美術館庶務課長 原敏夫、大原美術館長 武内潔真、本間美術館長 本間祐介、愛知県立名古屋美術館美術課長 太田三郎〔会員〕 東京都美術館〔早川治平〕、プリヂェストン美術館〔岩佐新〕、根津美術館〔河西豊太郎〕、都立駒場高校美術館〔長坂勝一〕、東京国立博物館〔浅野長武〕、国立近代美術館〔岡部長景〕、京都市美術館〔重達夫〕、神奈川県立近代美術館〔村田良策〕、高岡市美術館〔中条豊治〕、大阪市立美術館〔望月信成〕、大原美術館〔武内潔真〕、高松美術館〔中村良三〕、佐賀県文化館〔碓敏雄〕、白鶴美術館〔加納治兵衛〕、市立神戸美術館〔荒尾親成〕、大阪市天王閣、奈良国立博物館〔石田茂作〕、滋賀県立産業文化館〔田中千年〕、本間美術館〔本間祐介〕、箱根美術館、熱海美術館〔岡田与志〕、天理参考館〔福原喜代男〕、大倉集古館〔大崎新吉〕、愛知県立名古屋美術館〔太田三郎〕、藤田美術館〔藤田富子〕、致道博物館〔犬塚又太郎〕、掬野巧藝館〔井上庄七〕、石橋美術館〔青木重憲〕、常盤山文庫〔菅原通濟〕、茶道美術館〔村山麒麟〕、蟹仙洞〔長谷川謙〕

東京画廊一覽

三越画廊 中央区日本橋室町一ノ七 電 日本橋(2)三三一
 高島屋画廊 中央区日本橋通二ノ五 電 千代田(7)四一一
 丸善画廊 中央区日本橋通二ノ六 電 千代田(7)二二二
 南画廊 中央区日本橋通二ノ七 電 千代田(7)八六一
 壺中居 中央区日本橋通三ノ一 電 千代田(7)一八三六、八九一
 三彩堂 中央区日本橋通三ノ一 電 千代田(7)五九五
 日本橋画廊 中央区日本橋通三ノ四 電 千代田(7)七七一五 昭和三年二月閉鎖
 ヤナセ画廊 中央区八重洲五ノ五 電(2) 九八六
 造形画廊 中央区京橋一ノ一 電 中央区京橋二ノ一 電 京橋(5)五九二
 いづみギャラリー 中央区京橋三ノ四 第百生命館 電 東京(2)二〇七
 兼素洞 中央区京橋二ノ九 電 京橋(5)一一五・一二五八
 美交社画廊 中央区銀座西一ノ三七 電 京橋(5)二九六二
 ナビス画廊 中央区銀座三ノ二 電 京橋(5)五三五六
 サエグサギャラリー 中央区銀座三ノ二 電 中央区銀座三ノ二 電 京橋(5)五三五六
 栄画廊 中央区銀座三ノ二 電 京

おりかき 橋(5)五一七 中央区銀座三ノ三 電 京橋(5)一五二三
 松屋画廊 中央区銀座三ノ一 電 京橋(5)三一
 和光 中央区銀座四ノ一 電 京橋(5)八四五
 教文館画廊 中央区銀座四ノ二 電 京橋(5)八四四六
 日動画廊 中央区銀座西五ノ一 電 銀座(7)二一八
 フォルム 中央区銀座五丁目二川瀬商会二階 電 銀座(7)五〇六
 三原橋画廊 中央区銀座五ノ三 電 銀座(7)二一八
 イエナ画廊 中央区銀座五ノ四 電(7)二九八〇、三二八〇
 安藤画廊 中央区銀座五ノ四 電 銀座(7)八八八
 求龍堂画廊 中央区銀座西五ノ五 御幸通り 電 銀座(7)二九六六
 文藝春秋社 中央区銀座五ノ五 文芸春秋社別館 電 銀座(7)四九一
 阿部養清堂 中央区銀座西五ノ五 電 銀座(7)一三一二、六八七八
 松坂屋画廊 (銀座店) 中央区銀座六ノ一 電 銀座(7)三一八一
 (上野店) 台東区上野広小路一 電 下谷(3)一一一一
 東京電力サービスセンター 中央区銀座六ノ一 電 銀座(7)八三〇五一六

トキワ画廊 中央区銀座六ノ二 菊水ビル 電(7)一四八〇
 兜屋画廊 中央区銀座西六ノ三 電 銀座(7)六三三一
 小松名店街 中央区銀座六ノ四 電 銀座(7)七七二一
 銀座画廊 中央区銀座西六ノ五 電 銀座(7)一〇五
 数寄屋橋 中央区銀座西六ノ六 鉄道工業ビル一階 電 銀座(7)一八六四
 村松ギャラリー 中央区銀座七ノ一 電 銀座(7)八五七
 サトウ画廊 中央区銀座西七ノ二 電 銀座(7)一五九二
 襟画廊 中央区銀座七ノ三 電 銀座(7)三四七
 東京画廊 中央区銀座西七ノ五 電 銀座(7)一八〇八
 弥生画廊 中央区銀座西並木通り七ノ五 電 銀座(7)三三二〇
 たくみ 中央区銀座西八ノ三 電 銀座(7)二〇一七
 銀橋画廊 中央区銀座西八ノ四 電 銀座(7)五八六
 村越画廊 中央区銀座西八ノ五 電 斎藤ビル三階 銀座(7)二八八
 ギャラリー 中央区銀座西八ノ九 電 銀座(7)二一八
 創苑 千代田区神田小川町 電 神田(2)六四四六
 草土舎画廊 千代田区神田神保町一ノ一 電 東京(2)一一二六
 三省堂画廊

文房堂画廊 千代田区神田神保町一ノ二 一 電 東京(2)七〇〇一
 大丸画廊 千代田区丸ノ内 鉄道会館 電 丸ノ内(2)一五三一
 日比谷画廊 千代田区日比谷公園内 電 東京(2)八二三
 産経会館 千代田区大手町一ノ三 電 丸ノ内(2)五七二(内線七六〇)
 東京画廊 千代田区有楽町一ノ一四 明和ビル二階 電 東京(2)八六九〇
 三笠画廊 千代田区有楽町一ノ一四 明和ビル二階 電 東京(2)八六九〇
 ひろし 港区芝新橋一ノ四 電 銀座(7)一九五三
 光風会美術会館画廊 港区芝新橋田町一九 電 東京(2)一七三二
 美松書房 港区芝田村町一ノ三 電 東京(2)五五一一二
 伊勢丹画廊 新宿区新宿三ノ八 電 四谷(2)一一四一
 ブランシェ 新宿区歌舞伎町八七九 電 四谷(2)五三三五、三三三三
 池袋画廊 豊島区池袋一ノ七三九 電 池袋(7)四四一八
 西武百貨店 豊島区池袋二丁目 電 池袋(7)一五一
 東横百貨店 渋谷区上通二ノ五五 電 渋谷(4)一一八一
 上松画廊 渋谷区上通二ノ三九 電 青山(4)二六八六
 北壮画廊 豊島区長崎三ノ四〇 電(2) 六三六〇
 みつぎ画廊 武蔵野市吉祥寺ダイヤ街 電(22)二四四四

美術観覧施設

榎の木画廊

名古屋画廊一覽

- 愛知県文化館 東区久屋町 電 (9)五五一
- グイートラス 中区朝日町四ノ二 電 (9)七、四四〇六
- 美交社画廊 中区栄町四 電 (9)四四三〇
- 松坂屋画廊 中区南大津通り二 電 (24)一五一
- 丸善画廊 中区栄町三 電 (24)三五三
- 丸栄画廊 中区栄町四 電 (24)五一五
- 文天堂画廊 中区栄町六 電 (24)四二二六
- オリエンタル中村ギャラリー 中区栄町六 電 (24)四三四一、(24)五一四一
- 桂花堂画廊 中区南園栄町 電 (23)一八四一
- トヨタビルギャラリー 中村区笹島町一 電 (55)五一二

京都画廊一覽

- 大文字ギャラリー 中京区木屋町通御池上ル 電 (3)七九一〇
- 京美堂ギャラリー 中京区河原町三条上ル 電 (3)五二〇九
- 京都書院 中京区河原町四条上ル 電 (2)一〇六二
- 丸善画廊 中京区河原町通蛸薬師上

大丸美術画廊

- 大丸美術画廊 中京区四条高倉 電 (2)二二六一
- 京都府ギャラリー 下京区四条通河原町西入 電 (2)五二〇七
- 土橋画廊 下京区四条通堺町東入 電 (2)一三三三
- 丸物美術画廊 下京区烏丸通七条上 電 (5)八七二一
- 画筈堂画廊 下京区河原町通五条下 電 (5)八七五
- 話商會 東山区四条通祇園町南側五 六二 電 (6)一四四六
- 京都美術倶楽部 東山区新門前通東大路西入

大阪・神戸画廊一覽

- 梅田画廊 北区曾根崎上三ノ三八 電 (34)五〇七四
- 白鳳画廊 北区曾根崎上一ノ三五 電 (34)三〇六一
- 堂島画廊 北区神明町五〇 電 (34)五一九
- 丸善美術画廊 北区梅田町 阪神百貨店内 電 (36)二七八七
- 福田画廊 北区網笠町一八 電 (34)一〇六九
- 阪急画廊 北区角田町六二 電 (46)四六一
- 三越画廊 東区高麗橋二ノ六三 電 (23)八五一

フジカワ画廊

- フジカワ画廊 東区瓦町二 電 (23)一四九〇一、四四九四一五
- 美交社画廊 東区南久太郎町四ノ二〇 電 (25)三六二四一五
- 淀屋画廊 東区今橋五ノ三六 電 (23)六〇一八
- 北ギャラリー 東区北浜三ノ二一 電 (44)三七四五
- そごう画廊 南区心齋橋一 電 (27)二二二一
- 大阪フォルム画廊 南区心齋橋北詰 電 (25)二二四六
- 高島屋画廊 南区難波新地六 電 (64)一四一五三一
- 松坂屋画廊 浪速区日本橋三ノ四五 電 (64)一五三一
- 近鉄画廊 阿倍野区阿倍野町一ノ一 電 (77)五一三一
- 茜画廊 三宮町二丁目電停前 電 (3)一五三七
- 元町画廊 生田区元町一ノ一一 電 (3)二二三五九

美術団体一覽(五・首題)

- アトリエ・ド・1(洋) 北区田端町五〇〇 香取忠彦方 昭和29年創立。昭和28年2月に日仏学院に絵画クラスが設け

られ、その担当教官としてロジエ・ヴァンエックがあつたが、29年12月当クラス廃止後も同教官に共鳴して、元絵画クラスの有志でグループ・アトリエ・ド・Rヴァンエックを結成した。昭和29年12月第1回グループ展、30年6月第2回展、32年12月第3回展、この回よりアトリエ・ド・1と改称した。

〔会員〕 ロジエ・ヴァンエック、原武典、早川みな子、片山和子、香取忠彦、小島兼司、小林喜、小久保晴行、楠原昌樹、岩立広子、村上暁郎、東海林謙、武川昌子、牛窪正

(い)

一采社(日) 世田谷区成城町一二九 高山辰雄方 昭和16年4月創立。同20年戦災のため展覧会を中止したが翌21年より引き続き毎年春に展覧会を開き、昭和33年4月第17回展開催。

〔会員〕 大山忠作、加藤東一、加藤長明、河部貞夫、高山辰雄、中村正義、浦田正夫、野島青茲、山口吉三郎、山田申吾、我妻碧宇、佐藤因夫、三尾雄治、嶋谷自然、森緑翠、鈴木竹柏、伊藤弘、加倉井和夫、桑原清明、小栗潮

一水会(洋) 横浜市鶴見区馬場町馬場谷四〇三の五(電鶴見八一五七) 木下孝則方 昭和11年12月、旧二科会員八名は「会場藝術を非とし、技術を重んじ、高雅なる藝術を尊重することに於て一致」、同会を創立した。同12年12月東京都美術館に第1回公募展を開催し、爾後毎秋季に展覧会を開き、昭和33年9月第20回展

(あ)

開催。

〔委員〕 石井柏亭、池部鈞、池辺一郎、
碓三彩亭、小野末、奥田郁太郎、高橋庸
男、高田誠、田崎広助、仲田好江、中村
善策、中村琢二、納富進、山下新太郎、
深沢紅子、福田新生、小山敬三、高野三
三男、有島生馬、安宅虎雄、荒谷直之
介、木下孝則、木下義謙、鈴木良三

〔委員〕 一三九名

一線美術(洋・彫) 大田区大森三ノ一
一五木村博之方 昭和25年7月創立。年
1回春に展覧会を開き昭和32年3月第7
回展開催。

〔代表委員〕 上野山清貢、岩井弥一郎

〔委員〕 (絵画部) 石上駒吉、伊藤徳
衛、長谷川ハツ、河崎千代子、神田房光、田
村満、村瀬真治、松浦光城、児玉勝次、
西東重義、佐々木栄松、紫藤卓三、平田
健三、袋輪初太郎、宮沢今朝雄、木村博
之、倉沢康、大黒孝儀、金子文吾、根本
清満、山田邁、石原実、高橋治男、関川
富士郎、信沢照子、村元俊郎、平松幸
子、対比地初雄、田畑弘、阿部和夫、飯
塚吉光、石井芳弥、武田範芳、田中久
雄、ドン・ブルー、柳林卓、山下偉

(彫刻部) 石田来之助、成川明

一陽会(洋・彫) 台東区上野桜木町三
六 野間仁根方 (電駒込三四〇〇)

昭和30年7月創立。二科会を脱退した鈴木
木信太郎、高岡徳太郎、野間仁根を中心
に、同じく二科会を脱退した会員一九
名、会友七名によつて結成された新団
体、昭和30年9月日本橋高島屋に於て第

1回公募展開催。昭和33年9月第4回展
開催。

〔委員〕 (絵画部) 鈴木信太郎、高岡
徳太郎、野間仁根、米良道博、山路真護、
鱈利彦、荻野康児、丹下富士男、森由太
郎、中田豊、山谷鉄一、長谷川三千春、
棟方寅雄、近藤長三郎、松下明治、片柳
忠男、(彫刻部) 浅野孟府、植木力、伊本
淳、中村暉

(洋・彫)

一上野会(挿) 杉並区馬橋二ノ二四四
山本武夫方 昭和24年創立。東京美術学
校出身者よりなる挿絵家を主とする集
り。

〔委員〕 伊藤文七、富田千秋、織田音
也、小川洗二、鴨下晃湖、田中良、竹田
忠丸、山本武夫、梁川剛一、藤形一男、
三輪孝、三谷一馬、三輪秀、清水三重三
恵下会(日) 澁子市久木三三五 若林
卓方 前田青柳門下生の会、昭和32年5
月第1回展、33年第2回展開催。会員約
五〇名

一籙上会(日) 文京区西片町一〇ろ九
四方田草炎方 昭和12年創立。昭和33年
7月第7回展開催。

〔委員〕 四方田草炎、岩崎巴人、根本
進、相沢一男、土居淳男、上田臥牛、大
野正六、野村清六、田代三善、藤田将
文、川越康司、田代高之、安藤英二、鈴
木正太郎

一旺玄会(洋) 東京都板橋区幸町六六梅
野順三方(電池袋四三八〇) 昭和8年当
時の官展を離脱した牧野虎雄を主宰者と

して槐樹社その他の新進作家が集つて旺
玄社を結成し、同年第一回旺玄展開催。

昭和21年旺玄会と改称した。昭和30年2
月大久保作次郎、田沢八甲、吉村芳村ら
古参会員を含む六名は脱退した。昭和33
年7月第24回展開催。

〔委員〕 五十嵐祥晃、石黒義一、市川
加久一、金井文彦、小林喜代吉、小林鶴治
郎、小坂橋清、近藤せい子、甲賀義成、
近藤良悦、皆見鶴三、酒井嘉久、阪井谷
松太郎、相良文雄、清水正博、杉浦勝人、
鈴木金平、高野真美、玉の内満雄、田辺
嘉重、梅野順三

一岡山県民藝協会 岡山県倉敷市向市場
電倉敷一五四一 昭和21年6月創立、「凡
ゆる生活用具を健康、簡素、誠実ならし
め、生活に真の美を直結せしめる。」こと
を趣旨とし、工藝品の調査、指導、地方
民藝館の創設経営、工藝研究所及び図案
指導所等の開設を事業目的としている。

〔委員〕 個人三五〇名、法人一四団体

(か)

一かこ会(日) 神奈川県澁子市久木三三三
五若林卓方 昭和29年4月創立。前田青
柳門下の一部同志的結合で、毎月の研究
会と年一回の展覧会を行う。昭和33年5
月第3回展開催。

〔委員〕 入江正巳、伊藤弘人、蓮尾辰
雄、西丸静園、若林卓、染谷祐通、月岡
栄貴、山中雪人、牧野三生郎、小西国
葉、斎藤辰雄、桜井清三、水谷愛子、洪
谷由美子、守屋多々志、鈴木大麻、鈴木

至夫。

一華政美術協会(洋) 京都市上京区北大
路新町東入ル(事務代表京都市上京区
塔之段敷ノ下町四二一 中川義憲方 昭
和15年6月創立。紀元二六〇〇年を記念
して爾歩会を解散、華政美術協会として
再発足した。昭和28年9月第16回展開
催。

〔委員〕 赤沢正次、赤松文子、新井
完、荒木貞人、居井直胤、伊丹愛子、井
垣嘉平、池田治三郎、井上三郎、岩田順
三、梅林良子、上田輝七郎、角野判治
郎、北川威夫、楠見文雄、小西丘太郎、
小林富蔵、小林正雄、島戸繁、霜島之
彦、篠崎貞五郎、鈴木昶、関口正夫、武
田新太郎、坪井一男、辻川新十郎、中井
潔、中川義憲、中堀愛作、成田浩子、成
瀬十郎、西岡義一、則元醇、原田久之
助、伴庄兵衛、富士一男、藤松弁之助、
古沢広樹、正木順子、松田藤兵衛、松田
淑子、三尾公三、水谷ミヨ、南素行、宮
内順三、安江孝治、山尾平、山田新一、
山田キミ、由里明

一関西水彩画協会(水) 大阪市阿倍野区
北島東一ノ二九 桂龍雄方(電住吉八八
八七) 昭和10年4月創立。関西在住の水
彩画家の団結、親睦、普及研究を趣旨と
する。機関紙「関西水彩」発行。公募展、
講習会開催。

〔委員〕 池島勘次郎、別車博資、桂龍
雄、青野馬左奈、乾一雄、大庭しづ子、
田村雅保、岸生政夫、庭田定男、松村豊
太郎、大久保正義、赤尾長二、山田一

雄、上田素由、栗林忠男、佐野比呂志、溝尻頼吉、水野修道、中川隆史、宮本草一路、青山岩松、大久保三二、北口豊子、中安徹、生田正雄、池上三郎右エ門、村井新治、河村久子、仁科実、大田健一、山野一、永山隆二、藤川九郎

(会)

衣笠会(日) 京都市北区平野八丁柳町六一 金島桂華方(電西陣三〇一〇) 金島桂華を塾主とした日本画研究団体 昭和25年創立。

九九社(彫) 世田谷区玉川奥沢町二ノ一四九 森大造方 昭和9年創立。昭和18年迄毎年展覧会を開催していたが現在は活動を中止している。

(会員) 高橋泰蔵、中野四郎、村井辰夫、鈴木三郎助、長沼孝三、紺谷英儀、石塚貞男、森大造、奥山泰堂、長谷川宏九室会(洋・彫) 杉並区久我山二の六二六 森田信夫方 昭和13年11月創立。

二科展の第9室を中心とする新傾向作家の親睦を図り、併せて各自の研究を目的とする。戦時中絶、昭和25年再組織、昭和26年第1回展開催

(絵画会員) 阿部金剛、井上寛造、桂ユキ子、桑原実、中原実、野村守夫、岡本太郎、大沢昌助、織田広喜、鷹山宇一、寺田竹雄、鶴岡義雄、山口長男、山本敬輔、吉原治良、伊藤研之、松葉清吾、安藤幹衛、藤田金之助、萩尾テル、塙賢三、春田安喜子、今泉六郎、今長谷巖、稲垣克己、因藤寿、伊勢谷慶子、伊藤静尾、岩田安郎、狩野守、加藤孝一、

加藤正一、木俣滋彦、越谷繁造、増田勉、森田信夫、中川時之助、浪江勘次郎、根本茂子、西村千太郎、能間弘、大淵陽一、織田りら、小川清、斎藤三郎、神山勝、佐々木良三、田川寛三、高橋満州男、田中君子、竹中清、戸川串田、戸川ふみ子、上田民子、山本不二夫、山ノ内靖己、吉村勲、吉田一夫

(彫塑会員) 浅野孟府、堀内正和、笠置季男、乗松巖、上田暁、植木力、野水信、淀井敏夫、広瀬不可止、飯田艇三、岩元梶子、水野修道、野口嘉光、関口孝吉、曾山節雄、植村育子

京都金藝鑄會(工) 京都市北区等持院西町一六 加藤宗巖方 昭和26年5月創立。京都金藝作家の同种的集り。展覧会を錚錚展という。昭和33年3月第7回展開催。

(会員) 浅井徳太郎、今大路長光、上田哲三、大久保鼎湖、加藤宗巖、加茂靈峯、金谷五良三良、金江宗観、小林尚珉、広瀬兼忠、野田喜市、村上直行、辻井健三、五島正広、倉賀野茂樹、田中秀明

京都彫刻家クラブ(彫) 京都市東山区五条橋東五ノ四六七 清水礼四郎方(電祇園三三三三) 昭和27年2月創立。京都在住の中堅彫刻家によつて組織される。昭和28年2月、第2回展開催。

(会員) 伊室重孝、清水礼四郎、藤庭賢一、藤林重次、河野薫郎、小谷謙、岡本庄三、山本恪二、三宅五穂 京都陶藝家クラブ(工) 京都市東山区五条坂八幡前南入 森野嘉光方(電祇園

四三七一) 昭和23年12月創立。京都府在住の陶藝家及び陶芸会、白泥社、黏土の三陶藝団体で組織される。昭和24年から33年まで京都に於て10回、展覧会を開催。昭和30年から33年迄東京大丸に於て当クラブ黏土のみ4回展覧会を開催。

(顧問) 清水六和(会長) 清水六兵衛(副会長) 森野嘉光、河合榮之助(総務) 井上治男、新開寛山(委員) 七名(会員) 四五五名

(会員) 綾井秀宣、笠木実、梶田英一、黒沢悟朗、沢田正太郎、清宮賢文、田代利夫、田畔司朗、土屋広倫、弦田英太郎、富安昌也、中尾良一、細小路真、柚木祥吉郎、吉原秀夫

(会員) 黒潮会(日) 京都市左京区岡崎東天王町八九 細木成実方(電吉田三三〇二) 昭和29年8月創立。京都在住の、各種団体中、新進、中堅作家が各四、五名宛集つて成る日本画の団体。新しい日本画の創造を目的とする。昭和33年4月京都大丸にて、同年5月名古屋丸栄にて第4回展開催。

(会員) 細木成実、樋口辰志、下保昭、野々内良樹、木村広吉、猪田青以、中瀬昂、三輪良平、西内利夫、稲田和正、桑野博利、海老名正夫、岸田秀武、藤田孝正、利倉群青、大日躬世子、今井守彦、

林末次、山本昌平、石川義、岩沢重夫 塊土社(彫) 水戸市鈴坂町七四一 高久茂雄方 昭和30年1月創立。昭和24年以来の彫塑協会が29年末に発展的解散をして30年初めより新発足したもの。主に茨城県に在住する彫塑家達による団体。年一回展覧会開催。

(会員) 後藤清一、一色五郎、渡辺卓熙、吉田暁禾、高久茂雄、中島敦、後藤修、後藤末吉、小森邦夫、小鹿尚久、木内克、森山朝光、山崎猛、中井川洋、大高令子、軍司記美子、吉田貫

丸東入 土井久弥方 京都に住む35歳位までの日本画新人作家によつて結成される。第一次九名会は大正九年創立。平八郎、神泉、桂華、大三郎、華楊、荻部、印象らが所属した。第二次九名会は昭和32年11月に創立され、33年1月に第1回展、8月に第4回展を開催。

(会員) 岩沢重夫、池田道夫、山本知克、下保昭、三輪良平、山岸純、石本正、麻田應司、隈部琴子

グループ「実在者」(洋) 文京区駒込林町一五四(大島方) 池田満寿夫方 昭和30年4月創立。昭和31年1・2月第3回連鎖展開催。昭和31年8月解散。

(会員) 堀内康司、池田満寿夫、鬚嘯 形象派美術協会(洋) 愛知県安城市下小入道 福山進方 昭和28年5月創立。昭和28年5月第1回創設公募展を岐阜市公会堂にて開催、32年8月第5回公募展

を愛知県美術館にて開催。

〔会員〕 福山進、木村政夫、加藤博、杉浦艶子、岡本照美、牧野正則、三浦幸子、川澄虎男、山田新吉、安藤智雄、兵藤康彦、浅野英三、田辺繁雄、青野裕彦、野村正夫、有川武夫、中田早、鎌田知治、馬淵敏彦、祖田功、近藤克己、渡辺勝海、高橋三郎、河合幸三、大関新意、谷口汎明、太田正敏、宮城照己、岡本功、吉兼一男、棚橋明義、近藤功、藤谷久吉、京田寛、兄玉康彦、小木英雄

型生派美術家協会(洋) 世田谷区砧町五八 庫田敏方 国画会中堅会員により昭和25年結成された。昭和30年第5回展開催。

〔会員〕 宇治山哲平、香月泰男、喜多村知、国松登、熊谷九寿、庫田敏、須田剋太、福井敬一、山崎隆夫、原精一、橋本三郎

現代工芸協会(工) 京都市東山区上馬町五五三 原昭夫方 昭和31年8月創立。走泥社、創人社(現在朱支会)、モダニアート協会等に属する作家一三人を会員とし、各分野の理解と協力により新しいクラフトを創造することを目標に組織された。

〔会員〕 河合紀、八木一夫、山田光、鈴木治、林康夫、藤本能道、東端真裕、熊倉順吉、本野東一、原昭夫、叶敏、森俊三、清水卯一

現代漆藝作家協会(工・漆) 北区豊島三ノ二五 泉篤彦方(電王子三八五) 昭和31年8月創立。東京周辺に住む若い

漆藝家三四名によつて組織。

〔会員〕 泉篤彦、伊藤隆一、本間学、大西慶憲、音丸香、渡辺六郎、渡辺道善、渡辺大四郎、河合匡造、河合久仁雄、川村忠雄、吉田源治、吉田五郎、高田信吾、田中寿雄、多田保津雄、月尾正之、工藤喜代志、山浦等、八木一、保川寿子、山本春雄、松谷春雄、佐竹伊介、酒井市三郎、木下純寛、木下穆堂、三浦徳明、宮野光男、三田村秀雄、三村比呂志、島田文雄、宮樫権也

現代美術家協会(略称現展美術)(洋) 杉並区阿佐ヶ谷三ノ三四 宮島資雄方 昭和23年11月、日本作家協会洋画部、現代美術作家協会、新生派美術家協会の三団体が合同して設立発足したものである。昭和31年構成部を新設。昭和33年6月第15回現展開催。

〔委員〕 佐藤亘宏、原田雅光、古川柊三浦勝治、宮島資雄、武藤重典、相沢謙一、根来茂

〔会員〕 斎藤森重、鈴木重雄、田中皓四郎、升礼、照丘晃子、島崎貞子、加藤喜男、中野龍次郎、根来茂、村瀬卓郎、佐藤静樹、船橋公平、戸塚春男、与田元二、近藤栄子、大庭三郎、本間保次、阿部保、堀弘尚、平田俊一、斎藤朗彦、立原比呂雄、大野民雄、陶山博、荒木繁、山本和子、下川研、小幡普士男、山路光男

(二) 工彩会(工) 北区中十条二ノ八 会田富康方(電王子六五五) 昭和17年研

究団体として発足。昭和24年第1回展を開く。昭和33年9月第9回展開催その間地方に於いて移動展を開催する。33年3月大阪フェスティバルホールに総合工藝の「孔雀」壁面装飾を完成。

〔会員〕 飯塚小玗斎、伊藤隆光、伊藤録一、土肥刀泉、富樫謙也、大谷玲石、大坪重周、岡本玉水、岡本輝子、山本曠、川上南甫、加藤嶺男、竹内蘭山、武田三千子、中島珠光、松本佐吉、小林清寺井直次、会田富康、有田利章、天野策地、佐野貞一、木下寛、木下ボクドウ、佐竹伊助、三田村秀雄、新村撰吉、平野利太郎、平田郷陽、安きよ子、介川芳秀、中野馨一、市橋敏雄、山浦等、音丸融、音丸淳、山崎一成

〔準会員〕 中村文美、山田彰春、酒井市三郎

紅土会(洋) 新宿区上落合一ノ四四六 桜井慶治方(電、東京36五九八三) 昭和23年6月創立。同年より毎年展覧会開催。昭和32年8月第11回展を開いた。

〔会員〕 桜井慶治、上島一司、矢口洋、武内和夫、野本正雄、海老沢徹夫、花田忠吾、大道健治、篠田喜代志、森清治郎、橋本万寿子、遊馬正

行動美術協会(洋・彫) 世田谷区弦巻町一ノ二六〇一 向井潤吉方(電世田谷三五六一) 昭和20年11月創立。昭和19年二科会解散し、翌年8月終戦後二科会は再結成を図つたがその際主張の異なる旧二科会々員の一部を中心として組織された。昭和33年9月第13回展開催。

〔会員〕 (絵画部) 榎倉省吾、福井勇、古家新、飯田清毅、生沢朗、柏原寛太郎、三芳悦吉、向井潤吉、村田實史雄、難波香久三、田中忠雄、高橋進、伊谷賢蔵、伊藤久三郎、小林武夫、小出卓二、西飯修、田川寛一、下高原龍巳、田辺三重松、坪内節太郎、川原章二、山中春雄、高井寛二、佐藤真一、斎藤貞成、津高一、田中勇次郎、河野通紀、高須園之、全和風、江見絹子、田中喜吾良、大谷久子、辻親造、野尻弘、貝原六一、玉沢潤一、大場厚(彫刻部) 建島寛造、中島快彦、向井良吉、板谷慎、今村輝久、伊勢典賢、林是、阿井正典、野崎一良

光風会(洋・工) 港区芝田村町一ノ七 光風会館内(電東京一七三三) 責任者小寺健吉。明治45年創立。明治44年白馬会解散後、中沢弘光、山本森之助、三宅克己、杉浦非水、岡野栄、小林鐘吉、跡見泰の七氏発起して創立、第1回展を45年6月上野竹之台陳列館に開催した。官展系洋画家の団体、毎年春季公募展を開催。昭和33年4月第44回展を開いた。

〔会員〕 (絵画) 安達真太郎、足立真晃、足代義郎、朝比奈文雄、有馬三斗枝、秋元松子、荒井邦朝、浅井光男、井手宣通、井上武、伊藤忠久、伊藤徳三、伊藤四郎、伊藤鑑一、岩船修三、飯田弥生、池野寿彦、石橋武治、石河彦男、石野安親、宇城時志、鶴飼幸雄、内山孝、江藤純平、岡田又三郎、小川智、小川博史、大沢海蔵、大河内信敬、大原省三、

大倉克次、大桃寛、緒方亮平、斧山万次郎、奥山堤、岡本由郎、尾崎侃、加藤久幹、河井清一、上島一司、梶原貫五、角野判治郎、片岡銀蔵、笠井忠郎、金子徳衛、金沢秀之助、川端謹次、清原重以知、鬼頭鍋三郎、木村八郎、北浜淳、久山章、黒田頼綱、黒田久美子、熊沢欽三、樽松正利、小糸源太郎、小林真二、小寺健吉、小林易夫、国領経郎、鮫島利久、阪倉宣暢、笹鹿彪、笹岡了一、桜井悦、桜井慶治、桜田精一、斎藤齐、坂田虎一、市ノ木慶治、新道繁、白石隆一、白川一郎、鳥野重之、島戸繁、神保和幸、新保兵次郎、庄司栄吉、篠田喜代志、杉村悖、鈴木三五郎、菅谷邦敏、相井春雄、妹尾寿信、瀬戸千代三、千田徹夫、相馬其一、田村一男、田中実一、田中実、反町博彦、高木春太郎、高宮一栄、高田正二郎、高橋道雄、高光一也、高倉一二、竹岡良太郎、竹沢基、千原成一、中条茂、辻永、辻剛、辻村八五郎、寺内万治郎、寺島竜一、手塚義三郎、遠山清、土佐林豊夫、土橋醇一、戸塚孝三郎、戸田定、鳥居昇、長原坦、中村研一、中沢弘光、中島晋次郎、中岡恒雄、永田精二、永瀬義郎、長坂春雄、名渡山愛順、西尾善蔵、西山真一、西村暎定、西村俊郎、西村喜久子、西岡義一、根津荘一、野平上、日原晃、久本弘一、藤彦衛門、藤本東一良、藤井芳子、藤江理三郎、古屋浩蔵、舟木徳重、星野正三、馬淵聖、牧野司郎、益山英吾、松尾正己、松浦莫章、松本正人、丸山豊一、円地信

二、耳野卯三郎、南政善、水上信雄、三尾文夫、三輪孝、御正伸、薄江勘二、宮脇憲三、村岡平蔵、森田元子、森桂一、森新市、森清治郎、守屋千之、山中清一郎、山下忠平、山口猛彦、山喜多二郎、太、山村孝太郎、山本彪一、山田新一、柳瀬俊雄、矢口洋、由里明、幸島重雄、米本一郎、渡辺武夫、和田香苗、和田清、長尾真佐栄、中川義憲、新延輝雄、西尾毅、山名武、西田亨、兼行武四郎、野本正雄、川田茂、梶田英一、三宅次郎、留岡彰、福井重雄、角卓

〔工藝〕一噌元治、伊勢珠子、岩田久利、上野正之輔、上野斌郎、海野建夫、大阿久重信、大久保婦久子、大樋年郎、川合修二、久保駒太郎、小林清、杉浦非水、武内信弘、帖佐美行、辻光典、土屋杏平、寺本美茂、中田満雄、中村俊介、中村董一、夏井清、西村英夫、福原達朗、般若信弘、松風栄一、三輪智一、三井義夫、宮之原謙、山形駒太郎、山鹿清華、山崎寛太郎、鷺田りめる、岡部達男、二口志保子、飯田美郎、原稻生、祝三良、宮入契姿雄、岩下洋、坂本和子、中村草山、米沢久、松岡武夫、大津健、城秀男

神戸洋画会(洋) 神戸市東灘区本山町田辺三八、三木朋太郎方(電御影一五二四)昭和21年創立。阪神在住の洋画家をもつて組織、毎年展覧会を開く。

〔常任委員〕 朝倉斯道、大塚銀次郎、小磯良平、川西英、上田清、小松益喜、大石輝一、江田誠郎、三木朋太郎

〔委員〕 宮下貞之介、大石輝一、藤井二

郎、石黒平三郎、根木從之介、伊藤慶之助、辻愛造、山崎隆夫、上田清一、三木朋太郎、前田藤四郎、大垣泰治郎、田村孝之助、岡正一、松田豊、奥村隼人、小磯良平、小松益喜、青木一夫、中岡恒雄、江田誠郎、久本弘一、細谷重雄、津谷鹿市、佐藤篤郎、川西英、角野判治郎、伊川寛、別車博資、榊井一夫、尾田龍、新井完、神原浩、宗像逸郎

光陽会(洋) 北区上中里一ノ二 多々羅義雄方 昭和29年2月創立。多々羅義雄、早川芳彦、井口勇らが創立委員となつて結成し、民族性を活かした独自の藝術を創作することを目的とする。昭和32年7月第5回展開催。

〔委員〕 多々羅義雄、早川芳彦、井口勇、間所一郎、斎藤哲爾、斎藤始雄、吉川俊久、太田宗平、島田良雄、原田繁男、大川美友、北島吾三平、三井良作、若林清、大島信義、丸山妙子、湯沢明、岡野靖子、渡辺邦之、飯塚年男、本間勝太郎、高山幸夫、鷺田新一、川島義一、野呂正夫、池田英夫、諸橋政範、佐藤一弘、堀内貞明、梅地さわ子、大西あや子、古泉光子、徳増節子、山本弘子

国画会(絵・版・工・写真) 都下北多摩郡久留米町門前三一田中道久方 大正7年1月小野竹喬、土田斐憊、村上華岳、野長瀬晩花、榊原紫峰の五名は国画創作協会を設立、爾來毎春東京及京都に於て協会展を開催し、又入江波光はじめ数名の若い作家を同人に推挙したが、同15年梅原龍三郎、川島理一郎の兩名を迎

えて第二部を新設し更に富本憲吉、金子九平次を加えて彫刻及び工藝を同部に置いた。その後昭和37年7月解散したが、第二部は存続して国画会と改称し、梅原龍三郎、川島理一郎、大橋幸吉、金子九平次、富本憲吉、山脇信徳の旧会員に新に高村光太郎、椿貞雄、河野通勢の三名が参加し、翌4年「第4回国画会展」を公募の上開催した。第6回展に版画部新設、平塚運一が鑑査を担当した。10年梅原龍三郎及び富本憲吉は新帝院会員に任命され、同年6月川島理一郎は同会を脱退した。尚第14回展には写真部を新設し、鑑査には福原信三、野島康三の兩名が當つた。同14年彫刻部は同会を結束離脱し、彫刻部は解消した。29年理事制を廃し客員制を設けた。昭和33年4月第32回展開催。

〔名誉会員〕 梅原龍三郎 (客員) 福島繁太郎、浜田庄司、河井寛次郎、野島康三、柳宗悦

〔会員〕 (絵画部) 青山義雄、青木達弥、東貞美、伊藤廉、池部貞喜、井上三綱、石原宏策、宇治山哲平、内堀勉、大森啓助、大谷房吉、大淵武夫、尾田龍、柏木俊一、川口軌厓、香月泰男、喜多村知、木内広、国松登、熊谷九寿、久保守、庫田毅、小林邦報、小泉清、沢野岩太郎、里見勝蔵、洪川栄志、島内キミ、杉本健吉、須田勉太、曾宮一念、立石鉄臣、高松健太郎、辻愛造、土田文雄、中村博、中村好宏、長野静司、野田好子、長谷川春子、原精一、橋本三郎、南風原

朝光、平塚運一、日向裕、福留章太、福井敬一、二見利節、細谷重雄、益田義信、馬越樹太郎、真垣武勝、松木満史、松田正平、宮田重雄、三橋健、村上徹、山村誠、山崎隆夫、養田つや子、和田忠志、鈴木正二、小館善四郎、上田清一、田中道久、北村綱義、音部幸司、本田克己、鎌田雛子、岩尾秀樹、土田次枝、渡辺貞一(版画部) 畦地梅太郎、稻垣知雄、橋本興家、川上澄生、川西英、斎藤清、下沢木鉢郎、品川工、笹島喜平、関野準一郎、平塚運一、ブブノワ、前田政雄、益田義信、山口源、中川雄太郎、栗山茂(写真部) 入江泰吉、小野由行、木村伊兵衛、中居正躬、西山清、錦古里孝治、野島康三、北角玄三、長浜慶三、ハナヤ勘兵衛、吉川富三、内田美風、竹見義雄、島田貫一郎、(工藝部) パーナード・リーチ、上田恒次、及川全三、岡村吉右衛門、河井武一、小島恵次郎、後藤清吉郎、佐久間藤太郎、岸沢銑介、鈴木繁男、外村吉之介、立花長子、船木道忠、船木研志、三代沢本寿、森義利、袖木沙弥郎、柳悦孝、柳悦博、安川慶一、原田麻那

一切政治に関与しない。各国アートクラブは各々本部を国内に持ち、国際的な中央本部に連繫するが、中央本部は二年毎に国際会議によつて所在を決めることになつてゐる。現在はイタリアのローマ、アートクラブが本部となつてゐる。
[新幹事] 岡本太郎、杉全直、難波田竜起、昆野恒、藤沢典明、向井良吉、建島寛造、末松正樹、川端実、利根山光人、阿部展也、村井正誠、小松義雄、品川工、南大路一、赤穴宏、土屋幸夫、滝口修造、徳大寺公英、針生一郎
国際観光美術家協会(工) 京都市下京区寺町通高辻上(登喜和ビル)近畿地方の工芸美術を観光客を通じて紹介するため昭和33年5月に設立された。
同年6月開所展
[理事] 浅見隆三、河合卯之助、小泉秀雄、久保金平、佐野猛夫、徳力富吉郎、皆川泰蔵、森野嘉光(専務理事) 沢井一染、谷岡美雄、会員一四四名
国際具象派協会(洋・彫) 横浜市中区西竹之丸二二 寺田春式方(電本局四七六二) 昭和31年6月創立された国際具象作家協会を一九五八年一月に改称した。一九五四年(昭和29年)在仏中交友のあつた日・仏の作家評論家によつて結成。各々の伝統を尊重しつつ、生活に基盤をもつレアリテュメインを造型表現に訴えようとするものだと声明している。
昭和33年2月第2回展開催。
[会員] Aizpiti, Montané, Minaux, Guertier, Lorjou Vinay, Desnoyer,

Lotron, Bardone, Winsberg, Savary, 寺田春式、矢口洋、深谷徹、小野末、関口俊吾、山本豊市、松田正平、林武、伊藤康、木田克己、原精一、古茂田守介、中谷泰、野田好子、牛島憲之、吉田俊夫、香月泰男、木内克、平野義、柳原義達、淀井敏夫、桜井祐一、今泉篤男、嘉門安雄、福島繁太郎
国際工芸美術協会「J・A・C・C」(工) 北区田端町三三七 佐竹伊助方、昭和30年12月創立。伝統を生かしつつ世界的視野に立つた新しい工芸の創造を目的とする。その目的達成のため、デザイン、技術の研究、日本工芸の海外進出及交流、工芸に関する印刷物の刊行、会員相互の扶助、親睦、内外諸官庁、商社との連携その他必要な事業を行う。
[理事長] 中村光哉 [理事] 一名
[会員] 五四名

国際版画協会 千代田区神田小川町二ノ一 武崎ビル内(電東京二九局二七七八) 各種版画の研究とその普及を国際的に、版画美術の振興と普遍化により、文化の発展に貢献することをもつて目的とする。事業としては、版画の研究普及に関する事、国際的な交流、内外に於ける展覧会の開催、版画製作者助成に関する事等を行う。その一つとして昭和32年7月第一回国際版画協会展(日米交換版画展)を行った。
[会長] 辻永 [理事] 足達源一郎、伊藤集、江藤純平、大河内信敬、奥瀬英三、大久保作次郎、小野瀬圭三、片平勝、鈴木千久馬、長坂春雄、中村利一、野口弥太郎 [監事] 大江恒吉、三輪孝
[会員] 三十七名
国際美術協議会 港区芝白台金町一ノ五五(電東京四四局、八一〇六、八一〇七) 昭和32年8月創立。日本美術の国際的発展、国際美術展への参加、国際的交流に関し、国内関係諸機関の連絡を緊密にし、必要な審議を行うとともに、右事項に関する政府の施策に協力するために設置する。
[委員長] 富永徳一 [主務幹事] 米沢菊二 [委員] 外務省情報文化局第三課長井上一郎、文部省社会教育局芸術課長柴田小三郎、文化財保護委員会事務局長田中章、国立博物館次長内静三、国立近代美術館次長今泉篤男、国際文化振興会常務理事米沢菊二、国際造型美術連盟日本委員長伊原宇三郎、日本美術家連盟委員長宮本三郎、日本美術家事務局長和田新、美術評論家連盟会長富永徳一、美術評論家連盟事務局長嘉門安雄
国民文化会議 新宿区四谷一ノ一八(電四谷三八三〇、三五二二) 昭和30年7月創立。正しい国民文化を守り育てるために、国民各層の人々と文化を専門とする人々を結びつつ、我が国の文化の伝統を正しく発展させ、専門家の創造活動を培い、その成果を普及、大衆の文化的要求を満すことを綱領としている。原則として団体会員をもつて構成され、文学、教育、写真、藝能、映画、生活文化、音楽、舞踊、科学技術、言論、美術、演劇

美術団体一覽

国際アートクラブ(洋・彫・工・建・評論) 世田谷区経堂一五八 難波田竜起方(電話三三八八) 昭和28年5月国際アートクラブ日本本部として創立(通称アートクラブ) 画家、彫刻家、その他の美術家、評論家によつて組織され、各国のアートクラブと連繫し、現代美術を発展させるための活動を行う。又本会は

の一二部がある。

〔会長〕 上原専祿 〔顧問〕 路伊之助、

山田耕筈、市川巖之助、木村伊兵衛、石井漢、町田嘉章、秋田雨雀、徳川夢声

〔事務局長〕 南博

児玉画塾 (日) 文京区駒込林町三五
児玉希望方(電駒込五二五) 児玉希望の主宰する日本画塾

コンレアル美術協会 (洋・彫・デザイン) 神戸市灘区八幡町二ノ六三 関本弘三郎方 大阪市立工芸学校同窓生により昭和26年5月創立。昭和30年1月第6回展開催。

〔会員〕 小田村貞雄、小笠原美代治、関本弘三郎、矢野友司、中辻大

〔委員〕 小田村貞雄、小笠原美代治、関本弘三郎、矢野友司、中辻大

(さ)

朔日会(洋) 台東区谷中真島町一ノ一

羽藤馬佐夫方(電駒込七七八五) 昭和12年創立。昭和33年5月第27回展開催。

〔同人〕 羽藤馬佐夫、加藤正信、竹上義治、高木秀男、中島久雄、矢島俊一、

越次男、佐藤昌祐、木村昭弥、白石延夫、鈴木堅司、後藤高司、徳本立憲、角田和志郎、青柳正、西徳二郎、池淵知世、斎藤敬一、恒任てる、新野一弘、羽藤淑子、了正敬一郎、荒井一男、大塚武、戸泉静子、大久保照雄、小谷野享、

浅田進、新井信一、土屋芳夫、諏訪豊吉、長岡一敏 (会員) 八五名

座標(洋・版画) 兵庫県神戸市兵庫区

熊野町五ノ八九ノ二〇 大西江二方 昭和31年4月創立。構成メンバーは現在春陽会々員と一般出品である。昭和32年10

月第2回展を神戸で開催。

〔会員〕 佐藤篤郎、池内登、市原宏郎、大西江二、亀野積治、鈴木敏董、長尾和義、前田清子、山田文宏

サロンド・ジュワン(洋) 豊島区長崎六ノ四一 米倉寿仁方 昭和26年6月創立。昭和33年6月第10回展開催。

〔会員〕 浜田稔、堀田操、大口登、渡辺寛治、米倉寿仁、中島稔、真島健三、三水公平、木谷俊、辻葦夫、盛益子、安部幸毅、伊藤忠義、小野洋、若菜寿夫、中林松太郎、遠藤敏弥、窪田知矩、宮野進

〔準会員〕 岩井孝之、岡本治男、木下竜雄

三軌会(水・染色・版画・図案) 杉並区上荻窪一ノ一三 五井開一方(電荻窪六四六五) 昭和24年2月創立の新水彩作家協会を30年1月三軌会と改名。昭和32年写真部解散昭和33年6月第10回展開催。図案部新設。

〔委員〕 (水彩・版画部) 古郷八郎、小林新吉、前林章司、滝沢清、五井開一、坂梨心澄 (染色部) 大坪重周、奈良東明子、矢島青郎、野村信(図案部) 山内善之進、中村春路

〔会員〕 (水彩部) 増田大要、大久保寛郎、田村貫一、三輪田元也、細田賢作、石井敏、高杉洋介、植田実、森田一男

(染色部) 野村信、十束敏子、田内康近、大西澄子、山岸登美、佐藤雅男(図案部) 城橋夫、大西憲治郎、佐藤晃一、篠田健史、山岡陣平、石毛正一、水上暉

三光会(日) 杉並区堀之内一ノ一三一 田中針水方 川合玉堂の塾生により昭和21年11月創立。昭和30年3月第9回展開催。

〔会員〕 井上恒也、田中針水、山下巖

示現会(洋) 新宿区西落合一ノ二〇八 大内田茂士方(電駒込六四四八) 昭和22年10月創立、昭和33年5月11回展開催。

〔代表者〕 石川寅治 (常任委員) 石川寅治、三上知治、奥瀬英三、光安浩行、楡原健三

〔委員〕 阿部広司、石川寅治、江崎寛友、大坪実、大沼静蔵、奥瀬英三、斎藤俊雄、佐々木真夫、田原輝夫、寺崎善次郎、中村新次郎、奈良岡正夫、楡原健三、野生司行正、能見三次、半田圭治、細島昇一、三上知治、光安浩行、水戸敬之助、三井滋雄、山田説義、吉原甲蔵、大内田茂士、松本重雄 (会員) は委員を含め八七名。

四耕会(彫・工・写真) 京都市東山区高台寺榊屋町三四九 宇野三吾方(電祇園二四一一) 昭和23年10月創立。彫刻・工芸・写真等の研究団体。毎年1回公募展開催。

〔会員〕 伊豆蔵寿郎、宇野三吾、岡本素六、大西金之助、加藤仁、沼田一三、林康夫、雲雀民雄、藤田作、益田哲、渡辺好章、土木真澄、宇野瑞子、北出藤雄

日月社(日) 大田区仲蒲田一ノ一一 村松乙彦方 (電蒲田三六一七) 昭和25

年2月創立。官展系日本画家の研究団体、毎年各地で展覧会開催、昭和33年6月第9回展開催。

〔顧問〕 伊東深水、児玉希望、矢野橋村〔客員〕 寺島紫明、田中以知庵、池田遙都 〔委員〕 西野新川、奥田元宋、田中針水、武藤嘉幸、海野旭世、山下巖、牧野雅彦、福子悦夫、白井烟岳、森正元、佐藤太清、白鳥映雪、浜田台見、渡辺阿以湖、笠原可雄、立石春美、村松乙彦、松浦満、間宮正、八幡白帆、直原玉青、大平華泉、川上青山、秋元節朗、北村道明、伊藤万羅、水野陽翠、森田邦仁、米重忠夫、陳永森、関根雅雄、三上巴峽、村山径、横尾芳月 (会員) 一四五名(委員共)

実験工房(総) 世田谷区松原町三ノ八一四 秋山邦晴方(電松沢六六六五)

美術家、音楽家、詩人等の集団

〔会員〕 (美術) 北代省三、駒井哲郎、山口勝弘、福島秀子、今井直次、山崎英夫、大辻清司(音楽) 武満徹、鈴木博義、湯浅譲二、園田高弘、(文学) 秋山邦晴 室内構成美術家連盟 目黒区衾町一〇

〇 佐々木達三方 (電荏原二四〇九) 昭和26年創立。同年第1回展開催。

〔会員〕 佐々木達三、岩瀬要三、浜中勝、喜多村政良、野口寿郎、奥平貞俊、水谷文平、大泉博一郎、狩野雄一 信濃美術会(総) 大田区山王一ノ二五 六二 伊川鷹治方(電大森六九二) 昭和27年3月創立。在京信州美術家及在郷有

力美術家による団体。昭和28年6月第2回展開催。

〔会員〕(日本画)横尾芳月、町田曲江、江崎孝坪、亀朝隆、藤森菁藝、他(洋画)伊川鷹治、辻村八五郎、中川紀元、小山敬三、高橋貞一郎、小穴隆一、須山計一、小林邦報、宮川仁、矢崎牧広、日向裕、関四郎五郎、志村一男、加藤陽、他(彫塑)清水多嘉示、瀬戸団治、小林章、小林三郎、長田平治、大和作内、矢崎虎夫、他(工藝)北原三佳、高橋節郎、山岸堅二、他

シャルウル・ラタント美術会(洋)杉並区井荻一ノ二八 増田宜夫方 昭和29年12月創立。昭和31年1月新宿東電サービスマスターにて第2回発表展を開催。

〔会員〕 和田恒、山口道夫、増田宜夫、齋藤玄之助、佐藤光右、渋谷彦二 J・A・N(洋・写)〔青年美術家集団〕練馬区江古田二〇八二 斎藤正夫方(電)八三五二 昭和10年創立。昭和33年3月第29回展開催。

〔会員〕 土橋醇、藤井令太郎、福井敬一、五味秀夫、浜谷次郎、伊藤禎朗、今関一馬、井上孟、南桂子、武藤久、村瀬静孝、松村禎夫、中村道、齋藤正夫、笹岡了一、佐分利良夫、塩出千鶴子、田中岑、山下鉄之輔、横地康国、江田豊、大村連、辻正男、(写)藤本四八。

十一会(洋) 世田谷区成城町一一四 小野彦三郎方(電東京四一局九二〇四)

美術団体一覽

昭和33年創立。創元会を退会した小野彦三郎、木下幹一、山野正、松崎利行に旧東光会々員関口茂、国画会より清水光子、新日展木下繁、山脇正邦八名により結成昭和33年5月第1回展開催。

自由美術家協会(洋・彫・版) 台東区谷中三崎町四八(電)六九七七 稲田三郎方 保守的な形式主義、形式模倣を超越し、自由に新しい前衛藝術を作ろうと云う主張で結ばれている。昭和11年7月創立。昭和12年第1回展を開催。戦時中昭和16年第5回展より美術創作家協会と改称したが昭和21年第9回展(大阪)より旧称に復活、昭和33年10月第22回展開催。

〔会員〕 青木正春、赤塚 徹、麻生三郎、荒木道夫、安藤士、安部真知、伊藤昭二、井沢元一、池田淑人、磯村敏之、糸國和三郎、井上良三郎、井上照子、井上信道、井上武吉、稲田三郎、今井繁三郎、一木平蔵、上野省策、上野実、上原二郎、江見崇、栄永大治良、小山田二郎、小貫政之助、小野忠弘、小野州一、大野五郎、大村清隆、大村連、大家鋭郎、岡弘、岡本実、乙葉統、奥富修、尾内健治、小俣球一、加藤一、加藤隆、金井新一、香山逸人、加納敬次、川合喜二郎、川口精六、川瀬孝二、柿手春三、賀川孝、木ノ内岬、鬼頭暉、金光珠、久保田九一、倉石隆、熊谷明広、小谷良徳、小谷博貞、小管徳二、小林邦二、小林良曹、小山寿夫、昆野恒、金野宏治、佐田勝、佐藤美

代子、佐藤吉彦、佐藤弘、佐藤省三郎、境野一之、迫田潤一、沢野井信夫、佐野文夫、島田由紀子、鳥鉄生、清水七太郎、塩水流功、末松正樹、杉原清司、鈴木国稔、鈴木福男、関正和、関戸伸、石寿星、清希卓、曹良奎、藪田猛、田中彦次、田中朝吉、田中健三、田原史、竹中三郎、田勇、田尻稲四郎、中条顕、塚谷政義、鶴岡政男、手塚益雄、寺田政明、土井栄、渡力敦唯信、登崎太三郎、富山好子、富田卓司、富成忠夫、豊田一男、中島保彦、永田力、中野淳、長野誠之助、難波田竜起、中村健一郎、中本達也、中山一郎、奈知安太郎、西八郎、西良三郎、新田実、西田信一、西谷富士雄、西村保史郎、根岸正、野崎南海雄、野見山晴治、灰谷正男、羽田重亮、浜口陽三、浜田知明、浜田方一、早川重章、林田セツ子、比田井仁史、平沢熊一、広田嘉子、藤沢匠、藤沢喬、藤沢友一、藤田昭子、藤間清、文挾克明、深見公道、細井憲摩、前川博人、前田常作、松野庸子、松永浩二郎、松本忠義、松本正子、牧野重信、万城信郎、三木弘、水谷武彦、三井滋夫、南桂子、峯孝、峰村リツ子、宮本正之、森堯茂、森川昭、森田正治、森芳雄、矢島甲子夫、八獄四郎、八幡健二、山口英哉、山口正城、山内豊喜、山田千秋、山田光春、山本新蔵、幸丸辰門、吉井忠、吉本時昌

主潮社(日) 大阪府豊中市清風荘二ノ四七 矢野橋村方(池田八三四二) 昭和22年1月創立、矢野橋村を会長とする日

本画塾。(委員長) 福与悦夫 出版美術家連盟 新宿区下落合二ノ五八六(電落合)〇七三四 昭和25年10月創立。戦前の日本挿絵画家協会を戦後改称したもの。年一回出版美術祭を行う。〔会長〕 岩田専太郎(理事長) 田代光(事務局長) 西原比呂志

珠玉会 杉並区高円寺三ノ一八四 三輪孝方(電中野九〇二七) 昭和32年11月創立。第13回日展特選及岡田賞受賞者を経て結成、年一回発表展を行う。

〔会員〕 秋元松子、高橋道雄、武永慎雄、寺島竜一、中村一郎、二重作竜夫、松木重雄、三輪孝、三井滋夫、大蔵敏秋、角卓、樋口哲

朱玄会(一) 京都市左京区浄土寺南田町一〇三 番浦省吾方(電吉田三〇四九) 昭和32年4月創立。旧創人社は創立一〇年を経て初期の目的を達したと考え、発展的解散をなし、新に工藝の新造型をめざし結成した。京都在住作家の集り。昭和32年6月第1回展開催。

〔会員〕 井田宣秋、伊藤祐司、市川準一、上原清、上原茂、岡田章人、久保金平、鈴木雅也、堂本漆軒、中清太郎、中村弘子、番浦省吾、東端真裕、平石晃祥、松本祥輝、真鍋光男、水内平一郎、水谷時三郎、山下悦夫、山田栄金 朱葉会(洋) 中野区城山町二七 大久保為世子方(電)〇四九六 大正7年創立。女流洋画家の団体、昭和33年6月第10回連立展開催。

田文子、大久保為世子、赤津捨子、岩村芳子、水沢順子、南桂子、吉田千鶴子、森野照子、石川よし子、仲敬子、直井澄子、梅川慶子、重松京子、改井貞子、村田米子、宗久恭子、岸田麗子、南桂子等四四名。

青甲社(日) 京都市東山区八坂通東大路西入 西山翠嶂方(電祇園一六八四)

西山翠嶂を塾主とした日本画研究団体。大正10年1月創立。毎年初夏に展覧会開催。

〔総務〕 西山英雄 〔幹事〕 樋口富麻呂

春泥会(日) 大阪市住吉区帝塚山中三ノ二六 中村貞以方 中村貞以の主催する日本画の画塾。昭和11年5月創立。昭和30年6月第14回展開催。

春陽会(洋・版・舞台美術) 世田谷区代田一ノ三六〇中谷泰方(電(二)二八二)

大正9年秋日本美術院洋画部を脱退した小杉未醒、山本鼎、倉田白洋、森田恒友、長谷川昇、足立源一郎の六名は同11年1月、新帰朝の梅原龍三郎を加え、更に八名の客員を迎えて同会を創立。「春陽会は従来屢々見たる如き既成会への社会的対抗として興らず、単なる藝術家の心を以て因縁相熟したるものです」と声明した。翌年5月上野竹之台陳列館に第1回展を開き、爾後毎年春季に公募展を開催し、又東京開催後大阪、名古屋等に地方展を催している。昭和26年から舞台美術部を設けた。昭和33年4月第35回展開催。尚春陽会研究所は昭和4年開設、

現在に及んでいる。

〔会員〕 (油絵) 石井鶴三、石井光楓、伊藤慶之助、岩田栄之助、伊川鷹治、今竹七郎、岩崎又二郎、伊藤善、原田武男、原田平治郎、本莊起、豊泉恵三、友田みね子、岡鹿之助、小穴隆一、鬼塚金華、小栗哲郎、大沢鉦一郎、小川マリ子、大嶺政寛、小川緑、若山為三、加山四郎、川端弥之助、加賀孝一郎、川隅路之助、川上尉平、川島昇太郎、加藤秀夫、横堀角次郎、吉田達磨、高田力蔵、高橋辰雄、田中寿太郎、田川勤次、田辺謙輔、田中岑、土屋義郎、中川一政、南城一夫、中谷泰、中村徳三郎、村山密、上野春香、上原欽二、魚津良吉、野村千春、栗田雄、倉田三郎、山川清、藤野龍、藤井令太郎、小杉放庵、小泉倫之助、遠藤典太、足立源一郎、秋口保波、荒木市三、佐藤篤郎、佐藤昌胤、木村莊八、水谷清、三雲祥之助、南大路一、宮田武彦、宮脇晴、三井永一、志村一男、森川鏡、角南松生、木本晴三、福田庸一、笠大実、小柳秀太郎、中山爾郎、高木勇次、関四郎五郎、市川晃、五味秀夫、大嶺政敏、井上重生、杏掛利通、田畔司朗、西尾節子、宮城音蔵 (客員) アントニン・レイモンド (版画) 石井鶴三、長谷川潔、前田藤四郎、古川龍生、駒井哲郎、北岡文雄、清宮賀文 (舞台美術) 伊藤嘉朗、吉田謙吉、織田音也、河野国夫、北川勇、三林亮太郎 (客員) 花柳章太郎

上彩会(絵) 千代田区神田大和町三八区立今川小学校内(電(陽)七八〇九)

代表者 藤沢典明 昭和22年創立。東京都小学校在職者にて終戦後東京都美術派遣生として東京美術学校に派遣された二六名にて結成する。

女流画家協会(洋) 世田谷区玉川中町一ノ五〇 小川孝子方 (電(7)二四七八)

昭和21年11月創立。女流画家相互の研究と新人の登龍門として展覧会を開催する。昭和33年6月第12回展開催。

〔会員〕 一四〇余名

新槐樹社(洋) 武蔵野市吉祥寺三二六一 堀田清治 昭和33年3月結成。6月第一回展、12月第二回展開催。会員一三三名。

新協美術会 新宿区下落合二ノ五八六 西原比呂志方(電落合七三四) 昭和32年11月創立。在野美術団体。昭和32年11月第1回創立展を開催。以後年一回公募展を行う。

〔委員〕 青山裏、太宰澄、細井繁誠、河野浩、河野重軌、三谷長博、長井恵之、西原比呂志、尾島薫、佐々木利栄、田沢八甲、田代光、橋作次郎、横山義雄、長野英雄 (会員) 委員を含め三四名

新工人会(工) 板橋区南町五七 古田重郎方 昭和26年12月創立。若い工藝家の新作発表機関、昭和31年11月第7回展開催。

〔会員〕 松浦弾、近藤実、近藤昭作、江頭源一、古田重郎、三上修一郎、増田武夫、坂田種男、山岸征史、矢村仁四郎

新構造社(絵) 目黒区下目黒三ノ五七 六 本目勇市方 昭和10年6月構造社有

志幹事は絵画部の解消を決議したが同部は翌月構造社総会を招集、絵画部の存続を決議し同年11月第9回構造社絵画展を公募の上開催した。11年7月彫塑団体十七会の加盟により名を新構造社と改称、更に工藝部を新設した。昭和24年から太平洋画会、新構造社、朱葉会、創造美術会の四団体による自主連立展を開催し、3回展を了えて太平洋画会が退会、三団体による連立展を経営している。毎年1回展覧会開催。昭和33年6月第10回連立展開催。

〔会員〕 (絵画) 新井時厚、本目勇市、市川兼治、改井貞子、何徳来、清浦正風、楠本繁、北沢博生、小祝嘉一郎、斎藤六郎、斎藤慶一、岡田洋采、岡本寿一郎、岡義長、中川安一、南部一信、難波魁、大沢康之、吉村勇、大西福意、小田福丸、小口一郎、島太郎、三枝惣太郎、竹沢要作、寺中靖直、徳山巍、多比羅栄一、山本好信、神山恒、何之沢、福崎精哉、内山裂、外山準一、宮村泰彦、高野直二 (彫刻) 浜田三郎、思田忠一、寺畑助之丞、山名常人 (写真) 秋山青磁、岩間俱久、則松皓一、天野光章、熊谷辰男、長口宮吉、八太治、立花浩二、山田広次、茶谷弘

再興新興美術院(日) 豊島区目白三ノ三五五九(電池袋八九七二) 昭和12年9月日本美術院を脱退した元院友一二名を以て結成、戦争中一時中絶していたが昭和25年旧新興美術院同人六名に他二名を加え再興新興美術院として発足、毎年春

区立今川小学校内(電(陽)七八〇九)

区立今川小学校内(電(陽)七八〇九)

区立今川小学校内(電(陽)七八〇九)

区立今川小学校内(電(陽)七八〇九)

区立今川小学校内(電(陽)七八〇九)

区立今川小学校内(電(陽)七八〇九)

区立今川小学校内(電(陽)七八〇九)

区立今川小学校内(電(陽)七八〇九)

区立今川小学校内(電(陽)七八〇九)

区立今川小学校内(電(陽)七八〇九)

区立今川小学校内(電(陽)七八〇九)

区立今川小学校内(電(陽)七八〇九)

区立今川小学校内(電(陽)七八〇九)

秋2回展覧会を開催。昭和33年6月第8回展開催。

〔会員〕 茨木杉風、横田仙草、小林果居人、鬼原素俊、芝垣興生、高島祥光、林部圭幸、岡田錬石、倉持晋一、松永光玉、岩崎巴人、上田臥牛、安孫子荻声、箱山精一、花岡朝生、養父清直、谷口正春、大路孫三郎、根本正、服部高恭、上地瑛一郎、片岡巳代子、松浦可悦、中沢恵以子、大山魯牛、大川一男、中西一路、渡辺玉花、柴山蘭亭、野田松岳、阪口一草、長崎莫人、野原茂生、黒崎義介、谷口山郷、鍋島古舟、野村清六、林一羅、松本涼草、恩田耕作、上条静光、河村双舜、小川洗二

〔新樹会(洋・彫・版)〕 台東区谷中清水町三 大河内信敬方(電駒込四八八七) 昭和22年3月創立。昭和33年8月第12回展開催。

〔会員〕 井手宣通、原勝郎、浜口陽三、大河内信敬、大久保泰、山本豊市、朝井閑右衛門、斎藤愛子、木内克、南政善、清水多嘉示、三岸黄太、島村三七雄

〔新樹会(工)〕 京都市上京区北野紅梅町三三 黒田暢方(電西陣六八二八) 昭和23年5月創立。昭和23年の京都絵画専門学校卒業生を中心に結束した染織研究団体。昭和28年6月大阪松坂屋で展覧会開催。

〔会員〕 伊東逸平、横山英明、中島正三郎、黒田暢、寺石正作、齋田あさ、来野月乙、日高祥三郎、杉田博美、鈴鹿雄次郎

〔新具象(彫・洋)〕 東京都北多摩郡国立町東区九三 中本達也方 昭和30年2月創立。新しいリズムを求める研究団体。昭和32年6月第1回新具象展開催。

〔会員〕 井上武吉、木ノ内岬、森川昭、永田力、中野淳、中本達也、比田井仁史、松田博

〔新匠会(工)〕 京都市東山区泉涌寺東林町二九 鈴木清方(電祇園二二八〇) 昭和22年新匠工芸会として第1回展を開催。昭和26年第5回展より新匠会と改め、昭和27年在野団体として新発足。昭和32年第12回展開催。

〔顧問〕 富本憲吉 (会員)(陶) 福田力三郎、近藤悠三、鈴木清、徳力孫三郎、徳力牧之助、山田喆、安田茂郎、(染) 稲垣稔次郎、河合隆三、暮田延美、鈴田照次(漆) 山永光甫、古山英司(金) 増田三男 (会友)(陶) 小山喜平、壺井明日香、平田具一、早川毅(染) 手嶋有男、楠野スミ、伊砂久二雄、高井貞子

〔新象作家協会(洋)〕 板橋区板橋六ノ四〇 薮島庫二方(電駒三三八九六) 昭和32年11月創立。美術文化協会を脱退した会員を中心に広く優秀な作家の参加をもとめ、自由な芸術活動を理想とする団体として発足した。昭和33年7月第1回新象展開催。

〔会員〕 浅利篤、内田慎蔵、板家久美、井上市三郎、岩間正男、内山牛松、浅井昭、石井玲一、池原正男、太田一男、安藤憲三、皆光茂、香川勇、熊谷文

利、須賀卯夫、佐伯和美、島津純一、杉山誠、浦川泰幸、千葉健作、土井俊生、高橋勉、土味川独甫、多田雄蔵、中塚五甫、内藤健一、中村良七郎、永橋正次、庭田定男、薮島庫二、長谷川望、古川泰隆、宮地竜、横山重生、山田武彦、幸寿、大和秋平、吉田好斗、鈴木伊佐治、奥口信一

〔森々会(日)〕 杉並区阿佐ヶ谷三ノ五二八 川崎小虎方 (電荻窪一〇七七) 昭和25年7月川崎小虎塾有志により結成。昭和30年4月第5回展開催。

〔顧問〕 川崎小虎、東山魁夷 (会員) 石曾根貞亀、石田重子、太田歳夫、奥山芳泉、小倉芳司、小沢春子、川崎鈴彦、川崎春彦、永山十志夫、奈良裕功、小関きみ子、佐藤永芳、三河義太郎、山本瑛幾、大島秀信、小野茂明、石倉正富、齋藤俊雄

〔新世紀美術協会(洋)〕 新宿区西落合一ノ三二五 池上浩方(電落合一四一一) 昭和30年4月創立。無所属、藝術院会員中の和田三造、川島理一郎を名誉会員として迎え、旺文会離脱の大久保作次郎、吉村芳松、長屋勇等他一七名に、東光会より松本富太郎、横山義雄、境保博等、無所属の柚木久太、草光信成、創元会より東海林広等が参加して結成された日展系の団体。昭和30年7月日本橋高島屋に於て創立記念会員展を開催。33年6月第3回公募展開催。

〔名譽会員〕 和田三造、川島理一郎

〔会員〕 荒木穂雄、藤川光次、刑部人、

草光信成、松本富太郎、池上浩、大久保作次郎、東海林広、栢森義、別府貫一郎、柚木久太、吉村芳松、他一〇八名。

〔新制作協会(日・洋・彫・建)〕 世田谷区世田谷四ノ六八二 舟越保武方 昭和11年7月、第二部会が文展に参加するに及び猪熊弦一郎、内田巖、佐藤敬、中西利雄、小磯良平、三田康の六名は同会を離脱。脇田和、伊勢正義、鈴木誠の三名とともに新制作派協会を設立、同14年7月国画会の彫刻部を脱退した本郷新、佐藤忠良、山内壮夫、柳原義達、吉田芳夫、舟越保武、明田川孝、によつて彫刻部を設けた。同24年には建築部を新設、26年には日本画在野団体創造美術と合流し新に日本画部を設け新制作協会と改称した。展覧会回数は従来の回数を追うことになつた。昭和33年9月第22回展開催。

〔会員〕 (油絵部) 伊藤継郎、猪熊弦一郎、石川滋彦、伊勢正義、西田勝、西村元三朗、荻太郎、荻須高徳、太田忠、小関利雄、脇田和、若松光一郎、角浩、風間完、竹谷富士雄、田中修、田中田鶴子、田淵安一、玉置正敏、中尾進、行木正義、村尾隆栄、内田武夫、桑田道夫、丸山正三、小磯良平、小松益善、古茂田守介、赤穴宏、合田小三郎、佐藤敬、坂井範一、三田康、山東洋、油野誠一、三岸節子、宮脇公実、関口俊吾、瀬島好正、鈴木誠、鈴木新夫 (日本画部) 石本正、堀文子、奥村厚一、加山又造、吉岡堅二、高橋周桑、向井久万、上村松

建設工学研究会内
T.E.I (56) 904
港也久保明舟町一七
美野

篁、山本丘人、福田豊四郎、朝倉拱、麻田鷹司、秋野不矩、沢宏綱、菊池隆志、信太金昌、広田多津、稗田一穂（彫刻部）伊藤徳、五十嵐芳三、早川巍一郎、西常雄、細川宗英、本郷新、豊福知徳、岡本庄三、加藤昭男、吉田芳夫、田畑一作、土谷武、武次郎、村田勝四郎、久保孝雄、柳原義達、山内壮夫、山本常一、山本恪二、舟越保武、芥川永、佐藤忠良、菊池一雄、菅原安男（建築部）池辺陽、岡田哲郎、吉村順三、谷口吉郎、丹下健三、山口文象、劍持勇

新世代（洋） 品川区大井原町五二〇〇
原小学校内（電大森八九四）代表東俊二 昭和17年創立。教職にあるものでモダンアートの傾向に立つ作家の集り、昭和28年7月第1回展開催。

〔会員〕 東俊二、勝田寛一、藤沢典明等二五名
新超現実派（洋） 板橋区志村前田町一三九 古沢岩美方 昭和33年7月伊藤、福沢ら7名で結成され、9月に工藤が参加。9月第1回展および機関紙「新超現実派」発行。

〔会員〕 伊藤好一郎、工藤昌伸、浜田稔、奥口徳雄、古沢岩美、古沢恒敏、福田杜子夫、佐久間阿佐緒
農鳥社（日） 京都市北区北野紅梅町三三ノ一 山口華楊方 明治45年創立の西村五雲農鳥社は昭和13年9月五雲の逝去により解散、同年11月6日旧塾生の総意に依り新たに農鳥社を結成した。現在山口華楊が主宰する。

新美術協会（日・彫） 兵庫県芦屋市西芦屋町四一 山田皓斎方（電芦屋四五四九） 東京事務所 武蔵野市吉祥寺二二田所量司方 昭和29年3月創立。「各自が自由な立場にあつて新しい日本画、彫刻を創造する」主旨の集団。年一回会員展と公募展を行う。昭和32年8月東京展、33年6月第5回公募展（大阪）

〔顧問〕 青木大乗
〔会員〕 荒木賢治、荒尾昌朔、淵上晃成、長谷川保枝、聖蕃多、伊東種、伊藤秀峰、小宮山俊、前田晃邦、松本雅山、満田栄樹、諸永青泉、長浜虎雄、長浜建樹、野田松岳、野村東山、大橋良三、田所量司、立脇泰山、安川日霧四、山田皓斎

〔準会員〕 昇外義、大泉いかう、亀岡本都
水彩連盟（水） 世田谷区玉川奥沢町三ノ一七五 上田哲農方（電70五五六三） 昭和15年5月創立。昭和33年4月第17回展開催。

〔会員〕 荒谷直之介、春日部たすく、小堀進、長沢節、上田哲農、古川弘、山本彰一、牧原万之助、仁戸田秀吉、酒泉淳、増永直樹、寺居健一、三橋兄弟治、新井邦雄、藤川九郎、田中実、渡部百合子、伴敏子、青野馬左奈、サイタ亨、柴田祐作、柄谷繁夫、生田正雄（スタイル画部）原雅夫、宮内裕、中原淳一、長沢節

生活工藝集団（工） 台東区谷中初音町三ノ三八 北村一朗方（電駒込七五二二） 型々工藝集団とコ工工藝が合体、同時に同志を糾合して昭和26年発足した。昭和30年12月第3回展開催。

〔会員〕 浅野陽、磯矢阿波良、緒方正祥、小倉結梧、北村一朗、後藤年彦、岡谷四郎、田村耕一、内藤四郎、林二郎、矢部連光、牧田良一、林卯太郎、堀恒治、河津直武、大泉博一郎、小笠原陸光、井上秀雄、平野和子、大熊喜英、岩倉康二、黒大絢子

〔準会員〕 京都市北区上賀茂坂口町二 水田竹圃方（電京都七八局二八二二） 水田竹圃の主宰する日本画塾。
青季会（洋） 新宿区西落合一ノ三〇三 村岡平蔵方 昭和22年創立。年一回展開催。昭和33年6月展覧会開催。
〔会員〕 森田元子、鬼頭鍋三郎、幸島重雄、土佐林豊夫、田村一男、大沢海蔵、小川博史、高光一也、桜井悦、村岡平蔵、新道繁
青丘会（洋） 新宿区下落合四ノ一五八 入高木紀重方 日展所属各団体の中堅作家各二名よりなる研究団体。昭和25年9月創立。
〔会員〕 西尾善積、渡辺武夫、橋原健三、大内田茂士、高田誠、広瀬功、森田茂、山本日子士良、伊藤清水、平松護、小野彦三郎（在仏会員 館慶一）
青桂会（日） 神奈川県逗子市山野根四二三 中村岳陵方（電逗子三七七九）

昭和32年創立。中村岳陵の蒼野社塾員中、日展審査員、同出品依頼者、特選受賞者と、それに準ずる作家数名を加えた塾員団体。昭和32年7月第一回展開催。
〔会員〕 我妻碧宇、森綾翠、加藤長明、鈴木竹柏、遠藤桑樹、野島青茲、田畑豊秋、中村正義、中野蒼穹、望月定夫、関主税、倉光博、尾山職、菫蒲大悦、丸山石根、渋谷江津、東詔光
青港会（洋） 横浜市南区別所三〇 川島実方 昭和30年1月創立。横浜在住又は関係ある作家で日展系画家の集りとする。昭和32年第三回展開催。

〔会員〕 川島実、氏田喜八郎、島田四郎、水野富美夫、大河内幸俊、西島健太郎、堀真通、呉林俊
青晴会（洋） 中央区日本橋蠣殻町三ノ一八 川越昭子方 国画会の在京女流出品者により昭和26年結成された。
〔会員〕 田中美知子、土田次枝、野田好子、川越昭子

青陶会（陶） 京都市東山区渋谷通東大路西入鐘鐸町三九六 市川通三方 昭和28年6月創立。楠部弥式を中心とする陶藝研究会。昭和33年6月第5回展開催。
〔会員〕 二〇余名。
青塔社（日） 京都市左京区下鴨中川原町七一 池田遙都方（電京都七八局二五六〇） 昭和28年創立。池田遙都を指導者とする日本画研究所。
青龍社（日） 大田区新井宿四ノ一〇五 三川端龍子方（電大森三三二一） 昭和3年、日本美術院を脱退した川端龍子

〔会員〕 川島実、氏田喜八郎、島田四郎、水野富美夫、大河内幸俊、西島健太郎、堀真通、呉林俊
青晴会（洋） 中央区日本橋蠣殻町三ノ一八 川越昭子方 国画会の在京女流出品者により昭和26年結成された。
〔会員〕 田中美知子、土田次枝、野田好子、川越昭子

青陶会（陶） 京都市東山区渋谷通東大路西入鐘鐸町三九六 市川通三方 昭和28年6月創立。楠部弥式を中心とする陶藝研究会。昭和33年6月第5回展開催。
〔会員〕 二〇余名。
青塔社（日） 京都市左京区下鴨中川原町七一 池田遙都方（電京都七八局二五六〇） 昭和28年創立。池田遙都を指導者とする日本画研究所。
青龍社（日） 大田区新井宿四ノ一〇五 三川端龍子方（電大森三三二一） 昭和3年、日本美術院を脱退した川端龍子

が、龍子及び御形塾員の製作発表の機関として同4年6月同社を創立した。同年東京府美術館に第1回展を開催。尚秋期本展覧会に対して毎年「春の春龍社展」を開催する。春期展は秋期展に於ける入選者を出品資格者として鑑別の上陳列する。「健剛なる会場藝術」を唱え、在野団体として官展には参加しない。昭和33年9月第30回展開催。

【主宰】 川端龍子 【社人】 加納三峯、山崎豊、市野亨、安西啓明、小島鼎子、時田直善、亀井玄兵衛、琴塚英一、松宮左京、佐藤土筆、佐々木邦彦、結城天童、大塚香緑、竹内未明、渡辺不二根、織維デザイン創作集団(工)、中央区兜町三ノ五、米山ビル(電兜町六五三、七七七六) 昭和30年4月創立。織維デザインナーの創作団体として結成された。

【委員長】 河野鷹思 【委員】 松川照二、由良玲吉 【会員】 前沢賢治、渡辺万治、田中正明、藤田栄一、荻野茂、今洋子 【評議員】 須藤雅路、新井泉

【顧問】 和田三造、今和次郎
一九六〇年会 新宿区諏訪町二二七
植松真治方(電九八二局八二八九) 昭和32年4月創立。年二回発表展を開く。
昭和32年4・11月第1・第2回展、33年5月第3回展開催。

【会員】 植松真治、東平哲弥、山下充、春日部洋、松岡真男
前衛美術会(洋・日・彫・版・建) 豊島区千川町二ノ一 山下菊二方(電落合五一七六呼) 昭和22年5月創立。戦後、

美術文化協会より分れ、近代美術の批判的撰取、並びに美術の存在意義を社会的視野より考え、画壇化をいましめ、美術の正当なる基盤を大衆を通じてくみとることを趣旨として会を結成。次後昭和27年には、当時の日本の当面する諸問題を反映して、課題展、ニッポン展を主催し今日に至る。なお、現在課題意識も内面化され創造的次元において主体の問題として展開されるべきことが志向されている。昭和32年第5回ニッポン展開催。

【会員】 (絵画) 赤松俊子、尾藤豊、福田恒太、穂積肇、入野達弥、桂川寛、木村成敏、小島直、今野新一、丸木位里、箕田源二郎、宮城泰介、中野秀人、新居広治、小笠原直春、大野斉治、大塚陸、桜井誠、島田澄也、菅野陽、鈴木賢二、高山良策、滝漣三、滝平二郎、山下菊二、山内衛、寄本麟二、市村三男三、佐原マユミ、中村宏、北添寛子、山野卓造、中山正、原右門、渋谷草三郎、岡田愛子、高頭詳八、吉川佳男、斎藤国雄、小林弘男、法山昇、斎藤康子、金谷哲郎(彫刻)

岡本素六、井手則雄、入江弘
全日本工芸美術家協会(工) 千代田区有楽町二ノ五 東京都商工指導所内 梨谷静山気付(電和田倉二二八六) 昭和26年12月創立。

【会長】 徳川宗敬 【副会長】 高村豊周
【事務局長】 梨谷静山

(そ)

【創型会(彫)】 世田谷区玉川奥沢町二ノ一四九 森大造方(電田園調布三二八〇) 九元社の会員有志により結成。昭和26年11月創立。昭和33年6月第7回展開催。

【同人】 森大造、中野四郎、村井辰夫、奥山泰堂、大田重範、法元六郎、金城真輔、奏紹世、阿部晃工、尾崎一草、長谷川宏、紺谷英儀

【造形版画協会(版)】 台東区金杉一ノ六 清水正博方(電浅草一九〇) 昭和7年新版画集団として創立。11年第6回展を経て組織変更、12年3月造形版画協会と改称、版画の純粹なる絵画的造型性の確立を目的とす。戦時中一時展覧会を休止し、24年再出発して30年5月第14回展開催。32年12月展覧会開催。

【会員】 松下芳太郎、水船六洲、武藤六郎、小野忠重、柴秀夫、清水正博、後藤忠光、森本宏、小口益一

【創元会(洋)】 新宿区牛込中町二七 名村定志方(九段二二六四) 昭和16年3月創立。昭和33年4月第17回展開催。

【会員】 青地秀太郎、赤津実、安次嶺金正、荒明実、安藤信哉、飯野安、石塚三郎、石原義武、伊勢幸平、磯谷桂治、安藤朝子、犬飼尚、井上和、井上自助、井上正子、井上森夫、岩井森吉、岩永武男、岩本晃、上野維信、氏家秀之進、内田市郎、内山一郎、内海太吉、江口美春、大島勲、大槻達二、大橋城、岡田竹男、小川勝蔵、小城基、小野勉、恩田孝

徳、柏木治子、糟谷実、香取徳、金沢重治、金子千恵子、上条雄也、川口雄男、川口四郎、河野文男、河本一男、川辺外治、北角隆義、木下舜久、木村敏一、木村英雄、櫛田弘義、久米小夜子、倉員辰雄、栗原七三、小池鉄太郎、小池喜雄、小泉繁、小沼源雄、小又光、後藤純史、後藤立也、斎藤二男、斎藤弥平、坂本幹男、佐々木福基、佐々木文綱、佐竹忠南、佐藤辰一、鮫島梓、塩見俊治、島崎三則、進藤清、鈴木千久馬、仙波盛久、鷹尾寿助、高島常雄、高橋北修、高橋正人、財牧園、田口克己、立花重雄、館慶一、田中繁吉、谷俊男、塚本張夫、鶴甫、鶴永悦男、出口竜一、手島實、戸田郁郎、戸谷賀一、中敬子、中島研介、中西清、中野和高、中村一郎、中山節子、中山良一、長尾徹、橋本花子、八田豊

長谷川政子、長谷川竜甫、原田貞嘉、范雲舜、樋口一郎、樋口治平、平野逸郎、広本季与丸、深山力、福迫徹郎、藤谷康夫、古谷馨、堀内孝恵、牧野正吉、増田常吉、増本好信、町田洋二、真鍋忠行、三浦暹爾、三樹保、三島利正、宮地享、宮下広吉、崎竜之助、望月正男、矢沢一翠、安武芳男、山崎政太郎、山口勝、山口幹雄、豊千里、吉田民尚、吉田義英、会員一四〇名

【創元会(工)】 大阪府池田市石橋町五七 平松宏春方(電池田八五三九) 昭和31年6月創立。在阪工芸家の志を同じくする者の集り。研究会を開き発表展を行う。昭和32年5月第一回展開催。

〔會員〕 橋田裕士、中条青香、川端三義、角谷一圭、角谷莎村、田辺竹雲齋、武石勇、中島保美、前田竹房齋、小林美春、龜山竹司、平松宏春、末村笙文

創作工藝協会(一) 渋谷区代々木上原町一三三八 山陽洋二方(電渋谷九六五) 昭和27年6月創立。モダンアート・クラフトとしての造型活動に併せて産業工藝に於けるデザインの水準を高めるために積極的な活動を行う。昭和33年5月第7回展開催。

〔會員〕 高橋節郎、吉田丈夫、佐治正、佐藤潤四郎、染川鉄之助、芳武茂介、青木滋芳、蓮田修吾郎、山陽洋二、安原喜明、三輪智一、各務満、櫻尾宗一、鈴木貫爾

創人社(一) 京都市左京区浄土寺南田町一〇三 番浦省吾方(電吉田三〇四九) 昭和21年1月創立。以来毎年京都及び東京に於て展覧会開催。工藝的新造型性の確立と後進の育成を趣旨とする。

〔會員〕 番浦省吾、黒田辰秋、久保金平、東端真菰、平石晃祥、上原清、中清太郎、竹中徹風

昭和32年春解散、会員の一部は朱玄会を設立した。
爽々会(水) 豊島区長崎五ノ三 春日部たすく方 昭和31年4月創立、水彩画の向上発展をめざす、水彩画家の集り。昭和32年6月第2回展開催
〔會員〕 荒谷直之介、春日部たすく、小堀進

創造美術会(洋日・応美) 都下北多摩

那保谷町上保谷八一五 下田範次方 昭和22年創立。同33年6月第10回連立展開催。

〔會員〕 (洋画部) 五十嵐堅一、岩井泰三、保科米三、渡辺喜一、加藤祭一、金沢俊夫、土橋義延、長沢政規、成瀬憲、松本茂雄、福島長二朗、園分治、小泉鉄太郎、後藤和、青樹宮三、坂口辰巳、下田範次、鈴木義史、小谷智昭、尾池克己、原田幸夫、西村進、中山壮一、山田三郎、雨宮芳文(日本画部) 岡戸竜生、岩間武平、金泰伸、秋元節郎、小柳創生、蟻川秀華、日高秋風、渡辺白林子、平田晴耕、菊地友一、宮下秀石、樋口陵人、鈴木伊三郎(応用美術部) 木村康三、高橋馮哉、辻基、小田中久良子、林敏子、豊田照子、池谷美枝子、坂本幸子、窪田香丘、今井正、津田耕村

創造美術協会(洋・日・彫) 大阪市天王寺区木野町二〇 久保晃方 昭和10年創立の洋画団体セクションが同15年創造美術協会と改称、関西在住の各派美術家により組織されたもの。昭和29年第15回会員展、同30年9月第8回公募展を開催。

〔常任委員〕 上嶋龍、川原章二、田中阿喜良、久保晃

〔委員〕 西阪修、玉沢潤一、小林武夫、下高原龍巳、高須国之、河野通紀、山田千秋、荒井秀宣、藤田重夫、陰山光義、荒木由三、貝原六一、伊藤才夫、斎藤正治、村尾克己、森崎幸(以上絵画) 白石正義、村上龍起、仲真弘(以上彫刻)

双台社(洋) 世田谷区玉川奥沢町一ノ三八四 鍋谷伝一郎方 昭和16年創立。昭和33年7月第17回展開催。

〔同人〕 石井柏亭、荒谷直之介、上田哲農、岡田行一、大兼実、刑部人、林鶴雄、堀忠義、細島昇一、下沢木鉢郎、鈴木良三、鈴木信太郎、須山計一、田坂乾、滝川太朗、近藤吾朗、高橋庸男、近岡善次郎、千ヶ崎徳六、斎藤州外、平塚運一、鍋谷伝一郎、納富進、真下慶治、松村三冬、他三八名

走泥社(一) 京都市東山区五条坂白糸町 八木一夫方 昭和21年9月創立。新時代に即応する工藝の総合的研究団体。昭和32年11月京都市美術館で第15回展開催。

〔會員〕 原照夫、藤本能道、河合紀、河島浩三、神崎建三、加藤達美、門井嘉衛、叶敏、熊倉順吉、三浦篤雄、森里忠男、村井次郎、佐藤雅彦、鈴木治、柘植敬吉、辻勘之、鳥羽克昌、山田光、八木一夫

蒼野社(日) 神奈川県逗子市山ノ根四二三 中村岳陵方(電逗子三七九) 中村岳陵の主筆する日本画塾。

第一美術協会(洋・工) (事務局) 文京区高田豊川町六〇 石川方(電大塚一五〇一) 昭和4年5月創立。毎年展覧会開催、昭和33年6月第29回展開催。
〔委員長〕 石川重信(副委員長) 高橋亮、岡登貞治

〔委員〕 石川重信、大沢邦雄、高橋亮、神津港人、谷井喜三郎、村上松次郎、鶴田貞男、任補豊丸、横山群、竹野谷仁重、上原重和、野沢孝作、山口美勇、岡所春、斎藤茂、青木武、佐野忠吉、佐藤晃、新川昭一、石本信夫、新関国臣

対象(工) 埼玉県戸田町木沢一五二〇 岸沢武雄方 昭和29年5月創立。新しい世代的認識のもとに生れる工藝の研究発表機関。昭和32年11月第4回展開催。

〔叢助会員〕 高村豊周(會員) 蓮田脩吾郎、西大由、染川鉄之助、岸沢武雄、伊藤豊、板坂辰治

第二紀会(洋・彫) 世田谷区玉川奥沢町二ノ三〇四 宮本三郎方(電田園調布三二七六) 二科会は昭和19年第30回展後解散し戦後再結成を図つたが、旧二科会員黒田重太郎、栗原信、田村孝之介、中川紀元、鍋井克之、正宗得三郎、宮本三郎、横井礼市の九名は参加せず旧二科会の活動を第一期とし、戦後新しく第二の紀元を劃するの目的を以て昭和22年5月第二紀会を創立した。昭和33年10月第12回展開催。

〔委員〕 (絵画) 黒田重太郎、栗原信、田村孝之介、中川紀元、鍋井克之、正宗得三郎、宮本三郎、横井礼以、佐野繁次郎、橋本徹郎、峰岸義一、藪野正雄、成井弘、大兼実、大石俊彦、佐佐木孔、秋保正三、高山道雄、森英、津田周平、中野安次郎、井上安男、佐伯米子、土岐園彦、近藤嘉男、島岡実、鳥取敏、児玉幸

雄、青木寿、金田辰弘、森本健二、中西勝、山口操助、加藤敏子、小島真佐吉、西村功、岡田登志男、熊野俊一、宮永岳彦、山田等、築山節生、浜田信、久野修、市野長之介、中西勝、辻管堂、同人一二九名（彫刻）菅沼五郎、中川為延、松村外次郎、八柳恭次、長野隆業、斎藤聖香、坂上政克

太平洋美術会（旧称太平洋画会）（洋・彫・染）

荒川区日暮里町九ノ一、〇八〇。明治22年創立の明治美術会を同34年組織を一新し翌年1月太平洋画会と改称、第1回展を上野公園五号館に開催した。同37年洋画研究所を開設、昭和4年太平洋美術学校と改称し、同20年戦災にあい中絶、32年再び開校した。なお32年、会名を太平洋美術会と改称した。毎年展覧会を開催し昭和33年6月第54回展を開催した。

〔絵画部会員〕

布施信太郎、浅川恒明、尼谷良、石井明、石井弥一郎、市川光雄、一井増郎、円城寺邦夫、大木卓、大宮松太郎、大森商二、小柳津経広、河合敏雄、川村信雄、近藤洋二、小坂健三、近馬勘吾、小宮惣太郎、小泉秀松、小島清、沢村みちる、島添鶴雄、爾見信郎、砂田正巳、鈴木武志、高橋虎之助、多田栄二、武田好文、竹内栄蔵、佃武昭、椿悦三、野村寛、原正俊、原ツマ子、広島八重子、藤田親宏、藤田実、堀潔、本目豊吉、真木孝之、丸毛利久、牧田実、三浦金之進、山口美好、梅原英子、長岡忠三郎、深水正策、岩崎英子

行友藏、永島吉太郎、仲田穎、蒲生栄一、慶伊安次郎、後藤泰作、杉山司七、吉城弘、安藤邦衛、伊藤正三、川堀たか子、小池不可止、中山章、日向茂夫

（彫刻部）

藤井浩佑、堀進二、沢田政広、山本豊市、中野桂樹、石井明、吉田陽悦、宮本重良、三沢寛、木島正夫、杉本宗一、関保寿、今里龍生（染織部）野口道方、満留満、野田習之、仁科十郎、河合斗潮、海老原美登

〔工・染〕

京都市左京区下鴨東本町三三 皆川泰蔵方（電78二二二三）昭和23年4月創立。染色美術家の集り、毎年一回京都にて展覧会開催。

〔会員〕 皆川泰蔵、今西良雄、春日井秀雄、三浦景雄、山出守二、皆川幸恵

（あ）

竹杖会（日）京都市上京区等持院西町三五 徳岡神泉方 明治28年故竹内栖鳳塾生にて創立。昭和30年7月第7回展を京都で開催。

〔会員〕 西山翠嶂、小野竹喬、徳岡神泉、金島桂華、池田遙邨、浜田観、伊藤小坡、中田晃陽、森月城、大村広陽、榊原吾山、山本紅雲、東原方僊、青木生冲、大矢峻嶺、川口吳川、山本朝光、稲葉春生、佐藤寛山、伊藤石華、小豆島甘兆、吉田兆青、吹田草牧

中央美術協会（洋・日・彫・デザイン）

杉並区善福寺町四八 中央美術学園内（電三九八局四二二七）昭和27年5月創立。中央美術学園の指導者と卒業生をもつて組織する。昭和33年第9回展開催。

〔参予〕 今泉篤男等一四名〔会員〕 新倉政英等八七名

銚子美術協会（工）

練馬区南町四ノ六二〇一 市橋敏雄方 明治41年2月東京銚子美術会として創立。昭和17年まで32回の展覧会を開いたが、戦争と共に中絶し、昭和22年3月銚子美術協会として新発足した。同年第1回展、33年5月第3回展開催。

〔会長〕 高村豊周

〔副会長〕 香取正彦、内藤春治

〔委員長〕 丸谷端堂

中部在野美術連盟 名古屋市北区成願寺町七二二 中部在野連盟事務所（会務代表者）岡田徹 昭和30年2月創立。中部地方における在野美術団体の連合体でこの地方に新鮮な美術文化を確立し、努めて広範囲な造型面の実践に寄与することを目的とする。毎年秋10月春3月の2回、各団体より選抜された作家により、新しい展覧会方式による集団個展を開催する。他に中部アンデパンダン展を主催し新人の発見につとめる。

〔会員〕 二科、行動、国画、春陽、新制作、モダンアート、自由、独立、美術文化、第二紀の各団体に所属する作家は自動的に連盟会員として登記される。五六五名。

（こ）

デッサン社 千代田区神田鍛冶町二ノ九 大正15年創立。毎年一回現代名家作品展を定期開催。昭和32年第22回展、機

関誌「デッサン」発行。

〔特別賛助員〕 梅原龍三郎、中川一政、石井鶴三〔主宰〕 旭正秀物故のため高沢甲一郎継承。

天香画塾（日）世田谷区深沢町四ノ一二二 松林桂月方（電玉川七二七）松林桂月の主宰する日本画塾。塾長 吉田登毅

点々会（日・洋）世田谷区世田谷二ノ一三五 後藤禎二方 昭和30年1月創立。昭和33年8月第4回展開催。

〔会員〕 別府貫一郎、後藤禎二、大森啓助、若山為三、岡本唐貴、寺島貞志、山上嘉吉

（こ）

稲花会（七）杉並区久我山三ノ一一三 三田村自芳方 大正15年1月創立。故赤塚自得の社中を以て組織し、社中間の親睦を図り常に漆工藝研究の向上に務める。随時展覧会開催。

〔同人〕 三田村自芳、太田自適、岡本昇三、吉岡郁三、村尾慶水、村田義忠、井沢徹二、工藤喜代志、山浦等、三田村秀雄、魚野自醒、石川古堂、小沢裕、南忠、岡本好美、月尾正之、中西正東 東丘社（日）京都市北区平野桜木町二八（電西陣九六八）堂本印象の主宰する画塾で毎年京阪神で展覧会を開催する。昭和33年第15回展開催。

〔総務〕 三輪晃勢、山本倉丘 東京展 世田谷区北沢五ノ八六一 竹上義治方 昭和29年2月創立。

〔会員〕 羽藤馬佐夫、加藤正信、鈴木

堅司、竹上義治、佐藤昌祐、白石延夫、西徳二郎、矢島俊一、木村昭弥、荒井一男、徳木立憲、越次勇、恒任てる、斉藤一、青柳正、新野一弘

東京美術文化協会

台東区上根岸町四四(電浅草三〇一、三四五六) 小中学及高校の図画教育の振興のため昭和21年財団法人として創立。毎年都美術館において展覧会開催。都内各小中学校において美術と書道を主催する。研究雑誌「美術教室」を年4回発行。

東京民藝協会

中央区銀座西八ノ三 たくみ内(電銀座二九〇・二〇一七・二〇七一) 昭和29年3月創立。日本民藝協会の東京地方支部として、民藝運動の振興に尽し、会員相互の親睦をはかる。30年1月より機関誌「民藝」を発刊。32年10月号より全国誌として「日本民藝協会」に移管、33年6月号より月刊「民芸手帖」を機関誌として刊行する。毎月講演会、見学会、研究会、鑑賞会を行行。入会随意。

〔会長〕 松方三郎 〔会員〕 四〇〇名
東光会(洋) 豊島区権名町一ノ一八七
三 森田茂方(電落合一六六四) 昭和7年創立。昭和33年4月第24回展開催。
〔委員〕 岩下三四、石本秀雄、家水騏三郎、石田勝重、橋詰英一郎、原田博介、林林男、西寺鉄舟、錦織保久、豊島利右衛門、渡辺浩三、渡辺文雄、河原修平、河井達海、横岡垣幸一、田代順七、田中孝夫、多田俊彦、武永楨男、園部晋、辻利平、筒井茂雄、常重和、中井重

男、梅津五郎、野沢寛、能登靖幸、小野政吉、大和田富子、大寄丹次郎、大滝斗良樹、大木茂、奥野康春、岡本肇、大歳暁、越智旭輝、胡桃沢源人、熊岡正夫、桑原福保、栗家功、山本日子士朗、山形光寿、柳田久、山崎修二、松岡正直、松岡正、松永敏太郎、直木宣武、的場勇、小早川篤四郎、河野磐、近藤喜義、草名芳夫、朝井清、斎藤与里、佐藤一章、清原武則、三田村策、水野一好、島村剛生、江藤哲、平通武男、森田茂、関貞、瀬田忠司、杉山卓

〔委員〕 他に約一〇〇名
東陶会(工・陶) 目黒区下目黒四ノ八四三 安原喜明方(電七二二局四三三〇) 昭和2年創立。年2回、同人展開催。
〔会長〕 板谷波山〔会員〕 安原喜明、宮之原謙、井上良斎、土肥刀泉、中静昭平、館野善次郎、古宇田正雄、城戸夏男、板谷梅樹、磯谷丹舸春、横山朝陽、山本正年、中野馨一、林茂松、川上正三郎、西沢爽、中村雅臣、小島章光、他会友一三人

讀画会(日) 板橋区常盤台一ノ二九 西沢笛敵方(電板橋二二〇一) 明治41年故荒木寛敵及十敵の門下を主体として発足、毎年展覧会を開催。展覧会名を一新社展と改め昭和26年第3回展開催。 其後日本伝統花鳥画研究のため毎月研究会を開催。
〔委員〕 西沢笛敵、森白甫、永田春水、朝井観波、田口黄葵、木木大果、温原柳敵、亀割隆

独立美術協会(洋) 台東区谷中初音町四ノ一七 島村三七雄方(電駒込一二六二) 昭和5年11月創立、里見勝蔵、児島善三郎、林重義、林武等二科会の会員会友及び同会出品者一人名に国画会の高島達四郎、春陽会の三岸好太郎を加え、我々は既設の団体より絶縁し新時代の美術の確立を期す」と宣言、独立美術協会を創立した。翌年1月第1回展を開き新帰朝の福沢一郎も第1回展から会員として参加した。昭和33年10月第26回展開催。
〔委員〕 青柳暢夫、赤尾孝、赤堀佐兵、足立襄、池島勘治郎、今井憲一、伊藤彪、入江一子、宇根元警、海老原喜之助、江川平三、大久保泰、織田彩子、岡村芳男、小原雄二、片山公一、加藤陽、菊地精二、木村忠太、久保一雄、熊谷登久平、小出三郎、児島善三郎、小島善太郎、小林和作、齋田武夫、斎藤長三、斎藤求、桜井浜江、坂本善三、佐川敏子、島村三七雄、清水錬徳、志村計介、末永胤生、菅野恵介、鈴木保徳、鈴木亜夫、須田国太郎、妹尾正彦、妹尾正雄、高島達四郎、田中行一、高橋忠弥、高間惣七、田中佐一郎、島海青児、鉄指公蔵、鳥居敏文、中尾彰、中津瀬忠彦、中間冊夫、仲村一男、中村節也、中村善種、中山巍、鳩川誠一、西田藤次郎、野口弥太郎、狭間二郎、林武、樋口加六、藤岡一、堀之内一誠、斑目秀雄、松崎真一、松島一郎、松島正幸、松島鈴子、緑川広太郎、宮崎精一、宮島佐一郎、水島清、李田たけを、矢崎牧広、山田栄二、山道

栄助、山本正、横地康国
土曜会(工) 大阪市天王寺区逢坂上ノ町一四一 柴崎風神方 昭和27年1月創立。京阪在住の官展系工藝作家の有志的集り。

〔委員〕 平松宏春、角谷一圭、森崎静亮、小林美春、川端三義、田辺竹雲斎、中島保美、穂山竹司、米沢蘇峰、楠田撫泉、伊東翠壺、宮下善寿、堂本漆軒、中村鶴生、勝尾青龍河、森野嘉光、柴崎風神

二科会(洋・彫・理・漫・商業美術・写) 杉並区久我山二ノ五九〇 東郷青児方(電荻窪二二四) 大正3年文展第二部に二科設置運動が起つたが、当局に容れられず、同年10月ついに文展より分離して、上野竹之台陳列館に二科美術展覧会を開催した。同展開催の際の鑑査員一人名は翌年そのまま会員となり在野団体として独立した。爾来同会は新進流派の作家を包容して我洋画史上に啓蒙的功績を挙げている。大正8年藤川勇造会員に推され初めて彫刻部の加入をみた。其後昭和5年児島善三郎、里見勝蔵等は退会し独立美術協会を創立、更に石井柏亭、有島生馬、山下新太郎、安井曾太郎等の名譽会員辞退があり、会員の移動はあつたが在野として行動を続け昭和18年第30回展を開催した。翌19年は情報局の指令により展覧会は中止となり更に諸般の事情により同年10月ひとまず解散した。同20年

〔会長〕 松方三郎 〔会員〕 四〇〇名
東光会(洋) 豊島区権名町一ノ一八七
三 森田茂方(電落合一六六四) 昭和7年創立。昭和33年4月第24回展開催。
〔委員〕 岩下三四、石本秀雄、家水騏三郎、石田勝重、橋詰英一郎、原田博介、林林男、西寺鉄舟、錦織保久、豊島利右衛門、渡辺浩三、渡辺文雄、河原修平、河井達海、横岡垣幸一、田代順七、田中孝夫、多田俊彦、武永楨男、園部晋、辻利平、筒井茂雄、常重和、中井重

終戦となり再結成を図つたが旧会員中、向井潤吉、古家新等は行動美術協会を、又、正宗得三郎、熊谷守一等は第二紀会を結成して離脱した。昭和20年新に工藝部、理論部を、同26年漫画部、商業美術部、同28年写真部を設けた。同30年7月鈴木信太郎、高岡徳太郎、野間仁根は退会を声明、一陽会を結成するに当り、米良道博、荻野康児、鱸利彦、山路貞護、浅野孟府、植木力等絵画部並びに彫刻部の会員は行動を共にした。昭和33年9月第43回展開催。

〔会員〕(絵画部) 阿部金剛、青山龍水、安藤幹衛、藤井二郎、藤川栄子、福島金一郎、服部正一郎、伊庭伝治郎、井上賢三、井上寛造、伊藤研之、伊東静尾、北川民次、桑原実、桂ユキ子、松本弘二、松井正、松葉清吾、浪江勘次郎、中原実、錦義一郎、野村守夫、岡本太郎、大沢昌助、織田広喜、佐藤吉五郎、齊藤三郎、佐々木良三、清水刀根、鷹山宇一、多賀谷伊徳、寺田竹雄、東郷青児、鶴岡義雄、山口長男、山尾薫明、山本敬輔、山本不二夫、吉井淳二、吉村勲、吉原治良(彫塑部) 笠置季男、大西金次郎、安藤菊男、堀内正和、乗松敏、妹尾健太郎、野水信、松下隆治、平川正道、淀井敏夫、日高正法、広瀬不可止(理論部) 鈴木崧、山中散生、菊岡久利(漫画部) 近藤日出造、清水崑(写真) 大竹省三、秋山庄太郎、早田雄一、林忠彦、綾川洋一、植田正治(商業美術部) 河村連平、西島伊三雄、赤羽喜一、

石川茂、石川ナツオ、高橋春人、檜枝幹夫、松岡誠造

日展(総)台東区上野公園、電(82)

明治中期の美術の隆盛に伴つて美術団体の群生をみたが、明治40、年政府は美術振興策として文部省に作家・学者・批評家よりなる美術審査委員会を設け、毎年文部省美術展覧会(文展)を開催し、その出品を審議させた。しかし新旧の対立は免れず、その結果大正3年日本画では横山大観・下村観山、今村紫紅・安田靉彦らが分離して日本美術院を再興し、洋画では石井柏亭・有島生馬・山下新太郎・坂本繁二郎らが二科会を分立することになる。大正8年美術審査委員会は廃止され、新たに帝国美術院規定による美術展覧会(帝展)が設けられた。審査員の一部には文展時代にしばしば受賞した作家たちが選ばれ、回を重ねるごとに帝展で特選を得た新進作家たちが加わつて、文展時代の情性を破ることに努めた。昭和2年には日本画・洋画・彫刻の三部の外に、第四部として美術工藝を加えたが、年を経るに従つて帝展にも無鑑査出品の氾濫というような弊害が顕著になつた。昭和10年松田文相は帝国美術院を改組し、在野団体の作家を加え、無鑑査出品者を整理するなどの改革を考えたが、美術界は混乱に陥つた。そこで平生文相は再改組を行つて一層の紛糾を呼び、昭和12年帝国美術院を解消して帝國藝術院を設置することにまつて収まり、展覧会は文部省主催の四部の綜合展(新文展)として毎年

開かれることになつた。これには在野の作家も出品した。第二次大戦後、昭和21年文展は日本美術展覧会(日展)と改称して再出発したが、不参加団体が増加し、昭和23年アメリカ軍総司令部顧問の「改組と民主化」の勧告に従つて、翌24年には日本藝術院と藝術員会員有志によつて組織される日展運営会との共催として日展を開いた。しかし、昭和32年その運営状況が国会において問題になり、その結果、以後藝術院はこれに関係せず、社団法人日展という民間団体が昭和33年3月設立され、新しい出発が準備されることになつた。その目的と事業としては、日本画・洋画・彫塑・工藝・書の五科よりなる日本美術展覧会を毎年秋に開催するほか、内外の美術に関する調査研究および図書機関誌「日展美術」の刊行などが計画実施されている。昭和33年11月第一回展開催。

〔理事長〕 辻永(常務理事) 小野竹喬、中村岳陵、山口蓬春、石井柏亭、中村研一、北村西望、齊藤知雄、吉田三郎、山鹿清華、山崎覚太郎、豊道春海、〔理事〕 徳岡神泉、堂本印象、福田平八郎、有島生馬、川島理一郎、長谷川昇、山下新太郎、高村豊周(監事) 石川寅治、司忠(顧問) 高橋誠一郎、松永東、鐮木清方、松林桂月、野田九甫、中沢弘光、和田英作、和田三造、朝倉文夫、内藤伸、石井鶴三、板谷波山、清水六和、岩田藤七(評議員) (日本画) 我妻碧玉、麻田弁次、伊東深水、池田逸邨、岩田正巳、宇田荻郎、加藤栄三、金島桂華、川崎小虎、兒玉希望、杉山寧、寺嶋紫明、西山英雄、橋本明治、浜田視、東山魁夷、望月春江、森白甫、森田沙伊、矢野橋村、山口華揚、山本倉丘(洋画) 伊原宇三郎、池部均、江藤純平、大久保作次郎、奥瀬英三、鬼頭鍋三郎、木下孝則、小糸源太郎、小寺健吉、小堀進、小山敬三、佐藤一章、佐竹徳、齊藤与里、新道繁、鈴木千久馬、田崎広助、田中繁吉、田村一男、寺内万治郎、中野和高、中村善策、中村琢二、三上知治、耳野卯三郎、森田元子、山喜多二郎太(彫塑) 赤堀信平、雨宮治郎、敏村直久、大須賀力、加藤顕清、北村治禧、北村珪三、国方林三、黒田嘉治、古賀忠雄、後藤清一、佐々木大樹、沢田政広、清水多嘉示、中川清、長沼孝三、橋本朝秀、藤野舜正、堀進二、松田尚之、三國慶一、森野円象、山本稚彦、袖月芳、横江嘉純、吉田久継(工藝) 板谷梅樹、井上良

〔理事長〕 辻永(常務理事) 小野竹喬、中村岳陵、山口蓬春、石井柏亭、中村研一、北村西望、齊藤知雄、吉田三郎、山鹿清華、山崎覚太郎、豊道春海、〔理事〕 徳岡神泉、堂本印象、福田平八郎、有島生馬、川島理一郎、長谷川昇、山下新太郎、高村豊周(監事) 石川寅治、司忠(顧問) 高橋誠一郎、松永東、鐮木清方、松林桂月、野田九甫、中沢弘光、和田英作、和田三造、朝倉文夫、内藤伸、石井鶴三、板谷波山、清水六和、岩田藤七(評議員) (日本画) 我妻碧玉、麻田弁次、伊東深水、池田逸邨、岩田正

〔理事長〕 辻永(常務理事) 小野竹喬、中村岳陵、山口蓬春、石井柏亭、中村研一、北村西望、齊藤知雄、吉田三郎、山鹿清華、山崎覚太郎、豊道春海、〔理事〕 徳岡神泉、堂本印象、福田平八郎、有島生馬、川島理一郎、長谷川昇、山下新太郎、高村豊周(監事) 石川寅治、司忠(顧問) 高橋誠一郎、松永東、鐮木清方、松林桂月、野田九甫、中沢弘光、和田英作、和田三造、朝倉文夫、内藤伸、石井鶴三、板谷波山、清水六和、岩田藤七(評議員) (日本画) 我妻碧玉、麻田弁次、伊東深水、池田逸邨、岩田正

〔理事長〕 辻永(常務理事) 小野竹喬、中村岳陵、山口蓬春、石井柏亭、中村研一、北村西望、齊藤知雄、吉田三郎、山鹿清華、山崎覚太郎、豊道春海、〔理事〕 徳岡神泉、堂本印象、福田平八郎、有島生馬、川島理一郎、長谷川昇、山下新太郎、高村豊周(監事) 石川寅治、司忠(顧問) 高橋誠一郎、松永東、鐮木清方、松林桂月、野田九甫、中沢弘光、和田英作、和田三造、朝倉文夫、内藤伸、石井鶴三、板谷波山、清水六和、岩田藤七(評議員) (日本画) 我妻碧玉、麻田弁次、伊東深水、池田逸邨、岩田正

郷、中村蘭台、西川寧、平尾孤往、松井如流、松本芳梨、松丸東魚、柳田泰雲、山崎節堂、山田正平。

日本アブストラクト・アート・クラブ (洋・版・彫・評) 世田谷区若林町四六一 西田信一(電世田谷一五八七) 昭和28年6月創立。アブストラクト・アートの国際交流を目的として結成した集団。

〔会員〕 西田信一、川口軌厩、末松正樹、山口長男、植木茂、山口正城、吉原治良、村井正誠、山口薫、川端実、植村鷹千代、滝口修造

日本インダストリアル・デザイナー協会(工) 目黒区中目黒四ノ一四六八(電七二二局三七七〇) 昭和27年10月創立。〔理事長〕 小杉二郎〔理事〕 小池岩太郎、真野喜一、金子徳次郎、豊口克平、松本文郎、皆川正、由良玲吉、山口勇次郎、秋岡芳夫

日本浮世絵協会 港区麻布市兵衛町二ノ一 国華社内(電赤坂一七五二) 旧日本浮世絵協会とその後設立された浮世絵同好会が合体して昭和16年に創立されたもの。不定期に浮世絵に関する講演会を開催又展覧会を指導する。

〔会長〕 浅野長武〔理事長〕 藤懸静也〔常任理事〕 檜崎宗重、金田信武、渡辺庄三郎

日本漆工藝会(工) 杉並区成宗二ノ七一八 山浦等方 昭和21年5月創立。漆工藝作家及之に関する学者、評論家を以て組織し、会員相互の親睦協和により

漆工藝の振興を図り作家の向上発展を目的とし、春秋展覧会を開いていたが、昭和三年三月解散した。

〔委員長〕 吉田源十郎、太田自適、河合秀甫、河合久仁雄、河合匡造、工藤喜代志、佐藤陽雲、佐治正、三田村秀雄、山浦等、吉田左源二、渡辺道善(地方委員) 小松芳光、張間麻佐緒、彼谷芳水、中野謙二、稲塚芳郎、武石勇

〔会員〕 東京二二名、地方四五名 日本画院(日) 台東区谷中清水町一 望月春江方(電駒込三八一〇) 昭和13年5月創立。昭和33年5月第18回展開催。

〔創立同人〕 岩田正巳、川崎小虎、野田九浦、松本姿水、望月春江、根上富治、町田曲江、穴山勝堂、畠山錦成、森村宜永

〔同人〕 石塚青我、大田歳夫、小関きみ子、長嶺雅雄、永山十志夫、是永伸一、石曾根貞、猪木匡四郎、大島秀信、橋爪堆恩、細谷達三、小沢春子、川村暢洋、川合清、川崎鈴彦、川崎春彦、高橋光輝、高橋彝、奈良裕功、佐藤永芳、佐藤昭三、佐藤美雄、宮沢鉄夫、三河義太郎、塩原友子、清水保雄、望月美江、関口如水

日本画府(日) 練馬区豊玉北三ノ八大石哲路方 昭和31年2月創立。同志一〇名を中心とし公募展を年一回開催する。昭和33年7月第5回展開催。

〔同人〕 児玉三鈴、宅間説、跡部白鳥、石田粧春、弓家恒敏、大石哲路、早

坂士鈴、清水三鳩、川端正光、深尾広道、田中水畦、倉島丹波、東原徹、俣山千蒼、佐田実、楊隆生

日本金工制作協会(工) 世田谷区新町二ノ一八四 大須賀喬方 日本彫金会所属の大須賀喬、信田洋は金工藝界の現状にあきたらず、昭和31年10月同会を脱会し、松原、北原、羽原らがこれに加わって昭和32年1月日本金工制作協会を樹立した。6月第一回展、昭和32年6月第2回展開催。

〔会員〕 大須賀喬、信田洋、松原春男、土屋杏平、北原央、羽原一陽、添田勇、大須賀選、鈴木治平

日本工藝会(工) 板橋区常盤台一ノ二九 西沢宙敏方(電板橋二二〇一) 昭和30年6月設立。無形文化財に選定された京都在住の人によつて結成された日本工人社が発端となり、同社会員の増加につれ全国的にこの組織を拡大しようと、29年7月同社を解散して設立に着手して

いたのが、約一カ年後に社団法人組織として結実した。わが国の伝統工藝に従事する作家、技術者相互の連携を密にし、伝統工藝に関し、調査研究、伝承者の養成等、必要な諸事業を行い、これらの貴重な伝統工藝の保存と活用を図り、かつ、その発展を期し、もつて文化の向上に寄与することを目的とする。昭和32年10月第4回日本伝統工藝展開催。

〔総裁〕 高松宮〔会長〕 細川護立

〔役員〕 (理事長) 西沢宙敏〔常任理事〕 加藤土師萌、香取正彦、松田権

六、明石国助、荒川豊蔵、石黒宗麿、飯塚環玕斎、太田英蔵、音丸耕堂、鹿兒島寿蔵、加藤唐九郎、木村雨山、久保隆美、玉井敬泉、中村勝馬、野口真造、堀柳女、前大峰、水町和三郎

〔会員〕 陶藝二二名、染織二四名、漆藝一九名、金工二八名、木竹工七名、人形その他七名

日本国際藝術協会 中央区日本橋本町一ノ五 三越前共同ビル内(電日本橋五五一三、二六〇三三四) 昭和三年一〇月設立。各国との藝術その他文化一般に関する交流の企画・実施を行い、これによつて文化の進展、国際友好の促進に寄与することを目的とする。事業として藝術家、学者、視察団等の派遣、受入、文化に関する図書、フィルム等資料の交換、前項と関連する公演、展示、出版等の企画、実施、その他を行う。

〔会長〕 平塚常次郎〔副会長・理事長〕 谷川徹三〔常任理事〕 箕作秋吉、松田権六、水沢澄男、中地勇栄、林広吉

日本国際デザイン協会(工) 中央区銀座西六ノ六 銀座日産館 初二六〇九

都市計画、建築設計、インダストリアルデザイン、クラフトデザイン、グラフィックデザイン等における国際性を昂めることを意図して創作、生産、技術、教育、マネージメントなどの領域における協力を計る。昭和32年10月設立。講演会を屢々催す。

〔会長〕 足立正〔副会長〕 加納久朗

〔常務理事〕 大月栄一〔理事〕 岩田久

利、岡本太郎、勝見勝、亀倉雄策、河合正一、劍持勇、河野鷹思、斎藤鎮雄、坂倉準三、清家清、丹下建三、浜口隆一、原弘、菱田安彦、柳宗理、吉阪隆正、渡辺力、〔監事〕高田忠、野沢隆一

日本山岳画協会(洋) 渋谷区代々木大
山町一〇六七 長坂春雄 (電東京三七局一三一八) 山に親しみをもち、山を画く画家をもつて結集した会。昭和32年6月第17回展開催。

〔会員〕 足立源一郎、畦地梅太郎、石井鶴三、井手宣通、伊藤清永、上田哲農、江藤純平、大久保作次郎、大河内信敬、荻原孝一、奥瀬英三、春日部たすく、加藤水城、河越虎之進、倉員辰雄、田崎広助、田村一男、島野重之、中村清太郎、中村善策、長屋勇、長坂春雄、長坂やす子、永瀬義郎、松本富太郎、南政善、三輪孝、横山義雄、山川勇一郎、佐竹徳次郎

日本山林美術協会(絵・彫・工)
豊島区要町二ノ三三 鶴田吾郎方(電落合一三五七) 昭和29年5月創立。山林による凡ゆる面に対しての美術創作と活動を行う。昭和33年6月第3回展開催。

〔会員〕 鶴田吾郎、光安浩行、古賀忠雄、安達真太郎、清水敦次郎、刑部人、松田文雄、二口善雄、太田洋愛、桑原宏、光安鶴子、小島三郎、高木周平、白尾三男、山畑阿利一、宮本光庸、宮地寅彦、村井辰夫、奥山泰堂、林二郎、松野伍秀、水野英夫、牧野四子吉、須山計一、佐々木秀夫、鈴木賢次、田鏗勝二

日本水彩画会(水) 中野区江古田一ノ二九一 細島昇一方(電落合六七三三) 故大下藤次郎、故丸山晚霞、故河合新蔵の三人の経営せる日本水彩画会研究所を大正2年4月、石井柏亭、白滝幾之助、真野紀太郎等三七名の発起に依り、改制擴張して新に各派水彩画家の綜合団体として設立。毎年1回東京及関西で展覧会開催。昭和33年6月第46回展開催。

〔代表者〕 幹事 細島昇一
〔委員〕 阿部広司、相沢光朗、不破章、細島昇一、石川達三、小山良修、牧野正吉、増田喜恵蔵、水野以文、水平讓、内藤秀因、野沢潤次郎、竹内梅治郎、富田通雄、渡辺義一、山中仁太郎、山崎政太郎、大和屋蔵、山本不二夫

〔会員〕 阿部広司、相沢光朗、青津清喜、荒木芳男、荒木茂喜、安藤信敬、別車博資、千ヶ崎悌六、江口均、淵上政夫、藤江志津、藤野盈雄、藤田薫、福田四郎、古川盛雄、不破章、早川国彦、林義勇、荻原美、星野正三、細島昇一、広田幸吉、本多信彦、平沼深水、平島武夫、日野九州男、飯島公夫、飯島敏三、飯島直、池尻一朗、石井柏亭、石井鶴三、石川達三、石川新一、板倉賛治、池部鈞、甲斐栄一郎、梶谷保、木島工、小山周次、小山良修、小泉政孝、栗原七三、今野五郎、桂龍雄、町田源三郎、牧野正吉、岡宮勇、丸山東美男、増田喜恵蔵、松本寿雄、松本慎三、三浦敏、水野以文、水平讓、水木伸一、水谷景房、水田莊介、三上信次、三上知治、宮島羊郎、宮部進、宮崎信吉、

森寅雄、森田正世史、村上鉄太郎、宮地茂、望月正信、中田早、中沢弘光、内藤秀因、名柄正之、西尾武夫、丹羽美智子、野沢潤次郎、野村英夫、野村閏一、沼尾松三、野津佐吉、仲井義雄、西原務、小原博司、太田黒幸、岡田正二、岡崎祇容、恩田孝徳、小川俊郎、納直次、斎藤大太郎、坂江重雄、関晴風、白滝幾之助、白山卓吉、繁野三郎、篠原新三、柴山英雄、菅沼金六、佐竹泰次郎、杉原茂右エ門、島村宇三郎、田坂ゆたか、高木重雄、財保、高山長一郎、竹野谷仁重、竹内梅治郎、竹内栄三郎、滝沢邦行、丹野良輔、富田通雄、富安昌也、鳥井三郎、高野清、谷俊男、田幸橋、寺島脩治、有働観美、海野正男、牛尾弘、漆畑広作、渡辺徳、渡辺義一、渡部文雄、八木政羊、山本不二夫、山森元亀、山村秀一、山中仁太郎、山崎政太郎、大和屋蔵、吉田豊、吉田四郎、吉田取、吉松真司 一三三名

日本水墨派(日) 世田谷区経堂町五〇
○ 沢令花方(電東京四一局九六八) 昭和29年5月創立。初め中川紀元、棟方志功、峰岸義一によつて組織し、津田青楓、近藤浩一路、などを客員として同年第一回展を開いたが、昭和32年海外美術の水墨画への関心のたかまるにつれ、新に、新しい東洋の墨画追求をもとめ改組、再出発した。昭和33年8月第5回展開催。

〔会員〕 中川紀元、峯岸義一、楡原祥太郎、園松伽耶、希代稔、高畑正明、沢野吾

日本墨絵会(日) 渋谷区千駄木町二ノ四八五 竹内方 昭和12年2月日本水墨会を創立。小川幸銭、小杉放庵、津田青楓、中川一政、矢野橋村、菅橋彦、生田花朝、小松均、岸浪百卿居、渡辺大虚等によつて結成された墨人会の後身で、伝統を高びつつ新しい和風墨絵道を振興し、清潤素雅を基調とする国民美術の確立を期するを趣旨としている。昭和31年9月第7回展開催。33年日本墨絵会と改称。

〔会員〕 渡辺聖空、戸田蹊春、加藤素郷、久富裕慈、渡辺英明、吉村嘉嗣、竹内雅朋、森友光潤、竹内清紅、〔客員〕小杉放庵、前田青郎、中川一政、小松均、菅橋彦、津田青楓、山喜多二郎太

日本染織作家集団(工) 文京区指ヶ谷町六〇 長浜重太郎方(電小石川一三八二) 昭和30年5月創立。伝統の上に立ち新しい染織藝術を創造し、我國造型美術界の進展に寄与せんとする在野染織作家達の集り。昭和33年11月第3回公募展開催。

〔会員〕 稲垣稔次郎、飯田真弓、二科十朗、雲出雪枝、長浜重太郎、中村妙子、栗原宏、古田重郎、木村和一、鈴木照次、菊沢草露路、中川啓子、山内安芸

日本染織美術協会 世田谷区上馬町一ノ六〇七 (電世田谷一〇三三三) 昭和20年4月創立。機関誌「染織美術」を発行。
〔会長〕 野口真造 〔主幹〕 本吉春三郎
日本宣伝美術会 中央事務局・千代田区有楽町二ノ七 (電和庄倉二九〇〇)

昭和26年6月創立。毎年東京・大阪・名古屋・九州・北海道その他各地区事務所々在地で展覧会を開催、そのほかデザイン講習会等を行う。昭和33年8月一九五八年展開催。

〔中央委員〕 板橋義夫(事務局長・東京)、伊藤憲治(東京)、金野弘(大阪)、沢村徹(大阪)、大橋正(東京)、亀倉雄策(東京)、小林葉三(大阪)、河野鸚思(東京)、佐佐木貴士(札幌)、中島康雄(大阪)、高橋錦吉(東京)、中山文孝(九州)、橋本徹郎(東京)、早川良雄(大阪)、原弘(東京)、狭間寿郎(名古屋)、山城隆一(東京)、山名文夫(東京)

日本彫塑家倶楽部(彫) 台東区谷中初音町三ノ五(電駒込四五四九) 昭和28年2月創立。昭和22年創立の日本彫刻家連盟を発展改称したもので職能団体的性格を離れ彫塑家相互の親睦と彫塑の研究、発展を目的として再発足した。

創立委員は加藤顕清、北村治禧、古賀忠雄、沢田晴広、中野桂樹、長沼孝三、橋本朝秀、昼間弘、藤野舜正、安田周三郎、山本稚彦。昭和33年4月第46回日本彫塑展開催。

〔顧問〕 朝倉文夫、北村西望、斎藤知雄、藤井浩佑、吉田三郎(卅二年度運営委員)、雨宮治郎、赤堀信平、朝倉馨子、円勝勝二、藤野舜正、橋本朝秀、昼間弘、加藤顕清、木村珪二、北村治禧、古賀忠雄、倉持芳、三國慶一、宮地寅彦、水船六州、長沼孝三、中野桂樹、佐々木大樹、沢田政広、清水多嘉示、畝村直

久、山本稚彦、諏訪与里於、安田周三郎、中川清〔会員〕 三五〇名

日本彫塑家倶楽部関西支部(彫) 京都市左京区修学院大林町一六 松田尚之方(電吉田五一〇八) 昭和28年6月創立。

関西日展彫塑家協会が発展改称し、日本彫塑家倶楽部(東京)に合流し、京都、大阪、兵庫、奈良、滋賀の二府三県をもつて其の関西支部として新発足した。昭和32年第5回展を京都、大阪、奈良で開催。

〔関西支部長〕 松田尚之〔会員〕 三名

日本デザイン協議会(J・D・C)〔T〕

事務局 千代田区神田三崎町二ノ二二(電東京30七五七七) 三輪梅三郎 昭和32年4月創立。我国デザイン界の相互の交流をはかるとともに、強力にデザイン活動を推し進め、その進展を期して、とりあえず左記五団体をもつて組織発足した。常時、相互に情報の交換を行うとともに、各方面からの呼びかけに対しては、十分検討し、その対策をすみやかに処理しようとする常設機関であり、共通の場である。

〔会員〕 日本インダストリアル・デザイン協会(J・I・D・A)、日本デザイン・クラブ・トマン協会(J・D・C・A)、

国際工芸美術協会(J・A・C・C)、日本宣伝美術会(J・A・A・C)、日本建築家協会(J・A・A)の各団体。

日本童画会 新宿区西大久保一ノ四二九 文学会館内(電四谷二六四四) 昭

和21年創立。毎年展覧会開催。

〔代表委員〕 林義雄(電世田谷七二七四)

〔委員〕 武井武雄、初山滋、黒崎義介、斎藤長三、市川禎男、中尾彰、安泰、松山文雄、井口文秀、鳥居敏文、鈴木寿雄、沢井一三郎、駒宮録郎、太田大八

日本陶磁協会 中央区銀座東二ノ一一日本医事新報社 梅沢彦太郎方(電東京五四局八一五〇) 昭和20年1月創立。社団法人。毎月研究会、講演会並びに春秋二回古陶磁の展覧、講演会等を行う。機関誌「陶説」毎月発行。

〔役員(顧問)〕 尾崎海盛、団伊能、松永安左衛門、細川護立、畠山一清(理事

長) 梅沢彦太郎(理事) 磯野信威、大屋敦、小田栄作、加藤唐九郎、加藤土師萌、久志卓真、黒田領治、小山富士夫、小森新一、佐藤進三、陶守三思郎、瀬川昌世、瀬津伊之助、田中作太郎、鷹栗豊治、内藤匡、中村一雄、中本守、広田照、堀口捨巳、藪山順吉、満岡忠成、森村義行、保田憲三、田山信郎、藤岡了一、田中丸善八

〔会員〕 二五〇〇名

日本陶彫会 中野区江古田二ノ九二八滝川美一方(電落合四二二六) 昭和26年創立。昭和33年8月第8回展開催。

〔会長〕 沢田政広(副会長) 古賀忠雄、加藤土師萌(事務会計) 滝川美一

〔会員〕 鈴木仁亮、杉江濤軒、○多田瑞穂、滝一夫、○滝川美一、竹林薫、津

上昌平、富永直樹、中川為延、中野五一、○中野桂樹、○沼田喜代子、○長谷川義起、林茂松、長谷秀雄、真鍋知道、○宮本光庸、○三井高義、○森豊一、○安田周三郎、○山畑阿利一、山本正年、○分部順治、浅井行雄、安藤士、伊奈重

井高宏、○円鏝勝二、江川治、大内青圃、尾形喜代治、大樋年郎、○加藤土師萌、○唐杉清光、片岡静観、木下繁、○古賀忠雄、○沢田政広、坂上政克、柴山清風、○菅原安男、菅沼五郎、○鈴木賢二、辻晋堂(○委員)

日本銅版画協会(版) 世田谷区新町一ノ七七 駒井哲郎方(電七二八一) 昭和28年7月創立。関野、浜田、駒井等の中堅作家が発起人となつて銅版画家の全国的な集団をつくつた。昭和32年7月第1回展開催。

〔理事長〕 駒井哲郎(理事) 浜田知明、関野準一郎、浜口陽三(経理) 田

河水泡〔会員〕 一〇〇名

日本都市美推進連盟 財団法人、大阪

市北区堂島上一ノ三三二(電大阪06六七〇五、六七〇六) 昭和27年5月創立。市街地の人々に潤いを与え、文化の向上に寄与する為、希望と秩序のある美しい街「都市美」を推進すると共に、美術文化の顕揚発展を期して、その健全な育成を図ることを目的としている。都市美彫塑展を二年毎に各都市で行うなど都市美に関する研究、啓蒙、宣伝、測量、設計、製作施行、美術講演会、出版物の刊行、そ

の他目的達成上必要と認めた事業を行
う。機関紙「都市美」毎月発行。

〔顧問〕 和田英作、山下新太郎、石井
柏亭、金山平三、有島生馬、〔相談役〕 杉
山司七、望月信成、村野藤吾、〔理事長〕
美津島 一、〔理事〕 (常務) 和田新、中
山一男、木下孝則、石川滋彦、小山敬
三、吉田久継、山下登、小堀進、寺内万
治郎、荒谷直之介、〔会員〕 六〇名、各
府県知事、市長、商工会議所会頭は協力
会々員

日本板画院(版) 渋谷区幡ヶ谷原町九
三一 笹島喜平方(電三六八局五八一)
昭和27年5月創立。同30年9月第5回展
開催。

〔顧問〕 碓伊之助、富本憲吉、梅原龍
三郎、藤懸静也、森口多里、植村鷹千
代、石井雙石、富永惣一、滝口修造、今
泉篤男、式場隆三郎、平櫛田中、河北倫
明、秋田雨雀

〔会員〕 棟方志功、棟方末華、ブノ
ワ、笹島喜平、北川民次、下沢木鉢郎、
長谷川富三郎、金守世志夫、木内克、沢
田政広、岡村吉右衛門、岸沢銚介、セリ
サワ、スイヲ、レオンゴールデン、野村
候三、山本道子、斎藤徳三郎、永礼孝
二、森本木羊子、河村俊子、高田一夫、
松尾少輔、佐藤米次郎

日本版画協会(版) 豊島区千早町三ノ
五 橋本興家方 大正7年創立の日本創
作版画協会が昭和6年版画家の大同団結
をはかり改組したもの、昭和33年4月第
26回展開催。

〔会長〕 石井鶴三 (常務委員) 畦地
梅太郎、前田政雄、品川工、北岡文雄、
稲垣知雄、平塚進一、山口源、関野準一
郎、駒井哲郎、吉田遠志(会務委員) 前
川千帆、武井武雄、初山滋、橋本興家、
若山八十氏、斎藤清、大田耕士、吉田政
次、塚本哲、川西英(会員) 川上澄生、
前田藤四郎、ブノワ(33年帰国)、吉田
穂高、浜田知明、浜口陽三、内岡安理、
永瀬義郎、清宮彬、長谷川潔、古川竜
生、菅野陽、馬淵聖、宮尾しげを、山口
進、上野誠、他一〇〇余名

日本美術院(日・彫) 台東区谷中上三
崎南町五二(電駒込四五二) 明治31年
10月、当時東京美術学校長を退いた岡倉
覚三を盟主とし、橋本雅邦以下二六名を
正員として結成。新時代における東洋美
術の維持並開発が創立に際しての二大
主張であった。同年10月第1回展を開催、
研究所を下谷谷中初音町に設置して後進
の養成に努め、雑誌「日本美術」を発刊し
た。同39年12月に至り一時東京の研究所
を撤廃し、同人四名は岡倉覚三と共に常
陸の五浦に退去し専念研鑽に努めた。大
正2年岡倉覚三病歿するに及び、直ちに
院の再興を圖して新に院舎を谷中上三崎
南町に起し、翌3年9月開院式を挙行、10
月再興第1回展を開催した。再興に當つ
たのは横山大観、下村観山、木村武山、安
田靱彦、今村紫紅、小杉未醒、辰沢延次郎、
笹川種郎、斎藤隆三等で其中実技者六
名を以て同人とした。再興美術院には彫
刻部並びに洋画部を設けたが、洋画部は

大正9年小杉未醒、山本鼎、倉田白羊等の
脱退と共に消滅した。毎年秋期に公募展
を開き、又春季には内部の試作展を開く。
大正10年米國クリブランド美術館の要
請に応じ、同国主要都市六箇所に巡回展
を開き、以後日本美術の海外紹介にも努
めた。昭和10年帝院改組に際して、同人
合議の上新帝院への参加を声明し、横山
大観、安田靱彦、小林古径、前田青邨、
富田溪仙、平櫛田中、佐藤朝山、藤井浩
佑の八名が会員に就任した。昭和33年5
月財団法人設立許可。昭和33年9月第43
回展開催。

〔理事長〕 安田靱彦 (理事) 斎藤隆
三、前田青邨、大智勝観、平櫛田中
〔監事〕 堅山南風、奥村土牛
〔同人〕 佐藤清蔵、石井鶴三、保田龍
門、真道黎明、郷倉千靱、堅山南風、酒
井三良、富取風堂、喜多武四郎、新海竹
蔵、大内青圃、奥村土牛、小倉遊亀、田
中青坪、山本豊市、太田聰雨、中村貞
以、中村直人、宮本重良、松原松造、村
田徳次郎、関谷充、新井勝利、北沢映
月、辻晋堂、小谷津任牛、小松均、古藤
正雄、中島清、片岡球子、中島外茂都、
岩橋英遠、桜井祐一、田中太郎、千野
茂、基俊太郎、羽石光志、島田訥郎、真
野濤

日本美術会 豊島区池袋二ノ一二三三八
舞台藝術学院内(電卯二八一) 昭和21
年創立。日本美術の自由で民主的な発展
と、その新しい価値の創造を目的とする
広汎な美術家の自主的なあつまりであ

る。毎年アンデパンダン展開催。同32年
1月第10回展開催。機関誌「美術運動」を
発行。国民美術運動の推進を目的とす
る。

〔中央委員〕 井上長三郎、永井潔、箕
田源二郎、新海覚雄、吉井忠、高柳博
也、金野新一、中谷泰、佐田勝、須山計
一、佐藤忠良、朝倉撰、小野忠重、尾藤
豊、中山正、蘭田猛、桜井誠、小室寛、
中村宏、桂川寛、森田信夫、渋谷草三郎、
池田龍雄、針生二郎、松山文雄、赤塚
徹、伊吹英次

日本美術家連盟 新宿区四谷一ノ一八
(電東京三四局五七八) 昭和24年6月
創立。美術家(日本画、洋画、版画、彫
刻家)の藝術上の主義や傾向にとらわれ
ない個人加盟によつて組織し、美術家の
職能組合として、権益の擁護、相互扶助、
其他美術の普及、国際交流等文化に寄与
するための諸事業を行う。昭和33年より
社団法人組織として運営する。

〔会長〕 前田青邨 (理事長) 宮本三
郎 (常務理事) 田中忠雄、益田義信、
望月春江 (監事) 大久保泰、村井正誠
〔会館建設委員長〕 伊原宇三郎 (事務
局長) 和田新 (委員) (日本画部) 朝倉
撰、新井勝利、岩田正巳、奥村土牛、小
倉遊亀、近藤浩一路、高山辰雄、西沢笛
畝、橋本明治、東山魁夷、福田豊四郎、
松本姿水、望月春江、森白甫、山本丘人
(洋画部) 阿部展也、伊原宇三郎、大久
保泰、大河内信敬、大沢昌助、岡本太
郎、加山四郎、川端実、栗原信、高野三

三〇七

三男、小山敬三、三田康、鈴木信太郎、高島達四郎、田崎広助、田中忠雄、田村一男、中野和高、中村善策、中山魏、難波田竜起、野口弥太郎、林武、益田義信、松本弘三、三雲祥之助、宮田重雄、宮本三郎、向井潤吉、村井正誠、森田元子、山口薫、脇田和（版画部）畦地梅太郎、北岡文雄、駒井哲郎、平塚運一、前田政雄、山口源（彫刻部）笠置季男、清水多嘉示、新海竹藏、本郷新、村田勝四郎、柳原義達、山内壮夫、山本豊市、山本雅彦、淀井敏夫（会員）一、二九一名

日本美術協会、台東区上野公園桜ヶ丘（電〇三九一〇）明治12年創立の龍池会を同20年日本美術協会と改称し財団法人組織とした。毎年展覧会を継続して太平洋戦争までに一四五回に及んだ。本邦美術の振興をはかるを以て目的とし、戦後組織を新たにして各流各派を綜合融和した方針を以て絵画展を東京並びに各地で開催している。昭和32年第10回展開催。

〔総裁〕高松宮宣仁親王〔顧問〕細川護立、浅野長武、岡部長景、他一五名〔理事〕畠山一清、長尾欽弥、团伊能、秋山光夫〔会頭〕团伊能〔専務理事〕秋山光夫〔常任委員長〕松林桂月〔常任委員〕二一名〔委員〕四七名

日本木彫会（彫）北区上十条五ノ九ノ二 三國慶一方（電王子四六二）昭和4年創立。33年6月18回展開催。

〔会員〕石井滋、長谷川昂、西田明史、岡正敏、内藤伸、中野桂樹、熊谷幸太郎、日下寛治、山脇敏男、山脇正司、山口伊

之助、古川武治、佐々木大樹、木村威夫、三國慶一、水島弘一、清水源可、大島駒藏、西出大三、松原重正、柳沼曾雲

人形玩具文化の会 板橋区常盤台一ノ二九 西沢笛敵方（電板橋二二〇一）昭和11年創立。同25年財団法人となる。近時欧米人の日本人形に対する関心が深いので、特に蒐集の古代人形参考品を研究所内に陳列觀賞に供している。なお月一回研究会を催し古代人形玩具について意見の交換を行っている。

〔会長〕金森徳次郎〔理事長〕西沢笛敵〔理事〕板谷波山、团伊能、佐藤達夫、鈴木隆夫、品田豊治

（の）

能彫会（彫）世田谷区柏谷町一〇 横山正三方（電〇六三三九）昭和22年創立。戦前能美会として出発したが発表展を九回継続して20年に中止、戦後新たに再出発した。流派を問わず能の真髓を彫刻によつて表現しようとする同好の士の集りである。毎年一回展覧会を行う。昭和32年6月第10周年記念展開催。

〔会員〕石井鶴三、入江美法、畑正吉、花岡幸雄、花里金央、綿引司郎、吉田満、吉田暁天、横山正三、中野素昂、梅田修、佐藤助雄、藤野舜正、紺谷英儀、北村治禰、宮本光庸、柴田佳石、昼間弘、門伝正衛、毛利教武、関谷充、須賀東堂、鈴木仁亮、木内礼智

白鳥会（洋）豊島区高松町一ノ六 伊藤彰方 昭和27年7月創立。昭和30年9月第3回展開催。

〔会員〕熊谷守一、藤田鶴夫、多田栄二、鳥居敏文、島津純一、賀茂牛之輔、伊藤彰、江川平三、福島金一郎、志村一男、千葉健作、坂元益夫、清川泰次、小林森次

白日会（洋・彫）目黒区下目黒四ノ九六六 平松譲方 大正13年創立。昭和33年4月第34回展開催。

〔会員〕（絵画部）青木春見、伊藤清永、伊藤利行、岩月光金、石崎五郎、内山又輔、氏田喜八郎、大崎善生、川島実、川村精一郎、川口栄、東理次良、小堀進、小林一雄、小泉馨武、酒泉淳、山口淳、篠原薫、島田四郎、柴田祐作、田中君江、千葉精三、富山芳男、中沢弘光、長井幸一、武田由平、難波榮子、中兼久偉、西田耕作、灰野文一郎、藤江了、平松讓、福田義之助、吉川弘、藤江幾太郎、堀英治、間部時雄、牧原万之助、町田源三郎、益子洋、水野富美夫、宮島武男、村上鉄太郎、森谷重夫、柳沢淑郎、山本道乗、山田鶴左久、安井藤三郎、吉田比古藏、渡部百合子

（彫刻部）伊藤五百亀、伊奈重孝、内堀功、木村桂二、兒島正典、小池藤雄、笹野憲三、坂手護、富田匠美、星野宣、吉田三郎

白申会（日）京都市北区北野白梅町三三 宇田萩都方（電西陣二二四六）宇田萩都の主筆する日本画塾

白鳳会（洋）中野区沼袋五六〇 篠塚

亮方 昭和15年創立。昭和29年10月第12回展開催。昭和16年東京美術学校油画科藤島教室を卒業した一〇名に依り創設した。

〔会員〕井上慎、加藤長一、北岡文雄、小泉富司、吳天華、鮫島宗明、篠塚亮、高田肇三、高田久、松永敏太郎、松永和夫、安田寛、吉野広行、吉田政次、原良次、友沢泰男、浅井忠男、大里光春

版画懇話会 杉並区阿佐ヶ谷三ノ五三二 昭和29年創立。版画家、版画研究者、その他版画に関心を持つ人々の集りで、日本版画の育成、発展に寄与することを目的とする。講演会、研究会、関係資料の作成、収集、伝統技術新技術の紹介、版画の振興、普及に関する審議、提案などを行う。

〔幹事長〕 裕伊之助、（幹事）〇上野誠、大倉半治、〇岡畏三郎、〇小野忠重、河北倫明、菊地三郎、〇菊地貞夫、〇笹島喜平、斎藤清、〇清水正博、浪井清、関野準一郎、滝平二郎、中条辰夫、利根山光人、〇中山正、橋崎宗重、平塚運一、深水正策、宮下登喜雄、水船六洲、棟方志功、吉田暎二、〇渡辺規（〇印常任）

阪都美術工藝会（工）大阪市天王寺区逢坂上ノ町一四一 汎工藝社内（電天王寺九七〇五）昭和29年7月創立。大阪を中心に在住する有志による研究団体で同人の大部分は日展出品に重点を置く作家からなる。

〔委員〕橋田裕士、川端三義、角谷一

圭、田辺竹雲齋、中島保美、鶴山竹司、

〔委員長〕 島野三秋〔副委員長〕 小林美春、平松宏春〔特別委員〕 柴崎風岬

〔会員〕 三〇名

汎美術家協会(洋) 大阪市阿倍野区北畠西一ノ一〇五 前田藤四郎方 昭和22年7月創立。関西在住の洋画家の団体。昭和27年2月第5回展以降展覽会なし。

〔会員〕 藤井二郎、原精一、長谷川三郎、橋上善兒、萩森久朗、伊藤久三郎、井上寛造、井上賢三、池島勘治郎、石丸一、伊庭伝治郎、江川平三、川西英、小出三郎、前田藤四郎、松井正、米良道博、宮下貞之介、木田たけを、中村真、中村善種、仲村一男、中川力、中村徳三郎、中畑岬人、錦義一郎、須田勉太、佐藤篤郎、田川勤次、植木茂、山本敬輔、山崎隆夫、吉原治良、和田季悦、渡辺修

パンリアル美術協会(日) 京都市東山区五条橋東六ノ五三一 山崎隆方(電祇園一二五三) 昭和23年6月創立。昭和32年11月第15回京都展開催。同年2月第2回東京展開催。

〔会員〕 生駒国一、不動茂弥、日ノ下淳一、星野真吾、小林司郎、三上誠、野村耕二郎、大野秀隆、下村良之介、湯田寛、山崎隆

(ひ)

ひこばゆ(日・洋) 横浜市鶴見区東寺尾七九四 加山又造方 昭和29年11月創立。昭和31年2月第2回展開催。

〔会員〕 赤穴安、赤穴桂子、深尾庄介、大住閑子、稗田一穂、加山又造、竹

美術団体一覽

山博、上野泰郎

美術記者会 中央区京橋三ノ一一 国立近代美術館内

〔会員〕 社名五〇音順

朝日新聞社 学藝部 小川 正隆

社会部 高松喜八郎

出版局 牧田 茂

特信部 赤井 正友

文化部 松江 智寿

社会部 斎藤 茂男

共同通信社 長与 道夫

産経時事新報社 文化部 日野耕之祐

社会部 平野 光男

信濃毎日新聞社 山本 道生

新聞三社連合 三宅正太郎

中部日本新聞社 文化部 岡山 東

白木 博

豊田 稔

杉本 誠

東京新聞社 文化部 宮川 謙一

寺田 千壘

桑原 住雄

西日本新聞社 文化部 青木 秀

社会部 伊東 浩三

日本経済新聞社 文化部 仁村美津夫

滝 悌三

佐々木 直

日本放送協会 内信部 中島 一明

テレビ教養部 三浦 謹一

報知新聞社 文化部 真島 勲

北海道新聞社 文化部 島野 功

毎日新聞社 学藝部 船戸 洪吉

整理部 上島 長健

ラヂオ報道部 大河原 元

読売新聞社 文化部 藤沢 逸哉

和田伊都夫

企画部 平川富太郎

美術評論家協会 台東区上野公園 都

美術館内 本会は主に美術報道に関係する記者を以て組織され、会員相互の親睦を図ると共に美術界の発展に寄与する諸事業を行うを目的とする。

〔会員〕 泉与志(美術新潮会)、大山広光(美術街社)、神谷清太郎(画廊社)、河原義和(美術業界・美術主義評論社)、高木紀重(日本美術通信社)、樽原祐、中尾雅俊(新日本美術社)、中田宗男、小森盛、安藤鉦一(月刊日本画・日本美術振興会)、佐久間善三(美術新聞、菊地芳一郎(美術グラフ・時の美術社)、三輪武士、三輪鄰(週刊美術社)、柴崎風岬(汎工藝社)、大久保稔(都市と藝術社)、中台青陵(造型新報社)、(〇印昭和31年度幹事)

美術評論家連盟 中央区京橋三ノ一一

国立近代美術館気付 昭和29年5月創立。日本に於ける美術評論家の団結をはかるとともに、国際的に協力し、造型文化の発達に寄与することを目的とする。

国際美術評論家協会に加盟し、その日本支部となつてゐる。

〔会長〕 富永惣一〔常任委員長〕 河北倫明〔常任委員〕 今泉篤男、江川和彦、勝見勝、嘉門安雄、瀬木慎一、滝口修造、徳大寺公英、土方定一、山田智三

郎、和田新、岡本謙次郎、北川桃雄、近藤市太郎、田近憲三、中野勇、中村溪男、中原佑介、針生二郎、摩寿意善郎、久富貢〔事務総長〕 嘉門安雄

〔書記〕 小倉克之

美術文化協会(絵・彫・オブジェ・写・建・墨) 川崎市生田五八八 米田三男之介方 独立を脱退した福沢一郎を中心に主として独立、二科の所謂前衛派の新進が昭和14年に結成した。同会は絵画、彫刻、写真、装飾、図案、書等各分野を網羅し総合的に前衛運動を行う。昭和29年4月分裂したが同年10月新人を吸収して再編成した。昭和33年6月第18回展開催。

〔会員〕 浅野弥衛、小関通、田中昇、松岡吉一、小原勉、真鍋英雄、加藤一夫、村上馨、戸川金雄、村岡和雄、入来天、川元顯山、森宏平、宇佐美晴海、羽坂清、山崎貴英子、早瀬龍江、大野英一、原田圭司、岡田徹、竹村文男、吉田隆、竜山恭輔、米田三男之介、伊藤直介、中村博、国光興、宮地周、喜田一夫、伊東一信、宮崎敬喜、水野修造、境家善高坂根健一郎、猪飼重明、鶴野政、内田克己、江間漢、岡田久春、尾崎喜久雄、金春錫、佐野美咲子、島駿一郎、白木正一、鈴木清、堂庭郁夫、内藤健一、久富金之、広部喜一、藤井捨次、牧野静雄、宮本初義、森和、山本徳一、山本祐明、吉田彰、吉元竜郎。

七象会(洋) 浦和市高砂町五ノ八三

小松崎邦雄方 昭和31年3月創立。第一

回展開催昭和29年藝大油絵科卒業生で、同専攻科に二年在学した者のうち七人が集り林武教授の力添えて発足した。昭和32年第2回展開催。

〔会員〕 赤堀尚、稲村洋、小松崎邦雄、酒匂謙、志邨武久、田口安男、松本昭

〔匹亜会(洋・日)〕 名古屋市中川区愛知町二ノ六一 竹田大助方 昭和30年3月創立。毎月、懇談会、研究会を行い、同人誌「匹亜」を刊行する。昭和31年3月第1回展開催。

〔同人〕 堀尾実、水谷勇夫、藤田武、加藤直昌、竹田大助、志村礼子

(5)

仏教美術協会 練馬区豊玉中三ノ二五 萩原雅春方 昭和28年10月創立。現在、仏像彫刻家と彩色専門家の集りである。伝統的木彫及彩色技法の保存、正しい繼承を冀つて、信仰の対象としての造像儀軌の究明及び表現の研究練習を旨とする。昭和31年8月第3回展開催。

〔顧問〕 逸見梅栄、佐藤玄々
〔会員〕 阿井瑞岑、森大造、高村晴雲、鈴木国策、西山如拙、佐藤勝輔、先崎栄伸、鈴木信春、野坂法山、西川宗舟、萩原雅春、佐藤匡義

舞踊美術家懇話会 武蔵野市吉祥寺二〇九五 東原徹方(電武蔵野二九四五) 舞台美術の発展に寄与するため昭和27年創立した。
〔会員〕 荒島鶴吉、石浜日出雄、国東清、三枝大二、島公靖、田中良、東原

徹、遠山静雄、長瀬直諫、中村正典、真木小太郎、三林亮太郎、三輪祐輔、吉村倭一、渡辺正男

(6)

霹靂社(日) 練馬区大泉学園町七一八 平子聖龍方 昭和21年10月創立。昭和33年4月第12回展開催。

〔主宰者〕 平子聖龍

(7)

真赤土工藝会(工) 中野区野方町一ノ九五 織田慎一方 昭和17年5月創立。毎年東京他各地で展覧会を開く。
〔会員〕 (染色) 栗原宏、清水喜美(陶器) 森一紀(彫金) 織田慎一(綴織) 古戸忠平(竹工) 平沼浄(木彫) 逸見良之助(皮革) 数見吾一

〔会友〕 (染色) 池田和恵、猪瀬敏子、浅野雅子、中川啓子(綴織) 堀寛子、成田阿久利(ガラス) 寰口滋人

(8)

無厭会(工・陶) 京都市東山区五条橋東六丁目 山崎光洋方(電祇園二二三三) 昭和22年2月創立。清水焼作家二〇名によつて結成。昭和31年6月第9回展開催。
〔会員〕 河合瑞豊、河合栄之助、米沢蘇峯、高橋道入、大丸北峰、宇野仁松、久世久宝、山崎光洋、近藤悠三、浅見五郎助、赤沢露石、清水六和、清水六兵衛、三浦竹泉、宮川香齋、七兵衛信翠、新開邦太郎、永楽善五郎、森野嘉光、諏訪蘇山

〔会員〕 河津直武、梅田総太郎、山口寿泉、山本葉弥志、前田保三、佐藤豊、本吉春三郎、本橋政一、須田利雄、原田英、落合一郎、大熊喜英、内藤幸夫、板井博、江刺英一、吉原良雄、前田康夫、小川正八、佐藤謙一

(9)

萌木会(染) 大田区女塚二ノ三三三(電三三五三) 芹沢銈介門下の染色作家の研究団体で、毎月研究会を開き、年一回作品発表会を行う。
〔会員〕 芹沢銈介、岡村吉右エ門、小島恵次郎、柚木沙弥郎、立花長子、長沼孝一、大杉準雄、秋山弘史、三代沢本寿、坂和正春、関口信男、森義利、渡辺禎雄、五味幸雄、塩入守治、小川保家、大熊武男、片野元彦、増田邦太郎。

木彩会(工・木) 港区赤坂田町四ノ一 小川正八方(電四三六二八) 昭和23年4月木工藝の制作又は研究に携わる者が集まつて創立した。昭和28年9月第6回展開催。昭和29年6月現代工藝連合展参加。

〔会員〕 周裏吉方 昭和25年9月創立。昭和33年4月第8回展開催。
〔会員〕 朝妻治郎、東俊二、広井力、小松義雄、城所昌夫、勝本富士雄、勝田寛一、藤山光義、村井正誠、榎山七重、宮田正己、中村真、小川孝子、周裏吉、杉本亀久雄、勝呂忠、谷沢秀晃、竹田長年、和田季悦、矢橋六郎、山口薫、清野

恒、吉田政次、中井幸一、熊倉順吉、鈴木原捷夫、西原照子、清野克己、本野東一、藤本能道、新妻実、牛込健治、土橋敏造、岡本公夫、刀根真澄、嶋本昭三、柴田紗千夫、高崎元尚、佐藤努、吉川悦陽、島居良禎
モダンアート研究会(洋) 神奈川県相模原市上鶴岡四八五二 勝田寛一方 昭和27年モダンアート協会の補助団体として発足したのも。
〔会員〕 モダンアート協会々員及び同会所属出品者

(10)

幽韻会(日) 都下北多摩郡東村山町野口一九六四 今中素友方、昭和32年1月今中素友を中心として設立。昭和33年2月第一回展開催。
〔会員〕 今中素友、河津光凌、星永学秀、薄井貫玖、赤岩懸泉、加納千彰、加納一彰、木村溪佳、岡村佐代子、小林貢子、小林仁佳、棚橋千代子、馬田珊々

(11)

立動会(洋) 世田谷区成城町八九五 置弘三方(電四八四二九) 昭和24年4月創立。元創元会の会員七名によつて結成。昭和33年8月第10回展開催。
〔会員〕 有岡一郎、飯島一、牛島憲之、榎戸庄衛、大貫松三、須田寿、山下大五郎、玉置弘三、若狭眺男、藤橋正枝、秋野卓美、五百住乙、内田光之助、河村俊子、辻茂、小川イチ、川越昭子

アル・エヴェレット

(九)

黎明美術研究会(洋) 大田区仲六郷三ノ二四住宅協会アパート六三三三号 松村禎夫方 昭和18年4月創立。基礎理論の徹底、新技法の習得、構図学の研究等を目的とする。月一回例会、会報「レイメイ」を発行している。

〔会長〕 柳亮〔会員〕 二六三名

連袖会(洋) 大田区馬込東一ノ一〇六〇 山川勇一郎方 昭和12年安井曾太郎の門下を以て組織、昭和32年7月第19回展開催。

〔会員〕 広瀬功、本郷博、金子博信、狩野寿一、加藤水城、木村辰彦、児島三吉、中村琢二、二宮雪夫、丸野豊司、三浦俊輔、岡本半三、小野末、大津鎮雄、桜井恵美子、菅野矢一、高田誠、高見耿太郎、幸雍二、山川勇一郎、松本恵子、皆吉志郎、生野雅三、谷田貝修

(ろ)

六窓会(綜) 世田谷区等々力三ノ五ノ二 黒田嘉治方 東京美術学校昭和6年卒業の同窓を以て昭和25年創立。昭和29年4月第5回展開催。昭和30年度の展覧会は休み、以後展覧会は毎年開催せず随時開催とする。

〔会員〕(日本画) 橋本明治、加藤栄三、山田申吾、東山魁夷、(洋画) 伊勢正義、大貫松三、佐藤敬、須田寿(彫刻) 長沼孝三、野々村一男、大須賀力、黒田嘉治(建築) 吉村順三(工藝) 内藤四郎 朗峯画塾(日) 鎌倉市山の内瓜ヶ谷一

〇三四 伊東深水方(電鎌倉二四六三)
伊東深水の主宰する日本画塾 会務代表者 杉並区成宗二ノ七一八 浜田台見

美術家及美術関係者名簿

昭和三十三年一二月現在

凡 例

- 一、本名簿にのせた美術家及美術関係者の数は一八三六名である。
我が国において、美術家として社会的地位を有する人々を採録した。
又日展参加団体の会員は編輯の都合上日展役員、出品委嘱者の掲載にとどめた。その他掲載予定の人々で回答未着、調査不可能の分は来年度とし不備の点は次年度に補いたい。
- 一、名簿は氏名の頭文字の発音により五〇音順に記載した。発音の同じ場合は字劃の少ないものを先にし、頭文字の同じものは二字目の発音により、その発音の同じ場合は字劃の少ないものを先に掲げた。但し同字は訓音の異なるものもなるべく一箇所に集めた。安宅、安達、安西、安藤等を同一箇所に掲げた如くである。
- 一、名簿に用いた略語は左の通りである。
(日)日本画 (洋)洋画 (挿)挿画 (版)版画 (漫)漫画 (彫)彫塑
(工)工藝 (漆)漆工藝 (陶)陶磁 (金)金工藝 (染)染色 (織)織物
(繡)刺繡 (硝)硝子工藝 (建)建築 (写)写真 (記)美術記者 (文)文化財事務局 文化財保護委員会事務局 (文化財専審委)文化財専門審議会 専門委員 (日展)日本美術展覧会 (日展委)社団法人日展第一回展の出品委嘱者 (元日展依)旧日本美術展覧会出品委嘱者 (日展寄)日本美術展覧会審査員 (日展参事)日本美術展覧会運営会参事 (東京藝大)東京藝術大学 (東美校)東京美術学校 (京都美術大)京都市立美術大学 (京都絵専校)京都市立絵画専門学校 (京都美専校)京都市立美術専門学校 (女子美大)女子美術大学 (女子美校)女子美術学校・女子美術専門学校 (帝国美校)帝国美術学校 (日美校)日本美術学校 (大阪美校)大阪美術学校 (東京高工藝校)東京高等工藝学校 (東京高工業校)東京高等工業学校 (京都高工藝校)京都高等工藝学校 (名古屋高工業校)名古屋高等工業学校 (京都美工藝校)京都市立美術工藝学校、其他これに準じた。
- 日展理事、評議員、顧問会員等はすべて昭和三十三年新発足の「日展」により日展委も昭和三十三年第一回日展の出品委嘱者を示す。旧日展の出品委嘱者、審査員にして第一回新日展に関係しない人々は元日展依、元日展審とした。
- 一、住所中東京都のみは都名を略して区名を以て始めた。

「美術家及美術関係者名簿」 ページ (314~355 ページ)

個人情報保護のため非公開

Pages of the list of Artists and Experts in Art (pp.314-355)

Cut for protection of the personal information

美術関係定期刊行物一覽 (五〇音順)

アイデア	隔月刊行、編集宮川峻、発行誠文堂新光社、千代田区神田錦町一ノ五、電二九局一二一一一五	国立近代美術館ニュース (現代の眼)	国立近代美術館ニュース (現代の眼)	宿区市ヶ谷本村町一五、電九段五五一四
アートリエ	月刊、編集北原義雄、発行アトリエ出版社、千代田区神田神保町三ノ一三、電九段二五七五・二五七六	国立博物館ニュース	月刊、編集野間清六、発行国立博物館、台東区上野公園、電駒込三七一一一五	月刊、編集原敏夫、発行近代美術協会、中央区京橋三ノ一
インダストリアル・デザイン	季刊、編集山本久史、発行技報堂、港区赤坂溜池五、電三三局三八三四、八五八五	古文化財之科学	月刊、編集大賀一郎、発行古文化資料自然科学研究会、台東区上野公園 東京国立博物館研究室内	月刊、編集藤本韶三、発行造形藝術研究所出版部、中央区銀座東七ノ六 大栄会館、電(東京五四局)四八一(内線六番)
カラー・デザイン	月刊、編集日本織維意匠センター、大阪市東区南本町二ノ三七ノ一、電(二六局)四四五	三彩	月刊、編集川勝政太郎、発行史迹美術同致会、京都市北区紫野下柳町一四、電西陣五九五六	月刊、編集田島敬助、発行秀作美術社 台東区西黒門町二一、電下谷六八九
季刊文化財	季刊、発行文化財保護委員会、千代田区霞ヶ関三ノ四	史迹と美術	月刊、編集吉岡保五郎、発行新建築社、中央区宝町一ノ六	月刊、編集庄司一夫、発行東洋書道協会、中央区京橋二ノ三 電京橋三〇四・二七八一・三八五六
藝術新潮	月刊、編集佐藤義夫、発行新潮社、新宿区矢来町七一、電(東京三四局)七一一一八	秀作美術	月刊、編集井手義男、発行造形同人会、中央区八重洲五ノ五、電(東京一九局)九八六〇	月刊、編集千嘉治、発行淡交社、京都市上京区堀川通寺ノ内上ル、電西陣一五〇七・一五〇八
建築史研究	季刊、編集建築史研究会(藤島亥治郎)、発行彰国社、千代田区平河町二ノ一一、電九段二九三・二八五一・四五三三	造形	月刊、編集吉岡保五郎、発行新建築社、中央区宝町一ノ六	月刊、編集吉岡保五郎、発行新建築社、中央区宝町一ノ六 電京橋四七五二・四三〇六
建築雑誌	月刊、編集北村正雄、発行日本建築学会、中央区銀座西三ノ一、電京橋一二三三・一二三八・四五七二	新築	月刊、編集吉岡保五郎、発行新建築社、中央区宝町一ノ六	月刊、編集吉岡保五郎、発行新建築社、中央区宝町一ノ六 電京橋四七五二・四三〇六
建築文化	月刊、編集金春国雄、発行彰国社、千代田区平河町二ノ一一、電九段二九三・二八五一・四五三三	造形	月刊、編集井手義男、発行造形同人会、中央区八重洲五ノ五、電(東京一九局)九八六〇	月刊、編集千嘉治、発行淡交社、京都市上京区堀川通寺ノ内上ル、電西陣一五〇七・一五〇八
工芸	月刊、編集工芸学会編集委員会、発行財団法人工芸学会、港区麻布三河台町二四、電赤坂一〇三四	淡交	月刊、編集千嘉治、発行淡交社、京都市上京区堀川通寺ノ内上ル、電西陣一五〇七・一五〇八	月刊、編集千嘉治、発行淡交社、京都市上京区堀川通寺ノ内上ル、電西陣一五〇七・一五〇八
工芸研究	発行通商産業省産業工芸試験所、大田区下丸子三三三	デザイン・ジャーナル	月刊、編集千嘉治、発行淡交社、京都市上京区堀川通寺ノ内上ル、電西陣一五〇七・一五〇八	月刊、編集千嘉治、発行淡交社、京都市上京区堀川通寺ノ内上ル、電西陣一五〇七・一五〇八
工芸ニュース	月刊、編集通商産業省産業工芸試験所、発行丸善株式会社出版部、中央区日本橋、電千代田二三一一・二三五一・二三六一	刀剣美術	月刊、編集千嘉治、発行淡交社、京都市上京区堀川通寺ノ内上ル、電西陣一五〇七・一五〇八	月刊、編集千嘉治、発行淡交社、京都市上京区堀川通寺ノ内上ル、電西陣一五〇七・一五〇八
考古學雜誌	月刊、編集日本考古学会(原田淑人)、発行日本考古学会、台東区上野公園東京国立博物館内、電駒込三七一一一三七一五	都市美術	月刊、編集千嘉治、発行淡交社、京都市上京区堀川通寺ノ内上ル、電西陣一五〇七・一五〇八	月刊、編集千嘉治、発行淡交社、京都市上京区堀川通寺ノ内上ル、電西陣一五〇七・一五〇八
國華	月刊、編集橋崎宗重 発行国華社、港区麻布市兵衛町二ノ一、電赤坂一七五二	陶說	月刊、編集千嘉治、発行淡交社、京都市上京区堀川通寺ノ内上ル、電西陣一五〇七・一五〇八	月刊、編集千嘉治、発行淡交社、京都市上京区堀川通寺ノ内上ル、電西陣一五〇七・一五〇八
國際建築	月刊、編集國際建築協会(小山正和)、発行美術出版社、新		月刊、編集千嘉治、発行淡交社、京都市上京区堀川通寺ノ内上ル、電西陣一五〇七・一五〇八	月刊、編集千嘉治、発行淡交社、京都市上京区堀川通寺ノ内上ル、電西陣一五〇七・一五〇八

東邦美術	二ノ一一、電(東京五局)八一五〇。 月刊、編集小野修三、発行東邦美術社、豊島区千早町二ノ三、電落合五二六九	美術振興	月刊、編集中田宗男、発行日本美術振興会、中野区新井町六四九、電中野二九九〇。
日展美術	年五回発行、編集大河内信敬、発行日展美術刊行会、千代田区神田駿河台三ノ四	美術新潮	月刊、編集泉亨志、発行美術新潮会、港区麻布龍土町五八電赤坂一八七八
日本画	月刊、編集安藤鉦一、発行日本美術振興会、中野区新井町六四九	美術新日本	月刊、編集中尾雅俊、発行新日本美術社、大阪市旭区大宮西ノ町六ノ二〇五
日本工藝	月刊、編集工藝研究会、発行芸艸堂、京都市中京区寺町二条南入、電上三六一三、文京区湯島一ノ一、電神田五八四〇	美術新聞	隔日刊、編集佐久間善三、発行美術文化研究所、大田区蓮沼町一〇七、電蒲田六二八五
日本の工藝	月刊、編集河島多津子、発行日本工藝館 大阪市堂島上通二ノ四六 電北五二一四	美術探求	隔月刊、編集難波専太郎、発行美術探求社、大田区石川町九八
日本漆工	月刊、編集富田英一、発行日本漆工協会、中央区日本橋通二ノ二加藤ビル内、電千代田九四七〇	美術通信	旬刊、編集高木紀重、発行美術通信社、新宿区下落合四ノ一五八八、電落合一五六八
日本美術工藝	月刊、編集加藤義一郎、発行日本美術工藝社、大阪市北区梅田阪急ビル内	美術手帖	月刊、編集大下正男、発行美術出版社、新宿区市ケ谷本村町一五、電九段五五一四
汎工藝	旬刊、編集柴崎俊吉、発行汎工藝社、大阪市天王寺区逢坂上之町一四一 電(初)九七〇五	仙教藝術	季刊、編集仙教藝術学会、発行毎日新聞社、大阪堂島、東京有楽町
美術学	季刊、編集美学会(男沢淳)、発行美術出版社、新宿区市ケ谷本村町一五、電九段五五一四	萌春	月刊、編集猪木達二、発行日本美術新報社、東京都千代田区九段一ノ一四、電九段九〇四六
美術案内	編集井上芳郎、発行東京美術倶楽部、港区芝新橋七ノ一二 電芝九八九・九九〇	みづゑ	月刊、編集森田子龍、発行墨美社、京都市上京区樺木町黒門東入ル、電壬生四九〇二
美術館ニユース(東京都美術館)	季刊、編集藤森淳三、発行独断社、世田谷区岡本町一一〇 七、電玉川〇七五七	ミュージアム	月刊、編集大下正男、発行美術出版社、新宿区市ケ谷本村町一五、電九段五五一四
美術館ニユース(愛知県文化会館)	月刊、編集早川治平、発行東京都美術館友の会、台東区上野公園、電駒込四八九六	民藝	月刊、編集中豊太郎、発行日本民藝協会、目黒区駒場八六一、電渋谷八七四二
美術研究	月刊、編集太田三郎、発行愛知県文化会館美術館、名古屋市中東区久屋町八ノ八 電(9)五五二二	大和文華	編集大和文華館、発行大和文華館出版部、大阪市東区船越町一ノ四八、電東三八五七
美術業界	隔月刊、編集美術研究所(福山敏男)、発行吉川弘文館、千代田区神田神保町三ノ一九、電九段三五六六	大和文化研究	編集大和文化研究会(小泉顕大)、発行同研究会、奈良市登大路町五〇 奈良国立博物館内
美術史	旬刊、編集河原義和、発行美術主義評論社、豊島区雑司ヶ谷一ノ三九二	リビングデザイン	季刊、編集大下正男、発行美術出版社、新宿区市ケ谷本村町一五、電九段五五一四
	季刊、編集美術史学会(熊谷宣夫)、発行便利堂、京都市中京区新町通竹屋町南 電上四三五一、五二三八	連盟ニユース	月刊、七、八月休刊、編集和田新、発行日本美術家連盟、新宿区四谷一ノ一八、電(東京三四局)五七八

印刷 昭和34年3月23日

発行 昭和34年3月30日

日本美術年鑑

——昭和33年版——

編集者 東京国立文化財研究所美術部
(美術研究所)

印刷所 大蔵省印刷局
東京都新宿区市谷本村町15
電話 (33) 531~9

発行所 東京国立文化財研究所
東京都台東区上野公園
電話 駒込 4487. 1923
